

**2018年度
経営学部 講義概要
(シラバス)**

法政大学

経営学部 of 学生の皆さんへ

経営学部長 佐野 哲

この講義概要（シラバス）は、皆さんがこれから経営学部で学ぶ経営学の専門教育科目および連環科目の内容を示したものです。各授業の概要、到達目標、授業方法、授業計画、使用テキスト、参考文献、成績評価の方法などが具体的に書かれていますので、よく読んで、自分の関心や目的にあわせて、計画的に履修科目を選択するために役立ててください。また、各講義の授業時間外の学習（予習や復習）についても記載されています。これは、単位の取得には授業時間と同じだけの予習、復習時間が必要とされているからです。なお、主として1、2年次に学習する市ヶ谷基礎科目に関するシラバスは別途用意されていますので、本シラバスと同様熟読し、履修科目の決定に役立ててください。

【カリキュラムの概要】

専門教育科目は、1～4年次に経営学、経済学、情報などの諸分野を基礎から応用まで段階的に学べるよう、以下の科目群を設置しています。

- 専門基礎科目A群は主に1年次生を対象とし、経営学総論、簿記入門、ミクロ経済学入門、情報科学実習の4科目で構成され、専門科目を学ぶ上での基礎としての位置づけです。
- 専門基礎科目B群は主に2年次生を対象とし、経営管理論、会計学入門、経営戦略論、基礎統計学、マーケティング論、金融論の6科目で構成され、専門基礎科目A群と学科専門科目の橋渡しとしての位置づけです。
- 学科専門科目は3・4年次生を対象とし、各学科の専門分野の科目を中心に構成されています。経営学科の専門分野は組織、人材、会計、経営戦略学科の専門分野は国際経営戦略、経営史、経営分析、市場経営学科の専門分野は、マーケティング、ファイナンス、情報・技術です。これら3学科の学科専門科目群は、自学科の専門科目群から一定数以上の単位を修得する必要がありますが、他学科の専門科目群からも自由に履修できる柔軟で自由度の高いカリキュラムとなっています。
- 少人数の専門教育科目としては、入門演習（1年次）、演習（2年次以降）、外国語経営学の科目群が、また、将来のキャリアに役立つ実践的な内容の科目群としてキャリアプログラム科目、特殊講義などがあります。このうち、「演習」（2年次以降、通称ゼミ）はほぼすべての専任教員が担当しており、教員の専門分野の一端に触れ、合宿などを通じて教員と学生との全人格的な交流も期待できます。ゼミ生の募集は原則として毎年秋に実施されますが、4月に追加募集もありますので学部掲示板等を確認してください。また、「特殊講義」は常置科目では扱いきれないテーマを扱っており、実務家の先生による寄付講座などもあります。

連環科目は、主に2年次以降に将来のキャリアに役立つ関連科目として、法律関係科目、グローバル教育センター主催科目などで構成されています。

【グローバルビジネスプログラムの科目履修について】

経営学部では、2016年9月に英語学位課程GBP（Global Business Program）がスタートしました。これは、全ての授業を英語で学んで経営学士号をとるプログラムですが、一般の経営学部生や交換留学生（ESOP）もその大半の授業を履修できます。少人数クラス環境で専門科目を英語で学ぶことができる機会としてぜひ積極的に活用してほしいと思います。ただし、授業の履修にあたっては一定の英語力が必要となります。また、授業の位置づけが入門系の科目（「連環科目」の扱い）とそれ以外の科目（「特殊講義」の扱い）で異なる点も注意して下さい。

【入門演習、入門外営について】

1年生の皆さんは専門基礎科目A群や市ヶ谷基礎科目の履修で手一杯だ、あるいは1年次の専門科目は大人数授業しかないと思い込んでいるかもしれません。しかし、実は「入門演習」、「入門外国語経営学」という1年次対象の専門の少人数授業があります。これらは必修ではありませんが、2年次以降に専門科目をより深く学んでいくとき、あるいは将来GBP科目など英語による専門授業をとるとき、きっと役に立つと思いますので、ぜひ積極的に履修して下さい。

皆さんが、もし何を勉強しているのか見えなくなったり、何を勉強したいのか迷ったりしたら、ぜひこのシラバスに立ち戻ってみて下さい。経営学部での4年間は思いのほか早く過ぎ去ってしまいます。4年間の学生生活が自立した社会人として活躍するための基礎作りの場になるよう、明確な目標や計画を立て、真摯に取り組まれるよう切望します。

Webシラバスについて

経営学部のシラバスは、Web上でも公開しています。利用の際は以下の点に注意してください。

Webシラバス：<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

1. 履修可能な学部学科、学年、クラスについて

閲覧可能な科目でも、履修登録可能なクラスが制限されている場合があります。履修できないクラスを登録してしまうと、授業に出席し、試験を受験しても**単位として認められませんので注意してください**。別途配布される時間割表などから、自分が登録可能な内容か確認しましょう。

2. 冊子版シラバスとWebシラバスの扱いについて

この冊子（以下、冊子版シラバス）とWebシラバスは、表記方法の違いから内容に解釈の違いが出ないように配慮して編集していますが、冊子版シラバスとWebシラバスの内容に差異が生じている、あるいはそのように読み取れる場合は、**冊子版シラバスの内容を正確な内容として扱います**。ただし、科目によっては紙面の都合上Webシラバスにのみ補足情報を掲載している場合があります。

内容の訂正が生じた場合は学部の掲示板に掲示を行いますので、登校時には必ず目を通すようにしてください。

目 次

専門教育科目・連環科目配当表(2007年度～2015年度入学者)	-----	iv
専門教育科目・連環科目配当表(2016年度以降入学者)	-----	vi

専門科目講義概要

入門演習	-----	1	1
入門外国語経営学	-----	13	2
演 習	-----	23	3
専門基礎科目 A群/B群	-----	79	4
経営学科専門科目	-----	115	5
経営戦略学科専門科目	-----	133	6
市場経営学科専門科目	-----	147	7
選 択	-----	165	8
連環科目	-----	209	9
交換留学生受け入れプログラム(ESOP)科目について	-----	213	
英語関係科目	-----	215	10

専門教育科目・連環科目配当表（2007年度～2015年度入学者）

※ 同名科目の担当者は原則として50音順で掲載しています。

系 列			科 目 名	単位	履修年次	担 当 者	備 考	講義概要 ページ
専門基礎科目	A 群	常置科目	経営学総論Ⅰ・Ⅱ	4	1年次	安藤直紀 教授 木村純 教授 橋本論 講師 福島英史 教授 岸眞理子 教授		80 81 82 83 84
			簿記入門Ⅰ・Ⅱ	4	1年次	神谷健司 教授 川島健司 教授 北田皓嗣 准教授 坂上学 教授 大下勇二 教授		85 86 87 88 89
			ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ	4	1年次～	宮澤信二郎 准教授 林直嗣 教授 大木良子 准教授 高橋理香 教授	春学期 秋学期	90 91 90 90
			情報科学実習Ⅰ・Ⅱ	4	1・2年次	担当は講義概要を参照		93～101
			経営管理論Ⅰ / 経営管理論Ⅱ	各2	2年次～	稲垣保弘 教授 竹内淑恵 教授 長谷川翔平 准教授 宮井弘之 講師 川島健司 教授 坂上学 教授 筒井知彦 教授		102 103 104 105 106 107 108
			マーケティング論Ⅰ / マーケティング論Ⅱ	各2		猪狩良介 専任講師 高橋健慎 准教授 吉田健二 教授 李瑞雪 教授 林直嗣 教授 長原徹 講師		109 110 111 112 113 114
			会計学入門Ⅰ / 会計学入門Ⅱ	各2				
	B 群	常置科目	基礎統計学Ⅰ / 基礎統計学Ⅱ	各2				
			経営戦略論Ⅰ / 経営戦略論Ⅱ	各2				
			金融論Ⅰ / 金融論Ⅱ	各2				
学科専門科目	経営学科	常置科目	経営組織論Ⅰ / 経営組織論Ⅱ	各2	3年次～	長岡健 教授 永山晋 准教授 岸眞理子 教授 佐野哲 教授 奥西好夫 教授 休 講 西川真規子 教授 藤本真 講師 佐野嘉秀 教授 休 講 川島健司 教授 坂上学 教授 大下勇二 教授 北田皓嗣 准教授 福田淳児 教授 休 講 筒井知彦 教授 寺本卓史 講師 寺本卓史 講師	秋学期	116 117 118 119 120 121 122 123
			組織マネジメント論Ⅰ / 組織マネジメント論Ⅱ	各2				
			経営情報論Ⅰ / 経営情報論Ⅱ	各2				
			経営社会学Ⅰ / 経営社会学Ⅱ	各2				
			組織経済学Ⅰ	2				
			組織経済学Ⅱ	2				
			組織行動論Ⅰ / 組織行動論Ⅱ	各2				
			人的資源管理Ⅰ	2				
			人的資源管理Ⅱ	2				
			人材育成論Ⅰ / 人材育成論Ⅱ	各2				
			国際人事論Ⅰ	2				
			財務会計論Ⅰ / 財務会計論Ⅱ	各2				
			監査論Ⅰ / 監査論Ⅱ	各2				
			税務会計論Ⅰ / 税務会計論Ⅱ	各2				
	経営戦略学科	常置科目	管理会計論Ⅰ / 管理会計論Ⅱ	各2				
			原価計算論Ⅰ / 原価計算論Ⅱ	各2				
			原価管理論Ⅰ / 原価管理論Ⅱ	各2				
			国際会計論Ⅰ / 国際会計論Ⅱ	各2				
			情報と倫理	2				
			情報と職業	2				
			国際経営戦略論Ⅰ / 国際経営戦略論Ⅱ	各2		安藤直紀 教授 洞口治夫 教授 福島英史 教授 二階堂行宣 准教授 鹿住倫世 講師 平田英明 教授 高橋理香 教授 横内正雄 教授 藤澤利治 教授 高橋美穂子 教授 福多裕志 教授 猪狩良介 専任講師 休 講 児玉靖司 教授	秋学期 I、Ⅱとも秋学期 I、Ⅱとも春学期 春学期 秋学期	124 125 126 127 128 129 130 131
			国際経営論Ⅰ / 国際経営論Ⅱ	各2				
			戦略的意思決定論Ⅰ / 戦略的意思決定論Ⅱ	各2				
			日本経営史Ⅰ / 日本経営史Ⅱ	各2				
			中小企業論Ⅰ / 中小企業論Ⅱ	各2				
			日本経済論Ⅰ / 日本経済論Ⅱ	各2				
			国際経済論Ⅰ / 国際経済論Ⅱ	各2				
			国際金融論Ⅰ / 国際金融論Ⅱ	各2				
			産業史Ⅰ / 産業史Ⅱ	各2				
			経営分析Ⅰ / 経営分析Ⅱ	各2				
			経営分析Ⅲ / 経営分析Ⅳ	各2				
			計量経営分析Ⅰ / 計量経営分析Ⅱ	各2				
			統計学Ⅰ / 統計学Ⅱ	各2				
			システム管理論Ⅰ / システム管理論Ⅱ	各2				

■ 表中の記載について

科目名で～Ⅰ／～Ⅱとなっている科目は、原則としてⅠが春学期、Ⅱが秋学期です。

科目名でⅠ・Ⅱとなっている科目はⅠ・Ⅱがセットになった通年科目です。別々に履修することはできません。

※インターンシップの実施は、夏休命中を予定していますが、履修登録上は秋学期科目扱いになります。

詳細は履修の手引きのインターンシップのページを参照してください。

系 列			科 目 名		単位	履修年次	担 当 者		備 考	講義概要 ページ			
学 科 専 門 科 目	市 場 経 営 学 科	常 置 科 目	日本経営論Ⅰ / 日本経営論Ⅱ	各2	3年次～	金 容 度 教 授	授		148				
			流通論Ⅰ / 流通論Ⅱ	各2		横 山 齊 理 教 授	授		149				
			消費者行動論Ⅰ / 消費者行動論Ⅱ	各2		新 倉 貴 彦 教 授	授		150				
			マーケティング・リサーチⅠ / マーケティング・リサーチⅡ	各2		西 川 英 彦 教 授	授		151				
			サービス・マネジメント論Ⅰ / サービス・マネジメント論Ⅱ	各2		木 村 純 子 教 授	授		152				
			製品開発論Ⅰ / 製品開発論Ⅱ	各2		中 野 健 次 教 授	授		153				
			技術管理論Ⅰ / 技術管理論Ⅱ	各2		近 能 善 範 教 授	授		154				
			産業組織論Ⅰ / 産業組織論Ⅱ	各2		大 木 良 准 教 授	授		155				
			非営利組織経営論Ⅰ / 非営利組織経営論Ⅱ	各2		湧 木 清 隆 教 授	授		156				
			応用経済学Ⅰ / 応用経済学Ⅱ	各2		宮 澤 信 二 郎 准 教 授			157				
			交通経済論Ⅰ / 交通経済論Ⅱ	各2		休 金 塔 晋 教 授			158				
			企業財務論Ⅰ / 企業財務論Ⅱ	各2		岸 本 直 正 教 授			159				
			証券経済論Ⅰ	2		清 水 樹 教 授			160				
			証券経済論Ⅱ	2		徐 一 睿 講 師			161				
			財政論Ⅰ / 財政論Ⅱ	各2		徐 一 睿 講 師			162				
			情報技術論Ⅰ / 情報技術論Ⅱ	各2		入 戸 野 健 教 授			163				
			ファイナンス論Ⅰ / ファイナンス論Ⅱ	各2		山 寄 輝 教 授			163				
				演 習		入門演習Ⅰ・Ⅱ	4	1年次	専任教員が担当 講義概要を参照				
						演習1・2(2014年度以前入学者)	4	2年次					
演習1・2(2015年度入学者)	4/6	3年次											
演習3・4	4/6	4年次											
外 国 語 経 営 学 科 目	入 門 外 国 語 経 営 学 Ⅰ / 入 門 外 国 語 経 営 学 Ⅱ	各2			1年次～	岡 本 慶 子 教 授	初 級	14					
								15					
								16					
								17					
								18					
								19					
								20					
								21					
								22					
								外 国 語 経 営 学 Ⅰ (戦 略 A) / 外 国 語 経 営 学 Ⅱ (戦 略 A)	各2	3年次～	高 橋 理 香 教 授	中 級	166
167													
168													
169・170													
外 国 語 経 営 学 Ⅰ (戦 略 B) / 外 国 語 経 営 学 Ⅱ (戦 略 B)	各2	2年次～			ジョナサン・エーブル	初級・中級	171						
							172						
			173・174										
			※										
選 択	キ ャ リ ア プ ロ グ ラ ム 科 目	国際コミュニケーション論Ⅰ / 国際コミュニケーション論Ⅱ	各2	3年次	休 講 師	I、Ⅱとも秋学期 ※	171						
		キャリア・マネジメントⅠ / キャリア・マネジメントⅡ	各2		小 川 憲 彦 教 授		172						
		検定会計Ⅰ / 検定会計Ⅱ	各2		石 山 宏 一 講 師		173・174						
		インターンシップⅠ / インターンシップⅡ	各2		小 林 健 一 教 授								
		※ インターンシップⅡについては、インターンシップⅠの履修が必須となりますので、注意してください。											
		SA認定科目											
		SAプログラム参加者が、留学先で履修した科目が認定された際の科目名です。 詳細は、履修の手引き、経営学部ホームページを参照してください。											
		特 殊 講 義	広告論	2	2年次～	小 林 健 一 教 授	春学期	175					
			寄附講座・実践会社実務論	2				筒 井 知 彦 教 授	春学期	176			
			プランニング実務	2				小 林 健 一 教 授	秋学期	177			
			租税法	4				菊 谷 正 人 教 授	春学期	178			
			連結会計	2	1年次～	菊 谷 正 人 教 授	春学期	179					
			問題解決技法入門	2		三 澤 一 文 教 授	春学期	180					
			寄附講座・日本の物流と企業経営	2		李 瑞 雪 教 授	秋学期	181					
			戦略的マーケティング	2		岡 本 慶 子 教 授	秋学期	182					
			グローバル・ファッションビジネス	2	2年次～	岡 本 慶 子 教 授	秋学期	183					
			法廷会計	2	2年次～	中 島 真 澄 講 師	秋学期	184					
			ものづくり経営論	2	2年次～	三 澤 一 文 教 授	秋学期	185					
			寄附講座・チェーンストア経営論	2	2年次～	横 山 齊 理 教 授	秋学期	186					
Market development in China	2		2年次～	Daniel Z DING 講 師	秋学期	187							
International marketing	2		2年次～	Daniel Z DING 講 師	秋学期	188							
Skills for SA	2		2年次～	ジェームス・ラセガード	春学期	189							
GBP科目													
情 報 関 係	プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ		4	1年次～	飯 塚 康 至 講 師	いずれか 1コースのみ 履修可	190						
	[C言語コース]						191						
	[COBOLコース]						192						
	[BASICコース]			193									
	[JAVAコース]			神 北 澤 具 子 講 師	いずれか 1コースのみ 履修可	194							
	応用プログラミングⅠ・Ⅱ	4	3年次～			195							
	[計量分析コース]					196							
	[統計コース]					197							
	データ処理論Ⅰ・Ⅱ	4	2年次～	林 中 直 嗣 教 授	いずれか 1コースのみ 履修可	198							
	[データベース・コース]					199							
	[コンピューター・グラフィックス・コース]					200							
	[プレゼンテーション・コース]					201							
	[空間情報システム・コース]			木 村 昌 史 講 師	いずれか 1コースのみ 履修可	202							
	[情報検索コース]					203							
	ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	4	2年次～			204							
	[通信ネットワーク・コース]					205							
	[ホームページ・コース]			飯 塚 康 至 講 師	いずれか 1コースのみ 履修可	206							
						207							
						208							
			209										
連 環 科 目	法 律 関 係	民法	4	2年次～	松 田 久 祐 講 師		210						
		会社法	4	2年次～	金 澤 雅 之 講 師		211						
		労働法	4	2年次～	沼 田 雅 之 講 師		212						
	総 合 科 目		2年次～	ILAC/市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要を参照									
	公 開 科 目		3年次～	公開科目講義概要を参照									
	交 換 留 学 生 受 け 入 れ プ ロ グ ラ ム		2年次～	グローバル教育センター発行のESOPパンフレットを参照									
グ ロー バ ル ・ オ ー プ ン 科 目		1年次～	Webシラバスを参照										

専門教育科目・連環科目配当表（2016年度以降入学者）

※ 同名科目の担当者は原則として50音順で掲載しています。

系 列			科 目 名	単位	履修年次	担 当 者	備 考	講義概要 ページ
専門基礎科目	A 群	常置科目	経営学総論Ⅰ / 経営学総論Ⅱ	各2	1年次	安藤直紀 教授 木村純子 教授 橋本論 講師 福島英史 教授		80 81 82 83
					2年次～	岸真理子 教授 神谷健司 教授 川島健司 教授		84 85 86
			簿記入門Ⅰ / 簿記入門Ⅱ	各2	1年次	北田皓嗣 准教授 坂上学 教授 大下勇二 教授		87 88 89
					2年次～	宮澤信二郎 准教授 林直嗣 教授 大木良子 准教授	春学期 秋学期	90 91 90
			ミクロ経済学入門Ⅰ / ミクロ経済学入門Ⅱ	各2	1年次～	高橋理香 教授		90
			情報科学実習Ⅰ / 情報科学実習Ⅱ	各2	1・2年次	担当は講義概要を参照		93～101
			経営管理論Ⅰ / 経営管理論Ⅱ	各2				
	B 群	常置科目	マーケティング論Ⅰ / マーケティング論Ⅱ	各2		稲垣保弘 教授 竹内淑恵 教授 長谷川翔平 准教授		102 103 104
						宮井弘之 講師 川島健司 教授 坂上学 教授		105 106 107
			会計学入門Ⅰ / 会計学入門Ⅱ	各2	2年次～	筒井知彦 教授 猪狩良介 専任講師 高橋慎二 准教授		108 109 110
			基礎統計学Ⅰ / 基礎統計学Ⅱ	各2		吉田健二 教授 李瑞雪 教授 林直嗣 教授		111 112 113
			経営戦略論Ⅰ / 経営戦略論Ⅱ	各2		長原徹 講師		114
			金融論Ⅰ / 金融論Ⅱ	各2				
						長岡健 教授 永山晋 准教授 岸真理子 教授		116 117 118
学科専門科目	経営学科	常置科目	経営組織論Ⅰ / 経営組織論Ⅱ	各2		佐野哲 教授 奥西好夫 教授 休講	秋学期	119 120
			組織マネジメント論Ⅰ / 組織マネジメント論Ⅱ	各2		西川真規子 教授 藤本真 講師 佐野嘉秀 教授		121 122 123
			経営情報論Ⅰ / 経営情報論Ⅱ	各2		休講		
			経営社会学Ⅰ / 経営社会学Ⅱ	各2		川島健司 教授 坂上学 教授 大下勇二 教授		124 125 126
			組織経済学Ⅰ	2		北田皓嗣 准教授 福田淳児 教授 休講	I、Ⅱとも秋学期 I、Ⅱとも春学期	127 128
			組織経済学Ⅱ	2		筒井知彦 教授		129
			組織行動論Ⅰ / 組織行動論Ⅱ	各2		寺本卓史 講師 寺本卓史 講師	春学期 秋学期	130 131
			人的資源管理Ⅰ	各2				
			人的資源管理Ⅱ	各2				
			人材育成論Ⅰ / 人材育成論Ⅱ	各2				
			国際人事論Ⅰ	2				
			財務会計論Ⅰ / 財務会計論Ⅱ	各2				
			監査論Ⅰ / 監査論Ⅱ	各2				
			税務会計論Ⅰ / 税務会計論Ⅱ	各2				
			管理会計論Ⅰ / 管理会計論Ⅱ	各2				
	経営戦略学科	常置科目	原価計算論Ⅰ / 原価計算論Ⅱ	各2				
			原価管理論Ⅰ / 原価管理論Ⅱ	各2				
			国際会計論Ⅰ / 国際会計論Ⅱ	各2				
			情報と倫理	2				
			情報と職業	2				
			国際経営戦略論Ⅰ / 国際経営戦略論Ⅱ	各2				
			国際経営論Ⅰ / 国際経営論Ⅱ	各2				
			戦略的意思決定論Ⅰ / 戦略的意思決定論Ⅱ	各2				
			日本経営史Ⅰ / 日本経営史Ⅱ	各2				
			中小企業論Ⅰ / 中小企業論Ⅱ	各2				
			日本経済論Ⅰ / 日本経済論Ⅱ	各2				
			国際経済論Ⅰ / 国際経済論Ⅱ	各2				
			国際金融論Ⅰ / 国際金融論Ⅱ	各2				
			産業史Ⅰ / 産業史Ⅱ	各2				
			経営分析Ⅰ / 経営分析Ⅱ	各2				
			経営分析Ⅲ / 経営分析Ⅳ	各2				
			計量経営分析Ⅰ / 計量経営分析Ⅱ	各2				
			統計学Ⅰ / 統計学Ⅱ	各2				
			システム管理論Ⅰ / システム管理論Ⅱ	各2				

■ 表中の記載について

科目名で～Ⅰ／～Ⅱとなっている科目は、原則としてⅠが春学期、Ⅱが秋学期です。

※インターンシップの実施は、夏休み中を予定していますが、履修登録上は秋学期科目扱いになります。

詳細は履修の手引きのインターンシップのページを参照してください。

入門演習

※担当者50音順で掲載しています。

※入学年度や担当者によって、単位数や開講期が異なる場合がありますので、注意してください。

入門演習Ⅰ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[春学期授業]
入門演習Ⅱ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	選択<演習>	1 年次／4 単位	[年間授業]

猪狩 良介 専任講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、大学での学習に必要な基本スキルおよびゼミナールに必要なスキルを学習します。大学では、自分でテーマを設定し、レポートにまとめたり、プレゼンテーション（発表）したりする必要があります。また、このような資料を作成するには、仮説の設定、関連する文献や資料の検索、データによる実証、ワードやパワーポイントによる資料作成などのスキルが必要になります。また、これらの能力は、大学だけではなく、社会に出てからも必要となるスキルです。本演習を通して、これらのスキルを習得することを目的としています。

【到達目標】

- ・大学での勉強の方法を習得する。
- ・自ら課題を設定し、文献を調べ、考える態度を身につける。
- ・レポートを作成する力を身につける。
- ・自らの考えを発表し、他の人に説明する力を身につける。

【授業の進め方と方法】

【春学期】

- ・大学での勉強の仕方について学びます。また、ワードやパワーポイントなどの基本的なパソコンスキルを身につけます。
- ・グループでテーマを設定し、文献を調べ、結果のプレゼンテーションを行います。

【秋学期】

- ・マーケティング・広告関連の輪読を行います。
- ・マーケティングや広告関連のテーマを設定して、グループで取り組みます。
- ・エクセルを利用したデータ処理を学びます。また、グループワークに関するデータを実際に取得・分析します。
- ・成果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行います。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (1)	授業概要について説明します。特に、大学での学びについて説明します。
2	オリエンテーション (2)	学生同士で自己紹介をします。また、春学期のグループ決めを行います。
3	テキストの読み方 (1)	学術的な文章の読み方について学習します。また、実際に文章を読み、要点をまとめます。
4	テキストの読み方 (2)	文献を読み、内容を掘り下げて説明できるようにします。
5	レポートの書き方 (1)	レポート作成のスキルについて学びます。また、ワードの使い方について学びます。
6	レポートの書き方 (2)	実際にレポートを作成します。
7	資料の探し方	文献検索の方法について学びます。また、図書館の利用方法などについても学びます。
8	プレゼンテーションの方法 (1)	プレゼンテーションスキルについて学びます。
9	プレゼンテーションの方法 (2)	発表資料の作成について学びます。特に、パワーポイントの使い方について学びます。
10	プレゼンテーションの方法 (3)	各自で実際にプレゼンテーションを行います。
11	グループワーク (1)	グループワークについて学びます。また、グループワークで行うテーマを決めます。
12	グループワーク (2)	グループワークの中間発表会を行います。
13	報告会 (1)	グループワークの最終発表を行います。
14	報告会 (2)	グループワークの最終発表を行います。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	春学期に学習した内容について復習します。また、文献輪読の担当を決めます。
16	文献輪読：マーケティングについて (1)	マーケティング関連の文献を輪読します。
17	文献輪読：マーケティングについて (2)	マーケティング関連の文献を輪読します。
18	文献輪読：広告について (1)	広告関連の文献を輪読します。

19	文献輪読：広告について (2)	広告関連の文献を輪読します。
20	グループ／テーマ決め	秋学期のグループを決めます。また、グループで取り組むテーマを設定します。
21	テーマ報告	各グループで設定したテーマについて、プレゼンテーションを行います。アンケート調査とデータ分析の基礎について学習します。
22	データ分析／エクセル技法 (1)	データ分析について学習します。また、エクセルの利用方法について学びます。
23	データ分析／エクセル技法 (2)	グループワークで調査する内容を決めます。
24	データ分析／エクセル技法 (3)	各グループで設定したテーマに関係する文献や進捗についての中間報告を行います。
25	中間報告／文献紹介 (1)	各グループで設定したテーマに関係する文献や進捗についての中間報告を行います。
26	中間報告／文献紹介 (2)	各グループで設定したテーマに関係する文献や進捗についての中間報告を行います。
27	最終プレゼンテーション (1)	各グループで最終プレゼンテーションを行います。また、メンバー全員でディスカッションを行います。
28	最終プレゼンテーション (2)	各グループで最終プレゼンテーションを行います。また、メンバー全員でディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読やグループ報告では報告担当者が発表します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・グループで設定したテーマについて取り組みます。
- ・授業内容の宿題に取り組みます。

【テキスト（教科書）】

- ・世界思想社編集部 (2015)『大学生 学びのハンドブック 3 訂版』世界思想社。

【参考書】

- ・山本晶 (2012)『コア・テキスト マーケティング』新井社。
- ・早坂清志、きたみあきこ (2015)『EXCEL グラフ作成 データを可視化するノウハウ』翔泳社。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (30%)
- ・文献発表やプレゼンテーション (40%)
- ・宿題 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料作成やプレゼンテーション用の PC が必要となります。

【その他の重要事項】

履修希望者が多い場合には初回授業で選抜を行います。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ/Ⅱ
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

入門演習Ⅰ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[春学期授業]
入門演習Ⅱ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	選択<演習>	1 年次／4 単位	[年間授業]

神谷 健司 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部 1 年生がこれから経営学部で学習を進めるにあたって、特定のテーマを見つけそれに対してどのようにして必要な資料やデータを収集し、分析検討したらよいかを考えていきます。1 年次生が対象であるので、基本的な企業情報・財務データ、各企業の記事、各企業の社史などを用いた研究を考えています。また必要に応じて論文もいくつか読む予定です。この 1 年間で特定のテーマについて「筋道を立てて考える」ことを多少なりとも身につけてもらいたいと思います。また秋学期においてはある程度人前で発表ができるようになってもらいたいと思います。

【到達目標】

自らデータ、資料等を集め、事実関係を確認したりすることによって、企業のさまざまな問題の本質を理解できるようになること。これから経営学・会計学領域のどの部分を学習すれば、より深い議論ができるか明示したい。

【授業の進め方と方法】

春学期は「あの会社はなぜ儲かるのか」というテーマで、会計学と経営学の基本的なことを学んでいきます。最初の 5 回程度は講義形式で進めます。文献、資料の収集、それらの読み方についても具体的に指導します。秋学期は財務諸表分析の出発点になる経営戦略分析の基礎についても学びます。業界、企業の置かれている状況を分析する際に用いるファイブ・フォース分析について検討します。また日本を代表する企業の経営者が書いた文献などもいくつか読んでいく予定です。

【授業計画】

春学期	回	テーマ	内容
	第 1 回	大学での学び方	これから大学 4 年間をいかに過ごし、学ぶかについて考える。
	第 2 回	経営学部での学び方	どのような学問領域があるか考える。また経営学部学生が目指す可能性のある「公認会計士」「中小企業診断士」等の試験についてもリクエストがあればお話しする。
	第 3 回	図書館等の使い方について	図書館の利用の仕方、文献の入手の仕方について学ぶ。
	第 4 回	資料、データ、論文等の入手の方法（1）	文献の入手について学ぶ。
	第 5 回	企業情報の入手の方法	企業の財務情報やその他 I R 情報の入手の仕方を学ぶ
	第 6 回	財務情報の読み方（1）	損益計算書の構造を理解する
	第 7 回	財務情報の読み方（2）	代表的な企業の損益計算書を見て各業界の収益構造を理解する
	第 8 回	財務情報の読み方（3）	貸借対照表の構造を理解する
	第 9 回	財務情報の読み方（4）	代表的な企業の貸借対照表を見て各業界の財務構造を理解する
	第 10 回	カルビーの戦略を考える（1）	カルビーの発展を段階別に検討する
	第 11 回	カルビーの戦略を考える（2）	国内外のライバル企業と比較分析を行う
	第 12 回	日経ビジネスの記事から課題を見つける（1）	どのような切り口があり、それに基づいて議論を行うためにはどのような準備（学習）が必要かを考える
	第 13 回	日経ビジネスの記事から課題を見つける（2）	どのような切り口があり、それに基づいて議論を行うためにはどのような準備（学習）が必要かを考える
	第 14 回	春学期のまとめ	春学期の復習と夏休みの課題の取り組み方を説明する
秋学期	回	テーマ	内容
	第 15 回	後期の演習内容の説明	後期にやる内容について説明し、この 2 か月の間に起きた企業の問題などについて考えていきたい。
	第 16 回	ファイブ・フォース分析について学ぶ（1）	ファイブフォース分析について書かれた文献を読む
	第 17 回	ファイブ・フォース分析について学ぶ（2）	分析方法についての具体的説明を行う
	第 18 回	医薬品業界の現状	雑誌記事、財務データー等を用いてこの業界の現状を知る
	第 19 回	『私の履歴書』を読む	武田國男氏の著作から武田の発展・改革の経緯について学ぶ
	第 20 回	武田薬品工業の歴史を考える	社史を読み、発展のプロセスを学ぶ

第 21 回	薬品業界の研究開発戦略を考える	バイオ薬の開発を含めて世界の医薬品メーカーはどのように取り組んでいるか考察する
第 22 回	ジェネリック薬の問題について考える	わが国のジェネリック薬問題について他国との比較から議論を進める
第 23 回	医薬品業界の問題と課題について考える	製薬メーカーの課題について考える
第 24 回	京セラの発展について学ぶ	京セラの経営哲学、発展過程について学ぶ
第 25 回	京セラの現状について考える	京セラの組織、戦略、財務構造等について学ぶ
第 26 回	受講生の報告（1）	受講生が選択した業界、企業の分析結果を報告してもらう
第 27 回	受講生の報告（2）	受講生が選択した業界、企業の分析結果を報告してもらう
第 28 回	受講生の報告（3）	受講生が選択した業界、企業の分析結果を報告してもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示した事項について次週までに準備をしておくこと。レポート課題の提出が年間 4 回程度ある。

【テキスト（教科書）】

都筑学『大学 1 年生のための伝わるレポートの書き方』有斐閣（2016 年）

【参考書】

宮本又郎他編『1 からの経営史』碩学舎、浅羽茂・須藤美和『企業戦略を考える』（日経文庫）日本経済新聞出版社、網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』日本経済新聞出版社、武田國男『落ちこぼれタケタを変える』日本経済新聞出版社など。その他 1 年生の学習に必要と思われる文献のリストは開講時に配布する。

【成績評価の方法と基準】

出席点、発表点、および提出されたレポートによって総合的に評価します。どの程度積極的に演習に参加したかが評価の際の重要なポイントになります。発表点（20 %）、レポート点（40 %）、試験（40 %）で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの発表の時間をもう少し増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

積極的な学生諸君の履修を歓迎します。定員は 20 名程度を予定しています。昨年は当初教室にいられた学生は 30 名、以前の年は 80 名ということもありました。開講時限によるものだと思います。今年度は 2 クラス担当します。25 名を大幅に超えることがあれば調整が必要になるかと思っています。またとりあげる企業については受講生と相談して若干変更する可能性があります。

入門演習Ⅰ（2016年度以降入学者）	選択<演習>	1年次／2単位	〔春学期授業〕
入門演習Ⅱ（2016年度以降入学者）	選択<演習>	1年次／2単位	〔秋学期授業〕
入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	選択<演習>	1年次／4単位	〔年間授業〕

小林 健一 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「課題解決力を身につける」

●高校と違って、大学での学び方は多様です。ただ教室に座って講義を聞くだけではなく、自ら調べ、考え、それを筋道立てて人に伝える努力と技術（＝「考える力 スタディスキル」＋「伝える力 ソーシャルスキル」）が求められます。そして、それはそのまま、皆さんが将来社会に出て「生きる力」にもつながります。

●大学生生活も、また大学卒業後の人生も、問題意識を持ってある課題に立ち向かい、その課題を解決することの連続です。この授業では、「課題に気づく力」「課題を解決する力」「解決策を説明する力」を養うことを目的とします。

●講師は実務家出身ですので、将来研究者を志す学生の皆さんよりは、実業を目指す学生の皆さんを対象として、課題解決の技術を身につけていただきたいと思います。

【到達目標】

●課題について個人で考え、情報を集め、その結果と自分の考えをレポートにまとめることができる。

●課題をグループで解決し、解決策を他の人に説得力をもって伝えることができる。

【授業の進め方と方法】

●年間を通じて、身近なテーマ（例えば「〇〇という商品の売上を上げる」「〇〇という街のプレゼンスをあげる」等）をひとつ設定し、その課題について調べ、考え、筋道立ててまとめ、人に伝える事を、「講義」「個人演習」「グループ演習」を組み合わせながら進めます。

●昨年度は、個人では「超高齢社会におけるビジネスチャンス」について考え、各自レポートを完成させました。グループでは、「法政大学の課題を解決する」ことに挑戦し、最後に教員、職員の方々にプレゼンテーションしました。

●課題を解決することは楽しい！ということを体感してもらえるような授業にしたいと思います。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教員自己紹介 授業の進め方、年間スケジュールの説明 (受講希望者多数の場合は、選抜のためのアンケートを実施)
第2回	自己紹介	学生自己紹介
第3回	グループ分けとグループディスカッション	グループ分けを行ってグループに名前をつける グループメンバーがお互いを知る
第4回	情報入手の仕方学ぶ	第1回レポート課題提示 図書館の利用方法を学ぶ 図書館を使ってみる
第5回	ウォーミングアップ演習①	映像を見る 個人で考える
第6回	ウォーミングアップ演習②	映像を見る グループで考える
第7回	グループの課題を考える	グループで1年間考える課題について討議する
第8回	課題の確認	第2回レポート課題提示 各グループの課題の確認 課題解決のための作業リストを作り、資料を集める
第9回	先輩と語る	社会に出たOBOGの話聞く
第10回	課題解決のための作業	集めた資料を分析する 課題解決のための仮説を作る
第11回	第1回プレゼンテーションの準備をする①	グループで発表のための資料を作る
第12回	第1回プレゼンテーションの準備をする②	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第13回	第1回プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評
第14回	春学期の振り返り	春学期の振り返りを行う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の授業の進め方の確認

第16回	第2回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる①	各グループで第2回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる
第17回	第2回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる②	各グループで第2回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる
第18回	各グループ中間報告	各グループの第2回プレゼンテーションの基本ストーリー中間報告
第19回	先輩と語る	社会に出たOBOGの話聞く
第20回	(講義) マーケティングと広告	マーケティングと広告の基本について講義を行う
第21回	第2回プレゼンテーションの準備をする①	グループで発表のための資料を作る
第22回	第2回プレゼンテーションの準備をする②	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第23回	第2回プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評
第24回	最終プレゼンテーションの準備をする①	グループで発表のための資料を作る
第25回	最終プレゼンテーションの準備をする②	グループで発表のための資料を作る
第26回	最終プレゼンテーションの準備をする③	最終プレゼンテーションのリハーサル
第27回	最終プレゼンテーション	学内教員、職員の方々へのプレゼンテーションと講評
第28回	秋学期の振り返り	秋学期の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、グループワークや個人の発表に対しての質疑を中心に全員参加で行う。したがって、学生は、各自次の授業までに、グループワークで使う資料・データ収集や個人発表のための準備を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

「論点思考」内田和成、東洋経済新報社、2011。
「大学生のためのデザイン・キャリア」渡辺三枝子/五十嵐浩也/田中勝男/高野澤勝美、2011。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、個人レポートの評価 30 %、グループの成果 20 %、グループワークへの積極的参加態度 30 %、の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学内教員、職員の方へのプレゼンテーションや若手社会人とのディスカッションがよい経験になったという声があるため、できるだけ外部の方々にも参加してもらえ開かれた授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

個人レポートの提出は授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

●講師は、(株)電通 IMC プランニングセンター長、(株)電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

●積極的に授業に参加する学生を歓迎します。受講希望者が多い場合は、選抜のためのアンケートを行って受講者数を制限します（25名）。

【関連科目】

レポートの書き方、プレゼンテーションのやり方等基本的なスタディスキルを学ぶ授業であるため、すべての科目の基礎になる科目です。

佐野 嘉秀 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの基礎として、グループで学習する方法を中心に学びます。一人では成し遂げられないことを複数の人が協力し合うことで実現できるようになる。これが、経営学の主なテーマである「組織」の偉大な点です。そして、グループでの学習は、こうした「組織」の利点と関わります。この演習では、少人数からなるグループを単位にテーマを見つけ、情報を集め、検討し、成果を発表するという、大学での学習の基礎を学びます。

【到達目標】

- ①研究テーマを見つけ、調べ、分析・議論し、成果を発表するという大学での学習の基本的な流れを理解する。
- ②少人数のグループを単位に仲間と協力して学習を行うための基本的な方法を理解する。
- ③ディベート（グループ間での議論・討議）の基本的なルールや方法を理解する。
- ④以上を通じて、大学での学習の基礎力を高める。

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。グループごとの活動が中心となります。グループ単位の活動は、授業の中で完結することを基本とします。ただし、グループ発表に向けて個人で情報や資料収集をするなどの活動が求められることがあります。授業内では、学生同士で議論し、協力して資料や情報を集め、発表資料を作り、発表（プレゼンテーション）するという活動が求められます。その練習の場ですから、もちろん最初からこれらに自信を持っている必要はありません。

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要や進め方、グループでの学習の意義と課題について、オリエンテーションを受ける
第 2 回	自己紹介で自分を知る	自己紹介に関わるワークを通じて、クラスのメンバーと自分の個性を知る
第 3 回	ブレインストーミングを体験する	ブレインストーミングの技法を通じて、研究テーマを見つける
第 4 回	資料収集の方法として図書館の使い方を学ぶ	法政大学図書館の図書館ツアーを利用して、図書館の活用法を知る
第 5 回	テーマについて調べ、まとめる	テーマに即して資料・情報を集め、KJ 法等を通じてアイデアを整理し、発表の準備をする
第 6 回	テーマについて発表する	グループごとにテーマに関する発表（プレゼンテーション）を行い、質疑応答を行う
第 7 回	ディベートのテーマ選択とグループ分け	ディベートのためのテーマの決定、グループ分けを行う
第 8 回	ディベートの準備①	グループごとにディベートのための準備（調査、発表用資料の作成等）を行う
第 9 回	ディベートを体験する①	グループ間でディベートを行い、評価する
第 10 回	ディベートの準備②	グループごとにディベートのための準備を行う
第 11 回	ディベートを体験する②	グループ間でディベートを行い、評価する
第 12 回	ディベートの準備③	グループごとにディベートのための準備を行う
第 13 回	ディベートを体験する③	グループ間でディベートを行い、評価する
第 14 回	まとめ	グループで学習することの意義や課題について、授業での経験を踏まえて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ単位での活動は、授業の中で完結することを基本とします。ただし、グループ発表に向けて個人で情報や資料収集をするなどの活動が求められることがあります。また、グループでの研究やディベートでのテーマ案について、事前に考えてくることが求められます。

【テキスト（教科書）】

法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター『法政大学学習支援ハンドブック 2018』法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター、大学から春に配布されます。

【参考書】

佐藤望編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門（第 2 版）』慶応義塾大学出版会（2012 年）、新井和弘・坂倉谷介『グループ学習入門—学びあう場づくりの技法』慶応義塾大学出版会（2013 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

授業への参加態度（議論・ディベートや発表準備、発表への参加と貢献）60 %
ディベート等での勝ち負けなどは評価の対象とはせず、あくまで授業での活動に対する積極的な参加の姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目のため授業改善アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

情報収集のため、スマートフォン、タブレット、ノート PC などの情報機器を何か用意してください。ただし、グループでの発表資料（パワーポイント資料）を作成する回の授業には、大学の貸与パソコンを用意する予定です。図書館ツアーの際には、法政大学図書館に移動しての授業となります。

【その他の重要事項】

初回授業への参加：演習形式の授業のため、定員は最大で 20 名程度までを予定しています。もし履修希望者が多いときは初回授業で選抜のための試験（アンケート）を行うので、履修希望者は、初回授業に必ず出席してください。履修者の選抜は、学習意欲の高さを重視して行います。

【関連科目】

本授業では、大学での学習の基礎を学ぶため、法政大学での全ての科目と関連します。経営学部生にとっては、特に 2 年時以降の専門演習での学習の基礎となります。

入門演習Ⅰ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[春学期授業]
入門演習Ⅱ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	選択<演習>	1 年次／4 単位	[年間授業]

二階堂 行宣 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・大学生として身に付けておくべき基礎的なアカデミック・スキル、特に論理的な文章を「書く」力を涵養します。
・経営学・経済学などに関する文献の読解、ディスカッション、レポート執筆活動を通じて、学問に向き合うための基本的態度を養います。
・今後の大学生活や諸活動を有意義に展開するために、論理的思考力と文章表現力を向上させます。

【到達目標】

・経済学・経営学に関する基礎的な文献を読み、理解することができる。
・アカデミックな調査・研究活動の基礎的なルールを理解する。
・文献を要約し、人前でわかりやすく発表する習慣を身につける。
・身近な経営・経済現象について考え、そこで抱いた疑問点について主体的な調査を行い、建設的な議論ができるようになる。
・自らの思考過程を学問的・論理的な文章として表現し、レポートを完成させることができる。
・以上を通じて、基礎的なアカデミック・スキルを習得し、今後の専門的な学習に備える。

【授業の進め方と方法】

※注意…この授業は通年で計画されていますので、春学期・秋学期を通して履修してください。半期のみの履修は、春・秋を問わず、原則として認めません。

Ⅰ 春学期

・春学期は、基礎的なアカデミック・スキルを獲得するため、テキストの輪読とディスカッションを中心にを行います。
・事前にテキストを配布し、それぞれの部分について報告者（班）を決めます。
・毎回の担当報告者（班）は、レジュメまたはパワーポイントを使って、内容の報告を行います。
・報告の際、担当部分に関連する追加的な調査を求めることがあります。
・担当報告者（班）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行い、疑問点を解消し、内容についての理解を深めます。
・配布するテキストは、日本および世界のビジネスや、経済学・経営学に関するエッセイ・論文から選びます。

Ⅱ 秋学期

・秋学期は、各参加者（班）が興味・関心を持つテーマについて、レポートを執筆・完成させることを目指します。
・各参加者（班）は、経済・経営について関心のあるテーマを設定し、主体的に調査を行っていきます。
・各参加者（班）は、事前に決めたスケジュールに従い、①選定したテーマの内容とその理由、②調査の中間報告、③調査の最終報告、について、計 3 回程度のプレゼンテーションを行います。
・担当報告者（班）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
・授業の終了にあたって、学習成果をレポートにまとめ、提出します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	参加者の自己紹介を行う。
3	導入②	文献・資料調査の方法について解説する。
4	導入③	アカデミックな調査活動のルールについて解説する。
5	導入④	発表資料の作成とディスカッションの方法について解説する。
6	実践①	日本の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
7	実践②	日本の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
8	実践③	日本の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
9	実践④	日本の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
10	実践⑤	日本の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
11	実践⑥	海外の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
12	実践⑦	海外の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
13	実践⑧	海外の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
14	実践⑨	海外の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	秋学期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。

16	調査報告①	レポートのテーマについて各自報告を行う。
17	調査報告②	レポートのテーマについて各自報告を行う。
18	調査報告③	レポートのテーマについて各自報告を行う。
19	調査方向④	レポートのテーマについて各自報告を行う。
20	中間報告①	レポート執筆の進捗状況について各自中間報告を行う。
21	中間報告②	レポート執筆の進捗状況について各自中間報告を行う。
22	中間報告③	レポート執筆の進捗状況について各自中間報告を行う。
23	中間報告④	レポート執筆の進捗状況について各自中間報告を行う。
24	中間報告⑤	レポート執筆の進捗状況について各自中間報告を行う。
25	最終報告①	レポートの目的・分析視角・結論について各自最終報告を行う。
26	最終報告②	レポートの目的・分析視角・結論について各自最終報告を行う。
27	最終報告③	レポートの目的・分析視角・結論について各自最終報告を行う。
28	最終報告④	レポートの目的・分析視角・結論について各自最終報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・大学 1 年生のうちに、論理的な文章を「読み、理解し、批判し、書く」作業を体験しておけば、今後の学習や諸活動を行う上での大きな知的基盤となります。
・そのためこの入門演習では、1 年間でレポートを書き上げることを最終目標としています。
・特に秋学期は、参加者自らが主体的に学習を行う場となるため、担当教員は参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
・参加者の学習をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40 %）＋平常点（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。
・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
・欠席する場合は、理由の如何を問わず必ず事前に連絡してください。4 回以上欠席する場合は、評価に大きく関わります。
・秋学期に関しては、レポートを提出しない場合、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を行い、1 年間の期間内でレポートにまとめ上げることは、大学 1 年生にとってはハードルが高いと感じるかもしれません。
・特に、長い文章を書くことに慣れていない方の場合、負荷が大きくなることになります。
・ただし、これまでの参加者の大半は、最後には優れたレポートを完成させました。「はじめは何をして良いかわからず大変な思いをするが、次第に主体的な学習が楽しくなってきた」「論理的に考え、その思考過程を文章としてアウトプットすることの重要性を学んだ」という声が寄せられています。
・この時期に一度、レポートを書く経験をしてみることは大きな意義があると思います。積極的な学生の参加を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコンを使用してください。
・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【その他の重要事項】

・この授業は通年で計画されています。春学期・秋学期を通して履修してください。
・なお、他の担当者による半期の入門演習も、別途設置されています。時間割やシラバスを参照してください。

【関連科目】

・全ての科目に関連する入門科目です。

入門演習Ⅰ（2016 年度以降入学者）

1 年次／2 単位 [春学期授業]

入門演習Ⅱ（2016 年度以降入学者）

1 年次／2 単位 [秋学期授業]

入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

1 年次／4 単位 [年間授業]

檜野 智子 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、大学での学習に必須の基本的なスキルやマナーを学ぶ。特に、他者に対して自分の考えを効果的に伝えるプレゼンテーションの技術を習得する。

良いプレゼンテーションを行うために一番重要なのは、発表内容を十分に理解し自分の言葉でわかりやすくまとめることである。この技術は、ゼミ等での発表に留まらず、レポートや卒業論文の作成、就職活動、就職後の仕事の場面で必ず必要となる。また人前で話す技術は、ある程度経験を積まなければ高められない。この授業では、できるだけ多くのプレゼンテーションをこなすことにより、これらの技術をしっかりと身に付けていく。

【到達目標】

- ・大学生としての基本的なマナーを身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・グループで課題に取り組むことができ、その結果を発表できる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べるができる。

【授業の進め方と方法】

- ・課題を与え、その内容についてパワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらう。（課題については、ブラックバイトや SNS の危険性など、身近な問題に関する新書を指定する）
- ・プレゼンテーションの内容についてディスカッションを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	自己紹介	自己紹介のプレゼンを行う。
3	大学での学び	講義にどのように取り組むのか等、大学での基本的なルール・マナーについて学ぶ。
4	図書館ツアー	図書館を使って電子資料を集める方法を学ぶ。
5	プレゼンテーションとディスカッション	図書館でダウンロードした資料のプレゼンを行う。
6	プレゼンテーションとディスカッション	図書館でダウンロードした資料のプレゼンを行う。
7	プレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
8	プレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
9	プレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
10	プレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
11	プレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
12	プレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
13	プレゼンテーションとディスカッション	夏休みに各自取り組む課題のあらすじ及び参考文献を発表する。
14	プレゼンテーションとディスカッション	夏休みに各自取り組む課題のあらすじ及び参考文献を発表する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	プレゼンテーションとディスカッション	夏休みの課題についてプレゼンテーションを行う。
16	プレゼンテーションとディスカッション	夏休みの課題についてプレゼンテーションを行う。
17	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	グループによる課題への取り組み方について学ぶ。
18	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
19	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
20	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
21	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
22	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。

23	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	グループによる最終プレゼンの進捗状況の報告を行う。
24	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
25	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
26	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	課題図書プレゼン及びディスカッションを行う。
27	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	グループごとに選んだ課題によるプレゼンとディスカッションを行う。
28	グループによるプレゼンテーションとディスカッション	グループごとに選んだ課題によるプレゼンとディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・資料内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第 2 版」、佐藤望 他編著、慶應義塾大学出版会、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション及び自発的な発言 100 %

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のためなし

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業ではパワーポイントを使用する。講義開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておくこと。（文字のみのスライドが作成できれば問題ない）
- ・この授業では「授業支援システム」を使う。授業開始までに本科目の自己登録を済ませておくこと。なお「授業支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱う。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業には必ず出席すること。

【関連科目】

特になし

入門演習Ⅰ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[春学期授業]
入門演習Ⅱ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	選択<演習>	1 年次／4 単位	[年間授業]

藤澤 利治 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：春学期には人口問題を、秋学期には資本主義経済の諸問題をテーマにした文献を精読しながら、それぞれ日本の少子高齢化問題と現代の経済の問題点を考えます。

目的：現代の世界や日本における経済の諸問題を正確に理解し、同時に大学での勉学に不可欠のアカデミック・スキルを身につけます。大学では、自ら進んで学ぶことが不可欠になります。そのためには、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につけることが欠かせません。それゆえ、大学での勉強の仕方（ノウハウ）を身につけ、自分の考えを持てるようになる技術をマスターする、これがこの授業の目的です。

【到達目標】

人口問題と、現代の資本主義の諸問題を経済学の視点から理解する。

同時に、以下のスキルを身につける。

- ①図書館を利用しての文献や資料の見つけ方、ゼミでのレポートのまとめ方と報告の仕方、さらに文献の読み方、データの見方をマスターする。
- ②2 年次生以降の専門ゼミナール（演習）での学習の仕方を身につける。
- ③英文を含めて専門的な文献を読む力を身につける。

【授業の進め方と方法】

進め方：毎回演習形式で進めます。履修者全員でテキストを輪読し、それをもとにして担当者に順番に報告してもらい、議論を深めます。

方法：様々な文章を読み、そこで展開されている思想や論理を読み取り、その検討を行います。取り上げる題材は、最初は文学作品、続いて基礎的な経済学の文献、そして経済・経営関連の英文を取り上げ、読みこなしていきます。最後には、履修者全員がテキストに関連してレポートをまとめ、それを提出してもらいます。そこでの狙いは、大学生として、ただ覚えるだけではなく自分で実際に考えてみることで、検討してみること、そのために必要な勉強の仕方を学んでもらうことです。この授業は少人数クラスの演習（ゼミ）ですから、そのメリットを生かして、毎回取り上げる文献の内容についてみんなで議論しながら進めていく方法をとります。具体的には、報告する順番を決め、担当者にはレジュメを作成して報告してもらい、その報告にそって全員で議論していきます。担当者以外の皆さんにも、もちろん毎回予習をしてもらいます。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方法とすすめ方に関する説明を行う。
第 2 回	テキスト①の輪読	ストーリーを読み取るほかに、物語の背景に潜む経済的問題を理解し、作品の今日性を考える。
第 3 回	テキスト①について感想の発表	社会が存立するために最低限必要な物的条件とは何か、を理解する。
第 4 回	テキスト②の第 1 章の輪読	経済学における人口のとりえ方を議論する。
第 5 回	テキスト②の第 1 章についての議論	今日の日本における「少子高齢化」問題について考える。
第 6 回	テキスト②の第 1 章についての感想	日本の高齢化問題をどう考えるべきかを理解する。
第 7 回	テキスト②の第 2 章の輪読	人口減少時代に入った日本の経済について理解する。
第 8 回	テキスト②の第 2 章についての議論	人口減少によって日本の将来に生じる問題点を議論する。
第 9 回	テキスト②の第 3 章の輪読	日本における高齢化の実態について考えてみる。
第 10 回	テキスト②の第 3 章についての議論	高齢化と社会保障の問題について考える。
第 11 回	テキスト②の第 4 章の輪読	少子高齢化社会における経済の動向について考えてみる。
第 12 回	テキストの第 4 章についての議論	少子高齢化時代の経済について議論する。
第 13 回	英文のテキストの精読	英文での論説を題材にして、世界における人口問題を考えてみる。
第 14 回	英文テキストの内容の議論とまとめ	英文での専門用語に慣れながら、内容や論理展開の仕方を読み取る。内容を要約し、レポートを作成する作業も行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	授業についてのガイダンス	授業の方法とすすめ方を説明する。
第 16 回	テキスト④の序章の輪読	現代の資本主義経済の諸問題について議論する。

第 17 回	テキスト④の第 1 章の輪読	資本主義各国における貧困問題について議論する。
第 18 回	テキスト④の第 2 章の輪読	資本主義国における所得格差の問題を議論する。
第 19 回	テキスト④の第 3 章の輪読	資本主義社会における労働者の問題を議論する。
第 20 回	テキスト④の第 4 章の輪読	機械化と失業の問題を議論する。
第 21 回	テキスト④の第 5 章と第 6 章の輪読	市場の失敗と、そして特に環境破壊の問題について議論する。
第 22 回	テキスト④の第 7 章の輪読	市場経済における景気の変動について考える。
第 23 回	テキスト④の第 8 章の輪読	市場経済における個人の利己心について議論する。
第 24 回	テキスト④の第 9 章の輪読	金融の仕組みについて議論する。
第 25 回	テキスト④の第 10 章と第 11 章の輪読	政治的規制の問題と、短期的な利益追求の弊害について学ぶ。
第 26 回	テキスト④の第 12 章と第 13 章の輪読	マーケティングの功罪と、経済成長の意味について議論する。
第 27 回	テキスト④の第 14 章の輪読	物的豊かさと幸福度について考える。
第 28 回	テキスト③の精読	現代の経済問題に関する英文のエッセーを精読し、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 経済の仕組みと経営についてイメージをつかんでおくこと。
- 第 2～3 回 報告者はテキスト①の担当部分を熟読し、報告用レジュメを作成すること。他の参加者は質問点・疑問点を考えておくこと。これは毎回の義務です。また、適宜関連する文献で、高齢化の問題を予習しておくこと。
- 第 4～6 回 テキスト②の第 1 章を熟読しておくこと。
- 第 7～8 回 テキスト②の第 2 章を各自前もって調べておくこと。
- 第 9～10 回 テキスト②の第 3 章を熟読し、十分予習しておくこと。
- 第 11～12 回 テキスト②の第 4 章をよく調べておくこと。日本経済の発展過程について、基本的な事項をあらかじめ調べておくこと。
- 第 13～14 回 英文テキストを丁寧に予習して全訳を作ること。
- 第 15 回 現代の資本主義経済の仕組みについて予習しておくこと。
- 第 16 回～第 27 回 テキスト④の序章から順に予習しておくこと。
- 第 28 回 英文のテキストを全訳しておくこと。

【テキスト（教科書）】

- ①深沢七郎『楯山節考』新潮文庫、1964 年（初版）
- ②吉川洋『人口と日本経済 長寿、イノベーション、経済成長』中公新書、2016 年
- ③英文雑誌からのエッセーか時事問題論文
- ④フィリップ・コトラー『資本主義に希望はある』ダイヤモンド社、2015 年

【参考書】

テキスト以外に、多数の文献を紹介し、積極的に読んでもらうつもりでいます。そのリストは授業で配布します。また、日々の新聞やテレビのニュースで、人口問題や市場経済に関する記事について、フォローしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

授業で取り上げるテーマについて、自分で調べる態度ができていないか、上手くまとめることができていないかを成績評価の基準にします。具体的な評価の方法と基準としては、平常点（25 %）、報告（25 %）、提出レポート（50 %）とし、平常の学習態度、すなわち報告内容やディスカッションへの参加状況を重視します。さらに、学期末に提出してもらったレポートによって最終的な成績の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

履修者全員が、授業でできるだけ多く発言できるように工夫し、授業の課題に積極的に取り組めるように配慮します。

【その他の重要事項】

この入門演習では、大学でのこれからの勉強の基本になる方法を学びます。おそらく皆さんにとっては結構きつい授業になると思いますが、少人数で学べるので、意欲的に履修して、学ばしさを存分に体験してもらおうと思っています。

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

宮澤 信二郎 准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として、経営学部生として、どのような姿勢で、何を学ばよいかのしようか。この授業では、悔いのない大学生活を送れるようにするために、この問題について一緒に考えます。また、新聞記事の内容やほかの授業で習ったことなど、身近なトピックスについて、内容を紹介し、自分の考えを発表したり、他人の考えに対して質問・コメントしたりする方法について、実践的に学びます。

【到達目標】

この授業の目標は以下のような点です。

- 1) 大学生としてどのような姿勢で何を学ぶべきかを自覚し、実践する。
- 2) 関心があるテーマについて、どのような議論があるか整理した上で、自分なりの意見を持ち、それを発表できる。
- 3) 他人の発表に対して、適切な質問をしたり、建設的な意見を述べることができる。

【授業の進め方と方法】

いくつかのテーマについて、議論をしてグループ内の意見をまとめる、グループによる発表を行ったうえで全体で議論するという流れで進めていきます。一部のテーマについて担当教員が講義をすることもありますが、その際にも、積極的な発言が求められます。

また、身近なトピックスについて、参加者が単独で発表し、参加者全員で質疑応答・ディスカッションをします。発表にあたっては、スライドを作成することが求められます。発表の時間・回数は参加者数に依存しますが、1 回の発表時間は 15 分から 20 分程度で、全員が 1 回以上担当することが想定されています。

*前年度は月曜 3 時限目に開講し、参加者数が 19 名でした。

【授業計画】

Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	「大学生」を始めるために	授業の内容、全体の流れについて説明します。
第 2 回	大学生とは？（グループディスカッション）	グループに分かれて、「大学生とは高校生・社会人と比べてどのような点で違うのか」、「大学生生活はどのような心構えて過ごさなくてはいけないのか」、などについて議論します。
第 3 回	大学生とは？（発表・検討）	前回の議論の成果を、グループごとにまとめて、発表します。また、他のグループの発表に対して質問します。最後にクラス全体の考えをまとめます。
第 4 回	大学では何をどのように学ぶか？（グループディスカッション）	経営学部のカリキュラムを確認した上で、各人の学習計画や学習上の注意点などについて議論します。
第 5 回	大学では何をどのように学ぶか？（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後、全員で議論します。
第 6 回	図書館の使い方	法政大学図書館の図書館ツアーを利用して、図書館の活用法について学びます。
第 7 回	新聞を読もう！（グループディスカッション）	グループごとに分かれて、「新聞はどのような構成になっているのか」、「経営学部生として新聞をどのように活用していけばよいのか」などについて議論します。
第 8 回	新聞を読もう！（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後、全員で議論します。
第 9 回	時事問題について考えよう！（1）	どのような時事問題があるのかについて、グループごとに話し合い、発表してもらいます。最後に、発表の分担を決めます。
第 10 回	時事問題について考えよう！（2）	担当する時事問題に関する調査状況について報告し、議論をします。
第 11 回	時事問題について考えよう！（3）	担当する時事問題に関して報告し、議論をします。
第 12 回	時事問題について考えよう！（4）	引き続き、担当する時事問題に関して報告し、議論をします。
第 13 回	論文を書くには？（グループディスカッション）	グループごとに分かれて、事前に読んだ論文を参考に、「論文はどのような構成になっているのか」、「論文を書くためにはどのようなことを学ばよいか」といった点について議論します。
第 14 回	論文を書くには？（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後、全員で議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) グループディスカッションのテーマについては、事前に、自ら考えたり調べたりして、論点をピックアップしておきます。
- 2) 個人あるいはグループによる発表の前には発表の準備（レジュメ・スライドの作成など）をします。

- 3) 春学期中に学生による論文（法政大学懸賞論文の中から選択）を 1 本読み、グループでディスカッション・発表するとともに、個人でレポートを作成します。

【テキスト（教科書）】

法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター『法政大学学習支援ハンドブック 2018』、法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター（近刊）、大学から配布予定

【参考書】

佐藤編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門（第 2 版）』慶応義塾大学出版会（2012 年）
日経 HR 編集部（編著）『日経キーワード 2018-2019』日経 HR（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）と懸賞論文に関するレポート（30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間には消極的になってしまうという意見がありましたので、講義だけの回をなくしました。引き続き、参加者の様子を見ながら内容を工夫していきたいと思います。

また、以前に、遅刻者などに対する対応が甘いという意見がありましたので、授業の進行を妨げない範囲で、厳しく対応するようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、タブレット、ノート PC などの情報機器を何か用意してください。

【その他の重要事項】

- 1) 毎回出席することを前提として進めます。やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず事前に連絡するようにしてください。無断の場合は 2 回以上、事情がある場合でも 3 回以上欠席した場合には単位を出しませんので十分に注意してください。

いくつかのグループに分かれて活動することを予定していますが、参加者の人数によっては、変更する場合があります。

- 2) 議論を深めるため、専門基礎科目（A 群）の各科目などを同時に履修することをお勧めします。

- 3) 日本経済新聞の朝刊を利用する回があります。当日は各自で新聞を用意してください。また、それ以外の日も新聞を読むようにしてください。

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

入門演習Ⅰ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	〔春学期授業〕
入門演習Ⅱ（2016 年度以降入学者）	選択<演習>	1 年次／2 単位	〔秋学期授業〕
入門演習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	選択<演習>	1 年次／4 単位	〔年間授業〕

山 崎 輝 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「大学での学び」に必要な基本スキルを身に付けることがテーマです。大学では「自分で筋道を立てて論理的に考える」ことや「自分の考えを自分の言葉や文章で正確に相手に伝える」ことが重要になります。少人数の双方向型授業によって、こうしたスキルを習得する機会を提供します。また、グループ演習を実施することでコミュニケーション・スキルや協調性を鍛え、チームとしての知識集約やプレゼンテーションの方法を学びます。

【到達目標】

- 次の3つを到達目標に掲げます。
- ①物事に対して自分で道筋を立てて、論理的に考えることができる。
 - ②自分の考えを自分の言葉（口頭発表など）や文章（レポートなど）で正確に相手に伝えることができる。
 - ③グループ演習の中で自分の役割を自覚し、個人として責任をもってチームの知識集約作業や発表に貢献する。

【授業の進め方と方法】

本演習は3つの内容に取り組みます。1つ目は「大学生の学びの基本スキル」を知ることです。大学の教科書やテキストの読み方、レポートの書き方、発表資料の作り方、口頭発表のやり方などについての一般スキルを学びます。2つ目はテキストの輪読です。一般スキルで学んだやり方に基づいて、テキストを読み、個人で発表資料を作成し、口頭発表を行う実践形式となります。輪読の指定テキスト②は株式や外国為替など金融市場に関する初心者向けの入門書です。レポートの課題にも取り組んでもらいます。3つ目はグループ演習です。チームで課題に取り組むことで、個々人が協力しあいながらチームとして知識や知恵を集約し、情報発信するプロセスを学びます。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第2回	自己紹介	自己紹介による自分自身のプレゼンテーション
第3回	テキストの読み方	大学の教科書やテキストをどのようにして読むのかを学びます。
第4回	レポートの書き方	レポート作成の作法（引用と剽窃の違い、参考文献リストの作成方法など）を学びます。
第5回	発表資料の作り方	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学びます。
第6回	口頭発表のやり方	聞き手にわかりやすいプレゼンテーションの方法を学びます。
第7回	テキスト②の輪読	金融市場・株式市場1（金融市場とは、市場の機能、金融商品）
第8回	テキスト②の輪読	金融市場・株式市場2（株式会社とは、株式市場とは）
第9回	テキスト②の輪読	金利、債券、外国為替の仕組み1（金利と債券、社債と格付け）
第10回	テキスト②の輪読	金利、債券、外国為替の仕組み2（外国為替市場とは、為替レートの理論）
第11回	テキスト②の輪読	企業や株式の価値はこうして測る1（IRRとNPV、理論株価）
第12回	テキスト②の輪読	企業や株式の価値はこうして測る2（PERとPBR、EVとは）
第13回	テキスト②の輪読	企業や株式の価値はこうして測る3（モジリアニ＝ミラーの定理）
第14回	テキスト②の輪読	分散投資で減らせるリスクと保険の原理

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその1
第16回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその2
第17回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその3
第18回	「リーマンショック」を知ろう	「リーマンショック」、「サブプライム危機」といわれる経済危機を詳しく調べます。
第19回	「リーマンショック」を知ろう	「リーマンショック」、「サブプライム危機」といわれる経済危機に関するレポートを作成します。

第20回	「リーマンショック」を知ろう	個人で作成した「リーマンショック」に関するレポートの発表1
第21回	「リーマンショック」を知ろう	個人で作成した「リーマンショック」に関するレポートの発表2
第22回	資料映像の視聴	「リーマンショック」、「サブプライム危機」に関する資料映像の視聴1
第23回	資料映像の視聴	「リーマンショック」、「サブプライム危機」に関する資料映像の視聴2
第24回	グループ演習	金融危機回避のための提言検討1（チーム内ディスカッション）
第25回	グループ演習	金融危機回避のための提言検討2（プレゼン資料の共同作成）
第26回	グループ演習	金融危機回避のための提言検討3（チーム内での発表練習）
第27回	グループ発表	チームによるプレゼンテーションの実施と討論1
第28回	グループ発表	チームによるプレゼンテーションの実施と討論2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のための資料（レジュメやプレゼン資料）の準備が必須です。さらにレポートの課題に取り組む必要があります。

【テキスト（教科書）】

- ①佐藤望他、『アカデミック・スキルズ（第2版）大学生のための知的技法入門』、2012年、慶應義塾大学出版会
- ②永野学、『図解 いちばん面白いファイナンス理論入門』、2006年、東洋経済新報社

【参考書】

- ①世界思想社編、『大学生 学びのハンドブック〔改訂版〕』、2011年、世界思想社
- ②佐藤智明他、『大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』、2014年、ナカニシヤ出版
- ③石井一成、『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』、2011年、ナツメ社

【成績評価の方法と基準】

発表（40％）、課題（30％）、平常点（30％）
発表と課題の提出は必須で単位修得の必要条件となります。レポートやプレゼンテーションは内容はもちろんのこと、レポートや発表資料の書式、プレゼンテーション技術も評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

グループ演習では、チームの作業時間を授業内で十分に確保するように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートや発表用のレジュメ、プレゼン資料はPC（Word、PowerPointなど）を利用して作成して下さい。

【その他の重要事項】

演習形式の授業を行うので、定員は20名程度を予定しています。履修希望者が多い場合には初回授業で選抜試験を行うので、初回授業は必ず出席してください。選抜試験では主に入門演習に対する学習意欲の高さで可否を判定します。また、入門演習Ⅰ（春学期）とⅡ（秋学期）の両方を履修することを前提にしています。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、簿記入門Ⅰ／Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ、情報科学実習Ⅰ／Ⅱなど、全ての科目に関連する授業となります。

入門外国語 経営学

岡本 慶子 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語と同じように英語でも情報を集めることができれば、集められる情報は倍以上になります。この授業では、自分の興味のある分野の情報を英語で集めることができるようになることを目指します。英語に対する抵抗感をなくし、高校までとは違った自分に合った英語学習スタイルを見つけます。授業で扱う題材はアメリカの学生が使っているマーケティングの教科書、ケーススタディや、企業のウェブサイト、マーケティングに関するウェブ記事、雑誌記事などから選びます。

【到達目標】

逐次和訳をせずに、単語の意味を理解して、文章全体で何を意味するか理解できることを目標とします。課題文献は **"informative"** なものを取り上げます。英語を読み、聞き、検索して得た情報についてディスカッションすることにより、読んで得た内容の理解度を確認します。「教科書だから読む」「課題だから読む」のではなく、「自分に必要かどうか確認するために読む」「必要であれば熟読する」ことを自発的にできるようになることが目標です。また、聞く、書く、話す、についても自分に合った勉強方法を見つけることを目標として、取り組みます。

【授業の進め方と方法】

課題の文献、閲覧ウェブサイトは事前に配布、連絡しますので予習をしてください。授業では、その資料に記載されている内容の背景なども考えながら、全員参加で内容を把握します。ビデオ視聴、自分の意見発信など、トピックに合わせて取り入れます。毎回、予習と単語帳の提出が宿題です。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview
2	Briefly Speaking Marketing	The Art and Science of Satisfying Customers
3	Marketing Success	The Weather Channel Expands Its Social Reach
4	Career Readiness Video Watching	Succeeding in Your First "Real" Job
5	Quiz (1) English Writing	Kimono Wednesdays
6	E-Business	Square Captures Mobile Payment Sector, etc.
7	Business-to-Business (B2B) Marketing	Foursquare Connects with Business Partners, etc.
8	Global Marketing	Walmart Extends Its Global Reach, etc.
9	Quiz (2) Market Segmentation	PepsiCo Brands Target Different Markets, etc.
10	Product and Service Strategies	Febreze: From Revolutionary Failure to Best-Selling Success, etc.
11	Developing and Managing Brand and Product Categories	Packaging Gives Heinz a Boost, etc.
12	Marketing Channels and Supply Chain Management	Red Lobster "Seas" Food Differently, etc.
13	Quiz (3) Video Watching	Curious George, Mad Men
14	Retailers, Wholesalers, and Direct Marketers	College Towns Help Whole Foods Expand, etc.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：毎回課題文献を読み、内容を把握します。わからない単語は調べます。単語帳は毎週提出していただきます。英作文（短文）、ビデオ視聴等を宿題にすることもあります。

【テキスト（教科書）】

特にありません。毎回課題文献は授業支援システムで配布します。参照ウェブサイトも事前にお知らせします。課題文によって、上記記載予定テーマが変わる可能性もあります。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習、授業への参加、宿題の提出 40 %

小テスト (quizzes) 45 %

その他の課題 15 %

評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「英語は苦手だったが、苦手意識なく受講できた」「リーディング、リスニングだけでなく、ライティング、スピーキングもあったらよかった」という意見をうけとりましたので、ライティング、スピーキングの勉強方法も少しですが取り入れようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等は授業支援システムを利用します。

辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連した内容になります。

【関連科目】

なし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は、様々な教材を使って、履修者が将来ビジネスで英語を使う際になる可能性が高い知識を履修者に習得してもらうことにある。今年度は、入門的な教科書を使って、証券投資で発生する収益率（リターン）とリスクについて学習する。

【到達目標】

- ①履修者は、証券の種類毎に計算された、長期間にわたる過去の収益性データに基づいて、どのタイプの証券が高い収益性を示し、どのタイプの証券が低い収益性を示したかと言える。
- ②履修者は、特定の証券の収益性データを使って、収益性の平均やリスクを計算できる。
- ③履修者は収益性の平均とリスクとの間に逆相関の関係があることが説明できる。
- ④履修者は証券のリスクが固有リスクと市場リスクに分解できることが説明できる。

【授業の進め方と方法】

- ①最初に特定の受講者に原文の一文を声を出して読んでもらい、次に読んだ文のうち和訳することによって理解を確認すべき単語、あるいは、部分について和訳して貰ったり、文法あるいは構文を確認して貰ったりした後、担当教員が必要な解説を行うというやり方で授業を進める。
- ②ただし、担当教員は、単に、英文の説明だけでなく、該当部分の理解に必要な制度上、あるいは、経営学上の知識についても説明する。
- ③さらに、必要に応じて教材の理解を深めるために、新聞記事、あるいは、Web上の記事を使う予定である。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	科目の概要説明	履修者がこの科目で学習する内容の概要を説明する。
2	証券の種類毎の収益性	米国の国債や米国の証券取引所で取引されている株式に関する超長期データを使って、証券の種類毎の収益性の違いを理解する。
3	証券の種類毎のリスク	米国の国債や米国の証券取引所で取引されている株式に関する超長期データを使って、証券の種類毎のリスクの違いを理解する。
4	過去の収益率	特定の証券について過去の収益率を計算する方法を学ぶ。
5	過去の収益率の計算	特定の証券について過去の収益率を計算する練習問題を解く。
6	過去の収益率の平均	特定の証券について過去の収益率の平均を計算する方法を学ぶ。
7	過去の収益率の平均の計算	特定の証券について過去の収益率の平均を計算する方法を具体的な例に適用する。
8	過去の収益率の分散	特定の証券について過去の収益率の分散を計算する方法を学ぶ。
9	過去の収益率の標準偏差	特定の証券について過去の収益率の標準偏差を計算する方法を学ぶ。
10	正規分布	正規分布を学習する。
11	収益率の平均と標準偏差の関係	過去の収益率の平均と標準偏差との関係を学習する。
12	証券の市場リスクと固有リスク	証券に投資する際に投資家が直面する固有リスクと市場リスクについて学ぶ。
13	証券の市場リスク・固有リスクと分散化効果	証券に投資する際に投資家が直面する固有リスクと市場リスクが分散化効果に結びつくメカニズムについて学ぶ。
14	期末試験	期末試験を受験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定箇所の予習及びそれを講師が確認するための「確認シート」の作成、宿題、学期中に数回実施される小テストに備えるための学習。

【テキスト（教科書）】

Jonathan Berk, Peter DeMarzo, and Jarrad Harford, Fundamentals of Corporate Finance, Third edition, Pearson, 2015 の第 11 章

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点に対して 20%、宿題及び予習確認シートに対して 30%、学期中に数回実施する小テストに対して 50%。

【学生の意見等からの気づき】

より明瞭な授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業の進捗は学生の学力に合わせます。また、英語及び経営学の両方について丁寧に説明しますので、英語がそれほど得意でない学生にも履修を勧めます。ただし、履修希望者が多い場合には、第 1 回の授業でクイズを実施し、成績の高い順に履修を許可する予定です。なぜならば、本科目は、語学の授業という性格があるため、予習・復習・クイズ等の提出物が多く、また、毎回の授業ですべての学生に複数回発言してもらうように運営しているからです。

最後に、本科目に関連する科目について述べます。1 年次生が履修できる科目の中では、「経営学総論ⅠⅡ」の履修を勧めます。また、2 年次生が履修できる科目の中では、「基礎統計学ⅠⅡ」の履修を強く勧めます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英字新聞・雑誌・ニュースなどから経営・経済関連の題材を取り上げ、経営学・経済学関連の専門用語や基礎概念に関する理解を深めることを目的とします。とりわけ、受講者が身近に感じる、話題性の高い国内外の記事・ニュースから、企業、産業、経済政策にまつわる題材をピックアップし、学術的な視点とグローバルな視点からその含意を考えることを目指します。

【到達目標】

- ・経営学・経済学関連の専門用語に対する理解が深まります。
- ・英字新聞などからの情報習得能力が一層高まります。
- ・経営・経済関連ニュースをグローバルな観点から考えることが出来ます。
- ・プレゼンテーション能力を培うことが出来ます。
- ・ディスカッションに積極的に参加出来るようになります。

【授業の進め方と方法】

- ・学習テーマについて講師による入門的な解説が行われる場合があります。
- ・テーマによってはビデオクリップの視聴もあります。
- ・学生による報告と積極的な議論が促されます。
- ・トピックの選定と時間配分については多少の変更があり得ます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	SoftBank, CEO Interview	ソフトバンクグループの CEO である孫正義さんのインタビューから聞くソフトバンクの成長戦略。
2	Money Forward, Fintech Startup	日本発の Fintech 企業である Money Forward の新規株式公開を含むアジアの Fintech 企業の展望と、スタートアップ企業の新規株式公開の含意について。
3	Snap and the 21st Century Governance Vacuum	Snap, Google などを含む IT 企業のガバナンス体制の問題点について。
4	Rakuten and the Globalization of Japanese Firms	楽天の CEO を含む 3 人のビジネスリーダーが、日本企業における真のグローバル化とは何かについて語る。
5	Job Market in Japan	最近の日本の雇用状況と企業の求人対策について。有効求人倍率の推移、少子高齢化に伴う新卒者の企業選択動向など。
6	Kobe Steel's Scandal	神戸製鋼、日産自動車などを含む日本企業による一連のデータ偽造問題とその影響についての海外メディアの分析
7	Alibaba's Singles' Day	Alibaba が Singles' Day イベントを如何に成功させたのか、そのマーケティング戦略の詳細について。ビデオクリップの視聴あり。
8	Airbnb and Sharing Economy	Airbnb を含む sharing economy が直面し得る負の効果とその対応について。
9	Wells Fargo & Co. and AI Robots	Wells Fargo を含む金融機関が AI を搭載したロボットを如何に活用しているか。証券アナリストの仕事をまで代替できるか。
10	High Tech and Japan's Funeral Industry	顧客のニーズに応えるために、日本の葬儀業界が如何に IT やロボット技術を利用しているのか。
11	Charging Rich and Poor Shoppers Different Prices	所得水準の異なる顧客について価格差別化を施すマーケティング戦略の成果について。
12	Rovio Entertainment's IPO	Angry Bird の産みの親である Rovio Entertainment 社の新規株式公開後、業績の伸び悩みの原因について。
13	Domino's, Papa John's, and Pizza Hut	米国のピザ会社がミレニアル世代のニーズに応えるために、どのような対策を講じているか。
14	総括	総括を行った後、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃、新聞・雑誌・TV などの経営・経済関連の記事・ニュースに目を配ったり、耳を傾けることで、経営・経済関連の問題意識を身に付けて下さい。

【テキスト（教科書）】

講義資料を適宜配布します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

質問・討論など授業への参加:30 %

発表:30 %

期末試験:40 %

【学生の意見等からの気づき】

分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、ノート PC などを持参し、授業中で活用して下さい。

【その他の重要事項】

関連科目：入門演習 I / II、外国語経営学 I / II、経営学総論 I / II

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉える「統計分析」は、分野を問わず重要なスキルです。この授業では、「TED トーク」と呼ばれる英語でのプレゼンテーション動画（日本語字幕つき）を用いて、主に「統計」に関わる用語・概念を英語で学びます。また、優れたプレゼンテーションを見ることが、よいプレゼンテーションとはどういうものを体感し、面接・商談・企画の提案など、さまざまな場面で応用できる「プレゼンテーションスキル」を学びます。

【到達目標】

- ・統計用語・概念を英語で聞き取り、理解できる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【授業の進め方と方法】

- ・最初の教回は、いくつかの TED トークを紹介し、統計関連の用語や重要なプレゼンテーションスキルについて説明します。
- ・統計関連の TED トークのリスト（初回授業時に配布）から動画を選び、その内容をまとめて授業内で発表してもらいます。
- ・報告担当者（またはグループ）による発表の後で、全員による質疑応答とディスカッションを行います。
- ・動画で紹介される統計関連の用語や概念については補助的な解説を行い、理解を深めます。

【授業計画】

Ⅰ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明し、TED トークの紹介と解説を行います。また、統計関連の TED トークのリストを配布します。
第 2 回	TED トークの紹介と解説 1	TED トークの紹介と解説を行い、内容について議論します。また、発表を行うトークと順番を決定します。
第 3 回	TED トークの紹介と解説 2	TED トークの紹介と解説を行い、内容について議論します。
第 4 回	TED トークの紹介と解説 3	TED トークの紹介と解説を行い、内容について議論します。
第 5 回	発表の準備 1	パワーポイントなどを使った発表資料の作り方を学びます。
第 6 回	発表の準備 2	パワーポイントなどを使った発表資料の作り方を学びます。また、発表資料の準備に取り掛かります。
第 7 回	発表の準備 3	パワーポイントなどを使った発表資料の作り方を学びます。また、発表資料を仕上げ最終チェックをします。
第 8 回	TED トークの発表 1	TED トークの発表を行い、内容について議論します。
第 9 回	TED トークの発表 2	TED トークの発表を行い、内容について議論します。
第 10 回	TED トークの発表 3	TED トークの発表を行い、内容について議論します。
第 11 回	TED トークの発表 4	TED トークの発表を行い、内容について議論します。
第 12 回	TED トークの発表 5	TED トークの発表を行い、内容について議論します。
第 13 回	TED トークの発表 6	TED トークの発表を行い、内容について議論します。
第 14 回	まとめ	これまでの TED トークの発表を振り返り、学んだ統計用語・概念やプレゼンテーションスキルを整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で扱った動画を英語字幕でも視聴して英語の理解を深めます。
- ・興味のある分野の動画を視聴して知識の幅を広げます。

【テキスト（教科書）】

- ・TED ホームページ（<https://www.ted.com>）の動画を使用します。
- ・統計関連の動画例：<https://www.ted.com/topics/statistics>

【参考書】

伊藤穰一・山中伸弥 (2016) 『「プレゼン」力～未来を変える「伝える」技術～』

【成績評価の方法と基準】

平常点：40%
発表：60%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料はパワーポイントなどを使って作成する必要があります。

【その他の重要事項】

本年度担当初年度ため積極的なフィードバックを歓迎します。

【関連科目】

基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

入門外国語経営学Ⅰ（初級）

選択＜外国語経営学科目＞ 1～4年次／2単位 [春学期授業]

入門外国語経営学Ⅱ（初級）

選択＜外国語経営学科目＞ 1～4年次／2単位 [秋学期授業]

永山 晋 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経営者、企業、経営学に関わる海外ウェブサイト、ならびに英文の経営学入門テキストを使いながら、経営に関わる知識の獲得、経営学の基本トピックを学ぶことを目的とする。また、本授業を通じて、インターネット上の英文情報の探索方法を学ぶと同時に、まとまった量の英文を抵抗なく読むことができるようにする。

入門外国語経営学Ⅰについては以下の学習を行う。（１）経営者、（２）企業、（３）学部分野としての経営学の計３つのテーマに対して調査を行い、クラスで発表する。トピックごとに異なるグループを編成し、インターネットの英文情報から入手した情報をもとに、グループで調査した内容を発表していく。

他方、入門外国語経営学Ⅱについては以下の学習を行う。配布資料の指定箇所についてパラグラフごとに内容をつかんでいき、学習トピックについて「結局こういうこと」と説明できるようにする。

【到達目標】

- （１）経営者、企業、経営学分野に関わる英文情報の探索方法を習得する
- （２）英文の情報入手の習慣を身につける
- （３）まとまった量の英文を抵抗なく読むことができる
- （４）経営学の基本的知識を英語で身につける

【授業の進め方と方法】

・授業前に、受講者は取り組んでいるトピックに関わる調査、あるいは配布資料の指定箇所を読み込み、内容を整理しておく（簡単でもよいので、メモを作成する）

・入門外国語経営学Ⅰでは、授業中、教員が適宜アドバイスを与えながら、焦点となっているトピックの調査をグループで行う

・入門外国語経営学Ⅱでは、授業中、事前に読み込んだ配布資料の該当箇所の内容について教員が解説を加えながら内容を確認していく

・入門外国語経営学Ⅰでは、焦点となるトピックの調査を３週かけて行い、４週目にグループで発表する、というセットを３回繰り返す。１回目の発表は日本語で各自作成した資料を使った日本語での発表、３回目は英語で各自作成した資料を使った日本語での発表、３回目の発表は英語で各自作成した資料を使った英語での発表を行う

・入門外国語経営学Ⅱでは、焦点となるトピックの読解を３週かけて行い、４週目に小テストを行う、というセットを３回繰り返す

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	学習準備（１）	英文情報の探索方法
2	学習準備（２）	グループワークの準備と方法
3	経営者を調査する（１）	自身とグループの関心を明確化する、候補を探索する
4	経営者を調査する（２）	調査候補を絞り込む
5	経営者を調査する（３）	対象の情報を収集、整理する
6	経営者を調査する（４）	調査内容を発表する（日本語資料を準備し、日本語で発表）
7	企業を調査する（１）	自身とグループの関心を明確化する、候補を探索する
8	企業を調査する（２）	調査候補を絞り込む
9	企業を調査する（３）	対象の情報を収集、整理する
10	企業を調査する（４）	調査内容を発表する（英語資料を準備し、日本語で発表）
11	経営学を調査する（１）	自身とグループの関心を明確化する、候補を探索する
12	経営学を調査する（２）	調査候補を絞り込む
13	経営学を調査する（３）	対象の情報を収集、整理する
14	経営学を調査する（４）	調査内容を発表する（英語資料を準備し、英語で発表）

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	Orientation	What is management theory?
2	Reading: Management and managers (1)	What is management?
3	Reading: Management and managers (2)	What do managers do?
4	Reading: Management and managers (3)	What skills do manager need?
5	Short test (1)	Short test regarding management and managers' issues
6	Reading: Strategy (1)	What is a competitive advantage?
7	Reading: Strategy (2)	The strategic management process: Setting direction
8	Reading: Strategy (3)	The strategic management process: Formulating and implementing a strategy
9	Short test (2)	Short test regarding strategy issues

10	Reading: Organizations (1)	Principles of organizational structure
11	Reading: Organizations (2)	Common organizational structures
12	Reading: Organizations (3)	Designing organizations
13	Short test (3)	Short test regarding organization issues
14	Recap	Recap

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前の調査の実施、あるいは指定箇所を読み、自分なりにその内容を整理しておく

・発表あるいは小テストに向けて学習した内容を復習しておく

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・ Hitt, M. A., Black, J. S., & Porter, L. W. (2013). Management, Prentice Hall.

・ coursera (<https://www.coursera.org/>)

・ バイリンガルニュース (<http://bilingualnews.libsyn.com/>)

【成績評価の方法と基準】

(1) 発言点 (10%)

(2) 発表・小テスト (30%×3=90%)

【学生の意見等からの気づき】

グループで調査するトピックの範囲が曖昧という意見があった。この意見を踏まえ、本年度では調査するトピックの範囲をある程度限定する予定である

【学生が準備すべき機器他】

英単語を即座に調べられるデバイス（スマホ、ノート PC、タブレットなど）。とりわけ、入門外国語経営学Ⅰでは授業中にインターネット情報を探索したり、その情報をまとめたりする必要があるため、ノート PC やタブレットを持ち込むことが望ましい

【その他の重要事項】

入門外国語経営学Ⅰについては、グループで調査を行うため、多くの場合授業外にグループで集まる必要性がある

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ

入門外国語経営学 I (初級)

選択<外国語経営学科目> 1～4年次/2単位 [春学期授業]

横山 斉理 教授

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語で書かれた論文を精読することにより、経営学に関する専門的な内容を英語で読むスキルを身につけます。それと同時に、ビジネスに関する基礎および専門知識を学びます。

経営学の中でも特に流通・マーケティングに関する専門書を取り上げますが、経営学に関する基礎的・専門的内容にも触れることになります。具体的な内容としては、アパレルブランド「ZARA」を世界中で展開するスペインのアパレル企業 Inditex 社のケーススタディ論文を精読することで、ファストファッションのビジネスモデルについての理解を深める予定です。

【到達目標】

到達目標は、

- ①英語で書かれた論文や文献の内容を読んで正確に理解できるようになること、
- ②理解した内容を他人に分かりやすく伝えられるようになること、
- ③それらのスピードを上げること、

です。

真摯に取り組めば大学院入試にパスするレベルにまで上達するはずです。

【授業の進め方と方法】

毎回、英語論文の一定の範囲を一文ずつ精読していきます。

専門書購読では、「英語の単語と文法は分かるのに内容が分からない」ということがよく起こります。この現象は、多くの場合は、専門的知識が欠落していることにより生じます。そのため、この授業では専門知識が必要になる際にはその内容をやや詳しく解説します。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	論文精読①	アパレル小売業の国際化の現状とビジネスの特徴、専門用語の解説
3	論文精読②	アパレル小売企業 Inditex 社の成り立ち①、専門用語の解説
4	論文精読③	アパレル小売企業 Inditex 社の成り立ち②、専門用語の解説
5	論文精読④	Inditex 社の国際展開、専門用語の解説
6	論文精読⑤	Inditex 社のブランド・マネジメント、専門用語の解説
7	論文精読⑥	Inditex 社の生産の仕組み①、専門用語の解説
8	論文精読⑦	Inditex 社の生産の仕組み②、専門用語の解説
9	論文精読⑧	Inditex 社の販売の仕組み①、専門用語の解説
10	論文精読⑨	Inditex 社の販売の仕組み②、専門用語の解説
11	論文精読⑩	Inditex 社の IT 利用スタンス、専門用語の解説
12	論文精読⑪	Inditex 社が世界で展開するブランドの紹介
13	論文精読⑫	Inditex 社の国際化プロセス、専門用語の解説
14	論文精読⑬	Inditex 社のマネジメント、専門用語の解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回かならず予習をしてくること。

予習は、単語を調べるだけでなく、文章を読んで内容の理解に努めるようにしてください。予習範囲の目安は授業内に知らせますが、それほど大きな負担にはなりません。

【テキスト (教科書)】

Dawson, J., R. Larke, & M. Mukoyama (eds), Strategic Issues in International Retailing, Routledge, 2006.

上記のテキストを予定していますが、受講生の状況により、難易度が高すぎたり低すぎたりすることがあるため、テキストを変更することがあります。そのため、受講前にこのテキストを購入しておく必要はありません。

【参考書】

なし。希望者には適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①報告・議論への参加 (60%)
- ②平常点 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況により、授業の内容や進め方を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書や通信機能をもった端末 (スマートフォンなど) をもってくるようにしてください。

【その他の重要事項】

経営学、とくに流通・マーケティング関連の専門的知識があるほうが英文読解が楽になりますが、なくても問題ありません。

この科目と合わせて受講すると学びの相乗効果が期待できる科目は、経営学総論、マーケティング論、流通論です。積極的に受講し、講義内容の理解に努めるようにしてください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計知識は企業の状況を理解し、社内外の関係者のひとたちとコミュニケーションを取るための枠組みを提供してくれます。多くの企業で入社前後に簿記3級の取得を求められたり、研修のなかで会計の講義が取り入れられているように、会計知識はビジネスの基礎となります。そしてそれは全世界で共通です。将来、ビジネスの世界で国際的に活躍したいと考えているのであれば、会計情報を英語で理解し、それをベースに対話できるスキルを習得することで、みなさんの可能性を大いに広げることが期待されます。

そこで本講義では、アメリカで会計コースの基礎レベルとして設定されているテキストを用いて、英語による会計情報の理解、それらを用いて企業の状況を英語で説明できるようになることを目的とします。そのプロセスを通じて、会計およびビジネスに特化した英語力の向上が期待されます。講義は日本語をベースに実施します。

また本講義は、同じく秋学期の英語で開講される **Introduction to Accounting** のクラスと相互に補完的な関係にあります。授業進度は概ね並行して実施されるため、この授業で内容を確認しながら、**Introduction to Accounting** では英語で授業を受けることもできます。加えて、この授業のなかで **Introduction to Accounting** のグループワークの準備もできればと考えています。

【到達目標】

本講義を通じて以下のことが出来るようになることを目標としています。

- (1) 英文のアンニュアルリポートを分析できるようになる
- (2) 企業の収益性、効率性、流動性の状況について英語で説明できるようになる
- (3) 英語で簡単な簿記の作業ができるようになる

【授業の進め方と方法】

本講義は、アメリカで会計コースの基礎レベルとして設定されているテキストを用いて講義を実施します。テキストは9章で構成されており、そのうち1～7章をカバーする予定です。各章は20ページ程度の説明と、20ページ程度の演習問題によって構成されています。演習問題は用語や概念などの基礎知識の習得の確認に加え、段階を踏んで自分自身で企業の状況を分析する能力を身につけるように構成されています。具体的には、最初は穴埋めや選択肢の問題を解き、企業分析の視点を身に付け、その後、自分の言葉で表現するように構成されています。

講義内で各章のポイントを説明を受けたあとに、テキストの該当箇所を読み、演習問題を解いてきて、授業の中で演習問題の解説を通じて、理解を深めていくようにしたいと考えています。

【授業計画】

I 秋学期

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The for financial statements
Week2	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
Week3	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities
Week4	Balance sheet 2	- Shareholders' equity - Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参加学生のレベルに応じて量は調整しますが、毎回、テキストを読むことと、演習問題を解いてくることが宿題として出されます。

【テキスト (教科書)】

Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2013). *Interpreting and analyzing financial statements*. Pearson Higher Ed.(6th Edition)

【参考書】

会計の知識が不足している場合には、会計学の入門レベルのテキストを参考にすると学習が進みます。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト (20%)

期末テスト (30%)

宿題 (50%)

宿題については、毎回の授業で確認をします。初回、中間テストの日、期末テストのある最終回を除いて、11回分の宿題を提出してもらいます。11回提出で **50points**、10回提出で **45points**、9回提出で **40points**、8回提出で **35points**、7回提出で **30points** とします。なお、基本は該当する授業の際に提出してもらいますが、病欠や忌引などについて事前に連絡のあった場合には事後的な提出を認めます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

同じく秋学期に開催される **Introduction to Accounting** と同じテキストを使用するため、両方履修することで英語による会計への理解が深まることを期待できます。

また簿記入門や会計学入門の単位を取得していると、内容の理解が容易になると思います。ただし指定しているテキストは大学初年次レベルのもので、1年生など会計初学者の人でも問題ありません。英語力については、特に指定はありませんが、**TOEIC550** 点程度あると望ましいと思います。テキストは量は多いもののかなり平易な英語で書かれているため、意欲があれば参加できると思います。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マーケティングの実務に関して英語で書かれたテキストや雑誌・新聞記事を読むことで、英語文献の読み方を習得すると同時に、ビジネスの基礎知識を学ぶ。また、課題についての議論を通じて、考える力とアイデアを出す力を身につける。

取り上げる記事は、近年の事例から、製造業、サービス業、IT 産業など様々な業界を扱う予定である。記事内容についても商品戦略やビジネスモデル、業界動向など多岐にわたるテーマを取り上げる。また、日本・米国・欧州の先進国だけでなく、アジアやその他の新興国でのビジネス事例についても取り上げる。

【到達目標】

- ・英文を読む習慣をつける。
- ・英語文献を読み、理解することができる。
- ・英語文献の内容を分かりやすくまとめて、報告できる。
- ・ビジネスの基礎知識を身につける。

【授業の進め方と方法】

受講生を数人のグループに分け、グループ単位を基本とした授業を行う。授業の進め方・方法としては、事前に配布した英文記事 (A4 サイズ 2 ページ程度) の輪読と記事内容に関する課題について議論を行う。詳細は以下の通りである。

①報告担当グループによる発表：英文記事についての要約を発表する。また、記事内で取り上げられている企業・業界について記事以外の情報から調査を行い発表する。調査例としては以下が挙げられる。

- ・ビジネスモデル
- ・参入市場と競合企業
- ・市場における当該企業のポジション
- ・日本を含むグローバル市場への参入状況

②グループでの課題討論：記事内容または登場企業・業界についての課題を提示するので、グループ内で討論し、意見をまとめて発表する。

参考として、前年度取り上げた記事に登場する企業について、以下の授業計画の内容欄に記載する。本年度の授業で扱う企業・テーマは受講生の興味に応じて変更する予定である。

【授業計画】

I 秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と報告資料の作り方の説明
2	Nintendo	任天堂の失敗と復活、新たなゲーム機 市場の創造
3	LVMH	高級ブランド製品のマーケティング戦略
4	Starbucks Coffee	スターバックスコーヒーの社会貢献と 内部マーケティング
5	Google	Google の企業戦略と成長
6	Smart Car	小型車 Smart の競争優位
7	Coca-Cola	コカコーラのグローバル・コミュニケーション
8	Disney	ディズニーの事業ポートフォリオ
9	Toyota	トヨタ自動車の成功とトヨタ生産システム
10	Microsoft	マイクロソフトの競合相手への対応
11	Sony	Sony の失敗と衰退
12	Red Bull	レッドブルのスポンサー・プロモーション戦略
13	Walmart	Walmart のエコ活動
14	IBM	IBM のハードウェア企業からソフトウェア企業への転換

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・受講生は事前に英文記事を読み、授業時に要約を提出する
- ・報告担当グループは、指定された記事について報告資料を用意する

【テキスト (教科書)】

なし。毎回資料を配布する。

【参考書】

Kotler, Philip and Kevin Lane Keller (2015) Marketing Management (15th ed.), Pearson.
Kotler, Philip and Gary Armstrong (2013) Principles of Marketing (15th ed.), Prentice Hall.
Keegan, Warren J. and Mark C. Green (2014) Global Marketing (8th ed.), Pearson.

【成績評価の方法と基準】

- ・報告・議論への参加 (40%)
- ・平常点 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

1 回で読む文章量など授業ペースは様子を見て変更する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表資料の作成にオフィスソフト (Word や PowerPoint) が必要

- ・発表時にパソコンとプロジェクタの利用が可能

【その他の重要事項】

2019 年度春学期開講予定の Introduction to Marketing (グローバル・オープン科目) は本授業と同じ教材を使用します。Introduction to Marketing の受講を検討している学生の参加を歓迎します。

【関連科目】

- ・Introduction to Marketing
- ・マーケティング論 I/II

入門外国語経営学Ⅰ（中級）

選択く外国語経営学科目＞ 1～4年次／2単位 [春学期授業]

入門外国語経営学Ⅱ（中級）

選択く外国語経営学科目＞ 1～4年次／2単位 [秋学期授業]

福多 裕志 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Global Business Trends]

The class will survey 'Global Business Trends' displayed in a variety of countries - the UK, Germany, France and Switzerland.

【到達目標】

In this day and age having an adequate command of English would be essential for anyone. The goal of the course is to develop students' abilities to interact more successfully in daily business scenes and pass various qualification exams. 現在、どのような領域（職場、職種、地域等）で活躍するにせよ、英語運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準1級程度）を目指す。

【授業の進め方と方法】

We will be using English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of forms of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion. 指定教科書を使い、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1章分をおよそ3回の授業で終了する。授業は日本語へ訳出する場合を除き、原則的に英語で行う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（初回のみ日本語と英語で解説する）。
2	The United Kingdom(1)	Virgin Atlantic - Business Vocabulary and Practice
3	The United Kingdom(2)	Virgin Atlantic - Reading Comprehension
4	The United Kingdom(3)	Virgin Atlantic - Discussion based on the data
5	Germany(1)	Adidas - Business Vocabulary and Practice
6	Germany(2)	Adidas - Reading Comprehension
7	Germany(3)	Adidas - Discussion based on the data
8	Presentation on Job Trends in Japan	Participants are expected to make an effective presentation.
9	France(1)	Louis Vuitton - Business Vocabulary and Practice
10	France(2)	Louis Vuitton - Reading Comprehension
11	France(3)	Louis Vuitton - Discussion based on the data
12	Switzerland(1)	Nestle - Business Vocabulary and Practice
13	Switzerland(2)	Nestle - Reading Comprehension and discussion
14	In-class term exam	60-minute written test

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	Russia(1)	Gazprom - Business Vocabulary and Practice
16	Russia(2)	Gazprom - Reading Comprehension
17	Russia(3)	Gazprom - Discussion based on the data
18	South Korea(1)	Samsung - Business Vocabulary and Practice
19	South Korea(2)	Samsung - Reading Comprehension
20	South Korea(3)	Samsung - Discussion
21	Presentation on Job Trends in Japan	Students are expected to make an effective presentation.
22	China(1)	China Mobile Limited - Business Vocabulary and Practice
23	China(2)	China Mobile Limited - Reading Comprehension
24	China(3)	China Mobile Limited - Discussion based on the data
25	USA(1)	Coca Cola- Business Vocabulary and Practice
26	USA(2)	Coca Cola- Reading Comprehension

27	USA(3)	Coca Cola- Discussion based on the data
28	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions. 各英文記事の日本語訳出、グループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。授業支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。

【テキスト（教科書）】

Iwao Yamashita, Atsuko Nishimura, Derek Eberland and Masamichi Asama. 2015. *Global Business Trends*, Nanundo. ¥1,800+tax

【参考書】

Pay attention, on a frequent basis, to the Course Management System(CMS) that includes a reference list. ビジネスおよび経済を扱う英語参考文献は数多い。授業支援システムに文献リストを掲載する。

【成績評価の方法と基準】

Contributions to class activities(30%), in-class exam(70%) 平常点 30 %、学期末筆記試験 70 %（原則的に最終授業）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

Class-related information is provided on the CMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English. 授業支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ/Ⅱ

演 習

※担当者50音順で掲載しています。

※入学年度、履修年次および担当者によって単位数が異なるので注意してください。

2014 年度以前入学者（年間科目）

学年	1 時限の演習	2 時限連続の演習
2 年次	4 単位	4 単位
3 年次	4 単位	6 単位
4 年次	4 単位	6 単位

2015 年度入学者（年間科目）

学年	1 時限の演習	2 時限連続の演習
2 年次	4 単位	6 単位
3 年次	4 単位	6 単位
4 年次	4 単位	6 単位

2016 年度以降入学者

学年	1 時限の演習		2 時限連続の演習	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
2 年次	2 単位	2 単位	3 単位	3 単位
3 年次	2 単位	2 単位	3 単位	3 単位
4 年次	2 単位	2 単位	3 単位	3 単位

※ 2016 年度以降入学者はセメスター制が採用されていますが、原則春学期・秋学期連続で受講してください。

演習 1～6

選択<演習>

安藤 直紀 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は国際企業戦略をテーマとします。特に、新興市場への参入とそこでの競争戦略が中心となるテーマになります。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】

学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
社会科学の調査方法を習得します。
ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになります。

【授業の進め方と方法】

グループによる調査とディスカッションを中心に演習を進めます。設定された大きいテーマのもとで、各グループが具体的なテーマ設定をします。それについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。グループによる研究のほか、4年生は個人研究も行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。
新聞記事等を用いて、現在起きている事象に関する議論もします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義概要とオリエンテーション
2	グループ研究①（1）	グループ研究のテーマ設定
3	方法論	社会科学の研究手法
4	グループ研究①（2）	研究テーマに関する文献調査（1）
5	グループ研究①（3）	研究テーマに関する文献調査（2）
6	ケース・スタディ（1）	企業の事例研究（1）
7	グループ研究①（4）	研究テーマに関する資料収集（1）
8	グループ研究①（5）	研究テーマに関する資料収集（2）
9	グループ研究①（6）	これまでの調査をもとにした考察（1）
10	グループ研究①（7）	これまでの調査をもとにした考察（2）
11	グループ研究①（8）	研究発表の準備
12	グループ研究①（9）	研究発表
13	中間発表（1）	個人研究の中間発表（1）
14	中間発表（2）	個人研究の中間発表（2）

秋学期

回	テーマ	内容
1	グループ研究②（1）	新しいグループ研究のテーマ設定
2	グループ研究②（2）	研究テーマに関する文献調査（1）
3	グループ研究②（3）	研究テーマに関する文献調査（2）
4	ケース・スタディ（2）	企業の事例研究（2）
5	グループ研究②（4）	研究テーマに関する資料収集（1）
6	グループ研究②（5）	研究テーマに関する資料収集（2）
7	グループ研究②（6）	これまでの調査をもとにした考察（1）
8	グループ研究②（7）	これまでの調査をもとにした考察（2）
9	グループ研究②（8）	これまでの調査をもとにした考察（3）
10	グループ研究②（9）	研究発表の準備
11	グループ研究②（10）	研究発表
12	研究最終発表（1）	個人研究の最終発表（1）
13	研究最終発表（2）	個人研究の最終発表（2）
14	総括	これまでの学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

1-2 回：グループ研究のテーマを考える
3 回：社会科学の研究手法について調べる
4-5 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる
6 回：ケースとして扱う企業を調べる
7-8 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する
9-10 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する
11-12 回：グループで研究発表の準備をする
13-14 回：個人研究の中間発表の準備をする

秋学期

1 回：新しいグループ研究のテーマを考える
2-3 回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる
4 回：ケースとして扱う企業を調べる
5-6 回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する
7-9 回：これまでの調査をもとに、グループで議論する
10-11 回：グループで研究発表の準備をする
12-13 回：個人研究の最終発表の準備をする
14 回：これまで学習したことを振り返り、次年度に取り組む個人研究のテーマを考える

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。読む必要がある文献に関しては、講義内に指示します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年
高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

クラスへの貢献を 70 %、グループまたは個人によるレポートを 30 %として評価します。クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見等からの気づき】

国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【その他の重要事項】

国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱは必ず履修してください。

【関連科目】

国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

演習 1 ～ 6

選択<演習>

猪狩 良介 専任講師

※ この演習は 1 時限のみです。2 時限連続では開講しません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、科学的アプローチによるマーケティング分析を学習します。中でも、マーケティング・サイエンスおよびマーケティング・データ解析を中心に学びます。

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング／ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけることを目標としています。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組み、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【授業の進め方と方法】

- ・前期は、マーケティング・サイエンスおよびマーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。
- ・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要および進め方について説明します。
2	1 章：ビジネスチャンス	マーケティング・サイエンスの役割を学びます。
3	2 章：消費者行動	消費者行動プロセスとモデルを学びます。
4	3 章：マーケティング情報	マーケティング・データの調査・収集方法を学びます。
5	4 章：STP 戦略	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングを学びます。
6	R 演習：STP の実践	因子分析、クラスター分析を R で実践します。
7	5 章：製品デザイン	プロダクトマップと選好分析、コンジョイント分析を学びます。
8	6 章：プライシング	価格設定の科学的アプローチを学びます。
9	7 章：コミュニケーションと広告	広告・メディア計画と効果測定を学びます。
10	8 章：プロモーション	プロモーション効果測定を学びます。
11	9 章：流通	流通に関する分析手法を学びます。
12	10 章：テストマーケティング	製品開発とテストマーケティングを学びます。
13	11 章：データベースマーケティング	顧客分析を学びます。
14	12 章：ブランドの評価と測定	ブランド資産とブランド力の測定を学びます。また、春学期のまとめを行います。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の進め方について説明します。また、グループワークのメンバーおよび取り組む研究テーマを決めます。
16	グループワーク：テーマ報告 (1)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
17	グループワーク：テーマ報告 (2)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
18	グループワーク：文献・事例研究 (1)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
19	グループワーク：文献・事例研究 (2)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。

20	グループワーク：文献・事例研究 (3)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
21	グループワーク：最終報告会 (1)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
22	グループワーク：最終報告会 (2)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
23	個人研究：中間報告 (1)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
24	個人研究：中間報告 (2)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
25	個人研究：文献・事例研究 (1)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
26	個人研究：文献・事例研究 (2)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
27	個人研究：最終報告会 (1)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。
28	個人研究：最終報告会 (2)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・演習では統計ソフト R を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します（資料作成等の準備が必要となります）。

【秋学期】

- ・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。

【テキスト（教科書）】

- ・古川一郎、守口剛、阿部誠 (2011) 『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣。
- ・里村卓也 (2014) 『マーケティング・データ分析の基礎（シリーズ Useful R 3）』共立出版。

【参考書】

- ・照井伸彦、佐藤忠彦 (2013) 『現代マーケティング・リサーチ - 市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
- ・照井伸彦、伴正隆、ウィラワン・ドニダハナ (2009) 『マーケティングの統計分析』朝倉書店。
- ・金明哲 (2017) 『R によるデータサイエンス・データ解析の基礎から最新手法まで 第 2 版』森北出版。
- その他、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な発言と議論 (30%)
- ・グループワークおよび個人での報告・最終報告 (30%)
- ・平常点 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル（ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等）を前提とします。
- ・積極性を持った学生の参加を希望します。

【関連科目】

基礎統計学 I/II
計量経営分析 I/II
マーケティング論 I/II
マーケティング・リサーチ I/II

3

演習

演習 1～6

選択<演習>

池田 宏一郎 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がある場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択	進級および卒業論文のテーマを選ぶ。
第 2 回	テーマの選択	進級および卒業論文のテーマを選ぶ。
第 3 回	テーマの選択	進級および卒業論文のテーマを選ぶ。
第 4 回	達成目標の設定	選んだテーマに対して、その具体的目標を中間目標を含めて設定する。
第 5 回	達成目標の設定	選んだテーマに対して、その具体的目標を中間目標を含めて設定する。
第 6 回	達成目標の設定	選んだテーマに対して、その具体的目標を中間目標を含めて設定する。
第 7 回	基本事項の確認	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習する。
第 8 回	基本事項の確認	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習する。
第 9 回	基本事項の確認	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習する。
第 10 回	目標の達成	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討する。
第 11 回	目標の達成	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討する。
第 12 回	目標の達成	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討する。
第 13 回	中間発表	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較する。
第 14 回	中間発表	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	中間発表	各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較する。
第 16 回	春学期の復習	春学期に得られた結果をお互いに検討する。
第 17 回	春学期の復習	春学期に得られた結果をお互いに検討する。
第 18 回	春学期の復習	春学期に得られた結果をお互いに検討する。
第 19 回	最終達成目標の設定	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し、そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討する。
第 20 回	最終達成目標の設定	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し、そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討する。
第 21 回	最終達成目標の設定	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し、そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討する。
第 22 回	レポート作成の経過発表	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ、問題点などを洗い出す。
第 23 回	レポート作成の経過発表	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ、問題点などを洗い出す。
第 24 回	レポート作成の経過発表	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ、問題点などを洗い出す。
第 25 回	最終目標の達成	最終目標に達成するために、必要ならばグループを作り、お互いに問題点などを検討する。

第 26 回 最終目標の達成

最終目標に達成するために、必要ならばグループを作り、お互いに問題点などを検討する。

第 27 回 最終目標の達成

最終目標に達成するために、必要ならばグループを作り、お互いに問題点などを検討する。

第 28 回 最終発表

最後に得られた結果を発表し、進級および卒業論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間で学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、進級および卒業論文 40%

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「数学、情報を読むためにⅠ/Ⅱ」（あるいは「教養数学 A/B」）、「確率・統計」、「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

稲垣 京輔 教授（代講：落合 康裕 講師）

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業（ファミリー企業）の事業存続と企業変革について学んでいきます。具体的には、実際の調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略、経営組織、企業統治の経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めていきます。学生の皆様の、本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力の養成ができるでしょう。

【到達目標】

本演習の到達目標は、学生の皆さんが、企業経営に関して問題意識を持ち、先人の知恵や知識を咀嚼しつつ、自ら調査して真実を突き詰めていこうとする姿勢や作法を習得することにあります。具体的には、学生の皆さんが、ゼミメンバーとの協働活動（グループ研究等）を通じて、発言の作法、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学び、ビジネスでの実践に耐えうる強靱な能力の養成を行います。

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスション）の設定を行います。具体的には、文献購読によって実際の企業経営のシーンにおける問題意識を養い、独自の研究課題（研究の切り口）を見つけて頂きます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究（先人の知識）の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何か明確にされていないのかを学んで頂きます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行っていきます。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文として纏めていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
2 回	文献購読（経営戦略） 問題意識とは	・ポジショニング ・経営資源 ・見えざる資産
3 回	文献購読（競争戦略） 問題意識の持ち方	・差別化 ・集中化 ・コストリーダーシップ ・バリューチェーン
4 回	文献購読（競争優位） 問題意識と先行研究	・事業ドメイン ・事業システム
5 回	文献購読（成長戦略） 先行研究からの知見	・多角化 ・事業ポートフォリオ ・国際化
6 回	文献購読（企業構造と経営戦略） 先行研究の課題	・企業の境界線 ・M&A ・事業合理性と組織合理性
7 回	研究中間報告【第一回目】	各グループにおける問題意識と先行研究
8 回	文献購読（国際化戦略） 見過ごされてきた課題	・経営と国境 ・経営資源の移転 ・国のポートフォリオ ・研究方法（文献調査）
9 回	文献購読（資本市場と経営戦略） 研究課題の意味	・資本市場と企業 ・資本調達のマネジメント ・株主構成 ・研究方法（フィールド調査企業の発掘）
10 回	文献購読（労働市場と経営戦略） 研究課題と問題意識	・企業と労働市場との関係 ・日本企業の雇用構造の特性 ・研究方法（フィールド調査企業への依頼）
11 回	文献購読（組織マネジメント） 先行研究レビューと研究課題	・組織と個人 ・個人の自律性 ・組織の慣性 ・研究方法（フィールド調査の計画）
12 回	文献購読（組織構造） 研究課題と研究対象	・分業化 ・階層化 ・責任と権限 ・コミュニケーション ・研究方法（フィールド調査の実施）
13 回	文献購読（仕事意欲） 研究課題と研究方法	・欲求段階説 ・動機付け ・職務特性 ・研究方法（フィールド調査の結果と分析）
14 回	研究中間報告【第二回目】	各グループにおける研究課題設定と研究計画

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	研究中間報告【第三回目】	フィールド調査の結果報告
2 回	文献購読（計画とコントロール） 実証研究の方法	・計画システムの設計 ・コントロールシステムの設計
3 回	文献購読（経営理念と組織文化） 実証研究の方法	・経営理念 ・組織文化
4 回	文献購読（リーダーシップ） 実証研究の方法	・リーダーシップの源泉 ・リーダーシップの条件
5 回	文献購読（配置、育成、選抜） 実証研究の方法	・人材の配置の意味 ・人材の選抜と育成
6 回	文献購読（ファミリー企業の特徴） 実証研究の方法	・スリー・サークル・モデル ・同族、資本、経営のマネジメント
7 回	研究中間報告【第四回目】	フィールド調査の結果報告
8 回	文献購読（事業承継） 研究の仕上げ作業	・経営と資産の承継 ・社内の事業承継 ・社外の事業承継
9 回	文献購読（後継経営者の育成） 研究の仕上げ作業	・生得的地位 ・獲得的地位 ・後継者の制約と自律のジレンマ
10 回	文献購読（先代世代経営者の役割） 研究の仕上げ作業	・エディフィスコンプレックス ・先代経営者の引退
11 回	文献購読（後継者による企業変革） 研究の仕上げ作業	・先代世代への経営資源の依存 ・後継者独自の経営資源の獲得
12 回	文献購読（後継者へのガバナンス） 研究の仕上げ作業	・経営者への牽制と規律づけ ・ファミリー企業におけるガバナンス
13 回	他大学ゼミとの交流	・ゼミ報告の対抗戦
14 回	研究最終報告	・研究の振り返り ・卒業研究に向けた取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。自律的な取り組みによって獲得された知識は、学生の皆さんの将来にわたる資産になるでしょう。

【テキスト（教科書）】

- ①伊丹敬之・加護野忠男（2005）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社.3240 円（税込み）
- ②落合康裕（2016）『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』白桃書房.3,456 円（税込み）

【参考書】

基本的には、指定テキスト（教科書）を中心に進めますが、一部で参考書を使用する場合があります。参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

- ・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
 - ・課題レポート（前期・後期）40%
 - ・ゼミへのコミットメント30%
- （留意事項）3回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・テキスト（教科書）
 - ・ノート
- ※上記の他、適宜指定する。

【その他の重要事項】

- ・春学期・秋学期合わせての履修の推奨

【関連科目】

特になし

3

演習

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。
この過程で論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。
経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に関する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）

【到達目標】

概要と目的で示した内容について、できるだけ能力の向上を目指す。

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
2	経営学についての重要な文献の検討 1	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
3	経営学についての重要な文献の検討 2	経営学の知識と思考方法を身につける。
4	経営学についての重要な文献の検討 3	経営学の知識と思考方法を身につける。
5	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
6	経営学についての重要な文献の検討 4	経営学の知識と思考方法を身につける。
7	経営学についての重要な文献の検討 5	経営学の知識と思考方法を身につける。
8	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
9	最新の経営学の論文で易しいものを検討 1	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
10	最新の経営学の論文で易しいものを検討 2	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
11	最新の経営学の論文で易しいものを検討 3	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
12	最新の経営学の論文で易しいものを検討 4	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
13	最新の経営学の論文で易しいものを検討 5	経営学の新しい知識と発想をマスターする。
14	春学期まとめ	春学期に自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	夏合宿でのケーススタディのプレゼンの内容の再検討 1	自分の担当したケースの内容の拡張と深化。
2	夏合宿でのケーススタディの再検討 2	ケーススタディの内容の拡張と深化。
3	夏合宿でのケーススタディの再検討	内容の拡張と深化。
4	実践的な（ハウツー的）論文の検討 1	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
5	実践的な論文の検討 2	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
6	実践的な論文の検討 3	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
7	最新の重要なテーマに関する英語文献について解説 1	経営学的な雑誌記事、新聞などの英語に慣れる。
8	やや難しい経営関係の論文の検討 1	担当者によるプレゼンにもとづいて、ディスカッションを行う。
9	やや難しい経営関係の論文の検討 2	プレゼンとディスカッション。
10	やや難しい論文の検討 3	プレゼンとディスカッション。各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
11	最新の重要なテーマに関する英語文献について解説 2	新聞、雑誌記事などの経営英語に慣れる。
12	やや難しい論文の検討 4	各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
13	やや難しい論文の検討 5	各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。

14 秋学期のまとめ

自分の卒論のテーマを意識しながら、秋学期の内容を各自、自分なりにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。

英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 30 本の論文を検討。

今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文を検討することになる。

どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50 %）、提出するレジュメ（50 %）などにもとづいて評価する予定。

4 年生は卒業論文（100%）に基づいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップ、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営学総論Ⅰ/Ⅱ

演習 1 ～ 6

選択<演習>

大木 良子 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論や経営の経済学と呼ばれる分野について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論との関連を議論できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつけていく。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方との違いを明確にすることで、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き伝えるプロセスを確立する。

【授業の進め方と方法】

ゼミではテキストの輪読、要約レポートの読み比べ、ケーススタディの執筆を行う。加えて、4年生は卒業論文を執筆する。
輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当者以外は、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。
要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。
ケーススタディの執筆：関心が近い人とグループをつくり、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業、ビジネスモデルについてケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて卒業論文のテーマを決めることに役立てる。
卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
5	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。

11	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
12	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む
秋学期		
回	テーマ	内容
15	ケーススタディ執筆計画の発表	ケーススタディ執筆にあたり、研究テーマの内容を確認し、重要な文献リストを作成する。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
19	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	ケーススタディ中間報告会	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	参考文献に関する報告	卒論・ケーススタディの研究計画で挙げられた参考文献について報告する
23	参考文献に関する報告	卒論・ケーススタディの研究計画で挙げられた参考文献について報告する
24	参考文献に関する報告	卒論・ケーススタディの研究計画で挙げられた参考文献について報告する
25	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。
運営はなるべく参加者に委ねます。何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。
事前準備にあたり、どうしても分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。

【テキスト（教科書）】

春学期輪読用テキスト（テキスト 1）の現段階の候補として、以下を挙げる。
主にこの中から受講生の関心に合わせて選択する。
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年
春学期要約用テキスト（テキスト 2）は受講生の関心に合わせて選択する。

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %
提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。
この授業は、ミクロ経済学入門 I/II、応用経済学 I/II、産業組織論 I/II と関連しています。

3

演習

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

大下 勇二 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】

財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎の涵養を目指す。

さらに、二・三年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を養います。

四年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養います。

二・三年生はレポート等の作成により、四年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を養います。

【授業の進め方と方法】

二・三年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておく必要があります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。テキストに基づく基礎的学習の後、3グループに分かれて企業分析を行い、複数回報告（プレゼン）してもらい、最終的に報告書にまとめます。

四年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行います。

三年生の企業分析報告書と四年生の卒業論文はゼミ論文集の形にまとめ印刷します。

授業は教室での学習が中心ですが、この他夏合宿と春合宿を実施する予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第 2 回	会計の機能と制度	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 3 回	利益計算の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 4 回	会計理論と会計基準	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 5 回	利益測定と資産評価の基礎概念	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 6 回	現金預金と有価証券	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 7 回	売上高と売上債権	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 8 回	有形固定資産と減価償却 (1)	3 年生はテキスト第 8 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 9 回	有形固定資産と減価償却 (2)	3 年生はテキスト第 8 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	無形固定資産と繰延資産	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	負債 (1)	3 年生はテキスト第 10 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	負債 (2)	3 年生はテキスト第 10 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 13 回	株主資本と純資産 (1)	3 年生はテキスト第 11 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 14 回	株主資本と純資産 (2)	3 年生はテキスト第 11 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	財務諸表の作成と公開	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 16 回	連結財務諸表 (1)	3 年生はテキスト第 13 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 17 回	連結財務諸表 (2)	3 年生はテキスト第 13 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 18 回	外貨建取引等の換算	3 年生はテキスト第 14 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 19 回	グループワークによる企業分析 (1)	複数のグループに分れ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。
第 20 回	グループワークによる企業分析 (2)	選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。
第 21 回	グループワークによる企業分析 (3)	蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。
第 22 回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論する。

第 23 回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。
第 24 回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書をまとめる。
第 25 回	グループワークによる企業分析 (7)	4 年生の卒業論文を報告してもらい、これを議論する。最終報告書はゼミ論文集に掲載する。
第 26 回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文を報告してもらい、各自の卒業論文はゼミ論文集にまとめる。
第 27 回	卒業論文の最終報告 (2)	4 年生の卒業論文を報告してもらい、各自の卒業論文はゼミ論文集にまとめる。
第 28 回	総括	1 年間のゼミ活動を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中建二著『財務会計入門』（最新版）（中央経済社）を使用する予定です。データ分析に関するテキストは最初の授業で指示します。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) およびグループワーク報告書・進級レポート (50%)(3 年生の場合) または卒業論文 (50%)(4 年生の場合) により評価します。なお、平常点の評価は春・夏の合宿への出席を含みます。

【学生の意見等からの気づき】

会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるよう工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱの既習者であり、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

小川 孔輔 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

輪読、事例研究を通してマーケティングを学ぶ。

【到達目標】

個人発表、グループ発表、フィールドワークの発表。プレゼンテーション力、リサーチ能力、グループでの作業を遂行する力などを鍛えることができる。

【授業の進め方と方法】

演習は以下の 6 つの柱からなる。

1. テキストの輪読（ふだんは英文）、合宿では日本語テキストもあり。
2. マーケティング活動についての事例、および雑誌記事などを材料にしたグループ討論
3. フィールドワーク（市場調査と商品開発）と、インタビュー形式の企業ヒアリング。それらを素材にしたデイスカッションとレポートの作成（隔月で課題図書感想文）：2011 年度は小田急ランドフローラ、松川弁当店（米沢牛の駅弁開発）、2013 年度はカインズ、ヤオコー、シーラック（パリ）勝男くん わさびマヨ味開発）、ピレロイ&ボッホ、2017 年度はカインズ、ナチュラルローソン（140 店舗でヘルシースナッキング棚提案・林檎ビネガー酎ハイ開発）、アールピーズ（ランナーズ）、シェアードブルワリー（HOSEI CRAFT BEER 開発）を調査対象企業として、企業と協力しながら実施した。
4. 卒業論文（フィールドワークの報告書）。
5. 春・夏の合宿
6. 企業での実務研究（3 年次に、インターンシップに参加）、店舗・工場見学（過去、幸楽苑、カインズ、ロック・フィールド、日高屋工場見学）、食品スーパーヤオコーの「感動と笑顔の祭典」で特別プレゼンテーション（2014 年）、大学院生との共同調査（ユニクロ銀座店でバンドル販売の店頭実験、パンコク市内のファミリーマートで調査）など。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年間の活動内容を計画、決定する
第 2 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（1）	第 2 回から第 14 回までは、共通（テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う）
第 3 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（2）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 4 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（3）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 5 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（4）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 6 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（5）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 7 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（6）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 8 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（7）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 9 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（8）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 10 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（9）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 11 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（10）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 12 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（11）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 13 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（12）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 14 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（13）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏期合宿について
第 16 回	課題図書の個人発表	春学期の課題図書の個人発表とデイスカッション
第 17 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（14）	第 17 回から第 29 回までは、共通（テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う）

第 18 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（15）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 19 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（16）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 20 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（17）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 21 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（18）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 22 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（19）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 23 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（20）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 24 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（21）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 25 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（22）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 26 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（23）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 27 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（24）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 28 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（25）	テキストに関する個人発表とデイスカッション、フィールドワークの報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや課題図書の購読、個人発表の準備、グループ発表の準備、フィールドワークに関する調査、準備等。

【テキスト（教科書）】

Philip Kotler and Gary Armstrong, (2015) 'Principles of Marketing' (昨年度)

【参考書】

小川孔輔（2009）『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、小川孔輔（2011）『ブランド戦略の実際＜第 2 版＞』日経文庫、岩崎達也・小川孔輔編著（2017）『メディアの循環』生産性出版。

【成績評価の方法と基準】

個人報告・グループ討議（1/2）、卒業論文（1/4）、隔月実施の「課題図書」（1/4）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの選択時に学生の意見を参考にする。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱ、マーケティング論Ⅰ／Ⅱ、流通論Ⅰ／Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ／Ⅱ、情報科学実習Ⅰ／Ⅱ。

3

演習

演習 1～6

選択＜演習＞

小川 憲彦 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修を勧めません。

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらいます。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	合宿総括、夏季休暇の振り返り、秋学期 MBO など	全員、全班が実施
第 2 回	研究デザインについて	調査対象と分析枠組みの検討
第 3 回	調査項目の検討	聞き取り項目、質問票の設計
第 4 回	パイロット調査報告	調査項目に基づく事前調査の実施結果の報告とフィードバック
第 5 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 6 回	分析結果の報告①	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 7 回	分析結果の報告②	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 8 回	合同ゼミでの研究発表	他大学との合同ゼミでの研究発表
第 9 回	合同ゼミの振り返りと、結果の理論的含意の検討	結果の見直し、および結果と先行研究との関係
第 10 回	結果の実践的含意と限界	結果の実践上の意義と研究の限界および今後の課題の検討
第 11 回	卒業研究報告と入ゼミ総括	4 年生と入ゼミ委員会

第 12 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 13 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 14 回	360 度フィードバック	全員、全班の評価と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが文献を探しまとめ発表準備をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてこちらから指示しますので基本的に購入してください（図書館にないこともあります）。

【参考書】

Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度は、平常点（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物を総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウェイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じ、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
② 私が担当するキャリア・マネジメント I/II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A 以上の成績で単位修得すること。
③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってくること。
④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥ 飲み会などいかなる場面でも、私のいる場では禁煙です。
⑦ スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑧ このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

演習 1 ～ 6

選択<演習>

奥西 好夫 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【授業の進め方と方法】

- ・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論(1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論(2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論(3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論(4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論(5)	・同 Case 11
8.	英文ケースの報告と議論(6)	・同 Case 12
9.	英文ケースの報告と議論(7)	・同 Case 13
10.	英文ケースの報告と議論(8)	・同 Case 14
11.	英文ケースの報告と議論(9)	・同 Case 15
12.	英文ケースの報告と議論(10)	・同 Case 25
13.	英文ケースの報告と議論(11)	・同 Case 26
14.	英文ケースの報告と議論(12)	・同 Case 27
		・同 Case 34
		・同 Case 35
		・同 Case 36
		・同 Case 37
		・同 Case 38
		・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

秋学期

回	テーマ	内容
15.	4年生卒論報告(1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論(13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論(14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論(15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論(16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論(17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論(18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論(19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論(20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4年生卒論報告(2)	・同 Case 98
26.	4年生卒論報告(3)	・同 Case 99
		・同 Case 103
		・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告(グループ1)
		・研究経過報告(グループ2)

27. ゼミのまとめ(1) ・日本の時事的テーマに関する議論
(例:働き方改革)
28. ゼミのまとめ(2) ・「健全な懐疑精神」とは？(例:生産性に関する議論)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
- ・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスブックにアップする。

【テキスト（教科書）】

- ・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

- ・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることもある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
- ・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

- ・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
- ・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

- ・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
- ・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

【関連科目】

- ・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

3 演習

演習 1～6

選択＜演習＞

神谷 健司 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 3 時間が正規の演習時間ですが、希望者による延長戦も予定しています。その時間では卒業論文の中間報告をしてもらったり、基本的な英語文献を読みたいと思います。

基本的に 2 年次からゼミに入って、3 年間継続してもらいたいと思います。募集の基本的方針もそれに基づきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産、繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	会計方針と企業分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	武田薬品工業の分析	武田薬品の歴史、現状、経営戦略、製薬業界全体の現状について考える
第 14 回	カルビーの分析	カルビーの経営戦略、製菓業界全体の現状について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

齋藤真哉他『財務会計』新世社（2014 年）を最初のテキストとして用いる。そのあとは伊藤邦雄『新・現代会計入門（第 3 版）』日本経済新聞出版社（2018 年）、伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社（2014 年）などを予定している。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている人達に来てもらって話を聞く機会を年 3、4 回設けたいと思います。

【その他の重要事項】

年 2 回の合宿があります。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加を歓迎します。

本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」といえるが、企業分析を行う際には「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」の知識も有用である。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目である。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

演習 1 ～ 6

川島 健司 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計（財務報告）に関する学習と研究を行い、論文を執筆する。会計とは私たちの生活の営みの 1 つであり、経済的な活動の様子をカネの視点で描写して、計測して、評価して、報告する行いである。それは私たち個人のレベルも含めて様々なレベルで日々行われているが、本演習ではとくに企業のレベルで行われている会計について学習・研究する。

企業レベルの会計では、それぞれの企業が勝手に独自の方法で会計の営みをする社会的な非効率が生じるので、ある一定のルールが設けられている。そのルールを学ぶことは本演習での学びの 1 つである。そのルールとは具体的に会計法規や会計基準である。一通りのルールを知ると、それぞれのルールの合理性や論理性、あるいはルールの経済的な帰結などについて興味が湧いてくるかもしれない。本演習では、そのような興味を一般に認められている学術的な方法によって研究する。

また、多くの企業は、会計の営みによって財務諸表を作って一般に広く公表している。私たちはこの財務諸表を使って企業の実態を調べることができる。興味のある企業を選び、その企業の財務諸表を入手し、財務諸表の分析方法を学びながら、その企業の分析レポートを書く、ということも本演習の活動の 1 つである。

以上のうち具体的にどれをどのように学ぶかは履修生の関心に依存し、履修生と相談しながら計画して進める。

【到達目標】

- 1 社会人として通用する文章表現力をつける。
 - 2 会計基準を読解し、基本的な会計処理の技術を理解する。
 - 3 問題提起と仮説・検証の方法を理解し、これを実践する。
 - 4 学術論文（日本語・英語）を身近なものとして読解できる力を得る。
- 以上のうち本演習が最重視することは、文章表現力をつけること、すなわち「文献を読んで、文章を書くこと」である。次いで、会計学の演習であるから会計処理・計算も正確に行えることを重視する。要するに「読み、書き、計算」である。プレゼンテーションやグループディスカッションよりも、「読み書き計算」がきちんと行えるようになることを目指す。プレゼンやディスカッションはその後である。

具体的には、専門書を読みながら、自分で調べたり考えたりしたことについて、各自 1 年間に A4 で合計 100 ～ 150 ページの量の文章を書く。文章を書いて、それを本演習で発表し、その都度、文章や論理の修正をして、最終的に社会人として通用する文章を書けるようになる。地味な修行である。

【授業の進め方と方法】

- ①会計・財務報告に関する文献の輪読：本年度は、ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』（第 3 版）を 1 年間かけて輪読する予定である。本書を読むためには、会計学とファイナンスの基礎知識が必要であり、その必要に応じて適宜、追加的な文献を選定して知識を補足する。履修生の関心、知識量、理解度、理解の速さなどを考慮しながら、毎回の講義内容を柔軟に決定する。
- ②法政大学懸賞論文への応募：学習・研究の成果を発表する機会として、履修生は個人で法政大学・懸賞論文大会に論文を提出することを目指す。
- ③卒業論文の制作：4 年生は卒業論文の提出を義務づけている。毎年、卒業論文集を制作しており、当該卒業論文集は本演習の教材としても活用している。研究の遂行および論文の執筆にあたり、研究方法に関する文献を輪読する。本年度は、高根正昭『創造のメソッド』を輪読する予定である。
- ④合宿：夏と春に日本国内で 1泊 2日のゼミ合宿を開催する。費用は 1 回につき 2 万円程度。
- ⑤インターゼミナール：研究成果を発表する機会の場として、インターゼミナールを年に 2 回開催する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	輪読『財務報告革命』：第 1 章「革命」	20 世紀に財務報告の分野で起きた「会計革命」を概観、主要論点を認識。主要なステークホルダーにとって会計の役割とは何かを考察する。
2	輪読『財務報告革命』：第 1 章「革命」（つづき）	望ましい「発生主義会計」とは何かを考察する。
3	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」	会計の役割を、会計情報の利用者にとつての意思決定を支援する情報、という観点から捉えて考察。
4	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」（つづき）	会計情報利用者の意思決定モデルとして、ファイナンス分野におけるポートフォリオ理論について学ぶ。
5	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」（つづき）	ポートフォリオ理論を前提に、会計情報の機能やその兼ね備えるべき特性について考察。
6	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」	完全・完備市場を前提に、理想的な望ましい会計利益とは何かを考察。
7	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」（つづき）	資本利子としての経済（学）的利益、および Edwards and Bell の主観的のれんの概念を理解する。
8	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」（つづき）	経済学的利益をベンチマークとして、会計利益を評価する。

選択＜演習＞

- 9 輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」
- 10 輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」（つづき）
- 11 輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」（つづき）
- 12 輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」
- 13 輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」（つづき）
- 14 輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」（つづき）

秋学期

- | 回 | テーマ | 内容 |
|----|-------------------------------|---|
| 15 | 輪読『財務報告革命』：第 6 章「市場の効率性」 | 市場の効率性という概念について学ぶ。関連する実証論文を概観。 |
| 16 | 輪読『財務報告革命』：第 6 章「市場の効率性」（つづき） | 市場の効率性と会計情報との関係について考察する。関連する実証論文を概観。 |
| 17 | 輪読『財務報告革命』：第 7 章「規制」 | 会計規制が存在する根拠を検討。会計規制に関する主要な論点を認識する。 |
| 18 | 輪読『財務報告革命』：第 7 章「規制」（つづき） | 会計規制に関する実証研究を概観する。 |
| 19 | 輪読『財務報告革命』：「訳者あとがき」 | 輪読のまとめとして「訳者あとがき」を題材に、自由に議論する。 |
| 20 | 過去の卒業論文を読むⅠ | 本演習の卒業生が執筆した卒業論文を読む。可能であれば、執筆者本人にゲストとして参加してもらう予定。会計処理の手続き、会計制度に関する研究。 |
| 21 | 過去の卒業論文を読むⅡ | 企業の会計行動に関する研究を読む。 |
| 22 | 過去の卒業論文を読むⅢ | 企業経営、業界に関する研究を読む。 |
| 23 | 輪読『創造のメソッド』 | 要約担当者による要約と質疑応答。知的創造とは何か。 |
| 24 | 輪読『創造のメソッド』（つづき） | 要約担当者による要約と質疑応答。問題をどうたてるか。 |
| 25 | 輪読『創造のメソッド』（つづき） | 要約担当者による要約と質疑応答。理論と経験をつなぐ。 |
| 26 | 輪読『創造のメソッド』（つづき） | 要約担当者による要約と質疑応答。数量的研究の方法／全体像をどうつかむか／方法論の一般理論へ |
| 27 | 輪読『創造のメソッド』（つづき） | 要約担当者による要約と質疑応答。科学的説明とは何か／数量的研究の方法 |
| 28 | 輪読『創造のメソッド』（つづき） | 要約担当者による要約と質疑応答。まとめ。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読に際し、全員が指定範囲を精読する。発表担当者は指定範囲を要約したレジュメを作成する。研究成果を発表する際にはレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

①ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』（第 3 版）、白桃書房、2010 年。 ②高根正昭『創造のメソッド』講談社現代新書、1979 年。

【参考書】

①ウィリアム・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008 年。 ②荻谷剛彦『知的複眼思考法―誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α 文庫、2002 年。 ③伊丹健之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001 年。 ④ Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd edition, McGraw-Hill, 2009. ⑤ Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th edition, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

C 評価：演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。B 評価：C 評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数＊：200 ～ 500 のレベル。A 評価：B 評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4 年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数＊：500 ～ 800 のレベル。A＋評価：A 評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数＊：800 以上のレベル。＊標準的な中級の財務会計の教科書における索引には約 1,000 の語彙が記載されている。

【学生の意見等からの気づき】

卒業生との交流の場を増やしてほしいという指摘がある。このため、例年開催している OB・OG 会に加えて、合宿および卒論発表会に卒業生を招待し、現役生と卒業生が交流する機会を増やす。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析

3

演習

演習 1～6

選択<演習>

河内谷 幸子 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようになる。ディスカッション能力や発表力を上げる。

【授業の進め方と方法】

講義、文献の輪読、文献検索を中心とした調査、ディスカッションを行う。学期に 1～2 回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表する。学期に 1 回、グループ研究による発表会を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
2	SNS	SNS (Social Networking Service) の動向について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
3	IT ビジネス	ネット広告、ネットショッピング、クラウドソーシング、ビッグデータ、オープンデータなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
4	個別発表 1	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
5	小型情報端末機器	携帯電話、ノート PC、タブレット端末、電子書籍端末、ウェアラブルコンピュータなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
6	高速コンピュータ	スーパーコンピュータや量子コンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
7	レアメタル	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
8	位置情報	地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、ソーシャルゲーム、プライバシー問題、監視社会などについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
9	見学会	電子書籍に関する展示施設を見学して学ぶ。ゼミ時間内に学外の施設へ移動する。
10	IT と法	著作権法、プロバイダ責任法、特定電子商取引法など、IT に関連の深い法律や倫理について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
11	個別発表 2	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
12	コンピュータ犯罪	コンピュータ犯罪、コンピュータウイルス、サイバー攻撃などの現状と対策について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
13	グループ発表 1 (1)	グループ分けを行い、各グループでテーマや分担を決め調査をし、発表準備を行う。
14	グループ発表 1 (2)	前回決めたグループでテーマ内容の発表を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期ガイダンス	夏休み中に行ったゼミ合宿のまとめを行う。調査発表の方法が適切であったか検討する。
16	位置情報 音声	地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、監視社会、音声認識、声の合成、それらを利用したソーシャルゲームについて文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
17	電子マネー	電子マネーや仮想通貨について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。

18	セキュリティー	セキュリティー、暗号、生体認証などについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
19	個別発表 3	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
20	IT と他分野の融合	車と IT (自動運転)、医療と IT、政治と IT、教育と IT、など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
21	人工知能、IoT	人工知能を利用した IT、モノのインターネット (IoT) について調べて学びディスカッションする。
22	アンケート演習	各自でテーマを決め、それについてアンケートを作成してまとめる。
23	アンケート演習	前回から継続するアンケート集計作業を行う。
24	個別発表 4	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
25	IT とデザイン	3D プリンタ、デジタルアート (芸術)、ユーザインタフェース (使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ (いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン (文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計) について文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
26	見学会	デジタルアートに関する展示施設を見学して学ぶ。ゼミ時間内に学外の施設へ移動する。
27	グループ発表 2 (1)	グループ分けを行い、各グループでテーマや分担を決め調査をし、発表準備を行う。
28	グループ発表 2 (2)	前回決めたグループでテーマ内容の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事のチェック、輪読の準備、個人発表の準備、グループ発表の準備等。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用いる。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。
苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第 3 版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶応義塾大学出版会、2009 年。
坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。
ドナルド・A. ノーマン (野島久雄訳)『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポートおよび発表の内容 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

上級生が下級生を指導する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

学生が自分で準備しなくてよい。パソコン教室で 1 人 1 台パソコンを使用する。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習 I / II

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ない。4 年生は 9 月以後に卒業論文を作成し、12 月に中間発表を行い、1 月に提出する。卒業論文集を電子的に配布する。
希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導する。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

岸 眞理子 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ICT がめざましい発展を遂げている今日、デジタル・メディアを駆使し、情報や知識を活用・創造する組織能力を高めていくことが、組織の重要な課題となっています。

この様な課題を考察するために、デジタル・メディアを活用した組織コミュニケーション能力や、ICT を利用した組織能力の拡張について、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析する力を養うことを目的としています。

【到達目標】

「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものをつくるために以下の点を目指します。

- ・関連する理論や概念を理解します。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学びます。
- ・また、そのために、関連文献の検索の仕方も学びます。
- ・実際に、あるテーマについての理論や概念を理解する力を養います。
- ・理論に基づいて、実際に特定の事例を分析する力を養います。
- ・卒業論文を作成します。

【授業の進め方と方法】

演習は、原則として、2・3年生はグループごとに、4年生は個人で発表し、それに対して全員で議論するという形式で進めます。レポート及び卒業論文の提出は義務づけられています。

春学期には、2年生は経営情報論の基礎的な理論を学び、3年生は設定されたテーマに関連した文献を読み込むことで理論の理解を深めていきます。秋学期までには、実際の企業事例を用いて分析できる力を養ってもらいます。演習に社会人を招いて議論する場や企業訪問の機会も設定されています。

4年生は各自テーマを設定し、1年かけて卒業論文を作成していきます。この過程では、決められた時間で発表らしい発表を行うことも勉強します。その他、発表や議論の方法、レポートや論文の書き方なども学習します。

具体的な授業計画は最初の時間に説明します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3 回	文献輪読（1）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 4 回	文献輪読（2）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 5 回	文献輪読（3）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7 回	文献輪読（4）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 8 回	文献輪読（5）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 9 回	文献輪読（6）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	文献輪読（7）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 12 回	文献輪読（8）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 13 回	文献輪読（9）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 14 回	春学期総括	春学期のまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 16 回	4年生の卒業論文計画報告	4年生の卒業論文計画報告とディスカッション
第 17 回	2・3年生の事例研究（1）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 18 回	2・3年生の事例研究（2）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 19 回	ゲスト・スピーカー（3）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 20 回	4年生の卒業論文経過報告（1）	4年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 21 回	4年生の卒業論文経過報告（2）	4年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 22 回	4年生の卒業論文経過報告（3）	4年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 23 回	ゲスト・スピーカー（4）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 24 回	2・3年生の事例研究（3）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 25 回	4年生の卒業論文経過報告（4）	4年生の卒業論文の中間報告とディスカッション
第 26 回	4年生の卒業論文経過報告（5）	4年生の卒業論文の中間報告とディスカッション
第 27 回	2・3年生の事例研究報告会	2・3年生の事例研究の最終報告
第 28 回	4年生の卒業論文最終報告会	4年生の卒業論文の最終報告
	秋学期総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論への参加など、ゼミへの積極的貢献によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>

http://www.houseikeidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論Ⅰ／Ⅱ、経営組織論Ⅰ／Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ／Ⅱ、組織行動論Ⅰ／Ⅱ、人的資源管理Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ／Ⅱなど。

3

演習

演習 1 ～ 6

選択<演習>

岸本 直樹 教授 (秋学期代講：明田 雅昭 講師)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、本演習では、履修者に経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを奨励しています。その観点から、春学期の前半に上記の専門分野の中のいずれかの分野の専門書を輪読します。また、時間が許せば、秋学期の後半に、企業、産業、経済等に関して履修者が選んだテーマについて調べ学習を行うことがあります。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表するようにしています。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等の証券を保有する者、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【授業の進め方と方法】

必要に応じて関連文献を読みながら、特定の企業について分析を進めます。そして、分析した結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表して、他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表の概要は、岸本ゼミのウェブページで公表します。また、経営学の専門書を履修者全員で分担してレジュメを作り、授業で発表し、ディスカッションをします。さらに、時間が許せば、企業分析とは別に、企業、産業、経済等に関して履修者が関心があるテーマについて調べ(当ゼミでは「自由研究」と呼んでいます)を行い、それをゼミで発表してゼミ生とディスカッションをします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回目の授業に割り当てられた学生 4 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
2	企業分析に有用な輪読	第 1 回目と同様、ただし、第 1 回を第 2 回と読み替える。
3	企業分析に有用な輪読	第 1 回目と同様、ただし、第 1 回を第 3 回と読み替える。
4	企業分析に関する実習のための講義	岸本が企業分析のやり方について講義する。
5	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 5 回目の授業に割り当てられた学生 4 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
6	企業分析に有用な輪読	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 6 回と読み替える。
7	企業分析に有用な輪読	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 7 回と読み替える。
8	企業分析に関する実習	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 8 回と読み替える。
9	企業分析に関する実習	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 9 回と読み替える。
10	企業分析に関する実習	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 10 回と読み替える。
11	企業分析に関する実習	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 11 回と読み替える。
12	企業分析に関する実習	第 5 回目と同様、ただし、第 5 回を第 12 回と読み替える。
13	企業分析に関する実習	4 年次のゼミ生のうち第 13 回の授業に割り当てられた学生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。
14	企業分析に関する実習	第 13 回目と同様、ただし、第 13 回を第 14 回と読み替える。

秋学期

回	テーマ	内容
15	企業分析に関する実習	4 年次のゼミ生のうち第 15 回の授業に割り当てられた学生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。
16	企業分析に関する実習	第 15 回目と同様、ただし、第 15 回を第 16 回と読み替える。

17	企業分析に関する実習	第 15 回目と同様、ただし、第 15 回を第 17 回と読み替える。
18	企業分析に関する実習	第 15 回目と同様、ただし、第 15 回を第 18 回と読み替える。
19	企業分析に関する実習	第 15 回目と同様、ただし、第 15 回を第 19 回と読み替える。
20	自由研究の発表	ゼミ生のうち、20 回目の授業に割り当てられた 2 つのグループが、企業、産業、経済等に関して自主的にテーマを選び、それについて調べ学習を行う。そして、その結果をレジュメにまとめ、ゼミで発表する。
21	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 21 回と読み替える。
22	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 22 回と読み替える。
23	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 23 回と読み替える。
24	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 24 回と読み替える。
25	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 25 回と読み替える。
26	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 26 回と読み替える。
27	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 27 回と読み替える。
28	自由研究の発表	第 20 回目と同様、ただし、第 20 回を第 28 回と読み替える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。

【テキスト (教科書)】

輪読する書籍は、春合宿で相談の上、指示します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

〔3 年次生に対する評価方法〕

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、B 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

〔4 年次生に対する評価方法〕

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表において 1 年度に少なくとも 1 回パワーポイント等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門 I/II、会計学入門 I/II、財務会計論 I/II、経営分析 I/II、経営分析 III/IV があります。また、後者の科目としてファイナンス論 I/II、証券経済論 I/II、企業財務論 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

北田 皓嗣 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題や社会問題が多様化し、複雑化するなかで、また社会統治の仕組みが変化するなかで、問題解消のために企業に求められる責任が高まってきています。また先進的な企業では環境ビジネスやボトム・オブ・ピラミッド（BOP）ビジネスとして、経済成長の新たな軸を構築しようとしています。このような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【授業の進め方と方法】

課題となるテキストの輪読を中心に進めていきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
2	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
3	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
4	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
5	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
6	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
7	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
8	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
9	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
10	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
11	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
12	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
13	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
14	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。

秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
16	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
17	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
18	グループワークの進め方	グループで調査する際のマナーについて考えます。
19	公共性	各グループの研究と公共性の概念から比較、検討します。
20	リハーサル 1	合同ゼミに向けて、第一回目のリハーサルを行います。
21	リハーサル 2	合同ゼミに向けて、第二回目のリハーサルを行います。
22	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
23	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
24	合同ゼミの振り返り 1	合同ゼミの反省点を検討します。
25	合同ゼミの振り返り 2	合同ゼミの反省点を検討します。
26	卒業論文に向けて	論文作成の基礎的な考え方を学びます。
27	先行研究一覧の作成	論文作成の基礎となる先行研究リストを作成します。
28	まとめ	1年間の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。

経営学部多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

3

演習

演習 1～6

選択＜演習＞

木原 章 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分に関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成することを目指しています。その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等の能力を修得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する新聞記事を適切に抽出する能力
 - ②その記事を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	新聞記事抽出・要約入門	新聞記事を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
2	記事要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
3	記事要約・グループ学習	(過去の例) 国民のDNA採取の義務化は受け入れられるか？
4	記事要約・グループ学習	(過去の例) 日本のゴミ問題
5	記事要約・グループ学習	(過去の例) クローン技術は是非か
6	記事要約・グループ学習	(過去の例) 捕鯨問題について
7	記事要約・グループ学習	(過去の例) 臓器移植について
8	記事要約・グループ学習	(過去の例) 脳死は死か？
9	記事要約・グループ学習	(過去の例) 原発を無くすには？
10	記事要約・グループ学習	(過去の例) 生物多様性
11	記事要約・グループ学習	(過去の例) ホットなバイオ市場
12	記事要約・グループ学習	(過去の例) 有用動物
13	記事要約・グループ学習	(過去の例) 遺伝子組み換え表示規制
14	夏ゼミ合宿テーマ選定	(過去の例) バイオ燃料

秋学期

回	テーマ	内容
1	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例) 築地移転問題
2	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 風力発電の可能性
3	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 原発を支えたエネルギー政策
4	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) ブラック企業
5	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) マクドナルド研究
6	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 再生医療（実状と未来）
7	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 日本のバイオベンチャー研究
8	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 地方再生
9	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオミメティクス
10	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) プロスポーツビジネス
11	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) インバウンド消費
12	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオエタノールの行方
13	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) クローン人間の悲劇性についての考察
14	4年卒論指導・3年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず目を通して下さい。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは

<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>

経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

演習 1 ～ 6

選択<演習>

金 瑠晋 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、主にファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）と企業財務論に大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う最適な金融資産投資意思決定問題を、企業財務論は、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブに関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値を求めることが出来ます。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【授業の進め方と方法】

授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
- ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
- ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
- ・他のグループからフィードバックを受ける。
- ・講師から補足を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③出欠管理

- ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題
4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東証見学	東証見学、証券取引所の役割、セミナーの受講、模擬投資の体験

26 プロジェクト発表

27 プロジェクト発表

28 総括

報告 19, 報告 20

報告 21, 報告 22

プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。

日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

配布資料。

テキストは追って決めます。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの貢献度 30 %

平常点（質問、コメントなど） 40 %

プロジェクトの発表 30 %

に基づき総合的に評価します。

特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、チェックしてください。

【その他の重要事項】

関連科目：ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

3

演習

演習 1～6

選択＜演習＞

金 容 度 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を中心に各国の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める

【到達目標】

企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成（4年生）などを通じて、論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【授業の進め方と方法】

本授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本企業であるが、海外の企業、産業も多数取り上げられる。なお、ゲスト・スピーカーをお招きしてディスカッションする授業も設ける。授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業間比較を内容とするグループ報告が行われると共に、海外企業事例についての調査分析とディスカッションが行われる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。
2	ドトールとスターバックス	セルフサービスコーヒーショップ業界における競争について議論する。
3	ルミネ	ルミネのビジネスモデルについてディスカッションする。
4	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
5	ヤマト運輸	ヤマト運輸の歴史と事業展開について議論する。
6	宅配業及び、ネット通販による影響	最近の宅配業界の変化と競争についてディスカッションする。
7	企業家、稲森和夫	稲森和夫の企業家活動と、京セラ及びKDDIの事業展開について議論する。
8	TOTO	TOTOの競争戦略についてディスカッションする。
9	Lixil	TOTOの競争相手のLixilの歴史、戦略、経営者、経営活動について議論する。
10	アマゾンと楽天	通販業界のアマゾン及び楽天の事業モデルを比較分析する。
11	東洋紡	老舗の東洋紡の構造改革と成長戦略についてディスカッションする。
12	日本駐車場開発	日本駐車場開発のビジネスモデルについて議論する。
13	集英社	集英社の企業成長プロセスと戦略についてディスカッションする。
14	GE	GE社の事業構造戦略と航空機エンジン事業の展開について議論する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ストライプ・インターナショナル	アパレルの新興企業のストライプ・インターナショナルの成長戦略についてディスカッションする。
16	幸楽苑とハイデイ日高	ラーメン業界の幸楽苑とハイデイ日高の競争戦略を比較分析する。
17	大戸屋	外食産業の大戸屋の事業モデルと海外展開についてディスカッションする。
18	すかいらく	ファミリーレストラン大手のすかいらくの構造改革について議論する。
19	卒業論文の中間報告	4年生による卒業論文の中間報告会を実施する。
20	吉野家	外食産業の吉野家の成長、事業不振、再生のプロセスを分析する。
21	東レ	東レの事業構造戦略について議論する。
22	演習入試の面接試験	演習入試の面接試験を行う。
23	日本電産	新興企業の成長戦略と企業家について議論する。
24	大和ハウス	大和ハウスの賃貸住宅事業の戦略と展開についてディスカッションする。
25	公文	公文の成長過程と戦略について分析する。
26	DIC	大日本印刷の事業展開についてディスカッションする。
27	卒業論文の最終報告	4年生による卒業論文の最終報告会を実施する。

28 ソフトバンク

ソフトバンクの企業成長プロセスについてディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門 3版』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

授業での報告（20％）、毎週のレポート（30％）、出席と授業中の議論への貢献度（30％）、合宿時の報告内容および参加度（20％）等で評価する。なお、4年生は、卒業論文（発表会での報告内容、論文内容）も成績評価基準に含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

今年度の春合宿には、海外企業事例についての調査分析とディスカッションを取り入れる。

【その他の重要事項】

新2年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

ゼミ生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

木村 純子 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、地理的表示保護制度を活用した地域活性化に関わる理論と概念を身につけます。

マーケティングの関連科目を通じて得た理論を体系的に整理し構成しながら、与えられたプロジェクト課題にチームで取り組みます。プロジェクト課題は架空のものではなく、自治体や観光地や企業が直面している実際の問題や悩みを産学連携で解決していきますので、実践的で実務的な視点が必要となります。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識 (リサーチ・クエスション) を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならない日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律（地理的表示法）」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への) 投資」だととらえてください。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光編『1 からのマーケティング第 3 版』中央経済社

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに、

- 1) 平常点 20 %
- 2) グループ活動 80 %

以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。「マーケティング論 I / II」「サービス・マネジメント論 I / II」「消費者行動論 I / II」「マーケティング・リサーチ I / II」「製品開発論 I / II」「流通論 I / II」「国際マーケティング I / II」

3

演習

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

倉田 俊彦 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下ようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関係する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下ようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
 - (2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
 - (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。（線形計画法で標準的に使われる計算などを想定しています。）
- いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「単に話を聞いて公式や知識を記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「できる限り芯から考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（数学検定などを利用して実力を試す機会も設けたいと考えています。）
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第 02 回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分の計算法を習得する。
第 03 回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分の計算法を習得する。
第 04 回	微分の実用	経済学に関連する微分の実用について学習する。
第 05 回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第 06 回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第 07 回	積分の実用	具体的な例題を通して積分の実用について学習する。
第 08 回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の定義と計算方法を理解する。
第 09 回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算方法を習得する。
第 10 回	多変数関数の微分の実用	経済学に関連する偏微分の実用について学習する。
第 11 回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第 12 回	戦略型ゲームの純粋戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第 13 回	混合戦略における均衡	混合戦略においてナッシュ均衡の存在する仕組みを理解する。
第 14 回	展開型ゲームの理論	意思決定が交互に行われる状況の部分ゲーム完全均衡について理解する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	プログラミングの準備	コンパイルの方法など、Java を使用する際に必要な知識を纏める。
第 16 回	Java の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第 17 回	Java の式	ツェラーの公式を通して、演算子や式を利用したプログラミングを学習する。
第 18 回	Java の制御文	微積分の問題を通して、制御文を利用したプログラミングを学習する。
第 19 回	Java の配列	線形代数の問題を通して、配列を利用したプログラミングを学習する。

第 20 回 Java のクラス

簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。

第 21 回 アプリケーションの作成

Application クラスを利用することによって GUI プログラムを作成する。各自が興味を持った問題に対して、プログラムに基づく分析を行う。線形計画問題の背景とその幾何学的な解法について理解する。

第 22 回 プログラミングの実用

第 23 回 線形計画法の導入

線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。

第 24 回 線形計画法の基本定理

第 25 回 線形代数の基礎

行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。

第 26 回 シンプレックス法

シンプレックス法の計算方法を理解し、プログラムを利用できるようにする。

第 27 回 包絡分析法

包絡分析法による効率評価の考え方と計算方法の基礎を理解する。

第 28 回 包絡分析法の実用

包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会が多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

【関連科目】

基礎数学 I / II
発展数学 I / II
教養数学 A / B
計算と言語のしくみ
コンピュータと数理の活用

児玉 靖司 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学をテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、さらに戦略活動に応用する手段について考察する。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらい、4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 時系列解析、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらい、さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を養う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 16 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 18 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 21 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（4）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的にに行い、協調性をもって望むこと。知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

演習 1 ～ 6

選択<演習>

近能 善範 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを『てこ』にした経営戦略－すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略－について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習では、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになっていただくことを目標とします。

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいのか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけて、訓練を積んでいく予定です。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、3年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／卒業論文作成を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イノベーション・マネジメント (1)	ガイダンス
第2回	イノベーション・マネジメント (2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(1)
第3回	イノベーション・マネジメント (3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(2)
第4回	イノベーション・マネジメント (4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(3)
第5回	イノベーション・マネジメント (5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(4)
第6回	イノベーション・マネジメント (6)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(5)
第7回	イノベーション・マネジメント (7)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(1)
第8回	イノベーション・マネジメント (8)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(2)
第9回	イノベーション・マネジメント (9)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(3)
第10回	イノベーション・マネジメント (10)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(4)
第11回	イノベーション・マネジメント (11)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(5)
第12回	イノベーション・マネジメント (12)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(6)
第13回	イノベーション・マネジメント (13)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(7)
第14回	イノベーション・マネジメント (14)	ケース企業についてのグループ発表

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イノベーション・マネジメント (15)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)

第2回	イノベーション・マネジメント (16)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第3回	イノベーション・マネジメント (17)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第4回	イノベーション・マネジメント (18)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(4)
第5回	イノベーション・マネジメント (19)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(5)
第6回	イノベーション・マネジメント (20)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(6)
第7回	イノベーション・マネジメント (21)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(7)
第8回	イノベーション・マネジメント (22)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(8)
第9回	イノベーション・マネジメント (23)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(9)
第10回	イノベーション・マネジメント (24)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(10)
第11回	イノベーション・マネジメント (25)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(11)
第12回	イノベーション・マネジメント (26)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(12)
第13回	イノベーション・マネジメント (27)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(13)
第14回	イノベーション・マネジメント (28)	グループワーク最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（35 %）、②発表（20 %）、③グループ研究／卒業論文（20 %）、④議論への参加（15 %）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10 %）、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。なお、関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになりますので、できるだけ3年次に履修するようにしてください。

演習 1～6

選択<演習>

坂上 学 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。また秋学期には、通常のゼミと平行して日経ストックリーグに参加し、ゼミで学んだ内容を実際の投資意思決定に応用する。

【到達目標】

本ゼミでは、財務報告が果たす役割について、会計学のほか、経済学、行動科学といった諸分野の成果を取り入れながら会計理論を概観し、会計専門家を取り巻く複雑な経済的・政治的環境を理解することを目標としている。

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグの取り組み、4年生は卒論に取り組む。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
初回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第2回	証券投資における財務諸表の役立ち（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第3回	証券投資における財務諸表の役立ち（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第4回	業績変化と株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第5回	業績変化と株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第6回	決算発表に対する株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第7回	決算発表に対する株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第8回	不確実性リスクの評価（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第9回	不確実性リスクの評価（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第10回	資本資産評価モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第11回	資本資産評価モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第12回	割引配当モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第13回	割引配当モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第14回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第16回	残余利益モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第17回	残余利益モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第18回	資本コストの推定（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第19回	資本コストの推定（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第20回	株式評価モデルの実践（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。

第21回	株式評価モデルの実践（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第22回	債権の格付け制度（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第23回	債権の格付け制度（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第24回	債権の格付けモデル（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第25回	債権の格付けモデル（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第26回	倒産予測モデルのための財務指標の有効性（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第27回	倒産予測モデルのための財務指標の有効性（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第28回	卒論発表（1）	4年生による卒論内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。
桜井久勝（著）『財務諸表分析（第6版）』（中央経済社、税込定価 3,570 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）
W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）
担当箇所の報告（40%）
最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめ報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

多摩キャンパスでの勉強合宿、ストックリーグへの参加など、ゼミ以外での課外活動が良かったという意見が多かったので、今年度も積極的にそのような活動に参加するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクターを使い発表すること。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

3

演習

演習 1～6

選択＜演習＞

佐野 哲 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心にします。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加

18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討
28	最終プレゼンテーション	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブレミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

佐野 嘉秀 教授（春学期代講：池田 心豪 講師）

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AIの進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネージャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の3点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせを進めていきます。実務の報告を招いて話をするもあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
2	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
3	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
4	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
5	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
6	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
7	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
8	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
9	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
10	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
11	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
12	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
13	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
14	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
15	総合研究③	春学期および夏合宿での学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
16	グループ研究⑤	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
17	グループ研究⑥	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
18	グループ研究⑦	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
19	総合研究④	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
20	文献研究⑤	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション

21	グループ研究⑧	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション
22	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
23	文献研究⑥	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
24	文献研究⑦	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
25	実態調査③	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
26	グループ発表③	グループ研究の成果発表とディスカッション
27	グループ発表④	グループ研究の成果発表とディスカッション
28	総合研究⑤	1年間の学習の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
 - 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）
- このほか、授業期間外のイベントとして、夏に合宿形式のゼミを開催します。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの取組（参加姿勢）：50%

ゼミでの報告・発言：30%

その他、ゼミへの貢献：20%

毎回出席することが評価の前提です。そのうえで、課題をこなしていることや、報告、議論への積極的な参加、その他の貢献度合いを加味して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には、ステレオタイプや根拠のないものが少なくありません。そうした中において、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

高橋 慎 准教授

※ この演習は 1 時限のみです。2 時限連続では開講しません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉える「統計分析」は、分野を問わず重要なスキルです。この授業では「因果関係」をテーマとして、
・メタボ健診を受けていれば長生きできる
・テレビを見せると子供の学力が下がる
・偏差値の高い大学へ行けば収入が上がる
など、一見正しそうに見える通説をデータから検証する「統計分析方法」を学びます。春学期は下記のテキスト 1 を用いて、データから「因果関係」を検証する「因果推論」の考え方と、経済学で用いられる手法を学びます。秋学期は下記のテキスト 2 を用いて、実際に因果推論を行うための「統計分析手法」を学びます。

【到達目標】

- ・「相関関係」と「因果関係」の違いを説明できる。
- ・「因果推論」の基本的な考え方を説明できる。
- ・実際のデータを用いて簡単な「統計分析」ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの内容をまとめて授業内で発表してもらいます。
- ・報告担当者による発表の後で、全員による質疑応答とディスカッションを行います。
- ・発表で紹介される用語や分析手法については補助的な解説を行い、理解を深めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	授業の進め方を説明し、テキスト 1 の紹介と解説を行います。また、発表の担当箇所を決定します。
第 2 回	発表 1-1：根拠のない通説にだまされないために 1	テキスト 1 第 1 章の発表を行い、「因果推論」の根底にある考え方について議論します。
第 3 回	発表 1-2：根拠のない通説にだまされないために 2	テキスト 1 第 1 章の発表を行い、「因果推論」の根底にある考え方について議論します。
第 4 回	発表 1-3：根拠のない通説にだまされないために 3	テキスト 1 第 1 章の発表を行い、「因果推論」の根底にある考え方について議論します。
第 5 回	発表 1-4：メタボ健診を受けていれば長生きできるのか 1	テキスト 1 第 2 章の発表を行い、因果推論の理想形である「ランダム化比較実験」について議論します。
第 6 回	発表 1-5：メタボ健診を受けていれば長生きできるのか 2	テキスト 1 第 2 章の発表を行い、因果推論の理想形である「ランダム化比較実験」について議論します。
第 7 回	発表 1-6：男性医師は女性医師より優れているのか	テキスト 1 第 3 章の発表を行い、たまたま起きた実験のような状況を利用する「自然実験」について議論します。
第 8 回	発表 1-7：認可保育所を増やせば母親は就業するのか 1	テキスト 1 第 4 章の発表を行い、「トレンド」を取り除く「差の差分分析」について議論します。
第 9 回	発表 1-8：認可保育所を増やせば母親は就業するのか 2	テキスト 1 第 4 章の発表を行い、「トレンド」を取り除く「差の差分分析」について議論します。
第 10 回	発表 1-9：テレビを見せると子どもの学力は下がるのか	テキスト 1 第 5 章の発表を行い、第 3 の変数を利用する「操作変数法」について議論します。
第 11 回	発表 1-10：勉強ができる友人と付き合いと学力は上がるのか	テキスト 1 第 6 章の発表を行い、「ジャンプ」に注目する「回帰不連続デザイン」について議論します。
第 12 回	発表 1-11：偏差値の高い大学に行けば収入は上がるのか	テキスト 1 第 7 章の発表を行い、似た者同士の組み合わせを作る「マッチング法」について議論します。
第 13 回	発表 1-12：ありもののデータを分析しやすい「回帰分析」	テキスト 1 第 8 章の発表を行い、変数間の関係を分析する代表的な統計手法である「回帰分析」について議論します。
第 14 回	春学期まとめ	春学期の発表を振り返り、「因果推論」の考え方と経済学で用いられる手法を整理します。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期ガイダンス	春学期の内容を踏まえて、テキスト 2 の紹介と解説をします。また、発表の担当箇所を決定します。
第 16 回	発表 2-1：数字に隠された意味を読み取る	テキスト 2 第 2 章の発表を行い、「データの扱い方」について議論します。
第 17 回	発表 2-2：不確かなことについて語る 1	テキスト 2 第 3 章の発表を行い、「計量経済学のための確率論」について議論します。

第 18 回	発表 2-3：不確かなことについて語る 2	テキスト 2 第 3 章の発表を行い、「計量経済学のための確率論」について議論します。
第 19 回	発表 2-4：観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る	テキスト 2 第 4 章の発表を行い、「統計学による推論」について議論します。
第 20 回	発表 2-5：2 つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる 1	テキスト 2 第 5 章の発表を行い、「単回帰分析」について議論します。
第 21 回	発表 2-6：2 つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる 2	テキスト 2 第 5 章の発表を行い、「単回帰分析」について議論します。
第 22 回	発表 2-7：外的条件を制御して本質に迫る	テキスト 2 第 6 章の発表を行い、「重回帰分析の基本」について議論します。
第 23 回	発表 2-8：本質に迫るためのいくつかのコツ	テキスト 2 第 7 章の発表を行い、「重回帰分析の応用」について議論します。
第 24 回	発表 2-9：政策変数を間接的に動かして本質に迫る	テキスト 2 第 8 章の発表を行い、「操作変数法」について議論します。
第 25 回	発表 2-10：繰り返し観察することでおわかりのこと	テキスト 2 第 9 章の発表を行い、「パネル・データ分析」について議論します。
第 26 回	発表 2-11：似た人を探して比較する	テキスト 2 第 10 章の発表を行い、「マッチング法」について議論します。
第 27 回	発表 2-12：「事件」の前後を比較する	テキスト 2 第 11 章の発表を行い、「回帰不連続デザイン」について議論します。
第 28 回	秋学期まとめ	秋学期の発表を振り返り、「因果推論」に用いられる「統計分析手法」を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を事前に読み、日常生活との関わりなど気付いたことや意見をまとめてディスカッションの準備をします。
- ・エクセルなどのソフトウェアを使って実際に統計分析を行うことで理解を深めます。

【テキスト（教科書）】

1. 中室牧子・津川友介 (2016) 『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社
2. 田中隆一 (2015) 『計量経済学の第一歩——実証分析のススメ』有斐閣

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：40%
- ・発表：60%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

テキスト 2 の「実証分析問題」はエクセルなどのソフトウェアを使う必要があります。

【その他の重要事項】

本年度担当初年度ため積極的なフィードバックを歓迎します。

【関連科目】

基礎統計学 I / II

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営戦略を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

- ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できること
- ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できること
- ・論理的に考える力を養うこと
- ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力を養うこと

【授業の進め方と方法】

2・3年次の春学期は担当者によるテキストの報告とディスカッション、夏休み以降は経営分析および企業評価をグループワークにより実践します。4年次は上記活動と並行して、各自の問題意識に基づき卒業論文を作成します。春学期に中間発表、秋学期には最終発表を行い、論文を提出します。他大学とのインゼミを年2回程度実施し、2・3年生はグループワーク、4年生は卒業論文の最終発表を行う予定です。なお授業計画および内容はゼミ生と相談の上、適宜調整を行う可能性があります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	役割およびテキストの報告担当章の決定、授業の進め方の確認
2	文献の輪読	テキスト1章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
3	文献の輪読	テキスト2章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
4	文献の輪読	テキスト3章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
5	文献の輪読	テキスト3章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
6	文献の輪読	テキスト4章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
7	文献の輪読	テキスト4章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
8	文献の輪読	テキスト5章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
9	文献の輪読	テキスト6章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
10	文献の輪読	テキスト7・8章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
11	文献の輪読	テキスト8章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
12	文献の輪読	テキスト9章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
13	文献の輪読	テキスト10章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
14	論文・レポートとは何か	問題の設定方法、本文の組み立て方

秋学期

回	テーマ	内容
15	データベースの活用	企業財務データベースの使い方
16	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
17	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
18	文献の輪読	テキスト11章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
19	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
20	文献の輪読	テキスト12章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
21	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
22	文献の輪読	テキスト13章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
23	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
24	文献の輪読	テキスト14章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
25	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
26	文献の輪読	テキスト15章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
27	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション

28 経営分析・企業評価の実践 グループワークレポート、卒業論文の提出内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は報告資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。また、グループワークの内容を授業で報告する際にも事前準備が必要です。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生は、テキストの報告（30%）、議論への参加度合いと発言内容（30%）、グループワークの報告内容とレポート提出（40%）に基づき評価します。4年生は、議論への参加度合いと発言内容（40%）、卒業論文の中間発表・最終発表・提出（60%）に基づき評価します。卒業論文の中間発表・最終発表・提出がない場合は単位は認めません。無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）、インゼミなどの経験を通して、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長できた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークや他大学の学生と交流する機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成および報告を行う際は、PC（Word、PowerPoint など）を使用してください。

【その他の重要事項】

・ゼミでの一連の活動を通して「ゼミでは経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。
・そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組む学生を歓迎します。
・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3年次に経営分析Ⅰ/Ⅱを履修してください。

【関連科目】

経営分析Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ
経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

演習 1 ～ 6

高橋 理香 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と現状について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞、雑誌記事に関する考察を報告してもらいます。さらに、英語での簡単なスピーチにも挑戦していただきます。2・3 年生は、インターゼミナールでのグループ発表に取り組んでももらいます。4 年生は、3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組んでももらいます。

【到達目標】

- ①経済学を理論的・実証的に理解します
- ②経済的思考方法を身につけます
- ③英語文献をよむことにより英語読解力を身につけます
- ④英語によるスピーチを行うことにより英語コミュニケーション力を高めます
- ⑤通常のゼミやインターゼミナールなどでの発表により、発表のスキル、論文作成のスキルを高めます

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論（グループ報告）
 - ②英字新聞記事を用いた発表と議論（グループ報告）
 - ③インターゼミナールでの発表論文作成（グループ報告）
 - ④英語によるスピーチ: Show and Tell（個人報告）
 - ⑤卒業論文の報告
- 文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンスを行います。
2	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
3	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
4	経済理論および現実の経済に関する学習 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
5	テーマの決め方	卒業論文やインゼミのテーマの決め方を学びます。
6	経済理論および現実の経済に関する学習 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
7	卒論中間報告会 1	卒業論文のテーマを報告します。
8	経済理論および現実の経済に関する学習 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
9	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
10	経済理論および現実の経済に関する学習 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
11	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
12	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
13	卒論中間報告会 2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
14	まとめ	春学期の授業の総括を行います。

秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
16	インゼミの準備 1	インターゼミナールで発表するテーマと今後の計画を発表します。
17	日常生活に対する経済学的分析 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
18	卒業論文中間報告会 3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
19	日常生活に対する経済学的分析 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
20	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
21	日常生活に対する経済学的分析 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
22	インゼミの準備 2	インゼミに関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
23	卒業論文中間報告会 4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
24	日常生活に対する経済学的分析 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察・Show and Tell
25	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
26	インゼミの準備 3	インターゼミナールの発表リハーサルを行います。

選択＜演習＞

- 27 卒業論文最終報告会 卒業論文の最終発表会を行います。
- 28 まとめ 秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。また、夏休みのゼミ合宿・他大学とのインターゼミナール・OB 会を行っています。さらに、4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。2018 年度のテキストは初回の講義の際に説明します。
また、論文の作成に関し、下記の文献を使用します。
佐藤望編『アカデミック・スキルズ 第 2 版－大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2016 年。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。
【ミクロ経済学・経営経済学・法と経済学・その他】
伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣、2012 年。
丸山雅洋『経営の経済学 新版』有斐閣、2011 年。
矢野誠・中澤正彦『なぜ科学が豊かさにつながらないか？』慶應義塾大学出版会、2015 年。
Levitt, S. and S. Dubner, *Freakonomics*, Harper Collins Publishers, 2005.
【国際経済学・都市経済学・その他】
石川城太・棕寛・菊池徹『国際経済学をつかむ 第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤元重『どうなる世界経済- 入門国際経済学- 』光文社新書、2016 年。
佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣ストゥディア、2014 年。
藤井英次『コア・テキスト国際金融論第 2 版』サイエンス社、2013 年。
Acemoglu, D. and J. A. Robinson, *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty*, Profile Books Ltd, 2013.

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：5 0 %
発表内容・インターゼミでの発表論文作成への貢献度：5 0 %

【4 年生】

卒業論文：5 0 %
平常点・ゼミへの貢献度：2 5 %
発表内容：2 5 %
なお、4 年生で卒業論文を提出しない場合は、不合格（D）となります。

【学生の意見等からの気づき】

効果的なプレゼンテーションやディスカッションを行うためには、どのような工夫が必要かをゼミ生自身に考えてもらいたいと思っています。2018 年度には、そのための取り組みをゼミの時間に設け、実行したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。また、毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。
また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

- ①国際経済論 I/II を併せて必ず履修してください（履修出来ない場合は、その理由を担当教員に説明すること）。また、これまでミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。
 - ②主体性のある学生の参加を希望します。ゼミでの自由度は比較的高いと思いますが、何をしても良いというわけではありません。節度ある行動をお願い致します。
 - ③授業開始時刻になってもゼミが始まらない、ということが無いように、時間の管理を徹底してください。
 - ④本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。提出しない場合は D となります。注意：出席をとりず。無断欠席は論外、到底納得できない理由による欠席も評価に強く反映されます。
- 例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）、他大学とのインターゼミナール、本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生による仕事と勉強に関するパネルディスカッション）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。

演習 1～6

選択<演習>

竹内 淑恵 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期には、基本的な文献やテキストの輪読、実務における事例および新聞・雑誌記事等を材料にしたグループ討論を中心に学ぶ。あわせて、秋学期から分析ツールとして用いる SPSS を実習する。
秋学期には、実践としてのマーケットリサーチ、それに対するディスカッションとレポートの作成を行う。これらを通してマーケティング（特に広告、コミュニケーション、ブランディング関連）を学ぶ。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【授業の進め方と方法】

・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論する。
・サブゼミや合宿も実施する。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく毎回積極的な参加が必須である。それに見合うだけの指導を実施する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明するとともに、テキスト輪読担当とグループワークのメンバーを決定する。
2	テキスト輪読と統計解析の実習 (1)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 1 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
3	テキスト輪読と統計解析の実習 (2)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 2 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
4	テキスト輪読と統計解析の実習 (3)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 3 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
5	テキスト輪読と統計解析の実習 (4)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 4 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
6	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (1)	研究テーマについて 2、3 年生の各班、卒論班がそれぞれ発表し、全員で内容を検討する。
7	テキスト輪読と統計解析の実習 (5)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 5 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
8	テキスト輪読と統計解析の実習 (6)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 6 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
9	テキスト輪読と統計解析の実習 (7)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 7 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
10	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (2)	前回発表した研究テーマを各班が精査した上で、2 回目の発表を行い、全員で内容を検討する。
11	テキスト輪読と統計解析の実習 (8)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 8 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
12	テキスト輪読と統計解析の実習 (9)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 9 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
13	テキスト輪読と統計解析の実習 (10)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 10 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
14	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (3)	これまでの発表に基づき、研究テーマを決定し、仮説を設定する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	グループ研究の進捗報告 (1)	2、3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
16	グループ研究の進捗報告 (2)	2、3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
17	グループ研究の進捗報告 (3)	2、3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
18	グループ研究の進捗報告 (4)	2、3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。

19	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。
20	グループ研究の進捗報告 (5)	2、3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
21	グループ研究の進捗報告 (6)	2、3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
22	グループ研究の進捗報告 (7)	2、3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
23	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
24	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
25	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
26	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
27	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
28	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①サブゼミや関東学生マーケティング大会への積極的な参加と貢献を行う。4 年生ゼミ生は、関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとしてサポートする。
②論文の書き方を学び、実際にテーマを決め、文章化する。論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高める。
③毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募する。

【テキスト（教科書）】

①マーケティング関連の専門書については、ゼミ生と相談の上、春学期開講までに決定する。
②統計分析の入門書：小塩真司 (2004) 『SPSS と Amos による心理・調査データ解析―因子分析・共分散構造分析まで』東京図書。
上記 2 冊を春学期テキストとして使用する。

【参考書】

マーケティング論 I/II のテキスト『マーケティングの基礎と潮流』（八千代出版）
その他については、ゼミ開講時あるいは適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は進級レポート、4 年生は卒論を提出する。
これらを完成するためには、各回における個人報告、グループ討議、取り組み姿勢 (4 年生に対しては、2、3 年生へのメンターとしての支援も加点する) が重要になる。
上記の平常点を加味して、成績評価は進級レポート (100 %)、卒論 (100 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、今年度は関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進める。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底する。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをを行い、全面的に支援する。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行う。
レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要となる。
また、統計分析においては SPSS を用いることになる。

【その他の重要事項】

・報告・連絡・相談 (報・連・相=ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本。これを忘れずに実践してほしい。
・欠席の場合は事前に連絡する必要がある。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意すること。
・2 年生はマーケティング論 I/II、3 年生以上は消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II などマーケティング関連の専門科目を履修し、マーケティング関連の知識を得た上で、ゼミで積極的に発言できるようにしてほしい。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

筒井 知彦 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。
①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

①実際の企業の経営戦略の知識が増える、②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる、③さまざまな会計ルールを理解できる、④企業分析ができる、⑤チームで力を発揮できる、⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

進め方としては、チーム制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、チームごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

【授業の方法】

① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

【授業計画】

2018 年度は製薬、テレビ、レジャーの 3 業界を分析する予定である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	製薬業界の分析①（経営戦略分析）	製薬業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 2 回	製薬業界の分析②	武田薬品工業の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	製薬業界の分析③	アステラス製薬の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	製薬業界の分析④	第一三共の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	製薬業界の分析⑤、テレビ業界の分析①	製薬業界のまとめ、テレビ業界の仕組み、特徴
第 6 回	テレビ業界の分析②	テレビ業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、フジテレビの特徴、経営戦略
第 7 回	テレビ業界の分析③	フジテレビの課題の報告とディスカッション、テレビ朝日の特徴、経営戦略
第 8 回	テレビ業界の分析④	テレビ朝日の課題の報告とディスカッション、日本テレビの特徴、経営戦略
第 9 回	テレビ業界の分析⑤	日本テレビの課題の報告とディスカッション、TBS の特徴、経営戦略
第 10 回	テレビ業界の分析⑤、レジャー業界の分析①	TBS の課題の報告とディスカッション、ビール業界のまとめ、レジャー業界の仕組み、特徴
第 11 回	レジャー業界の分析②	レジャー業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、オリエンタルランドの特徴、経営戦略
第 12 回	レジャー業界の分析③	オリエンタルランドの課題の報告とディスカッション、東京ドームの特徴、経営戦略
第 13 回	レジャー業界の分析④	東京ドームの課題の報告とディスカッション、HIS の特徴、経営戦略
第 14 回	レジャー業界の分析⑤、まとめ	HIS の、課題の報告とディスカッション、レジャー業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けての P D C A プラン策定

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	製薬業界の財務分析①（定量分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 2 回	製薬業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 3 回	製薬業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 4 回	製薬業界の財務分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション
第 5 回	テレビ業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 6 回	テレビ業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 7 回	オープンゼミ	次年度入ゼミ希望者へのオープンゼミ
第 8 回	テレビ業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 9 回	テレビ業界の財務分析④	その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション
第 10 回	入ゼミ試験	次年度入ゼミ希望者への面接試験
第 11 回	レジャー業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 12 回	レジャー業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 13 回	レジャー業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 14 回	レジャー業界の財務分析④	その他指標の分析：ROE、ROA、ROE の 3 分解、CVP 分析の報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレプ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

取り組み姿勢 (20%) とグループワーク (80%) をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究、ディスカッションの進め方について参加者と相談することにした。

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

演習 1 ～ 6

選択<演習>

長岡 健 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「創造的なコラボレーションのデザイン」

このテーマに関連した幅広い活動を行い、体験的な学習に取り組みます。具体的には、ワークショップへの参加や企画運営、フィールドワークの実践、ウェブ上への情報発信などを通じて、「古い価値観や慣習に囚われず、自由闊達に個性を発揮しながら、一人ひとりの多様性を受け入れる、クリエイティブな協働の姿（働き方／学び／暮らし）」を探り、描き、つくる、「未来志向」の実践活動に取り組みます。

以下に挙げた5つの領域を中心に「越境活動」を進め、「ソーシャル・デザイン」をめぐる各自の関心テーマを探っていくと同時に、アンラーニング、サードプレイス、ワークショップ、エスノグラフィーといった概念を手掛かりとして、「創造的なコラボレーション」の新たな姿と意味、ローコンテキストなコラボレーションによるソーシャル&ビジネス・イノベーションの可能性を探るプロジェクトを展開していきます。

- 1) ダイバーシティ
多様性を受け入れる社会を実現する[マイノリティ支援(障害者、子供、高齢者、外国人、LGBT)；パラルキャリア；ワークスタイル；ライフスタイル；ソーシャルビジネス]
- 2) コミュニティ
自由闊達な空間・場・地域をつくる[まちづくり；サードプレイス；コミュニティビジネス；カフェ]
- 3) サステナブル
環境にやさしい暮らしを楽しむ[フードロス；アップサイクル；シェアリング・エコノミー]
- 4) ウェルネス
心と体を大切にすると暮らしを楽しむ[障害者スポーツ；市民参加型スポーツ；がんサバイバー支援]
- 5) ラーニング
学びを楽しむ未来型の授業・学校・社会をつくる[ワークショップ；フィールドワーク；カフェゼミ]

【到達目標】

- 1) ワークショップ型の活動スタイルを身につける
- 2) 多様な背景の人々とのネットワークを構築する
- 3) 社会にメッセージを発信するスキルを身につける
- 4) ローコンテキストなコラボレーションを実践する
- 5) 問題解決より問題意識を重視する姿勢を身につける

【授業の進め方と方法】

「経験する」「表現する」「振り返る」という活動を中心とした参加体験型で進めます。具体的には、以下の1)～5)のような多様な活動に取り組んでいきます。

- 1) ワークショップ(参加・企画運営・開発)
- 2) ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- 3) 読書会
- 4) フィールドワーク
- 5) 実験的学習イベント(カフェゼミ)の企画・運営

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ	春学期オリエン
第2回	Book セッション	読書会の実施
第3回	カフェゼミ	オープンゼミの開催
第4回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第5回	ワールドカフェ	個人活動の発表&対話
第6回	Book セッション	読書会の実施
第7回	カフェゼミ	オープンゼミの開催
第8回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第9回	ワールドカフェ	個人活動の発表&対話
第10回	Book セッション	読書会の実施
第11回	アトリエタイム	フリーペーパー制作
第12回	カフェゼミ	オープンゼミの開催
第13回	アトリエタイム	フリーペーパー制作
第14回	ワークショップ	春学期の振り返り

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	ワークショップ	秋学期オリエン
第16回	カフェゼミ	オープンゼミの開催
第17回	Book セッション	読書会の実施
第18回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第19回	ワールドカフェ	個人活動の発表&対話
第20回	カフェゼミ	オープンゼミの開催
第21回	Book セッション	読書会の実施
第22回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第23回	ワールドカフェ	個人活動の発表&対話
第24回	Book セッション	読書会の実施
第25回	カフェゼミ	オープンゼミの開催
第26回	卒研セッション	卒業制作の発表&対話
第27回	アトリエタイム	フリーペーパーの制作
第28回	ワークショップ	秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ参加メンバーは「授業時間外」に、以下の3つの活動に主体的に取り組んでいきます。

- 1) 越境活動：
自分の直感と好奇心を手掛かりに、参加体験型フィールドワークを実施し、大学以外に交流を広げて、自分の世界を広げていく。
- 2) マイプロジェクト：
自分の関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいくことを通じて、問題意識を深めていく。
- 3) 実験的学習イベント：
大学の垣根を越えたオープンな「対話の場(サードプレイス)」を企画・運営するプロジェクト(通称「カフェゼミ」)に、ゼミ全体で取り組む。

【テキスト(教科書)】

- 1) 『ソーシャルデザイン』(グリーンズ編)
- 2) 『プレイフルシンキング』(上田信行・著)
- 3) 『ゆっくり、いそげ』(影山知明・著)
- 4) 『モチベーション 3.0』(ダニエル・ピンク・著)
- 5) 『ワークシフト』(リンダ・グラットン・著)

【参考書】

- 1) 『キャンパ論』(加藤文俊・著)
- 2) 『プレゼンテーション ZEN』(ガー・レイノルズ・著)
- 3) 『サードプレイス』(レイ・オルデンバーグ・著)
- 4) 『ダイアログ 対話する組織』(中原淳&長岡健・著)
- 5) 『デザイン思考の道具箱』(奥出直人・著)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 活動への参画度 : 60 %
[評価基準] ゼミ活動に全て参加(出席)することが前提
- 2) プレゼンテーション : 20 %
[評価基準] 個人活動に関するプレゼンの内容を総合的に評価
- 3) フリーペーパー制作 : 20 %
[評価基準] 個人で制作するフリーペーパーの内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「フィールドワーク」と「メディア活用」に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

facebook、twitter、note、tumblr などネットワークを活用したコミュニケーション活動を積極的に展開していきます。また、フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録していきます。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場(=ゼミ)を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていこうかと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探索する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修することが望ましい。

【長岡研究室ウェブサイト】

<http://www.tnlab.net>
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>

3

演習

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

永山 晋 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「どのような経験が個人やチームのクリエイティビティに結びつくのか？」
「どのような仕組みを整えれば組織のクリエイティビティを高めることができるのか？」

本演習ではこのような「クリエイティビティのマネジメント」をテーマに研究を行う。クリエイティビティとは、新規かつ有用なアイデアの創出を意味し、問題解決や新規事業の創造、イノベーションの創出などに深く関係する。

本演習は最終的に卒業論文を個人あるいはチームで作成し、クリエイティビティに関する知見とともに、学術研究の一連のプロセスを体得することを目標とする。そのステップとして、春学期にクリエイティビティの諸理論と、それに関係する経営学の基本理論について日本語の文献、英語の文献を輪読を通じて学習していく。秋学期は、各グループがこれまで収集したデータ、知見を材料とし、リサーチデザイン、統計的分析方法、文章作成方法について学習していく。

【到達目標】

- (1) 特定の経営理論、クリエイティビティの理論的視点を使いこなせるようになる
- (2) 学術研究の一連のプロセスを体得する
- (3) 個人でもチームでも自分の力を存分に発揮できる「自律性」を身につける
- (4) ゼミの運営、グループワークの実践を通じて「チームマネジメント力」を身につける
- (5) 世の中の注目を集める興味深い問い、重要な問いを考案する「構想力」を身につける

【授業の進め方と方法】

春学期) 主に輪読を通じて基礎的な理論の知識を身につけ、各チームが夏から開始する自身の研究テーマを提示することを目標とする。基本的には毎回、割り当てられた文献のサマリーを担当チームが事前に作成していく。毎回の授業では、担当チームが内容を発表し、教員による解説を交えながら、文献の内容を深く理解していく

秋学期) データ分析といった研究方法の学習と論文作成方法の学習、チームで行う研究の進捗報告が中心となる

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的、進め方について説明する。お互いの自己紹介、輪読のチーム編成を行う
2	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読 (1)	担当チームが文献のサマリーを発表
3	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読 (2)	担当チームが文献のサマリーを発表
4	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読 (3)	担当チームが文献のサマリーを発表
5	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読 (4)	担当チームが文献のサマリーを発表
6	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読 (5)	担当チームが文献のサマリーを発表
7	研究論文とは何か	研究論文の概要と形式について解説する
8	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読 (1)	イントロダクションと理論のパートを輪読
9	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読 (2)	方法論のパートを輪読
10	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読 (3)	結果と考察のパートを輪読
11	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読 (4)	イントロダクションと理論のパートを輪読
12	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読 (5)	方法論のパートを輪読
13	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読 (6)	結果と考察のパートを輪読
14	研究テーマ発表	各自が今後行いたい研究テーマについてプレゼンテーションを行う

秋学期

回	テーマ	内容
1	研究の経過報告	担当チームの研究途中経過を報告する
2	リサーチデザインの学習 (1)	リサーチデザインに関わる書籍を輪読する
3	リサーチデザインの学習 (2)	リサーチデザインに関わる書籍を輪読する
4	リサーチデザインの学習 (3)	リサーチデザインに関わる書籍を輪読する

5	統計分析の学習と分析結果の報告 (1)	収集したデータをもとに記述統計、相関分析を行う
6	統計分析の学習と分析結果の報告 (2)	記述統計のビジュアル化
7	統計分析の学習と分析結果の報告 (3)	連続変数に対する統計
8	統計分析の学習と分析結果の報告 (4)	連続変数に対する統計
9	統計分析の学習と分析結果の報告 (5)	離散変数に対する統計
10	統計分析の学習と分析結果の報告 (6)	離散変数に対する統計
11	アウトラインの作成	執筆手順について解説し、ターゲットとする読者の設定 (ビジネスマン、学生向け、学術向けなど) と文章のアウトラインを作成する
12	文章の執筆方法の学習 (1)	パラグラフ・ライティング
13	文章の執筆方法の学習 (2)	一文一義と接続表現
14	文章の執筆方法の学習 (3)	引用、参考文献、脚注、文章フォーマットの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・チームメンバーとのグループワークを行い、資料作成や発表準備などを行う
・春学期は自分の興味のある研究テーマを個々が考える。適宜、どのようなことをやりたいかを教員がヒアリングしていく

【テキスト（教科書）】

適宜案内する

【参考書】

日本語書籍については以下を予定している。英語文献は適宜案内する。

■経営理論

・入山章榮「世界標準の経営理論」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』ダイヤモンド社。

■クリエイティビティ

・グラント, アダム (2016) 『ORIGINALS』三笠書房 (楠木建監訳)。
・バーカス, デビット (2014) 『どうしてあの人はクリエイティブなのか?』PNN 新社 (プレジデント, 高崎拓哉訳)。

・ペントランド, アレックス (2015) 『ソーシャル物理学』草思社 (小林啓倫訳)。

■リサーチデザイン

・田村正紀 (2006) 『リサーチ・デザイン』白桃書房。

■実証分析

・森田果 (2014) 『実証分析入門』日本評論社。
・星野匡郎・田中久稔 (2016) 『R による実証分析』オーム社。

【成績評価の方法と基準】

(1) 演習への参加 (50%)

・質問や発言などの授業への貢献度によって評価する

(2) 研究内容 (50%)

・授業で学習した内容が発表などの研究成果に反映されているかどうかで評価する

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の春学期、英語文献の輪読の最中に、統計分析に用いるソフトウェアの学習を行ったが、学習の流れが悪く、ソフトウェアの使い方に関わる学習が不十分となってしまった。そのため、本年度の春学期は輪読に集中する予定である

【学生が準備すべき機器他】

各自ノート PC を所持すること

【その他の重要事項】

Word や PowerPoint、Excel、分析ソフト (R や Stata など) を使うことになるが、事前知識は必要ない。演習を通じて操作方法を習得していく

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、組織マネジメントⅠ／Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱなど

演習 1～6

選択<演習>

新倉 貴士 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
- ②マーケティングリサーチの基礎知識の獲得を目指します。
- ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、テキスト①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、テキスト④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。
- ③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【授業の進め方と方法】

グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
2	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
3	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
4	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
5	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
6	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
7	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
10	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
11	グループ活動②-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
12	グループ活動②-4	仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
13	グループ活動②-5	仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
14	春学期最終報告会	グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
16	グループ活動③-1	新テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。

17 グループ活動③-2

18 グループ活動③-3

19 グループ活動③-4

20 グループ活動③-5

21 グループ活動③-6

22 秋学期中間報告会

23 グループ活動④-1

24 グループ活動④-2

25 グループ活動④-3

26 グループ活動④-4

27 グループ活動④-5

28 秋学期最終報告会

課題の明確化：新グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

既存研究サーベイ：新グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

仮説の設定：新グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

仮説の検証：新グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

結論とインプリケーションの導出：新グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。

グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。

テーマ設定：前半の課題を受けて、新グループテーマのについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。

課題の明確化：前半の課題を受けて、新グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。

既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、新グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。

仮説の設定：前半の課題を受けて、新グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。

仮説の検証：前半の課題を受けて、新グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40 %）、グループ貢献度（30 %）、プレゼンテーション能力（30 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションスキルのみでなく「内容」をさらに充実化させ、高度な知見を理解させる予定です。ゼミ仲間との協調性を育成し、自分ならではの独創性を十分に発揮できるよう運営したい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。また3年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。その他、「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

3 演習

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経済史・経営史専攻の担当教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
・経営学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【授業の進め方と方法】

I 春学期

・春学期は、担当教員が選択したテキストに基づき、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。

II 秋学期

・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行っていきます。
・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視点から対象を分析するように心がけてください。
・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視角、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	参加者の自己紹介を行う。
3	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
4	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
5	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
6	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
7	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
8	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
9	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
10	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
11	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
12	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
13	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
14	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
16	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
17	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
18	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
19	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
20	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
21	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
22	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
23	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
24	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
25	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
26	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
27	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
28	最終報告④	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40％）＋平常点（30％）＋質問・議論への参加（30％）。
・出席する際には、積極的に議論に参加してください。
・ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

西川 英彦 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読

②ゼミ内コンペ（ゼミコン）

③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）

④ S カレでの企画提案

「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。

<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>

⑤卒業論文の作成

なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明 輪読
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明 輪読
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明 輪読
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計、相関分析の基礎理論や手法の説明 輪読
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック 輪読
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明 輪読
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告 輪読
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析、回帰分析の基礎理論や手法の説明 輪読
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック 輪読
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック 輪読
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した、S カレのプロトタイプの報告 輪読
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける 輪読
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告 輪読

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック 輪読
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑 輪読
第 17 回	S カレ第 5 回報告（秋カンに参加）	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック 輪読

第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック 輪読
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 輪読
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック 輪読
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告 輪読
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告 輪読
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どおりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告 輪読
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック 輪読
第 25 回	S カレ第 9 回報告（冬カン）	フィードバックをもとに修正したプレゼン 輪読
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける 輪読
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック 輪読
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック 輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』碩学舎、2012 年。

【参考書】

- ①松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動』碩学舎、2016 年。
- ②トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! — 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。
- ③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。
- ④ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート・V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

3

演習

演習 1 ～ 6

西川 真規子 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑化、不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心にとした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材として、ディスカッションを行い、課題を抽出し社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め集団活動に必要な自己管理や共感性、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自の個性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストをベースとしたプレゼンテーションや、社会問題に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法、データ解析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、ディベートや簡単な英語によるコミュニケーション等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。課外授業や合宿も実施する予定です。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割の割当て
2	社会学の紹介 卒論研究	社会学とは何か/今後の授業の進め方/4年生は卒論のテーマを4月中に確定
3	自由と依存1 卒論研究	3年はテキストをレジュメにまとめて発表/4年は4月中に卒論テーマ発表会を開催
4	自由と依存2 文献調査の方法	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/図書館ガイダンスを通じて先行文献の探索方法を学習
5	わたしたちとかれら1 卒論研究	3年はテキストをレジュメにまとめて発表/4年は先行研究を開始
6	わたしたちとかれら2 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4年は先行研究を実施
7	コミュニティと組織1 卒論研究	3年はテキストをレジュメにまとめて発表/4年は先行研究を実施、5月中に発表
8	コミュニティと組織2 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
9	ディベート	全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
10	権力と選択1 卒論研究	3年はテキストをレジュメにまとめて発表/4年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
11	権力と選択2 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
12	中間発表準備	3年はこれまでテキストで扱ったテーマや、ディスカッションの内容をもとにグループプロジェクトを開始/4年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
13	中間発表準備	3年はグループプロジェクトを実施/4年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
14	中間発表準備	3年はグループプロジェクトを実施/4年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
秋学期		
回	テーマ	内容
15	中間発表（夏合宿）	3年はグループプロジェクト発表/4年卒論中間発表
16	オリエンテーション	秋期活動内容確認/秋期ゼミ目標設定
17	社会調査の方法1 卒論研究	社会調査のさまざまな方法について学習/4年は調査方法を検討
18	社会調査の方法2 卒論研究	社会調査のさまざまな方法について学習/4年は調査方法を確定

選択<演習>

19	贈与と交換1 卒論研究	3年はテキストをレジュメにまとめて発表/4年は調査を開始
20	贈与と交換2 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4年は調査を実施
21	身体の諸相1 卒論研究	3年はテキストをレジュメにまとめて発表/4年は調査を実施
22	身体の諸相2 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4年は調査実施状況を報告
23	社会調査の方法3	データ分析に関わる統計手法を学習
24	社会調査の方法4	データ分析に関わる統計手法を学習
25	SPSSによるデータ分析1 卒論研究	SPSSを用いてデータ分析を実施/4年はデータ分析を実施
26	SPSSによるデータ分析2 卒論研究	SPSSを用いてデータ分析を実施/4年はデータ分析を実施
27	SPSSによるデータ分析3 卒論研究	SPSSを用いてデータ分析を実施表/4年はデータ分析結果報告
28	卒論発表会 プロポーザル発表会	4年は卒論の最終成果を発表/3年は来年度の卒論プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行う。3年は、発表担当箇所のプレゼンテーションについて、授業の前に準備を進める。4年は、卒業論文作成、進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進める。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第2版』、ちくま学芸文庫、2017年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）を使用します。

【参考書】

参考文献は必要に応じて紹介します。

過去に用いたテキストには、Jon Elster 著 *Nuts and Bolts for Social Sciences* (邦題『社会科学の道具箱』)、亀田達也・村田光二著『複雑さに挑む社会心理学』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

3年:ディスカッションへの参加等平常点 30 % 個人・グループ発表 30 %、ゼミ活動への貢献度 40 %

4年:ディスカッションへの参加等平常点 20 %、ゼミ活動への貢献度 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

尚、ゼミ活動への貢献度とは、3年の場合は、割り当てられた委員活動を通じての貢献を含みます。4年の場合は、先輩としてのリーダーシップの発揮を意味します。ゼミ活動への貢献度については、講師のみでなくゼミ生全員で相互評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を授業支援システムを通じて行います。各自4月の授業開始後速やかに授業支援システムに自己登録を済ませてください。

【その他の重要事項】

双方他のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し協力してゼミ活動に貢献することを期待します。それには毎回の出席は欠かせません。3回以上の欠席を持って除籍となることがあります。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

入戸野 健 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開および Web 情報の分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの統計的な分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際の Web に関するデータの分析をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
2	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
3	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
4	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
5	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外観する。
6	インターネット広告	Google の検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
7	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
8	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
9	人工知能 (AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。
10	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
11	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
12	事例研究	Google, Amazon 等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
13	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。
14	ゼミ合宿	夏季ゼミ合宿を実施する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
16	研究テーマの検討	4 年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
17	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
18	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
19	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
20	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
21	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種形式のディスカッションを行う。
22	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
23	プログラム開発環境	主に 3 年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその使用に慣れる。
24	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。

25	HTML とコンテンツ表現	Web サイトのコンテンツの表現方法を身につける。
26	Web サーバ構築	Web サーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
27	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
28	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内外におけるディスカッションやコミュニケーションの時間をさらに増やしていきたい。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

3

演習

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

長谷川 翔平 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。

企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【授業の進め方と方法】

【春学期】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。また、統計解析ソフト R (フリーソフト) を使い、データ分析の実習を行う。

【秋学期】

- 前半①：データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読を行う。
- 前半②：外部のデータ分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。
- 後半：4 年生を中心に卒業研究を行う。4 年生と 2・3 年生のグループを作り、設定したテーマについて、データを収集し、実証的な分析を行い、発表する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。
- ・家電量販店のネット通販対策
 - ・動画配信サービスへのマーケティング提案
 - ・アパレルレンタルサービスのマーケティング
 - ・スポーツにおけるブランド戦略
 - ・食料品購買における店舗選択
 - ・テレビ CM の広告効果最大化

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	テキスト 1・2 章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
3	テキスト 3 章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
4	テキスト 4 章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
5	テキスト 5 章：市場反応分析 (I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
6	テキスト 6 章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
7	テキスト 7 章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
8	テキスト 8 章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
9	テキスト 9 章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
10	テキスト 10 章：顧客の管理	RFM 分析による顧客管理
11	テキスト 11 章：市場反応分析 (II)	離散選択モデルによる購買予測
12	テキスト 12 章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解
13	テキスト 13 章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
14	テキスト 14 章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

秋学期

回	テーマ	内容
15	データ分析コンテスト：研究計画発表	分析テーマ、研究計画の発表
16	データ分析コンテスト：中間報告①	利用データや分析手法の報告
17	データ分析コンテスト：中間報告②	利用データや分析手法の報告
18	データ分析コンテスト：中間報告③	データ分析の途中報告
19	データ分析コンテスト：中間報告④	データ分析の途中報告
20	データ分析コンテスト：最終報告①	分析結果の最終報告
21	データ分析コンテスト：最終報告②	分析結果の最終報告
22	卒業研究：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的、研究計画の発表
23	卒業研究：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
24	卒業研究：中間報告②	データ収集方法や利用データの報告
25	卒業研究：中間報告③	データ分析の途中報告
26	卒業研究：中間報告④	データ分析の途中報告
27	卒業研究：最終報告①	分析結果の最終報告
28	卒業研究：最終報告②	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
- ・報告担当者は発表資料を作成する。

【秋学期】

- ・各グループでデータ収集から分析、結果考察を行い、発表資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

春学期：照井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ』有斐閣（2013 年）
秋学期（予定）：石田『R によるテキストマイニング入門 第 2 版』森北出版（2017 年）

【参考書】

- ・古川、守口、阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011 年）
 - ・佐藤『マーケティングの統計モデル』朝倉書店（2015 年）
 - ・平岡、堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009 年）
 - ・山田、杉澤、村井『R によるやさしい統計学』オーム社（2008 年）
 - ・船尾『The R Tips』オーム社（2009 年）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（60 %）
平常点（40 %）
4 年生は卒業論文が必須

【学生の意見等からの気づき】

基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学（高校レベルの微分積分）と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・マーケティング論 I / II
- ・マーケティング・リサーチ I / II
- ・基礎統計学 I / II
- ・計量経営分析 I / II

林 直嗣 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融・財務と経済について、理論と実際を勉強し、コンピューターを活用した計量分析も行う。また金融政策や経済政策など政策問題も幅広く勉強する。全員がコンピューターを使いこなし、レジュメをパワーポイントで上手に表現し、ネットのデータベースを検索し、そのデータを使って計量分析や情報処理を行う技法を指導する。本年度は「世界経済の回復に対応した日本経済の安定成長」を主な研究テーマとする。そのためマクロ経済学や金融論、日本経済論の理論的・実証的な学習をしつつ、アベノミクスやトランプノミクスなど経済政策や金融界や産業界の在り方について政策的な分析を行う。

【到達目標】

この演習では、知識の教育＝**知育**だけでなく、情報機器を使いこなす**技育**も行い、また少人数の人間のふれあいの中で精神面での**徳育**も目標とする。また合宿ではテニスやサイクリングで身体を鍛える**体育**を行う。本ゼミの徳育の指導理念は、**協調性（チームワーク）と独創性（オリジナリティ）**である。実社会に出てから、組織の中で協調して仕事ができるとともに、学んだこと全てを総合的に踏まえ、独創的なアイデアで組織をリードできる人間を養成することを目標とする。こうした①**知育**、②**技育**、③**体育**、④**徳育**、⑤**総合的**の判断力、が文科省の「**学力**」の目指すところである。

【授業の進め方と方法】

演習（独語＝ゼミナール、英語＝セミナー）では、教授の指導のもとに、少人数の学生が特定のテーマについて研究し、報告・討論することが主たる授業形態である。テキストの輪読・報告・討論を行い、指導教授による講義・解説も行う。2・3年生は、日本語や英語の文献をテキストとして輪読や討論を行うとともに、チームで共同論文を作成して夏期休暇に対抗ゼミを行い、**協調性**を養う。また3年生は学年末までに各自が興味あるテーマを選定し、**進級論文**を作成する。4年生は、各自が進路に合わせて興味あるテーマを決め、**独創性**のある卒業論文を作成する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	年間授業計画の解説と報告者の決定、マクロ経済学の概説
第2回	国民所得と国民経済計算	国民所得の基礎概念、国民経済計算の基礎概念
第3回	春期合宿	卒業論文の第一次報告と指導
第4回	消費支出と消費関数	消費支出の基礎概念、消費関数の理論
第5回	投資支出と投資関数	投資支出の基礎概念、投資関数の基礎理論
第6回	国民所得の決定と乗数効果	国民所得の決定、乗数効果の理論
第7回	貨幣需給、貨幣数量説、流動性選好説	貨幣需給、貨幣数量説、流動性選好説
第8回	I S = L M分析、雇用の理論	I S = L M分析の理論、雇用の理論
第9回	物価、賃金、インフレーション、合理的期待	物価、賃金、インフレーション、合理的期待
第10回	金融政策と財政政策：裁量政策カルールか	金融政策と財政政策の基礎理論
第11回	景気循環	景気循環の基礎概念と理論
第12回	経済成長	経済成長の基礎概念と理論
第13回	国際マクロ、経済発展、経済体制	国際マクロ、経済発展、経済体制の基礎概念と理論
第14回	論文作成方法の指導	合宿で発表する論文の作成方法

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	夏期合宿	2つのパートで論文作成と対抗討論会
第16回	日本経済の長期デフレ不況	長期のデフレ不況、ゼロ金利とマネタリーベースの制御、機動的な財政政策、活力ある成長政策、
第17回	景気と株価・地価・商品相場の動向	景気の見方、株価動向、地価動向、商品相場
第18回	ゼロ金利やマイナス金利と金融の動向	ゼロ金利政策、量的金融緩和、マイナス金利
第19回	為替相場の動向	円安・ドル高、為替相場動向と為替介入
第20回	財政と税制	財政赤字と行財政改革、消費税増税、所得税・相続税増税
第21回	少子高齢化と年金・医療改革	少子高齢化、年金・医療・介護改革
第22回	生活保護、教育問題	生活保護の実態、教育問題
第23回	金融業界の動向	金融業界や証券業界などの業界動向
第24回	卒業論文・進級論文の中間報告	卒業論文・進級論文の中間報告と指導
第25回	産業界・企業の動向	各産業界の動向、企業再編、企業と情報化、企業改革とコーポレート・ガバナンス、内部統制、CSR、会計制度改革

第26回	個人消費と流通	個人消費の動向、流通業界、外食産業、ネット通販
第27回	新エネルギー源と環境政策	新エネルギー源と環境問題、原発事故の処理と原発政策
第28回	卒業論文・進級論文の最終報告	卒業論文・進級論文の最終報告と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、プレゼンテーション用に要約したレジュメをパワーポイントで作ってみよう。何が理解できているかがわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】

林 直嗣著『経済学入門』新世社、2013 年
日本経済新聞社編『Q & A 日本経済』2018 年版、日本経済新聞社

【参考書】

適宜指摘する。

【成績評価の方法と基準】

授業や合宿での出席と発表、さらに4年生は卒業論文、3年生は進級論文などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書やノートを必ず持参し、ノートを適切に取る訓練をし、情報検索のためスマホや PC も活用する。

【その他の重要事項】

【関連科目の履修】

ゼミ生は金融論と応用プログラミング（計量分析コース）を必ず履修されたい。他にマクロ経済学、ミクロ経済学、国際金融論、企業財務論、証券経済論、ファイナンス論、日本経済論などを受講することが望ましい。

演習 1～6

選択＜演習＞

平田 英明 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

また、ゼミ生の英語の理解力の低下が気になりますので、TED 等の英語教材も活用する予定です。

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに *poor performing* なのかを理解していく上で、基礎的な理解となるマクロ経済分析の教科書と近年の金融危機を理解する上で必要な知識としての金融論の教科書をじっくり読み進めていきます。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
2	テキスト（教科書 1 と 3）	1 章
3	テキスト	2 章
4	テキスト	3 章
5	テキスト	4 章
6	テキスト	5 章
7	テキスト	6 章
8	テキスト	7 章
9	懸賞論文キックオフ会議	懸賞論文のテーマについてのプレゼン
10	テキスト	8 章
11	テキスト	9 章
12	テキスト	10 章
13	懸賞論文会議	懸賞論文に関する進捗状況の報告
14	テキスト	11 章

秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト（教科書 2 と 4）	第一章
17	テキスト	第二章
18	テキスト	第三章
19	卒論中間発表	卒論に関する進捗状況の報告
20	テキスト	第四章
21	テキスト	第五章
22	テキスト	第六章
23	テキスト	第七章
24	卒論中間発表	卒論に関する進捗状況の報告
25	卒論中間	卒論に関する進捗状況の報告
26	インゼミ	夏の懸賞論文を使ってプレゼン大会
27	テキスト	第八章
28	テキスト	第九章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。

【テキスト（教科書）】

- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』中央経済社
- 藤木裕 (2016)『金融の基礎』東洋経済出版社
- Cotton et al. (2016)『Market Leader (Pre-Intermediate)』3rd Edition Extra, , Pearson

最初の授業には 1 のみを持ってくればよい。

【参考書】

伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
荻谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告、日頃の学習態度などで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、3年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、計量経営分析の履修を原則とします。

福島 英史 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う戦略上の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。企業戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略上の意思決定を理解する助けとして組織論や社会学等の考え方にも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明をできるようにすることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【授業の進め方と方法】

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などについて議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。3～4人のグループがテーマを自由に決めて調査し、月1回程報告をします。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文制作に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
3	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
4	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
5	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
6	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
7	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
8	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
9	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う
10	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
11	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
12	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
13	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
14	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
16	工場見学	企業を訪問し生産の現場を知る
17	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
18	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
19	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
20	卒論テーマ報告 1	卒論テーマの報告（3年生） 問いをたてる
21	次年度ゼミ生面接	次年度ゼミ生候補の面接
22	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
23	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
24	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
25	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
26	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
27	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
28	卒論テーマ報告 2	卒論テーマの報告（3年生） 改善策の提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、D. ペサニコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社+α、2002）、M. ヒット他『戦略経営論』（センゲージ、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミに対する準備（30%）、ディスカッションへの貢献度（35%）、卒業論文・グループワークおよび各種課題等の評点（35%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

皆の努力をより評価に反映させます。引き続きしっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プレゼンテーションソフト。

【その他の重要事項】

ゼミ参加者全員が報告者であるという姿勢をとり、十分な準備と報告に関するディスカッションへの積極的な参加が強く望まれます。調査研究および卒業研究の成果に関する経過報告では自分なりの説得力とオリジナリティを心がける必要があります。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営学総論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論、経営管理論、日本経営論、流通論、技術管理論、製品開発論、国際経営戦略論、中小企業論、組織経済学等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

福田 淳児 教授（秋学期代講：長谷川 恵一 講師）

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 では、企業の経営者や部門管理者が組織内で行う意思決定および企業組織及び下位の組織単位およびその管理者の業績測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念、および理論を理解することを目的とする。演習 2 では、インゼミに向け 2 つのグループを編成し、グループごとに報告テーマを設定する。各テーマについて文献レビューを行い、データを収集し分析を行うことを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

演習 1 では、管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、全社および下位の組織単位の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的指標の意味を理解することを目標とします。

演習 2 では、ゼミ参加学生を 2 つのグループに分け、それぞれのグループでテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、データの収集・分析および議論を行います。演習 2 では、統計的な分析技法の習得およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】

ゼミナールはゼミ生の報告およびディスカッションを中心に授業を進めます。演習 1 では指定のテキストについて輪読を行います。毎週、各テーマについて、個人またはグループで報告をしてもらい、それについて議論並びに補足を行う形でゼミを進めていきます。テキストはあくまで基礎的な資料ですので、興味のある内容についてはさまざまな資料また経済誌などの記事を当たってみてください。

演習 2 では例年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらう、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の目的	講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点、戦略の策定と実行に役立つ管理会計の役割を説明する。
2	財務情報分析	財務情報分析のいくつかの技法について説明するとともに、例題を解く。
3	短期利益計画と管理会計	短期利益計画の設定と CVP 分析について議論する。
4	予算管理	組織における予算管理のプロセスおよび実務上の問題点について議論する。また、数値例についても検討する。
5	資金管理とキャッシュフロー分析	資金管理の必要性またキャッシュフローの管理について議論する。
6	事業部制における業績管理	分権的な組織、特に事業部制を前提とした業績管理の問題について説明する。
7	グループ経営	グループ経営における意思決定および業績管理のための管理会計について議論する。
8	差額原価・収益分析	製造間接費の配賦についての意思決定およびそこで必要とされる差額原価情報について学習する。
9	設備投資計画	設備投資の経済性計算の方法を紹介しそれぞれの手法について説明するとともに、それぞれの経済性計算方法の長所、短所を解説する。
10	戦略的事業計画ならびに EVA	経営戦略の概念、および戦略の策定と実行に役立つ管理会計手法について学習する。さらに、EVA についても学習する。
11	バランス・スコアカード	BSC の概念とその機能について実例を交えながら議論する。
12	原価維持	原価維持・原価改善および原価企画の諸技法の関連性を明確にしたのち、原価維持を中心に議論する。
13	ABC	伝統的な製造間接費の配賦方法との比較で ABC の特徴を明らかにする。また、原価管理への ABC 情報の役立ちについて検討する。
14	原価企画	製品の開発・設計段階でのコスト・マネジメントの方法である原価企画についてそのプロセス並びに実務の状況を説明する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	インターゼミ（12 月開催予定）に向けてのテーマ選定	ゼミを 2 つのグループに分け、それぞれのグループでインゼミでの報告テーマについて検討する。約 3 ヶ月の期間での実現可能性も勘案し、テーマを選定する。
2	具体的な問題の設定	選択したテーマについて、どのような点を今回の報告で取り上げる問題として設定するかをある程度明確にする。
3	文献のレビュー	選択したテーマに関連した文献レビューを行い、これまでに何がわかったのか、何が残された問題なのかを明らかにする。
4	追加的な文献のレビュー	追加的に紹介した文献もレビューした上で、選択テーマについて過去の研究を整理する。
5	問題の明確化	選択したテーマについて、文献レビューをふまえた上で、何をどこまで、今回の研究で明らかにするかを明確にする。
6	仮説設定	文献レビューなどに基づいて、研究テーマに関わる仮説の設定を行なう。
7	仮説の修正	議論に基づいて仮説の修正を行う。
8	必要な情報の入手可能性	これまでの文献レビューまた仮説をふまえ収集すべきデータは何か、またそれがどこで入手可能であるかについて議論する。
9	データの加工について	仮説の検証に必要なデータの加工方法を考える。
10	データの収集	実際に財務的なデータなどの収集を行う。
11	データの分析	入手した情報に基づいて分析を行う。
12	分析結果の検討	データの分析をふまえ、仮説に照らして議論を行う。
13	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、仮説に対してどのようなことがいえるのかを検討する。
14	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについては、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文を読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。また、報告担当者はそれぞれのテーマに近い内容が扱われている企業の記事を収集しておくこと。報告担当でない学生は質問内容を考えておくこと。管理会計の基本的なテクニカルタームについては事前に調べておくこと。秋学期では各グループの選択したテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについて考察を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】

門田安弘編著『セミナー管理会計』税務経理協会, 2016 年。（2,900 円）

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミで割り当てられた担当テーマの報告内容（60%）とゼミの議論への積極的な参加の程度（40%）に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生からは実務での管理会計技法の利用についてもっと知りたいという要望を受けています。出来るだけ実際の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思っています。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたって必要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と諸計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC を常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報の交換は国内に限定されないことを念頭に置き、日・英両言語で議論する。

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論する。関連配布資料は、すべて授業支援システム（CMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。4 年生にはゼミ論文の提出が義務付けられている。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第 2 回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第 3 回	管理会計の枠組み：財務会計との相違	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第 4 回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第 5 回	発表：その 1	第 4 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 6 回	発表：その 2	第 5 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 7 回	原価の諸概念：原価の定義	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論する。
第 8 回	損益分岐点（BEP）分析	BEP 分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益
第 9 回	CVP 分析	BEP 分析と CVP 分析の比較・検討
第 10 回	財務諸表分析：その 1	収益性に基づく事例発表
第 11 回	財務諸表分析：その 2	総合的観点に基づく事例研究
第 12 回	財務データの記述統計：その 1	基本的な統計手法の財務諸表分析への援用
第 13 回	財務データの記述統計：その 2	データ処理に関し、基本的な統計手法の応用可能性を検討
第 14 回	総括	春学期学習事項（前半部分）の確認とまとめ。問題演習

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 1	推測統計学と財務諸表分析
第 16 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 2	業界平均値の推定、正規分布
第 17 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 3	業界平均値の推定、t 分布
第 18 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第 19 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t 検定
第 20 回	発表：その 3	推定・検定を応用した事例発表（企業レベル）
第 21 回	発表：その 4	推定・検定を応用した事例発表（業界レベル）
第 22 回	資本予算：その 1	設備投資決定計算の基本枠組み
第 23 回	資本予算：その 2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第 24 回	資本予算：その 3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第 25 回	資本予算：その 4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第 26 回	資本予算：その 5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第 27 回	資本予算：その 6	設備投資決定モデルに税金、インフレーション等の現象を導入
第 28 回	資本予算：その 7	税金やインフレーション等の現象を導入した設備投資決定問題の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各自適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、CMS に掲載する。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016 年.
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房, 2000 年.
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年. (より詳細な参考文献リストを CMS に掲載するので参照のこと。)

【成績評価の方法と基準】

3 年生は、授業内貢献度（80 %）、小テスト（20 %）をもって評価する。4 年生は、授業内貢献度（30 %）、ゼミ論文（70 %）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。1、2 年次に電算関連科目を受講するか、もしくは Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力と②情報処理能力は、今後如何なる職業に就いても必要となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し頑張ってください。

【関連科目】

計量経営分析 I/II、統計学 I/II、管理会計論 I/II

演習 1 ～ 6

藤澤 利治 教授

選択＜演習＞

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧州単一通貨ユーロの危機とイギリスの EU 離脱、難民問題について学ぶ。

【到達目標】

- ①ヨーロッパの 28 カ国が加盟する、複雑多様な組織である EU を正確に理解する。
- ② EU を理解することによって、日本やアメリカの政治・経済・社会を考える際の判断基準を身に付ける。
- ③現在 EU が直面しているユーロ危機の現状とイギリスの EU からの離脱について理解する。

【授業の進め方と方法】

進め方：演習形式で進める。1999 年から非現金分野で導入された EU の単一通貨ユーロは、2002 年初めから 12 カ国で紙幣やコインとして流通し、2018 年現在では 19 カ国で導入されていて、今や第 2 の国際通貨となっている。また EU も、加盟国が 28 カ国に拡大している。このような統合の深化と拡大を実現した EU であるが、今日ユーロは深刻な危機に直面している。EU とユーロがどのような問題に直面し、解決を求められているかについて分析する。

方法：ゼミ生のヨーロッパ経済についての基礎知識や理解度に従って文献を輪読する方法をとる。予定では、後に示すテキストを取り上げ、検討するつもりである。それと並行して、ゼミナール大会参加の準備も行う。また、夏休みにはゼミ合宿を行う。さらに、例年 11 月に開催される関東ブロック学生ゼミナール大会に参加する予定があるので、その準備のためのサブゼミを随時行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと基礎知識の確認	授業の概要と進め方に関する説明のほか、EU に関する基本的な知識の確認を行う。
第 2 回	欧州の特徴	欧州の歴史的、社会的、地理的そして政治的特徴を概観する。
第 3 回	第 2 次世界大戦後の欧州	第 2 次世界大戦後の欧州各国の経済実態について概観する。
第 4 回	ECSC の設立とその成功	欧州において紛争の原因となってきた独仏間の対立を解決するための試みであった欧州石炭鉄鋼共同体についてみる。
第 5 回	EEC と Euratom のスタート	欧州経済共同体と欧州原子力共同体の創設過程を見る。
第 6 回	EC の創設	これまでの 3 つの共同体を再編成して EC が創設される過程を見る。
第 7 回	石油危機下の EC	二度にわたる石油危機によって混乱した EC 経済の立て直し策を検討する。
第 8 回	欧州通貨システムの創設	欧州通貨統合の試みについてみる。
第 9 回	欧州市場統合の完成	欧州における非関税障壁の撤廃と市場統合の完成を見る。
第 10 回	マーストリヒト条約の概要	欧州における通貨統合への歩みを見る。
第 11 回	マーストリヒト条約の発効	1993 年に発効したマーストリヒト条約の内容を見る。
第 12 回	単一通貨ユーロの創出	単一通貨としてユーロが創設されるプロセスを見る。
第 13 回	ユーロ導入と通貨統合の完成	1999 年のユーロ導入とその後の順調な推移を見る。
第 14 回	PIIGS と財政危機	2009 年以降ユーロ圏を襲った財政経済危機について概観する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ギリシャ危機	ギリシャの財政危機についてみる。
第 16 回	アイルランドにおけるバブル経済	アイルランドにおけるバブル発生とその崩壊を見る。
第 17 回	ポルトガルの経済危機	ポルトガルにおける財政危機の発生についてみる。
第 18 回	スペインのバブル崩壊	スペインにおけるバブル形成とその崩壊のプロセスを見る。
第 19 回	イタリアの財政危機	イタリアにおける経済と財政について検討する。
第 20 回	ユーロ危機の現状	ユーロ危機がどのような問題であるかを見ていく。
第 21 回	ユーロ危機の克服策	ユーロ危機の克服策を分析する。
第 22 回	イギリスの EU 離脱	2016 年 6 月の国民投票での EU 離脱賛成とその後の対応についてみる。
第 23 回	EU と移民・難民問題	EU 域内での移民増加と域外からの難民流入問題についてみる。
第 24 回	ゼミナール大会のレジュメ完成	ゼミナール大会に提出するレジュメを完成させる。
第 25 回	ゼミナール大会への準備	討論ゼミからのレジュメを検討し、質問票を作成する。

第 26 回	ゼミナール大会用のレジュメの点検	討論ゼミからの質問票への回答を作成し、レジュメを点検する。
第 27 回	ゼミナール大会の参加報告とまとめ	各ゼミナール大会への参加報告と反省を行う。
第 28 回	ゼミの修了論文の指導	4 年次生のゼミ修了論文についての経過報告と作成指導。3 年次生の関心テーマの発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 EU の概要をあらかじめ予習しておく。
- 第 2～21 回 報告者はテキストの担当部分を熟読し、報告用レジュメを作成する。他の履修者もテキストを熟読し、質問点をまとめておく。その際、下の参考文献を利用し、予習しておく。
- 第 22～23 回 報告者は新聞や雑誌論文で、イギリスの EU 離脱の具体的方針や EU の移民と難民の動向を調べておく。
- 第 24～25 回 自分の担当するテーマについて情報を集め、分析し、ゼミナール大会用のレジュメの原稿を作成する。その際、自主的にサブゼミを開催し、自分の担当するテーマについて作成したレジュメの原稿を持ち寄って相互に調整し、全体を完成させる。
- 第 26 回 ゼミナール大会での討論相手ゼミのレジュメを検討して質問票を作成する。
- 第 27 回 ゼミナール大会の反省とレジュメの修正を行う。
- 第 28 回 4 年次生はゼミ論文について経過報告の準備を行う。3 年次生は自分のゼミ論文のテーマを考えておく。

【テキスト（教科書）】

- ①細谷雄一『迷走するイギリス』慶應義塾大学出版会、2016 年
- ②遠藤乾『欧州複合危機』中公新書、2016 年
- ③長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017 年

【参考書】

- ①遠藤乾『【原典】ヨーロッパ統合史—史料と解説】名古屋大学出版会、2008 年
- ②伊藤さゆり『EU 分裂と世界経済危機の知識』NHK 出版新書、2016 年
- ③田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済【第 4 版】有斐閣アルマ、2014 年
- ④ブレイディみかこ『労働者階級の反乱—地べたから見た英国 EU 離脱』光文社新書、2017 年
- ⑤SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』日本経済評論社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

平常の学習態度、特にゼミでの発言と報告内容を重視する。さらに、3 年次生はゼミ大会レジュメで、4 年次生は学年末に提出をするゼミ修了論文で、最終的な成績の評価を行う。
評価配分：ゼミでの報告内容（50 %）、ゼミ大会レジュメ（3 年次生のみ：50 %）、ゼミ修了論文（4 年次生のみ：50 %）

【学生の意見等からの気づき】

就職活動でゼミへの貢献度が低下する 4 年生について、ゼミでの学習を活性化するために、報告等の負担を多くする。

【その他の重要事項】

・ゼミは自分の問題意識に従って学習することを前提にしているため、自発的に資料や文献を見つけて調べ、報告や議論に積極的に参加することを求める。さらに、ヨーロッパについての日々の新聞報道や雑誌論文をフォローすることも必要となる。
・関連科目として、産業史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを並行してでも良いから、履修することを求める。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思います。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思っています。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思います。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の3つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思います。

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3年生には進級論文の提出を求めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第2回	雇用管理	採用、配置、雇用調整、退職管理
第3回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第4回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第5回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第6回	報酬管理	賃金制度の組み方
第7回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第8回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第9回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第10回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか
第11回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか
第12回	福利厚生	法定福利と法定外福利の関係
第13回	労使関係	労使コミュニケーションの現状と課題
第14回	他大学との討論会	立正大学戎野ゼミと討論会を行う

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	A I と人の労働の関係	A I 導入によって人の労働が必要なくなると言われるが、本当にそうだろうか。
第2回	インゼミ大会論文執筆Ⅰ	12月に行われるインターゼミナール大会の論文完成に向けて作業する
第3回	インゼミ大会論文執筆Ⅱ	インゼミ大会の論文を完成させる
第4回	コミュニケーションを学ぶ	『先生はえらい』を読んでコミュニケーションのあり方を考える
第5回	有期雇用契約	有期雇用契約の現状と問題点を政府文書を使って議論する
第6回	グローバル経営人材の育成	世界で活躍する経営者を育てるにはどうすればいいかを考える
第7回	少子化の現状と対策	少子化がなぜ起こっているのか、少子化はどうすればとまるのかを考える
第8回	ワークライフバランス	男性の長時間労働を解消するには何が必要かを考える
第9回	高度外国人材の採用	高学歴の外国人を日本企業が雇用して、活用するには何が必要かを考える
第10回	生涯現役社会のあり方	働く意欲と能力のある人が何歳になっても働けるようにするにはどうすればいいかを考える
第11回	目標管理制度	目標管理制度の正しい使い方
第12回	労働組合の役割	日本社会や企業の中で、これから労働組合はどのような役割を担う必要があるかを考える
第13回	世界の中の日本	日本は他の国々からどう見られているのか

第14回 日本の強み

他国と比べたとき、日本は何を強みとして競争していけるのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでくることが大切な事前学習です。単に読むだけではなく、書かれていることから自分の問題意識をみつけることも重要です。

社会人との交流の場を年に10数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理【第5版】】有斐閣、2015年

【参考書】

佐藤・藤村・八代『マテリアル人事労務管理』有斐閣、2006年。

その他の文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献60%、課外活動への参加・貢献30%、進級論文10%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に10数回設けています。一つには、小泉産業、ワールド、コクヨ、アシックス、三菱UFJ信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何？」、「会社の選び方は？」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO人財育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっていたり開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思います。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

演習 1 ～ 6

洞口 治夫 教授

選択<演習>

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎的学習能力を育成します。グループでの論文作成や春合宿・夏合宿を通じて、チームで作業することによってコミュニケーション能力の大切さを学びます。ゼミ長、副ゼミ長、企画係、書記、会計係など、ゼミでの役割分担を定めて、三年生は慶應義塾大学、四年生は東京大学とのインターゼミナールや春と夏の合宿、OB会などを運営し、組織運営を実践します。こうした活動を通じて単に学問だけではなく、組織をつくることのできる人間の形成を目的とします。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力の養成、基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い理解するとともに、専門用語を含んだリスニングを可能として、英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。ゼミでの学習によって経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文筆力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミナールやOB会の運営などを通じて、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。スポーツや音楽（楽器演奏）など毎日の訓練が重要であることを知り、そうした活動に親しんだ学生諸君の参加を歓迎します。

【授業の進め方と方法】

授業時間には英文のテキストを輪読します。報告者が担当箇所の訳文をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ生全員で確かめて、本文を理解します。春合宿、夏合宿では日本国内あるいは海外の工場を見学します。昨年度はタイの工場を見学しました。2年生には進級レポート、3年生にはグループ研究による論文作成、4年生には卒業論文の提出を義務づけています。また、サブゼミではグループに分かれてインタビュー調査の準備をします。学生3～5人程度のグループで企業や個人に調査を行い懸賞論文に応募します。そうした活動のなかで、慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行います。洞口ゼミで学び、社会で活躍しているOBやOGと話をすることで、優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	テキストについての説明を行います。
第2回	テキスト輪読、発音矯正	テキスト、1ページの音読と発音チェック。
第3回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、1～2ページの英文和訳。
第4回	夏合宿の企画立案。インターゼミの準備作業。	夏合宿の企画。慶應義塾大学とのインターゼミのためのグループ分け。
第5回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、2～3ページの英文和訳。
第6回	テキスト輪読と英文和訳。マーケティング論講義。	テキスト、3～4ページの英文和訳。
第7回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、4～5ページの英文和訳。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。英語の発音矯正、リスニング、会話練習。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。英語でのディスカッション。
第9回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、5～6ページの英文和訳。
第10回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、6～7ページの英文和訳。
第11回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、7～8ページの英文和訳。
第12回	インターゼミの準備作業。プレゼン。英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。四年生による英語プレゼンテーション。
第13回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、8～9ページの英文和訳。
第14回	グループ研究の中間報告、ビジネスを題材とした英語会話	インターゼミ準備、英語会話。

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	三年生グループ研究の中間報告	慶応とのインターゼミ準備
第16回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、10～11ページの英文和訳。
第17回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、12～13ページの英文和訳。
第18回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、14～15ページの英文和訳。
第19回	四年生の卒業論文、二年生の進級レポート中間報告	年度末に向けて論文の書き直し作業を行います。
第20回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト、16～17ページの英文和訳。
第21回	テキストの輪読とディスカッション	テキスト、18～19ページの英文和訳と英語での議論
第22回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。
第23回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。

第24回	東大インターゼミ準備のための四年生プレゼン	パワーポイント・プレゼンの準備と相互批評。
第25回	テキスト内容に関する英語ディスカッション	ゼミ生の作成したテキストの翻訳を参照。
第26回	テキスト内容に関する英語討論	英文テキスト参照。
第27回	年間の英単語ボキャブラリー増加確認	この一年間に学んだ新たな英単語の一覧作成とその確認。
第28回	二年生進級レポート発表	論文作成の技法について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動に欠席せずに参加する必要があります。三年生はTOEFLないしTOEICの受験結果を提出します。英会話、英語の発音、英語のリスニングなどについては、TOEFLやTOEICの学習を通じて各自行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

- ① Kotler, P. and Armstrong, G. Principles of Marketing, 17th edition, Pearson, 2017. Chapter 8: Products, Services, and Brands: Building Customer Value, pp.242-277.
- ②石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第7版。＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞

【参考書】

- ゼミに参加する諸君は以下を購入して下さい。
- ① REBRANDING GODIVA: THE YILDIZ STRATEGY
2013年4月3日に公表されたハーバード・ビジネススクールのケースです。著者 Rohit Deshpande and Esel Cekin 製品番号: 515059-PDF-ENG
このケースを購入するためには、<http://hbr.org/store> のサイトから case を選択し、タイトルを記入して検索します。14ドル程度（1700円前後）でPDFを購入できます。ダウンロードしたファイルから自分で印刷します。購入にはクレジットカードが必要です。
 - ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントゼミナール編ー』白桃書房、2008年。＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
 - ③洞口治夫・行本勢基（2012）『入門 経営学ーはじめて学ぶ人のためにー』同友館。
 - ④洞口治夫（2018）『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文真堂。

【成績評価の方法と基準】

授業・合宿への参加（40％）、宿題の提出と工場見学レポートの提出（20％）、進級レポート（2年次）、グループでの進級論文と卒業論文構想（3年次）、卒業論文（4年次）（40％）によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と言われた年は嬉しく思いました。しかし、毎年そうであるとは限りません。発音のコツは授業で教えます。しかし、その練習は個人個人で行う必要があります。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。専門的な知識や英語力だけでなく、大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。在学生諸君は、ゼミの先輩たちが社会で活躍する姿から自分の未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。ゼミ生諸君は、多数の内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。医学部に進学すれば医師になるように、経営学部に進学すれば優良企業を選択して働くようになることは当然のことでもあり、また、嬉しいことでもあります。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必要になりますので音声つきのものを準備して下さい。イーメールでの連絡が必要となるので、ファイルを送ることのできるアドレスを確保し、毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。

【その他の重要事項】

- ①ゼミの学生諸君には、「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
- ②ゼミからは過去14名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2年に1名以上の比率になります。派遣先はアメリカ、イギリス、台湾、韓国、ロシアであり、留学経験者がOB・OGとなっています。SAプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学する学生諸君も多いので、ゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
- ③商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞受賞の常連ゼミとなっています。

演習 1～6

選択<演習>

宮澤 信二郎 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、特に、企業の組織や戦略に関する具体的な問題について、理論的に分析・発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 参加者全員が、事前に、テキストの指定された箇所を読む。また、参加者全員が、(なるべく) 毎日、日本経済新聞を読む。
- 2) 参加者のうち数名が、指定された箇所について報告をする。また、参加者のうち数名が、関連しそうな新聞記事について報告する。
- 3) 参加者全員で、テキストの内容、関連しそうな新聞記事について議論する。必要に応じて、担当教員がミニ講義をする。
- 4) 各学期の最後に、個別に、テキストの内容と関連する新聞記事の中からテーマを選んでレポートを作成する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方について説明する。また、最低限必要な知識について確認する。
第 2 回	テキストの輪読とディスカッション (1)	「日本経済」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 3 回	テキストの輪読とディスカッション (2)	「世界経済」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 4 回	テキストの輪読とディスカッション (3)	「国内政治」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 5 回	テキストの輪読とディスカッション (4)	「国際情勢」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 6 回	テキストの輪読とディスカッション (5)	「金融」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 7 回	復習・確認 (1)	これまでの内容に関して復習と確認を行い、必要に応じて、補足説明を行う。
第 8 回	テキストの輪読とディスカッション (6)	「産業・流通」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 9 回	テキストの輪読とディスカッション (7)	「経営・雇用・労働」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 10 回	テキストの輪読とディスカッション (8)	「国土・都市・人口」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 11 回	テキストの輪読とディスカッション (9)	「資源・環境」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 12 回	テキストの輪読とディスカッション (10)	「観光・交通」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 13 回	復習・確認 (2)	これまでの内容に関して復習と確認を行い、必要に応じて、補足説明を行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行うとともに、レポートのテーマおよび夏合宿の学習計画について話し合う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期のイントロダクション	春学期（および夏合宿）で行った内容について復習・確認した上で、秋学期の方針について確認する。
第 16 回	テキストの輪読とディスカッション (11)	「教育」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 17 回	テキストの輪読とディスカッション (12)	「インターネット・デジタル」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 18 回	テキストの輪読とディスカッション (13)	「次世代技術」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。

第 19 回	テキストの輪読とディスカッション (14)	「医療・福祉」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 20 回	テキストの輪読とディスカッション (15)	「社会・生活」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 21 回	テキストの輪読とディスカッション (16)	「文化・スポーツ」のパートの内容及びそれに関連しそうな新聞記事について報告し、参加者全員で議論する。
第 22 回	復習・確認 (3)	これまでの内容に関して復習と確認を行い、必要に応じて、補足説明を行う。どのような時事問題があるのかについてグループで議論し、調査・発表するテーマ (1 回目) を決定する。
第 23 回	時事問題に関する議論 (1)	別のグループに分かれて、調査・発表するテーマ (2 回目) について検討・決定する。
第 24 回	時事問題に関する議論 (2)	1 回目のテーマについて発表し、議論する。続いて、別のグループに分かれて、調査・発表するテーマ (3 回目) について検討・決定する。
第 25 回	時事問題に関する議論 (3)	2 回目のテーマについて発表し、議論する。続いて、別のグループに分かれて、調査・発表するテーマ (2 回目) について検討・決定する。
第 26 回	時事問題に関する議論 (4)	3 回目のテーマについて発表し、議論する。続いて、レポートのテーマ設定を行う。
第 27 回	時事問題に関する議論 (5)	全体のまとめを行うとともに、今年度の反省および来年度の学習計画について話し合う。
第 28 回	全体のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 授業までにテキストを読む
- 2) 可能な限り毎日、日本経済新聞を読む
- 3) 担当箇所について報告の準備をする
- 4) 授業の後に協力してノートを作成する
- 5) 授業で扱った内容に関連するテーマを設定して、年度末までに、レポートを作成する
- 6) 夏合宿に参加する

【テキスト（教科書）】

日経 HR 編集部編著『日経キーワード』日経 HR (2017 年)

【参考書】

開講後に必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】

各学期とも、平常点 (70 %) と期末レポート (30 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特に近年、学生の消極性が目立つように思います。また、自主性に任せていた日経 TEST の勉強が不十分であることが明らかになってきました。主に身近なテーマを扱うことにすることで、学生の積極的な発言を促すとともに、日経 TEST の勉強をサポートできるようにしてみました。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。ただし、授業時間に持ってこなくても構いません。

【その他の重要事項】

- 1) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 2) 3 年生は、ミクロ経済学（特にゲーム理論）の分析手法を学ぶため、「応用経済学Ⅰ/Ⅱ」を同時履修する（必ず出席する）ようにしてください。ほかにも、科目履修のアドバイスをしますので、なるべくすすめられた科目を履修するようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。無断欠席は厳禁です。2 回以上無断欠席した場合には、それ以降、単位を与えません。病気や就職活動の面接等でやむを得ず欠席する場合でも、必ず事前に連絡をしてください。正当な理由のある欠席の場合も、原則は 3 回までとし、それ以上欠席した場合には、代替的なレポートの提出を求めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。やむを得ない事情がある場合には、別日程で補習をするなどの措置を講じます。

3

演習

演習 1 ～ 6

選択<演習>

山崎 輝 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・問題演習等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱東京 UFJ 銀行、みずほ銀行、大和証券、メリルリンチ日本証券、みずほ投信投資顧問、有力ヘッジファンド等のアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融実務で活躍するビジネスパーソンに対しても自身の意見を述べる等、金融の専門的な内容に関するディスカッションができる。

【授業の進め方と方法】

本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。2 つ目はディスカッションです。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する議論を行います。実務家講演会でも、金融ビジネスの第一線で活躍する先輩方と活発なディスカッションを行います。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）による証券価格の計算や金融市場の分析も行います。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デデュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3
秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）

第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）、EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報を要約すること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のための資料（レジュメやプレゼン資料）の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『証券アナリスト第 1 次レベル合格最短テキスト 証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ②佐野三郎、『証券アナリスト第 2 次レベル合格最短テキスト <上巻> 証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ③佐野三郎、『証券アナリスト第 2 次レベル合格最短テキスト <下巻> コーポレート・ファイナンスと企業分析、市場と経済の分析、職業倫理・行為基準』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- ⑤木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のレジュメやプレゼン資料は Word や PowerPoint などを利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス論 I/II、証券経済論 I/II、企業財務論 I/II、基礎統計学 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

演習 1～6

選択＜演習＞

横内 正雄 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいさなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

- 以下の4点を到達目標とする。
- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
- ②グローバリゼーションの問題に関する正確な知識を身につける。
- ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
- ④論理的な思考方法を身につける。

【授業の進め方と方法】

グローバリゼーションという言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしいが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかんして行き着いたのかということを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学等で構成される。合宿は夏（9月）と冬（2月）に行う。ゼミ参加者は、2～3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。

また、毎週1人が日経ヴェリタス等の新聞から興味深い記事を取り上げ、報告してもらい、それについてディスカッションを行う。

このゼミは、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文意把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の活動計画を決定する。
第2回	国際収支の意味を理解する	テキスト①第1章「国際収支と基礎理論」の輪読とディスカッション
第3回	為替相場の決定理論を理解する	テキスト①第2章「為替レート決定理論」の輪読とディスカッション
第4回	国際通貨の機能を理解する	テキスト①第3章「国際通貨」の輪読とディスカッション
第5回	固定相場制と変動相場制の機能を理解する	テキスト①第4章「為替相場制度」の輪読とディスカッション
第6回	国際金融市場の機能とデリバティブの役割について理解する	テキスト①第5章「国際金融市場とデリバティブ」の輪読とディスカッション
第7回	外国為替市場の機能を理解する	テキスト①第6章「外国為替と外国為替市場」の輪読とディスカッション
第8回	校外施設見学	東京証券取引所の見学（予定）
第9回	企業のリスク管理の手法について理解する	テキスト①第7章「国際財務活動」の輪読とディスカッション
第10回	通貨危機と金融危機について理解する	テキスト①第8章「アジア通貨危機と世界金融危機」の輪読とディスカッション
第11回	欧州通貨統合の過程と現状を理解する	テキスト①第9章「欧州通貨統合とユーロ危機」の輪読とディスカッション
第12回	世界の経常収支不均衡の意味について理解する	テキスト①第10章「グローバルインバランス」の輪読とディスカッション
第13回	アジアの国際金融問題の現状について理解する	テキスト①第11章「アジア通貨システムの改革と人民元の国際化」の輪読とディスカッション
第14回	まとめ	春学期に購読した文献のまとめと総括的ディスカッション

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動計画を策定する。
第16回	金融システムの構造について理解する	テキスト② Unit 1 の学習
第17回	中央銀行の機能を理解する	テキスト② Unit 9 の学習
第18回	外国為替の機能について理解する	テキスト② Unit13 の学習
第19回	株式市場について理解する	テキスト② Unit15 の学習

第20回	買収・合併について理解する	テキスト② Unit17 の学習
第21回	校外施設見学	日本銀行見学（予定）
第22回	進級レポート中間報告 (1)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第23回	進級レポート中間報告 (2)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第24回	進級レポート中間報告 (3)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第25回	卒業レポート中間報告 (1)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第26回	卒業レポート中間報告 (2)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第27回	卒業レポート中間報告 (3)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第28回	秋学期のまとめ	1 年間のゼミ活動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備

【テキスト（教科書）】

- ①中條誠一『現代の国際金融を学ぶ〔新版〕』勁草書房、2016 年。
 - ②I.MacKenzie, *English for Financial Sector*, Cambridge University Press, 2008.
 - ③J.Ravenhill(ed.), *Global Political Economy*, 5th Edition, OUP, 2017.
- ※テキスト③は予定。

【参考書】

- ①秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ〔第4版〕』有斐閣、2012 年。
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年。
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010 年。
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論〔第4版〕』有斐閣、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50％）、進級レポート（2 年次生と 3 年次生）あるいは卒業レポート（4 年次生）の内容（50％）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけではなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【関連科目】

専門基礎科目 B 群の「金融論 I/II」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論 I/II」を並行して履修することが望ましい。

3

演習

演習 1～6

選択＜演習＞

横山 斉理 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5人）を1社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果を高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。

⑤卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？」！）という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念的確認 マーケティング・コンペの課題検討①	マーケティングの基本概念的を改めて学ぶ コンペに向けたグループディスカッション①
4	マーケティング・リサーチの諸手法の確認① マーケティング・コンペの課題検討②	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ コンペに向けたグループディスカッション②
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認② マーケティング・コンペの課題検討③	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ コンペに向けたグループディスカッション③
6	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
7	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
8	マーケティング・コンペの課題検討④	コンペに向けた2次データのリサーチを実施する
9	マーケティング・コンペの課題検討⑤	コンペに向けたフィールド・リサーチを実施する
10	マーケティング・コンペの中間報告②	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの課題検討⑥	コンペに向けたグループディスカッションを行い内容の最終調整を行う
12	マーケティング・コンペの提案内容の最終確認	マーケティング・コンペの提案内容のプレゼンを行う
13	マーケティング・コンペへの参加の振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
14	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	演習概要の説明

16	卒業論文テーマ発表① マーケティング・ゲーム①	卒業論文のテーマについて発表しディスカッションを行う マーケティング・ゲームの概要説明およびチーム分け
17	マーケティング・ゲーム②	マーケティング・ゲームの戦略決定および実施
18	マーケティング・ゲーム③	マーケティング・ゲームの実施
19	マーケティング・ゲーム④	マーケティング・ゲームの実施および学びの振り返り
20	卒業論文中間発表①	卒業論文の中間発表についてディスカッションする
21	フィールドワーク①	フィールドワークの概要説明およびチーム分け
22	フィールドワーク②	フィールドワークのテーマについてディスカッションし、予備調査を実施する
23	フィールドワーク③	フィールドワークを実施する
24	フィールドワーク④	フィールドワークを実施する
25	フィールドワーク⑤	フィールドワークの成果をまとめプレゼン内容を吟味する
26	フィールドワークの最終発表	フィールドワークの成果についてプレゼンを行い、学びを振り返る
27	卒業論文の最終発表	卒業論文の内容についてプレゼンを行い、学びを振り返る
28	秋学期総括	秋学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。
流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

演習 1 ～ 6

選択＜演習＞

吉田 健二 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にしている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年は、『ゼロからの経営戦略』（沼上幹、ミネルヴァ書房、2016 年）と『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』（沼上幹、有斐閣、2008 年）の 2 冊の本を読みました。また、『日経ビジネス』の「経営教室」でカルビー、伊藤忠商事、エイチ・アイ・エス（HIS）、オリエンタルランド（OLC）という 4 社の経営について勉強しました。

担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。また、関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したいとも考えています。昨年は、明電舎の奈良部長さんに大学に来て頂き、明電舎のビジネス、ビジョンと中期経営計画、採用情報などについて説明して頂きました。夏休み中には、『生き方』（稲盛和夫、サンマーク出版、2004 年）や『入社 1 年目の教科書』（岩瀬大輔、ダイヤモンド社、2011 年）など 6 冊の本からゼミ生各人が 1 冊を選んで、感想文を 800 字で書きました。

秋学期は、卸台数でブリジストンに次ぎ第 2 位の自転車総合メーカーであるサイモト自転車から経営戦略の策定、新規事業、働きたいと思ってもらうにはという 3 つの研究課題を頂き、グループごとに研究を行い、「サイモト自転車が成長するための 3 つのこと」、「サイモト自転車への新規事業の提案」、「1UP SAIMOTO」というタイトルで 12 月にそれぞれパワーポイントで発表しました。今年はまだ決めていませんが、ゼミ生と相談して、何らかのグループ研究を行いたいと考えています。

合宿については、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、毎年夏に行っています。昨年は、8 月下旬に那須塩原に行き、2 泊 3 日で勉強とレクリエーションの両方を楽しみました。また、4 年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスを行いました。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	春学期のゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定
2	テキストの輪読（1）	担当者の発表と全員によるディスカッション
3	テキストの輪読（2）	担当者の発表と全員によるディスカッション
4	テキストの輪読（3）	担当者の発表と全員によるディスカッション
5	テキストの輪読（4）	担当者の発表と全員によるディスカッション
6	テキストの輪読（5）	担当者の発表と全員によるディスカッション
7	テキストの輪読（6）	担当者の発表と全員によるディスカッション
8	テキストの輪読（7）	担当者の発表と全員によるディスカッション
9	テキストの輪読（8）	担当者の発表と全員によるディスカッション
10	テキストの輪読（9）	担当者の発表と全員によるディスカッション
11	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
12	テキストの輪読（10）	担当者の発表と全員によるディスカッション
13	テキストの輪読（11）	担当者の発表と全員によるディスカッション
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏合宿の準備

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のゼミの説明	グループ研究の発表会とその準備等の説明
16	グループ研究の発表会の準備と中間発表（1）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
17	グループ研究の発表会の準備と中間発表（2）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
18	グループ研究の発表会の準備と中間発表（3）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
19	グループ研究の発表会の準備と中間発表（4）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
20	グループ研究の発表会の準備と中間発表（5）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う

21	グループ研究の発表会の準備と中間発表（6）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
22	グループ研究の発表会	グループ研究の中間発表会に参加し、グループごとに発表を行う
23	グループ研究の発表会の準備と中間発表（7）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
24	グループ研究の発表会の準備と中間発表（8）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
25	グループ研究の発表会の準備と中間発表（9）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
26	グループ研究の発表会の準備と中間発表（10）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
27	グループ研究の発表会の準備と中間発表（11）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
28	グループ研究の発表会	グループ研究の発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理してすること。また、発表者は、発表の準備を行うこと。

秋学期は、グループごとにグループ研究の発表会の中間発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生と話し合って決める予定です。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
 - ④ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
 - ⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
 - ⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
 - ⑦ ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003 年。
- ①②④⑦は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑤と⑥は経営戦略論の古典といわれる本です。他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表やコメント、質問などの平常点（45 %）、グループ研究への参加（45 %）、レポート（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で経営学総論Ⅰ・Ⅱを、2 年生で経営戦略論Ⅰ/Ⅱとマーケティング論Ⅰ/Ⅱを受講することをお勧めします。
「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンパリア宮殿」（テレビ東京、水曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、月曜日）、「プロフェッショナル 仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

3

演習

演習 1～6

選択＜演習＞

吉田 康伸 教授

この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという2つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。

②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3年生）および健康の維持（4年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第2回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第3回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第4回	時事トピックス、教員による健康講義③	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第5回	発表（健康）・ディスカッション①	4年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第6回	発表（健康）・ディスカッション②	4年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第7回	発表（健康）・ディスカッション③	4年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第8回	発表（健康）・ディスカッション④	4年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第9回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション①	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第10回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション②	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第11回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション③	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第12回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション④	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第13回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション⑤	3年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第14回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第16回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第17回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第18回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第19回	発表（フリーテマ）・ディスカッション①	4年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第20回	発表（フリーテマ）・ディスカッション②	4年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第21回	発表（フリーテマ）・ディスカッション③	4年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第22回	発表（フリーテマ）・ディスカッション④	4年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第23回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第24回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第25回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第26回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第27回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション⑤	3年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第28回	レポート提出、授業総括	レポートの提出と授業総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてビデオ機器などを使用する。

【その他の重要事項】

学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

3年次に経営学科専門科目の経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱを履修する（している）ことが望ましい。

演習 1～6

選択＜演習＞

李 瑞雪 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
2	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
3	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
4	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
5	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。
6	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
7	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
8	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
9	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。
10	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定（performance measurement）の基礎知識を学びます。
11	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。
12	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。
13	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。
14	企業調査の計画作り	秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

秋学期

回	テーマ	内容
15	企業調査の進捗状況確認	各班のフィールド・ノーツをゼミで発表・確認・ディスカッションし、分析方法を検討します。

16	企業調査の進捗状況確認	各班のフィールド・ノーツをゼミで発表・確認・ディスカッションし、分析方法を検討します。
17	企業調査の進捗状況確認	各班のフィールド・ノーツをゼミで発表・確認・ディスカッションし、分析方法を検討します。
18	先行研究のレビュー	フィールドで発見し事実に関連する先行研究のレビューを発表し、分析の内容を検討します。
19	先行研究のレビュー	フィールドで発見し事実に関連する先行研究のレビューを発表し、分析の内容を検討します。
20	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、各班はゼミで中間報告を行います。
21	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、各班はゼミで中間報告を行います。
22	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、各班はゼミで中間報告を行います。
23	国内で合同ゼミ実施	国内の他大学のゼミと合同ゼミを実施し、研究発表を行います。
24	追加の調査	各班は中間報告及び合同ゼミでのディスカッションを踏まえて、追加調査を行い、レポートの完成度を高めていきます。
25	追加の調査	各班は中間報告及び合同ゼミでのディスカッションを踏まえて、追加調査を行い、レポートの完成度を高めていきます。
26	最終レポートの完成	各班は追加調査の内容と追加の文献サーベイを踏まえてレポートを仕上げ、ゼミで修正と確認を行います。
27	最終レポートの完成	各班は追加調査の内容と追加の文献サーベイを踏まえてレポートを仕上げ、ゼミで修正と確認を行います。
28	海外で合同ゼミ実施	海外の大学のゼミと合同ゼミを実施し、研究発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの1回目です。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin
Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.
『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第2版）Robert K. Yin 著、千倉書房
『月刊 ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30 %）、企業調査の参加・貢献（30 %）、調査レポートの水準（40 %）を総合して評価します。3 回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料は PPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。主な関連科目として、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を 1 回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

3

演習

專門基礎科目 A 群 / B 群

4

專門基礎科目 A 群 / B 群

経営学総論Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	[春学期授業]
経営学総論Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／4 単位	[年間授業]

安藤 直紀 教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学総論を通して学生は、企業とはどのような組織なのか、どのように運営されているのか、どのように他社と競争しているのか、など経営学をこれから学んでいくうえで基礎となる事項を習得します。

【到達目標】

学生は、大学で経営学を学ぶために必要な基礎的な事項を理解します。
株式会社に關する基礎的な事項を理解します。
財務諸表に關する基礎的な事項を理解します。
企業の資金調達に關する基礎的な事項を理解します。
組織のマネジメントに關する基礎的な事項を理解します。
企業戦略に關する基礎的な事項を理解します。

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。
インタラクティブな講義にするために、講義中に何人かに意見等を求めます。
理論に關する講義が中心ですが、事例研究、ディスカッションも行います。
視聴覚教材も適宜活用します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第2回	企業活動概観	経営学とは何か 製品の企画、開発、生産、販売までの流れ
第3回	企業形態（1）	企業とは何か
第4回	企業形態（2）	株式会社とは何か
第5回	企業形態（3）	株式会社の現状
第6回	企業財務（1）	企業の資金調達
第7回	企業財務（2）	日本企業の資金調達の特徴
第8回	企業財務（3）	企業規模による資金調達の違い
第9回	組織構造（1）	分業と組織の設計
第10回	組織構造（2）	職能制組織と事業部制組織
第11回	組織構造（3）	組織のバリエーション
第12回	組織構造（4）	企業の方針化と組織構造
第13回	企業を読む（1）	財務諸表を読む
第14回	企業を読む（2）	様々な経営指標を読む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理（1）	モチベーションと賃金
第2回	人的資源管理（2）	雇用、賃金、昇進
第3回	人的資源管理（3）	日本企業の人的資源管理の特徴
第4回	人的資源管理（4）	日本企業の人的資源管理の変化
第5回	経営戦略	戦略とは何か
第6回	外部環境分析（1）	企業に対する脅威
第7回	外部環境分析（2）	脅威に影響を与える要因
第8回	外部環境分析（3）	ケーススタディ
第9回	外部環境分析（4）	外部環境分析の演習
第10回	企業内部分析（1）	リソースとケイパビリティ
第11回	企業内部分析（2）	リソースと競争優位
第12回	企業戦略（1）	コスト・リーダーシップ戦略
第13回	企業戦略（2）	差別化戦略
第14回	全体の総括	これまでの学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

1-2 回：企業経営に關する新聞記事を読む
3-5 回：株式会社とはどのようなものか調べる
6-8 回：日本企業の資金調達に關して調べる
9-12 回：日本企業の組織図を探してみる
13-14 回：様々な経営指標の意味を調べる

秋学期

1-4 回：日本企業の人的資源管理について調べる
5 回：戦略とは何か調べる
6-9 回：企業経営に影響を及ぼす外部要因を考える
10-11 回：企業を選び、どのような技術やノウハウを持っているか考える
12-13 回：企業を選び、どのような戦略をとっているか調べる
14 回：これまでの内容を復習する

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。詳しくは開講時に指示します。

【参考書】

加護野忠男、吉村典久『1 からの経営学』碩学舎、2012 年

その他の参考書は、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）で評価します。
ただし、定期的に講義中に行ってもらう作業や、講義内での発言をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。作業については、開講時に指示します。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションが促進されるように講義を運営します。身近な企業の事例を取り上げます。

【関連科目】

これから学んでいく経営学の多くの分野に関連します。

経営学総論Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目A群	1年次／2単位	〔春学期授業〕
経営学総論Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目A群	1年次／2単位	〔秋学期授業〕
経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目A群	1年次／4単位	〔年間授業〕

木村 純子 教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂…といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

授業を通じて学生は経営学の基礎理論を体系的に習得します。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。

多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。

秋学期は人を動かす仕組みに集中して、どうすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【授業の進め方と方法】

授業は3つのスタイルで行われます。

1つ目はレクチャーです。学生は教員の講義によって経営学の理論を学びます。

2つ目は授業内の課題活動です。学生は単に授業に出席するだけでなく課題に取り組みアウトプットとしてレポートを作成します。

3つ目は講演です。一流企業のマネジャー・経営者として活躍する人々たちを招き実社会における経営の実際をお話いただきます。学生との活発なインタラクションを期待します。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	企業経営とは？：企業、企業と各市場、情動的経営資源①
第2回	第1章：企業経営の全体像：『もしドラ』の「ドラ」とは？	企業経営とは？：企業、企業と各市場、情動的経営資源②
第3回	第2章：経営学の全体像	経営学とは？：広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
第4回	第2章：経営学の全体像	経営学とは？：グループ活動と発表
第5回	第3章：企業と社会	会社とは？：株式会社の基本的な仕組み①
第6回	第3章：企業と社会	会社とは？：株式会社の基本的な仕組み②
第7回	第4章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	「カネ・ヒト」の工面とは？：金融資本市場、株式、借入、労働市場、「三種の神器？」①
第8回	講演会①	調整中
第9回	第4章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	「カネ・ヒト」の工面とは？：金融資本市場、株式、借入、労働市場、「三種の神器？」②
第10回	第5章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？：製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性①
第11回	講演会②	調整中
第12回	第5章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？：製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性②
第13回	第6章：競争戦略のマネジメント（Part.1）：基本的な考え方	競争戦略とは？①：顧客価値
第14回	まとめ	春学期のまとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」①
第2回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」②

第3回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」①
第4回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」②
第5回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」③
第6回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み①
第7回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」①
第8回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」②
第9回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」③
第10回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み②
第11回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」①
第12回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」②
第13回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」③
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学（第2版）』（2012年、碩学舎・中央経済社刊）の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 100%

試験では、経営学の基本的な理論・概念の理解度をチェックします。

授業ではレポートにも取り組みます。どの回に提出するかの事前予告なし。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく授業内で学生のグループワークを行いたいという希望がありましたので、授業内での活動および発表も取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

履修者数、受講生の理解度、進具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ（病院の診断書をご提出ください）、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合（書類をご提出ください）

関連科目：経営学、社会学、心理学の科目

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

経営学総論Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	〔春学期授業〕
経営学総論Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	〔秋学期授業〕
経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／4 単位	〔年間授業〕

橋本 諭 講師

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学総論は、3つの特徴があります。

- 1) 経営学に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
- 2) 経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象（たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
- 3) 今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。

- 1) 経営学の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
- 2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
- 3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付ける

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を中心として実施します。ただし、授業内でのインタラクションや、主体的に学習する姿勢を求めます。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (1)	春学期授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	経営学の全体像： 経営学の範囲、他学問との違い
第4回	経営学とは何か (3)	株式会社： 株式会社とは何か 株主、機関
第5回	経営学とは何か (4)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第6回	組織マネジメント (1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第7回	組織マネジメント (2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第8回	組織マネジメント (3)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第9回	組織マネジメント (4)	組織開発： 組織開発の光と闇
第10回	人材マネジメント (1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第11回	人材マネジメント (2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第12回	人材マネジメント (3)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (4)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ (1)	前期授業の振り返りと総括

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (2)	秋学期授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営戦略 (1)	経営戦略とは： 経営戦略と経営戦略ではないもの
第3回	経営戦略 (2)	競争戦略： 企業における競争とは何か
第4回	経営戦略 (3)	失敗事例： 戦略を誤るとはどういうことか
第5回	マーケティング (1)	マーケティングの基礎： マーケティングの定義および歴史
第6回	マーケティング (2)	マーケティング・ミックス： 製品・価格・広告・チャネルとは
第7回	マーケティング (3)	インサイト： 顧客の気持ちをどうつかむか

第8回	ファイナンス	ファイナンス基礎： 現代企業におけるファイナンスの意義
第9回	大企業・中小企業・ベンチャー企業 (1)	大企業と中小企業： 大企業と中小企業の違い
第10回	大企業・中小企業・ベンチャー企業 (2)	ベンチャー企業： ベンチャーとは何か
第11回	多様な「経営」 (1)	NPO： NPOになぜ経営は必要なのか
第12回	多様な「経営」 (2)	ソーシャルビジネス： 社会課題をビジネスにより解決するには
第13回	多様な「経営」 (3)	ソーシャルビジネス： ソーシャルビジネスの事例研究
第14回	ラップアップ (2)	後期授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加してください。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルにて配布しますので、各自事前にダウンロードした上で、授業に参加してください。

【参考書】

加護野忠男・吉村典久（編著）「1からの経営学（第2版）」2012年 碩学舎
その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、各期共に以下の通りとします。

定期試験：70% 小レポート：30%

小レポートについては、授業項目を前提として、各期3回出題します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規に担当するため、アンケートを実施していません。

なお、授業内での意見によって運営方法等は変更をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業において、PC、スマートフォン、タブレットなどインターネットに接続可能なデバイスをインタラクティブを行うツールとして使用します。自身のデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

経営学総論Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目A群	1年次／2単位	〔春学期授業〕
経営学総論Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目A群	1年次／2単位	〔秋学期授業〕
経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目A群	1年次／4単位	〔年間授業〕

福島 英史 教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中で広く行われているビジネスに関心を持ち、これを考えるためのベーシックな概念と考え方、枠組みを理解することが本講義の目的です。企業組織が市場を中心とした環境に働きかける活動とこれを支える組織の問題をテーマとして考えていきます。どのように精緻に活動を計画できたとしても、組織がこれを適切に遂行できなければ、期待するような成果を得ることはできません。そこで、組織の対外的な活動とこれを計画し、遂行する組織内部の問題についてみていきます。

【到達目標】

経営及び会社組織を対象として経営学の基本的な概念、考え方について、広く基礎的に理解し、社会で観察・報道される経営現象について、一定の説明ができるようになることが到達目標です。今後学んでいく経営学専門科目の土台として、また経営学を学ぶ経営学部生として、経営学の全体像や大まかな流れ、主なトピックスについて説明できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

経営学の一般的なトピックスについて学んでいきます。会社とはどのようなものでどういった形をとるのか、ビジネスのための資金はどうやって調達されているのか、ビジネスのために人を雇用したりされたりするときにはどのような問題を考えるのか、顧客・競合他社を経営学ではどのような視点でとらえるのか、組織にはどんな存在意義があって、人々の参加・調整をどのように促すのか、日本企業の経営には特徴があるのかといったトピックスを扱います。大教室で行われる大人数の講義です。講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズやミニ・ケースを解くなどの課題が課されます。その際、指名された履修者は、意見を求められます。

【授業計画】

Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	会社の諸形態①	会社制度の基本を学ぶ
3	会社の諸形態②	株式会社の意味を考える
4	会社の資金調達①	直接金融と間接金融
5	会社の資金調達②	調達経路の特徴
6	会社の資金調達③	資金調達と経営の自由度
7	会社の雇用構造①	雇用問題を捉える枠組み
8	会社の雇用構造②	経営資源としての理解
9	会社の雇用構造③	身近な事例
10	日本的雇用慣行①	一般的特徴の理解
11	日本的雇用慣行②	日本企業の雇用と変化
12	事業システム①	事業の組立
13	事業システム②	顧客の視点
14	事業システム③	競争の捉え方
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	組織を見る視点①	組織の機能と諸問題
3	組織を見る視点②	身近な事例
4	組織と市場①	取引費用の観点
5	組織と市場②	情報処理の観点
6	モチベーション①	働く人の欲求
7	モチベーション②	やる気が出るプロセス
8	リーダーシップ①	リーダーシップの資質と行動
9	リーダーシップ②	状況要因と留意点
10	組織の調整メカニズム①	直接的・間接的調整
11	組織の調整メカニズム②	管理原則や標準化、組織文化
12	組織構造の理論①	機能別・事業部制組織
13	組織構造の理論②	組織構造と戦略
14	組織構造の理論③	日本企業の組織変革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみましょう。身の回りには、様々な商品やサービスがあり、それを提供する様々な会社や団体組織があります。商品やサービス、会社、経営について、どうして・なぜの問題を考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

授業中に適宜おすすめしますが、ここでは以下を上げておくことにします。経営学の入門レベルのテキストであればこれに限りません。伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 3 版』日本経済新聞社。

【成績評価の方法と基準】

春学期：定期試験（100％）で評価します。秋学期：定期試験（100％）で評価します。講義中に行われるエクササイズの点数は、「ボーナス」として上記に加算いたします。

【学生の意見等からの気づき】

話す速度を調整します。エクササイズの時間を十分に取ります。

【その他の重要事項】

講義中の私語はご遠慮ください。今後経営学部で学ぶすべての基礎になる科目です。関連科目はミクロ経済学入門や簿記入門など。

経営学総論Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	2～4 年次／2 単位〔春学期授業〕
経営学総論Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	2～4 年次／2 単位〔秋学期授業〕
経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	2～4 年次／4 単位〔年間授業〕

岸 眞理子 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営学を初めて学ぶ学生を対象に、経営学の基礎についてを学んでいきます。

経営学とは企業のマネジメントの理論です。企業経営の仕組みは、主に「組織をつくる」、「人を動かす」、「戦略をたてる」という三つのマネジメント活動からなる全体として把握することができます。この授業では、これらを理解することを目的としています。

【到達目標】

経営学総論Ⅰでは、まず「組織をつくる」という活動について学びます。企業は一つの組織であり、組織とは何か、どのように組織をつくるのかについて学ぶことは、他のマネジメント活動を考察していく基礎になります。具体的には、まず、経営組織をめぐる主要な研究の流れを理解していきます。そのうえで、目にみえる組織特性である組織構造や組織形態について、目にみえない組織特性である組織文化について学習していきます。

経営学総論Ⅱでは、「人を動かす」、「戦略をたてる」という活動について学習していきます。まず、企業の対内的マネジメント活動である「人を動かす」では、モチベーション理論の体系やインセンティブ・システムについて学習するとともに、リーダーシップやコミュニケーションについても検討していきます。次に、対外的マネジメント活動である「戦略をたてる」では、経営戦略論の体系を整理したうえで、特に企業の成長戦略と競争戦略について学んでいきます。

【授業の進め方と方法】

毎回、「今日のテーマ」と「考察のためのポイント」が提示され、全体構造を理解することができます。授業では、最初にパワーポイントを使った講義を聞き、その後、設定された課題を考察し、相互に検討する時間が設けられます。これによって、理解をより深めることができます。

テーマに関連して、動画や、社会の第一線で活躍するゲスト・スピーカーによる生きた事例の紹介がなされるので、内容をより具体的に理解することができますようになります。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営学総論Ⅰのガイダンス 経営学とは何か
第 2 回	組織についての考察（1）	古典的なアプローチから
第 3 回	組織についての考察（2）	自己実現するために
第 4 回	組織についての考察（3）	外部環境に適応するとは
第 5 回	組織についての考察（4）	新しい組織観へ
第 6 回	会社という組織	ゲスト・スピーカーより（1）
第 7 回	企業の組織形態（1）	職能制組織と事業部制組織
第 8 回	企業の組織形態（2）	マトリックス制組織とカンパニー制組織
第 9 回	組織形態としての持株会社	ゲスト・スピーカーより（2）
第 10 回	ネットワーク組織	ICT とバーチャル組織
第 11 回	組織文化とは何か	企業文化論の登場
第 12 回	企業文化の機能	企業文化の機能 企業文化の逆機能
第 13 回	組織文化の変革	ゲスト・スピーカーより（3）
第 14 回	総括	経営学総論Ⅰのまとめ

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営学総論Ⅱのガイダンス 再び、経営学とは何か
第 2 回	モチベーション理論	モチベーション理論の体系と人的資源管理
第 3 回	インセンティブ・システム	報酬とインセンティブ
第 4 回	リーダーシップ	リーダーシップとは何か
第 5 回	企業と人	ゲスト・スピーカーより（1）
第 6 回	コミュニケーション	コミュニケーション・モデル
第 7 回	異文化コミュニケーション	ゲスト・スピーカーより（2）
第 8 回	企業の経営戦略	経営戦略論の体系
第 9 回	企業の成長戦略	多角化と戦略ビジョン多角化の方法
第 10 回	企業の競争戦略	競争戦略のタイプ 市場の発展と競争戦略
第 11 回	競争優位と組織能力	組織能力の向上のために
第 12 回	持続的な企業の発展	ゲスト・スピーカーより（3）
第 13 回	環境と組織	新しい議論の紹介

第 14 回 総括

経営学総論Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの関連箇所を読むことで、授業内容がより理解しやすくなります。

【テキスト（教科書）】

坂下昭宣『経営学への招待（新装版）』白桃書房、2014 年。

坂下昭宣『経営学への招待（第 3 版）』白桃書房、2007 年。

（どちらでも構いません。）

【参考書】

テーマに応じて随時指示されます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、期末試験が 50 %、授業内の小テスト（小レポート）が 50 % となっています。期末試験を受けない場合は E 評価となるので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更のため実績なし。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱなど。

簿記入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	[春学期授業]
簿記入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／4 単位	[年間授業]

神谷 健司 教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらう事を目標にしている。この授業では 2、3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習し、また講義の内容は社会人になった時にビジネスの常識として必要と思われる基本的事項です。

【到達目標】

日商簿記 3 級に合格できるような知識を身につけてもらうことである。基本的な損益計算の仕組み、構造等も十分理解して欲しい。また日商簿記検定試験（3 級）（2 級）は毎年、6 月、12 月、2 月に実施されている。こういったものにも多くの学生にチャレンジしてもらいたい。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。あらかじめ範囲を決めてミニテストを数回実施し、理解度を確認することもある。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について学習する
第 2 回	収益・費用	収益・費用の概念、損益計算、損益計算書等について学習する
第 3 回	資産・負債・純資産	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表等について学習する
第 4 回	取引	簿記上の取引の意味について学習する
第 5 回	仕訳	仕訳の意味と具体的処理について学習する
第 6 回	勘定記入	勘定記入の意味、勘定記入の仕方について学習する
第 7 回	帳簿・伝票	帳簿の種類、伝票による処理について学習する
第 8 回	試算表の作成	試算表の意義と各種試算表の作成について学習する
第 9 回	決算手続き（1）	決算の意味と手続き、精算表の作成について学習する
第 10 回	決算手続き（2）	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について学習する
第 11 回	現金・預金の記帳	現金・預金取引について学習する
第 12 回	商品売買取引の記帳	商品売買取引の記帳について学習する
第 13 回	売上原価の計算、商品有高帳の処理	商品有高帳の記入、期末の売上原価の計算について学習する
第 14 回	商品売買取引の総合問題	総合問題を解いてもらい、解説する

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のまとめと総合復習問題	春学期に学習した部分の総復習を行う
第 2 回	掛取引の記帳	掛取引、人名勘定、貸倒れ等について学習する
第 3 回	手形取引の記帳	手形取引とは何か、約束手形の処理について学習する
第 4 回	手形取引の記帳	為替手形、手形の裏書売却等の処理について学習する
第 5 回	その他の債権・債務の	未収金・未払金、立替金・預り金他の処理について学習する
第 6 回	有価証券の記帳	有価証券の取得時・売却時の処理、期末の評価等について学習する
第 7 回	固定資産の記帳（1）	有形固定資産の取得、減価償却の計算について学習する
第 8 回	固定資産の記帳（2）、営業費の記帳、	固定資産の売却時の処理、各種営業費の処理について学習する
第 9 回	税金の記帳、純資産の記帳	税金の処理、資本金、引出金の処理について学習する
第 10 回	決算手続き（1）	決算整理事項について学習する
第 11 回	決算手続き（2）	8 桁精算表、帳簿の締め切りについて学習する
第 12 回	決算手続き（3）	財務諸表の作成、財務諸表の読み方について学習する
第 13 回	精算表の問題演習	精算表の問題を 2 問解いてもらい、解説する
第 14 回	総合練習問題による演習と解説（1）	仕訳・勘定記入、試算表の作成、精算表の作成などの問題を解いてもらい、解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で学習した例題の復習と関連する部分の章末問題を解いておくこと。また授業中に配布したプリントについても翌週まで解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

渡部裕巨他編『検定簿記講義 3 級商業簿記』中央経済社（2018 年）、および渡部裕巨他編『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社（2018 年）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（8 割）・ミニテスト（2 割）の割合で総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための課題をより多く課したい。またミニ試験の回数を増やし、受講者の理解度を段階的に確認したい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。最初はとっつきにくい科目だと思うが、学ぶ内容は極めて基本的なものである。

簿記入門Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	〔春学期授業〕
簿記入門Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	〔秋学期授業〕
簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／4 単位	〔年間授業〕
川島 健司 教授			

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらうことである。簿記の「なぜ？」に答えることを重視するため（なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか？、なぜ複式、なぜ借方・貸方なのか？、なぜ加法にこだわるのか？、なぜ決算整理が必要なのか？等々）、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量はおおむね日商簿記検定 3 級の標準的授業と同じである。この授業では 2、3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習し、また講義の内容は社会人になった時にビジネスの常識として必要と思われる基本的事項である。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである。
・基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
・作成した財務諸表から、企業の実態を推論する技術を習得する。
・財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
・日商簿記検定 3 級に合格できる知識、および同 2 級の受験準備としての知識を習得する。
・簿記に関する一般教養的知識を身につける（文化・歴史・経済との関わり等）

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。年間 28 回の授業を以下の 4 つに分割して、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。

- 第 1 部 複式簿記の目的－なぜ複式簿記が必要かを理解する（1-7 回）
- 第 2 部 複式簿記の方法－簿記一巡の手続きを理解する（8-14 回）
- 第 3 部 決算の方法－合理的な期間損益計算を考察する（15-21 回）
- 第 4 部 会計処理の個別問題－複雑な取引への対処・応用法を理解する（22-28 回）

授業ではあらかじめ範囲を決めてミニテストを数回実施し、理解度を確認することもある。ただし、本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史、文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。

本講義では、受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、春学期・秋学期で各 2 回ずつ、質疑応答の回を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について説明する
2	収支計算と単式簿記	まずは日常生活の記帳の延長として、一般に認められた方法により現金出納帳と収支計算書を作成する方法を解説する。
3	収支計算の限界 1（信用取引があるケース）	収支計算書の情報の意味と特性を理解する。信用取引があるケースについて現金収支差額の意味を考察する。
4	収支計算の限界 2（商品在庫があるケース）	売れ残り商品があるケースについて現金収支差額の意味を考察する。
5	収支計算の限界 3（設備投資をするケース）	設備投資を行うケースについて現金収支差額の意味を考察する。収支計算の限界を補う方法を検討する。
6	損益計算と複式簿記	収益・費用の概念を収入・支出と対比させて解説する。損益計算、損益計算書等について学習する。
7	損益計算書と貸借対照表	損益計算書を作成すると、必然的・誘導的に貸借対照表が必要になる理屈を解説する。
8	勘定	簿記上の勘定の意味と役割について解説する。
9	帳簿（主要簿と補助簿）	帳簿の種類・組織（相互関係）・役割について解説する。
10	取引と仕訳	勘定記入の意味、勘定記入の仕方について学習する。
11	勘定口座と転記	仕訳による記帳情報を勘定口座に転記・要約する方法について解説する。
12	合計試算表と残高試算表	各種試算表の意義と作成方法について解説する。
13	帳簿の締切と財務諸表の作成	帳簿の締め切り、収支計算書・損益計算書・貸借対照表の作成方法について解説する。

14	総合的演習問題	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について総合的に学習する。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
15	イントロダクション	秋学期全体の学習内容と論点について俯瞰する。
16	売上原価の計算	商品売買取引の記帳、商品有高帳の記入、期末の売上原価の計算について解説する。
17	減価償却	有形固定資産の取得、減価償却の計算、固定資産の売却時の処理について解説する。
18	引当金	引当金の意義、記帳方法、財務的な効果について解説する。
19	経過勘定項目 1（前払費用、未払費用）	前払費用と未払費用の考え方と記帳方法について解説する。
20	経過勘定項目 2（未収収益、前受収益）	未収収益と前受収益の考え方と記帳方法について解説する。
21	精算表の活用	精算表の概要、8 桁精算表の使用法について解説する。
22	資本金の記帳	資本金、引出金の処理について解説する。
23	現金預金の記帳	小口現金、現金過不足の処理について解説する。
24	手形の記帳	為替手形、手形の裏書売却等の処理について解説する。
25	債権・債務の記帳	未収金・未払金、立替金・預り金他の処理について学習する。
26	有価証券の記帳	有価証券の取得時・売却時の処理、期末の評価等について学習する。
27	本支店会計	本店・支店間の取引の記帳と、それらを合算した財務諸表の作成方法を解説する。
28	精算表と財務諸表に関する総合問題	精算表の問題を 2 問解いてもらい、解説する。仕訳・勘定記入、試算表の作成、精算表の作成などの問題を解いてもらい、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

・黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房、1947 年。
・大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房、1998 年。
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005 年。
・中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版、税務経理協会、2006 年。
・新田忠督・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版、白桃書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 2 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための課題をより多く課したい。またミニ試験の回数を増やし、受講者の理解度を段階的に確かめていきたい。

【その他の重要事項】

本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識（文化・歴史・経済との関わり等）についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生も、授業には出席してほしい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

簿記入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	[春学期授業]
簿記入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	[秋学期授業]
簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／4 単位	[年間授業]

北田 皓嗣 准教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎である複式簿記の基礎的な事項の学習が本講義の目的です。また経営学部での 4 年間の学習の基礎として、学習の導入となる科目です。

【到達目標】

講義や演習を通じて帳簿記帳および基礎となる会計理論の習得を目標とします。またこれらを通じて、経営学や会計学を学ぶことに関心を持ってもらえるようにします。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。また必要に応じて記帳・計算演習を交えながら習得していきます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容と目的と説明、簿記の役割と簿記を学習する意義について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (1)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (2)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第 4 回	収益・費用	収益・費用の概念、損益計算書の仕組みについて学習していきます。
第 5 回	取引	簿記上の取引の意味、取引要素について学習していきます。
第 6 回	仕訳 (1)	仕訳の意味を学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第 7 回	仕訳 (2)	仕訳の意味を学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第 8 回	勘定記入	総勘定元帳の意味、総勘定元帳への転記の仕方について学習します。
第 9 回	帳簿	帳簿の種類と、伝票による処理について学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の種類と作成の方法について学習します。
第 11 回	決算手続き (1)	決算の意義や精算表の仕組み、6 桁精算表の作成の方法について学習します。
第 12 回	決算手続き (2)	総勘定元帳と仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成の方法について学習します。
第 13 回	決算手続き (3)	損益計算書・貸借対照表の作成の方法について学習します。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金について学習します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法と分記法と違いについて説明するとともに、仕訳帳と売上帳について学習します。
第 16 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第 17 回	掛取引の記帳	売掛金・買掛金および貸倒れについて学習します。
第 18 回	手形取引の記帳 (1)	受取手形および支払手形について学習します。
第 19 回	手形取引の記帳 (2)	手形の意味や種類について説明するとともに、手形の処理について学習します。
第 20 回	その他の債権債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券について学習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理および利息と配当金の処理について学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得および減価償却の処理について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)、営業費の記帳	固定資産の売却時の処理および各種営業費の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	税金の処理について学習します。
第 25 回	資本金と引出金	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 26 回	決算手続き (1)	決算整理事項について学習します。
第 27 回	決算手続き (2)	8 桁精算表の作成方法について学習します。

第 28 回 まとめと復習問題 総合練習問題を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習として演習問題を解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

・TAC 株式会社 (簿記検定講座) 編著 TAC 出版『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 3 級』
・TAC 株式会社 (簿記検定講座) 編著 TAC 出版『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記 3 級』
上記の 2 冊のテキストと問題集について、2018 年 4 月 1 日時点での最新版を用います。恐らく ver.10 になる予定です。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト (40%)、期末テスト (40%)、授業参加 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

各トピックごとに練習問題を授業や宿題として解けるようにします。

【その他の重要事項】

経営学部で学習するすべての会計系科目の基礎となるだけでなく、簿記の仕組みに対する考え方は、経営学部の専門科目や演習での学習にも関連してきます。

4

専門基礎科目 A 群／B 群

簿記入門Ⅰ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	〔春学期授業〕
簿記入門Ⅱ（2016年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／2 単位	〔秋学期授業〕
簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1 年次／4 単位	〔年間授業〕

坂上 学 教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、初めて簿記を学習する学生を対象として、簿記の基本的仕組を理解してもらうことを目的にしている。企業は財務諸表を作成しているが、それを作成するためには、日常発生した経済的な出来事を一定のルールに従って記録しておく必要がある。講義の前半では、記録するためのルールの説明と基本的な決算手続について説明する。講義の後半では、前半の講義内容を理解していることを前提に、入門コースで必要と思われる各勘定科目の具体的な処理について説明する。また決算手続についても重要事項は一通り説明をおこなう。簿記入門Ⅰ／Ⅱを学習することによって、将来企業社会で必要とされる簿記会計の基本的事項を身につけることができる。

【到達目標】

日商簿記検定 3 級レベルの簿記会計の知識の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。必要に応じてミニテストを実施する予定である。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	資産・負債・純資産（資本）の各概念と貸借対照表について学習します。
第 2 回	収益・費用と損益計算書	収益・費用の各概念と損益計算書について学習します。
第 3 回	取引	会計上の取引の概念について学習します。
第 4 回	仕訳	仕訳について学習します。
第 5 回	勘定記入	勘定記入の基礎について学習します。
第 6 回	帳簿	帳簿の種類と体系について学習します。
第 7 回	試算表の作成（1）	簿記一巡の手続きと試算表を作成するまでを学習します。
第 8 回	元帳の締切りと財務諸表の作成（1）	元帳の締切り方法と財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成の基本について学習します。
第 9 回	清算表の作成（1）	決算整理がない 6 桁精算表の作成を学習します。
第 10 回	復習問題（ミニテスト）	ここまでの学習内容についてミニテストを実施します。
第 11 回	現金・現金過不足	現金取引および現金過不足時の処理について学習します。
第 12 回	当座預金・当座借越	当座預金および当座借越の処理について学習します。
第 13 回	小口現金	小口現金の処理について学習します。
第 14 回	商品売買	商品売買の処理について学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期講義のまとめ	春学期で学んだ内容に復習します。
第 16 回	売掛金・買掛金	売掛金・買掛金の処理について学習します。
第 17 回	その他の債権・債務	その他の債権・債務の処理について学習します。
第 18 回	手形	手形の処理について学習します。
第 19 回	有価証券	有価証券の処理について学習します。
第 20 回	固定資産	固定資産の処理について学習します。
第 21 回	資本と引出金	資本と引出金の処理について学習します。
第 22 回	収益と費用	収益と費用の処理について学習します。
第 23 回	税金と伝票	税金と伝票の処理について学習します。
第 24 回	試算表の作成（2）と決算整理手続	試算表の作成と決算整理手続について学習します。
第 25 回	精算表の作成（2）	修正仕訳欄のある 8 桁精算表の作成について学習します。
第 26 回	元帳の締切りと財務諸表の作成（2）	元帳の締切りと財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成について学習します。
第 27 回	総合模擬問題（1）	仕上げとして、実際の 3 級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 28 回	総合模擬問題（2）	仕上げとして、実際の 3 級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

渡部裕巨, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記講義 3 級 商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を使います。

【参考書】

渡部裕巨, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記ワークブック 3 級/商業簿記』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

春学期の期末試験を 10 %、秋学期の期末試験を 70 %、ミニテストを 10 %、総合模擬問題を 10 %のウェイトで基礎点を計算し、平常点を加味した総合点で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

総合模擬問題による答案練習は好評のようなので、今年度も力を入れて取り組む予定である。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2 年次からの「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」、3 年次からの会計専門科目の基礎となるものである。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進する。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。日商簿記 3 級をマスターして同 2 級・1 級、さらには公認会計士・税理士といった職業会計人の国家試験にチャレンジしよう。

簿記入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	2 ～ 4 年次／2 単位 [春学期授業]
簿記入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	2 ～ 4 年次／2 単位 [秋学期授業]
簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	2 ～ 4 年次／4 単位 [年間授業]

大下 勇二 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産（資本）(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	資産・負債・純資産（資本）(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 5 回	簿記上の取引	取引 簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 7 回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第 9 回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算手続き (その 1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算手続き (その 1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算手続き (その 1)(3)	決算手続き (その 1)(1) および決算手続き (その 1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。

第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】

日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これから会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

ミクロ経済学入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1～4 年次／2 単位 [春学期授業]
ミクロ経済学入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）	専門基礎科目 A 群	1～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	専門基礎科目 A 群	1～4 年次／4 単位 [年間授業]

大木 良子 教授、高橋 理香 教授、宮澤 信二郎 准教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、「今日のランチに何を食べるか？」から、「どんな値段設定にすれば、モノが売れるか」、「大気汚染を防ぐにはどうすればよいか？」まで、身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つ「地図」であるミクロ経済学の知識が身に付きます。そして、履修を通じて、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになります。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つミクロ経済学の知識を身につけ、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考える力を鍛えます。

経済学はレゴのような学問です。つまり、レゴで車を作るにしても、まずは土台と車輪がちゃんとしていないと、上に乗るボディがどんなにかかしていても、使い物になりません。経営学と経済学は、非常に密接に関係している学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【授業の進め方と方法】

この授業では、世界的にも最先端のオンライン教材を活用する予定です。スマホからでも、パソコンからでもアクセス可能です。隔週 3 問程度の宿題を解いてもらいます（所要時間は 30 分程度）。こういったトレーニングが、実際の企業行動や消費者行動を論理的に説明する上で大切です。千里の道も一歩から。

I では、需要、供給、価格、余剰などミクロ経済学で必要になる基本的なコンセプトを一通り紹介します。

II では、市場における企業間の競争について詳しく考えます。理想的な競争状況である完全競争と、その対極にある寡占市場、そしてその中間に位置づけられる寡占市場の考え方を解説します。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ミクロ経済学とは	この授業のテーマについて説明します。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。
2	需要と供給 1	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！高く売りたい！
3	需要と供給 2	たばこの需要量を減らす方法とは？ アイスの供給量が増えるのはなぜ？
4	均衡 1	需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。
5	均衡 2	猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？
6	弾力性 1	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？
7	弾力性 2	麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
8	中間テスト	2～7 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
9	政府の役割 1	政府の出番はどこにある？
10	政府の役割 2	消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
11	余剰分析 1	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？
12	余剰分析 2	臓器市場は存在すべきか？
13	外部性 1	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？
14	外部性 2・春学期総括	なぜガソリンには重税が課せられるのか？ 春学期の内容をまとめる。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	生産と費用 1	経済学の利潤と会計学の利潤は違う？
16	生産と費用 2	企業の生産にかかる費用の内訳を考えてみよう。
17	生産と費用 3	企業の生産にかかる費用ごとの特徴をマスターしよう。
18	短期と長期	目先のことしか考えないか、将来のこととも考えるか？
19	競争市場 1	競争市場において企業はどんな行動をするのが合理的だろうか？
20	競争市場 2	空席だらけのレストランはどうして閉めないのか？
21	中間試験	15-20 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
22	独占 1	独占企業と競争に晒される企業は何が違う？
23	独占 2	独占企業の企業行動を理解します。
24	独占 3	医薬品市場における特許とジェネリック医薬品との関係とは？
25	寡占 1	寡占企業は相手の行動を読みながら動く。
26	寡占 2	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
27	寡占 3	マイクロソフトの戦略は違法？
28	総括	これまで学んだ道具立てをまとめながら、それを応用してミクロ経済学の比較的新しいトピックを紹介します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】

オンライン教材を使用します。そのために手続きが必要ですので、必ず第 1 回の授業に出席してください。

オンライン教材に対応している教科書は、マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社 2013 年です。

【参考書】

伊藤元重 『ミクロ経済学（第 2 版）』日本評論社 2003 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（40 %）、中間テスト（15 %）、宿題（45 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学期中の学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

「経済学は勉強するのが難しいのではないかな？」「単位が取れるだろうか？」と心配される方もいらっしゃるかもしれませんが、前年度、この科目で期末試験を受験し不合格になった方は、だいたい 6 % 程度です。食わず嫌いにならず、まずは試しに食べてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

資料や宿題はオンラインで配布します。宿題の提出もオンラインでして頂きます。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱのうち、宮澤（通年）、大木（Ⅰ）・高橋（Ⅱ）担当の授業は共通のシラバス・教材で行われます。テストも評価も全く同様に行います。ただし、履修はクラス指定がありますので、そちらにしたがってください。

宿題を提出するためには、オンライン教材の利用手続きが必要です。必ず第 1 回の授業に出席し、きちんと手続きをしてください。

ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱは続けて履修することを前提にしています。授業の進度だけでなく、教材の手配等の手続きもありますので、必ず春学期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、秋学期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。

この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」「応用経済学Ⅰ／Ⅱ」「国際経済論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。ミクロ経済学のイロハを自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

ミクロ経済学入門Ⅰ（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群	1～4 年次／2 単位 [春学期授業]
ミクロ経済学入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群	1～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群	1～4 年次／4 単位 [年間授業]

林 直嗣 教授

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を、価格や生産量などミクロの経済量をベースに分析する。消費者は何をどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう分配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意思決定機構はどう可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について分かり易く、体系的に講義する。

各個人の身の回りから企業や産業、日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解することが、この授業の目的である。

【到達目標】

消費者や企業、政府の経済問題を分かり易く解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。単に講義だけでなく主体的に問題演習を解いてみることによって、公務員試験、公認会計士試験、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採る。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	経済とミクロ経済学 (1)	ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説
第2回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明
第3回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説
第4回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明
第5回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明
第6回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明
第7回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説
第8回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明
第9回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明
第10回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説
第11回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明
第12回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説
第13回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説
第14回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	独占市場 (1)	完全独占の基礎理論を解説
第16回	独占市場 (2)	独占の進んだ問題を解説
第17回	独占市場 (3)	寡占理論の核心を解説
第18回	独占市場 (4)	寡占理論の進んだ考え方を説明
第19回	所得分配 (1)	所得分配の基礎理論を説明
第20回	所得分配 (2)	所得分配の進んだ問題を解説
第21回	資本と利子 (1)	資本理論の核心を解説
第22回	資本と利子 (2)	資本理論の進んだ問題を説明
第23回	厚生経済学と社会的選択 (1)	厚生経済学のエッセンスを解説
第24回	厚生経済学と社会的選択 (2)	市場の失敗の諸問題を考える
第25回	厚生経済学と社会的選択 (3)	厚生経済学の進んだ問題を考える
第26回	情報と不確実性の経済学 (1)	情報と不確実性の基礎理論を説明
第27回	情報と不確実性の経済学 (2)	情報と不確実性の進んだ問題を分析
第28回	情報と不確実性の経済学 (3)	情報と不確実性の応用問題を考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。まず自分で教科書を読み、Web 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。

【テキスト（教科書）】

林 直嗣著『経済学入門』新世社（入門の教科書）2013 年
林 直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）2010 年

【参考書】

林 直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）1992 年

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って定期試験、授業への積極的な貢献度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどを基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 に準拠して「客観的で厳格な（正確な）」成績評価を行う。過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書や問題演習、ノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【関連科目】

マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）と並んで、この科目は経済学関係の基礎的科目なので、必ず履修登録することが望ましい。

情報科学実習Ⅰ（2016年度以降入学者）
 情報科学実習Ⅱ（2016年度以降入学者）
 情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

専門基礎科目A群	1・2年次～／2単位	〔春学期授業〕
専門基礎科目A群	1・2年次～／2単位	〔秋学期授業〕
専門基礎科目A群	1・2年次～／4単位	〔年間授業〕

【授業の達成目標・テーマ Goal/Theme】

最近ではインターネットの高速化が進み、ますますあらゆるシステムの情報化・ネットワーク化が進んでいる。さらに、インターネット通信が、様々な産業分野においてはもちろん、我々の生活の中のあるゆる場面で広く活用され、今や情報通信機器を道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになっていく。情報学に関する基礎科目の目標は、皆さんがPCや情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。具体的には第一に、情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なくPCや情報ネットワークを使いこなすことができるようにすることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決をすることができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学の基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の4つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけよう。

【授業の概要と方法 Course Description】

日本語ワードプロセッサ・通信・表計算コース（aコース）
 情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

日本語ワードプロセッサ・通信・Basicコース（bコース）
 情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的なVisual Basic Applicationsを用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

日本語ワードプロセッサ・通信・データベースコース（dコース）
 情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

日本語ワードプロセッサ・通信・専門基礎コース（fコース）
 情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、1.社会現象に対する様々なデータに対して分析を行い様々な問題を解決する、2.多くのところで活用されている情報システムについて考察し、活用方法について学ぶ等のテーマがある。文系の学生が興味をもてるような具体的な例題、事例を取り上げ、コンピュータを用いた問題解決手法について総合的に学ぶ。

【授業の計画 Schedule】

各コースのページを参照。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習を中心に行う授業であるので、わからない事柄についてはしっかり復習し、授業の進捗についていくことが必要である。

【テキスト Textbooks】

各コースのページを参照。

【参考文献 References】

各コースのページを参照。

【成績評価の方法 Grading Criteria】

各コースのページを参照。

【情報機器の利用】

各コースのページを参照。

【その他】

・コースや時間帯によっては応募倍率が高くなる場合があるので、登

録時のコース選択には特に注意されたい。第一希望のコマが取れない場合には第二希望や第三希望のコマでも登録することを勧める。

- ・「情報」の教職課程を履修する学生は、上記のaコースとプログラミング言語の両方とることを勧める。
- ・経営学部の学生は、bコースとることを特に勧める。

情報科学実習Ⅰ（aコース）（2016年度以降入学者）	専門基礎科目A群	1・2年次／2単位〔春学期授業〕
情報科学実習Ⅱ（aコース）（2016年度以降入学者）	専門基礎科目A群	1・2年次／2単位〔秋学期授業〕
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（aコース）（2015年度以前入学者）	専門基礎科目A群	1・2年次／4単位〔年間授業〕

入戸野 健 教授、高田 美樹 講師、寺脇 由紀 講師、根岸 良征 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。aコースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、図や計算表、グラフなどを利用してより表現効果の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法などを学ぶ。また、授業内では関連するITパスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れる。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とする。より具体的には、日本語ワードプロセッサ、インターネット、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトなどの情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

情報実習室のコンピュータを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得していく。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養う。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは	コンピュータの仕組みを知る。
第2回	コンピュータの基本操作	コンピュータとWindowsの基本操作を学習する。
第3回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第4回	インターネットの仕組み	インターネットの成り立ち・仕組みを理解する。
第5回	電子メール	電子メールの仕組みと送受信の操作を学ぶ。
第6回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学ぶ。
第7回	文字入力	日本語ワードプロセッサ（Word）での文字の入力操作、効率的な漢字変換方法などを学ぶ。
第8回	日本語ワードプロセッサの基本操作	日本語ワードプロセッサ（Word）の基本的な文書編集操作を学ぶ。
第9回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第10回	表の作成	表の作成と編集方法を学ぶ。
第11回	図形の作成	文書内での図形の描き方を練習する。
第12回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第13回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学ぶ。
第14回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法について学ぶ。
第3回	ワークシート作成の基礎	表計算ソフト（Excel）の基本操作を理解する。
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を学習する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計処理について学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフ作成の方法を学ぶ。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、置換などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	統計データの基礎的な集計方法について学ぶ。

第13回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、担当教員の指示に従い予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜指示する。授業で使用する資料等を適宜配布する。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、毎回の課題提出（20%）を考慮して評価する（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

情報科学実習Ⅰ (b コース) (2016 年度以降入学者) 専門基礎科目 A 群	1・2 年次／2 単位 [春学期授業]
情報科学実習Ⅱ (b コース) (2016 年度以降入学者) 専門基礎科目 A 群	1・2 年次／2 単位 [秋学期授業]
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ (b コース) (2015 年度以前入学者) 専門基礎科目 A 群	1・2 年次／4 単位 [年間授業]

児玉 靖司 教授、北澤 具子 講師、高田 美樹 講師、寺脇 由紀 講師、富田 稔 講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語ワードプロセッサ・通信・Basic (b コース)

学問を学ぶ上で必要な知識獲得の方法、情報整理、データ分析法等、情報学の基礎を学ぶ。さらに、コンピュータに関する基礎知識、応用事例（コース毎に異なる）について学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、b コースではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications による基礎的プログラミング方法を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	操作方法	基本操作について学ぶ。
第 4 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 5 回	パワーポイントによる文章表現法（1）	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 6 回	パワーポイントによる文章表現法（2）	パワーポイントによる応用的な使い方について学ぶ。
第 7 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 8 回	表計算の使い方（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 9 回	表計算の使い方（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 10 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	プログラムの作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 12 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	飛び越しと分岐	プログラミングにおいて重要な処理である分岐について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	データの保存と読み出し	データ（値）をファイルとして保存する方法について学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

情報科学実習Ⅰ（dコース）（2016年度以降入学者）専門基礎科目A群

1・2年次／2単位〔春学期授業〕

情報科学実習Ⅱ（dコース）（2016年度以降入学者）専門基礎科目A群

1・2年次／2単位〔秋学期授業〕

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（dコース）（2015年度以前入学者）専門基礎科目A群

1・2年次／4単位〔年間授業〕

渡辺 英人 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！ 在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）	情報処理の基礎
2	キーボード入力練習	情報処理の基礎
3	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
4	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
5	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。文書作成法。
6	ワープロ操作（Word による文章入力の練習）	情報処理の基礎。文書作成法。
7	ワープロ操作（Word による文章入力の練習）	プレゼンテーション用資料作成の方法。
8	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
9	Excel の操作法（基本操作）	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
10	Excel の操作法（計算機能と関数）	表計算ソフトの計算機能について解説。
11	Excel の操作法（表作成）	表計算ソフトの表作成機能について解説。
12	Excel の操作法（グラフの作成）	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
13	Excel とインターネット	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。
14	Excel とプレゼンテーション	

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インターネットと Excel を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel による資料作成。
16	PowerPoint による文章表現・プレゼンテーション	プレゼンテーション用ソフトウェア「PowerPoint」の基礎。
17	PowerPoint による文書表現・プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法。
18	インターネットと PowerPoint を使った課題作成	インターネットを使って情報検索、収集、および効率的なプレゼンテーション資料を作成する。
19	データベース入門	Excel を活用したデータベース構築の基礎。
20	データベース入門	Excel を活用したデータベース構築の基礎。
21	Excel を活用したデータベース資料の作成	Excel を活用したデータベース構築の基礎。

22	Access によるデータベース構築の基礎	効率的な情報収集、蓄積、そして再利用方法の基礎。
23	Access によるデータベース構築の基礎	効率的な情報収集、蓄積、そして再利用方法の基礎。
24	Access によるデータベース構築の基礎	効率的な情報収集、蓄積、そして再利用方法の基礎。
25	Access によるデータベース資料の作成	インターネット上のデータを使って、Access によるデータベース構築を行う。
26	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。
27	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。
28	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験（課題作成：50％）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群
情報科学実習Ⅱ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（f コース）（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群

1・2 年次／2 単位 [春学期授業]
1・2 年次／2 単位 [秋学期授業]
1・2 年次／4 単位 [年間授業]

飯塚 康至 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語ワードプロセッサ・通信・情報活用（f コース）

学問を習得する上で必要な知識獲得、情報整理等、情報学の基礎を学ぶ。コンピュータ基礎、応用事例（コース毎に異なる）について学ぶ。

【到達目標】

学問を習得する上で必要なコンピュータの使い方から、様々な情報の整理、活用方法を学ぶことを目標とする。

スマートフォンアプリケーションを作成することで、現在のインターネットを中心とする情報システムがどのように構築されているかを学習し説明できるようにすることを到達目標とする。

【授業の進め方と方法】

情報学について、例えばコンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いて情報を収集する、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、f コースでは、後半に各教員の専門に近い形でテーマ設定を行い、情報処理能力を養う。例えば、1. 社会現象に対する様々なデータに対して分析を行い問題解決をする、2. 多くのところで活用されている情報システムについて考察し、活用方法について学ぶ等のテーマがある。文科系の学生が興味をもてるような具体的な例題を取り上げコンピュータを用いた問題解決手法について学ぶ。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら結果を確認し考察を加える。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み（ハードウェアとソフトウェア）	コンピュータの仕組み、コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習、タッチタイピングソフトウェアについて学ぶ。
第 3 回	操作法（コンピュータ取扱い法、Windows 操作法）	オペレーティングシステムをはじめとした基本操作について学ぶ。
第 4 回	ワープロ操作（1）（文章表現の練習）	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 5 回	ワープロ操作（2）（ビジネス文書作成）	日本語ワードプロセッサを利用しビジネス文書の作成手法について学ぶ。
第 6 回	ワープロ操作（3）（レポート作成手法）	日本語ワードプロセッサを利用して長文のレポートの作成手法について学ぶ。
第 7 回	パワーポイントによる文章表現・プレゼンテーション法（1）	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 8 回	パワーポイントによる文章表現・プレゼンテーション法（2）	パワーポイントによるグラフ表現等、応用的な使い方について学ぶ。
第 9 回	表計算の使い方（1）	表計算ソフトを利用した文書表現手法について学ぶ。
第 10 回	表計算の使い方（2）	表計算ソフトを利用したグラフ表現、計算手法について学ぶ。
第 11 回	電子メールと Web ブラウザの利用法	電子メールのメッセージの書き方、Web ブラウザによる情報検索方法について学ぶ。
第 12 回	インターネット通信の仕組み	インターネットを利用した通信の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	身近なセキュリティ	PC やスマートフォンを利用した場合の身近なセキュリティについて学ぶ。
第 14 回	春季まとめ	春期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	HTML 入門	HTML の基本タグを利用してホームページを作成する手法について学ぶ。
第 2 回	HTML 応用	HTML のフォームタグを利用したデータの送受信方法について学ぶ。
第 3 回	CSS 入門	CSS を利用したホームページデザインの手法について学ぶ。
第 4 回	JavaScript 入門	JavaScript を利用したクライアントサイドプログラミング手法について学ぶ。

第 5 回	JavaScript デバッグ手法	JavaScript を利用し、デバッグやデータの確認手法について学ぶ。
第 6 回	Monaca 入門	Monaca を利用したスマートフォンアプリケーション開発手法について学ぶ。
第 7 回	Monaca によるゲーム作成入門	Monaca を利用し簡単なゲームの作成手法について学ぶ。
第 8 回	Monaca によるデータの保存手法	Monaca を利用しデータを保存し呼び出す手法について学ぶ。
第 9 回	Monaca によるカメラアプリの作成	Monaca を利用しカメラアプリの作成手法について学ぶ。
第 10 回	Monaca によるセンサーアプリの作成	Monaca を利用しセンサーアプリの作成手法について学ぶ。
第 11 回	Monaca によるクラウドアプリの作成	クラウドに保存したデータを Monaca を利用して読み込む手法について学ぶ。
第 12 回	Monaca と OnsenUI を利用したスマートフォンアプリデザイン手法	Monaca と OnsenUI を利用したスマートフォンアプリのデザイン手法について学ぶ。
第 13 回	オリジナルスマートフォンアプリケーションの作成	Monaca を利用しオリジナルスマートフォンアプリケーションを作成する。
第 14 回	秋学期まとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分からない部分は質問したりインターネットで調べ、実際にプログラミングし検証し授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

最新の話題とともに適時授業中にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 %、提出課題 50 % の総合評価とします。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスキルから、授業の難易度を調整しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用し授業を進めるため、特に学生が機器を用意する必要はないが、自身のスマートフォンが用意できる場合は、動作確認が容易であるため、有用である。

【その他の重要事項】

私語等を含め、授業に参加していないものは退席させる場合があります。コピー&ペースト等、自己努力していないものは評価しない場合があります。

1. 座席は毎回ランダムに指定します
2. システムを利用し、授業参加のエビデンス（画面キャプチャ等）を毎回提出してもらいます

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

情報科学実習Ⅰ（fコース）（2016年度以降入学者）専門基礎科目A群	1・2年次／2単位〔春学期授業〕
情報科学実習Ⅱ（fコース）（2016年度以降入学者）専門基礎科目A群	1・2年次／2単位〔秋学期授業〕
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（fコース）（2015年度以前入学者）専門基礎科目A群	1・2年次／4単位〔年間授業〕

石川 潔 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語学研究および外国語教育学研究においては、専門研究の礎となる様々なITスキルが必要となっています。この授業では、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要なITスキルの基本を学びます。

【到達目標】

コーパスを用いて頻度調査が出来るようになること。
簡単な実験の設計が出来るようになること。
音声分析および音声実験の基本を身に着けること。
調査や実験の結果の統計処理の基本を身に着けること。

【授業の進め方と方法】

講義と実習。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の趣旨および進め方の説明
2	コーパスの導入	コーパスの必要性和紹介
3	統計学的検定の基本	2項検定を例として
4	頻度の検定1	chi-square goodness-of-fit
5	頻度の検定2	chi-square test 2×2
6	実験設計の基礎1	因果関係の主張法、「統制」の概念
7	実験の諸概念	被験者「間」・被験者「内」要因、刺激、課題、反応
8	実験設計の実習1	語彙性判断実験の設計
9	実験設計の実習2	Lingua Tools を転用した実装
10	データ整形の方法	ピボットテーブルを用いた整形
11	記述統計の諸概念	平均、外れ値、標準偏差と分散、正規分布
12	データ・スクリーニング	課題の正誤、反応時間の外れ値
13	t検定	「高頻度」と「低頻度」の間での反応時間の比較
14	春学期のまとめ	春学期のまとめ及び更なる実験法の紹介

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	(単) 回帰1	頻度と反応時間の関係
16	(単) 回帰2	回帰分析の諸概念の基礎
17	文字表示	IPA フォント
18	音声処理1	Praatを用いた言語音声録音の実習
19	音声処理2	言語音声録音の設定
20	音声処理3	様々な音素の音響的・時間的特徴
21	音声処理4	言語音声録音のテクニク
22	音声処理5	言語音声の編集・加工
23	音声知覚実験の基礎	同定課題、弁別課題 (AX, ABX, AXB, etc.)
24	実験設計の基礎2	順序効果の相殺の手段
25	音声知覚実験の実習1	Praatでの実験作成
26	音声知覚実験の実習2	実験実施、結果ファイルの保存
27	音声知覚実験の実習3	知覚実験の結果の分析
28	秋学期のまとめ	まとめ及び他の統計手法の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、復習は必ず行ってください。

この科目で取り上げるような様々な手法をおぼえる最良の方法は、自分自身の研究テーマにそれを使ってみることです。なので、何らかの研究テーマを考え出し、それに即して実験設計または調査を行い、実際にデータを得てそれを分析してみてください。

どうしても研究テーマが思いつかないのであれば、最低限、実際にPCを用いて授業で行った分析の数値を変えて試してみてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて教材（および、該当する回にはサンプル・データ）を配布します。

【参考書】

必要に応じてその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、授業内の課題の提出 30 %、take-home exam 30 %

【学生の意見等からの気づき】

新たな科目なので N/A。

【学生が準備すべき機器他】

学外での学習のためには、以下のものと良いでしょう。

・ネットにつながったパソコン（当然ですね）。

・ヘッドセット

パソコンには、少なくとも Microsoft Excel はインストールしてあるのが望ましいです（授業で扱うその他の実験ソフトや統計ソフトは、基本的に無料のものとする予定です）。

【その他の重要事項】

授業計画は、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです（し、本来、そうやって変更されるべきものだと考えます）。

また、授業外の実験への参加によって加点が行われる可能性があります（自ら実験参加者となることは、実験設計の学習に有益です）。

また、授業支援授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【関連科目】

文学部英文学科等の言語学系の諸科目

情報科学実習Ⅰ（fコース）（2016年度以降入学者）専門基礎科目 A 群

1・2 年次／2 単位 [春学期授業]

情報科学実習Ⅱ（fコース）（2016年度以降入学者）専門基礎科目 A 群

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業]

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（fコース）（2015年度以前入学者）専門基礎科目 A 群

1・2 年次／4 単位 [年間授業]

上野 京子 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学問を習得する上で必要な知識の獲得、情報整理等、情報学の基礎を学ぶ。コンピュータ基礎、応用事例について学ぶ。

【到達目標】

情報リテラシーを通して、インターネットの仕組みを理解し、セキュリティの重要性を確認すること、情報機器を利用したコミュニケーションのとり方の幅を広げること、また、レポートやドキュメントの作成方法、情報検索の方法、情報の整理と分析の方法をすること。

【授業の進め方と方法】

パソコンを使用した実習である。

授業支援システムから、課題を入手し、講義を聴きながら、課題演習、応用演習を行い、授業内で課題提出を行う。

文科系の学生が興味をもてるような具体的な例題を取り上げコンピュータを用いた問題解決手法について学ぶ。

課題発表を行う際には、相互評価など、活発な意見交換なども行う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス コンピュータの仕組み	授業の説明とコンピュータの仕組み、 コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	入力練習とメール送受信	日本語入力システムの理解、入力演習、 辞書の設定、メールの署名作成、メールの作法、 メールの送受信について学ぶ。
第 3 回	Word 基本操作 (入力編)	文書の入力、文字列の修飾、段落設定、 配置、タブ設定などを学ぶ。
第 4 回	Word 基本操作 (高度な編集編)	ワードアート、表の挿入、段組み、 図の挿入、図形描画などを学ぶ。
第 5 回	Word 基本操作演習	Word の知識を定着させるための課題 演習を行う。
第 6 回	Excel 基本操作 (入力編)	データ入力・数式入力などを学ぶ。
第 7 回	Excel 基本操作 (関数編)	数式コピー・合計・書式設定・印刷 などを学ぶ。
第 8 回	Excel 基本操作 (参照と DB 編)	相対参照と絶対参照・並べ替えなどを 学ぶ。
第 9 回	Excel 基本操作 (グラフ編)	グラフの利用などを学ぶ。
第 10 回	Excel 基本操作演習 (関数編)	Excel の関数機能や、セルの書式設定 などの知識を定着させるための課題演習 を行う。
第 11 回	Excel 基本操作演習 (グラフ編)	伝わりやすいグラフの記述方法などの 知識を定着させるための課題演習を行 う。
第 12 回	PowerPoint 基本操作	テンプレート作成、画面切り替え効果、 アニメーション効果の追加などを学ぶ。
第 13 回	PowerPoint 基本操作演習	前回に学んだ PowerPoint の機能や、 知識を使い、プレゼン資料を作成する。
第 14 回	春学期まとめ	総括と理解度の確認をする。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	入門学習 Word1 (ホームタブ編)	クリップボード、フォント、段落、編 集などの細かな設定を学ぶ。
第 2 回	入門学習 Word2 (ページレイアウト編)	ページ設定、段落、配置などの細かな 設定を学ぶ。
第 3 回	入門学習 Excel1 (データツール編)	ゴールシーク、ソルバーなどの細かな 設定を学ぶ。
第 4 回	入門学習 Excel2 (アウトライン編)	集計、グループなどの細かな設定を学 ぶ。
第 5 回	入門学習 PowerPoint (アニメーション設定編)	効果のオプション、アニメーションの 詳細設計、タイミングなどの細かな設 定を学ぶ。
第 6 回	活用学習 Word1 (目次と索引編)	文書の作成、長文の作成（索引、目次、 図表管理）などフォーマルな文書の作 成方法と細かな設定を学ぶ。
第 7 回	活用学習 Word2 (脚注と引用文献編)	文書の作成、長文の作成（脚注、引用 文献、文献目録）などフォーマルな文 書の作成方法と細かな設定を学ぶ。
第 8 回	活用学習 Excel1 (データのグラフ化編)	数値データの有効的可視化を目的に 様々な手法を学ぶ。
第 9 回	活用学習 Excel2 (データ分析編)	データ分析や、意思決定のための数値 シミュレーションなどの手法を学ぶ。

第 10 回	活用学習 PowerPoint (効果的なプレゼン編)	資料作成だけではなく効果的なプレゼ ン手法を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション課題 作成	グループでプレゼン資料を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション課題 発表、評価	グループでプレゼン発表を行い、相互 評価する。
第 13 回	プレゼンテーション課題 相互評価、自己評価	自身の所属するグループの評価を集計 し、自己評価レポートを作成、提出す る。
第 14 回	秋学期まとめ	総括と理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

定期的に課題を与えるので、予習、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出に代えることもある）を行い、平常点や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを多用し、授業の進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力を養うのでコンピュータを基礎から学びたい学生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業に関しての質問は、メールでも受け付ける。

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群	1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業]
情報科学実習Ⅱ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群	1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業]
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（f コース）（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群	1・2 年次 / 4 単位 [年間授業]

小寺 浩二 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報活用・地域環境情報解析コース

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【授業の進め方と方法】

春学期は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用方法を身につけた上で、秋学期には、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用方法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	ハードとソフト
(春期)		
第 2 回	キーボード入力練習	MYKATYPE を使った入力練習
(春期)		
第 3 回	機器の取り扱いと	起動、終了操作など
(春期)	Windows の操作法	
第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
(春期)		
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
(春期)		
第 6 回	通信入門	電子メールの送受信とブラウザ利用
(春期)		
第 7 回	通信応用	Web ブラウザとデータベースの活用
(春期)		
第 8 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
(春期)		
第 9 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
(春期)		
第 10 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
(春期)		
第 11 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
(春期)		
第 12 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
(春期)		
第 13 回	総合実習 1	Excel での解析と Word でのレポート
(春期)		
第 14 回	総合実習 2	PowerPoint を用いた実際の発表
(春期)		

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？	地域科学・環境科学と様々な情報
(秋期)		
第 2 回	GIS と SIS	地理情報システムと空間情報システム
(秋期)		
第 3 回	様々な地域環境情報とその収集・管理・活用法	公的機関の HP など
(秋期)		
第 4 回	地図を作ろう	階級区分図
(秋期)		
第 5 回	コンビニエンスストアの分布図	具体的事例 1
(秋期)		
第 6 回	東京都の地価分布図	具体的事例 2
(秋期)		
第 7 回	八王子市の土地利用変化	具体的事例 3
(秋期)		
第 8 回	水質調査マップ	具体的事例 4
(秋期)		
第 9 回	ヒートアイランドと環境パラメータ評価	具体的事例 5
(秋期)		
第 10 回	フリーソフトで作る空間情報社会	GIS の活用 1
(秋期)		

第 11 回	測地系と座標変換	GIS の活用 2
(秋期)		
第 12 回	統計GIS プラザ・国勢調査データ・白地図活用	具体的なデータの活用法
(秋期)		
第 13 回	総合実習 1	GIS ソフトによる分布図作成と解析
(秋期)		
第 14 回	総合実習 2	総合的な時空間解析
(秋期)		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

秋学期：同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。

【テキスト（教科書）】

春学期：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。
秋学期：後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』，古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』，古今書院
・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ ArcGIS 身近な事例で学ぼう』，古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ ArcGIS Part2 GIS 実戦に向けてのステップアップ』，古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、課題（30 %）、試験（春学期 20 %・秋学期 20 %）を合わせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
SIS
GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群

情報科学実習Ⅱ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（f コース）（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群

1・2 年次／2 単位 [春学期授業]

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業]

1・2 年次／4 単位 [年間授業]

築城 厚三 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。はじめは、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎から実践的な活用法に触れる。その後、画像編集ソフトから描画ソフト、DTP（DeskTop Publishing）ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【授業の進め方と方法】

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop（画像編集ソフト）までを扱い、秋学期には Illustrator（描画ソフト）と InDesign（DTP ソフト）を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。また、実習授業なので、各自のやりたいことがあればそれに沿って柔軟に内容を検討する。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。
2	ワープロソフトの基本操作 1	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
3	ワープロソフトの基本操作 2	レポート、論文の書き方について、課題提示。
4	表計算ソフトの基本操作 1	基本操作から簡単な関数。
5	表計算ソフトの基本操作 2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
6	表計算ソフトの基本操作 3	データベース、グラフ機能、課題提示。
7	表計算ソフトの基本操作 4	実習、課題について回答例提示、解説。
8	プレゼンテーションソフトの基本操作 1	アニメーション、スライドマスタ、リハーサル機能、効果的なプレゼン方法。
9	プレゼン準備	実習、プレゼン準備。
10	プレゼン実習・講評	プレゼン、相互評価。この先の展望。DTP で扱うソフトについて。画像編集ソフトに触れてみる。
11	画像編集ソフトの基本操作 1	これから使うソフトでできること。
12	画像編集ソフトの基本操作 2	写真の加工、レイヤーについて。
13	画像編集ソフトの基本操作 3	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
14	画像編集ソフトの基本操作 4	素材加工実習、課題提示。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	画像編集ソフト実習（復習）	実習、素材加工。
16	描画ソフトの操作方法 1	シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
17	描画ソフトの操作方法 2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
18	描画ソフトの操作方法 3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
19	描画ソフトの操作方法 4	パスの練習、さまざまな機能。
20	描画ソフト実習 1	実習、ロゴ等の作成。
21	描画ソフト実習 2	実習、ロゴ等の作成。
22	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォント、縦組みと横組み。
23	DTP ソフトの操作方法 2	レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
24	DTP ソフトの操作方法 3	テキストの流し込み、文字の編集。

25	DTP ソフトの操作方法 4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
26	DTP ソフト実習 1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
27	DTP ソフト実習 2	最終課題提示、実習、課題作成。
28	DTP ソフト実習 3	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使用した資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に授業支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ
築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ
『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン
『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ
『デザインの学校 これからはじめる InDesign の本』技術評論社

【成績評価の方法と基準】

出席時の取り組み状況（50 %）、課題提出の状況（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、出席調査票やメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓からの一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。

【その他の重要事項】

コンピュータの数に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。
文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めする。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群
 情報科学実習Ⅱ（f コース）（2016 年度以降入学者）専門基礎科目 A 群
 情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（f コース）（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群

1・2 年次 / 2 単位 [春学期授業]
 1・2 年次 / 2 単位 [秋学期授業]
 1・2 年次 / 4 単位 [年間授業]

永保 敏伸 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報活用＜地域環境情報解析＞コース

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である。

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある。

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。講義の進捗は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコン（Windows）の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第 2 回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第 3 回	クラウドコンピューティング	Onedrive や GoogleDrive などを活用したデータの保管方法
第 4 回	ワープロ基礎（Word）	基本操作の確認
第 5 回	ワープロ応用（Word）	文章構成の練習
第 6 回	プレゼンテーション①（PowerPoint）	実習やゼミなどで行う発表の準備
第 7 回	プレゼンテーション②（PowerPoint）	基本操作の確認
第 8 回	プレゼンテーション③（PowerPoint）	表・図形・写真の投影方法
第 9 回	表計算ソフト①（Excel）	基本操作の確認 データに応じた図表の作成方法確認
第 10 回	表計算ソフト②（Excel）	オートフィルタを用いた数値の処理
第 11 回	表計算ソフト③（Excel）	関数を用いた基礎的な集計処理
第 12 回	表計算ソフト④（Excel）	条件式など複雑な関数を用いた処理
第 13 回	空間情報解析の導入（MANDARA）	GIS ソフトを用いた主題図作成
第 14 回	総合実習	プレゼンテーションソフトを用いた実際の発表

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？GIS と SIS	地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第 2 回	地域環境情報とその収集・管理・活用	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う

第 3 回	地図（主題図）作成	階級区分図の作成
第 4 回	地図情報の取得	国土地理院提供の白地図を作成するための地図データを扱う
第 5 回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第 6 回	ジオコーディング入門	住所や GPS を用いて位置情報を取得する
第 7 回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第 8 回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第 9 回	コンビニエンスストアの出店戦略解析基礎	人口密度の階級区分図にコンビニエンスストアの出店状況を重ねた地図を作る
第 10 回	ヒートアイランド解析	移動観測した気温データを地図上で等値線図として描画する
第 11 回	ヒートアイランドと環境パラメーター	気温データ分布と土地利用図を重ね合わせ、その関係性を探る
第 12 回	Google マップ活用	MANDARA で作成した主題図を Google マップへ出力する
第 13 回	総合実習 1	GIS ソフトによる分布図作成と解析
第 14 回	総合実習 2	GIS ソフトによる分布図作成と解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

秋学期：同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。

【テキスト（教科書）】

春学期：授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのGIS講座（第3版）』、古今書院

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017.『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』、技術評論社
 ・佐土原 聡ほか 2005.『図解！ArcGIS 身近な事例で学ぼう』、古今書院
 ・川崎昭如ほか 2008.『図解！ArcGIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』、古今書院

その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30％）とする。

この他、主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30％）を課す。最後に、当該学期を総括する学期末試験（40％）を行う。

上記3要素をあわせて総合的に評価する。

授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。したがって、パソコンにログインするためのIDとパスワードが分かる様にして初回講義に参加すること。

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特にExcelに関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講してください。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

経営管理論Ⅰ

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

経営管理論Ⅱ

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

稲垣 保弘 教授

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[春学期]

経営管理の主要な理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを検討します。

[秋学期]

経営管理論Ⅰの延長であり、経営管理についての主要な理論の中で応用的なものを理解し、パワー作用などハウツー的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討します。

【到達目標】

授業のテーマ（組織のマネジメントの理論と実践）について、受講者の知識と論理的思考力などの能力向上を図り、組織の現実に対応できるような能力を養うこと。

【授業の進め方と方法】

受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です（質問の時間は授業の終わりにとります）。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
2	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
3	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義による管理の理解。
4	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
5	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
6	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
7	モチベーション	組織の中の動機付けについて説明。
8	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。
9	成果主義	日本企業における成果主義について。
10	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程理論について。
11	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
12	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
13	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
14	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期の内容について説明。
2	サイモンの意思決定理論	意思決定の概要について、サイモンの理論を中心に説明。
3	コンティンジェンシー理論	コンティンジェンシー理論の内容と意味。
4	ローレンス＝ローシュの研究	コンティンジェンシー理論の代表的な研究の説明。
5	組織要素の連結	組織の構成単位の連結の様相について。
6	コンフリクト	組織のコンフリクトの解消方法について。
7	組織選択のごみ箱モデル	サイモンの意思決定理論で排除されていた部分を補う理論について。
8	組織の進化論的モデル	組織現象の流れをとらえようとする理論について。
9	組織の効率性と創造性	組織の効率性を高める方法と、創造性を高める方法。
10	組織の機能について	機能というコンセプトの意味。その組織での意味。
11	企業文化について	企業文化の役割とその形成、変革について。
12	リーダーシップの理論	リーダーシップの概念と主要な理論。
13	変革のリーダーシップ	リーダーシップが重要なのは、どのようなケースか。
14	組織のパワー作用	組織のパワー作用について、フランス現代思想、政治学、コンティンジェンシー理論などにもとづいて説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。

【テキスト（教科書）】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房（2002年）を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房（2013年）。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているので、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【その他の重要事項】

関連科目：経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ

マーケティング論Ⅰ

マーケティング論Ⅱ

竹内 淑恵 教授

専門基礎科目 B 群

2 年次 / 2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2 年次 / 2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィリップ・コトラーは「マーケティング (marketing)」とは (mark) に命中させる能力のことである」とし、マーケティング・マネジメントを「標的市場を選択し、優れた顧客価値の創造、伝達、提供を通じて、顧客を獲得、維持、育成する技術である」と定義している。

近年、市場の成熟化に伴って企業の対市場戦略の拡大化が進み、マーケティングは単にプロダクト・マネジャーだけが担えばよいのではなく、経営者を含め、企業全体としてマーケティング志向を持つことが必要になっている。そこで本講義では、マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶとともに、製品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティングの理論と実務について理解する。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身に付ける。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【授業の進め方と方法】

①春学期：マーケティングの概念とその変遷（プロダクト志向、販売志向、ニーズ志向、社会志向など）を理解するとともに、送り手である企業レベル（マーケティング組織、競争戦略、STP など）、受け手である消費者（消費者行動、態度形成、購買行動など）という観点からマーケティングを捉える。あわせて新しい潮流であるリレーションシップ・マーケティングを学ぶ。

②秋学期：マーケティングの要といえる「マーケティングの 4P」、すなわち Product, Price, Promotion, Place について解説するとともに、新しい潮流であるサービス・マーケティング、ブランド・マネジメントに関する知識を習得する。

③春学期・秋学期ともゲストスピーカーを招いて、実際の企業のマーケティング活動について講演をいただく予定である。詳細は決まり次第、授業内で伝える。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について概説する。
第 2 回	マーケティング概念とその変遷①	マーケティングの定義、中核概念について説明する。
第 3 回	マーケティング概念とその変遷②	市場の発展とマーケティング・コンセプトの変化について説明する。
第 4 回	マーケティング組織とプロセス管理①	経営戦略とマーケティング戦略、競争地位類型と競争優位化戦略について説明する。
第 5 回	マーケティング組織とプロセス管理②	事業戦略のポートフォリオ、マーケティング機能の拡大と組織について説明する。
第 6 回	市場機会の発見①	市場機会の発見プロセス、セグメンテーションについて説明する。
第 7 回	市場機会の発見②	ターゲティングについて説明する。
第 8 回	市場機会の発見③	ポジショニングについて説明する。
第 9 回	消費者行動①	マーケティングと消費者行動について説明し、消費者行動論の中でも、知覚、学習、関与という概念を学ぶ。
第 10 回	消費者行動②	消費者行動論における知識、態度、購買意思決定について、また、文化という観点から消費者行動について説明する。
第 11 回	事例によるマーケティングへの理解	マーケティングの実務に関連した DVD を見て、マーケティングへの理解を深める。リアクションペーパーを作成して、提出する。
第 12 回	リレーションシップ・マーケティング①	リレーションシップの定義、リレーションシップ・マーケティングについて説明する。
第 13 回	リレーションシップ・マーケティング②	対流通、対消費者とのリレーションについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	2017 年度 (春学期) は、株式会社エウレカ代表取締役顧問 赤坂優氏 (経営学部 OB) をお招きし、「エウレカという会社 - 起業、そして企業経営とマーケティング -」をテーマにご講演いただいた。2018 年度についてはこれから交渉するため、詳細 (日程、内容など) は授業にて伝える。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プロダクト・デザイン①	マーケティングにおける製品の定義、製品戦略、製品ライフサイクルについて説明する。
第 2 回	プロダクト・デザイン②	新製品の普及過程、製品開発プロセスについて説明する。
第 3 回	プライシング・デザイン①	コスト、競争に基づく価格設定について説明する。
第 4 回	プライシング・デザイン②	需要に基づく価格設定について説明する。
第 5 回	コミュニケーション・デザイン①	コミュニケーション・プロセス、統合型マーケティング・コミュニケーションについて説明する。
第 6 回	コミュニケーション・デザイン②	広告コミュニケーションについて説明する。
第 7 回	流通チャネル・デザイン①	流通チャネルの基本について説明する。
第 8 回	流通チャネル・デザイン②	流通チャネルの変化と今後について説明する。
第 9 回	サービス・マーケティング①	サービス財の特徴について説明する。
第 10 回	サービス・マーケティング②	サービス・マーケティングの枠組みについて説明する。
第 11 回	事例によるサービス・マーケティングへの理解	旅行代理店の仕事を通じて、サービス・マーケティングの実務への理解を深める。DVD を見て、リアクションペーパーを作成し、提出する。
第 12 回	ブランド・マーケティング①	ブランドの本質、基本戦略について説明する。
第 13 回	ブランド・マーケティング②	ブランド・エクイティについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	2017 年度 (秋学期) は、博報堂ブランド・イノベーションデザイン局ディレクター岡田 庄生氏をお招きし、「“つい買いたくなる”を作る、顧客価値の見つけ方」をテーマにご講演いただいた。2018 年度についてはこれから交渉するため、詳細 (日程、内容など) は授業にて伝える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書には基本的な理論が書いてある。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることが大切である。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起っていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認する。

【テキスト（教科書）】

・西尾チヅル編著 『マーケティングの基礎と潮流』 八千代出版 (2007 年)。

【参考書】

- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦 『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
- ・小川孔輔 『マーケティング入門』 日本経済新聞出版社 (2009 年)。
- ・竹内淑恵編著『リレーションシップのマネジメント』文眞堂 (2014 年)。

【成績評価の方法と基準】

- ・春学期、秋学期ともレポート課題 30 点、リアクションペーパー提出 10 点、定期試験 60 点 (計 100 点) とし、評価を決める。
- ・課題レポート、リアクションペーパーを提出しないと単位を取ることは難しいので、必ず提出すること。
- ・定期試験において、学生証番号を誤って記入した場合は、D あるいは E になる。各自が自己責任として注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

- ・日経新聞を用いた事例紹介は興味深いという意見があるので継続する。
- ・私語への注意喚起を徹底したい。
- ・DVD を見て、リアクションペーパーを作成する授業への興味・関心度や参加度が高いので、2018 年度もこの方法を継続する。

【その他の重要事項】

- ・毎回授業の最初に、「今日の日経新聞」と題して、講義内容と関連した記事を解説する。
- ・授業はパワーポイントを使って行い、授業で用いた資料を毎回プリントして配布する。また、授業支援システムを用いて資料を配布する。
- ・マーケティング論Ⅰ/Ⅱは、3 年次以降に履修することになるマーケティング関連の専門科目 (消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど) の基礎科目として重要である。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めする。

4

専門基礎科目 A 群 / B 群

マーケティング論Ⅰ

マーケティング論Ⅱ

長谷川 翔平 准教授

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングの役割や方法は、時代と共に変化してきている。近年では、スマートフォンの普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。消費者は製品の比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業では、マーケティングの基礎を学ぶと同時に、環境の変化に対して応用できる知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を理解する。
- ・環境の変化に対応したマーケティング戦略を考えることができる。
- ・身近にある商品でどのようなマーケティングが行われているか説明できる。

【授業の進め方と方法】

【春学期】

マーケティングの基礎概念を学んだ後に、市場機会の発見とマーケティング・ミックスについて学ぶ。マーケティング・ミックスとは、「4P」とも呼ばれるマーケティングの基本概念であり、Product（製品）、Price（価格）、Promotion（プロモーションまたはコミュニケーション）、Place（流通）の 4 項目で構成される。春学期では、このマーケティング・ミックスの各項目の戦略を中心に学んでいく。

【秋学期】

春学期に学んだマーケティング・ミックスの考えを応用させた発展的な内容について学ぶ。扱うトピックとしては、マーケティング戦略策定をデータから支援するマーケティング・リサーチ、製品とは異なる形の無い財であるサービスに関わるマーケティング、消費者の意思決定過程に焦点をあてる消費者行動、優良顧客の発見と維持・育成を目的とした顧客管理などが挙げられる。その他にも、インターネットの普及やグローバル化によるマーケティングの変化を、最近の事例を参考に学んでいく。

【授業の方法】

PowerPoint のスライドを用いた授業を行う。スライドは講義資料として配布する。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	春学期ガイダンス	授業の概要説明とイントロダクション
2	市場機会の発見 (1)	市場分析と市場機会の発見
3	市場機会の発見 (2)	STP マーケティング
4	製品戦略 (1)	新製品開発
5	製品戦略 (2)	製品ライフサイクル
6	製品戦略 (3)	ブランドの役割と構築
7	価格戦略 (1)	価格の影響と価格決定の方法
8	価格戦略 (2)	実務的な価格戦略
9	コミュニケーション戦略 (1)	コミュニケーションの役割
10	コミュニケーション戦略 (2)	コミュニケーション戦略の立案と効果測定
11	流通戦略 (1)	流通チャネルの種類と機能
12	流通戦略 (2)	垂直的マーケティングシステム
13	流通戦略 (3)	サプライチェーンマネジメント
14	春学期まとめ	春学期のまとめと復習

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	秋学期ガイダンス	授業の概要説明とイントロダクション
2	マーケティング・リサーチ (1)	データの種類と収集方法
3	マーケティング・リサーチ (2)	一次データの分析モデル
4	マーケティング・リサーチ (3)	二次データの分析モデル
5	サービス・マーケティング (1)	製品とサービスの違い
6	サービス・マーケティング (2)	サービス・トライアングル
7	サービス・マーケティング (3)	サービス・ドミナント・ロジック
8	顧客管理 (1)	関係性マーケティングと CRM
9	顧客管理 (2)	RFM 分析と顧客生涯価値
10	消費者行動 (1)	消費者行動の理論とモデル
11	消費者行動 (2)	行動経済学のマーケティングへの応用
12	国際マーケティング	海外進出時のマーケティング戦略
13	インターネット・マーケティング	インターネットによる新しいマーケティング手法

14 秋学期まとめ

秋学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品・サービスは、どのように広告が展開され、またどのような販路・方法で売られているか、よく観察して欲しい。

【テキスト（教科書）】

なし。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・和田、恩蔵、三浦『マーケティング戦略 第 4 版』有斐閣（2012 年）
- ・小川『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009 年）

その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・企業が行っているマーケティングの実例を紹介するなどして、わかりやすい授業を行う。
- ・私語への注意を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に配布する講義資料は授業支援システムにアップロードする。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・流通論Ⅰ/Ⅱ
- ・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
- ・マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
- ・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
- ・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

マーケティング論Ⅰ

マーケティング論Ⅱ

宮井 弘之 講師

専門基礎科目 B 群

2 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶとともに、製品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目的とする。伝統的なマーケティング諸概念に加え、SNS マーケティング・脳科学マーケティング・コンテンツマーケティングなど今日のトピックについても適宜取り上げる。

【到達目標】

- ・マーケティングの理論と実務について理解する。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・ケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【授業の進め方と方法】

毎回授業の前半は講師より知識伝達型の講義を行う。
内容は学部生でも理解できるよう基礎的なものに留める。
授業の後半ではケーススタディを行う。
授業ごとにリアクションペーパーの提出を指示する。
定期試験は行わない。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方・評価方法・マーケティングの定義などについて
2	マーケティングとは？	マーケティング的なものの考え方、マーケティングの基礎概念について
3	戦略的マーケティング	セグメンテーションとターゲティングという概念について ケース（ライフネット生命）
4	差別化戦略	ポジショニングという概念について ケース（ドトールとスターバックス）
5	コンテンツ・マーケティング	KADOKAWA のケースを用いながらコンテンツマーケティングの基礎について
6	ニューロマーケティング	脳科学を活用した研究成果について ケース（白鶴酒造）
7	価格マネジメント（1）	製品やサービスに対する値付けについて
8	価格マネジメント（2）	ケースとして久原本家を取りあげて価格戦略について理解を深める
9	広告マネジメント（1）	SNS を活用した広告キャンペーンを紹介しながら広告マネジメントについて学ぶ
10	広告マネジメント（2）	ベストセラーとなった「明日の広告」の内容を紹介する
11	チャネル・マネジメント（1）	商品の流通について ケース（資生堂）
12	チャネル・マネジメント（2）	オムニチャネルという考え方について学ぶ
13	在庫のマネジメント	製品の在庫マネジメントについて学ぶ ケース（アマゾン）
14	演習	講義中にレポート課題を行い、提出する

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期の振り返り	春学期 1 4 回の授業のハイライトをまとめる
16	営業のマネジメント	製品やサービスを販売する人材である営業について ケース（サントリー）
17	ブランド構築のマネジメント（1）	ブランド構築についての基礎を学ぶ
18	ブランド構築のマネジメント（2）	ブランド構築についてケースを用いて学ぶ
19	顧客理解	顧客理解の様々な手法や概念を学ぶ ケース（J リーグ）
20	顧客関係のマネジメント	カスタマー・リレーションシップ・マネジメント（CRM）について
21	国際マーケティング	アセアンを市場としたマーケティングについて学ぶ
22	製品のマネジメント	製品開発や改善について学ぶ ケース（カルビー）
23	消費者行動（1）	消費者を研究する方法や概念について
24	消費者行動（2）	ケースを用いて消費者行動について理解する

25	企業の社会的責任	企業がマーケティングを通じて果たすべき責任について
26	市場創造（1）	新しい市場を創造する方法論について
27	市場創造（2）	先進的な消費者群（トライブ）を用いたイノベーション支援について
28	演習	講義中にレポート課題を行い、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で利用するレジュメは予めダウンロード可能にしておくため、目を通しておけば予習となる。適宜参考文献を提示するので興味のあるものは図書館で借りるなどして確認すれば良い。

【テキスト（教科書）】

1 からのマーケティング（石井 淳蔵）（碩学社）2009 年

【参考書】

参考文献は多岐にわたるため適宜提示する

【成績評価の方法と基準】

- ・春学期、秋学期ともレポート課題 60%、リアクションペーパー提出 40%とし、評価を決める。
- ・課題レポート、リアクションペーパーを提出しないと単位を取ることは難しいので、必ず提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今期から開講のためありません。

【学生が準備すべき機器他】

資料は授業支援システムを用いて PDF にてダウンロード形式で配布する。従ってタブレットや PC などペーパーレスで閲覧できる機器があると望ましい。スマートフォンでは画面が小さく見にくいと思われる。

【その他の重要事項】

・マーケティング論は、3 年次以降に履修することになるマーケティング関連の専門科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ、サービス・マネジメント論、流通論など）の基礎科目として重要である。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めする。
講師の経営している会社、<https://seedata.co.jp/blog> から様々な情報発信があるので興味のある人間は確認されたい。

【関連科目】

消費者行動論、マーケティング・リサーチ、サービス・マネジメント論

会計学入門Ⅰ

会計学入門Ⅱ

川島 健司 教授

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表の「作り方」と「読み方」を体系的に講義する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、読み方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。

本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「簿記」「会計原理と会計原則」「財務諸表分析」「会計学に必要なファイナンス」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計学について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【授業の進め方と方法】

1 年間（春学期・秋学期）の全体を以下の4つのパートに分割する。

第1部「簿記」（春学期・第1回～第7回）

第2部「会計原理と会計原則」（春学期・第8回～第14回）

第3部「財務諸表分析」（秋学期・第1回～第7回）

第4部「会計学に必要なファイナンス」（秋学期・第8回～第14回）

春学期の第1部と第2部は財務諸表の作り方、秋学期の第3部と第4部は財務諸表の読み方に関する内容である。第4部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、春学期（財務諸表の作り方）と秋学期（財務諸表の読み方）はどちらの順番で履修しても差し支えない。

本講義では企業名を隠して、実際の公表財務諸表を分析する。受講生は、勘定科目の内容や財務構成を分析することを通じて、手にした財務諸表がどの業界のどの企業のものかを推論する。その目的は、イメージや先入観にとらわれずに企業実態の性質的特徴について理解することである。

本講義では、受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、春学期・秋学期で各2回ずつ、質疑応答の回を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と構成	会計学を学ぶ意義や目的を受講生全員で認識、共有する。
2	簿記と財務諸表	収支計算書、損益計算書、貸借対照表の3書類について、それぞれの目的と相互関係を解説する。
3	簿記一巡の手続き	複式簿記を前提に、簿記一巡の手続きを数値例を用いて解説する。
4	財務活動に関する処理	資金調達とその還元に関する取引の記帳方法について解説する。
5	営業活動に関する処理 (1)	材料を購入し、製造し、販売する一連の取引を学習する。
6	営業活動に関する処理 (2)	引当処理と代表的な経過勘定項目について解説する。
7	投資活動に関する処理	固定設備を購入し、使用し、処分するまでの流れを記録する方法を解説する。
8	簿記1～簿記6の確認と議論	簿記1～簿記6の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。
9	会計の目的	会計の目的を理解し、その目的達成のためにどのような財務報告が求められるかを考察する。
10	利益計算の考え方：損益法と財産法	利益の計算方法には損益法と財産法という2つの異なる方法があることを理解する。
11	収益・費用の認識と測定：現金主義と発生主義	収益・費用の認識基準と測定方法について会計学の観点から検討する。
12	資産と負債の認識と測定：原価主義と時価主義	資産・負債の認識基準と測定方法について会計学の観点から検討する。
13	費用収益対応の原則	有形固定資産の会計処理を題材に、合理的な期間損益計算を達成するための対応原則について解説する。
14	会計基準を読む：『企業会計原則』と『国際財務報告基準』	会計処理の拠り所となる会計基準の必要性、その歴史と設定方法を解説する。

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	財務諸表の入手と概観	財務諸表分析にあたり、必要な情報の収集方法を解説。
2	損益計算書の読み方	損益計算書の様式、段階的に利益を計算・表示する意義、企業の収益性を評価する財務指標を解説。
3	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動・固定の分類基準、企業の弁済能力の評価指標を解説。
4	利益調整の分析 (Earnings Management)	代替的な会計処理の手続きの存在を確認し、その選択と利益計算との関係を理解し、財務諸表の作り手の意図（動機）を推察する。
5	資産評価方法の分析 (Measurement Management)	資産の評価方法が利益計算とどのように関係するかを理解し、そこにどのような財務諸表の作り手の意図が存在しうるかを考察する。
6	表示方法の分析 (Presentation Management)	財務数値の表示選択に関する分析手法を紹介する。とくに、財務数値のグラフ表現について解説。
7	財務諸表分析 1～財務諸表分析 6 の確認と議論	財務諸表分析 1～財務諸表分析 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。
8	会計情報と企業価値評価	ファイナンスの知見を導入すると企業実態の見え方がいかに変わるかを解説。
9	割引キャッシュ・フロー	割引キャッシュ・フローとその測定方法について解説する。
10	資本コスト	企業のリスク尺度としての資本コストについて解説する。
11	割引配当モデルから残余利益モデルへ	会計情報と企業価値が理論的にどのように関係するかについて考察する。
12	配当政策と資本構成	資金調達と配当に関する基礎的な理論 (MM 理論や最適資本構成) を解説。
13	オプション評価モデル	基本的なオプション評価モデルを解説し、これに関する会計処理としてストック・オプション会計を解説。
14	ファイナンス 1～ファイナンス 6 の確認と議論	ファイナンス 1～ファイナンス 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、企業のホームページからダウンロードして持参することとする。入手方法の詳細は講義内で説明する。

【テキスト（教科書）】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005 年。
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版、白桃書房、2014 年。
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の2点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

本講義は、事前に「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくことよい。その場合、各種専門学校（TAC、大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

会計学入門Ⅰ

会計学入門Ⅱ

坂上 学 教授

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識は必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】

企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、理解を深めるための補助教材として、適宜プリントなどを配布する予定である。途中、1～2 回ほどミニテストを実施するかもしれない。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第 2 回	会計の種類	会計には、どのような種類があるのかについて説明する。
第 3 回	会計の役割	会計の役割について、説明する。
第 4 回	財務会計のシステム（1）	複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 5 回	財務会計のシステム（2）	前回に引き続き、複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 6 回	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則にはどのようなものがあるのかを解説する。
第 7 回	企業の設立の会計	企業の設立に関して、会計がどのように関わっているのかについて解説。
第 8 回	企業の資金調達	企業が営業活動をおこなうにあたって必要となる資金調達がどのようにおこなわれているのかについて解説する。
第 9 回	仕入活動の会計	企業の仕入活動について、どのように会計処理がなされるのかについて解説する。
第 10 回	生産活動の会計	企業の生産活動について、どのように原価を把握しているのかについて解説する。
第 11 回	販売活動の会計（1）	企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうのかについて解説する。
第 12 回	販売活動の会計（2）	前回に引き続き、企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうのかについて解説する。
第 13 回	設備投資の会計	設備投資に関わって、減価償却などの会計処理について解説する。
第 14 回	研究開発の会計	研究開発に関わる会計処理について解説する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期の復習と秋学期授業の進め方	春学期に学習した内容について復習し、秋学期の授業の進め方について説明する。
第 16 回	資金の管理の会計	資金をどのように管理したらよいかについて、解説する。
第 17 回	資金の運用の会計	資金をどのように運用したらよいかについて、解説する。
第 18 回	国際活動の会計（1）	企業の経済活動が国際化するにともなう生じる会計問題について、解説する。
第 19 回	国際活動の会計（2）	企業の経済活動が国際化するにともなう生じる会計問題について、解説する。
第 20 回	税金の会計	税金に関する会計処理について、解説する。
第 21 回	配当の会計	配当に関する会計処理について、解説する。

第 22 回	財務諸表の作成	財務諸表がどのように作成されるのかについて、解説する。
第 23 回	財務諸表の公開	財務諸表がどのように公開されるのか、制度的な枠組みについて解説する。
第 24 回	企業集団の財務報告（1）	連結決算について、解説する。
第 25 回	企業集団の財務報告（2）	前回に引き続き、連結決算について、解説する。
第 26 回	財務諸表による経営分析（1）	財務諸表を利用した経営分析の初歩的な知識について解説する。
第 27 回	財務諸表による経営分析（2）	前回に引き続き、財務諸表を利用した経営分析の初歩的な知識について解説する。
第 28 回	本講義のまとめ	春学期・秋学期の内容についてまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ、第 10 版補訂（もしくは最新版）

【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、最新版

【成績評価の方法と基準】

おおむね期末試験 80%、ミニテスト等 20% の割合で、総合的に評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

私語をしている人を注意してくれて良かったという感想の学生が多いので、なるべく静かな環境で講義が受けられるように、最大限の配慮をおこないたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでスライドを表示しながら講義を進めるが、特に特別な機器等は必要ない。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

科目の性格上、1 年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しいかもしれないので、同時並行で簿記の学習を行うことを強く推奨する。

4

専門基礎科目 A 群／B 群

会計学入門Ⅰ

会計学入門Ⅱ

筒井 知彦 教授

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次以降、会計を中心に学ぶ学生にはもちろん、経営学部その他の分野を学ぶ学生にとっても会計の基礎は必須です。本講義は初めて会計学を学ぶ学生を対象に、(1) 企業会計の基本となる考え方と、(2) それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とします。

【到達目標】

(1) 企業会計の基本となる考え方と、(2) それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とします。

【授業の進め方と方法】

春学期

財務諸表を利用する立場から、主要な財務諸表の読み方、財務データを利用した経営分析のやり方を学ぶ。任天堂やソニーなどの財務諸表を適宜利用する。基本的には講義形式を取るが、関連するテーマについてビデオを見たり、授業中、学生諸君に問題を解いてもらうことがある。

秋学期

会計学入門Ⅱでは、(1) 損益計算書に計上される収益や費用がどのような考え方に基づいて計算されているか、(2) 貸借対照表に計上される資産、負債、資本がどのような考え方にもとづいて評価されているかについて、基本的な考え方を学ぶ。

基本的には講義形式をとるが、適宜、学生諸君には授業中に計算問題を解いてもらう。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計数値の意味
2	会計とは何だろうか？	貸借対照表、損益計算書のしくみ
3	会計の法規制	金融商品取引法、会社法、法人税法の意義と仕組み
4	貸借対照表の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には、両者の貸借対照表の3カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
5	損益計算書の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には両社の3カ年の数値の変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
6	キャッシュフロー計算書仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。両社の3カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
7	貸借対照表データを利用した経営分析 (1)	流動比率、固定比率
8	貸借対照表データを利用した経営分析 (2)	固定長期適合率、株主資本比率
9	貸借対照表データを利用した経営分析 (3)	任天堂とセガの事例をもとに、流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率を受講生が3カ年について時系列分析する。
10	損益計算書データを利用した経営分析 (1)	売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率
11	損益計算書データを利用した経営分析 (2)	任天堂とセガの事例をもとに、売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率を受講生が3カ年について時系列分析する。
12	ROE、ROA などの経営分析指標	株主資本利益率、総資本事業利益率
13	経営分析の実践	任天堂とセガについて、講義で行った両社の諸比率データをもとに分析する。
14	まとめ	春学期の講義について総復習と問題演習を行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計理論を学習する意味
2	収益の会計 (1)	収益の認識について、3つの基準を理解し、原則となる実現基準の内容を把握する。
3	収益の会計 (2)	収益の認識について例外的な発生基準、現金基準の内容を把握する。
4	収益の会計 (3)	発生基準についてゼネコンの事例をもとに、会計処理方法の変更を分析し、工事完成基準と工事進行基準の問題演習を行う。

5	費用の会計 (1)	棚卸資産①：先入先出法、後入先出法、総平均法の3つの評価基準について学習し、受講生が計算問題を解く。
6	費用の会計 (2)	棚卸資産②：石油元売り企業の事例をもとに、会計方針の変更について学習する。
7	費用の会計 (3)	有形固定資産の減価償却について、意義や処理方法について学習する。
8	費用の会計 (4)	有形固定資産の減損について、費用配分と評価の違い、現在価値計算の方法、会計処理方法について学習する。
9	費用の会計 (5)	繰延資産について前払費用と繰延資産の違い、即時費用化と繰延の違い、繰延資産の5項目の内容について学ぶ。
10	負債の会計	引当金について、繰延資産と引当金の違い、引当処理の方法、ポイント引当金について学習する。
11	資本の会計	純資産の部の内容について学ぶ。
12	金融資産の会計 (1)	資金調達・運用の手段である株式、社債の内容と違いについて学ぶ。合わせて資金調達方法としての借入金について学習する。
13	金融資産の会計 (2)	有価証券の評価について、保有目的により評価基準が異なることから、売買目的有価証券と満期保有目的有価証券について学ぶ。
14	まとめ	秋学期の講義について総復習と問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にテキストの該当する部分を予習するとともに、講義後には配布したプリントを読み直し復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

桜井久勝「会計学入門（第4版）」日経文庫 2015 年
桜井久勝「財務会計講義 第18版」中央経済社 2017 年

定評のあるテキストである。
(注) ここに示したテキストはシラバス執筆時点での最新版ですが、開講時までに改訂版が出版されることがあります。その場合には最新版を使用します。参考書の詳細な説明は第1回の授業で説明しますので、それまでは購入を合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（80 %）と平常点（20 %）を総合して決定する。平常点には小レポートの評価を含む。

【学生の意見等からの気づき】

- ①私語について厳しく対処します。
- ②リアクションペーパーにコメントや質問を記入してもらい、数回に一回の講義でコメントします。
- ③問題練習を適宜行います。

【その他の重要事項】

会計学入門ⅠとⅡは通年で履修することを前提としているので、春学期・秋学期を続けて履修してください。

【関連科目】

1 年次の簿記入門を履修済みであればさらに理解は深まると思われる。未履修の場合、並行履修することが望ましい。

基礎統計学Ⅰ

基礎統計学Ⅱ

猪狩 良介 専任講師

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が着目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、春学期はデータの記述および確率について、秋学期は統計的推論を中心に学習します。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料に沿って講義形式で進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・授業後によく復習をする必要があります。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：統計学とは	本授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
2	統計学の概要	データとは何か、またデータの種類を学びます。また、母集団と標本や、確率、仮説検定、回帰分析などの統計学の基本概念を学びます。
3	データの記述 (1) 図表の作成	データの特徴を把握するための、度数分布表とヒストグラムを学びます。
4	データの記述 (2) 中心を表す標本特性値	データの特徴 (中心) を見るための、平均・中央値・最頻値を学びます。
5	データの記述 (3) ばらつきを表す標本特性値	データの特徴 (ばらつき) を見るための、分散と標準偏差を学びます。
6	データの記述 (4) データの変換／範囲と割合の関係	データ変換と標準化を学びます。また、データの範囲と割合の関係を学びます。
7	相関 (1) 散布図／共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
8	相関 (2) 相関係数／相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなどの注意点を学びます。
9	確率 (1) 確率の基礎概念	標本空間と確率の定義や、基本的な確率の計算方法を学びます。
10	確率 (2) 様々な確率	先験的確率・経験的確率・主観的確率について学びます。
11	確率 (3) 和・積事象の確率／ベイズの定理	和事象および積事象の確率を学びます。また、ベイズの定理を学びます。
12	確率変数と確率分布 (1) 単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義や、単一の確率変数についての期待値と分散を学びます。
13	確率変数と確率分布 (2) 複数の確率変数	複数の確率変数の期待値や分散について学びます。
14	まとめ	春学期に学習した内容を復習し、まとめを行います。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期に学習する内容を説明します。また、春学期に学習した内容を復習します。
16	主要な確率分布 (1) 離散確率分布	代表的な離散確率分布であるベルヌーイ分布と 2 項分布を学びます。
17	主要な確率分布 (2) 連続確率分布	代表的な連続確率分布である正規分布を学びます。
18	主要な確率分布 (3) 確率変数の和と平均の分布	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
19	母数の推定 (1) 基本概念	母集団と標本、また推定と推定量の概念を学びます。
20	母数の推定 (2) 点推定の統計的性質	母割合や母平均の点推定およびその統計的性質を学びます。
21	母数の推定 (3) 区間推定	母割合や母平均の区間推定を学びます。
22	仮説検定 (1) 母平均の仮説検定	統計的仮説検定の手順を学びます。特に、母平均の検定について学びます。

23	仮説検定 (2) 差の検定	2 つの母集団の「母数の差」の検定について学びます。
24	正規分布の派生分布 (1) カイ 2 乗分布	カイ 2 乗分布と母分散の区間推定について学びます。
25	正規分布の派生分布 (2) t 分布	t 分布と母平均の t 検定について学びます。
26	回帰分析の基礎 (1) 基本概念／最小 2 乗法	回帰分析の基礎概念を学びます。また、回帰分析の推定法である最小 2 乗法を学びます。
27	回帰分析の基礎 (2) 最小 2 乗推定量／決定係数	最小 2 乗法の計算と、回帰分析の当てはまりの指標である決定係数を学びます。
28	まとめ	秋学期に扱った内容の全体を復習し、より発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。

【テキスト（教科書）】

- ・藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』東洋経済新報社。

【参考書】

- ・小島寛之 (2006) 『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社。
- ・鳥居泰彦 (1994) 『はじめての統計学』日本経済新聞社。
- ・山本庸平 (2017) 『統計学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題 (40%)
- ・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる関数電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要です。

【関連科目】

計量経営分析Ⅰ/Ⅱ

基礎統計学Ⅰ

基礎統計学Ⅱ

高橋 慎 准教授

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。収集されたデータをまとめて、見やすく整理する方法は「記述統計」と呼ばれます。また、データを生み出した背後の構造を推論することは「推測統計」あるいは「統計的推測」と呼ばれます。この授業では、「記述統計」と、「確率論」に基づく「推測統計」の基礎的事項を学びます。

【到達目標】

・統計学の基本的な考え方を理解し、データの整理・要約ができる。
・簡単な手法については、データを用いて実際に計算し、結果をまとめることができる。

【授業の進め方と方法】

・講義形式で進めます。
・板書は補助的に使用しますので、適宜ノートを取ることも求められます。
・トピック毎に練習問題を解いて理解を深めます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス / 統計学とは	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第 2 回	統計学の概要	無作為抽出、確率、仮説検定、回帰分析などの統計学の分析概念を学びます。
第 3 回	データの記述 1 : 図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第 4 回	データの記述 2 : 中心を表す標本特性値	データの中心を表す 3 つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第 5 回	データの記述 3 : ばらつきを表す標本特性値 / データの線形変換	データのばらつきの程度を表す標本分散と標本標準偏差を学びます。また、データを線形変換することによって標本特性値がどのように変化するかを学びます。
第 6 回	データの記述 4 : 範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第 7 回	相関 1 : 散布図 / 標本共分散	散布図を利用して 2 つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2 つの変数間の相関関係を表す標本共分散を学びます。
第 8 回	相関 2 : 標本相関係数 / 標本相関係数の注意点	2 つの変数間の相関関係を表す標本相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、標本相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
第 9 回	確率 1 : 確率の基礎概念	標本空間や確率の定義など、確率の基礎となる概念を学びます。
第 10 回	確率 2 : 同時確率と条件付き確率	加法定理や乗法定理などの確率についての定理を学びます。
第 11 回	確率 3 : 独立 / ベイズの定理	独立の定義を学びます。また、原因と結果を確率的に考える際に有用なベイズの定理を学びます。
第 12 回	確率変数と確率分布 1 : 単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義、単一確率変数の期待値や分散などを学びます。
第 13 回	確率変数と確率分布 2 : 複数の確率変数	複数の確率変数の分布、期待値、共分散、相関係数などを学びます。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に扱った内容を復習し、秋学期で扱うトピックを紹介しします。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期ガイダンス / 確率論の復習	秋学期の授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、春学期に学んだ確率論の内容を復習します。
第 16 回	主要な確率分布 1 : 離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第 17 回	主要な確率分布 2 : 連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。

第 18 回	主要な確率分布 3 : 確率変数の和と平均の分布	母集団分布の形状が分からない場合でも確率変数の和や平均の分布は正規分布で近似できること（中心極限定理）を学びます。
第 19 回	母数の推定 1 : 基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第 20 回	母数の推定 2 : 点推定の統計的性質	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第 21 回	母数の推定 3 : 区間推定	母数についての仮説とデータが整合的かどうかを検証する方法（仮説検定）の手順と基本概念を学びます。
第 22 回	仮説検定 1 : 母平均の仮説検定	2 つの母集団の間の「母数の差の有無」を検定する方法を学びます。
第 23 回	仮説検定 2 : 差の検定	カイ 2 乗分布の定義とそれを用いた母分散の区間推定を学びます。
第 24 回	正規分布の派生分布 1 : カイ 2 乗分布	t 分布の定義とそれを用いた母平均の推定と検定（t 検定）を学びます。
第 25 回	正規分布の派生分布 2 : t 分布	変数間の関係を数量的に測る方法のひとつである回帰分析の基本概念を学びます。また、代表的な推定法である最小 2 乗法を学びます。
第 26 回	回帰分析の基礎 1 : 基本概念 / 最小 2 乗法	最小 2 乗法による推定量の求め方を学びます。また、当てはまりの尺度である決定係数の定義と性質を学びます。
第 27 回	回帰分析の基礎 2 : 最小 2 乗推定量の導出 / 決定係数	秋学期に扱った内容を復習し、より発展的なトピックを紹介しします。
第 28 回	秋学期のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業後に配布資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・テキストの練習問題のいくつか（授業内で示します）を宿題とします。

【テキスト（教科書）】

数友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社

【参考書】

・小島寛之 (2006) 『完全独習 統計学入門』 ダイアモンド社
・鳥居泰彦 (1994) 『はじめての統計学』 日本経済新聞社
・山本庸平 (2017) 『統計学 15 講』 新世社

【成績評価の方法と基準】

・宿題： 40%
・期末試験： 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには統計計算ができる関数電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）が必要です。

【その他の重要事項】

本年度担当初年度ため積極的なフィードバックを歓迎します。

【関連科目】

計量経営分析 I / II

経営戦略論Ⅰ

経営戦略論Ⅱ

吉田 健二 教授

専門基礎科目B群

2～4年次／2単位 [春学期授業]

専門基礎科目B群

2～4年次／2単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【授業の進め方と方法】

講義を行います。ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。

板書されないことでも、自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
2	経営戦略の概念（1）	経営戦略とは何か
3	経営戦略の概念（2）	経営戦略の3つのレベル
4	経営戦略の概念（3）	経営戦略の要素
5	経営戦略の策定プロセス（1）	経営戦略の策定プロセス
6	経営戦略の策定プロセス（2）	SWOT 分析
7	経営理念	経営理念
8	企業ドメイン	企業ドメイン
9	外部環境分析（1）	顧客分析
10	外部環境分析（2）	競争業者分析
11	外部環境分析（3）	業界分析
12	外部環境分析（4）	マクロ環境分析
13	自社能力分析（1）	自社能力分析
14	自社能力分析（2）	コア・コンピタンス、バリューチェーン

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの説明と春学期の復習
2	事業戦略（1）	3つの基本戦略
3	事業戦略（2）	差別化戦略
4	事業戦略（3）	コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略
5	事業戦略（4）	先制攻撃、ブルー・オーシャン戦略
6	事業戦略（5）	競争地位別の戦略
7	事業戦略（6）	製品のライフサイクル
8	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
9	企業戦略（2）	多角化戦略
10	企業戦略（3）	参入戦略
11	企業戦略（4）	垂直統合戦略
12	企業戦略（5）	P P M
13	経営戦略の実行（1）	経営戦略の実行
14	経営戦略の実行（2）	戦略の実行の分析フレームワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008年。より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。第1回目の授業で、説明します。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013年。
 - ④ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
 - ⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。
 - ⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。
 - ⑦ ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003年。
- ①②④⑦は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の100年の流れを描いた本で、⑤と⑥は経営戦略論の古典といわれる本です。他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

（経営戦略論Ⅰ）試験（100％）春学期試験によって評価します。
（経営戦略論Ⅱ）試験（100％）秋学期試験によって評価します。
当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

春学期（経営戦略論Ⅰ）と秋学期（経営戦略論Ⅱ）を続けて受講することをお勧めします。

マーケティング論Ⅰ/Ⅱと関連していますので、それらの科目も合わせて履修することをお勧めします。

3年次の専門科目で国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱを履修したい人は、履修することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、月曜日）、「プロフェッショナル 仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

経営戦略論Ⅰ

経営戦略論Ⅱ

李 瑞雪 教授

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	第1講 インTRODクショ	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
2	第2講 プランニング・アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
3	第3講 プランニング・アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT 分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
4	第4講 ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	S-C-P モデル（産業構造・企業行動・経営業績モデル）、ファイブ・フォース・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
5	第5講 ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	PIMS モデル、戦略グループ、移動障壁
6	第6講 ポジショニング・アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収獲戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
7	第7講 ポジショニング・アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。グローバル戦略、マルチショナル戦略、トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破壊的競争など
8	第8講 リソース・ベス・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO 分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
9	第9講 リソース・ベス・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
10	第10講 ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
11	第11講 ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
12	第12講 学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
13	第13講 学習アプローチ、創発戦略（Ⅱ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
14	第14講 競争優位と一般戦略	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えない差別化、垂直的差別化と水平的差別化

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	第15講 ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス

16	第16講 イノベーションと競争優位（Ⅰ）	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、「新結合」、「迅速な追随者」
17	第17講 イノベーションと競争優位（Ⅱ）	イノベーションのジレンマ、持続的技術と破壊的技術、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、リバー・イノベーション、フル・イノベーション
18	第18講 競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
19	第19講 多角化と企業戦略（Ⅰ）	企業戦略、事業展開の方向、企業優位、多角化戦略の定義、多角化の誘因、多角化の類型
20	第20講 多角化と企業戦略（Ⅱ）	多角化戦略の動機、多角化度、多角化度と経営パフォーマンス、ダイナミックな学習プロセスと多角化
21	第21講 垂直統合と企業戦略（Ⅰ）	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buy の意思決定、第3の取引形態
22	第22講 垂直統合と企業戦略（Ⅱ）	取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
23	第23講 国際化と企業戦略（Ⅰ）	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁
24	第24講 国際化と企業戦略（Ⅱ）	OLI フレームワーク、統合化と適応化、国際企業戦略の類型、CAGE フレームワーク、AAA 戦略
25	第25講 吸収合併（M&A: merger and acquisition）（Ⅰ）	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、M&A 戦略と企業パフォーマンスとの関係
26	第26講 吸収合併（M&A: merger and acquisition）（Ⅱ）	ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策の経済的効果
27	第27講 戦略的提携（strategic alliance）	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク
28	第28講 復習、まとめ	春学期と秋学期の講義内容のポイントを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に付け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることをしません。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードします。毎回授業参加に先だって必ず該当する資料を印刷して予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加（+a）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（-a）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

金融論Ⅰ

金融論Ⅱ

林 直嗣 教授

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の血液に相当するのが経済の貨幣である。家計や企業は収入と支出をどうやりくりするのか、政府は税収と財政支出をどう均衡させるのか。各主体が貨幣を用いて金融を行い、経済を成り立たせている仕組みと働きを、理論と実際の両面から理解することが、この授業の目的である。

貨幣とは何か、金融とは何か、現代の貨幣経済の仕組み（制度、システム）と働き（作用、機能、役割）など基礎的な問題を易しく説明する。家計の金融や企業金融など金融のミクロ的な分析を行い、貨幣の供給や需要、インフレ・デフレ・失業、金融政策や財政政策の効果など金融のマクロ的な分析を行う。さらに預金市場、債券市場、株式市場など金融市場について個別に学ぶと共に、経済成長や経済安定のために金融政策をどう行うか、実際の金融政策について勉強する。

本講座は証券経済論、企業財務論、ファイナンス論、国際金融論など金融関係の専門科目を学ぶ上での基礎となる専門基礎科目である。

【到達目標】

貨幣や金融の諸問題を易しく解説することを通じて、履修生が金融への関心や理解を深めると共に、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に講義を行うだけでなく、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。主体的に問題演習を解くことにより、公務員試験、公認会計士試験、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。金融論の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を著実に深めていく方法を探る。受講者の希望によっては証券取引所などを見学する実習を行うこともある。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	金融とは何か、何を学ぶか
2 回	1 部 貨幣と金融	市場経済の発達と貨幣の出現・発展を歴史的に考察
3 回	市場経済と貨幣・金融 (1)	貨幣や金融の基礎的概念を説明
4 回	金融市場と金融機関 (1)	金融市場の形成と役割、種類などを解説
5 回	金融市場と金融機関 (2)	金融機関の種類や役割などを説明
6 回	金融構造と金融システム (1)	金融・銀行制度、金融規制など制度的な側面を解説
7 回	金融構造と金融システム (2)	金融・銀行制度、金融規制など制度的な側面を解説
8 回	2 部 ミクロ分析	消費者・家計の金融の基礎的概念を説明
9 回	家計の金融 (1)	消費者・家計のミクロの金融行動を分析
10 回	家計の金融 (2)	安全資産と危険資産、平均分散接近、期待効用理論の分析
11 回	家計の金融 (3)	投資機会、有効フロンティア、最適ポートフォリオ、分離定理の分析
12 回	企業金融 (1)	コーポレート・ファイナンスの基礎的概念を説明
13 回	企業金融 (2)	MM 理論など企業金融の基礎的理論を説明
14 回	企業金融 (3)	コーポレート・ガバナンス、所有と経営の分離、株式持合などの分析

II 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	3 部 マクロ分析	貨幣の供給と需要のマクロ分析を学習
2 回	貨幣の供給と需要 (1)	貨幣数量説と流動性選好説を解説
3 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (1)	財市場と貨幣市場の同時均衡によるマクロ分析を解説
4 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (2)	完全雇用と不完全雇用での金融政策と財政政策の効果を考察
5 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (3)	不況時での金融政策と財政政策の効果を説明

6 回	インフレとデフレ、失業 (1)	インフレやデフレと失業との関係を解説
7 回	インフレとデフレ、失業 (2)	自然失業率仮説やルーカス供給関数を説明
8 回	インフレとデフレ、失業 (3)	ルールか裁量か、最適政策基準は何かを考察
9 回	4 部 金融市場	身近な金融市場の預金・貸出市場を説明
10 回	預金・貸出市場 短期金融市場	金融政策の出発点となる短期金融市場の分析
11 回	長期金融市場とデリバティブ市場	資本市場、先物やオプションなど金融派生商品市場を説明
12 回	公的金融	郵貯や政府系金融機関の公的金融の解説
13 回	5 部 金融政策	金融の政策主体、政策目標、政策手段を考察
14 回	金融政策の目標と手段、効果 金融政策の方法と種類	金融の政策主体、政策目標、政策手段を考察 段階的アプローチ、ゼロ金利政策、量的金融緩和などを説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む学修態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。

【テキスト（教科書）】

岸 真清・林 直嗣著『現代金融入門』八千代出版（入門の教科書）1997 年
林 直嗣著『問題演習 金融論 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）2009 年

【参考書】

書間文彦著『金融論』新世社（初級の教科書）2011 年

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って定期試験、授業への積極的な貢献度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどを基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 に準拠して「客観的で厳格な（正確な）」成績評価を行う。教員の主観により過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書や問題演習、ノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

【その他の重要事項】

金融・経理・財務の関係職を目指したり、公認会計士やファイナンシャル・プランナーなどの資格取得を目指す学生は、本講座を履修することを特に勧める。

【関連科目】

ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）を先に又は同時に履修し、金融論Ⅰと金融論Ⅱを合わせて履修することが望ましい。証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱ、ファイナンス論Ⅰ/Ⅱなどを履修する上での基礎となる科目である。

4

専門基礎科目 A 群／B 群

金融論Ⅰ

金融論Ⅱ

長原 徹 講師

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

専門基礎科目 B 群

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では金融理論の基礎について解説するとともに、それを使って現実のさまざまな経済現象を分析・理解する方法を紹介していく。

具体的には、貨幣および金融の基本概念、家計の金融や企業金融など金融のミクロ分析、貨幣の供給と需要、インフレ・デフレ・失業、金融政策や財政政策の効果など金融のマクロ分析を行う。また、1990 年代後期の民間銀行による貸し渋りや 2000 年代に日本銀行が実施した量的金融緩和政策、そして昨今のデフレ下における日本銀行の政策評価など具体的な経済事象を分析・紹介していく。

本講義は証券経済論、企業財務論、国際金融論など金融関係の専門科目を学ぶ上でのベースとなる専門基礎科目である。

【到達目標】

講義で紹介したミクロ的ないしマクロ的分析手法を通じ、履修者が現実の経済を分析・理解できるようになることが本講義の到達目標である。

【授業の進め方と方法】

講義資料を配布しその資料に穴埋めしてく形で講義を展開していく。また、小テストを行う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
イントロダクション	1 回 オリエンテーション	金融とは何か、金融論を学ぶことでどのような分析ができるようになるか、などを概説
1 部 貨幣と金融	2 回 市場経済と貨幣、金融	市場経済の発達、貨幣の役割などを紹介
3 回	金融市場と金融機関	金融市場の形成と役割、金融機関の種類や役割などを説明
4 回	金融構造と金融システム (1)	金融構造、金融システムなどを解説
5 回	金融構造と金融システム (2)	金融規制など制度的側面を紹介
2 部 ミクロ分析	6 回 家計の金融 (1)	家計（消費者）の金融の基礎的概念を説明
7 回	家計の金融 (2)	家計（消費者）のミクロの金融行動を分析
8 回	家計の金融 (3)	資産選択理論など用いて家計の金融行動を考察
9 回	企業金融 (1)	コーポレート・ファイナンスの基礎的な概念を説明
10 回	企業金融 (2)	MM 理論など企業金融の基礎的な理論を説明
11 回	企業金融 (3)	情報の非対称性の問題などを具体的な事例を交えて紹介
第 3 部 マクロ分析	12 回 貨幣の供給と需要 (1)	貨幣の供給と需要に関するマクロのメカニズムを説明
13 回	貨幣の供給と需要 (2)	貨幣数量説と流動性選好説を解説
14 回	1～13 回のまとめ	まとめをする

II 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (1)	財市場と貨幣市場の同時均衡分析としての IS=LM 分析を解説
2 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (2)	完全雇用と不完全雇用での金融政策と財政政策の効果を考察
3 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (3)	アベノミクスについて IS=LM 分析を用いて考察
4 回	インフレとデフレ、失業 (1)	インフレやデフレと失業との関係を理論的に解説
5 回	インフレとデフレ、失業 (2)	自然失業率仮説の説明、および裁量政策とルールにもとづく政策の違いなどを解説
第 4 部 金融市場	6 回 預金・貸出市場	身近な金融市場として預金・貸出市場の説明
7 回	短期金融市場	金融政策の出発点となる短期金融市場の分析
8 回	長期金融市場	資本市場ともいわれる長期金融市場の解説
9 回	金融派生商品市場	先物やオプションなど金融派生商品市場を説明
10 回	公的金融	郵貯や政府系金融機関による公的金融について解説
第 5 部 金融政策	11 回 金融政策の目標と手段、効果	金融の政策主体、政策目標、政策手段について紹介

12 回	金融自由化、国際化、グローバル化	金融ビッグバン、金烏有市場の自由化を紹介
13 回	日銀の金融政策	ゼロ金利政策、量的金融緩和、マイナス金利政策などを時系列で紹介
14 回	1～13 回のまとめ	まとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書（『現代金融入門』『問題演習 金融論 再訂版』）をよく読むとともに、小テストを復習してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

岸 真清・林 直嗣著『現代金融入門』八千代出版

林 直嗣著『問題演習 金融論 再訂版』

【参考書】

古川顕『テキストブック現代の金融 第 3 版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40%、定期試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

実績なし。

【関連科目】

ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（ILAC 科目 2 群）を先に又は同時に履修し、金融論Ⅰと金融論Ⅱを合わせて履修することが望ましい。証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱなどを履修する上での基礎的な科目である。

經營学科 専門科目

5

経営学科専門科目

経営組織論Ⅰ

経営組織論Ⅱ

長岡 健 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。

2) 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。

3) 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論Ⅰ）では、「組織の中の個人・集団の振る舞い」に着目し、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「個人の振る舞い」「キャリア開発」「集団の振る舞い」「組織と個人の関係」という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「組織構造」「組織文化」「制度と規範」「組織学習」という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。春学期・秋学期ともテーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の授業では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	事例研究 (1-1)	「個人の振る舞い」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第3回	個人の振る舞い (1)	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第4回	個人の振る舞い (2)	組織における「モチベーション（動機づけ）」に関する基礎概念
第5回	事例研究 (1-2)	「組織におけるキャリア」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第6回	キャリア開発 (1)	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第7回	キャリア開発 (2)	「組織内専門人材」の意味／意義／位置づけ
第8回	事例研究 (1-3)	「集団の振る舞い」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第9回	集団の振る舞い (1)	経営学における「集団（グループ）」の意味／意義／位置づけ
第10回	集団の振る舞い (2)	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第11回	事例研究 (1-4)	「組織と個人の関係」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第12回	組織と個人の関係 (1)	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第13回	組織と個人の関係 (2)	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第14回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	事例研究 (2-1)	「組織構造」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第3回	組織構造 (1)	組織設計の視点と「ピラミッド型組織」の基本原則
第4回	組織構造 (2)	企業の組織形態と「フラット化・ネットワーク化」の進展
第5回	事例研究 (2-2)	「組織文化」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第6回	組織文化 (1)	「企業文化論」の特徴と「日本の経営」に対する評価の変遷
第7回	組織文化 (2)	「組織エスノグラフィー」という研究のねらいと方法
第8回	事例研究 (2-3)	「制度と規範」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第9回	制度と規範 (1)	組織構造の変化に対する「社会的制度／圧力」の影響
第10回	制度と規範 (2)	「ダイバーシティ・マネジメント」の可能性と課題
第11回	事例研究 (2-4)	「組織学習」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第12回	組織学習 (1)	「組織劣化・機能不全」の要因と対応方法に関する基礎概念
第13回	組織学習 (2)	「学習棄却（アンラーニング）」という概念の可能性と課題
第14回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経営学の基礎的科目を履修していない受講者は、各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、『経営組織』（下記、参考書）の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

また、シラバスで指定したテキスト・参考書以外にも、それぞれのテーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

【テキスト（教科書）】

春学期・秋学期ともに、各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を授業中に紹介していきます。

- 1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- 2) ロビンス, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- 3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれ、学期末の試験と小レポート（リフレクション・ペーパー）により評価します。小レポートはそれぞれのテーマ（モジュール）ごとに作成してもらう予定です。なお、評価の割合は以下の通りとします。

【春学期】	試験（1回）：70%	小レポート（8回）：30%
【秋学期】	試験（1回）：70%	小レポート（8回）：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、Twitterを活用する予定です。受講者はTwitterのアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

また、上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』を事前に履修していることが望ましい。

組織マネジメント論Ⅰ

組織マネジメント論Ⅱ

永山 晋 准教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、営利企業を中心とした組織のマネジメントに関わる論点と基本理論を学ぶことを目的とする。

組織は上司部下といった縦の分業、それぞれが特定の職務に特化するという横の分業を通じて、大きな目的を達成することができる。一方で、組織では利害の不一致が生じたり、誰も望んでいない意思決定をしてしまうなどの問題も起きる。

こうした組織特有の問題に対処し、組織を有効に機能させるためには次の活動が伴う。それは「計画」「先導」「組織化」「外部環境への対応」「変革」である。これらのうち春学期では、主に組織のあるべき姿をどのように計画していくのかという「計画」、ならびにどのように組織メンバーの潜在力を引き出していくかという「先導」の論点について学習していく。一方、秋学期では、主に組織をどうデザインしていくかという「組織化」、外部環境に組織をどう適応していくかという「外部環境への対応」、組織をどのように変化させていくかという「変革」の論点を学習していく。

【到達目標】

- (1) 組織マネジメントに関わる基本的な理論、枠組みについて、「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる
- (2) 新聞や雑誌などで目にする組織、自分の身近にある組織の問題や実践について、理論的観点から分析的に考察できる

【授業の進め方と方法】

- 基本的な授業の流れは、教員によるスライドを使ったトピックの説明 → 簡易演習や事例分析 → 解説という順で行う
- 演習では教員と受講者の双方向的なやりとりを重視するため、発言も成績として評価する

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	マネジメントの基本（1）	組織とマネジメントの定義
2	マネジメントの基本（2）	マネジャーに求められる能力と役割
3	マネジメントの基本（3）	組織マネジメントの歴史的変遷
4	組織を導く（1）：リーダーシップ	リーダーシップの類型とリーダーシップの諸理論
5	組織を導く（2）：モチベーション	モチベーションの内容理論と過程理論
6	組織を導く（3）：チーム	チームビルディング、インプット-プロセス-アウトプットモデル
7	組織を導く（4）：グループダイナミクス	グループシンク、エスカレーションオブコミットメント
8	組織を導く（5）：創造性	テンションビューとファウンダーショナルビュー、アイデア創出プロセス
9	組織を導く・組織化（6）：社会ネットワークの効果	弱い紐帯と強い紐帯、凝集のネットワークとストラクチャルホール
10	組織を導く・組織化（7）：社会ネットワークの形成	ランダムネットワーク、スモールネットワーク、スケールフリーネットワーク、選好接続
11	計画する（1）：戦略と組織	戦略計画の基本、戦略と組織の適合
12	計画する（2）：意思決定	合理的意思決定、限定合理的意思決定、直感的意思決定
13	計画する（3）：センスメイキング	戦略の浸透とセンスメイキングのプロセス
14	まとめ	授業内容の総括

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	マネジメントの基本	組織マネジメントに関わる基本活動
2	組織化（1）：分業	垂直分業と水平分業、機能別分業と並行分業
3	組織化（2）：組織構造	代表的組織構造、情報処理パースペクティブ、コンティンジェンシー理論
4	組織化（3）：組織デザイン	組織デザインの代表的要素
5	組織化（4）：組織コントロールと組織文化	官僚主義的コントロール、市場的コントロール、仲間的コントロール、組織文化の階層性
6	外部環境（1）：外部環境の概要	外部環境の類型とその評価、外部環境と組織の関係
7	外部環境（2）：資源依存	資源依存論からみた組織間関係のマネジメント
8	外部環境（3）：制度と正当性	制度的同型化メカニズム
9	変革（1）：組織学習	組織学習の基本モデル
10	変革（2）：知の創造	暗黙知と形式知、SECI モデル

11	変革（3）：知の探索と深化	コンピテンシートラップ、両利きの経営
12	変革（4）：企業行動理論	希求水準とサーチ
13	変革（5）：組織変革論	組織変革を促す要因、レヴィンの変革プロセス
14	まとめ	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 該当箇所の事前配布資料が指定された場合、その資料を授業前に読み込んでおくこと
- 普段目にするニュースや経済番組に対し、学習した概念を通じて批判的に考察すること

【テキスト（教科書）】

なし。授業内で資料を配布する

【参考書】

- Hitt, M. A., Black, J. S., & Porter, L. W. (2013). Management, Prentice Hall.
- 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝 (2010) 『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ.
- 入山章栄「世界標準の経営理論」『DIAMOND ビジネス・レビュー』（2014年9月号～2017年4月号）.

【成績評価の方法と基準】

- (1) 発言点 (20%)
- (2) 期末試験 (80%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく現代の事例を扱ってほしいという要望があった。これを踏まえ、本年度はなるべく最新の組織の事例を扱っていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

受講者の人数や関心によって学習トピックの内容や学習順序を一部変更する可能性がある

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、組織行動論Ⅰ／Ⅱ、中小企業論Ⅰ／Ⅱなど

5

経営学科専門科目

経営情報論Ⅰ

経営情報論Ⅱ

岸 真理子 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営学科専門科目

3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、経営の視点から組織と技術について包括的に研究する学問領域です。デジタル化の進展により ICT(情報技術) がめざましい発展を遂げている今日、改めて組織の情報処理を、ICT と人間系との関わりに着目しながら理解することが求められています。

この授業では、ICT 環境を前提とし、企業組織がどのようにして有効な情報処理を行うことができるのか、また行うべきなのかについて、多方面から考察することを目的としています。

【到達目標】

経営情報論は、理論と実践との相互作用によって発展してきた独特の学問領域です。

この授業では、経営情報論の基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の事例のなかで様々な角度から考察することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報システムとして機能し得るのかについて検討していきます。さらに、ゲスト・スピーカーによる生きた事例の紹介を通じて、理論と実践との相互作用という点についても検討していきます。

【授業の進め方と方法】

毎回、「今日のテーマ」と「考察のためのポイント」が提示され、授業の全体構造を理解することができます。授業では、最初にパワーポイントを使った講義を聞き、その後、設定された課題を考察し、相互に検討する時間が設けられます。これによって、内容の理解をより深めることができます。

テーマに関連して、動画や、社会の第一線で活躍するゲスト・スピーカーによる応用事例の紹介がなされ、より具体的に検討していくことができるようになります。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論Ⅰのガイダンス 情報社会の到来と経営情報論Ⅰの領域
第2回	組織の情報処理	なぜ組織は情報を処理するのか
第3回	組織と意思決定	問題解決 意思決定プロセス
第4回	経営組織と情報処理	ケース・スタディ（1）
第5回	システムとネットワーク	システムやネットワークに関する概念
第6回	ネットワークの法則	ネットワーク分析
第7回	コンピュータとネットワーク	ケース・スタディ（2）
第8回	競争戦略と情報活用	ポジショニング・ビューと資源ベース ビュー 経営情報システムの役割
第9回	IT ケイパビリティ	ICT とその活用能力
第10回	経営戦略と経営情報システム	ケース・スタディ（3）
第11回	経営情報システムの変遷（1）	業務の自動化 意思決定支援
第12回	経営情報システムの変遷（2）	戦略的活用 リエンジニアリング
第13回	経営情報システムの現状	ケース・スタディ（4）
第14回	総括	経営情報論Ⅰのまとめ 経営情報論Ⅰの展望

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営情報論Ⅱのガイダンス 情報社会の到来と経営情報論Ⅱの領域
第2回	組織コミュニケーション	コミュニケーション・モデル ICT によるコミュニケーション
第3回	デジタル・メディアの活用	アナログ・メディアとデジタルメディア
第4回	コミュニケーションとメディア	ケース・スタディ（1）
第5回	メディア・リッチネス	メディア能力とその拡張
第6回	ナレッジ・マネジメント	知識の創造と活用 場の創設
第7回	情報活用と組織知	ケース・スタディ（2）
第8回	企業の組織形態の変化	ICT と組織
第9回	ネット・ビジネス環境と組織	組織間関係の変化 オープン化 モジュール化
第10回	ネット・ビジネスの展開と情報セキュリティ	ケース・スタディ（3）
第11回	「技術」と「組織」	技術とアクション 組織と組織化
第12回	ICT と人間系の統合	IoT、AI の社会的インパクト
第13回	ICT と社会、情報倫理	ケース・スタディ（4）

第14回 総括

経営情報論Ⅱのまとめ
経営情報論Ⅱの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、テキストの関連箇所を読み、準備すると、学習効果をより高めることができます。また、授業後には、各回の授業で提示された参考文献を参照してみると、理解をより深めることもできます。

【テキスト（教科書）】

遠山暁・村田潔・岸真理子『経営情報論（新版補訂）』有斐閣、2015年。

【参考書】

各回の授業でテーマごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、期末試験が 50 %、授業内の小テスト（あるいは小レポート）が 50 %となっています。期末試験を受けない場合は E 評価となるので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

実績なし。

【関連科目】

経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、情報と倫理、情報と職業、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱ、技術管理論Ⅰ・Ⅱ、情報技術論Ⅰ・Ⅱ、システム管理論Ⅰ・Ⅱなど。

経営社会学Ⅰ

経営社会学Ⅱ

佐野 哲 教授

経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多元的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な頻出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えることができません。

また、本講義は経営学部が提供する他学部公開科目でもあります。取り上げるテーマは、例えば「政党政治」なら法学部、「メディア」なら社会学部、「新卒採用」ならキャリアデザイン学部など他学部講義での主要テーマとなるものですが、これら全てを「収益や市場」など経営的な視点で再分析することで、問題への理解を深めていくことができます。政治も報道も就活もいずれも、それらの成り立ちには必ずビジネスの側面が存在し、応じて「カネ」の問題が絡んでくるからです。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には「労働社会学」などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは「政治経済学」などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【授業の進め方と方法】

講義形式を取りますが原則毎回、講義最後の 5～10 分間を使って「リアクションペーパー」の記入・提出（出席調査票を使用し、そのコメント欄に 100 字程度の自由記入を基本とします）を求め、その都度、質問や意見を集約します。講義では、その質問への回答等を題材としつつ、教員と参加学生とのディスカッションを可能な限り取り入れるとともに、学生の興味・関心をふまえた可能な範囲で講義内容の変更を加えていきます。また、講義開始時には、各回の講義内容に関する予習の成果として「Web 検索レポート」の提出（事前に提示される検索ワード 3 つについてインターネットで検索し、それぞれ 300 字、計 1,000 字程度にまとめた小レポート）を求めます。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規学卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用の IT 化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネジャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループワークとディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループワークとディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループワークとディスカッション
[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造

[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループワークとディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループワークとディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループワークとディスカッション
[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web 検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

社会学的な見地と社会学の諸理論を理解するためには、『社会学・第5版』（アンソニー・ギデンズ著／而立書房）が有用です。また、各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視しつつ毎回のペーパー及びレポート提出を出席点に読み替えます。ただし、指定記述量に満たないものや「単位の嘆願」のような講義内容と無関係な記述などは、減点対象もしくは無効とします。なお最終評定は、以下の配点による合計 100 点満点で評価します。

- [1] リアクションペーパー（指定された記述量を満たすもの）
→ 各期 8 回分 ×2 点配点=小計 16 点
- [2] Web 検索レポート（指定された記述量を満たすもの）
→ 各期 8 回分 ×3 点配点=小計 24 点
- [3] 定期テスト（筆記・参照可・各期全範囲から）
→ 語句説明問題 3 題 ×10 点配点=小計 30 点
+ 論述問題 1 題 ×30 点配点=小計 30 点

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

また、参加学生からのリアクションペーパーの一部をツイッターで公開し（匿名化します。「経営社会学 2018」でアカウント検索して下さい）、各学生の考え方やアイデアを共有するとともに教員からのコメントも適宜付け加えるなど、講義外での付加的なコミュニケーション機会を設けます。

【その他の重要事項】

この講義は、企業経営の人的・政治的側面にフォーカスしながら、経営・労働主体のおかれる社会構造及び、その活動の「社会的合理性」と今後の変化を捉えようとするものです。講義で扱う「社会及び経済の時事問題」は、それを考える際の題材です。こうした学びは、状況判断力や環境変革力などの「就業力」を高める効果があります。もちろん、社会や経済の動きを把握し自ら判断していく力を養うわけですから、企業の人事部や広報部、さらには経営企画部で活躍するための必須の能力といえます。

学問としての経営社会学の本質は、「企業組織や現代社会が抱える社会問題」と「経営者や労働者のおかれた立場及び感情・意思」との間に構造的な関係性を見出し、企業経営の中に「社会を変えていく原動力（社会改革力）」を内在化させようとする試み（経営社会政策）でもあります。その意味では、上記のような民間営利企業の一般的部署のみならず、「ソーシャルビジネス（社会問題の解決を目的とする収益事業体、もしくは非営利事業を行う NPO 団体など）」に興味を持つ学生にとっても重要な知識たり得ると考えます。

なお、当授業に関連する経営学部の専門科目としては、経営社会学Ⅰでは「人的資源管理Ⅰ/Ⅱ」など、同Ⅱでは上記【授業計画】のテーマに関係する他学部（法、社会学部など）公開科目の履修を勧めます。

5

経営学科専門科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【授業の進め方と方法】

・担当教員による講義が主だが、授業中に適宜アンケートや小テスト、それらの解説や議論等を行う（授業中または自宅での予習として、授業支援システムの利用を予定）。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性と非合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・不完全情報下の合理的行動
4.	人間の行動原理 (4)	・機会主義的行動とコミットメント問題
5.	取引、組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引、組織の評価基準 (2)	・公正性概念の多様性
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択問題 ・ルール化の是非 ・多様性管理に関するケース
9.	組織デザイン (1)	・組織構造への応用 ・コーポレート・ガバナンス
10.	組織デザイン (2)	・職務設計への応用
11.	組織デザイン (3)	・さまざまな事例への応用（東芝のケースなど）
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの種類と強度 ・本人-代理人関係モデル
13.	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
14.	インセンティブ問題 (3)	・さまざまな事例への応用（成果主義賃金のケースなど）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義レジュメや資料を事前に学内授業支援システムにアップするので、授業前に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小テストの回答を求めることもあるので誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭までに行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等を事前に学内授業支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期末に行う筆記試験（参照不可。マークシートと記述式を併用）の結果を 80%、授業期間中の平常点（アンケートや小テストの回答状況）を 20% のウェイトで足し合わせた総合点（100 点が満点）の点数によって評価する。

・試験問題は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2015 年度、2016 年度の結果を総合すると（2017 年度は休講）、内容の難易度は「適切」が過半だが、「やや難しい」もかなりある。内容の理解度は「およそ理解できた」が約半分で、残りは「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」。自由記述のコメントを見ても、内容が興味深い、考える力がついたなどのコメントがある一方、内容が難しい、説明が分かりにくいといったコメントがあった。受講者の理解度を高めるために一層の工夫、努力が必要だと受け止めている。

・板書が読みにくいとのコメントも相変わらず散見されるが、是非、教員が黒板に書くことよりも、話すことをメモする訓練をしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業中に「授業支援システム」を利用する予定なので、スマホないしパソコンを用意してほしい。ただし、授業中に利用不可の場合は、授業外での利用もハンディとならないように配慮する。

【その他の重要事項】

・本科目は、これまで I、II の通年開講授業だったが、2019 年度からのカリキュラム改革に合わせ I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の HRM I/II（I は秋学期、II は春学期）でカバーする予定である。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい。

【関連科目】

・ミクロ経済学入門 I/II、組織行動論 I/II、人的資源管理 I/II 等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

組織行動論Ⅰ

組織行動論Ⅱ

西川 真規子 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようにしたら個人のモチベーションや職務満足度は高まるのだろうか、欠勤や離職など組織にとって望ましくない態度や行動はどうして生じるのか、集団のパフォーマンスはなぜ高まったり、低まったりするのだろうか、効果的なコミュニケーションには何が必要なのか、より良い集団活動を実践する上で何が必要なのか。このようなひとや人間関係に関する課題・問題に対して、心理学や社会心理学、社会学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。この授業では、組織の中でひとが個人として、集団としてどのような態度をとり行動するかについて、基礎概念や基本理論の学習を通じて理解を深めます。

【到達目標】

以下2点がこの授業の目標です。①組織行動論に関わる基礎概念や基本理論を正確に理解する。②これら概念や理論を各自の集団活動（アルバイト、部活等）の経験に応用することで、集団の一員としてひとと効果的にかかわる方法や、そこで生じる問題の改善・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【授業の進め方と方法】

各回において、①講義の前に自らの体験を振り返る **Exercise** を実施します。②その後、各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の実体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。また授業中に **Reflection** を行い、各自の実体験を振り返り、概念・理論の応用をはかります。③最後に、講義内容を踏まえ組織行動論の視点から **Exercise** の内容を再度振り返ります。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは 組織行動論Ⅰの学習内容
2	学習 1	学習とは何か 学習の方法
3	学習 2	効果的な学習とは 学校での学習、職場での学習 職場学習のプロセス
4	認知・帰属 1	学習スタイル 認知とは何か 認知に影響する要因 認知バイアス
5	認知・帰属 2	自己の認知 認知のゆがみ 帰属とは 帰属バイアス
6	ダイバーシティとパーソナリティ	ダイバーシティとは ダイバーシティのメリット パーソナリティとは パーソナリティ特性
7	モチベーション 1	モチベーションとは モチベーションの内容理論 1 マズロー アルダファー マクレガー
8	モチベーション 2	モチベーションの内容理論 2 ハーズバーグ マクレランド モチベーションの過程理論 1 目標設定理論
9	モチベーション 3	モチベーションの過程理論 2 強化理論 公平理論
10	モチベーション 4	モチベーションの過程理論 3 期待理論 職務特性理論
11	ケーススタディ	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります
12	意思決定 1	合理的意思決定 その他の意思決定
13	意思決定 2	意思決定のスタイル 社会的プロセスとしての意思決定
14	仕事と生活	ワークライフバランスとは 仕事と生活の望ましい関係

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは 組織行動論Ⅱの学習内容
2	集団	集団の種類 集団の発達 集団の意思決定

3	チーム	集団とチーム チームの種類 高業績チームの特徴
4	コミュニケーション基礎	コミュニケーションとは 相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
5	コミュニケーション応用	効果的なコミュニケーション アサーティブネス アクティブリスニング
6	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのプロセス コンフリクトのマネジメント
7	仕事とストレス	ストレス発生のプロセス ストレスと生産性 ストレスへの対処
8	情動と労働	情動研究の発達 感情と気分 感情労働 感情的知性
9	リーダーシップ 1	リーダーシップとは リーダーシップに関する理論 資質理論 行動理論
10	リーダーシップ 2	コンティンジェンシー理論 1 フィードラー LPC 理論 ライフサイクル理論
11	リーダーシップ 3	コンティンジェンシー理論 2 その他コンティンジェンシー理論 交換型リーダーと変革型リーダー
12	ケーススタディ	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります
13	パワーと影響力	パワーと依存関係 パワーの源泉 パワーの行使
14	組織と文化	組織文化の特徴 組織文化の生成と維持 組織文化の見分け方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義の途中か最後に、各自で **Exercise** の内容を再度振り返り改善する **Reflection** を実施します。授業時間中にこの作業が完了しなかった場合は、次の講義までに **Reflection** を完了させてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。
毎回授業に使用する資料を事前に授業支援システムを通じて配布します。この資料は、講義中にノートがとれるよう余白が設定されていますので、各自授業前に印刷し持参してください。尚、事前配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取ってください。

【参考書】

各回引用する文献が異なるため参考書は特に指定しません。
参考文献が知りたい場合は講義後教員に尋ねてください。

【成績評価の方法と基準】

組織行動論Ⅰ/Ⅱそれぞれについて学期末に試験を実施します。試験の成績が100％評価に反映されます。試験内容は授業で学習した内容とします。授業では特定のテキストを使用しませんので、試験の内容を理解するには出席が欠かせません。

【学生の意見等からの気づき】

応用力が身につくという本授業のメリットを、**Exercise** や **Reflection** の実施を通じてさらに高めていきます。
黒板が見えづらいとの指摘を受け、パワーポイントを使用して授業を行います。教員の話をよく聴き、自らの気づき等積極的にノートテキングを行うことで資料を補完してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料を事前に授業支援システム上で公開しています。受講生はこの資料を授業前に印刷し授業に持参してください。授業に関するお知らせ等についても授業支援システムを通じて行っていますので、各自授業開始後速やかに授業支援システムで自己登録を行ってください。

【その他の重要事項】

授業中に支援システム上の資料をスマートフォンで確認する受講生を散見しますが、資料は必ず印刷して持参してください。
組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱの連続受講を勧めます。

【関連科目】

人的資源管理

5

経営学科専門科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人材確保に関わる人事管理の領域として、①採用と②人材育成に関する基本的な議論と理論を理解し、説明できるようになる。
(秋学期開講の人的資源管理Ⅱで、③配置転換、④昇進・昇格、⑤人事評価、⑥賃金管理などの領域について学び、Ⅰ・Ⅱを合わせて、人的資源管理の全体像に対する体系的な理解を深めます)。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。人的資源管理Ⅰで予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：人的資源管理（HRM）とは？	人的資源管理（HRM）の授業で勉強する範囲について、HRMの基本的な目的や担い手について、等
2	人的資源管理（HRM）の考え方①	職場の人事管理機能、本社人事部門の役割（人事部不要論の検討）、等
3	人的資源管理（HRM）の考え方②	HRMが前提とする労働者像、伝統的な人事管理とHRMのちがひ、等
4	人的資源管理（HRM）の考え方③	HRMの基本思想の循環、HRMの仮定（ベスト・プラクティスとベスト・フィット）、等
5	人的資源管理（HRM）の考え方④	労働者意識の多様化と動機づけの理論、HRMの諸施策と動機づけとの関係、等
6	採用管理①	HRMにおける採用の役割、採用計画の考え方（経営戦略、人員構成との関係）、等
7	採用管理②	多様な採用ルート（新卒採用の役割）、RJP（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）の考え方、等
8	採用管理③	RJPの限界、OJR（オン・ザ・ジョブ・リクルーティング）の多様な展開、等
9	人材育成①	HRMとHRD（人的資源開発）、教育訓練の機能（育成 make か採用 buy か）、等
10	人材育成②	労働者タイプの変化と教育訓練、分業と技能（アダム・スミスから『組み立てラインの人々』へ）、等
11	人材育成③	幅広い仕事経験と教育訓練、OJTシステムの転換と教える側の変化、等
12	人材育成④	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用（直接費用と機会費用）、OJTと off-JT、自己啓発支援、教育訓練施策の補完関係、等
13	人材育成⑤	キャリア管理（配置転換や昇進の管理）を通じた人材育成、等
14	人的資源管理Ⅰのまとめ	春学期に学習した各分野についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①佐野陽子『はじめての人的資源マネジメント』有斐閣、②佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第5版）』有斐閣アルマ、③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第2版）』日本経済新聞社をあげておきます。
このうち①と②は、人的資源管理に関する基礎的な理解、③は発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、春学期の期末試験の結果をもとに評価します（100 %）。授業内で学習した議論や理論について、十分に理解できているかを重視して採点し、成績評価につなげます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、経営学総論Ⅰ/Ⅱがあげられます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（human resource management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（human resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

人的資源管理の諸領域に関する現状や考え方を体系的に理解することを授業の到達目標とします。特に人的資源管理Ⅱでは、配置転換や昇進、社員格付け制度、人事評価、賃金に焦点を当て、これら各領域の人的資源管理に関する理解を目指します。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。人的資源管理Ⅱで予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【授業計画】

I 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：春学期の復習と秋学期の授業内容	人的資源管理（HRM）の考え方、人的資源管理Ⅱで扱う分野の概要、等
第2回	配置転換①	HRMにおける配置転換、配置転換の人材育成機能、初任配属先の選択、等
第3回	配置転換②	配置転換のコスト、ホワイトカラーの配置転換とその範囲、等
第4回	配置転換③	配置転換における組織と個人、企業主導型の配置転換の限界と「新しい」配置転換、等
第5回	昇進①	HRMにおける昇進、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、等
第6回	昇進②	昇進の実態とキャリア・ツリー、「トーナメント移動」と日本の昇進、日本の「ファスト・トラック」、等
第7回	社員格付け制度①	昇進と昇格、社員等級制度と昇格基準、「年功」制の合理性、等
第8回	社員格付け制度②	社員等級制度の変化、「能力主義」と職能資格制度、「成果主義」と格付け基準、等
第9回	社員格付け制度③	日本の昇進・昇格管理と専門職制度、専門職制度の変化と課題、等
第10回	人事評価①	HRMにおける人事評価、評価の主観性と「公平」な評価、評価要素の選択、等
第11回	人事評価②	「成果」による評価の課題、MBOの仕組みと課題、納得性向上のための工夫、等
第12回	賃金①	HRMにおける賃金管理、賃金と動機づけ、賃金の総額管理と個別賃金管理、等
第13回	賃金②	賃金制度の基礎、職務給と職能給、年齢・賃金プロフィール、退職金と福利厚生、等
第14回	秋学期の授業のまとめ	秋学期の学習内容の整理、HRMと働く人のキャリアや生活との関係、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論のもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第5版）』有斐閣アルマ、②佐野陽子『はじめての人的資源マネジメント』有斐閣、③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第2版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①と②は、人的資源管理に関する基礎的な理解、③は発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験の結果をもとに行います。授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点し、成績評価につなげます。

【学生の意見等からの気づき】

専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【その他の重要事項】

人的資源管理Ⅰ（春学期開講）と人的資源管理Ⅱ（秋学期開講）の授業をすべて受講すると人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、人的資源管理Ⅰと人的資源管理Ⅱ、続けての受講を勧めます。とはいえ、人的資源管理Ⅰと人的資源管理Ⅱでは、それぞれ扱うテーマ（人的資源管理の領域）が異なるため、関心にしたがって人的資源管理Ⅰないし人的資源管理Ⅱのみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、経営学総論Ⅰ/Ⅱがあげられます。

財務会計論Ⅰ

財務会計論Ⅱ

川島 健司 教授

経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して会計実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方については、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する議論などが含まれる。

財務諸表の読み方については、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のバターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【授業の進め方と方法】

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠と歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

-本講義で学習する主な財務指標

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カパレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1 株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (EVA)

-本講義で観察・分析する財務諸表

本年度はアメリカ企業を取り上げる。その際、同業種の日本企業とも適宜比較する。取り上げる予定の企業は次のとおりである：Apple（電子機器）、Starbucks Corporation（コーヒー）、Chipotle Mexican Grill（レストラン）、Whole Foods Market（グロサリー）、Nike（アパレル）、Target Corporation（ディスカウントストア）、Royal Caribbean Cruises（海運）、Virgin America（空運）、GoPro（映像機器）、The Walt Disney Company（エンターテインメント）、Tesla（電気自動車）。

なお、これらの企業の財務諸表は英文であり、英語の勘定科目について適宜解説する。受講生は英文財務諸表も読み慣れるようになる。

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加算する（後述の「成績評価の方法と基準」を参照）。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の概観	講義全体の学習内容と講義計画を説明。
2	会計システム	会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
3	会計システムの目的と役割	財務会計の目的と役割を明確化。利害調整と情報提供という目的観を解説。
4	会計システムのインプット	会計システムのインプットたる「取引」について理解する。
5	会計システムのアウトプット	損益計算書と貸借対照表について解説。収支計算書との関係を理解する。
6	複式簿記	簿記一巡の手続きの説明・実践を行う。
7	会計基準と会計法規	財務会計に関わる会計基準と法規制について、その存在理由と期待される役割を解説。
8	日本の会計基準	日本の会計基準の歴史を概観し、『企業会計原則』と『企業会計基準』について解説。
9	世界の会計基準	米国会計基準、英国会計基準、および国際財務報告基準 (IFRS) の歴史と「概念フレームワーク」を解説。

10	利益計算のアプローチ	損益法と財産法の特性を考察する。
11	発生主義会計	収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
12	費用収益対応の原則	費用収益対応の原則について、具体例を用いながら解説。
13	原価主義会計	代替的な資産評価基準を検討、取得原価の合理性について解説。
14	会計システムの評価：理論と実証	現行の会計システムの理論的根拠と実証研究の発見事項を解説。

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	個別論点の概観	会計処理の個別論点を概観し、秋学期の学習内容の全体を見通す。
2	資金調達	資金調達の主要な方法とその会計処理について解説。
3	金融商品会計	有価証券に関する会計処理の確認とその理論的裏付けについて解説。
4	棚卸資産会計	棚卸資産の評価方法について、単価と数量の決定方法を中心に解説・考察。有形固定資産の取得と減価償却について解説・考察する。
5	固定資産会計	リース会計について解説・考察する。
6	リース会計	減損会計について解説・考察する。減価償却と減損会計、および原価主義と減損会計との関係について明確化。
7	減損会計	負債の概念、負債の分類について解説する。引当金について解説。
8	退職給付会計	資産除去債務の会計について解説。同会計の適用事例を観察。
9	資産除去債務会計	新株予約権、ストックオプションの会計処理について解説・考察。
10	ストック・オプション会計	企業結合会計の手続き、のれんの償却の根拠と合理性について検討。
11	企業結合会計	外国通貨で表示された取引の換算処理方法を解説。
12	外貨建取引会計	連結会計報告の考え方と手法について解説。
13	連結会計 1	連結貸借対照表と連結損益計算書の作成について解説。
14	連結会計 2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。

【テキスト（教科書）】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2018 年 4 月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993 年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版、白桃書房、2010 年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008 年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の 2 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加算する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。

監査論Ⅰ

監査論Ⅱ

坂上 学 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査論Ⅰ（春学期）は、株式会社企業の監査制度の基礎知識を、体系的に理解することを課題としている。株式会社監査の基礎概念の理解に始まり、監査の担い手である監査人（公認会計士や監査法人）の制度、監査意見形成のプロセスについて、ケースを織り交ぜながら学習する。

監査論Ⅱ（秋学期）は、株式会社企業の監査制度の応用的な知識について、体系的に理解することを課題としている。監査のうち、監査意見形成のプロセスに焦点を当て、リスク・アプローチに基づく監査の計画と実施のプロセス、監査報告と情報提供機能について、ケースを織り交ぜながら学習する。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解することを目標としている。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。必要に応じてプリントなどを配布する予定である。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第2回	監査のフレームワーク（1）	テキスト第1章「監査のフレームワーク」の前半部分について学習します。
第3回	監査のフレームワーク（2）	テキスト第1章「監査のフレームワーク」の後半部分について学習します。
第4回	ケーススタディ（1）	テキスト第1章に関連する事例研究をおこないます。
第5回	監査制度のフレームワーク（1）	テキスト第2章「監査制度のフレームワーク」の前半部分について学習します。
第6回	監査制度のフレームワーク（2）	テキスト第2章「監査制度のフレームワーク」後半部分について学習します。
第7回	ケーススタディ（2）	テキスト第2章に関連する事例研究をおこないます。
第8回	監査規範の意義とわが国の監査基準（1）	テキスト第3章「監査規範の意義とわが国の監査基準」前半部分について学習します。
第9回	監査規範の意義とわが国の監査基準（2）	テキスト第3章「監査規範の意義とわが国の監査基準」後半部分について学習します。
第10回	ケーススタディ（3）	テキスト第3章に関連する事例研究をおこないます。
第11回	監査意見形成のプロセス（1）	テキスト第4章「監査意見形成のプロセス」の前半部分について学習します。
第12回	監査意見形成のプロセス（2）	テキスト第4章「監査意見形成のプロセス」の後半部分について学習します。
第13回	ケーススタディ（4）	テキスト第4章に関連する事例研究をおこないます。
第14回	まとめ	春学期講義のまとめをおこないます。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	イントロダクション	秋学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第16回	リスク・アプローチと監査戦略（1）	テキスト第5章「リスク・アプローチと監査戦略」の前半部分について学習します。
第17回	リスク・アプローチと監査戦略（2）	テキスト第5章「リスク・アプローチと監査戦略」の後半部分について学習します。
第18回	ケーススタディ（1）	テキスト第5章に関連する事例研究をおこないます。
第19回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（1）	テキスト第6章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」の前半部分について学習します。
第20回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（2）	テキスト第6章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」の後半部分について学習します。
第21回	ケーススタディ（2）	テキスト第6章に関連する事例研究をおこないます。
第22回	監査報告書と情報提供機能（1）	テキスト第7章「監査報告書と情報提供機能」の前半部分について学習します。
第23回	監査報告書と情報提供機能（2）	テキスト第7章「監査報告書と情報提供機能」の後半部分について学習します。
第24回	ケーススタディ（3）	テキスト第7章に関連する事例研究をおこないます。

第25回	開示情報の多様化と保障機能（1）	テキスト第8章「開示情報の多様化と保障機能」の前半部分について学習します。
第26回	開示情報の多様化と保障機能（2）	テキスト第8章「開示情報の多様化と保障機能」の後半部分について学習します。
第27回	ケーススタディ（4）	テキスト第8章に関連する事例研究をおこないます。
第28回	まとめ	秋学期講義のまとめをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊, 林隆敏, 松本祥尚『ベーシック監査論（七訂版）』同文館出版
※最新版が出版されていれば、そちらを購入してください。

【参考書】

鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度 基礎篇』（国元書房, 2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テストの点数を 80 %、ミニテストの点数を 20 % の比率で按分し、平常点を加味して成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

真面目に出席している学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、真面目に出席している学生の把握に勤め、成績へのプラス評価につなげる努力をしたいと思っている。私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静寂な環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門」と「会計学入門」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

5

経営学科専門科目

税務会計論Ⅰ

税務会計論Ⅱ

大下 勇二 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「税務会計論Ⅰ」

わが国の税金全体の体系と所得税、消費税および法人税の基本的な仕組みとその基礎

秋学期「税務会計論Ⅱ」

わが国の法人税法の課税所得計算の基礎と財務会計との比較

【到達目標】

春学期

経営学部学生として必要と思われる税金の基礎的知識の涵養を目標とします。

秋学期

会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスとその基礎的考え方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎を修得し、財務会計との相違を理解することを目指します。

【授業の進め方と方法】

春学期

わが国の所得税、法人税および消費税を中心として、税金全体の概要とその仕組みを理解することを目的としています。所得税と消費税については配布資料に基づき、法人税はテキストを用いて、重要な点をパワーポイントにより解説する形で授業を進めていきます。また、個別事例の紹介、実際の所得税の確定申告の練習等も取り入れる予定です。

秋学期

わが国において、法律で規制された会計、いわゆる制度会計には金融商品取引法により規制された「金商法会計」（旧証取法会計）、商法・会社法により規制された「会社法会計」および法人税法により規制された「税務会計」が挙げられます。これら三つの制度会計の領域は、相互に密接に結びついてわが国の企業会計制度を形成しております。前二者の制度会計の領域は、主として「財務会計論」で学習します。本講義は三番目の税務会計を取り上げます。

法人税法の取扱いは実務的で詳細にわたっていますが、授業は、基礎的な内容に限定し、可能な限り財務会計の考え方と法人税法特有の考え方を対比させながら、税法固有の計算の考え方・見方の修得を目指します。授業はテキストを事前に学習していることを前提に、企業の事例を紹介しながら重要な点をパワーポイントを用いて解説する形で授業を進めていきます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	わが国の税金の体系 (1)	わが国の租税体系を概説します。
第2回	わが国の税金の体系 (2)	租税構造および税負担に関する国際比較を行います。
第3回	所得税 (1)	所得税の概要、所得の種類と計算方法について学習します。
第4回	所得税 (2)	給与所得を中心にその計算の仕組みを学習します。
第5回	所得税 (3)	所得税の累進税率の意味と税額の計算方法について学習します。
第6回	所得税 (4)	所得税申告書の仕組みを概説し、所得税の計算練習を行います。
第7回	間接税の仕組み	間接税の体系と特徴を学習します。
第8回	消費税の仕組み (1)	消費税を中心にその特徴と計算方法を学習します。
第9回	消費税の仕組み (2)	逆進性といった消費税の問題点を検討します。
第10回	消費税の仕組み (3)	消費税の益税の問題を検討します。
第11回	法人税 (1)	わが国の法人税の概要、法人所得課税の考え方、株主集合体説などを中心に法人税の基礎を学習します。
第12回	法人税 (2)	わが国の法人税の対象法人を取り上げ、わが国法人のの特徴を学習します。
第13回	法人税 (3)	法人税法の体系、帳簿組織、同族会社、事業年度と繰越欠損金の問題を学習します。
第14回	法人税 (4)	課税所得計算の一般原則、益金の額、損金の額、現行法の所得概念、課税所得の計算構造、資本等取引の概念、実質課税原則、権利確定主義・債務確定主義、確定決算主義、税務調整など、課税所得研鑽の基礎を学習します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	法人税の基礎	法人税の計算を概説します。
第2回	売買損益の計算	売買損益、請負損益、売上り割戻しの取扱いを学習し、税法の考え方を学びます。

第3回	営業外収益および特別利益	受贈益、受取配当金、固定資産の譲渡益の取扱いを概説し、税法の考え方を学習します。また、在外子会社からの配当金の問題も取り上げます。
第4回	売上原価の計算	売上原価の計算の仕組み、棚卸資産の取得原価、期末棚卸資産の評価方法などを学習し、売上原価算定における税法の考え方を学びます。
第5回	有価証券の譲渡原価と期末評価	有価証券の譲渡原価の算定の仕組み、有価証券の取得原価、譲渡原価、期末評価、評価減について学習し、有価証券の譲渡原価の算定における税法の考え方を学びます。
第6回	固定資産の減価償却	減価償却費算定の仕組み、取得原価の算定、耐用年数、償却方法、残存価額、償却限度額の計算について学習し、減価償却計算における税法の考え方を学びます。
第7回	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税やパス・スルー課税（構成員課税）といった新しい事業体の課税問題を取り上げます。
第8回	企業の社会的責任と寄附金・交際費課税	交際費および寄附金について損金算入制限する理由と税法特有の考え方を学習します。
第9回	給与の支給形態の多様化と課税問題	役員の給与を中心に、損金算入制限することの理由と税法特有の考え方を学習します。また、業績連動報酬と課税の問題も取り上げます。
第10回	不良債権の償却の課税問題	不良債権の問題を中心に、貸倒損失および貸倒引当金の計算における税法の考え方を学習します。また、これに関連して、税効果会計も取り上げます。
第11回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併、分割、株式交換・株式移転といった企業組織再編に係る包括的税制を学習し、企業組織再編税制の考え方を学習します。
第12回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人単体課税制度および連結納税制度の仕組みと特徴を学習し、企業集団の課税制度における税法の考え方を学習します。
第13回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の原則を学習します。
第14回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	租税回避対策税制を学習し、米国有名企業などの租税回避行為の仕組みを取り上げます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキスト、または配布資料を読んでおくことが求められます。また、レポートを複数回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

・所得税・消費税に関しては、配布資料
・法人税に関しては、大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育部、2013年。

【参考書】

春学期

開講時に指示します。

秋学期

渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (25%)、平常点 (15%) および定期試験の結果 (60%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の最後に簡単な○×問題を解答してもらい、授業内容の理解をその都度深める取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントのスライドを中心に板書を交えて進めていきます。スライドは授業支援システムにアップロードしますので、各自、事前に用意して下さい。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱを履修し、会計学の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。所得税、消費税、法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張ってください。

管理会計論Ⅰ

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

管理会計論Ⅱ

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

北田 皓嗣 准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。

【到達目標】

経営管理の問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。また各回、2～3つ程度の授業内課題に回答してもらいながら理解を深めてもらいます。特に、個人で考えるだけでなく、少人数のグループで話し合ったあと、クラス全体で共有することで相互に意見を交換し、多角的な理解ができるようにしてもらいます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方について説明して いきます。
第2回	管理会計の基礎概念1	原価の概念
第3回	管理会計の基礎概念2	財務分析の方法
第4回	管理会計の基礎概念3	組織構造、コントロールの階層
第5回	中期経営計画	計画の種類、ROIと利益とキャッシュ フロー
第6回	短期利益計画1	CVP分析、変動費と固定費
第7回	短期利益計画2	安全余裕率
第8回	短期利益計画3	プロダクトミックス
第9回	予算管理1	予算管理の前提
第10回	予算管理2	総合予算の編成
第11回	予算管理3	予算差異分析
第12回	事業部の管理会計1	ROEC, RI
第13回	事業部の管理会計2	予定一括配賦、内部振替価格
第14回	BSC	4つの視点、ストラテジーマップ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	原価計算について	実際原価計算、総合原価計算、個別原 価計算、標準原価計算
第16回	モノづくりと管理会計1	生産管理会計、CVP分析
第17回	モノづくりと管理会計2	原価企画
第18回	モノづくりと管理会計3	テラダウンを通じた製品と原価への理 解
第19回	モノづくりと管理会計4	品質管理会計
第20回	間接費の管理1	ABC, ABM
第21回	間接費の管理2	マーケティングコスト、ロジスティッ クコスト、ファシリティコスト
第22回	営業活動と原価	価格決定、目標原価
第23回	設備投資意思決定1	経済性計算の方法
第24回	設備投資意思決定2	DCF法、資本コスト
第25回	環境マネジメントと管理 会計1	環境管理会計
第26回	環境マネジメントと管理 会計2	MFCA
第27回	環境マネジメントと管理 会計3	統合報告書
第28回	まとめ	今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントを利用した授業をしますが、基礎的な概念について下記の参考書を利用すると学習が進むことが期待されます。

【参考書】

谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社
浅田孝幸監訳 (2008) 『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（25％×2回）、期末テスト（30％）、授業参加（20％）

【学生の意見等からの気づき】

計算やケーススタディなど参加できる要素も取り入れようと考えています。

【その他の重要事項】

簿記入門や会計学入門など会計系の基礎科目を履修していることが望ましいです。また原価計算論Ⅰ/Ⅱや経営分析Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳと相互に関連しています。

ただし管理会計が **Management Accounting** の訳語であることから理解できるように、組織のマネジメントを会計情報システムの視点から理解する科目であるため、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱなどのマネジメントに関連する科目の理解を深めるための科目にもなります。

原価計算論Ⅰ

原価計算論Ⅱ

福田 淳児 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、さまざまな目的に役立つ原価情報を提供するために、製品一単位当たりの製造原価を計算するための方法です。原価計算論Ⅰでは、原価計算論を学習する上で必要な基本的な用語や諸概念を理解するとともに、原価計算の一連の計算手続を理解することを目的とします。原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が企業経営の現場においてどのような目的に役立つのかを理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅰでは、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算を理解し、基本的な計算問題を解けるようにすることを目標とします。

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とします。具体的には、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算が提供する情報が企業経営にどのような役に立つか、さらに **Activity-Based Costing** の基本的なメカニズムを説明できることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

原価計算論ⅠおよびⅡは基本的には講義形式で授業を行います。毎回、テキストならびに授業支援システムを通じて事前に配布した資料を利用して、重要な概念および計算プロセスの説明および理論的な解説を行います。各回の講義で1回は例題を実際に自分の手で解いてもらいます。また、実際の企業の製造プロセスに関するビデオなども見てもらいます。原価計算論Ⅰでは、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の計算手続に沿ったかたちで学習を進めます。原価計算論Ⅱでは、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期的な利益管理目的に有用な直接原価計算ならびに **CVP** 分析、さらに **Activity-Based Costing** と伝統的な製造間接費の配賦方法との比較について学習を行います。原価計算論Ⅰ/Ⅱにおいて、工場での生産の様子を少しでもわかってもらえるよういくつかのビデオを見てもらいます。また、授業内容の確認のための問題また発展問題を課題として数回出すので必ず解いて来て下さい。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算の目的について説明する。また、工業企業と商業企業の違いについて説明を行うとともに、実際の製造企業の生産の様子についてビデオなどを利用して紹介する。
2	原価計算の目的	原価計算の意義および目的について、原価計算基準にもとづいて説明を行う。
3	原価計算の諸概念	原価の一般概念および原価計算を学習する上で特に必要となる重要な原価分類のいくつかについて詳しく説明する。それぞれの概念を理解してほしい。
4	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算プロセスについて説明した上で、例題演習を行う。
5	労務費の計算	直接労務費および間接労務費の区別および直接労務費の計算方法を中心に説明する。
6	製造間接費の計算	製造間接費の意義および配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
7	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を行う意義を正確な製品原価の計算と原価管理の効果的な遂行という観点から説明する。
8	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続を説明するとともに、その具体的な方法を例題を交え説明する。
9	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続について例題を交えながら説明する。
10	総合原価計算の特徴	製品別原価計算のもう一つの方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
11	総合原価計算における仕掛品の評価方法	総合原価計算における仕掛品の評価方法（平均法と先入先出法）について練習問題を交えながら説明する。
12	工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法	部門別原価計算に伴う総合原価計算である工程別総合原価計算の意義また累加法による計算手続を説明する。また、非累加法についても紹介する。

13	そのほかの総合原価計算	等級別総合原価計算また組別総合原価計算について簡単な例題を交えて、説明を行う。 原価計算論Ⅰの内容のまとめを行う。
14	講義のまとめ	
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要を紹介する。
2	標準原価計算の意義及びその諸目的	標準原価計算の意義とその目的を原価管理を中心に説明する。多様な原価管理手法についても紹介する。
3	標準原価計算における原価標準の設定	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法について説明する。
4	標準原価計算における原価差異分析（製造間接費の差異分析（四分法）を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析の方法について説明する。特に、製造間接費の差異分析（四分法）について詳しく説明する。
5	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価計算による原価管理の有用性を、近年の郵送質問票調査の結果や多様な論社の見解をを踏まえて議論する。
6	C・V・P 分析	C・V・P 分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の概念を中心に説明する。また計算問題も扱う。
7	直接原価計算の意義とその目的	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義およびその目的について説明する。
8	直接原価計算による損益計算書の作成	直接原価計算による損益計算書の作成について、全部原価計算による損益計算書との対比で例題を交えながら説明する。
9	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の差が生じる状況とその理由	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況とその原因およびそれが経営者の意思決定に及ぼす影響を中心に議論する。
10	直接原価計算の計算問題	直接原価計算に関わる計算問題を実際に解いてみる。
11	ABC の基礎的な概念	ABC の歴史および基本的な用語や概念について事例を交えながら説明する。
12	ABC と伝統的な製造間接費の配賦との比較	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いをその相違点に焦点を当てて説明する。
13	ABM	ABC で得た情報を原価管理目的で利用する場合について考察する。
14	講義のまとめ	原価計算論Ⅱで学習した内容について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回の指定されたテーマについて該当箇所のテキストを読むとともに、事前に授業支援システムを通じて配布された資料には必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、講義の終了後に復習また発展的な学習のための課題を配布するので次の講義までに解いて持ってきてください。次回の講義では前回の復習をかねてこの課題を解説することから講義を始めます。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016年（2400 円税別）

【参考書】

参考文献また推薦図書については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅰ/Ⅱのそれぞれについて期末に行われる定期試験の結果に課題の提出状況を加味して評価を行います。成績評価の配分基準は定期試験の結果 80 % 程度、課題の提出状況を 20 % 程度とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が、難しいとのコメントとともに、簡単であるとのコメントも同時にもらっています。講義では基礎的なところから説明し、発展問題についてはできるだけ課題の形で補足していこうと思います。また、講義が単調にならないように実際の企業の事例や計算問題などでもできる限り取り上げたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は授業支援システムを通じて配布します。

【その他の重要事項】

関連科目とし管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

国際会計論Ⅰ

国際会計論Ⅱ

筒井 知彦 教授

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

経営学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計論Ⅰでは、会計基準の国際的な多様化と調和化について講義します。企業が直面する環境は国によって異なり、それが各国の会計基準の相違を生み出す原因となっています。春学期は、このような会計基準の多様化について取り上げます。具体的には会計と環境（経済的・法的・社会的・文化的環境）、会計基準の国際的多様性（アメリカ、ヨーロッパ、発展途上国等）、多様化に伴う弊害について講義します。

国際会計論Ⅱでは、企業の事業活動の国際化、資本市場の国際化等が進むなかで、国際的に共通の物差しを作り、企業の収益や財政状態の国際的な比較を容易にするよう求める声が強まっていることから、会計基準の国際的調和化を取り上げます。具体的には、国際会計基準の設定の経緯、国際会計基準の基本的考え方、日本の経営と会計、日本基準と国際会計基準の相違、アメリカの会計・監査の変遷と会計不正について講義します。

【到達目標】

国際会計基準の基本的な考え方が理解できる。日本の経営と会計の関係が理解できる。日本が会計を巡って現在置かれている状況と対応が理解できる。

【授業の進め方と方法】

春学期・秋学期

随時プリントを配布し、講義を中心に進める。具体的な事例も取り上げる。計算問題によりにより理解度を確認する。秋学期にはビデオも視聴する。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計および経営と環境の関係
2	環境変化が企業経営に及ぼす影響①	規制強化が企業経営に及ぼす影響：牛井業界の事例
3	環境変化が企業経営に及ぼす影響②	規制緩和が企業経営に及ぼす影響：家電量販業界
4	会計と環境：経済的環境①	経済の発展レベル、政治および経済の安定性
5	会計と環境：経済的環境②	外国為替、円高と円安、外貨建て取引の会計、為替リスクへの対処、インフレーション
6	経営指標①	ROE、ROA、ROEとROAの比較
7	会計と環境：法的環境	成文法と慣習法
8	会計と環境：政治的環境	政治体制、共産主義、政府による資産の収用
9	会計と環境：資本市場	証券取引所、資本市場、負債市場
10	経営指標②	ROEの3分解、ドットとスターボックスを事例とした計算問題
11	近年改訂された会計基準①	減損会計基準、減価償却と減損、費用配分と評価、公正価値
12	近年改訂された会計基準②	企業結合会計基準、パーチェス法、プーリング法、のれんの償却と減損
13	近年改訂された会計基準③	退職給付会計基準、棚卸資産会計基準
14	まとめ	春学期の講義の総復習

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、多様化、調和化、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント
2	会計ルールの変遷	会計ビッグバン前後の会計基準の変遷
3	会計ビッグバン①	会計ビッグバンまでの日本：日本の経営、株式の持ち合い、含み益、外国人投資家、資本効率
4	会計ビッグバン②	フリー、フェア、グローバル、会計ビッグバンに伴う会計基準の改訂、ビデオ①
5	国際会計基準の設定①	IASCの設立、4つの転換点、IOSCO、コアスタンダード
6	国際会計基準の設定②	IASB、ノーウオーク合意、東京合意
7	国際会計基準への対応	国際会計基準への我が国の対応
8	国際会計基準の基礎①	概念フレームワーク、資産負債アプローチと収益費用アプローチ
9	国際会計基準の基礎②	公正価値と取得原価、原則主義と細則主義、ビデオ②
10	国際会計基準の基礎③	ビデオ③、退職給付会計の計算問題
11	国際会計基準の基礎④	退職給付会計、確定給付型年金と確定拠出型年金
12	アメリカの会計制度の変遷	大恐慌以前、証券法、証券取引法、SEC、FASB

13 アメリカの監査制度の変遷 会計不正、規制強化

14 まとめ 秋学期の講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にプリントを予習し、講義後にはプリントを読み直すこと。プリントにある計算問題について実際に解いてみる。講義やプリントで関心を持った部分について自ら調べてみるとよい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

定評のあるテキストとして、桜井久勝『テキスト国際会計基準第6版』白桃書房、秋葉賢一『エッセンシャルIFRS第3版』中央経済社、広瀬義州『新版IFRS財務会計入門』中央経済社などがある。国際会計基準が網羅されている辞書的な文献として『国際財務報告基準 2014』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、平常点（小レポートなど20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ①リアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、それについて授業内でフィードバックします。
- ②私語について厳しく対処します（退出してもらったこともあります）。
- ③適宜、問題演習を行います。

【その他の重要事項】

関連科目：会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修していることが望ましい。財務会計論Ⅰ/Ⅱを並行履修することが望ましい。

5

経営学科専門科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる情報化の進展にともない、「情報漏えい」や「知的財産権の侵害」から「炎上」「バカッター」などに至るまで、さまざまなトラブルが近年目につくようになってきている。こうした問題は、個人であれ企業などの組織であれ、避けて通ることはできない状況にあり、それぞれの立場・場面で対応が求められている。

こうした状況の背景には、ネット空間を中心として、日進月歩で新たな技術やサービスによりメディアのあり方に変化が迫られ続ける環境があげられよう。例えば、LINE を用いたコミュニケーションは数年前までは存在しなかったものであり、こうした新しい環境における問題（たとえば「既読無視」）の解決には明快な答えが用意されていない。このようにメディアの形が変化し続ける中では、個人や組織は定められたルールを順守するだけでなく、基盤となる「原則」と「戦略」の確立が重要となる。個人や組織は問題に対して自ら考えて対処することが必要な状況におかれているのである。

このような「原則」と「戦略」を考える基礎となるのが、個人や組織、そして社会における「倫理」である。本授業では、こうした解のない問題に対する個人、そして組織における対処の仕方について、「倫理」を広義の「コミュニケーション能力」と指定し、コミュニケーションの本質について触れながら、ネット空間における主体の在り方について受講者とともに考察する。

【到達目標】

本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の3点の理解・構築を授業目標として設定する。

1. 現状存在する情報技術・サービス自体を知り、情報・情報化の本質に関して理解すること。
 2. 情報化に対応する社会制度について理解すること。
 3. 情報・情報化に対する自分なりの「原則」「戦略」を構築すること。
- そして、本授業においては、こうした「原則」「戦略」を倫理と定義する。この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。そのための仕掛けとして、授業内においてグループワークやゲストスピーカーとのディスカッションなどを予定している。

【授業の進め方と方法】

本授業は6つのセクションに分けて行う。

・ガイダンス (1 回)

本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。

・情報化によって発生したトラブルの現状 (2 回)

情報化の現状を、発生しているトラブルから探ることによって、情報化時代における個人と社会、企業と社会の関係を考察する。

・情報の特性 (3 回)

情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。

・情報化の進展と社会制度 (4 回)

法律と情報セキュリティマネジメントという2つの制度から、情報・情報化に適合的な制度がどのように設定されているか、またそれらの制度の意義と限界について考察する。

・情報倫理の構築に向けて (3 回)

情報・情報化に適合的な制度の限界を超える「原則」と「戦略」を確立するために必要な事柄について考察する。

・まとめ (1 回)

これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。

単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と倫理」を受講するにあたって
2	情報化によって発生したトラブルの現状 (1)	ネットをめぐるトラブル—個人と社会の関係性
3	情報化によって発生したトラブルの現状 (2)	企業と情報戦略—企業と社会の関係性
4	情報の特性 (1)	情報の特性とその認識
5	情報の特性 (2)	情報化の進展
6	情報の特性 (3)	情報化の進展と経済のサービス化
7	情報化の進展と社会制度 (1)	技術的対策
8	情報化の進展と社会制度 (2)	法的制度—刑法・知財法における情報
9	情報化の進展と社会制度 (3)	対策としての社会的合意形成
10	情報化の進展と社会制度 (4)	企業組織における制度—情報セキュリティマネジメント
11	情報倫理の構築に向けて (1)	情報資産の保護と活用—情報保護と利用
12	情報倫理の構築に向けて (2)	情報資産の保護と活用—模倣と社会進化
13	情報倫理の構築に向けて (3)	情報倫理を作り出す能力

14 まとめ

重層的な情報倫理の構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す（選択回答式。全授業を通じて3回以上提出すること）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（参考書を参照）。

【参考書】

村田潔編『情報倫理 インターネット時代の人と組織』有斐閣選書 ISBN : 4-641-28096-7

梅本吉彦編著『情報社会と情報倫理』丸善 ISBN : 4-621-07017-7

斉藤了文『テクノロジーテラシーとは何か』講談社学術メチエ ISBN : 4-062-58323-7

ローレンス・レッシング『コモンズ』翔泳社 ISBN : 4-798-10204-0

Tim O'Reilly "What is Web 2.0"

<http://www.oreillynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html>

その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況 (10%)、課題レポート (20%)、問題演習等における実習レポート提出 (20%)、期末試験 (50%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。また、課題レポートは当該授業参加者についてのみ受け付けることとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いた課題レポート提出を授業期間中に定期的に課す。（授業期間内に選択して3問以上解答すること）

【その他の重要事項】

情報系に関する知識の少ない人にも分かりやすい内容とする。

受講者は受け身ではなく、考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。

関連科目：

情報と職業 (秋学期) と連続して履修が望ましい (順序は問わない)

経営組織論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい (順序は問わない)

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは初回授業、経営学部掲示板でお知らせします。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、非正規雇用者の割合が上昇するなど、正規雇用に辿り着けない若者の増加が社会問題化している。さらに、正規雇用の職を獲得しても、いわゆる「七五三問題」と呼ばれる新卒就業におけるミスマッチも問題として指摘されるようになってきている。こうした雇用とその後のキャリアにおける問題について考察し、職業に関するキャリアに対する考え方を受講者とともに考察するのが本授業のテーマである。

上記のような職業に関する問題は一方で、情報通信技術（ICT）の進化に起因する考え方もある。近年見られる情報化による産業構造の変化とは、単なる新技術の導入による既存プロセスの効率化にとどまらず、プロセス自体や組織構造の変革、新しい産業の隆盛や起業の活性化、求められる人材像の変化などまで、きわめて広範囲に及ぶものである。こうした変化が雇用形態の変化に及ぼす影響の大きさは、今日の雇用状況に関する指標などからも確認可能である。

その一方で留意しなければならないのは、情報化によってこれまでの労働及び労働観が完全に変化する訳ではないことである。情報化社会においても、成員同士のコミュニケーションが労働を含めた社会的活動の基本であり、これまでの労働や職業のあり方が根本から変化してしまうわけではない。

こうした雇用の変化と産業構造の変化がどのように関連しているかを明らかにし、またこうした状況が労働自体の何を変化させ、何が変化しないのかについての考察を試みる。

【到達目標】

本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の3点の理解・構築を授業目標として設定する。

1. 雇用形態と産業構造の関連から成立する「働く形」の変化について知ること
 2. 「職業観」に関して、情報化による影響を受ける部分と受けない部分について理解すること
 3. 「情報」の本質に関しての考察を通して、「知識労働」について学ぶこと
- これらの理解を通して、就職活動期を迎えつつある受講者各人が、情報化社会における「働く意味」を戦略的に確立してもらうことを到達目標とする。この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。

【授業の進め方と方法】

本授業は7つのセクションに分けて行う。

・ガイダンス（1回）

本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。

・現代における職業（3回）

雇用形態と産業構造の現状を、「非正規雇用」と「情報化」の二つをキーワードにその変化と現状を分析する。

・情報の特性（2回）

情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。

・職業観の歴史と変遷（2回）

職業観がどのように変遷を遂げたかを、主に西洋社会をテーマに取り上げ、古代、ローマ教会下、プロテスタンティズム、そして今日のリナックスイズムをそれぞれの代表的な論考を参考にしながら、辿って行く。

・情報化によるプロセスの変化（2回）

情報化によって、産業構造における労働プロセスにどのような変化が生じているのか、経営情報論を引用しながら明らかにする。

・求められる能力とリテラシー（3回）

これまで取り上げてきた、情報の特性、職業観、産業構造のプロセス変化より、どのような能力及びリテラシーが今日の職業に求められているか分析する。

・まとめ（1回）

これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と職業」を受講するにあたって
2	現代における職業（1）	非正規雇用と情報化の関係
3	現代における職業（2）	情報化と雇用・産業構造の現状
4	現代における職業（3）	情報化の職業に与えたインパクトとは何か？
5	情報の特性（1）	情報の意味とは何かー「基礎情報学」から考える
6	情報の特性（2）	情報と知識の関係性ー知識創造理論から考える
7	職業観の歴史と変遷（1）	前近代・近代の職業観ーM. ウェーバー、H. アレントから考える
8	職業観の歴史と変遷（2）	現代の職業観ーリーナス・トーバルズ、レイモンド・エリックから考える
9	情報化によるプロセスの変化（1）	産業の情報化ー効率化と戦略性

10	情報化によるプロセスの変化（2）	情報の産業化ー情報産業の出現
11	求められる能力とリテラシー（1）	情報化による職業における役割変化
12	求められる能力とリテラシー（2）	職業人のキャリア形成
13	求められる能力とリテラシー（3）	知識創造と職業
14	おわりに	戦略的な職業観の確立に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す（選択回答式。全授業を通じて3回以上提出すること）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（参考書を参照）。

【参考書】

近藤勲編著『情報と職業』丸善 ISBN：4-621-07091-6

山崎信雄『情報と職業ー情報産業で働くための必要知識ー』ISBN：4-944-02492-4

ハンナ・アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫 ISBN：4-480-08156-9

ベッカ・ヒマネン、リーナス・トーバルズ、マニュエル・カステル『リナックスの革命』ISBN：4-309-24245-3

レイモンド・エリック『伽藍とバザール』空文庫

<http://www.aozora.gr.jp/cards/000029/card227.html>

城繁幸『若者はなぜ3年で辞めるのか？』光文社 ISBN：4-334-03370-9

その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（10%）、課題レポート（30%）、期末試験（60%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。ただし、提出されたレポートを、これまで通りレジュメ上で紹介するか、他の方法を用いるかに関しては再検討する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いた課題レポート提出を課す。課題レポートは当該授業参加者についてのみ受け付けることとする。

【その他の重要事項】

受講者に考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。

関連科目：

情報と倫理（春学期）と連続して履修が望ましい（順序は問わない）

経営情報論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい（順序は問わない）

【オフィス・アワー】

質問がある場合はE-mailで受け付ける。

メールアドレスは初回授業、経営学部掲示板でお知らせします。

經營戰略学科 専門科目

6

經營戰略学科専門科目

国際経営戦略論Ⅰ

経営戦略学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

国際経営戦略論Ⅱ

経営戦略学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

安藤 直紀 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進行に伴い、大企業だけでなく、中小企業やベンチャー企業でも何らかのかたちで外国企業や外国市場にかかわる機会が増加し、国際企業戦略が、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっていきます。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。本講義では、本国とは異なるビジネス環境の中で、どのようにすれば現地のライバル企業に対して競争優位を得られるのかを学生が理解し、その知識を活用して企業の国際経営戦略を分析できるようになることを目的とします。

【到達目標】

学生は、多国籍企業が直面するビジネス環境を理解します。海外市場への参入戦略、現地での経営戦略、国際人材戦略、国際提携戦略など、国際経営戦略を構成する各要素を理解します。国際経営戦略を理解するために必要な経営学の理論を理解します。企業の国際経営戦略を分析できるようになります。

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。まず日本とは異なる海外のビジネス環境について講義します。その後、海外直接投資や多国籍企業に関する基本的な事項を講義します。さらに、エントリー戦略、海外での経営戦略、国際人材戦略、国際提携戦略などを講義していきます。講義の中では、多国籍企業にとって重要性が増している新興国市場に関する議論の比重を多くします。理論に関する講義だけでなく、事例研究も行います。インタラクティブな講義にするために、講義中に何人かに意見等を求めます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義に関するオリエンテーション
2	グローバル化の推進要因	グローバル化の推進要因
3	グローバル・ビジネス環境（1）	企業が外国で直面する政治・経済・法システム
4	グローバル・ビジネス環境（2）	企業が外国で直面する社会文化の違い
5	グローバル・ビジネス環境（3）	新興経済で企業が直面する外部環境
6	海外直接投資（FDI）	FDIの動機と類型
7	多国籍企業（MNC）	MNCの特徴
8	途上国からの多国籍企業（DMNC）	DMNCの特徴、伝統的なMNCとの違い
9	企業の国際化理論（1）	なぜ企業は海外に進出するのか
10	企業の国際化理論（2）	企業の国際化を説明する理論
11	企業の国際化理論（3）	企業の国際化の拡大を説明する理論
12	エントリー戦略（1）	エントリー・モードの類型
13	エントリー戦略（2）	どのように外国市場に参入するのか
14	エントリー戦略（3）	エントリー・モードの類型と各類型の特徴

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	これまでの復習と今後の学習内容の概要
2	国際経営戦略（1）	MNCが受ける2つのプレッシャー
3	国際経営戦略（2）	MNCの経営戦略の類型
4	国際経営戦略（3）	MNCの組織と戦略
5	海外子会社（1）	海外子会社のコントロール
6	海外子会社（2）	海外子会社の役割と類型
7	国際HRM（1）	本社からのマネージャー（PCN）と現地人マネージャー（HCN）の役割
8	国際HRM（2）	PCNの失敗要因
9	国際HRM（3）	海外子会社の人事政策の類型
10	国際HRM（4）	海外子会社の現地化
11	国際提携戦略（1）	国際戦略的提携への動機
12	国際提携戦略（2）	国際戦略的提携の締結
13	国際提携戦略（3）	国際戦略的提携のマネジメント
14	国際提携戦略（4）	国際戦略的提携の不安定要因

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

- 1～2回：グローバル化が企業に与える影響を考える
- 3～5回：日本と海外とのビジネス環境の違いが国際経営に与える影響を考える
- 6～8回：多国籍企業の国際経営の事例調査
- 9～11回：企業の国際化に関する理論を調査
- 12～14回：エントリー・モードに関する理論を調査

秋学期

1回：春学期の内容の復習

2～4回：国際経営戦略の類型について調査

5～6回：本社と海外子会社の対立関係について考える

7～10回：海外子会社の現地化と海外子会社の業績との関係について考える

11～14回：国際戦略的提携の事例調査

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、授業支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）で評価します。

ただし、定期的に講義中に行ってもらう作業をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。作業については、開講時に指示します。

【学生の意見等からの気づき】

理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくことと理解がより深まるとしています。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

国際経営論Ⅰ

国際経営論Ⅱ

洞口 治夫 教授

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空（ANA）、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源の調達などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】

この授業では、学生諸君が、将来、国際的なビジネスパーソンとして活躍するときに必要となる国際経営の基礎知識を学習し、関係づけることを目標とします。そのために、多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのか、また、多国籍企業に関する理論を理解し、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを理解することを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」としての理論内容を討議することによって、国際的なビジネスの動向を深く理解して現実に応用できるようにすることが目標です。

【授業の進め方と方法】

春学期には輸出・直接投資・ライセンスに代表される多国籍企業の経営活動について説明します。秋学期には輸出代金の回収や投資収益回収の際に重要となる外国為替レートの決定要因に関する考え方をやさしく説明します。パワーポイントやビデオなどの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実にすることを確認しながら授業を進めます。ビジネスの世界では、営業先での会話や交渉のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成などは、自らノートにとって整理する必要があります。参加学生による教科書や参考資料の音読も行い、専門用語の理解を確認します。春学期、秋学期には、それぞれ1ページ程度の英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の概要説明	講義目的と概要、理論と実務との関連。参入形態の基本7類型。
第2回	第Ⅰ部. 戦略論 海外直接投資の理論	経営資源、取引費用。暗黙知、形式知、集合知。コア技術とコピー技術。
第3回	イノベーションと国際経営	イノベーションの波としての経済発展。多国籍企業の定義と実態について。
第4回	海外直接投資と企業内貿易	移転価格、内部留保、為替レート。自由貿易協定の意義。クラスターの重要性。
第5回	第Ⅱ部. 管理論 国際マーケティング	現地適応とグローバル統合。EPRG理論。親会社と現地子会社。
第6回	OM入門	JIT生産、小集団活動、TOC理論。
第7回	財務管理とM&A	資産、負債、純資産、資本金。株主総会と議決権。TOB。デューデリリジェンス。減損会計。
第8回	国際人的資源管理	海外派遣の社内規定。海外赴任とモチベーション。
第9回	情報システム、知識管理とA I産業の創造性	経営進化管理の展開。製品開発論の基礎。
第10回	クリエイティブ・インダストリーの国際化	創造性のマネジメント。芸術と契約。情報の非対称性。プロデュースとマニファクチャ。
第11回	第Ⅲ部. 組織論 多国籍企業の組織とコーポレート・ガバナンス	組織ルーティン、ルーティンの進化、ITとAIの利用。
第12回	多国籍企業の組織文化	不確実性の回避、権力格差、個人主義と集団主義、男性性と女性性。リーダーシップと信頼。
第13回	新興国市場と多国籍企業	BRICs、東南アジアの経済と企業。文化摩擦。
第14回	企業倫理とCSR ＜授業内試験＞	リスク・マネジメント。地域貢献と働き方。戦略的CSR。授業内試験。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	第Ⅰ部. 制度の理解 多国籍企業と国際金融市場	ドル、ユーロ、人民元。世界の金融センター。金利と信用、通貨と国家主権。
第2回	外国為替と多国籍企業	主要な為替制度。固定相場、ベッグ、変動相場制。2018年の通貨変動事例。
第3回	国際マーケティングと通貨	国際マーケティングと外国為替レート。4P、STPの復習。
第4回	移転価格と課税回避	タックスヘイブン。法人税額と課税。

第5回	第Ⅱ部. 理論の理解 為替レートの決定理論	購買力平価説、金利平価説、オーバーシュート説、ランダムウォーク、ニュースの役割。
第6回	金利平価と新聞による為替解説記事	利率の意味。数学的予備知識の復習、累乗と階乗。
第7回	ランダムウォーク入門 (1) 二項分布と平均・分散・標準偏差	3枚のコインを投げて2枚が表になる確率は？ 二項分布とランダムウォーク。
第8回	ランダムウォーク入門 (2) 正規分布	正規分布の数学的な特徴と統計的検定。
第9回	オーバーシュート	非弾力的な供給とドリフト。分布の歪み。
第10回	第Ⅲ部. 戦略への応用 直物、先物、オプション	外国為替取引における直物、先物、オプション。整理券、前売り券、当日券。
第11回	先物市場とニュースの役割	為替レートの安定化と先物市場がもたらす不均衡。
第12回	オプションとリアルオプション	延期と投機、リアルオプション。
第13回	直接投資の理論とリアルオプション	直接投資、M&Aの理論とリアルオプション。
第14回	コンプライアンスの重要性 ＜授業内試験＞	インサイダー取引と企業倫理。授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に参加する前にテキスト（教科書）の該当箇所を読み、わからない用語を調べることがあります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。授業内で学ぶ数学は簡単なものなので、特段の準備は不要ですが、高校数学の基礎を再度固めたい諸君には、NHKラジオの高校数学講座・数学Ⅱのサイトをアクセスすれば印刷教材をプリントアウトすることも可能です。経済学に関心のある諸君の準備としてはA. C. チャン、K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎（上）』シーエーピー出版を勧めます。

【テキスト（教科書）】

- (1) 原田順子・洞口治夫編著 (2013)『国際経営（放送大学教材）』放送大学教育振興会。＜授業では、テキストのなかのいくつかの章を、より詳しく説明します。理解を確認するために授業内で音読をします。＞
- (2) そのほかに適宜、講義資料を配布します。

【参考書】

- (1) 洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門 経営学（第2版）』同友館。＜国際経営についての章があり春学期の授業の一部に該当しています。＞
- (2) 東北大学統計グループ (2002)『これだけは知っておこう！統計学』有斐閣。＜この本の一部は秋学期の授業内容に該当しています。授業内で解説します。＞
- (3) 洞口治夫 (2018)『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文真堂。＜大学院進学してMBA取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。＞
- (4) Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). ＜海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書第15章は春学期、第9章は秋学期の授業内容に関連しています。＞

【成績評価の方法と基準】

- 成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
- (1) 授業内容のノートテイキングを基礎にした課題レポート (30%)
 - (2) 授業内テスト (100点満点) (70%)
- 課題レポートを作成するためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは感謝の言葉が並んでいます。たとえば「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」、「大学らしい授業で学んだ気がした」、「難しいことをわかりやすく解説してもらえた」といったものです。授業内容がSPIIといった就職活動での筆記試験にも役立つことは、この授業からの「気づき」といえます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書、グーグル検索のためのスマホ。授業支援システムが閲覧できるパソコン。また、グループワークを行うので「心の準備」をして参加して下さい。

【その他の重要事項】

国際経営論を履修する前に、経営学総論、基礎統計学、経営戦略論、マーケティング論を履修することをお勧めします。朝1時限目の授業であり、満員電車はたいへんですが、毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。会社で働けば朝9時から仕事が始まります。学生諸君も、授業開始5分前には教室に来て授業の準備をし、「もうすぐ社会人」となることを意識して常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。オフィスアワーは木曜日の6時限、18:30～20:00、BT1814研究室です。

6

経営戦略学科専門科目

戦略的意思決定論Ⅰ

戦略的意思決定論Ⅱ

福島 英史 教授

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、企業組織の戦略的意思決定について考えるための概念、論理、視角を学習することにあります。経営現象は、組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます。この授業では、日々の業務に直接関わる業務的意思決定や、開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく、特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます。現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な戦略的意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが到達目標です。戦略的意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか、また、自社のみならず、他社の意思決定を考えた場合に、結果としてどのような状況が産業に生じるのか、現実の会社がなぜ M&A 等で規模位を拡大しようとするのか、産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか、一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか、こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます。

【授業の進め方と方法】

事業モデルの選択と競争上の位置取り、環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます。ある産業、あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか、といった問題にアプローチします。講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズやミニ・ケースを解くなどの課題が課されます。その際、指名された履修者は、意見を求められます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	事業の組立と市場戦略 1	製品事業の基本的観点
3	事業の組立と市場戦略 2	市場戦略の枠組み
4	競争の構造と収益性 1	競争構造の基本的観点
5	競争の構造と収益性 2	プレイヤー間の代替関係
6	競争の構造と収益性 3	プレイヤー間の補完関係
7	産業のライフサイクルと費用構造 1	市場変動と費用構造
8	産業のライフサイクルと費用構造 2	キャパシティ
9	事業背景と参入・撤退の決定 1	参入企業の事業背景と競争
10	事業背景と参入・撤退の決定 2	事業投資の意思決定と収益性
11	事業システムの視点 1	事業システムの基本枠組み
12	事業システムの視点 2	システム内外の競争と協調
13	利益配分とパワー構造の変革 1	パワー分布と利益配分
14	利益配分とパワー構造の変革 2	構造の変革

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	企業の成果尺度	企業戦略の成果を見る基本指標
3	ゲーム理論的発想 1	基本枠組みの理解
4	ゲーム理論的発想 2	競争戦略の新たな視点
5	基本戦略と大規模化 1	規模を追う戦略の論理
6	基本戦略と大規模化 2	規模を追わない戦略の論理
7	技術革新と基本戦略 1	技術革新のライフサイクル
8	技術革新と基本戦略 2	複数戦略の同時追求とコモディティ化の論理
9	技術革新と基本戦略 3	技術・市場の発展と日米の戦略観
10	技術革新と市場地位	市場地位の交代が生じる論理
11	経営資源アプローチ 1	狭義のリソース・ベースド・ビュー
12	経営資源アプローチ 2	学習を重視する戦略観と日本企業の現状
13	全社的な意思決定 1	企業の垂直的範囲と合理化の意思決定
14	全社的な意思決定 2	事業の多様化と集約化の意思決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

講義中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

I 春学期：定期試験（100 %）で評価します。II 秋学期：定期試験（100 %）で評価します。講義中に行われるエクササイズの点数は、「ボーナス」として上記に加算いたします。

【学生の意見等からの気づき】

過年度のフィードバックから話す速度を調整します。エクササイズに十分な時間をとります。

【その他の重要事項】

講義中の私語はご遠慮ください。関連科目は、経営学総論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論、経営管理論、日本経営論、流通論、技術管理論、製品開発論、国際経営戦略論、中小企業論、組織経済学。戦略的意思決定論II（秋学期）は理解の促進のため、I（春学期）と併せて履修することが望ましいです。

日本経営史Ⅰ

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣 准教授

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができ。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【授業の進め方と方法】

・配布する資料に基づき、講義形式で進めます。
・「幕末維新期 → 明治前期 → 産業革命期 → 第一次大戦期 → 両大戦間期」という時代区分を採用し、時代を追って解説します。余裕があれば、戦時期～戦後高度成長期についても扱います。
・各時代の解説にあたっては、まず当該期の経済状況について概観する回を設け、その後ケース・スタディーの検討に移ります。その上で、最後に小テスト（各学期 1～2 回程度）を実施し、学習の到達度をチェックします。
・秋学期の終盤（産業テーマ別授業）では、特定の産業を取り上げ、その発展過程を概観します。今までの授業で解説してきた時代を、ある産業の切り口からもう一度振り返り、理解を深めることが目的です。その際には、ゲストによる特別授業を行う場合があります。
・関連する映像資料（ビデオ）の視聴も随時行います。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
3	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
4	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
5	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
6	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
7	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
8	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬幸平
9	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
10	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
11	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荏田平五郎
12	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
13	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
14	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	復習：幕末～明治期における日本経営の概観
2	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
3	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
4	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
5	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：久原房之助と鮎川義介
6	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
7	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
8	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
9	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
10	戦後復興期～高度経済成長期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
11	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、その歴史的発展について学ぶ。
12	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、そこにおける代表的な企業の経営発展について学ぶ。

13	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、そこにおける代表的な企業の現況について、歴史的な経緯をふまえて学ぶ。
14	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（60 %）＋小テスト（40 %）。
・以上の配点を基本としますが、優れた答案の場合はさらに加点することがあります。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、試験問題はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・「授業のポイントがつかみにくい」という声に対しては、授業中に復習の時間を設けたり、板書の機会を増やすことで対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

6

経営戦略学科専門科目

中小企業論Ⅰ

中小企業論Ⅱ

鹿住 倫世 講師

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本の経済・産業における中小企業の位置づけおよび、中小企業の経営の特徴、ベンチャー企業や起業の実態について学ぶ。日本の法人および個人事業の99.7%は中小企業である。しかし、中小企業の実態については、あまり理解されていない。また、ベンチャー企業はイノベーションを実用化し、雇用を創出するため、日本の経済・産業の発展には不可欠の存在である。中小企業やベンチャー企業を理解することにより、中小企業への支援や地域経済の活性化の方策、起業する際の全社的なマネジメントの方法などを学修し、将来、さまざまな仕事において活用できる知識を獲得できる。

【到達目標】

主に日本の中小企業について、経済や産業における役割・位置づけ、企業経営の特徴や課題について理解し、中小企業が果たしている役割や優れた経営の事例について具体的に記述することができる。

地域経済や特定の業種における中小企業の課題や積極的な役割を理解し、中小企業政策や地域活性化策、業界の発展方策について説明することができる。ベンチャー企業の経営上の特徴と、創出・発展に不可欠の経済・社会環境について理解し、起業のプロセスやベンチャー企業創出・育成策について説明することができる。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回1テーマを取り上げ、レジュメに基づき講義形式で行う。必要に応じて、参考資料の配布、写真や映像の紹介などを行う。

また、学生の理解を深めるため、次の授業のテーマに沿った簡単な質問を提示し、その回答を授業の冒頭に発言してもらう時間を設ける。発言した者には、1回2点を付与する（春学期、秋学期各10点まで、成績評価に含める）。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	中小企業について学ぶ意義	中小企業とは何か、中小企業論の意義について学ぶ
第2回	経済・産業における中小企業	日本の経済・産業における中小企業が占める割合、役割について理解する
第3回	中小製造業の特徴	中小製造業の経営上の特徴と課題、地場産業など地域の産業集積について学ぶ
第4回	中小卸売業の特徴	中小卸売業の経営上の特徴と課題について学ぶ
第5回	中小小売業の特徴	中小小売業の経営上の特徴と課題、商店街の概要について学ぶ
第6回	中小サービス業の特徴	中小サービス業の経営上の特徴と課題について学ぶ
第7回	中小企業の経営戦略	中小企業の組織や経営資源の状況を踏まえた経営戦略の特徴について学ぶ
第8回	中小企業の技術と研究開発	中小企業の技術および研究開発の特徴と課題について学ぶ
第9回	中小企業の財務	中小企業の財務上の特徴と課題、資金調達の状況について理解する
第10回	ファミリービジネスと事業承継	ファミリービジネスの特徴と課題、強みおよび、中小企業の事業承継の特徴と課題について学ぶ
第11回	中小企業の労務管理	中小企業の労務管理と人材育成における特徴と課題について学ぶ
第12回	中小企業とベンチャー企業	ベンチャー企業の経営上の特徴と中小企業との違いについて学ぶ
第13回	海外の中小企業の動向	欧米の中小企業の定義やアジア各国の中小企業の実態について学ぶ
第14回	まとめと振り返り	中小企業の特徴、課題および先進事例について振り返る

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	中小企業政策の意義	中小企業の役割、特徴を踏まえた政策の必要性、中小企業政策の変遷
第2回	中小企業基本法	日本の中小企業政策の根幹である中小企業基本法の制定目的、内容、改正の経緯について学ぶ
第3回	個別政策1（経営支援政策）	中小企業政策の柱の一つである、経営支援政策の概要について学ぶ
第4回	個別政策2（組織化、連携）	経営支援政策の中で、中小企業の連携による経営活動の向上方策について学ぶ
第5回	個別政策3（ものづくり、技術開発）	主に製造業を対象とした、ものづくり企業への支援、技術開発への支援について学ぶ

第6回	個別政策4（情報化、国際化）	近年、重要性を増しているITの導入・活用支援、海外進出等への支援について学ぶ
第7回	個別政策5（労働、人材育成）	労働政策における中小企業向けの政策、人手不足や人材育成への支援策について学ぶ
第8回	個別政策6（金融、税制）	経営環境整備、政策ツールとしての金融政策、税制について学ぶ
第9回	個別政策7（小規模企業、商店街）	小規模企業向けの政策、商店街活性化のための政策について学ぶ
第10回	個別政策8（創業支援）	中小企業政策における創業支援政策の位置づけ、これまでの取り組みについて学ぶ
第11回	起業の実態	日本における起業・創業の実態と、最近の新しい起業形態について学ぶ
第12回	ベンチャー企業	ベンチャー企業の経営の特徴と課題、ベンチャーファイナンスおよび支援策について学ぶ
第13回	ビジネス・エコシステム	ベンチャー企業が次々に創出される環境であるエコシステムについて学ぶ
第14回	まとめと振り返り	中小企業政策、起業・創業、ベンチャー企業について、企業の事例などを踏まえて振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業のテーマに即した設問を提示するので、各自で回答や自分の考えをまとめてくること。当該授業の最初に、回答を発言する時間を設けるので、挙手の上発言する。発言した者には、1回2点を付与する（春学期、秋学期 各10点を上限として成績に加算する）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。

【参考書】

後藤康雄（2014）『中小企業のマクロ・パフォーマンス』日本経済新聞出版社
植田浩史他著（2014）『中小企業・ベンチャー企業論（新版）』有斐閣
清成忠男（2009）『日本中小企業政策史』有斐閣
中小企業庁編『中小企業白書』各年版

【成績評価の方法と基準】

（評価方法）
期末試験 90%
授業中の発言点 10%
合計得点が満点の60%未満の場合、D評価になる。
試験は持ち込み不可。試験問題は選択式と論述式がある。
（評価基準）
到達目標に即して、講義で得た知識をもとに、中小企業およびベンチャー企業に関して与えられたテーマについて具体的に論ずる力を見る。

【学生の意見等からの気づき】

今年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

経営組織論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、日本経営論Ⅰ／Ⅱ、日本経済論Ⅰ／Ⅱ

日本経済論Ⅰ

日本経済論Ⅱ

平田 英明 教授

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

また、米国との関係が強い日本にとって、トランプ政権下の諸政策はどういった影響があるのでしょうか。その影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部には所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answers」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかんと思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【授業の進め方と方法】

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て授業支援システムを使って発信します。

例年、政策当局の方と国会議員の方などに授業内で 2 回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、エコノミスト）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実務家の講演を織り込む予定です。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2	日本経済を丸ごとつかむ 1	マクロ経済学的な視点から日本経済を概観します
3	日本経済を丸ごとつかむ 2	マクロ経済学的な視点から日本経済を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5	働くこと、会社の機能を学ぶ 1	学ぶことと働くことの関係、企業の基本的な仕組みを把握します
6	働くこと、会社の機能を学ぶ 2	学ぶことと働くことの関係、企業の基本的な仕組みを把握します
7	カネは天下をめぐるーお金とは何かをつかむ	お金がどのように経済の中で循環しているのかを理解する必要があります
8	利子（金利）の役割をつかむ 1	そもそも利子がなぜ企業経営に大事なのでしょう。マイナス金利の意味も含めて学びます
9	利子（金利）の役割をつかむ 2	そもそも利子がなぜ企業経営に大事なのでしょう。マイナス金利の意味も含めて学びます
10	日本経済の底力をつかむ	国際比較も通じながら日本の潜在的な経済力の現況を理解します
11	政府の役割をつかむ 1	政府の日本経済の中での位置づけを理解します
12	政府の役割をつかむ 2	政府の日本経済の中での位置づけを理解します
13	貿易と日本経済の関係をつかむ 1	日本の貿易構造、T P P の特徴を理解します
14	貿易と日本経済の関係をつかむ 2	日本の貿易構造、T P P の特徴を理解します

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 1	バブル経済とその後についての歴史を学びます
2	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 2	バブル経済とその後についての歴史を学びます
3	同 2：少子高齢化問題 1	少子高齢化問題が、なぜ大事なのでしょう
4	同 2：少子高齢化問題 2	少子高齢化問題が、なぜ大事なのでしょう
5	同 2：少子高齢化問題 3	少子高齢化問題が、なぜ大事なのでしょう
6	同 3：労働市場の構造問題 1	日本的な雇用システムの合理性と非合理性を理解します
7	同 3：労働市場の構造問題 2	日本的な雇用システムの合理性と非合理性を理解します
8	同 4：わが国の家計貯蓄率の低下 1	日本経済における貯蓄の特徴とその歴史的な経緯を理解します
9	同 4：わが国の家計貯蓄率の低下 2	日本経済における貯蓄の特徴とその歴史的な経緯を理解します
10	ビッグデータと日本経済	ビッグデータの役割を理解しましょう
11	経済ショック 1：金融危機と日本経済	アジア通貨危機とリーマンショックを中心に議論します
12	経済ショック 1：金融危機と日本経済	アジア通貨危機とリーマンショックを中心に議論します
13	同 2：東日本大震災と企業行動	東日本大震災が企業行動に与えた影響について紹介します
14	同 3：エネルギー価格と日本経済	燃料価格と日本経済の関係について考えていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。マクロ経済学の教科書（例：福田・照山『マクロ経済学入門』）、日本経済論の教科書（小峰・村田『日本経済入門』、浅子・飯塚・篠原『入門・日本経済』）があると便利でしょう。マクロの教科書は参考文献として類出します。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。

【1】期末試験 100% + X%（授業への参加（発言、質問等））の 2 要素で成績評価を行います。取得可能な成績は A + ~ D です。

【2】よい成績を求めず、単位さえ手に入ればよい人向けです。問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。取得可能な成績は C ~ D です。2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。なお、例年、単位を取れる学生は 9 割以上です（昨年度の D 評価は 5% でした）。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【その他の重要事項】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I / II、ミクロ経済学入門 I / II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

6

経営戦略学科専門科目

国際経済論Ⅰ

国際経済論Ⅱ

高橋 理香 教授

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、国際取引の実態やルールのあり方が大きく変わろうとしています。ニュースを読んでも、例えば TPP とはどのようなものか、世界や日本の取引のあり方がどう変わろうとしているのか、そもそも日本はこれまで他国どのような国際的な取引を展開してきたのか、を正しく理解している人は少ないのではないのでしょうか。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本や世界でどのような国際的な取引が行われ、そのような取引によって日本や世界の経済がどのように変化してきたのかを理解します。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際経済システムについて、理論的・歴史的な解説を行った上で、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を説明します。

【到達目標】

この授業を通して、現実の国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、現代の複雑な国際経済のメカニズムを論理的に分析することで、日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察できることを目標とします。またこれらの考察によって、国際的な観点から現代社会について体系的に分析・理解することを目指します。

【授業の進め方と方法】

各回の講義ノートを用意配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開していきます。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。授業の冒頭では、各回のテーマに入る前に、国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、授業内演習や宿題の答え合わせなどを行うこともあります。この授業では、授業内のグループワークを行い、学生からの能動的な学習を重視しています。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、授業支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易と国際収支
2	貿易と市場 1	貿易市場のメカニズム（需要・供給分析）
3	貿易と市場 2	貿易市場の資源配分（余剰分析）
4	貿易と市場 3	貿易による利益と市場競争
5	日本の比較優位と貿易 1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
6	日本の比較優位と貿易 2	技術格差と貿易パターン
7	日本の比較優位と貿易 3	生産要素の賦存量と貿易パターン
8	新しい貿易理論と日本の貿易 1	伝統的貿易理論と新しい貿易理論の違い
9	新しい貿易理論と日本の貿易 2	製品差別化・規模の経済と日本の自動車の貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易 3	生産工程の細分化・規模の経済と機械製品の貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易 4	企業の生産性の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動 1	海外直接投資と日本の経済
13	生産要素の国際間移動 2	外国人労働の受け入れと日本の経済
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦とさまざまな貿易政策	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策 1	関税政策の理論
4	関税政策 2	日本と外国の関税政策
5	非関税障壁 1	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁 2	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	貿易政策と競争 1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	貿易政策と競争 2	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
9	貿易政策と競争 3	アンチダンピング政策とアメリカの鉄鋼市場
10	国際経済システム 1	国際経済システムの構造・ルールと日本経済
11	国際経済システム 2	多角的交渉（GATT-WTO）
12	国際経済システム 3	地域経済統合（RTA, TPP）
13	国際経済システム 4	貿易と環境問題
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、授業支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明します。

【参考書】

阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT 出版、2015 年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第 2 版』有斐閣、2013 年。
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉 -』慶應義塾大学出版会、2016 年。
清田耕造・神事直人『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年。
小林友彦ほか『WTO・FTA 法入門- グローバル経済のルールを学ぶ』法律文化社、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
多和田真・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」 第 3 版』創成社、2015 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第 10 版〕上・貿易編』山形浩生・守岡校訳、丸善出版、2017 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy*, 10th edition, Pearson.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30 %

授業内演習およびグループディスカッション：20 %

定期試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を授業内で行います。また、授業への積極的なかわりを希望する学生が多いことから、グループディスカッションの機会を設けています。宿題の解説や解答例は、できるだけ宿題提出後すぐに提示します。

【学生が準備すべき機器他】

授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は授業支援システムを使います。

【その他の重要事項】

- ① I と II を通年で履修することを強く勧めます。
- ② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。これまでミクロ経済学入門 I/II を履修していない人は、本授業と同時に並行で履修するか自習することを勧めます。
- ③ 日本経済論・国際金融論・産業組織論・応用経済学と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

国際金融論Ⅰ

国際金融論Ⅱ

横内 正雄 教授

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論Ⅰは、外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学ぶ。国際金融論Ⅱは、国際金融論Ⅰの理解を前提として国際金本位制に始まる国際金融の歴史と現状を学ぶ。

【到達目標】

国際金融論Ⅰは、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を理解し、その意味を理解することを目標とする。国際金融論Ⅱは、国際金融の歴史と現状について学び、それを通じて現在進行している金融グローバル化現象の本質と意味を理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化の現象はなばなく、日々のニュースなどでそれに関連した事柄を取りあげられないことはないほどである。特にサブプライムショックやユーロ危機などについて理解するためには国際金融論の知識は不可欠である。この講義では金融グローバル化の現象について、理論、制度、歴史、政策などの側面から多面的にアプローチすることを試みる。

講義はパワーポイントを用いるとともに毎回資料と講義ノートを提供する。本講義は、授業支援システムを利用して、資料・講義ノート・練習問題・解答がダウンロードできる（一部パスワードによるアクセス制限がある。パスワードは最初の講義で伝える）。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	国際金融論の講義計画と学び方について説明する
第 2 回	国際取引のメカニズム	国際貿易取引と国際送金の流れについて学ぶ
第 3 回	外国為替と外国為替相場	外国為替の本質と外国為替相場の種類について学ぶ
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第 5 回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第 6 回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第 7 回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第 8 回	外国為替相場の理論 (1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第 9 回	外国為替相場の理論 (2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第 10 回	為替リスクとデリバティブ	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ
第 11 回	国際通貨の理論	国際通貨の生成と円の国際化について学ぶ
第 12 回	国際収支の理論 (1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ
第 13 回	国際収支の理論 (2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第 14 回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 次大戦前の国際金本位制	固定相場制度としての金本位制の仕組みについて学ぶ
第 2 回	両大戦間期の国際金本位制	再建金本位制の仕組みとそれが失敗に終わった要因について学ぶ
第 3 回	IMF の形成	1930 年代の国際通貨上の教訓から IMF が成立したことを説明する
第 4 回	ブレトンウッズ体制 (1)	固定相場制度としてのブレトンウッズ体制の基本的性格について学ぶ
第 5 回	ブレトンウッズ体制 (2)	ブレトンウッズ体制が崩壊した要因について学ぶ
第 6 回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所・短所と様々な為替相場制度について説明する
第 7 回	石油危機と累積債務問題	オイルマネーの環流を中心に石油危機と累積債務問題の関連を学ぶ
第 8 回	1980 年代以降の経常収支不均衡問題	レーガノミックスの結果生じたアメリカの「双子の赤字」について学ぶ
第 9 回	国際金融の政策協調	政策協調の理論とプラザ合意以降の政策協調の流れについて学ぶ
第 10 回	1990 年代の円高問題	円高がもたらす産業空洞化の問題と内外価格差について学ぶ
第 11 回	EU 通貨統合	最適通貨圏の理論と EU の通貨統合の歴史・現状について学ぶ

第 12 回	通貨危機	1990 年代に発生した 3 つの通貨危機と通貨危機の理論について学ぶ
第 13 回	通貨危機から金融危機へ	東アジア通貨危機からリーマンショックまでの国際金融について学ぶ
第 14 回	ユーロ危機	ギリシャ危機が明らかにしたユーロ圏が抱える問題について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムには事前に講義の概要・資料・ノートがアップロードされるのでそれを読んで講義に臨んでほしい。また、各回に練習問題が設定されているのでそれを解いてみることは講義の復習となる。なお、練習問題の解答は 1 順次授業支援システムにアップロードされる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

参考書の一覧は最初の講義で配布するが、毎回の講義でもその講義の参考になる著書を紹介する。以下は、手軽に購入可能でやさしい参考書として推薦できるものである。手元に置き講義の復習などに利用することを勧める。

秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ [第 4 版]』有斐閣、2012 年
佐々木百合『国際金融入門』新世社、2017 年
上川孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論 [第 4 版]』有斐閣、2012 年
中條誠一『現代の国際金融を学ぶ [新版]』勁草書房、2016 年
上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007 年
神田真人編『図説 国際金融 2015-2016 年版』財経詳報社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績 (70 %) と課題の提出 (30 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度までの講義は 90 分講義であったため説明不足になった時があった。そのため講義内容が難しいという感想が寄せられているが、2018 年度からは 100 分講義となり 10 分講義時間が伸びたので、昨年度までよりも丁寧に講義を進めることが出来るようになる。

【その他の重要事項】

国際金融論Ⅰと国際金融論Ⅱはセメスター科目として独立して履修可能であるが、国際金融論Ⅱは国際金融論Ⅰの知識を前提とする場合があるので通年で履修することが望ましい。

〔関連科目〕

国際経済論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）

6

経営戦略学科専門科目

産業史Ⅰ

産業史Ⅱ

藤澤 利治 教授

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本主義世界における基軸産業の歴史的発展過程を学ぶ。

今日、我々はわずか数十年前に比べてさえも、非常に豊かつ便利な社会で生活している。だが、この物のあふれるほど豊かな社会は、突然そして自然発生的に我々の前に出現したわけではない。先人達が様々な困難に直面し、それらを新発見や発明の積み重ねによって克服しながら築き上げたものである。その延長線上に、我々の豊かな生活が実現できているが、しかし今日、地球環境問題等の大問題にも直面している。これらの点を講義形式で、歴史的に論じていく。その際、経済の発展を各時代の中軸で支えてきた各産業の発達史を、資本主義経済の発展過程に沿ってたどって行く。そして、各時代の主要産業の特徴を、技術、企業組織、国際分業や貿易のパターン等に焦点をあてて論じていく。

【到達目標】

- ①資本主義経済の世界史的発展過程を理解する。
- ②各時代の産業の発展過程、企業組織、国際分業や貿易の構造を理解する。
- ③現代の産業が直面する地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解する。

【授業の進め方と方法】

進め方：毎回講義形式で進める。

方法：講義で配布するレジュメにもとづいて、基礎概念と歴史プロセスを論じていく。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	I イントロダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	II 資本主義の発展過程と基軸産業の展開 1 重商主義期－イギリス毛織物工業を中心に 1-1 新大陸貿易の発展	15 世紀末からの大航海時代以降、世界貿易が活発化し、大陸間で商業が発展していく過程を見る。
第 3 回	1-2 新大陸貿易と毛織物工業の発展	新大陸貿易において、西ヨーロッパからの輸出品の中心となった毛織物工業の発展が、それまでの封建社会を崩壊させて行く過程を見る。
第 4 回	1-3 資本の原始的蓄積の展開	毛織物工業の発展が、他国に先駆けてイギリスで資本主義の形成を推し進めたことを論じる。
第 5 回	2 自由主義期－イギリス綿織物工業を中心に 2-1 イギリスの産業革命	18 世紀半ば以降、イギリスで始まった産業革命、それとともに発展したイギリス綿織物工業の発展を見る。
第 6 回	2-2 イギリスにおける産業資本の発展と資本主義の確立	産業革命によって発展したイギリス綿織物工業が、イギリスに資本主義を確立させる過程を見る。
第 7 回	2-3 自由貿易と資本主義の拡大	イギリス資本主義の発展が周辺諸国にも波及し、世界的に資本主義が拡張していく過程を概観する。
第 8 回	3 帝国主義期－ドイツ鉄鋼業を中心に 3-1 後発国ドイツの経済的特徴	19 世紀末葉以降、イギリスに代わってドイツが鉄鋼業を中心に世界経済の発展をリードするようになるが、その過程を見る。
第 9 回	3-2 ドイツにおける鉄鋼業の発展と株式会社	英仏に遅れて資本主義化したドイツでは鉄鋼業が発展し、株式会社の導入や、銀行と企業との関係も特徴的であったことを見る。
第 10 回	3-3 保護貿易主義と帝国主義的対立	ドイツの対外経済政策は保護主義的で、イギリスの自由主義に対抗的であった。このような英独間の対抗関係が世界史に及ぼした影響を概観する。
第 11 回	III 第 1 次世界大戦後の世界経済と新産業の展開 1 第 1 次大戦後の世界とアメリカの地位	第 1 次世界大戦後の世界経済におけるアメリカの台頭と西欧の弱体化を概観する。
第 12 回	2 相対的安定期と耐久消費財産業の芽生え	1920 年代のアメリカの耐久消費財産業、特に自動車産業と家電産業の発展を理解する。
第 13 回	3 世界恐慌の勃発	1920 年代末に相対的安定が崩壊し、世界大恐慌が勃発する過程を見る。
第 14 回	4 世界経済のブロック化・アウタルキー化 まとめ	世界恐慌下、主要国は大不況からの脱出を模索し、経済のブロック化・アウタルキー化に向かっていく過程を理解する。産業史Ⅰのまとめと、第 2 次世界大戦後を展望する。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	I イントロダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	II 第 2 次大戦後の世界経済と重化学工業の発展 1-1 アメリカ産業の圧倒的地位	第 2 次世界大戦後の世界経済の再編は、圧倒的な経済力を誇ったアメリカ中心に行われたことを概観する。

第 3 回	1-2 アメリカ経済の強化	アメリカ産業の世界市場における地位が強大であったことを、主要産業を取り上げて分析する。
第 4 回	1-3 アメリカ産業の盛衰	1950 年代半ば以降ヨーロッパと日本の経済再建・発展に伴い、アメリカ産業が弱体化していく過程を理解する。
第 5 回	2 欧州産業の失地回復の試み－経済統合への歩み 2-1 欧州の凋落	第 2 次大戦で弱体化した西欧諸国が、米ソ冷戦の狭間で政治的安定と経済復興を模索する過程を見る。
第 6 回	2-2 欧州経済統合の推進	欧州の経済的繁栄を求めて市場と経済の統合を進める過程を理解する。
第 7 回	2-3 EC/EU による経済統合	EC による統合が拡大・深化し、今日の EU に発展する過程を概観する。
第 8 回	3 日本産業の挑戦－重化学工業化・経済大国化 3-1 戦後の改革と復興	敗戦国日本は、戦後の荒廃から復興を果たすが、連合国軍の占領下で戦後改革も行われた。このプロセスを見る。
第 9 回	3-2 高度経済成長の内実	昭和 30 年代から高度経済成長を遂げ、日本経済が変貌を遂げる過程を見る。
第 10 回	3-3 産業の高度化と経済大国化	高度成長期には重化学工業化を実現し、経済大国と呼ばれるようになるが、この過程を理解する。
第 11 回	III ハイテク産業をめぐる日米欧の角逐 1 アメリカ経済の相対的弱体化と欧日の躍進	1970 年代以降の世界経済は激動の時代を迎える。その主因となったアメリカ経済の不調・日欧の経済的躍進を概観する。
第 12 回	2 ニクソンショックと二度の石油危機	第 2 次大戦後の世界経済を支えてきた国際通貨制度の崩壊と、産業発展の基盤となってきた石油をめぐる危機の世界経済に及ぼした影響を見る。
第 13 回	3 日本産業の構造調整とバブル経済	主要国ではこれらのショックに対応するために産業の構造調整を迫られるが、日本のその内実を見る。
第 14 回	4 ハイテク産業の発展と日米欧の角逐 講義のまとめ	石油危機後、主要国が競ってハイテクの産業化と産業のハイテク化を推進する過程を見る。 そして 1990 年代以降のグローバル経済下での産業の発展と、現在直面している環境問題や資源・エネルギー問題での制約を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：産業史Ⅰ

第 1 回 産業発展の歴史を、下記の参考書を利用して概観しておくこと。

第 2～4 回 15 世紀以降の大航海時代の世界史を予習しておくこと。

第 5～7 回 イギリスにおける資本主義発達史を予習しておくこと。

第 8～10 回 19 世紀半ば以降のドイツ史を予習しておくこと。

第 11～12 回 第 1 次世界大戦後の世界経済について予習しておくこと。

第 13～14 回 1930 年代の世界史の展開を予習しておくこと。

秋学期：産業史Ⅱ

第 1 回 第 2 次世界大戦後の経済史を参考書を利用して概観しておくこと。

第 2～4 回 第 2 次世界大戦後のアメリカ経済史を概観しておくこと。

第 5～7 回 ヨーロッパ経済統合のプロセスを概観しておくこと。

第 8～10 回 日本経済の第 2 次世界大戦後の歩みを予習しておくこと。

第 11～14 回 ハイテク産業、特に IT 産業について予習し、グローバル経済における地球環境問題と資源・エネルギー問題について理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義レジュメと資料を授業時に配布する。

【参考書】

①宇野弘蔵『経済政策論（改訂版）』弘文堂、1971 年

②石見徹『世界経済史－覇権国と経済体制』東洋経済新報社、1999 年

③杉山伸也『グローバル経済史入門』岩波新書、2014 年

④ F. アマトリ/A. コリー『ビジネス・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2014 年

⑤金井・中西・福澤編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010 年

⑥ロンド・キャメロン/ラリー・ニール『概説世界経済史Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

I、II ともに学期末の試験で評価する。論述式の試験により、授業で取り上げたテーマを正確に理解しているか、正しく説明できるか、そして上記の到達目標にどこまで達しているか、を評価の基準にする。

【学生の意見等からの気づき】

教室の後部で、私語がうるさいとの指摘があったため、対応策として教室後部の状況を注意して授業を進めるようにする。また、授業で扱うテーマについて関心を高めるために、資料や教材を回覧するようにする。

【その他の重要事項】

日本経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを、並行してでも良いから履修することが望ましい。

経営分析Ⅰ

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営分析Ⅱ

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

高橋 美穂子 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の主たる目的は、企業を分析、評価するための手法を学ぶことにあります。講義では、企業の公表する財務会計情報や定性情報を用いて、企業を分析、評価するためのフレームワークを解説します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が企業を評価するために必要な知識とスキルを習得することにあります。

経営分析Ⅰ（春学期）の目標は、受講生が講義で学んだ分析手法を用いて、企業の「過去・現在」についてそれぞれの分析に基づいた見解に到達することです。

経営分析Ⅱ（秋学期）の目標は、受講生が企業の「過去・現在」（経営分析Ⅰ）の結果に基づいて「将来」を予測し、その予測値と企業価値の理論的つながりを理解できることです。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。質問や疑問点がある場合は、遠慮なく講義中あるいは講義終了後に発言してください。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	企業評価のフレームワーク	企業評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（１）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（２）	企業戦略分析
6	会計分析（１）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（２）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（１）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（２）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（３）	ベーシック ROE 分解
11	財務比率分析（４）	利益率の分析
12	財務比率分析（５）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（６）	回転率の分析
14	まとめ	春学期の総括

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	春学期の復習（１）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（２）	ベーシック ROE 分解
4	収益性の分析（１）	アドバンスド ROE 分解（１）
5	収益性の分析（２）	アドバンスド ROE 分解（２）
6	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率
7	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係
8	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて貸借対照表項目を予測する
9	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて損益計算書項目を予測する
10	貨幣の時間的価値と割引計算	貨幣の時間的価値、年金および年金型投資商品の現在価値
11	資本コスト	資本コストの推定方法
12	企業評価理論（１）	配当割引モデルと残余利益モデル
13	企業評価理論（２）	残余利益モデルの特徴
14	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容（特に講義中に行った練習問題や課題）が理解できるよう、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

【参考書】

乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに定期試験（100 %）で評価します。また、小テスト（課題）を行う可能性もあります。この場合、小テストの点数はボーナスとして定期試験の点数に加点します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義中に問題演習を行う場合がありますので、授業には電卓を持参してください。

また、企業の有価証券報告書をダウンロードし、財務比率の計算などを行う場合があります。携帯電話で確認するのが難しい場合はパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。

講義環境の維持のため、私語には厳しい態度で対応します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

経営分析Ⅲ

経営分析Ⅳ

福多 裕志 教授

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営分析ⅢのⅢは授業の難易度を示すものではなく、同一名称の科目を異なる教員が担当するので便宜的に付加したものである。ⅣについてもⅢと同様、便宜上の付番である。本科目のテーマは、いかなる組織にあっても必要となる経営分析（財務諸表分析）の基礎知識とその応用を、実際のデータを処理しながら着実に習得することである。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析に限定し講義する。経営分析Ⅲでは、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。経営分析Ⅳでは、株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定プロセスを考察する。

【授業の進め方と方法】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを利用し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高と関連する指標－ROS－について説明
第10回	収益性：その2	ROE、ROA等について説明
第11回	収益性：その3	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画	損益分岐点の算出、問題演習
第13回	成長性	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明
第14回	基本統計量のまとめ	エクセルを用いて各比率の基本統計量を算出し、財務諸表分析への応用を議論

II 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	秋学期講義内容の概略および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第16回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明
第17回	外国企業（ヨーロッパ、アジア）の財務諸表分析	オンライン・データベースより複数国の財務データ抽出しと国際比較
第18回	外国企業（米国）の財務諸表分析	EDGARより米国企業の財務情報入手し、日米企業の財務体質の比較
第19回	総合評価：その1	学習した指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第20回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計学的手法を援用し評価する方法を考察

第21回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、確実性、リスク下における意思決定原理－期待値原理、期待値・変動係数原理等－の考察
第22回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第23回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第24回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第25回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第26回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の理解
第27回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第28回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。必ず「授業支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて授業支援システムに掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。オフィスアワーは別途通知される。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

計量経営分析Ⅰ

計量経営分析Ⅱ

猪狩 良介 専任講師

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業]

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるデータ環境が整備され、「データサイエンス」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でも統計学とデータ分析を行うニーズは非常に高まっています。また、ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があります。そのためには統計学の知識が必要です。

本講義は、統計学の基礎理論と代表的な分析手法を学ぶとともに、それを経営分野、特にマーケティングやビジネスに応用することを目的としています。前期は統計モデリングを中心に学習し、後期は多変量解析を中心に学習します。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計分析の理論を習得する。
- ・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【授業の進め方と方法】

- ・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要について説明します。また、ビジネスにおけるデータ分析の重要性について学びます。
2	統計的推測	母集団と標本の概念と統計的推定について学びます。
3	仮説検定 (1)	母平均・母比率の仮説検定について学びます。
4	仮説検定 (2)	平均値の差の検定について学びます。
5	仮説検定 (3)	統計ソフト R の基本操作とデータ処理、統計的推定や仮説検定を学びます。
6	回帰分析 (1)	相関と回帰の違いについて学習します。また、単回帰分析とその推定法である最小 2 乗法について学びます。
7	回帰分析 (2)	回帰係数の検定や当てはまり評価などについて学びます。
8	回帰分析 (3)	重回帰分析について学びます。
9	回帰分析 (4)	統計ソフト R を用いて回帰分析の演習を行います。
10	質的データの回帰分析 (1)	2 値データの回帰分析であるロジスティック回帰分析について学びます。
11	質的データの回帰分析 (2)	ロジスティック回帰分析の信用リスク分析への応用について学びます。また、R を用いた演習を行います。
12	質的データの回帰分析 (3)	多項選択肢を扱う多項ロジットモデルについて学習します。
13	質的データの回帰分析 (4)	多項ロジットモデルのブランド選択分析への応用について学びます。また、R を用いた多項ロジットモデルの演習を行います。
14	まとめ	春学期に扱った内容を復習します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス／多次元データとは	秋学期に学習する内容について説明します。また、多次元データと多変量解析について学びます。
16	アンケートデータの分析 (1)	アンケートデータ、特に質的データについて学びます。また、データの収集や入力、変数の種類 (シングルアンサー、マルチアンサー等) 等について学びます。
17	アンケートデータの分析 (2)	質的データを用いたクロス集計表の作成とカイ 2 乗検定について学びます。
18	アンケートデータの分析 (3)	クロス集計表を用いたコレスポネン分析について学びます。
19	アンケートデータの分析 (4)	R を利用して、実際のアンケートデータの解析を行います。
20	因子分析 (1)	観測データの背後にある共通因子を抽出するための因子分析について学びます。
21	因子分析 (2)	主成分分析について学びます。また、因子分析と主成分分析の違いについて学びます。
22	因子分析 (3)	因子分析や主成分分析を応用したポジショニングマップについて学びます。

23	因子分析 (4)	統計ソフト R を用いて因子分析と主成分分析の演習を行います。
24	クラスター分析 (1)	データを分類するためのクラスター分析について学びます。
25	クラスター分析 (2)	クラスター分析をマーケティング・セグメンテーションに応用した事例について学びます。
26	クラスター分析 (3)	統計ソフト R を用いてクラスター分析の演習を行います。
27	まとめ (1)	秋学期に扱った内容を復習します。
28	まとめ (2)	より発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に課題した演習課題をレポートとして提出します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しません。

【参考書】

- ・福地純一郎、伊藤有希 (2011) 『R による計量経済分析』朝倉書店。
- ・粕谷英一 (2012) 『一般化線形モデル (R で学ぶデータサイエンス)』共立出版。
- ・中村永友 (2009) 『多次元データ解析法 (R で学ぶデータサイエンス)』共立出版。
- ・藤井良宜 (2010) 『カテゴリカルデータ解析 (R で学ぶデータサイエンス)』共立出版。
- ・金明哲 (2017) 『R によるデータサイエンス-データ解析の基礎から最新手法まで 第 2 版』森北出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題および演習レポート (60 %)
- ・期末課題 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【関連科目】

基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

6

経営戦略学科専門科目

システム管理論Ⅰ

経営戦略学科専門科目

3～4年次／2単位〔春学期授業〕

システム管理論Ⅱ

経営戦略学科専門科目

3～4年次／2単位〔秋学期授業〕

児玉 靖司 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

秋学期は、ICTに関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】

職業人としてICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営に必要な数理的な分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

〔授業の概要〕経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
〔授業の方法〕授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。
さらに、本年度は米国滞年在2年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第2回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第3回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第4回	要求分析(1)	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第5回	要求分析(2)	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第6回	外部設計(1)	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第7回	外部設計(2)	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第8回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第9回	テスト手法について(1)	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第10回	テスト手法について(2)	システム開発におけるテスト手法の具体例について学ぶ。
第11回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第12回	2進数について(1)	システム開発における基本的な知識として2進数について学ぶ。
第13回	2進数について(2)	浮動小数点の2進数表現、補数の表現について学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の意義について学ぶ。
第2回	情報セキュリティ	コンピュータウイルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第3回	新聞売り子の問題(1)	新聞売り子の問題について学ぶ。
第4回	新聞売り子の問題(2)	新聞売り子の問題について応用事例について学ぶ。
第5回	プロジェクト管理(1)	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第6回	プロジェクト管理(2)	作業工程分析について応用事例を学ぶ。
第7回	ゲーム理論(1) 戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第8回	ゲーム理論(2) ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第9回	ゲーム理論(3) 確率を用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第10回	ゲーム理論(4) 基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第11回	ゲーム理論(5) 囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第12回	線形計画法(1)	線形計画法について概略を学ぶ。
第13回	線形計画法(2)	線形計画法について応用を学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント、PDFによる資料を配布する。

【参考書】

開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

(課題) 確認テストおよび取り組み姿勢(15%)、定期試験(85%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫(進度をやや遅く)する。

【学生が準備すべき機器他】

PC上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

市場經營学科 専門科目

7

市場經營学科専門科目

日本経営論Ⅰ

日本経営論Ⅱ

金 容 度 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

授業内容については、春学期の日本経営論Ⅰでは、日本の経営についての国内外の議論を検討し、日本の企業システムの特徴を考察する。また、それを踏まえて、企業経営の国際比較を行う。

秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（自動車部品、液晶部材、鉄鋼、半導体）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツ、韓国である。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の経営についての国内議論①	日本の企業経営の特異性を強調する議論を検討する。
3	日本の経営についての国内議論②	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。
4	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを歴史的に概観する
5	日本の経営についての海外での議論①	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を検討する。
6	日本の経営についての海外での議論②	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
7	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
8	日米比較①（労使関係）	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、日米の労使関係を概観する
9	日米比較②（労使関係）	日米の共通点に着目して、20 世紀前半のアメリカにおける労使関係を検討する。
10	日米比較③（企業システムの歴史）	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
11	日米比較④（1980 年代以降の米企業システム）	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
12	日米比較⑤（1980 年代以降の米企業システム）	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
13	日韓比較	企業に対する見方や経営文化の日韓比較を行う。
14	まとめ	春学期授業内容についてのまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	日米の共通点を中心に、企業間関係の国際比較の視点を検討する。
3	メインバンクシステム①	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム②	日本のメインバンクシステムの機能
5	メインバンクシステム③	メインバンクシステムの日独比較（ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する）
6	メインバンクシステム④	メインバンクシステムの新動向及び過去との関連性

7	自動車部品の企業間取引①	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
8	自動車部品の企業間取引②（日米比較）	市場性と組織性に焦点を合わせて、1900 年代～10 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を検討する。
9	自動車部品の企業間取引③（日米比較）	市場性と組織性に焦点を合わせて、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を検討する。
10	自動車部品の企業間取引④（日独比較）	ドイツと日本の自動車部品取引を比較する。
11	自動車部品の企業間取引⑤（日韓比較）	韓国と日本の自動車部品取引を比較する。
12	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する
13	鉄鋼の企業間関係	「産業の米」といわれる鉄鋼の企業間取引について検討する。
14	半導体の企業間関係	もう一つの「産業の米」である半導体の共同開発とマーケティングについて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、毎週の講義中で提示する。なお、毎週レジュメを授業中に配布する。

【参考書】

<日本経営論Ⅰの参考文献>

- ①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済第 3 版』有斐閣、2011 年
- ②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年及び同（第 3 版）、2005 年
- ③ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004 年
- ④ウィリアム・オオウチ『セオリー Z』CBS ソニー出版、1981 年
- ⑤ William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute, 2009
- ⑥鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年

<日本経営論Ⅱの参考文献>

- ① Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015
- ②金容度『日本 I C 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006 年
- ③浅沼萬里『日本の企業組織革新の適応のメカニズム: 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験（70 %）、授業内小試験（30 %）である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に 1 回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【関連科目】

日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ

流通論Ⅰ

流通論Ⅱ

横山 斉理 教授

市場経営学科専門科目

3～4年次／2単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4年次／2単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ?」「在庫?」「お店?」「トラックでの配送?」といったように、曖昧に認識しているのが現状です（これらはすべて「流通」に含まれます）。企業が作った商品は広告・宣伝さえうまくいけばスムーズに売れる、という素朴なものではありません。現代においては、商品を売り出すためには流通への対応が不可欠です。

この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、隣接科目で最も関連が深いマーケティング論とのかかわりを意識しながら、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】

到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実にかけている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようにすることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を紹介し、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していく、というスタイルを採用します。

【授業の進め方と方法】

春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解するために、われわれ消費者にもっとも身近な流通ビジネスである小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな内容の理解が容易になるものと思います。

春学期・秋学期を通じて、可能であればインタラクティブな授業を目指します。教員が壇上からレクチャーを続けるだけではありません。適宜、受講生に発言を求めることもありますし、簡単なグループワークを実施し、その内容を発表してもらう可能性もあります（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく）。

なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容をわかっておくほうがよいため、通年で履修をお勧めします。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	商学の対象	商学の対象＝流通とは何かを学ぶ
2	流通とマーケティング	流通とマーケティングには切っても切れない密接な関係があることを学ぶ
3	流通の機能と機関	流通がどのような機能を果たしているのか、そしてそれを担当するのはどんな機関かを学ぶ
4	流通・商業の発生と発展	流通・商業の生成と発展を歴史を振り返りながら学ぶ
5	経済の成長と流通・商業	経済の成長と流通・商業がどのように関わるのかを学ぶ
6	生産の高度化と流通	生産の高度化が流通にどのような影響をおよぼすのかを学ぶ
7	商業と小売業	商業と小売業の関係を学ぶ
8	小売機構と小売業	小売機構（システム）について学ぶ
9	小売業の形態	小売業の形態について学ぶ
10	小売市場と競争構造	（製造業とは異なる）小売市場における競争の特質について学ぶ
11	小売業態	小売業の業態（format）について学ぶ
12	小売業の営業形態	小売業の営業形態（type of operation）について学ぶ
13	卸売機構と卸売業	卸売機構（システム）の構造と卸売業の役割について学ぶ
14	卸売商の存在意義	卸売商が社会に存在する理由を学ぶ

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	商業・流通とは何か	商業・流通の機能、機関、社会的役割を学ぶ
16	日本の流通動態	日本の流通構造がどのようになっていてそれがどのように変化してきたのかについて学ぶ
17	小売業態論	小売業態の動態を説明する理論を学ぶ
18	百貨店とGMS①	百貨店と総合量販店（GMS）のビジネスモデルについて学ぶ
19	百貨店とGMS②	百貨店のビジネスモデルについての演習を実施する（授業内レポート）
20	コンビニとスーパー①	コンビニエンスストアと食品スーパーのビジネスモデルについて学ぶ

21	コンビニとスーパー②	コンビニエンスストアのビジネスモデルについて演習を実施する（授業内レポート）
22	ディスカウントストアとSPA①	ディスカウントストアとSPAのビジネスモデルについて学ぶ
23	ディスカウントストアとSPA②	SPAのビジネスモデルについて演習を実施する（授業内レポート）
24	商店街とショッピングセンター①	商店街の特徴とショッピングセンターのビジネスモデルについて学ぶ
25	商店街とショッピングセンター②	商店街の現状と取り組みについて演習を実施する（授業内レポート）
26	小売国際化①	小売業の国際化について学ぶ
27	小売国際化②	小売業の国際化について演習を実施する（授業内レポート）
28	まとめ	流通論での学びをふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「テーマ」に示された内容について下記の参考書の該当パートを読み直すことで学習効果が高まります。加えて、日々の生活において、スーパーの陳列やコンビニの商品補充、百貨店の客層など、流通に関する現象を意識して観察しておく、と、授業の理解がよりスムーズになると思います。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

【春学期】久保村隆祐編著（2016）『商学通論〈9訂版〉』同文館

【秋学期】石原武政・竹村正明編著（2008）『1からの流通論』碩学舎

【成績評価の方法と基準】

【春学期】期末試験＝100%

【秋学期】授業内レポート×5回＝100%

【学生の意見等からの気づき】

静穏な授業環境を求める声が多いので、状況をみながら様々な対応をとります。特に、私語については、他の受講生に多大な迷惑をかけることから、ペナルティを科すなど、厳しい対応をとる可能性があります（参考までに、昨年度は静穏な授業環境でした）。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。学修に相乗効果が得られます。

授業の進行具合によってスケジュールが前後することがあります。

受講生の理解度によって内容を変更することがあります。

7

市場経営学科専門科目

消費者行動論Ⅰ

消費者行動論Ⅱ

新倉 貴士 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売っていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】

当科目の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、2017 年までに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようになることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

授業の形態は、講義を中心にして進めます。講義中に、ディスカッションや課題を投げかけることがありますので、瞬時に対応できるように授業に取り組んでください。

「消費者行動論Ⅰ」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。「消費者行動論Ⅱ」では、メーカーと消費者との橋渡し役をするブランドに着目して、両者のコミュニケーションのあり方を様々な角度から理解していきます。

【授業の方法】

講義形式により授業を進めます。毎回パワーポイントによるスライドを使用します。また、授業内でのディスカッションや課題も予定しています。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とマーケティングとの関係を中心にして、当科目の概要を説明します。
第2回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルを詳解します。
第3回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流とその系譜について詳解します。
第4回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費様式の選択メカニズムについて詳解します。
第5回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化、家事の外部的化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について詳解します。
第6回	情報処理メカニズム	情報処理システム、処理能力と処理資源、情報処理モデルについて詳解します。
第7回	情報処理の動機づけ	動機、動機づけ、動機づけられるメカニズム、関与について詳解します。
第8回	情報処理の能力	処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について詳解します。
第9回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセスを中心に情報処理の多様性を詳解します。
第10回	購買前の情報処理	情報の探索と解釈について詳解します。
第11回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について詳解します。
第12回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について詳解します。
第13回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスをベースにして、購買意思決定とマーケティングとのかわりを詳解します。
第14回	購買意思決定の特性とマーケティング	購買意思決定を中心にして、提案価値、伝達価値、インターネットについて詳解します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	当科目についての概要を説明します。
第2回	消費者行動とブランドマーケティング	ブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係を説明します。

第3回	ブランドのアイデンティティとイメージ	マーケターの理想的なブランドアイデンティティが、消費者のブランドイメージにどのように変換されるかを説明します。
第4回	消費者志向のブランド理念①	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方を考察します。
第5回	消費者志向のブランド理念②	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方と信頼の重要性を考察します。
第6回	ブランド認知	ブランド認知について、その分類や役割を説明します。
第7回	ブランド理想	知識構造をベースにした理想のあり方を説明します。
第8回	ブランド態度①	ブランド態度の機能や構造について説明します。
第9回	ブランド態度②	ブランド態度の変容プロセスについて説明します。
第10回	消費者とブランドの信頼①	ブランドへの信頼とは何かを構造的な側面から説明します。
第11回	消費者とブランドの信頼②	ブランドへの信頼とはどのようにあるべきかを事例をもとに考えます。
第12回	ブランドスイッチング	パラエティシーキングなどにみられる消費者の多様性行動を説明します。
第13回	ブランドロイヤルティ	ブランドロイヤルティ概念について、様々な角度から説明します。
第14回	授業のまとめ	これまでの授業内容の総括を行い、体系的な知識の確認をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫、2010 年
田中洋・清水聡、『消費者・コミュニケーション戦略』、有斐閣アルマ、2006 年
新倉貴士、『消費者の認知世界』、千倉書房、2005 年

【成績評価の方法と基準】

消費者行動論Ⅰ：最終試験（100 %）にて評価します。
消費者行動論Ⅱ：最終試験（100 %）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業のスピードをを適切な速度で進める予定です。また、教室の施設を考慮して、マイク音量に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによるスライドやビデオを利用します。毎回、配布資料を用意する予定です。

【その他の重要事項】

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ

【受講上の注意】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱを履修した上で受講することが望ましい。

マーケティング・リサーチ I マーケティング・リサーチ II

西川 英彦 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。

【到達目標】

春学期は、①ケースをもとに、インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける、②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる、という2点である。

秋学期は、①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける、②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる、という2点である。

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。各授業で、コミュニケーションシートにより疑問点やコメントをあげ、次週の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

なお、秋学期の定量調査は、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。難しい数式は、使いませんので安心ください。アシスタントによる支援もあり。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	ライオン「ナノックス」の商品企画とリサーチ ・テキスト第 1 章
第 2 回	インタビュー法	資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法 ・テキスト第 2 章
第 3 回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	日清食品の商品企画とリサーチ ・日清食品株式会社 取締役マーケティング部長 深澤勝義さん講演（予定）
第 4 回	観察法（消費者の行動観察）	デザイン企業 IDEO の観察法 ・ティーバッグのデザイン ・テキスト第 3 章
第 5 回	リード・ユーザー法（先端的ユーザーのアイデア活用）	3M でのリード・ユーザー法 ・テキスト第 4 章
第 6 回	クラウド・ソーシング法（消費者参加型新製品開発）	フェリシモ「生活雑貨大賞」 ・無印良品 ・LEGO ideas ・テキスト第 4 章
第 7 回	アイデア発想	TOTO「クラッソ」のアイデア創出 ・「たまごっち」 ・テキスト第 5 章
第 8 回	コンセプト開発	エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発 ・ユニチャーム「ライフリー」 ・テキスト第 6 章 ・最終レポートの説明
第 9 回	プロトタイピング（試作品）	IDEO のプロトタイピング ・テキスト第 7 章
第 10 回	コンテスト・テスト（定量調査）、市場規模推定	ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」のコンセプト・テスト、ロッテ「Fit's」の市場規模推定 ・テキスト第 8、10 章
第 11 回	企画書作成	フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成 ・リデザイン ・販促企画 ・テキスト第 14 章
第 12 回	プレゼンテーション	スティーブ・ジョブズなど魅力的なプレゼンテーション ・テキスト第 15 章
第 13 回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポートの報告とフィードバック ・成果を共有する
第 14 回	優秀レポートの報告	優秀レポートの報告とフィードバック ・成果を共有する

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	定量調査の概要 ・勘と経験だけでダメな理由 ・データ分析が必要な理由 ・テキスト第 1 章

第 2 回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	消費財メーカーのリサーチ ・ニールセン 東浦和宏さん（元 P&G、ユニリーバ）講演 リサーチプロセスを知ろう！ ・課題の定義と仮説 ・探索的調査と検証的調査 ・R の使い方 ・テキスト第 2、3 章
第 3 回	リサーチデザイン	店舗の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう！ ・テキスト第 6 章
第 4 回	データの特徴	顧客の購入金額と来店頻度の関係を、「相関分析」でみよう！ ・テキスト第 7 章
第 5 回	データの関係①	デザインリニューアルの男女別選好の関係を、「独立性の検定」で調べよう！ ・適合度の検定 ・テキスト第 8 章
第 6 回	データの関係②	POP の効果を「t 検定」で分析しよう！ ・テキスト第 9 章
第 7 回	データの差	ざるそばの売上を「回帰分析」で予測しよう！ ・テキスト第 11 章
第 8 回	因果関係	歯磨き粉の利用要因を「因子分析」でまとうよう！ ・テキスト第 12 章
第 9 回	データの集約	SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書 ・レポートの説明 アンケートのつくり方 ・尺度 ・グーグルアンケート ・テキスト第 15 章
第 10 回	報告書	大学生対象とする際のサンプルの選び方 ・テキスト第 4 章
第 11 回	アンケート	早期優秀レポートの報告とフィードバック ・成果を共有する
第 12 回	サンプリング	優秀レポートの報告とフィードバック ・成果を共有する
第 13 回	早期優秀レポートの報告	
第 14 回	優秀レポートの報告	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期、秋学期ともに、それぞれ1つのレポート作成が、授業時間外にある。

【テキスト（教科書）】

春学期：西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』碩学舎、2012 年
秋学期：恩蔵直人・富田健司『1 からのマーケティング分析』碩学舎、2011 年
＊各自購読のこと。

【参考書】

春学期：ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年
秋学期：山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

・春学期：レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）70 点、平常点（コミュニケーションシート）30 点
・秋学期：レポート（いずれかの定量調査と分析結果）70 点、平常点（コミュニケーションシート）30 点
・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
・なお、春学期・秋学期ともに、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。
③秋学期は、基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】

秋学期は、第 3 回以降の講義に、パソコンを持参あるいはレンタルでご用意ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービスマネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論、基礎統計学 I/II、統計学 I/II である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

7

市場経営学科専門科目

サービス・マネジメント論Ⅰ

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

サービス・マネジメント論Ⅱ

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

木村 純子 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はサービス・マネジメント論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエスチョンを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを知り技術を上げることになります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か（「ルール」）を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の「技術」を高めます。

【到達目標】

サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識（リサーチ・クエスチョン）を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で、学生は教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第 2 回	事例 1	タビオ社のサービス・イノベーション①
第 3 回	事例 1	タビオ社のサービス・イノベーション②
第 4 回	事例 2	日本マクドナルドのサービス・イノベーション①
第 5 回	事例 2	日本マクドナルドのサービス・イノベーション②
第 6 回	事例 3	IKEA 社のサービス・イノベーション①
第 7 回	事例 3	IKEA 社のサービス・イノベーション②
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	事例 4	リテール・ソリューション①
第 10 回	事例 4	リテール・ソリューション②
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	事例 5	京都・五花街①
第 13 回	事例 5	京都・五花街②
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第 2 回	事例 1	FNAC のサービス・イノベーション①
第 3 回	事例 1	FNAC のサービス・イノベーション②
第 4 回	事例 2	CRAI のサービス・イノベーション①
第 5 回	事例 2	CRAI のサービス・イノベーション②
第 6 回	事例 3	サントリーのサービス・イノベーション①
第 7 回	事例 3	サントリーのサービス・イノベーション②
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	事例 4	食品産業クラスターのサービス・イノベーション①
第 10 回	事例 4	食品産業クラスターのサービス・イノベーション②
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	事例 5	農産加工品のサービス・イノベーション①
第 13 回	事例 5	農産加工品のサービス・イノベーション②
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行います。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 100%

試験に加え、授業内レポートに取組めます。提出する日の事前予告なし。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクティブな学びを望む声がありましたので、講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティブな演習形式も適宜取り入れることを試みます。

【その他の重要事項】

履修すべき関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」「国際マーケティング論」履修者数、受講生の理解度、進捗具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論Ⅰ」「サービス・マネジメント論Ⅱ」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の通りです。

(1) 4 年生春学期は就職活動で忙しくなる

4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずで、当該学期は単位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処すべきかも考えておくべきです。

(2) 本シラバスに記載されている

本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。

(3) 欠席理由の確認が取れない

本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていません。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公平性を欠くことになります。

(4) 公平性

就活生を特別扱いするということは、毎週真面目に授業に出席し課題に取り組んでいる学生に対する逆差別となります。

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

製品開発論Ⅰ

製品開発論Ⅱ

中野 健次 講師

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品開発論は、マーケティング論・経営戦略論・組織論などと密接な関係を持つ学問である。特に製造業における製品開発は、企業競争力の要であり成長力の糧となる。

講義Ⅰでは製品開発の全体像を理解するために、製品開発を行うプロセスにフォーカスして授業計画を構成し、適宜、関連する各専門領域の必要項目を補完しながら説明する。更に要諦となる部分では、具体的な実践事例を基にした体験的学びを行う。

この一連の学修によって消費者の視点に立った製品開発に、主体的かつ創造的に取り組める能力や態度の素養を身につけ、製品開発論Ⅱや関連科目の履修によってその強化を可能とする。

講義Ⅱではさまざまな製造業で行われる製品開発の特徴を概説することで知識の幅を広げ、具体事例を取り上げて考察を行うことで深い理解レベルに到達することを目標とする。

具体的には、各種製造業の製品開発の事例を数多く議論し、これを体験的に学ぶ。

また知的財産権についてはその重要性を事例にて学修し、流通活動に関しては近年の変革事例から製品流通の変革についてその理解を深める。

【到達目標】

講義Ⅰでは、企業競争力の源泉となる製品開発の進め方や基本となる手法についての基礎知識を獲得すると共に、ケーススタディによる体験的な理解に到達することを目標とする。

また製品開発により実現される顧客満足の重要性を理解し、製品の企画、開発から流通活動に至るまでの一連の流れについて、説明ができるレベルに到達目標とする。

講義Ⅱでは、Ⅰで得た素養に加え事例学修により知識の幅を広げることで、より深い理解への到達を目標とする。

具体的には、様々な業種における製品開発のケーススタディ或いは実践例での学修により、そこに共通する顧客満足の考え方を理解するとともに、各業種での製品開発の要諦を、顧客重視の視点から説明できるレベルに到達目標とする。

【授業の進め方と方法】

基本概念や基礎知識の獲得については講義により学修し、具体的な事例学修ではケーススタディや実践事例の提示と議論、小テスト、ミニレポート提出や授業内発表などのアクティブ学修で進める。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	製品開発の本質とは (1)	製品とは何か？ 企業における製品開発の役割と位置づけ
第 2 回	製品開発の本質とは (2)	競争力の源泉・イノベーションとそのジレンマ
第 3 回	製品企画と技術戦略	消費傾向/文化や技術動向などの環境分析、製品コンセプト立案
第 4 回	イノベーションのケース学習	顧客重視の事例 (ビール業界：日本市場)
第 5 回	製品戦略	市場戦略と展開戦略
第 6 回	製品戦略のケース学習	戦略的マーケティングの事例 (テレビ業界：グローバル市場)
第 7 回	製品開発プロセス	企画、機能設計、品質設計、テスト、生産準備、開発工程管理
第 8 回	製品開発マネジメント	シーケンシャル型とコンカレント型、設計支援ツールの活用
第 9 回	開発組織のデザイン	機能創出組織とプロジェクト推進組織
第 10 回	開発組織のケース学習	垂直統合型と水平分業型開発組織の事例 (電子機器業界)
第 11 回	製品開発と知的財産権	発明と特許、標準化と規格化、クロスライセンス
第 12 回	知的財産権のケース学習	技術開発と特許/商標登録の事例 (電子カメラ業界、他)
第 13 回	製品の流通とその変遷	流通の役割と仕組み、流通手段の多様化、流通の活動
第 14 回	製品流通のケース学習	IT 革命による流通革新の事例 (ネット販売業界)

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	電子部品業界・製品開発の特徴と事例 (1)	シャープ、ソニーなど
第 2 回	電子部品業界・事例 (2)	キーエンス、京セラなど
第 3 回	電子機器業界・製品開発の特徴と事例 (1)	アップル、カシオなど
第 4 回	電子機器業界・事例 (2)	Kodak、富士フイルム、ソニーなど
第 5 回	自動車業界・製品開発の特徴と事例	マツダ、トヨタなど

第 6 回	精密機器業界・製品開発の特徴と事例	ニコン、セイコーなど
第 7 回	医療機器業界・製品開発の特徴と事例	テルモなど
第 8 回	食品業界・製品開発の特徴と事例	エースコック、麒麟ビール、日清食品など
第 9 回	化粧品業界・製品開発の特徴と事例	資生堂など
第 10 回	衣料品業界・製品開発の特徴と事例	ユニクロなど
第 11 回	携帯電話業界・製品開発の特徴と事例	ソフトバンク、サムスン電子など
第 12 回	ベンチャー企業の経営・製品開発の特徴と事例	レイテックスなど
第 13 回	知的財産権の事例	ロッテ、シャチハタ、サトウ食品など
第 14 回	製品流通の変革と事例	アマゾンなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義前に提示される講義概要を事前に読んで、講義の流れを予め理解しておく。

・具体論として提示されたケースや実践事例は、講義内で示される課題に沿って、レポート提出や事前学習、発表の準備などを行う。

・グループでの作業を実施する場合は、積極的にグループ内の活動に貢献する。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を作成して配布するので、テキストは指定しない。

【参考書】

製品開発論 (社会理工学シリーズ) 1997/6：円川 隆夫, 安達 俊行 他.
成功する商品開発・2012/5：近藤真寿男, 近藤浩之.

【成績評価の方法と基準】

講義Ⅰ：

到達目標

・製品開発における基礎知識の獲得と一連の流れを説明できる

→ 期末試験での評価：60 %

・実践例による学修と顧客満足との関連性を理解し説明できる

→ 小テスト、レポート、発表などクラス貢献度の評価：40 %

講義Ⅱ：

到達目標

・各種業種における製品開発の学修により、共通する顧客満足の考え方の理解

→ 期末試験での評価：60 %

・実践事例による各種業種での製品開発の要諦を、顧客重視の視点から説明できるレベル

→ 小テスト、レポート、発表などクラス貢献度の評価：40 %

【学生の意見等からの気づき】

「実績なし」

【学生が準備すべき機器他】

必要となる場合は講義中に指示する。

【関連科目】

マーケティング論、経営戦略論、経営組織論など。

技術管理論Ⅰ

技術管理論Ⅱ

近能 善範 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術管理論とは、ごく簡単に言えば、「技術を中核に据えた経営戦略論」、あるいは「技術をしてこにした経営戦略論」とでも言うべきものです。「技術経営論」や「イノベーション・マネジメント」と呼ばれることもあります。

一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激しい競争に勝ち残っていくためには、戦略的なマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、研究・技術開発や生産のマネジメントはもちろん、いかにして技術力を新たな顧客価値に結びつけ、ビジネスとして成立・成長させていくのか、といった点がより重要となります。

この授業では、こうした技術管理論に関わる基礎的な内容を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

この授業では、技術管理論に関わる基本的な考え方や概念などを身につけてもらうことを目標とします。

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (1)	技術管理論とはどういう学問か
第 2 回	イントロダクション (2)	イノベーションとは何か、どうして重要なのか
第 3 回	イノベーション・プロセス	イノベーション・プロセスのモデルと三つの関門
第 4 回	イノベーションのパターン (1)	「製品ライフサイクル」
第 5 回	イノベーションのパターン (2)	「普及曲線」
第 6 回	イノベーションのパターン (3)	「技術進歩の S 字曲線」
第 7 回	イノベーションのパターン (4)	「A-U モデル」の説明
第 8 回	イノベーションのパターン (5)	「A-U モデル」の応用：「機会の窓」と「シェイクアウト」
第 9 回	イノベーションのパターン (6)	「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第 10 回	イノベーションと企業の競争力 (1)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (1): 「大企業病」
第 11 回	イノベーションと企業の競争力 (2)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (2): 「過去の資産の負債化」
第 12 回	イノベーションと企業の競争力 (3)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第 13 回	イノベーションと企業の競争力 (4)	「持続的イノベーション」／「分断的イノベーション」と企業の競争力
第 14 回	学習成果の確認	まとめと復習

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	業界標準のマネジメント (1)	「業界標準」とは何か、なぜ重要か、三つの「業界標準」
第 2 回	業界標準のマネジメント (2)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (1): 「ネットワーク外部性」
第 3 回	業界標準のマネジメント (3)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (2): 「クローズド・ポリシー」と「オープン・ポリシー」
第 4 回	業界標準のマネジメント (4)	「デファクト・スタンダード」の世代交代に伴う戦略
第 5 回	新製品開発のマネジメント (1)	新製品開発のプロセス
第 6 回	新製品開発のマネジメント (2)	「製品コンセプト」の開発
第 7 回	新製品開発のマネジメント (3)	「プロジェクト・スクリーニング」
第 8 回	新製品開発のマネジメント (4)	「機能設計」
第 9 回	企業間関係のマネジメント (1)	分業構造のマネジメント
第 10 回	企業間関係のマネジメント (2)	アウトソーシングのマネジメント：「make or buy decision」
第 11 回	企業間関係のマネジメント (3)	アライアンスのマネジメント：「距離を保った関係」と「協調的な関係」

第 12 回 ビジネスシステムのマネ 「ビジネスシステム」のマネジメント (1)

第 13 回 ビジネスシステムのマネ 「収益モデル」のマネジメント (2)

第 14 回 学習成果の確認 まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込んでおく事を求めます。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010 年。

その他に、必要な場合には適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

I・II とも、「期中のレポート (25 点満点) + 平常点 and ビデオ感想 (10 点満点) + 期末試験 (65 点満点) レポート」の総合計に基づいて評価します。なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】

企業における実際のマネジメントをイメージしやすいように、ビデオ教材を適宜使用しながら説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

関連科目は、経営学総論 I/II、経営管理論 I/II、経営戦略論 I/II、マーケティング論 I/II、製品開発論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、国際経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II などです。

なお、授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2 回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。また、授業中の迷惑行為が目に見える場合には、本授業の単位を付与しません。

以上を予めご承知の上で履修して下さい。

産業組織論Ⅰ

産業組織論Ⅱ

大木 良子 准教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察していきます。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにします。

具体的には、産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点について考察します。ミクロ経済学的な考え方、産業組織論の考え方と経営学、法学など隣接分野との接合をはかります。Ⅰでは、より現実的な市場競争の構造である寡占市場について分析し、競争上の問題を明らかにします。

Ⅱでは、製品差別化や価格差別など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを紹介し、その中で競争政策上問題とされる行動について事例を用いて解説します。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説し、必要に応じて参加者に発言を求める。

学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか
2	市場と競争	企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
3	完全競争市場	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？
4	独占 1	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
5	独占 2	独占企業の意思決定、価格、数量の決まり方と経済厚生
6	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
7	寡占 1	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が増えればいくと競争はどのように変わっていくか？
8	寡占 2	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
9	ゲーム理論 1	ゲーム理論とは何か？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
10	ゲーム理論 2	いろいろなゲームの均衡を求める
11	ゲーム理論 3	ゲーム理論を用いて数量競争・価格競争を再考しよう
12	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
13	合併 1	合併とは？ 直近の合併事例と競争政策
14	合併 2	合併の経済モデル、合併が市場競争に与える影響

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	事例紹介	近年競争政策上問題となった事例の紹介
16	企業行動と法制度	法律や制度がどのように経済主体の意思決定に影響を与えるのか（法と経済学）
17	競争政策	競争政策と産業組織論の関係
18	製品差別化と競争 1	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
19	製品差別化と競争 2	主要な製品差別化の経済モデルの紹介
20	価格差別 1	価格差別の定義と経済モデル
21	価格差別 2	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
22	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。

23	参入阻止	参入阻止と市場競争
24	垂直的取引制限 1	垂直的取引制限とは？ 具体事例の紹介
25	ネットワーク外部性 1	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる市場の事例
26	ネットワーク外部性 2	情報化社会とプラットフォーム間競争
27	ネットワーク外部性 3	多面的市場の定義とそれが見られる市場の事例
28	総括	これまで学んだ分析ツールを応用した実際の独占禁止法違反事例を分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2003 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 15 %

中間試験 25 %

期末試験 60 %

授業中に周囲の迷惑になるような行動をした場合は、期末試験の点数から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度や、扱うトピックを調整していきます。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、連続した履修を強く薦めます。

（Ⅰの内容を前提としてⅡが進められます）

この授業は、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、応用経済学Ⅰ/Ⅱと関連しています。

7

市場経営学科専門科目

非営利組織経営論Ⅰ

非営利組織経営論Ⅱ

湧口 清隆 講師

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【非営利組織経営論Ⅰ】

公共財・公共サービスは、理論上、「市場の失敗」の産物と位置づけられ、長らく政府によって供給されるものと考えられてきた。しかし、1980 年代から本格化した規制緩和の結果、排除性のある準公共財や価値財を中心に民間によって供給される事例が増えている。その中には営利を目的とする私企業のみならず、非営利・共同セクターに属する団体（NPO、NGO、協同組合など）によって供給される準公共財や公共財も含まれている。なぜ近年、政府や私企業に代わって非営利・共同セクターの重要性が増しているのか、このような供給形態にはどのような特徴や課題があるのかを、経済学や非営利組織研究の観点から理解する。

【非営利組織経営論Ⅱ】

非営利組織は非営利である点で営利企業とは異なり、組織である点で個人のボランティアとは異なる。どのように資金を調達し、どのような目的、どのような組織体制の下で活動しているのか、また、制度的にどのように位置づけられているのかをマネジメントの観点から NPO を中心とする非営利組織を理解する。

【授業の目的】

学生が、非営利組織の社会・経済上の位置づけとマネジメントの範囲・方法を理解することにより、どのような事業を非営利組織がどのように担うべきかを具体的に論じられるようになることを目的とする。

【到達目標】

学生が、非営利組織が現代社会で果たす役割の大きさを理解する一方で、営利企業や行政と比較しながら非営利組織の特徴を把握し、非営利組織は個別事業の担い手としては代替的な組織形態の一つに過ぎないことを認識する。そのうえで、学生が、非営利組織がどのような事業を担い、どのように運営していくべきなのかを考え、しくみづくりができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

図表・写真などの資料、テキストなどをもとに講義する。大人数の講義ではあるが、自ら考える力を養うために、学生に挙手回答を求めたり、学生を指名して質疑応答しながら授業を進めていく。また、3 回に 1 回程度は出席カードを使って学生の質問や要望を聞き、授業に反映させるようにしているので、授業内で疑問に感じたことは積極的に質問するようにして欲しい。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー NPO の神話ー NPO の鳥瞰図	非営利組織とは何かを喚起する
2	NPO 改革の方向	制度上、非営利組織に位置づけられる組織を知る 近年進められる公益法人改革、NPO 改革の動向を紹介する
3	収入源から見た日本の NPO	非営利組織の収入の大きさや構成を知る
4	NPO の占める位置	経済の中で非営利組織の占めるウェイトを知る
5	NPO の国際比較	非営利組織の経済に占める状況を国際比較する
6	非営利革命の背景	非営利組織が登場し、発展した要因を考える
7	さまざまな NPO（教育・文化分野）	教育・文化分野で活動する非営利組織の実態を知る
8	さまざまな NPO（法政大学）	定義上「NPO」と位置づけられる法政大学を分析する
9	さまざまな NPO（医療・福祉分野）	医療・福祉分野で活動する非営利組織の実態を知る
10	さまざまな NPO（国際分野、その他）	国際的に活動する非営利組織（NGO）などの実態を知る
11	フィランソロピー	個人や企業がなぜ寄付やボランティア活動をするのかを知る
12	NPO をめぐる制度設計	NPO にかかわる制度を紹介、検討する
13	授業のまとめ	春学期の授業を総括する

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期試験の正解確認と秋学期授業の概要紹介を行う
2	NPO のマネジメントの必要性と特徴	自発的に活動する組織になぜマネジメントが必要かを考える
3	ボランティア・マネジメント	ボランティアを採用し、活用する術を学ぶ
4	理事会のマネジメント	理事会にもマネジメントが必要な理由と内容を学ぶ
5	ファンド・レイジング	寄附や補助金・助成金を必要とする理由を知り、獲得のための方法を学ぶ

6	NPO の予算	非営利組織の予算の立て方を学ぶ
7	プログラム・プランニング	非営利組織における事業計画の意味を理解する
8	プログラム・プランニングの具体的手法	非営利組織における事業計画の立て方を学ぶ
9	戦略計画	戦略計画の意味や策定方法を知る
10	リスク・マネジメント	リスク管理のあり方や方法を学ぶ
11	NPO の制度と政策	非営利組織の運営や税に関する制度を学ぶ
12	事例研究（広義の非営利組織）	いくつかの非営利組織（広義）の活動内容や組織を紹介する
13	事例研究（狭義の非営利組織）	いくつかの非営利組織（狭義）の活動内容や組織を紹介する
14	授業のまとめ	秋学期の授業を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

非営利組織や行政のウェブ・サイトを適宜紹介するので、学生が各自で閲覧してその組織の活動を調べたり、資料をダウンロードし分析することを求める。春学期、秋学期ともに、広義の非営利組織に含まれる（学校法人）法政大学をしばしば例として挙げるので、学生が大学のサイト上にある建学の精神、沿革、事業計画書、事業報告書などの情報をはじめ、学内にあるパネル、学報なども確認してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

【非営利組織経営論Ⅰ】 授業の都度、図表などを中心に資料を配布する。

【非営利組織経営論Ⅱ】 参考書に挙げる 柏木宏著『NPO マネジメントハンドブックー組織と事業の戦略的発想と手法』（明石書店、2004 年。ISBN：978-4750319513）に沿って授業を進めるが、図表や具体的事例を追加した資料とレジュメを配布する。

【参考書】

柏木宏、『NPO マネジメントハンドブックー組織と事業の戦略的発想と手法』、明石書店、2004 年。

山内直人、『NPO 入門』第 2 版、日経文庫、日本経済新聞社、2004 年。

山内直人、『ノンプロフィットエコノミーー NPO とフィランソロピーの経済学』、日本評論社、1997 年。

内閣府 NPO ホームページ： <https://www.npo-homepage.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

【非営利組織経営論Ⅰ】 期末試験の成績による（100%）。

【非営利組織経営論Ⅱ】 期末試験の成績による（100%）。授業内に集める任意提出（希望者のみ提出）のレポートを課す場合がある。このレポートの成績は期末試験の成績の枠外でオマケとして加算する。
春学期・秋学期双方で学生の考える力を問うために資料分析やケース・スタディを出題する。

【学生の意見等からの気づき】

賛否両論あるが、双方向授業を心がけている。受講生全体に対し挙手回答や学生を指名して発言を求めることも多い。授業の理解を深める意味でも、当たっても構わない方はぜひ前方に座ってもらいたい。

学生から板書や配布物をウェブ上にアップして欲しいという要望も強いが、アップしない。この授業は暗記を目的とするのではなく、考えることをテーマとしている。一度も授業に参加せず、ウェブ上の情報のみを鵜呑みにして試験を受ける学生には受講して欲しくない。したがって、期末試験も暗記だけで解ける問題は 50%以下に抑え、応用力を問う論述式問題（ケース・スタディや資料分析など）を多く（50%以上）採用している。

【学生が準備すべき機器他】

何回かの講義で、パソコン現示による図表・写真の投影や DVD などを利用する予定である。

【その他の重要事項】

制度上、法政大学も非営利組織に分類される。学生にとって最も身近な法政大学についても十分に理解されたい（例えば建学の精神の意味）。

本科目は、「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」、「マーケティング論Ⅰ／Ⅱ」、「経営学総論Ⅰ／Ⅱ」などで学習したことの応用（理論に対して実務的な部分）であり、行政が提供すべき財・サービスを代替的に供給する主体の一つが非営利組織であることを考慮すると、「財政論Ⅰ／Ⅱ」、「交通経済論Ⅰ／Ⅱ」との関連も深い。また、サービスの供給という点に着目すると、「サービス・マネジメント論Ⅰ／Ⅱ」との関連もあろう。

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

応用経済学Ⅰ

応用経済学Ⅱ

宮澤 信二郎 准教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのようにに行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのぐらい、どのようにに生産したら良いのでしょうか。そのとき製品の価格はどのようになるのでしょうか。どのような人を雇って、どのようにに処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのようにに調達したら良いのでしょうか。これらの問いに対する答えは、様々な条件によって違ってくる場合があります。

I の授業では、まず、生産技術が企業の費用構造を決定する仕組みを学びます。続いて、消費者の意思決定が需要を決定することを確認したうえで、企業の生産・販売に関する意思決定とその相互作用について学びます。その際、完全競争の場合、独占の場合、及び寡占の場合の結果をそれぞれ検討し、企業はどの場合にどのような工夫をする余地があるのか、企業の行う工夫が経済全体にとってどのような結果をもたらすのかについて学びます。

II の授業では、まず、労働市場の働きについて確認したうえで、能力や努力に関する情報の非対称性が採用や働き方へ及ぼす影響とその緩和策について学びます。さらに、労働者の能力開発に関する問題とその緩和策、企業の多角化や取引先との関係のあり方、個人の意思決定と組織のあり方について学びます。続いて、企業が活動するうえで必要となる資金に関して、市場の働き、調達方法の種類などについて確認したうえで、情報の問題がどのような影響を及ぼすのかについて学びます。

「応用」経済学という科目名から、だいたいハイレベルなことを学ぶように予想するかもしれませんが、決してそのようなことはありません。この授業では、ミクロ経済学の基本的な考え方を企業経営のさまざまな問題に当てはめる（応用する）と何がわかるのかについて、生産、販売、人事・組織、財務の 4 つの観点から概観します。

【到達目標】

以下の 3 点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の生産、販売、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り、必要に応じて、簡単な例題を出題するなどして、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、ほぼ毎回出題される確認問題で授業内容の復習をすることが求められます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／経済と企業活動	講義の目的・内容・進め方などについて説明する。続いて、経済と企業活動の概要について解説する。
第 2 回	経済学の方法論基礎	経済学（特にミクロ経済学）の基本的な考え方について解説する。
第 3 回	生産技術と生産関数	投入物から生産物を生み出す技術とそれを表す関数について解説する。
第 4 回	生産の費用	生産物を生み出す際に発生する費用の測り方について解説する。
第 5 回	費用最小化	複数の投入物を用いて生産する場合における費用の決まり方について解説する。
第 6 回	消費者行動と需要	企業が生産物を販売する際に直面することになる消費者の意思決定と需要に関して解説する。
第 7 回	完全競争市場における企業行動（1）：生産・販売	完全競争市場にいる企業の生産・販売に関する意思決定について解説する。
第 8 回	中間試験とその解説	中間試験を実施し、簡単な解説を行う。
第 9 回	完全競争市場における企業行動（2）：参入と退出	企業の参入・退出に関する意思決定とその結果として実現する長期均衡に関して解説する。
第 10 回	独占市場における企業行動（1）：独占と独占解	ライバルが全くいない場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて解説する。
第 11 回	独占市場における企業行動（2）価格差別	独占企業が販売量や販売相手によって異なった価格をつけるような戦略について解説する。
第 12 回	寡占市場における企業行動（1）：ゲーム理論入門	戦略的な相互作用がある場合の意思決定に関する基本的な考え方について解説する。

- 第 13 回 寡占市場における企業行動（2）価格競争と数量競争
- 第 14 回 その他のトピックス／まとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	イントロダクション	人事・組織と財務に関する企業行動について経済学の観点から概観する。
第 16 回	企業活動と雇用	労働の需要・供給と労働市場について解説する。
第 17 回	採用の経済学（1）	隠された情報の問題とシグナリング理論について解説する。
第 18 回	採用の経済学（2）	スクリーニングの理論について解説する。
第 19 回	働き方の経済学（1）	隠された行動の問題とインセンティブ契約について解説する。
第 20 回	働き方の経済学（2）	人的資本投資と雇用関係に関する理論について解説する。
第 21 回	企業組織の経済学	企業の境界の決定や組織行動に関して解説する。
第 22 回	中間試験とその解説	中間試験を実施し、簡単な解説を行う。
第 23 回	企業活動と金融	資金の需要・供給と金融市場に関して解説する。
第 24 回	企業財務の基礎（1）	資金調達の種類と企業価値について解説する。
第 25 回	企業財務の基礎（2）	資本構成・配当政策とモジリアーニ＝ミラーの定理について解説する。
第 26 回	資金調達の経済学（1）	資金調達の際の隠された情報の問題とその結果生じる調達コストについて解説する。
第 27 回	資金調達の経済学（2）	資金調達の際の隠された行動の問題とその結果生じる調達コストについて解説する。
第 28 回	財務危機の経済学／まとめ	財務危機の発生と倒産に関して解説する。最後に、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回出題される確認問題で授業内容の復習をしてください。この授業の復習以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- I
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社（2013 年）
ヴァリアン（佐藤隆三監訳）『入門ミクロ経済学（原著 9 版）』勁草書房（2015 年）
II
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004 年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000 年）

【成績評価の方法と基準】

各学期とも、中間試験（40 %）と期末試験（60 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱う内容に関連するような新聞記事を紹介することなどを通じて、参加者の関心を高められるようにしたいと思います。また、説明に数式を用いると嫌だという学生がいる一方で、数式を使った方がわかりやすいという意見の学生もいることから、実際の参加者の声を聞きながら、調整していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

- 1) 科目名に「応用」がついていますが、ミクロ経済学の基本的な考え方を企業経営のさまざまな問題に当てはめる（応用する）と何がわかるのかについて扱うだけであり、他の科目と比べて難易度が高いということはないと思います。
- 2) 専門基礎科目 A 群の『ミクロ経済学入門』を履修していることが望ましいですが、履修していなくても理解できるように配慮します。この授業の I の内容は『ミクロ経済学入門』の復習と位置付けることもできます。『ミクロ経済学入門』の内容がいまいち理解できなかったというような方も、是非履修してみてください。他の専門基礎科目の内容も参考になると思います。
- 3) 関連する専門科目として、『産業組織論』、『組織経済学』、『企業財務論』、『日本経済論』、『国際経済論』などがあります。

7

市場経営学科専門科目

企業財務論Ⅰ

企業財務論Ⅱ

金 瑤 晋 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者、とりわけ、CFO と呼ばれる最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題に対し、その解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択及び執行、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、財務リスク管理などがあり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家達の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスとなります。この授業は、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考える機会を提供します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの割引現在価値の重要性が自然に理解できます。
- ・資産価値の一般評価原理が分かるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・経営者の立場からプロジェクトの評価を行うことができます。
- ・企業価値を求めることができます。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・金融・財務データの使い方について理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。
- ・具体的に答えを導く能力が培われます。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2	財務諸表と情報	会計学とファイナンスの注目点の相違、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書から読み取れる情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3	マネーの時間価値 1	マネーの時間価値の理解、キャッシュフローの割引現在価値の計算とその重要性、割引現在価値と資産評価の関係、無裁定均衡の理解
4	マネーの時間価値 2	将来特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価値プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
6	投資の意思決定 1	内部収益率法の落とし穴、複数のプロジェクトがある場合の評価、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
7	投資の意思決定 2	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度、マーケットポートフォリオの概念
8	証券のリターンとリスク 1	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
9	証券のリターンとリスク 2	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
10	資本コスト	完全資本市場の概念、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
11	資本構成理論Ⅰ	節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ペッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
12	資本構成理論Ⅱ	

13 ペイアウト政策

ペイアウト政策の手段、配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
これまでにカバーできなかった内容の補足、企業の財務意思決定の纏め

14 補足と総括

Ⅱ 秋学期

回 テーマ

15 企業価値の評価 1

内容

フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較

16 企業価値の評価 2

経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益

17 企業価値の評価 3

M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、LBO と MBO

19 コーポレート・ガバナンス

エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較

20 オプションの理解 1

オプションの仕組み、オプションの種類、満期時のペイオフ、オプションの価値と諸要因、プット・コール・パリテイ

21 オプションの理解 2

オプションの価格評価、二項モデルによる評価、リスク中立化法

22 オプションの財務意思決定への応用 1

オプション価値を考慮した投資の評価、リアル・オプション分析の適用と感応度分析

23 オプションの財務意思決定への応用 2

ハイブリッド証券、転換社債、ワラン

24 財務リスク管理 1

債の仕組みと評価
リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR

25 財務リスク管理 2

デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ

26 株主資本調達

スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開のコスト、新規株式公開の際のバブル、増資の意思決定

27 国際財務管理

海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達

28 補足と総括

これまでにカバーできなかった内容の補足、企業の財務意思決定の纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも実際の企業活動に興味を持つことが重要です。日頃日経新聞、TV の経済ニュースなどに目を配るよう心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】

コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

質疑などの授業参加度 10%、クイズ 20 %
期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

内容によっては、エクセルで計算過程を示しながら説明を行います、その結果は、授業支援システムにアップロードして置きます。

【その他の重要事項】

関連科目：ファイナンス論Ⅰ／Ⅱ、証券経済論Ⅰ／Ⅱ

【前提知識】

授業では、初歩的な計算を行います、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

岸本 直樹 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生の皆さんにとってまだ縁の薄いものかもしれません。しかし、卒業後数年もすれば、預金、債券、株式、投資信託、年金、さらに貯蓄性保険等、様々な金融資産に投資することがあるでしょう。また、自動車購入、住宅購入のためにローンを組む必要が生じるかもしれません。さらに、職場の業務で金融資産あるいは負債に関わる人も多いでしょう（経営学部卒業生の 20%は金融業界に就職します）。さて、金融資産や負債について意思決定するときにも重要な問題は、価値の評価とその見通しです。したがって、「証券経済論Ⅰ」及び「証券経済論Ⅱ」の履修者は、金融資産及び負債の価格形成に関して学術上かつ実務上もっとも重要な分析ツールを学習し、将来、金融資産や負債に関して意思決定する際、それらの分析ツールに基づいて合理的な判断ができるのに備えることができます。

より具体的に言えば、「証券経済論Ⅰ」では、代表的な金融資産である債券と株式について学習します。また、それに続いて「証券経済論Ⅱ」では金融資産の管理手法と、金融資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。したがって、Ⅰは個人として金融資産や負債に関わる人と、業務で金融資産あるいは負債に関わる人の両方にとって有用な知識を提供します。他方、Ⅱは、理解が比較的難しく、かつ、通常、業務で金融資産あるいは負債に関わる人が特に必要な知識を提供します。したがって、金融機関等に就職する希望ないし可能性を持つ学生にはⅠとⅡの両方を履修することを強く勧めます。他方、そうでない学生には、少なくともⅠを履修することを強く勧めます。

【到達目標】

- ①簡単な金利計算ができる。
- ②債券投資の収益に影響する主要な要因とその影響を列挙できる。
- ③株式評価で最もよく使われる配当割引モデルを使って株式の適正な価値を計算できる。
- ④先物、オプション等のデリバティブの仕組みや損益について説明できる。
- ⑤情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説に沿って説明できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。さらに、出席者数が極端に多くない場合は、必要に応じて授業内小テストを実施します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	授業の概要、金利、現在価値、将来価値	この科目の概要を説明する。また、将来 1 回しかキャッシュフローが発生しない場合について金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。
2	金利、現在価値、将来価値	キャッシュフローが複数回発生する場合について金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。さらに、複利期間が 1 年、半年、1 ヶ月の場合について金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。
3	債券入門	債券の仕組み、債券に関する基本的な用語、債券市場を説明する。
4	債券の最終利回り	最終利回りの計算方法を説明する。
5	債券の最終利回りと債券価格	債券の最終利回りと債券価格の関係を説明する。
6	債券の最終利回りと債券投資のリスク	債券投資におけるリスクについて解説する。
7	株式入門	株式の仕組み、株式に関する基本的な用語、株式市場について説明する。
8	株式評価モデル	配当割引モデルとして一定成長モデルのほかゼロ成長モデルも説明する。さらに、株式投資で多用される財務指標も紹介する。
9	先物入門	先物取引の仕組み、先物取引に関する基本的な用語、先物市場について説明する。
10	先物価格に関する理論モデル	先物価格に関する理論モデルを紹介し、その実証妥当性を論じる。
11	オプション入門	オプションの仕組み、オプションに関する基本的な用語、オプション市場について説明する。
12	オプション取引	オプションを使った投資戦略等を解説する。
13	効率的市場仮説入門	情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説の観点から概観する。
14	効率的市場仮説の実証妥当性	効率的市場仮説の実証妥当性を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹著、『証券投資の基礎 講義資料』（授業中に配布する）

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度及び（履修者数が多くない場合に実施する）授業内小テストに 30%、定期試験に 70%。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、簿記入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

〔予備知識〕

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

〔注意事項〕

Ⅰの理解はⅡの理解を助けるので、Ⅱの履修を予定する学生はⅠを履修することを推奨します。また、担当教員は、できるだけ平易な説明を心がけていますが、その結果、講義が「積み上げ式」になっています。つまり、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しいです。したがって、本科目の履修者には授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、厳しく注意し、教室から退室させたり、授業評価に反映させたりします。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生にとっては縁の薄いものですが、卒業後、多様な金融資産や負債についての意思決定に直面するでしょう。そのとき重要な問題は、複数の基礎的な知識にもとづく広い視野に立った、価値の評価とその見通しです。「証券経済論Ⅱ」の履修者は、金融資産及び負債の価格形成に関して学術上かつ実務上もっとも重要な分析ツールを学習し、将来、金融資産や負債に関して意思決定する際、それらの分析ツールに基づいて公正かつ合理的な判断ができるのに備えることができます。

【到達目標】

「証券経済論Ⅱ」では金融資産の管理手法と、金融資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、下記を目標とします。
 ①収益率の期待値、標準偏差、共分散と相関係数を理解し簡単な計算ができる。
 ②情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説に沿って説明できる。
 ③ポートフォリオ理論の概要を説明できる。
 ④資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、必要に応じて授業内小テストあるいは演習を実施します。

【授業計画】

Ⅰ 秋学期

回	テーマ	内容
1	収益率の期待値	収益率の定義、確率変数、期待値の説明を行います。
2	収益率の標準偏差	分散、標準偏差の説明を行います。
3	共分散と相関係数	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動について概観します。
4	共分散と相関係数	共分散の説明を行います。
5	共分散と相関係数	相関係数の説明を行います。
6	ポートフォリオ理論	投資家が投資資金を各資産にどう投資するのがよいかという問題について、マコーウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。
7	ポートフォリオ理論	ポートフォリオ理論の仮定、ポートフォリオの収益率の期待値と標準偏差を説明します。
8	ポートフォリオ理論	投資機会集合について説明します。
9	ポートフォリオ理論	ポートフォリオの最適化について概観します。
10	ポートフォリオ理論	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
11	資本資産評価モデル (CAPM)	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。
12	資本資産評価モデル (CAPM)	資本資産評価モデルの仮定、市場ポートフォリオについて説明します。
13	資本資産評価モデル (CAPM)	ベータについて説明します。
14	資本資産評価モデル (CAPM)、まとめ	モデルの実務的な応用について概観します。また全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹著、『証券経済論 講義資料』。証券経済論Ⅰにおいて配布したものを引き続き使用する。同科目を履修しなかった場合は授業中に配布する。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業態度及び（必要に応じて実施する）授業内小テスト等に 30%、定期試験に 70%。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【予備知識】

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

【注意事項】

「証券経済論Ⅰ」の理解は本講義「証券経済論Ⅱ」の理解を助けるので、Ⅱの履修を予定する学生はⅠを履修することを推奨します。また、担当教員は、できるだけ平易な説明を心がけていますが、その結果、講義が「積み上げ式」になっています。つまり、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、本科目の履修者には授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、厳しく注意し、教室から退室させたり、授業評価に反映させたりします。

【関連科目】

ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、簿記入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

財政論Ⅰ

財政論Ⅱ

徐 一 睿 講師

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民にサービスを提供する活動のことである。財政は、私たちの生活と密接に結びついている。テレビを付けると、新聞を開いて読むと、財政に関するニュースに接しない日はないと言える。税制改革や予算編成、国債発行など、なかなか難しくて分からないと言う人もいるでしょう。しかし、普段の我々の生活を見渡せば、道路や水道といった日々の生活に欠かせないものの多くは財政を通じて提供されている。

財政学は、政府による歳出や歳入の管理（財政活動）が我々の経済生活にどのような影響を及ぼすのかを考える学問である。すなわち、政府による社会保障や公共投資といった歳出活動は人々の生活の改善にどのようにつながるのか、課税や公債の発行等による政府の資金調達活動は民間の経済活動にどのような影響を及ぼすのか、国と地方の財政はお互いにどのように影響しあうのかといった問題を究明する学問である。

本講義では、財政のメカニズムを理解するために必要な財政学の基礎知識について解説する。租税制度、公共支出、政府間財政関係を学ぶことを通じて、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考えてもらう。こうした日本の財政の諸課題を学習することは、先進諸国のみならず現在目覚ましい勢いで経済成長を遂げつつあるアジア諸国の財政などを考えるうえでも多くのヒントが得られることができる。

【到達目標】

財政理論の基本を学び、日本を中心に、世界各国の財政に関する諸問題を理解・考察することを目標とする。特に、各国の経済の発展において公共支出、租税制度、政府間財政関係などが果たしてきた役割に関する専門知識を得るとともに、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考える能力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

講義方式

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
(1)	講義・履修ガイダンス	履修に関するガイダンスを行う。
(2)	財政とは何か？ 財政学とは何か？	財政とは何か、財政学とは何かについて、学ぶ。
(3)	予算（1）予算とは何か？	予算とは何かについて学ぶ。
(4)	予算（2）予算原則	予算原則について学ぶ。
(5)	予算（3）予算の内容	予算の内容について学ぶ。
(6)	予算の編成と決算	予算の編成と決算について学ぶ。
(7)	租税原則と租税理論	租税原則と租税の基礎理論について学ぶ。
(8)	所得税Ⅰ	所得税の歴史と現状について学ぶ。
(9)	所得税Ⅱ	所得税の理論について学ぶ。
(10)	法人税	法人税について学ぶ。
(11)	消費税Ⅰ	消費税の歴史と現状について学ぶ。
(12)	消費税Ⅱ	消費税の理論について学ぶ。
(13)	資産課税	資産課税の現状について学ぶ。
(14)	授業内テスト、まとめ	全体のまとめ及び授業内テスト

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
(1)	講義・履修ガイダンス	講義・履修ガイダンス
(2)	財政支出の理論	財政支出の理論
(3)	財政支出の構造	財政支出の構造を日本を中心に学ぶ。
(4)	社会保障Ⅰ：社会保障の原理と日本の社会保障	社会保障の原理と日本の社会保障について学ぶ。
(5)	社会保障Ⅱ：公的年金と医療保険	公的年金と医療保険の財政支出の構造について学ぶ。
(6)	公共事業	公共事業の歴史と現状について学ぶ。

- | | | |
|------|--------------|------------------------|
| (7) | 公共事業と民営化 | 現在に進む公共事業の民営化問題について学ぶ。 |
| (8) | 公債とは何か？ | 公債とは何かについて学ぶ。 |
| (9) | 公債の負担と経済効果 | 公債の負担と経済効果について学ぶ。 |
| (10) | 公債と財政再建の国際比較 | 公債と財政再建の問題を考え、国際比較を行う。 |
| (11) | 財政投融资計画 | 財政投融资計画について学ぶ。 |
| (12) | 財政投融资改革 | 財政投融资の改革と現状について確認する。 |
| (13) | 「現代財政」の3機能 | 「現代財政」の3機能について考える。 |
| (14) | 授業内テスト、まとめ | 授業内テスト、まとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習と復習をしっかりと行う必要がある。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

片桐正俊編著『財政学—転換期の日本財政 第3版』東洋経済新報社（2014 年）

池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス（2015 年）

神野直彦著『財政学 改訂版』有斐閣（2007 年）

神野直彦著『財政のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書（2007 年）

【成績評価の方法と基準】

試験は、財政学に関連する知識・理解・思考を図る問題を出題します。試験に関する詳細は初回のガイダンス時に詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を尊重し、できる限りの改善を試みたい。

【関連科目】

マクロ経済学

【オフィスアワー】

授業内

7

市場経営学科専門科目

情報技術論 I

情報技術論 II

入戸野 健 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解する。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に取り上げる。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても解説して行く。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
2	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
3	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
4	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
5	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
6	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
7	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
8	基数の変換	数の表現方法として 10 進数・2 進数などの性質や変換の方法について解説する。
9	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
10	コンピュータの構成装置 (1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
11	コンピュータの構成装置 (2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
12	周辺機器の接続とインターフェース	PC に接続する各種機器と接続するためのインターフェースについて説明する。
13	IC とデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路 (IC) の基礎について解説する。
14	デジタル機器とデジタル家電	PC と連携する各種のデジタル機器や身の回りのデジタル家電を考察する。

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
2	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
3	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
4	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
5	LAN と OA	LAN や小規模なネットワークとその OA への展開について解説する。
6	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
7	Web 技術と e コマース	Web によるサービスの展開方法を解説し e コマースの事例を考察する。
8	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
9	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
10	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
11	モバイルコンピューティング	モバイルコンピューティングに必要な機器やネットワーク環境について解説する。
12	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。

13	経営組織と情報化	経営組織・活動の情報化について概観する。
14	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示がある場合は講義範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておく。講義後はノートを見直して要点を整理する。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）：授業には毎回積極的に参加、きちんとノートを取りながら知識を蓄積することが大切である。
課題レポート（20 %）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2 回程度出題する。
定期試験（60 %）：期末には定期試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの視認性や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【その他の重要事項】

関連科目：ネットワーク論 I/II

ファイナンス論Ⅰ ファイナンス論Ⅱ

山崎 輝 教授

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

市場経営学科専門科目

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてファイナンスを学ぶ学生を対象に入門的なファイナンス理論の講義を行う。ファイナンス理論は金融実務に深く浸透しており、これなくして現代の金融ビジネスは成り立たない。金融機関や企業の財務・経理部門への就職を希望する学生だけでなく、多くの学生にとって将来必要となるであろうファイナンスの基礎知識を体系的に学べる授業を提供する。ファイナンス論Ⅰでは、金融・証券市場の基礎知識や債券・株式・金利の分析がテーマとなる。ファイナンス論Ⅱでは、デリバティブ取引のしくみや役割、デリバティブのプライシング手法が主なテーマであり、ポートフォリオ理論の基本的な考え方についても学ぶ。

【到達目標】

次の 3 つを到達目標に掲げる。

- ①金融・証券市場やデリバティブ市場の基礎知識や用語を習得する。
- ②株式・債券・デリバティブの取引のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる。
- ③初等的な確率論を用いて、証券のリスク・リターンや金融市場の不確実性を分析することができる。

【授業の進め方と方法】

ファイナンス論Ⅰでは、金融・証券市場の概観や基礎用語を説明した後に、キャッシュフローの現在価値の考え方や債券・株式・金利の基礎的な分析手法を解説する。ファイナンス論Ⅱでは、デリバティブ市場の概観と基礎用語を解説した後に、個別のデリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論に基づく価格評価の考え方について解説する。また、ファイナンス論Ⅱの後半には、ポートフォリオ理論の初歩的な解説を行う。授業はスライドを用いた講義形式であるが、黒板にも板書するので必要に応じてメモをとること。講義中には証券・デリバティブ分析に必要な数学の解説も適宜行う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、到達目標、成績評価、スライド資料のダウンロード方法などの説明。
第 2 回	金融・証券市場の概観	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足など。
第 3 回	本邦の債券市場と株式市場	債券・株式の種類、発行形態、売買のしくみ、発行市場と流通市場など。
第 4 回	キャッシュフローと現在価値 1	キャッシュフローを矢印図によって把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念など。
第 5 回	キャッシュフローと現在価値 2	付利期間、連続複利、ネイピア数、割引率など。
第 6 回	債券分析入門 1	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、バーレートなど
第 7 回	債券分析入門 2	スポットレートとフォワードレートとの概念、ブートストラップ法など。
第 8 回	債券分析入門 3	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブ間の関係など。
第 9 回	債券分析入門 4	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デュレーションによる債券価格の近似方法など。
第 10 回	債券分析入門 5	社債の信用リスク、信用格付け、確率論の基礎（事象、確率、確率変数、期待値など）。
第 11 回	債券分析入門 6	社債価格の評価方法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率など。
第 12 回	株式分析入門 1	配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）による理論株価の算出。
第 13 回	株式分析入門 2	株価評価のための企業財務分析、サステナブル成長率、成長機会の現在価値など。
第 14 回	株式分析入門 3	フリーキャッシュフロー割引モデル、残余利益モデル、倍率法による株式投資尺度など。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、到達目標、成績評価、スライド資料のダウンロード方法などの説明。
第 2 回	短期資金・為替・貸出・預金市場の概要	短期資金市場、外国為替市場、貸出市場、預金市場など。
第 3 回	デリバティブ市場の概要	デリバティブ市場の概観、先物市場、先渡市場、スワップ市場、オプション市場など。

第 4 回	先渡・先物分析入門 1	先渡取引のしくみ、代表的な先渡取引、先物取引のしくみ、代表的な先物取引、金融実務での活用例など。
第 5 回	先渡・先物分析入門 2	無裁定条件、為替予約の理論価格、FRA（金利先渡取引）の理論金利、株価指数先物の理論価格など。
第 6 回	スワップ分析入門 1	金利スワップ、通貨スワップ、金融実務での活用例など。
第 7 回	スワップ分析入門 2	金利スワップのプライシング、損益計算方法、ブートストラップ法など。
第 8 回	オプション分析入門 1	オプション取引の種類としくみ、オプションのペイオフと損益、max 関数など。
第 9 回	オプション分析入門 2	ブットコール・バリティ、オプション取引の活用例、オプションを用いた投資戦略など。
第 10 回	オプション分析入門 3	1 期間 2 項モデルによるオプションの価格評価方法、複製ポートフォリオ、リスク中立確率など。
第 11 回	オプション分析入門 4	2 期間 2 項モデルによるオプションの価格評価方法、動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタなど。
第 12 回	クレジットデリバティブ分析入門	クレジットデフォルトスワップのしくみ、プライシングなど。
第 13 回	ポートフォリオ理論入門 1	効用関数の概念、確率論の基礎（分散、標準偏差、共分散、相関係数など）。
第 14 回	ポートフォリオ理論入門 2	平均・分散アプローチ、証券のリスクとリターン、効用無差別曲線、効率性のフロンティアなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の予習・復習を十分に行うこと。

【テキスト（教科書）】

教員ホームページ（<http://akira2yamazaki.com/>）にスライド資料（テキスト）をアップロードするので、各自でダウンロードして持参すること。スライド資料のダウンロード方法は初回授業で説明する。

【参考書】

- ①佐野三郎、『証券アナリスト第 1 次レベル合格最短テキスト 証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ②伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ③ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

春学期末・秋学期末に行う筆記試験（100 %）の結果で評価する。筆記試験では、ファイナンスの知識および理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定である。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とする。

【学生の意見等からの気づき】

私語などには厳しい対応をとり、授業に集中できる環境を確保する。複雑な理論の解説では、ゆっくりと時間をかけて解説することを心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

計算例題では、電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使うので各自持参すること。ただし、試験では「計算機能のみの一般的な電卓」のみ持ち込み可とする。

【関連科目】

証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

ファイナンス論Ⅰは特段の前提知識を必要としない。ファイナンス論Ⅱでは、ファイナンス論Ⅰの知識を前提とするため、両方の講義を履修することをお勧めする。講義では、中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、1 次関数や 2 次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

7

市場経営学科専門科目

選 択

- 外国語経営学科目
- キャリアプログラム科目
- 特殊講義
- 情報関係

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を使って経済・経営を学びたい皆さんや、将来、英語圏で働いたり留学することを希望する皆さんを対象としたクラスです。経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディング・リスニング・ライティングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経済学・経営学の概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】

英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきっかけをつかむことを到達目標とします。この授業では、英語で読む・聞く・話すことをバランスよく学びます。読むことについては、時事的なトピックを辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめることを目標とします。聞くことについては、英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめるようになることを目標とします。話すことについては、**Show and Tell**という簡単なスピーチを行うことで、限られた時間で要点を英語で話せるようになることを目標とします。また、英語のスキルだけでなく、現実の経済・経営に対する理解と関心を深めることも目標とします。

【授業の進め方と方法】

限られた時間の中で、リーディング・リスニング・スピーキングをバランスよく学び、総合的な英語スキルを高めます。講義は主に日本語で行います。
・リーディング：隔週（偶数回）で英字新聞のレポートを提出してもらいます。これは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行うものです。授業時には、ランダムであてて提出されたレポートの内容を発表してもらいます。また、隔週（奇数回）では、教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解し、履修者全員で記事に関するディスカッションを行います。
・リスニング：隔週（偶数回）でリスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。場合によっては、トピックに関する議論を行うこともあります。
・スピーキング：隔週（奇数回）でプレゼンテーションの基礎について学びます。**Show and Tell**という英語圏の児童が学ぶプレゼンテーション手法を用いて、短い時間で要点を説明するスキルを実践しながら学びます。プレゼンテーションの後は、履修者による質疑応答を英語で行い、その後に効果的なプレゼンテーションにはどういったことを注意すれば良いのかを日本語で議論します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
2	Listening and Reading	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
3	Speaking and Reading	スピーキング： Show and Tell による短いプレゼンテーションを行います。どのようなテーマを選ぶのが良いかを履修者で議論します。リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い記事を短い時間で読む方法について議論します。
4	Listening and Reading	リスニング：キーワードの聞き取りを訓練します。リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
5	Speaking and Reading	スピーキング： Show and Tell による短いプレゼンテーションを行います。聞き手にアピールする道具とは何かを議論します。リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで読んで大意をつかむ方法を学びます。
6	Listening and Reading	リスニング：聞き取りにくい音を見つけ、音読して確認します。リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行います。
7	Speaking and Reading	スピーキング： Show and Tell による短いプレゼンテーションを行います。効果的な話の構成について議論します。リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成について学びます。

8	Listening and Reading	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行います。
9	Speaking and Reading	スピーキング： Show and Tell による短いプレゼンテーションを行います。効果的な話の導入について議論します。リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。パラグラフの構成について学びます。
10	Listening and Reading	リスニング：ニュースの聞き取りをした後に仲間と何を理解したか確認します。リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行います。
11	Speaking and Reading	スピーキング： Show and Tell による短いプレゼンテーションを行います。効果的な話の展開について議論します。リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。キーワードの見つけ方を学びます。
12	Listening and Reading	リスニング：ニュースの聞き取りをした後に内容に関するディスカッションを履修者全員で行います。リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行います。
13	Speaking and Reading	スピーキング： Show and Tell による短いプレゼンテーションを行います。タイムマネジメントについて議論します。リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。これまで学んだスキルを使って読むだけでなく、内容に関する議論を行います。
14	Summary	春学期のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は隔週（偶数回）で提出する英字新聞のレポート作成と隔週（奇数回）に行う**Show and Tell**の準備です。復習はリスニングの課題に注力してください。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。また、毎回、辞書を持参してください（電子辞書可。英英辞典や類義語辞典がある方が望ましい）。

【成績評価の方法と基準】

英字新聞のレポートと発表：30％
授業への積極的な参加：20％
授業時のグループワーク：20％
プレゼンテーション（**Show and Tell**）：30％
授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当するため、特にありませんが、履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に持参する必要は必ずしもありませんが、履修者はできるだけ自分のパソコンを用意してください。本授業では、授業支援システムを使います。また、ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。これらの使い方は授業で説明します。

【その他の重要事項】

初回の授業時に、授業の概要および2回目以降のスケジュールについてお話ししますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営に関する内容を取り扱った英語文献や雑誌記事を読み、その内容に基づいたディスカッションを行います。
授業の目的は、英語で世界経済や企業経営に関する知識と理解を深めることにあります。

【到達目標】

本講義の到達目標は次の通りです。

- ・ 経営や経済について書かれた英語文献の内容が理解できること
- ・ 企業経営や経済動向に対する興味や理解が深まること
- ・ 企業の経営活動をグローバルな視点から捉えられること
- ・ 理解した内容を分かりやすく人に伝えられること

【授業の進め方と方法】

報告担当者（グループ）によるプレゼンテーションの後で、全員による質疑応答、ディスカッションを行います。授業（資料作成・報告・ディスカッション）は日本語で行います。また、理解度を確認するための小テストを実施します。

【授業計画】

I 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要およびスケジュールの説明を行う
2	世界経済の概観 (1)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
3	世界経済の概観 (2)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
4	世界経済の概観 (3)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
5	企業経営の潮流 (1)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
6	企業経営の潮流 (2)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
7	企業経営の潮流 (3)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
8	企業の経営活動 (1)	文献の内容を確認し、質疑応答、ディスカッションを行うことで理解を深める
9	企業の経営活動 (2)	文献の内容を確認し、質疑応答・ディスカッションを行うことで理解を深める
10	企業の経営活動 (3)	文献の内容を確認し、質疑応答・ディスカッションを行うことで理解を深める
11	企業の経営活動 (4)	文献の内容を確認し、質疑応答・ディスカッションを行うことで理解を深める
12	企業の経営活動 (5)	文献の内容を確認し、質疑応答・ディスカッションを行うことで理解を深める
13	企業の経営活動 (6)	文献の内容を確認し、質疑応答・ディスカッションを行うことで理解を深める
14	まとめ	授業の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者は、報告資料の作成および報告を行うための準備が必要です。報告担当者以外の受講生は、文献を読み、疑問点や質問事項をまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使う文献などは初回授業時に受講生の希望を勘案して決定します。受講希望者は初回授業時に必ず出席してください。

【参考書】

受講生のレベルに合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告 40%、授業中の発言 30%、小テスト 30%

授業は毎回出席することを前提に進めます。欠席は評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき、受講生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成および報告を行う際は、PC（Word, PowerPoint など）を使用してください。

授業には英和辞典（電子辞書なども可）を持参ください。

【その他の重要事項】

担当初年度のため、受講生の学力や興味に合わせて授業の進め方や取り上げる文献の内容などを変更する可能性があります。

初回授業で授業内容や2回目以降のスケジュールを説明します。また、受講希望者が多い場合は、GPA に基づいて受講者を決める予定です。受講を検討されている方は、初回授業に必ず出席してください。

関連科目：経営学総論Ⅰ/Ⅱ、簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ

外国語経営学Ⅰ（経営戦略Ⅱ）

選択＜外国語経営学科目＞ 3～4 年次／2 単位 [春学期授業]

外国語経営学Ⅱ（経営戦略Ⅱ）

選択＜外国語経営学科目＞ 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

福多 裕志 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Business Sense]

These articles in the textbook are set at an intermediate level. The purpose of this course is to facilitate both real business organizations and the English improvement while generating student enthusiasm.

【到達目標】

In this day and age having an adequate command of English would be essential for anyone. The goals of this course are to develop students' abilities to interact more successfully in daily business scenes and pass various qualification exams. 現在、どのような領域（職場、職種、地域等）で活躍するにせよ、英語運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準 1 級程度）を目指す。

【授業の進め方と方法】

We will be using English during class except for translation time. Students will be expected not only to acquire vocabulary and expressions, but to discuss actively business topics from a variety of forms of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion. 指定教科書を使い、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の 1 章分をおよそ 3 回の授業で終了する。授業は日本語へ訳出する場合を除き、原則的に英語で行う。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（初回のみ日本語と英語で解説する）。
2	Fedex(1)	An Express Courier Legend - Business Vocabulary
3	Fedex(2)	An Express Courier Legend - Reading
4	Fedex(3)	Discussion and presentation - Is the pace of modern business too fast?
5	The Students Who Started Google(1)	The World's Most Famous Search Engine - Business Vocabulary
6	The Students Who Started Google(2)	The World's Most Famous Search Engine - Reading
7	The Students Who Started Google(3)	Discussion and presentation - Why are so many businesses started by students?
8	Toyota(1)	R & D Powerhouse - Business Vocabulary
9	Toyota(2)	R & D Powerhouse - Reading
10	Toyota(3)	Discussion and presentation - Which area within the company is the most important?
11	Michael E. Porter(1)	Management Guru - Business Vocabulary
12	Michael E. Porter(2)	Management Guru - Reading
13	Michael E. Porter(3)	Discussion and presentation - What are some of the most important strategies that business leaders should use?
14	In-class term exam	60-minute written test

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	Women in Business(1)	Challenges and Triumphs - Business Vocabulary
16	Women in Business(2)	Challenges and Triumphs - Reading
17	Women in Business(3)	Discussion - In Japan, who are some famous businesswomen?
18	Presentation and Q & A(1)	Participants are expected to make a presentation about the company each participant is interested in.
19	The Creative Vision of Walt Disney(1)	Business Vocabulary
20	The Creative Vision of Walt Disney(2)	Reading
21	The Creative Vision of Walt Disney(3)	Discussion - How easy or difficult is it for creative people to earn a living?

22	Presentation and Q & A(2)	Participants are expected to make a presentation about the company each participant is interested in.
23	Tata(1)	India's Mega Group - Business Vocabulary
24	Tata(2)	India's Mega Group - Reading
25	Tata(3)	Discussion - Which country in the BRICs will be the strongest in 5 years?
26	Big Banks, Big Problems(1)	Business Vocabulary and Reading
27	Big Banks, Big Problems(2)	Discussion - Imagine you are a business owner. Which would you prefer: fast growth or slow growth?
28	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to study the vocabulary, listen to the CD and prepare for the discussion for each lesson at home to enhance their participation in classroom discussions. 各英文記事の日本語訳出、グループディスカッションのための準備を毎回確実にを行うこと。授業支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。

【テキスト（教科書）】

Andrew E. Bennet. 2015. *Business Sense*, Nanundo. ¥2,100+tax

【参考書】

Check the Course Management System(CMS) regularly. A reference list is also posted on the CMS. ビジネスおよび経済を扱う英語参考文献は数多い。授業支援システムに文献リストを掲載する。

【成績評価の方法と基準】

Contributions to class activities(30%), in-class exam(70%) 平常点 30 %、学期末筆記試験 70 % (原則的に最終授業) をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

Class-related information is provided on the CMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English. 授業支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ/Ⅱ

ビジネス英語Ⅰ（初級）

選択＜外国語経営学科目＞ 2～4年次／2単位 [春学期授業]

ビジネス英語Ⅱ（初級）

選択＜外国語経営学科目＞ 2～4年次／2単位 [秋学期授業]

ジョナサン・エーブル 講師

※ 初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（初級）

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

【到達目標】

The purpose of this class is to give students confidence through practise.

【授業の進め方と方法】

With the text book as a model we will progress through the essentials of business communication building confidence through constant use of spoken English.

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class selection
2	Meeting People	Introductions at work and elsewhere.
3	Your Company	What is a company? Companies in Japan and around the world.
4	Your Company 2	Company histories and how they operate.
5	Routines	Planning your days. What do you do and when?
6	Business in Progress	The workplace; the office, shopfloor and saleroom.
7	Business in Progress 2	The workplace; describing a working environment.
8	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Topics, plans and tips on practical presentations
9	Presentations	Practical presenting in small groups to the rest of the class.
10	Businesses.	How different types of business operate in Japan.
11	Businesses 2.	international Business. How is it different and how much the same?
12	On the Telephone	Practical class on using the telephone in English. Manners and language.
13	On the Telephone 2	Situations and practice for speaking in international situations.
14	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	Intro/Review	Looking at the ground that we have covered and what we aim to do next.
2	Location	The best places for business geographically and demographically.
3	Transport	How we get around by land air and even sea.
4	Travel	The reasons, destinations and practicalities of International travel.
5	Working Overseas.	A look at the different environments and customs we encounter working overseas.
6	Your Culture.	Talking about Japanese life and culture. Explaining Japan to visitors and colleagues.
7	Socializing	How to make visitors to Japan welcome and comfortable.
8	Socializing 2	How to cope with social situations abroad.
9	Meetings	Agenda, Minutes, Structure. How to prepare for meetings in English.
10	Meetings 2	Practical demonstrations and situations of meetings in the classroom.

11	Business Plans	The future of a company on paper. Taking a current model and planning the future.
12	Products	Product description. How to put a product in front of the consumer.
13	Advertising	How to make people want the product we are selling.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation for presentations. No fixed homework schedule.

【テキスト（教科書）】

Text book to be announced.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Assessment is continuous. Attendance is mandatory. Testing by interview.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かれば、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

8

選択

ビジネス英語Ⅰ（中級）

選択く外国語経営学科目＞ 2～4 年次／ 2 単位 [春学期授業]

ビジネス英語Ⅱ（中級）

選択く外国語経営学科目＞ 2～4 年次／ 2 単位 [秋学期授業]

ジョナサン・エーブル 講師

※ 初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（中級）

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

【到達目標】

Confident communication

【授業の進め方と方法】

Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class selection and an introduction to the course.
2	Work.	Describing what you do now and what you may do in the future.
3	Leisure.	How we spend free time together and alone.
4	Problems.	Explaining what has gone wrong in the workplace.
5	Problems 2.	Finding solutions and assisting others.
6	Travel 1.	Getting away, getting back. Transport practicalities.
7	Travel 2.	What we need to know about foreign travel and how to make the most of the experience.
8	Presentation Preparation.	Planning a small group presentation for the classroom.
9	Presentations.	Giving presentations to your peers in the classroom.
10	Food and Entertaining.	What to eat and how from the point of view of the visitor to Japan and the Japanese traveler abroad.
11	Sales 1.	Products. How we decide on a product and describe it.
12	Sales 2.	Strategies for marketing the products we have identified.
13	Sales 3.	Advertising and Sales plans for the products we have identified.
14	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	Review/Introduction.	Looking back at last semester and forward to the new ideas ahead.
2	Jobs	What we do now and how we do it. The practicalities of work.
3	People 1.	Customers. How to deal with the public in a working environment.
4	People 2.	Staff. How to talk to your colleagues both Junior and Senior.
5	Advertising.	Images and slogans. The most communicative ideas.
6	Advertising 2.	Campaigns. How to persuade others with effective English.
7	Markets.	Who buys what from whom and why?
8	Presentations preparation	Preparing for presentations. Choosing topics and making detailed plans
9	Presentations.	Group presentations to class. Practical persuasive English.
10	Companies 1.	Describing companies and explaining their structure and history.
11	Companies 2.	What company would you start? A group exercise in imaginative English.
12	The Web.	Business on the net. The beauties and dangers of online commercial activity.

13	Cultural Difference.	Diversity is good. Why we should not be afraid of different business cultures.
14	Review and test.	Self=assessment and interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation, no schedule of homework.

【テキスト（教科書）】

Text book to be announced

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分か
り次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

キャリア・マネジメントⅠ

キャリア・マネジメントⅡ

小川 憲彦 教授

選択<キャリアプログラム科目> 2～4 年次/ 2 単位 [春学期授業]

選択<キャリアプログラム科目> 2～4 年次/ 2 単位 [秋学期授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話ししたいと考えています。自分の考えを持ったうえで参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

【到達目標】

- ①キャリアの基本理論の概要を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持て臨めること

【授業の進め方と方法】

I では、キャリア論の基礎に関する講義、企業の採用活動の事例紹介などを行います。理論や事例を材料にディスカッション等を行う予定です。II はこれに加え、実際に働く社会人ゲストを招き、業界のことやご自身のキャリアについてお話してもらい機会を設けます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 9 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 10 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて（基礎理論）
第 11 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて（応用理論）
第 12 回	ライフコース社会学	ライフサイクル論との対比
第 13 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など
第 14 回	まとめ（試験）	これまでの学習内容の理解度測定

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	働く意味	仕事や働くことの意味について考えます
第 3 回	就職活動	大学生の就職活動について考えます
第 4 回	働く人の思い（1）	可能であれば社会人ゲストに登壇いただきます。昨年度は就職支援会社の方でしたが、ゲストは毎年変わります。
第 5 回	採用活動（1）	企業の採用活動について考えます（人材要件）
第 6 回	採用活動（2）	企業の作用活動について考えます（面接等）
第 7 回	エントリー・マネジメントのまとめ	求職側と求人側の双方の視点から就職活動について考えます。今後の学生生活についても考えましょう。
第 8 回	給与とやりがい 大企業と中小企業	就活でよくある疑問について考えます
第 9 回	働く人の思い（2）	可能であればゲストを呼んで自身の仕事についてお話しいただきます。昨年度は大手金融の方でした。
第 10 回	働く人の思い（3）	可能であればゲストを呼んで自身の仕事についてお話しいただきます。昨年度はベンチャー企業の若手管理職でした。
第 11 回	キャリア初期について	働き出しの数年について考えます
第 12 回	キャリア中期について	中年の時期について考えます

第 13 回 上司やリーダーシップの話 職場の人間関係、とくに上司との関係について考えます

第 14 回 まとめ（試験） これまでの学習内容の理解度測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意での宿題（レポートや課題図書・論文）を適宜出します。

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門（1）基礎力編』・『キャリアデザイン入門（2）専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー——自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル——職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

- ・任意提出のレポートと期末試験の結果で評価する予定です。
- ・出席は取りませんが、時々講義中に課題を出し、加点対象とすることがあります。
- ・ただし、レポートも課題も、内容が不十分であれば加点はしません。コピー、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。
- ・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見等からの気づき】

実際の採用過程に関する私の調査結果に基づいた話を取り入れます。

【その他の重要事項】

- ①各回の内容はあくまで予定です。内容の前後や変更がありえます。
 - ②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
 - ③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
- 携帯電話の電源を切って鞆にしよう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。注意等したくないので、各自で自制してください。
- 関連科目は特にありません。

8

選択

検定会計Ⅰ

検定会計Ⅱ

石山 宏 講師

選択<キャリアプログラム科目> 2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業]

選択<キャリアプログラム科目> 2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業]

※ Ⅰ、Ⅱとも秋学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は日本商工会議所（日商）簿記検定試験 2 級商業簿記の出題範囲を学習対象とし、株式会社の商業簿記を習得します。

【到達目標】

簿記の学習内容は、企業規模により、個人企業、非上場株式会社、上場株式会社に大別されます。このうち本授業では、非上場株式会社を前提とした商企業における簿記、いわゆる中級商業簿記を習得します。これは、日商簿記検定試験 2 級商業簿記の出題範囲に合致します。したがって、本授業終了時点で、日商簿記検定試験 2 級商業簿記の合格点に到達する能力が備わります。

【授業の進め方と方法】

講義形式により進行しますが、授業内において可能な限り問題演習の時間も確保します。なお、毎回の授業冒頭に、前回の学習範囲を対象とする復習テスト（10 分程度）を実施します。

【授業計画】

Ⅰ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、簿記一巡の手続と財務諸表	会計処理の習得
第 2 回	手形	会計処理の習得
第 3 回	有価証券②、その他の債権・債務	会計処理の習得
第 4 回	商品売買②	会計処理の習得
第 5 回	固定資産②	会計処理の習得
第 6 回	引当金②	会計処理の習得
第 7 回	株式会社の純資産（資本）①	会計処理の習得
第 8 回	株式会社の純資産（資本）③	会計処理の習得
第 9 回	リース会計	会計処理の習得
第 10 回	税効果会計①	会計処理の習得
第 11 回	決算①	会計処理の習得
第 12 回	決算③	会計処理の習得
第 13 回	本店支店会計②	会計処理の習得
第 14 回	連結会計②	会計処理の習得

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現金預金と売掛金	会計処理の習得
第 2 回	有価証券①	会計処理の習得
第 3 回	商品売買①	会計処理の習得
第 4 回	固定資産①	会計処理の習得
第 5 回	引当金①	会計処理の習得
第 6 回	収益と費用	会計処理の習得
第 7 回	株式会社の純資産（資本）②	会計処理の習得
第 8 回	税金	会計処理の習得
第 9 回	外貨建取引	会計処理の習得
第 10 回	税効果会計②	会計処理の習得
第 11 回	決算②	会計処理の習得
第 12 回	本店支店会計①	会計処理の習得
第 13 回	連結会計①	会計処理の習得
第 14 回	連結会計③	会計処理の習得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で学習した内容を、テキスト（『検定簿記講義/2 級商業簿記（平成 30 年度版）』）にしたがって確認します。その際、授業内未着手の問題を解きます。次いで、授業内で宿題として指定されたテキストに連動した問題集（『ワークブック/2 級商業簿記（第 4 版）』）の問題を解きます。これらにより、次回授業で実施する復習テストに備えます。

【テキスト（教科書）】

テキスト：渡部裕亘=片山 覚=北村敬子編著『検定簿記講義/2 級商業簿記（平成 30 年度版）』中央経済社
問題集：渡部裕亘=片山 覚=北村敬子編著『ワークブック/2 級商業簿記（第 4 版）』中央経済社

【参考書】

使用する講義資料は Web 配信されます。授業に先立って下記サイトにアクセスの上、講義資料をダウンロード、プリントアウトの上、教室に持参してください。

<http://www2.yamanashi-ken.ac.jp/~ishiyama/hosei.html>

【成績評価の方法と基準】

授業において毎回実施する小テスト（30 %）
試験週間に実施される期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（できる限り 12 桁のものを用意してください。）

【その他の重要事項】

ともに秋学期に開講される「検定会計Ⅰ」と「検定会計Ⅱ」は連続したカリキュラムで進行しますので、両科目を同じセメスターで履修してください。なお、日商簿記検定試験は平成 28 年度からの 3 年間で、出題範囲を段階的に大幅変更しており、本年度はその最終年度にあたります。これにより、従来に比べ、相当程度の質的上昇と量的増大が見込まれ、所定の講義回数で全範囲を取り扱うことは極めて困難な状況にあります。そこで、連結会計は主要論点のみ取り扱うこととし、当該領域におけるより深い学習のためには「連結会計」を履修することを推奨します。

【関連科目】

連結会計

インターンシップⅠ【企業と仕事研究（事例編）選択<キャリアプログラム科目> 2～4 年次／2 単位 [春学期授業]

小林 健一 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業活動と仕事の実際を学ぶ」

■企業の経営やマーケティングを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動に触れる事により実践的に理解します。

→「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習

■企業の中では、ひとりひとりが、どのような能力、どのような判断を求められているのか、また仕事の楽しさとは何かを、さまざまな仕事の実態に触れることにより理解します。

→「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習

※秋学期授業インターンシップⅡでは、夏休みに、インターンシップの受け入れをご了解いただいた企業で 5 日～ 10 日程度の実習を行います。インターンとして派遣する学生は、インターンシップⅠの受講者から選抜しますので、インターンシップⅡの受講希望者は、必ず、インターンシップⅠを受講してください。（インターンシップⅡの単位は秋学期扱いですが、実際の授業は、夏休みのインターンシップ体験となります。）

【到達目標】

①実際の企業の企業活動/マーケティング活動のケースを聞きながら、そのポイントを理解できる。

②また、そこから、自分の将来の働き方についてのヒントを得ることができる。

【授業の進め方と方法】

●ゲストをお招きする授業の性格上、受講学生数を最大 80 名に絞ることにより、集中して授業に取り組める環境を重視しています。

●毎回企業からゲスト・スピーカーを招き、約 75 分間のスピーチの後、質疑応答の時間を設けます。

●第 1 回目の授業で、各企業のプレゼンテーションを聞くための視点、及び春学期に事例として学ぶ各企業を紹介、その後各回授業で、実際に 12 社の企業事例を聞く事により、理解を深めます。

●以下の授業計画は 2017 年度の実績に基づくものです。2018 年度のゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 インターンシップⅠ およびインターンシップⅡ の受講の仕方について ゲスト企業の紹介 (受講希望者多数の場合は、受講生選 抜のための受講動機等に関するアン ケートの実施)
第 2 回	プラットフォームサービ スとは？	ゲスト・スピーカー： プラットフォームサービス (株) 取締役会長 田辺 恵一郎 氏
第 3 回	ワクワクを作る！ ～“大学生の生活が楽しく なる商品”の企画を体験 しよう～	ゲスト・スピーカー： 資生堂ジャパン (株) 事業戦略部グループマネージャー 長野 種雅 氏
第 4 回	キャリア形成論	ゲスト・スピーカー： (株) エーピーカンパニー 人材開発本部本部長 渡邊 宏輔 氏
第 5 回	マーケティング PDCA を 全方位で支援する	ゲスト・スピーカー： (株) インテージ 経営推進部 梶 雄生 氏
第 6 回	マーケティングサーチ 海外志向での製造業の選 択	ゲスト・スピーカー： 古河電池株式会社 海外戦略本部 脇田 五郎 氏
第 7 回	広告制作会社の仕事紹介	ゲスト・スピーカー： (株) レイ 執行役員 天野 純 氏
第 8 回	弥生と今とこれから	ゲスト・スピーカー： 弥生 (株) 代表取締役社長 岡本 浩一郎 氏
第 9 回	介護事業における人材採 用の需給バランス 及びその環境下での獲得 戦略について	ゲスト・スピーカー： (株) らいふ 施設事業部人事課 参事 板井 明子 氏

第 10 回 商社の仕事

ゲスト・スピーカー：
(株) バイテックホールディングス
グローバル戦略室

第 11 回 不動産流通業界と インターンシップを通じ て学んで欲しいこと

統括課長 小森 和希 氏
ゲスト・スピーカー：
三井不動産リアルティ (株)
人事部
人材開発一部人材開発グループ
後藤 博 氏

第 12 回 ドラッグストア業界を 取り巻く環境と今後の課 題

ゲスト・スピーカー：
ウェルシア薬局 (株)
総合職採用部 採用担当
宇多 重巳 氏

第 13 回 グーグルの仕事と私自身 の経験

ゲスト・スピーカー：
グーグル (合)
マーケティングテクノロジー営業部
統括部長 村松 直樹 氏

第 14 回 総括/インターンシップⅡ ガイダンス

授業の総括
インターンシップⅡ 参加者への
ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

60 分のレクチャーで、その企業の経営/マーケティングを理解する事は容易ではありません。事前にネット等でその企業についての情報を収集する事により、あらかじめ十分な予備知識をもって授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。

授業終了時に提出するレポート 8 回以上を必須として、
8 回を超えるレポート提出回数 24 %、レポート評価 76 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各業界の現状もさることながら、ゲストご本人のこれまでのキャリアや仕事についての考え方を聞きたいという学生の声があるため、今年度はできる限りゲストの方ご自身のことについてお話しできるようにお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

ゲスト企業の諒解が得られた場合は、授業で使用したスライドを授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

●教員は、(株) 電通 IMC プランニングセンター長、(株) 電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

●企業活動やマーケティング活動は常にさまざまな選択肢からの意思決定の連続です。この授業を通じて養っていただきたいのは、さまざまな仕事に対する想像力や洞察力です。常に「自分なら」という視点から、実際の経営や仕事を想像、洞察する習慣を身につける努力をしてください。

【関連科目】

秋学期「インターンシップⅡ」で企業に派遣される学生は、この授業の受講生の中から選抜されますので、「インターンシップⅡ」を受講希望の学生は、この授業を必ず受講してください。

8

選
択

インターンシップⅡ【企業と仕事研究（体験編）選択<キャリアプログラム科目> 2～4年次/2単位 [秋学期授業]

小林 健一 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業活動と仕事の実際を学ぶ」

■企業の経営やマーケティングを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動に触れる事により実践的に理解します。

→「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習

■企業の中では、ひとりひとりが、どのような能力、どのような判断を求められているのか、また仕事の楽しさとは何かを、さまざまな仕事の実態に触れることにより理解します。

→「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習

※この授業は、実際の企業における就業体験です。受講者は、春学期インターンシップⅠ受講生の中から選抜します。従って、この授業の受講希望者は、必ず春学期インターンシップⅠを受講してください。

【到達目標】

- ①社会人としての最低限のルールやマナーが身に付いている。
- ②インターン先企業の業務内容/企業風土を迅速に理解し、その中に溶け込む事ができる。
- ③現在の自分の出来る範囲で、インターン先の業務に貢献できる。
- ④インターン経験を経た段階で、将来自分が就きたい仕事についての考え方をまとめ、説明できる。

【授業の進め方と方法】

通常の講義と形式が異なります。

昨年度は 11 企業で 39 名の学生が就業体験を行いました。

春学期の「インターンシップⅠ」の授業中に、詳細について説明しますが、以下の点に注意してください。

- インターンシップⅡだけを単独で履修することはできません。
- 企業研修は、インターンシップⅠを履修した者の中から、選抜された学生を対象に、夏休み期間中に実施、終了しますが、履修登録は秋学期科目扱いです。
- 実際のプロセスは、下記ようになります。
- ①インターンシップ参加希望企業（第 1 志望、第 2 志望）の提出（春学期インターンシップⅠ期間内）
- ②インターンシップⅠ提出レポートによって研修参加者の選考
- ③合格者発表
- ④企業研修オリエンテーション（春学期インターンシップⅠ最終授業）
- ⑤単位登録変更手続き（インターンシップ保険、守秘義務契約などの手続きもこの時点で行う。）
- ⑥企業研修の実施（夏休み期間中。研修期間は実施企業ごとに異なる。）
- ⑦インターンシップ参加者によるインターンシップ報告会の実施（9 月中旬予定）

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	インターンシップ・ガイダンス（春学期インターンシップⅠ最終授業）	企業での研修について説明。 インターンシップ保険への加入、 履修登録の手続き。 （必要に応じて）守秘義務契約、 誓約書等の締結。
第 2 回～ 13 回	派遣先企業での研修	派遣先企業によって 期間（5 日～10 日）、 研修内容は異なるので、 インターンシップⅠの授業を 聞いた上で、 各企業の研修内容を確認すること。
第 14 回	インターンシップ報告会	派遣先企業のご担当者にも ご出席いただき、 各企業でどのような研修を受けたのか、 またどのような学びを得たのかを プレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 派遣される学生は企業との契約書の有無にかかわらず、注意事項をよく守ってインターンに参加してください。
- インターンに参加する学生の態度や行動が、次年度のインターン受け入れ、さらには今後の企業の採用活動にも影響を及ぼすため、法政大学経営学部の学生であるとの自覚をもって、実習に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

「ビジネスマナー以前の社会人の心得」古川裕倫、日本能率協会マネジメントセンター、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

- ①研修に関するレポート 50 %
- ②インターンシップ報告会プレゼンテーションの発表 50 %
（グループあるいは個人）

で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修登録上は秋学期科目ですが、企業研修自体は夏休み期間中に終了するため、授業評価アンケートは実施していません。

ただ、研修に参加した学生のレポートによると、いずれの企業研修も得難い貴重な体験として評価されています。

【その他の重要事項】

＜インターン期間中は…＞

●朝夕の挨拶、電話の応対等社会人として最低限のマナーを身につけた上で、臨んでください（キャリアセンターが実施するマナー講座等にも積極的に参加してください）。

●それぞれの会社には、その会社毎の就業規定、仕事を進めて行く上でのルールがあります。早期にそのルールを理解するように努めてください。

●漫然と言われた仕事を行うだけでは、仕事の真の理解にはつながりません。常にその仕事の目的、仕事の結果を考え、積極的に質問する事により、企業活動及び仕事を理解する事に努めてください。

【関連科目】

インターンとして派遣される学生は、春学期「インターンシップⅠ」受講生の中から選抜されますので、この授業を希望する学生は、必ず「インターンシップⅠ」を受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。

この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

（春学期「広告論」講義の実践編として、秋学期「プランニング実務」を開講しています。実際の広告の計画や制作に興味のある方は、秋学期「プランニング実務」の受講もお奨めします。但し、秋学期「プランニング実務」は演習のため受講生数を 30 名程度に絞ります。）

【到達目標】

- ①「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
- ②広告の機能/役割について理解し、説明できる。
- ③広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
- ④広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【授業の進め方と方法】

- 講義は、電通出身の教員が勤めます。
- 講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題を併用します。
- 将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識を身につけてもらうことを考えています。
- また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めていただくために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
- ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける 広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割 広告会社の組織と機能
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告計画立案の流れ 6 段階 広告計画の意味と重要性 状況分析と広告目標の設定
第 6 回	（ゲスト講師）事業会社	事業会社における広告業務 （昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 コミュニケーション統括部部長 小出 誠 氏）
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本 （ターゲットとコンセプト）
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	（ゲスト講師）広告会社	電通ライブの仕事 （昨年度は（株）電通ライブ 第 4 プロデュースルーム次長 原田 和明 氏）
第 10 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型（左脳系アプローチと 右脳系アプローチ）
第 11 回	（ゲスト講師）広告会社	広告表現制作の実際 （昨年度は （株）電通 エグゼクティブクリエイティブディレクター 佐藤 義浩 氏）
第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ

第 14 回 ブランドと広告

ブランドとは？
ブランドと広告の関係
授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】

「現代広告論 第 3 版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聡（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。

授業内課題 30 % 学期末試験 70 % の比率で評価します。

★但し、4 年生については、就活時期とも重なるため学期末試験 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話ししたいと思います。
- ・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは、授業終了後授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

秋学期「プランニング実務」が、この講義の実践編となります。

筒井 知彦 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは「実践会社実務 理 ID：務論」と一見難しそうですが、会社実務がどのような構造、流れで行われているのかが分かるように臨場感溢れた実践的な講義を行います。多数の会社に助言や専門サービスを行っている本学 OB の公認会計士 15 名が、学生にも理解できるように会社実務を解説します。会社経営の仕組みや経営理念、ビジネスモデル、企業行動といった仕事の流れを公認会計士がどう分析・把握するか平易に解説することで、会社実務知識の短期間で習得を目指します。会社を見る目を養い、社会に出てから役立つ実務知識を学ぶことを目的とします。簿記や財務会計の専門知識がない方でも理解できる内容です。

【到達目標】

就職活動の成否は希望する会社の経営内容をいかに把握するかで決まりますが、本講座を通じて会社実務に関する幅広くかつ実践的な知識を身につけることができます。卒業後に就く職種や会社の業種は様々だと思いますが、どの会社に就職しても本講座で得た知識は、会社経営の仕組みや仕事の流れを知るための考察力の基礎となるはずです。また、将来、経営者として自ら起業する際にも役立つ知識も得られます。

【授業の進め方と方法】

講義形式中心で授業は進めますが、履修者からの発言や質問はその場で積極的を受け付け、できる限り双方向で講義をします。また、具体的な実務事例や紹介ビデオなども取り入れ、学習効果を高めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社組織と企業行動の仕組みを知っておこう	本講座の目的、講師陣の紹介、全体概要等の説明。 企業のあるべき姿を説明しつつ、会社法概要、組織構造、コーポレートガバナンス・コードなどの知識および経営者の行動を上場会社の事例を中心に学ぶ。
第 2 回	活力ある企業の条件を理解し、会社選びで実践してみよう	現在、様々なメディアで若者を使い捨てにするブラック企業が報じられているが、これとは全く正反対の人を大切にしている経営を実践している企業が存在している。その特質はどこにあるのか、人を大切にする企業の見分け方を学ぶ。
第 3 回	「経営理念」に基づいた事業展開を全社一丸でいかに行うか知っておこう	経営者はどうやって将来へのプランを描き、実行して行くのか。社会貢献を含めた経営理念、経営者と社員のコミュニケーション、従業員の士気を高める方法を学ぶ。
第 4 回	知りたい会社の「ビジネスモデル」を解析する力を磨こう	ビジネスモデルを知り、企業研究に役立つ分析力を養成する。①ビジネスモデルの意義と基本構造、見える化の手法、②ビジネスモデルの代表的なパターン（フリー、シェア等）、③注目企業のビジネスモデルの見える化とポイントを学ぶ。
第 5 回	会社で生じる横領や汚職といった不正事件について知っておこう	社員や経営幹部による不正の実態、実際に発生した事例・手口（横領、汚職など）、会社存亡の危機に至らない未然の対処策、不正が発生した時の対応を学ぶ。
第 6 回	会社の内部統制について理解しよう	企業の「財務報告」と「監査」と「内部統制」の関係を理解した上で、会社実務事例も交えて内部統制のフレームワークを学び、学生生活への応用を考える。
第 7 回	健全な会社成長に必要な「IPO（新規上場）」について知っておこう	IPO とは何か？ IPO のメリット・デメリットは何か？ どんな会社が上場しているか？ IPO によって企業はどのように成長していくか？ 投資家が期待する上場会社とはどんな会社か？ IPO の事例も交えながら一般的な内容を学ぶ。
第 8 回	M&A について理解しよう	M&A とはどのようなことか？ M&A・企業再生の概要、経営における役割・期待、企業成長プロセスとの関係、新聞紙上を賑わした事例を紹介し、社会や経済における意義を学ぶ。
第 9 回	経営者の交代、事業の承継をいかに行うべきかを知っておこう	どの会社もいずれ経営者の交代時期が必ず来るため、財産や経営をいかに承継されるのか、会社や経営者の財産とは何か、事業承継とは何か、財産や会社経営と事業承継の関係を学ぶ。

- 第 10 回 会社の公表する情報の活用の仕方を知っておこう
- 第 11 回 企業活動に伴う税金、企業オーナーにかかる税金、企業の承継にかかる税金について理解しよう
- 第 12 回 会社はどんな情報を外部に公表しているか知っておこう
- 第 13 回 IT 無くして、経営がままならない今、経営を支える IT を知ろう
- 第 14 回 多くの事業を手掛ける会社の「グループ経営」はいかに行われているか理解しよう
- 会社を分析した結果から見えてくること、数値データを活用して企業の成長プロセスや会社の優劣の見極めを学ぶ。会計事務所の仕事現場をビデオで紹介。税金一般にかかる基礎知識も織り交ぜ、企業と企業オーナー、そして事業を承継する税務コストについて学ぶ。会社の内容が詳しくわかる公表資料の概要、ディスクロージャー、IR、有価証券報告書（有報）、企業内容開示の全体像と実態、会社分析手法を学ぶ。経営に活用されている IT の基礎知識、役割を説明。サイバーセキュリティ、AI（人工知能）、データ分析等の最新動向を学ぶ。グループ全体の実態をいかに読み取るか、グループ経営、連結決算による業績をいかに把握するかを説明しつつ、日本と海外の経営管理手法の違いを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済新聞に目を通し、企業で最近何が起っているか意識して下さい。また、リストアップした参考書籍も一読して下さい。また、自分自身が社会人となって働く会社を思い浮かべ、会社をいかに見たら良いか、試行錯誤してから授業に臨むと講義のポイントを吸収できるはずですよ。

【テキスト（教科書）】

テキストは、毎回講義の 1 週間前を目安に授業支援システムに掲載しますので、事前にダウンロードし、内容に目を通して疑問点や不明点を明確にして出席して下さい。但し、テキストではなく当日口頭で会社実務のノウハウ、本音、裏話を色々伝えるのでメモの用意を是非して下さい。

【参考書】

参考書は授業支援システム上に掲載しますので確認下さい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（45％）、終了レポート（55％）によって総合的に評価します。授業での学習状況や参加態度を重視します。また、複数の講義テーマに関する終了レポートの提出により、実践的な知識と考察力を評価します。加点対象：授業での発言・質問、減点対象：遅刻・早退

【学生の意見等からの気づき】

講師にとって当然のことであっても、初めて聞く参加者にとっては理解しにくい専門的話題であることを念頭におき、できうる限りかみ砕いて分かり易い説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターの投影により授業を進めますので、原則としてテキストは当日配布しません。各自で授業支援システムから必ず事前にテキストを各自印刷出力してきて下さい。また、授業中はパソコン、スマートメディア、携帯電話の使用は禁止します。

【その他の重要事項】

【オフィス・アワー】

・授業後に質問を受け付けます。

【関連科目】

本講座の関連科目としては、「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」「経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ」「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」「管理会計論Ⅰ/Ⅱ」「国際会計論Ⅰ/Ⅱ」「会社法」「監査論Ⅰ/Ⅱ」等があげられます。

小林 健一 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「実際に広告キャンペーンを企画してみる」

将来、誰もが「広告」の仕事に携わる訳ではありません。ただ、ある状況の中で、与えられた課題を解決するために、環境を分析し、戦略を組み立て、その戦略に基づいて様々な施策のアイデアを発想することは、どのような仕事にも共通して求められる力です。

この実習では、身近な存在である「広告キャンペーン」を企画することにより、戦略とは何か、プランニングとは何かを体感していただきたいと思います。

（この授業は、春学期「広告論」の実践編という位置付けになるため、併せて「広告論」を受講することをお奨めします。）

【到達目標】

- ① 広告キャンペーンのプランニングの手順を理解し、説明できる。
- ② プランニングに必要な情報/データを的確に収集分析できる。
- ③ ターゲットの策定やコンセプトの決定に関して、その手順を理解し、その手順に従って広告計画を作ることができる。
- ④ アイデアを発想する方法論を理解し、実際にアイデアを出すことができる。
- ⑤ 自分が作った広告キャンペーンプランを、他の人たちに説明し、納得させることができる。

【授業の進め方と方法】

●グループワークを通じて、あるブランドの課題（「ソフトドリンク〇〇」のシェアを拡大する、「シャンプー〇〇」をターゲット ×× に向けてリポジショニングする）を解決するための広告計画と広告キャンペーンプランを作り、実際にプレゼンテーションを行っていただきます。

●具体的には、プランニングフローの各パートについて、教員が講義を行い、そのパートについて実際に作業を行いながら、最終的に広告計画と広告キャンペーンプランを組み立て、グループ毎に発表してもらいます。

●授業にはメーカー、調査会社、広告会社の方々にもご参加いただき、実際のオリエンテーションから、広告計画の策定、広告キャンペーンプランニングのサポートをしていただきます。

●プランニングは、知的な作業であるとともに、豊かな感性も求められます。プランニングは楽しい！ということをぜひ実感していただきたいと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション 広告概論	教員自己紹介 授業計画の説明 広告概論 (春学期「広告論」授業のポイント) (受講希望者多数の場合は、 選抜のためのアンケートを実施します。)
第 2 回	課題オリエンテーション	広告商品、課題の提示（昨年度は、 大手化粧品メーカーから オリエンテーションを いただきました。）
第 3 回	(講義) 広告計画、広告キャンペーンプランの作成手順	授業で行う広告計画作成、 広告キャンペーンプランニングの手順 の説明
第 4 回	(ゲスト講義) 市場データ分析の基本	実際の市場データ、消費者データを見ながら、 市場分析の基本を学ぶ (昨年度は (株) インテージ様に お願いしました。)
第 5 回	(グループ演習) 市場環境分析とターゲット（ペルソナ）の策定	3 C 分析（市場環境、競合商品、 自社商品の分析）、 およびターゲット（ペルソナ）の策定 を個人、グループで行う (昨年度は (株) インテージ様に お願いしました。)
第 6 回	(グループ演習) メッセージの策定	メッセージ策定の方法の理解、 およびメッセージ策定のための グループ討議
第 7 回	(グループ演習) 広告計画書の作成	第 5 回～第 6 回の議論を踏まえて、 広告計画書を作成する
第 8 回	第 1 回プレゼンテーション	各グループから、 広告計画のプレゼンテーション
第 9 回	(ゲスト講義) 広告キャンペーンプランニングの基本	広告キャンペーンプランニングの 手順の説明 (昨年度は (株) 電通 クリエイティブディレクター 山本渉様をお願いしました。)
第 10 回	(グループ演習) 広告キャンペーンプランニング 1	各グループ毎に広告計画の再確認 広告キャンペーンのコアアイデア討議

第 11 回	(グループ演習) 広告キャンペーンプランニング 2	広告キャンペーンのコアアイデア討議、 およびキャンペーンアイデアの討議
第 12 回	(グループ演習) 広告キャンペーンプランニング 3	プレゼンテーション資料の作成
第 13 回	プレゼンテーション	プレゼンテーション、および質疑 (昨年度は、審査員として、 大手化粧品メーカー様、 (株) インテージ様、 (株) 電通様が参加)
第 14 回	プレゼン講評 プレゼン採点結果発表	各グループのプレゼンテーションの 講評、および採点結果の発表 授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業では、グループワークを行うため、毎回のグループワークに必要な情報、データはグループ毎に事前に収集すること。

●またアイデアは教室の中、机の前だけで出るものではありません。街を歩きながら、あるいはテレビや新聞を見ながら、解決策のブレイクスルーや、新しいアイデアが出る瞬間の楽しさを実感すること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、必要な資料は毎回の講義で配布します。

【参考書】

必要に応じてご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、
グループワークへの貢献 30 %、
グループプレゼン評価 30 %、
の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業内アンケートより、
実際のキャンペーンプランの作成にかかる時間が少ない、という声があったため、今年度は、キャンペーンプランの作成に時間を取りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いたスライドは、授業終了後、授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

●教員は、(株) 電通 IMC プランニングセンター長、(株) 電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

●積極的に授業に参加する学生を歓迎します。受講希望者が多い場合は、選抜のためのアンケートを行って受講者数を制限します（30 名程度）

【関連科目】

この授業は、春学期「広告論」の実践編となります。

租税法

菊谷 正人 教授

選択く特殊講義>

2～4年次／4単位 [年間授業]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税の意義・根拠・種類、租税法の意義・範囲および基本原則（租税法主義、租税公平主義）等の租税法における基本的概念を身に付けた上で、租税実体法として法人税法、所得税法、相続税法、消費税法、地方税法等の基本的必要事項を学習します。さらに、納税猶予・更正・決定等の国税手続、滞納処分等の徴収方法も理解します。

【到達目標】

難解な租税法の条文を理解できるようにします。わが国におけるほぼすべての税目の理解を深めます。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストを用いて講義します。必要に応じて、判例・新聞記事等のプリントを配布します。なお、毎回小テスト形式による出席カードを取ります。

【授業計画】

通年 回	テーマ	内容
第1回	租税の意義・根拠・種類	租税の根拠、租税の種類（所得税・消費税法・財産税・流通税、・国税・地方税等）
第2回	租税法の意義・範囲	租税法の種類（租税実体法・租税手続法・租税処罰法）
第3回	租税法の基本原則	租税法主義（課税要件法定主義・課税要件明確主義・手続的保障原則）、課税公平性
第4回	法人税の特色	法人税の性格（法人擬制説・法人実在説）法人税の納税義務者、法人税の申告制度
第5回	法人税の所得金額・税額の計算構造	所得概念、法人税の課税標準、各事業年度の所得の金額、所得の特別控除、税額控除
第6回	主な益金算入項目	通常の販売収益、特殊な販売収益、役員収益、譲渡収益
第7回	主な益金不算入項目	受取配当等（益金不算入の根拠・益金不算入額の計算）、資産評価益、法人税等の還付金等
第8回	主な損金算入項目（1）	棚卸資産の売上原価（取得価額・評価方法等）有価証券の譲渡原価
第9回	主な損金算入項目（2）	固定資産の減価償却費（取得価額・普通償却限度額の計算・租税特別措置法による特別償却）
第10回	主な損金算入項目（3）	固定資産の圧縮記帳損、繰延資産の償却費、資産評価損、貸倒損失、引当金繰入額・準備金積立額
第11回	主な損金不算入	交際等、過大役員報酬等、寄附金の損金不算入額
第12回	法人税額等の計算	所得金額の計算、所得の特別控除、法人税額の計算、税額控除
第13回	所得税の納税義務者・所得概念・所得の種類	居住者・非居住者、純資産増加説、勤労所得・不労所得・財産所得・資産労働結合所得
第14回	課税所得の分類	利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得・給与所得等
第15回	所得金額の計算	総合課税・分離課税・源泉分離課税・源泉徴収、損益通算の仕組み
第16回	所得控除の種類	雑損控除・医療費控除・社会保険料控除・寄付金控除・配偶者控除・扶養控除等
第17回	所得税額の計算	超過累進税率・特別税率、総所得金額の税額、分離課税の税額、税額控除
第18回	相続税の課税対象	相続税・贈与税の課税根拠、法定相続人と法定相続分、課税財産
第19回	相続税法の計算	課税価格の計算、相続税額の総額の計算、税額控除（贈与税額控除、未成年者控除、相次相続控除等）
第20回	相続財産の評価問題	財産評価の原則、法定評価、財産評価基本通達の共通原則、財産の評価方法
第21回	消費税法の意義と課税	消費税法の課税対象、非課税取引、不課税取引、事業者免税点制度
第22回	簡易課税制度の現状と課題	仕入税額控除の意義、実額控除と概算控除、みなし仕入れ率の問題
第23回	帳簿方式・税率の課題	帳簿方式とインボイス方式、単一税率と複数税率（標準税率と軽減税率）
第24回	その他の国税	酒税、たばこ税、印紙税、登録免許税、揮発油税、石油税等
第25回	地方税（道府県税）	道府県民税、事業税、不動産取得税、道府県たばこ税、ゴルフ場利用税、自動車税等

第26回 地方税（市町村税）

市町村民税、固定資産税、軽自動車税、鉦産税等

第27回 国税通則法

納税義務の成立、申告納税方式、賦課課税方式、国税の還付、国税の徴収滞納処分（財産の調査・財産の差押え・財産の換価、換価代金の配当、換価の猶予）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わが国の租税法は、「一読して難解、再読して誤解、三読して不可解、四読して曲解、五読しても無理解」に終わる条文が多いと言われるように、複雑・難解であるため、事前に該当条文を読むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

菊谷・依田・井上・酒井著『租税法入門』同文館出版、平成28年。

【参考書】

前川・菊谷共編著『租税法全説』同文館出版、平成13年。

菊谷正人『税制革命』税務経理協会、平成20年。

菊谷・前川・依田共著『租税法要説』同文館出版、平成24年。

【成績評価の方法と基準】

テスト80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

なるべく、遅刻をしないでください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>会計学、租税法

<研究テーマ>国際課税、英国租税制度、国際会計基準（IFRS・IAS）、企業結合会計、連結会計

<主要研究業績>

「消費税法における問題点」『経営志林』第43巻第1号、2006年。

「会計基準の国際化と課税所得」『税務会計研究』第20号、2011年。

「わが国会計の『質』の点検・評価—わが国会計制度の国際化の観点から—」『会計』第183巻第3号、2013年。

「英国税法における減価償却制度の特徴」『経営志林』第48巻第3号、2011年。

「英国における中小法人課税の特徴」『租税実務研究』第1号、2013年。

「英国の『個人貯蓄口座』（ISA）に対する非課税制度の特徴」『租税実務研究』第2号、2014年

「『番号法』創設に伴う税務処理の課題」『租税実務研究』第4号、2015年。

「特別償却と税額控除の現状と課題」『税研』第31巻第3号、2015年。

「『富裕税法』再導入論」『経営志林』第53巻第2号、2016年。

「OECD公表のBEPS行動計画4『利子控除・その他の金融支払に係る税源侵食』」『経営志林』第54巻第2号、2017年。

「『パナマ文書』の国外財産調査制度の強化」『税経通信』第71巻第11号、2016年。

【関連科目】

税務会計論、民法

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動の多角化・国際化により形成された企業集団を単一の経済組織体とみなして、連結財務諸表が作成されています。本講義では、企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」、企業会計基準第16号「持分法に関する会計基準」、企業会計基準第25号「包括利益の表示に関する会計基準」および「連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準」を中心にして、連結会計の基本的必要事項を学習します。

【到達目標】

最新の連結会計基準に基づいて、上級簿記検定・公認会計士試験等の上級国家試験に合格できる論文作成能力・計算能力の涵養を目指します。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストを用いて講義します。たとえば、連結の範囲、資本連結、連結会社間の債権・債務の相殺消去、持分法等の理解を深めます。重要な課題については、計算問題（数値例・仕訳例）を解きながら、連結会計システムの理解を深めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	連結財務諸表の性格	意義・目的、一般原則（連結財務諸表 真実性の原則、連結財務諸表準拠性原則、 連結財務表継続原則）、連結基礎 概念（資本主概念、親会社概念、親会社 拡張概念、経済的単一体概念）
第2回	連結範囲判定基準等	持株基準・支配力基準の長所・短所、 連結除外会社、非連結子会社、小規模 子会社
第3回	支配獲得時の資本連結 （1）	資本連結の意義、資本連結の手続
第4回	支配獲得時の資本連結 （2）	子会社の資産・負債の評価等（部分時 価評価法・全面時価評価法）
第5回	支配獲得時の資本連結 （3）	のれん・非支配株主持分等の計算
第6回	支配獲得後の資本連結 （1）	子会社株式の追加取得、子会社株式の 一部売却
第7回	支配獲得後の資本連結 （2）	子会社の時価発行増資等
第8回	連結会社間取引の消去	債権・債務の相殺消去等の会計処理方 法
第9回	未実現損益の消去（1）	ダウン・ストリーム、アップ・スト リーム等
第10回	未実現損益の消去（2）	固定資産に含まれる未実現損益等の排 除（理由と計算方法）
第11回	持分法	持分法の具体的手続等（部分時価評価 法・持分法による損益）
第12回	連結会計固有の税効果会 計（1）	資本連結の税効果処理（支配獲得時・ 段階取得時・支配獲得後における資本 連結仕訳）
第13回	連結会計固有の税効果会 計（2）	連結会社間取引の税効果処理
第14回	連結財務諸表の様式	連結貸借対照表・損益計算書・包括利 益計算書・キャッシュ・フロー計算 書・株主資本等変動計算書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート（特に計算問題）を解いて、復習を徹底的に行ってください。

【テキスト（教科書）】

菊谷正人・吉田智也『連結財務諸表要説（改訂版）』同文館、平成22年。
プリント（計算問題）。

【参考書】

稲垣富士男『連結財務諸表の基礎』中央経済社、平成11年。
杉山 学『連結会計の基礎知識』中央経済社、平成18年。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト80%、平常点20%。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく、遅刻をしないでください。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞会計学、租税法

＜研究テーマ＞国際会計基準（IAS・IFRS）、企業結合会計、連結会計、国際
課税、英国租税制度

＜主要研究業績＞

『英国会計基準の研究』同文館出版、昭和63年。

『企業実体維持会計論- ドイツ実体維持学説およびその影響-』同文館出版、
平成3年。

Financial Reporting in Japan, Blackwell, 1992.

『国際会計の研究』創成社、1994年。

『多国籍企業会計論』創成社、1997年。

『国際的会計概念フレームワークの構築』同文館出版、平成14年。

『税制革命』税務経理協会、平成20年。

『国際会計の展開と展望—多国籍企業会計とIFRS—』創成社、2016年。

『英国におけるのれん会計の展開』『イノベーション・マネジメント』第2号、
2005年。

『企業結合会計基準の国際的収斂—国際財務報告基準第3号を中心にして—』
『経営志林』第43巻第4号、2007年。

『段階取得の会計処理における問題点』『経営志林』第48巻第1号、2011年。

『段階取得・追加取得の会計処理に関する理論的考察』『産業経理』第71巻第
2号、2011年。

『『その他の包括利益』の会計処理に関する理論的考察4』『会計・監査ジャー
ナル』第700号、2013年。

『資産会計の論点—IFRSにおける資産会計をたたき台にして—』『経営志林』
第51巻第2号、2014年。

『段階取得と追加取得の会計処理における理論的整合性に関する一考察』『産
業経理』第74巻第2号、2014年。

『不破会計理論の特徴および継承的展開』『経営志林』第52巻第3号、2015年。

『国際会計の展開と展望』創成社、2016年。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、国際会計論

三澤 一文 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今、多くの日本企業が問題解決能力に優れたリーダーの不足に頭を悩ましています。IT化、グローバル化の流れの中で、将来を見越したイノベーションを起こし、世界的な視野をもって決断し、俊敏に実行できるようなリーダー人材が社内で育っていないのです。そんな中でも、トヨタ自動車はリーダー人材を次々に輩出し、業界トップの座を守り続けています。のみならず、トヨタのリーダーたちが身につけた問題解決手法は、他業界にも移植され、成果を挙げています。そんなトヨタが、リーダーたちに何を伝え、どのような経験を積ませてきたのかを知ることは、いまの日本企業にとってとても重要なヒントを与えてくれるはずです。本授業は、トヨタ社内で実際に活用されている問題解決手法を習得し、さらに、それを応用した新しい経営知識を事例学習で身につけることが目的です。

【到達目標】

本授業で採りあげる「問題解決手法」は次の8つのステップから成ります。①問題を明確にする②問題をブレイクダウンする③達成目標を決める④真因を考え抜く⑤対策を立てる⑥対策をやりぬく⑦結果とプロセスを評価する⑧成果を定着させる。この問題解決手法は、すでに日本企業の中で広く普及していて、サービス業、製造業、金融業など業界を問わず、成果を上げています。本授業を受講することで、受講生は、日常の様々な問題を経営の視点でうまく解決することができるようになります。また、将来、リーダーとなる人材が押さえておくべき経営手法も習得することができます。

【授業の進め方と方法】

講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	問題の解決の仕方を知らない「残念な」結果になる理由 トヨタが考えた正しい問題解決の方法と心構え
2	問題を明確にする	問題がないことが最大の問題 隠れた問題を見つける方法 目的の目的を考える 現状とあるべき姿のギャップを明確にする
3	問題をブレイクダウンする	取り組むべき問題がどこにあるのかを決める あいまいな問題を具体化していく方法 取り組むべき問題の優先順位を決める
4	達成目標を決める	挑戦的で具体性のある目標を設定する 正しい目標の立て方、間違いやすい目標の立て方 かつての優良企業のジレットが凋落した理由
5	真因を考え抜く	先入観を持たずにより多くの要因を考える 事実に基づいて「なぜ」を繰り返す（5回のなぜ） もれなくダブリなく、論理的にチェックして、真因を特定する
6	授業内演習（1）	第2回から第5回の授業内容に関する演習
7	対策を立てる	固定観念にとらわれずに考える できるだけ多くの対策案を洗い出す 付加価値の高い対策に絞り込む PDCAが確実に回る実行計画を立てる
8	対策をやりぬく	スピード重視でチーム一丸となって実行する モータースポーツの事例 報連相（報告・連絡・相談）で進捗を共有する 決してあきらめず、すばやく次の策をうつ
9	結果とプロセスを評価する	目標に対する結果とプロセスを評価し、関係者と共有する お客様、自社、自分の視点で振り返る 成功・失敗要因を学ぶ
10	成果を定着させる	良い標準化と悪い標準化 標準を皆で広く活用する 次の改善をスタートする 日常的に5Sを徹底させる
11	授業内演習（2）	第7回から第10回の授業内容に関する演習

12	ゲスト講師による講義	起業家もしくは企業人による本授業の内容に関する講義
13	問題解決手法のFAQ（よくある質問）と回答	FAQの一般例 あるべき姿を描くときのヒントは？ 目標は数値化すべきか？ バックアッププランは必ず必要か？ 結果とプロセスの評価はどちらが重要か？ 標準化はどこまですべきか？
14	授業内レポート	本授業で学んだ内容をベースに、気づいたことや、今後、自分なりに応用したいことなどを考察と私見を含めて、できるだけ具体的にレポートしてください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トヨタは日本で最大かつ最強の「ベンチャー企業」です。いまから80年以上前に、創業者の豊田喜一郎は、自動織機の工場の片隅にある板張りの囲いの中で、本業とはまったく関係のない小さなガソリンエンジンをこっそり作り始めました。その「起業家精神」は、かたちを変えていまも受け継がれています。本授業で学習するトヨタで受け継がれる問題解決手法を体得するのは簡単ではありませんが、意識して日々の問題解決に応用する場面を増やすことで、次第に、いかなる問題の解決にも役立つ物事の進め方、すなわち「仕事の型」が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

三澤一文『トヨタ式リーダー育成法』日本経済新聞出版社（2014年）、1400円＋税

また、毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します。

【参考書】

バーバラ・ミント（著）、山崎 康司（翻訳）『考える技術・書く技術—問題解決力を伸すピラミッド原則』ダイヤモンド社（1999年）、2800円＋税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内演習、リアクションペーパーの提出含む）75点

授業内レポート課題 25点

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな問題解決に役立てるように、身近な問題をとりあげての授業内演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

本授業の英語授業での関連科目は Introduction to Organizational Management（GBP科目）です。また、日本語授業での関連科目は「ものづくり経営論」です。

毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

李 瑞雪 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は一般社団法人日本物流団体連合会の寄附講座で、物流・ロジスティクスに関する概論的授業です。日本通運や日立物流、ヤマト運輸などの日本の代表的な物流企業の上級マネジャー、国土交通省の企画官、物流団体連合会の役員によるリレー・レクチャーという形式をとります。レクチャーの受講によって物流・ロジスティクスの機能と活動を理解し、日本物流の実態と重要性を認識するのが主たる狙いです。

【到達目標】

本講義の受講によって、日本の物流産業を構成する海運業、宅配業、航空輸送業、陸運業、鉄道輸送業、倉庫業、システム物流業（3PL）、国際物流業などの各業界の特徴や概況、基礎知識を理解することができます。また、製造企業や流通企業のロジスティクス・マネジメントに関する基礎概念や原理を知り、国の物流政策を理解することができます。

【授業の進め方と方法】

物流企業、国交省、物流団体連合会から10名以上の講師を招いて講義をしていただきます。昨年度の講師の所属企業・組織は以下の通りです（登壇順）。社団法人日本物流団体連合会、トナミ運輸株式会社、株式会社商船三井内航、SGホールディングス株式会社、株式会社ANAカーゴ、株式会社日新、株式会社日立物流、三菱倉庫株式会社、株式会社ニチレイロジグループ、日本郵船株式会社、国土交通省総合政策局、日本貨物鉄道株式会社。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1回目	ガイダンス	講義概要やスケジュールについての説明。授業で使われる重要な概念や専門用語の解説。
2回目	物流総論	日本物流団体連合会の役員による講演。日本の物流産業、企業経営と物流・ロジスティクス機能の関係についての全般的解説。
3回目	鉄道貨物輸送	日本貨物鉄道株式会社（JR貨物）の役員による講演。鉄道貨物輸送の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来の展望などについて解説。
4回目	外航海運	外航海運大手企業の上級マネジャーによる講演。外航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
5回目	内航海運	内航海運企業の上級マネジャーによる講演。内航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
6回目	トラック運送	大手陸運企業の経営者による講演。陸運の仕組み、特徴、現状、課題、将来展望などについて解説。
7回目	航空貨物輸送	航空貨物大手企業の上級マネジャーによる講演。航空貨物輸送の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
8回目	宅配便	宅配便大手企業の上級マネジャーによる講演。宅配便の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
9回目	国際物流	大手国際フォワーダー企業の上級マネジャーによる講演。国際物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
10回目	サードパーティロジスティクス（3PL）	大手3PL企業の上級マネジャーによる講演。企業経営とロジスティクス機能との関係、日本におけるシステム物流（3PL）の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来展望などについて解説。
11回目	倉庫	大手倉庫企業の上級マネジャーによる講演。営業倉庫の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
12回目	食品物流	低温物流大手企業の上級マネジャーによる講演。食品物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
13回目	物流政策	国土交通省の企画官による講演。日本政府の物流政策について解説。
14回目	物流と環境問題	大手物流企業のCSR担当上級マネジャーによる講演。物流活動と環境問題の関係、モデルシフトや共同物流といった環境にやさしい取り組みについて解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業システムにアップロードされた講義資料を事前に予習しておきます。物流・ロジスティクスに関する新聞記事に留意し、授業で学んだ知識と結びつけながら、記事の内容を理解し思考します。

【テキスト（教科書）】

講義資料は授業支援システムで毎回配布。

【参考書】

『数字でみる物流 2017年度』（一般財団法人日本物流団体連合会発行、2017年）
 『図解でわかる物流の基本としくみ』（アニモ出版、2015年、ロジ・ソリューション著）
 『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』（白桃書房、2013年、苦瀬博仁編著）
 『現代物流概論』（成山堂書店、2001年、国領英雄編著）
 『現代物流システム論』（有斐閣アルマ、2002年、中田信哉ほか著）
 『物流戦略策定シナリオ』（かんき出版、2005年、日通総合研究所編）

【成績評価の方法と基準】

課題レポートなどの平常点（40％）、期末試験（60％）、授業参加（+a）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答など講師との交流時間が作れるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで配布した資料は、必ず個々人で印刷して授業に持参してください。

【関連科目】

『経営学総論』、『経営戦略論』、『日本経済論』、『中小企業論』、『流通論』

岡本 慶子 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

お洒落は好きですか。あなたが洋服や靴を購入する店のバックヤードに「商品が到着するまで」の「人、もの、企業」が関わるビジネスを学んだ上で、企業がどのような戦略を立てているかを観察し、分析します。商品はどこで作られ、どのように運ばれ、費用はどのくらいかかっているのかなど、身近なファッションを通して理解します。ショッピングをする時、新たな目線で商品を観察し、マーケティングについて思考できるようになることが目的です。

【到達目標】

日本のファッション業界はどのように始まり、今、どんな状況に置かれているか。ファッション業界を切り口としてビジネスに必須の知識、「商品の企画、見積、生産、貿易、流通、販売促進、法令、社会的責任、採用、業界の構図、歴史」などを学び、広い視野で業界の全体像を観察します。その上で現状を把握し、今後の業界や企業の戦略について自らの力で考え、判断できるようにすることが目標です。さらに、その考えや判断を自ら発信する、共有するなど、実務遂行上必要になるスキルを得ることも目標とします。

【授業の進め方と方法】

トピックを分けて、講義、グループワーク、ディスカッション、個人ワークを行います。リアクションペーパー、プレゼンテーション、小レポートなどテーマに合わせて取り入れます。都合がつけば、実務家を招いて講演をお願いしたいと考えます。各回の内容は前後する場合があります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コース概要 業界の構図
2	ファッション業界	店舗観察から商品の品揃えを比較する。
3	ファッションビジネス	日本の繊維、アパレル業界と SPA。ユニクロ、しまむら、グローバルワーク。
4	商社、問屋	伊藤忠商事、三菱商事他。
5	繊維アパレル業界、ファッション業界の現状	日本に既製服が定着した 1970 年代から現在までの業界の動き
6	商品の企画と生産	商品の企画と生産スケジュール
7	紡績、繊維工場と縫製工場	日本の産業革命と海外とのかかわり
8	ゲスト講演	実務家の講演
9	生産、流通、見積りと小売価格	生産地、流通経路の確定と見積
10	貿易協定、関税、関税割当。	貿易
11	生産管理、品質管理と品質基準	品質をどのように保持するか。
12	オンラインビジネス	E-コマース、SNS
13	行動規範	企業の社会的責任
14	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：文献を読む、ウェブサイト参照。グループワークに関する準備等。復習、その他：グループワークへの参加、プレゼンの準備、パワーポイント資料作成等。レポート準備。個人でレポートに仕上げる等。

【テキスト（教科書）】

テキスト：必要な文献は前もって授業支援システムで配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加とリアクションペーパー - 40%
グループワークへの参加、およびグループワークに関する発表または提出物 - 40%

個人ワーク - 20%

評価方法については初回に詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「ファッションのマーケットリサーチのやり方、販売戦略の立て方など、小売り現場の戦略の授業かと思ったら違った」「グループワークについて、指示が曖昧だった」等の意見を受け取りました。ファッション業界にはテキスタイル、アパレル、小売り、流通など様々なプレイヤーがそれぞれ違った立場で参加しています。業界の全体像を理解して、それぞれの立場において、その企業の戦略を考えられるようにしたいと考えています。授業でその点を明確に説明します。グループワークでは、できるだけ学生の自主性を重んじたいと考えています。指示が曖昧である理由を事前にはっきりと説明します。インターンシップや実務等で「企業側の指示が悪く」ても、実力を発揮できるように経験を蓄積できる場を提供します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にスマホで情報収集をすることがあります。
グループプロジェクト時にパワーポイント。予習復習にパソコン。

【その他の重要事項】

戦略的マーケティングのトピックは日本のファッションビジネスと商社の役割やその流通（グローバル・ソーシング）です。

【関連科目】

秋学期のグローバル・ファッションビジネスです。トピックは世界のファッション業界の動きと、その中の日本です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが毎日着ている衣服を扱うファッションビジネスは、どのような経緯で現在のファストファッションに代表される大きな1つのグローバルマーケットとなったのか。日本でよく見かける海外ファッションブランドは、海外でどのようなビジネスを行っているのか。ヨーロッパのクチエールから、アメリカのカジュアルチェーン店まで、様々な業態とそのビジネスモデルがどのように発展し現在に至ったかを学びます。そのうえで、現在活躍する企業がおかれている背景を理解することが目的です。

【到達目標】

世界のテキスタイル・アパレル産業は 20 世紀に大きな変化を続けました。20 世紀後半にアメリカを中心として広がってきたグローバルビジネスと 21 世紀に入ってからグローバルビジネスは似ているようで違っています。ヨーロッパ、アメリカ、日本やその周辺国がどのようにかわりあって現在のファッションビジネスが成り立っているのか。各国の現状やサプライチェーンの仕組み、貿易に影響を与える国の方針を理解し、今後、世界のファッションビジネスを牽引していく企業戦略について学生自ら考えられるようになることが目標です。

【授業の進め方と方法】

トピックを分けて、講義、グループワーク、ディスカッション、個人ワークを行います。リアクションペーパー、プレゼンテーション、小レポートなどテーマに合わせて取り入れます。都合がつけば、実務家を招いて講演をお願いしたいと思います。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コース概要。 春学期の復習
2	20 世紀のアメリカのファッション業界。	Levi's, Macy's, GAP
3	アメリカの脅威としての日本。憧れのヨーロッパ。	アメリカの市場拡大。海外脅威に対するアメリカ業界団体の対応。
4	アメリカのファッションブランド。取扱商品の変遷とプロモーション。	法律、貿易協定、Tariff & Quotas 歴史。Abercrombie & Fitch, Victoria's Secret, Forever 21.
5	安いものを買いたい小売企業と、良いものをそれなりの値段で売りたい製造者。	法律、貿易協定、Tariff & Quotas 世界の中の日本
6	ヨーロッパの影響	ヨーロッパ流行ファッションの影響を受けるアメリカ、日本
7	ヨーロッパ高級ブランドの歴史、戦略	高級バッグブランドの戦略。Gucci & Prada
8	ヨーロッパブランドとのライセンス契約	ライセンス契約。特許。トレードマーク、知的財産。
9	様々な地域からのグローバルソーシングと様々な地域での販売	イスラムファッション。グローバルビジネスの拡大。
10	ファストファッション	Inditex, H&M
11	ファストファッション企業の社会的責任と環境問題	Inditex, H&M. Sweatshop, Codes of Conduct and Factory Auditing. Product Lifecycle.
12	キャリア（採用）	採用情報から見る職場、職種、日本との比較
13	生産国としての中国、東南アジア、東欧、アフリカ、南アメリカ他。	なぜ、海外から調達するのか。
14	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：文献を読む、ウェブサイト参照する。グループワークに関する準備等。復習、その他：グループワークへの参加、プレゼンの準備、パワーポイント資料作成等。レポート準備。個人でレポートに仕上げる等。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は前もって授業支援システムで配布します。ホームページ閲覧の企業も事前に連絡します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加とリアクションペーパー - 40%
グループワークへの参加、およびグループワークに関する発表または提出物 - 40%
個人ワーク - 20%
評価方法については初回に詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「普通の授業と違って何をやっているかよくわからなかった」という意見を受け取りました。

実務家から教員となりましたので、その利点を生かせる授業をしたいと考えます。企業では言われたことを卒なくこなすだけでは十分な評価はされません。自ら考え、問題点を見つけ、周りの人とコミュニケーションをとって改善していくということを、ファッション業界という授業の中で学べるようにしたいと考えています。授業中にこの目的について、詳しく説明するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にスマホで情報収集することがあります。
グループプロジェクト時にパワーポイント。予習復習にパソコン。

【その他の重要事項】

グローバルファッションビジネスのトピックは世界のファッション業界の動きとその中の日本です。

【関連科目】

春学期の戦略的マーケティングです。トピックは日本のファッションビジネスと商社の役割やその流通（グローバル・ソーシング）です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不正会計が社会的に問題化し、法廷会計学を修学することが急速に不可欠となってきた。学生は、財務諸表の不正を検出、測定、防止する手法、発見した不正を解決するのに必要なスキルを修得する。本科目で、不正の理論、財務諸表の不正スキーム、マネー・ロンダリングなど学修する。

【到達目標】

- 法廷会計学の意義を学修する。
- 不正あるいは不実な財務諸表を防止、検出する手法を修得する。
- 法廷会計学において必要な法的知識を学修する。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で Power Point ですすめられる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・法廷会計学の概要	第 1 章では、法廷会計学の定義および現在の法廷会計学が創成されるまでの会計の歴史を修学する。また、会計実務、会計研究および法廷・捜査会計が並行して展開してきたこれまでの歩みを理解する。
第 2 回	会計学と監査、法廷会計学との関係性	会計学、監査の概要を述べてから、法廷会計学は既存の専門領域とどのような関連性があるのかを理解する。
第 3 回	連結貸借対照表データ	連結貸借対照表データを入手し、解釈することができる。
第 4 回	連結損益計算書データ	連結損益計算書データを入手し、分析することができる。
第 5 回	連結キャッシュ・フロー計算書データ	連結キャッシュ・フロー計算書データを入手し、検証することができる。
第 6 回	財務報告の不正	第 3 章では、財務諸表における不正スキーム、いくつかの財務上の不正リスクファクター、ホワイタカラーによる犯罪について理解する。
第 7 回	不正の検出	第 4 章では、財務報告に関わる専門家の異なる役割および責任、主要な種類の財務諸表における不正、財務諸表の不正に対処する際における法廷会計専門家の役割を学修する。
第 8 回	従業員の不正	第 5 章では、従業員が犯す多くの不正の内容を分析、理解し、従業員の不正を防止するさまざまな方法や対策について学ぶ。
第 9 回	間接的に所得を推測する調査方法	第 6 章 米内国歳入庁 (IRS) によって用いられる調査方法を理解し、これらの調査方法の重要性と応用について考え、民間企業の法廷会計士がどのように IRS の調査方法を利用できるかを学ぶ。
第 10 回	マネー・ロンダリングー国境を超える資金の流れー	第 7 章、マネー・ロンダリングの犯罪、マネー・ロンダリングの追跡調査、防止対策について学ぶ。また、法廷会計士業務の特徴、調査プロセス、不正と事務ミスの違い、データマイニング・ソフトウェアの機能を学ぶ。
第 11 回	訴訟サービス	第 8 章 訴訟サービスを遂行するための行動基準、専門家証人であることの意味、専門家証人としての資格を得る方法、法廷における証言の注意事項、専門家証人が証言で信用を勝ち得る状況を学ぶ。
第 12 回	適正な証拠管理	第 9 章 証拠規則と訴訟コンサルタントとしての仕事の重要性、会計士とクライアントとの意思疎通の保護および保護のための段階、証拠の整合性と裁判における証拠の忍容性、証拠を収集するために法廷会計士にとって役に立つ技術を学ぶ。
第 13 回	商業上の損害	第 10 章では不正会計と事業上の混乱などによる商業上の損害を学ぶ。商業上の損害には、契約上の争い、製造物責任、商標、特許などが含まれている。
第 14 回	学生による発表	不正の事例について発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスで示された授業で実施する内容についてテキストの章をあらかじめ読んでおく。

【テキスト（教科書）】

中島真澄・正田繁監訳『法廷会計学』（原著:Crumbly, D.L., E.D.Fenton, Jr., G. S. Smith, and L.E.Heitger. 2017. Forensic and Investigative Accounting, 8th edition, CCH(Commerce Clearing House).

【参考書】

Crumbly, D.L., E.D.Fenton, Jr., G. S. Smith, and L.E.Heitger. 2017. Forensic and Investigative Accounting, 8th edition, CCH(Commerce Clearing House).

【成績評価の方法と基準】

クラスへの貢献 40%、プレゼンテーション 10 %、レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため、実績なし

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

科目のカリキュラムの中の位置づけ（関連科目）：当該科目は、会計学、財務会計、監査論と関連している。「法廷会計」は、会計や監査の基礎的な知識が前提にあると理解しやすいが、そのような前提がなくても授業で補足説明しながらすすめていくので、安心して受講されたい。

三澤 一文 教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トヨタが考える理想の車は、孫悟空の「きんと雲」です。今日のトヨタ自動車を築いた豊田英二氏が、理想の車のイメージとして挙げた「きんと雲」は、ものすごいスピードで目的地に着きながら、環境を汚さない、究極の省エネ、そして安全な理想的な乗り物です。このような一般人の想像を絶する理想をめざすことが、日本の「ものづくり」の社会的使命のひとつです。一方、日々のビジネスの競争は、ますます、厳しくなっています。いずれの業界も、コスト競争、スピード競争は激烈です。とくに、日本企業にとって、かつての欧米企業へのキャッチアップ一辺倒の時代は終わり、新興国からの追い上げに負けないようにしなければいけないのが実情です。

本授業は、「きんと雲」のような「理想主義」と、企業の現場での「現実主義」の間での「ものづくり」の葛藤を適切にマネジメントする考え方と方法を習得することが目的です。

【到達目標】

企業の現場にとって、「価格競争に陥らないような独創的な製品を開発したい」「製品開発のスピードで他社より勝りたい」「コスト競争力をもっと上げたい」「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった現実の要望に応えられる考え方や方法論がたいへん重要です。しかし、無理に「ものづくり」のスピードを上げると品質が落ちてしまったり、また、製品の訴求力にこだわり過ぎるとコスト競争に勝てなくなったりします。現実「ものづくり」を成功させるには、相反、矛盾するこれら複数の要望のあいだでの微妙なバランスが欠かせません。本授業を受講することで、以上のような、企業のものづくりの現場で実際に起きている典型的な問題とその原因を理解し、さらにそれらの問題の解決方法を習得し、他の様々な問題解決に応用できるようになります。

【授業の進め方と方法】

講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	なぜ、あの有名企業は「ものづくり」に失敗したのか？
2	なぜ「ものづくり」にマネジメントが必要なのか？	グローバルな経営潮流と新デジタル技術への取り組みの重要性
3	問題解決型「ものづくり」の重要性	独創性、スピード、コスト、品質のバランス追求
4	なぜ企業は不毛な値引き競争に陥るのか？	コモディティ化のわな、事例紹介
5	脱コモディティの戦略	ブラックボックス戦略、ニッチ戦略、などの事例紹介
6	なぜ企業は商品開発に失敗するのか？	スニーカーゲームの負け組企業の事例紹介など
7	ヒットする「ものづくり」の方法	商品・技術・製品の三つの開発プロセスの連携管理
8	なぜコストダウンは思うようにできないのか？	見えるコストと見えないコスト
9	コストは改善・改革・革新の三位一体で削減	企業事例紹介
10	日本企業はこれからも品質競争で勝てるのか？	そもそも品質の考え方や定義が従来と変わった
11	予期せぬ問題や不具合の発生を防ぐ方法	人間系とIT系の連携、事例紹介
12	「ものづくり」の二律背反問題は？	企業事例紹介
13	これからの新しい「ものづくり」とは？	AI、IoT、3Dプリンティング、ロボット、拡張現実（AR）などの新技術の活用
14	授業内レポート	本授業で学んだ内容をベースに、気づいたことや、今後、自分なりに応用したいことなどを考察と私見を含めて、できるだけ具体的にレポートしてください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トヨタでは「ものづくり」の根本は「人づくり」にある、とされています。単なる技術的な「モノづくり」は単発で一過性のヒット商品に終わる可能性が大ですが、トヨタのように、事務系、技術系を問わず、すべての人が共通の心がけと心構えで、日々の問題解決に努めることができるようになれば、その仕事の進め方やスキルは将来のいかなる業界、業種でも活かされるはずで、本授業でも、「ものづくり」と「人づくり」の両方の視点から講義をします。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します。

【参考書】

三澤一文 『技術マネジメント入門』日本経済新聞出版社（2007年）、830円＋税

本書の巻末189頁の「より深く理解するためのブックガイド」も参考書として利用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出含む）75点

授業内レポート 25点

【学生の意見等からの気づき】

本年度の授業からAIやロボット、IoTなどを活用する最新のものづくりの考え方を追加します。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

【関連科目】

「問題解決技法入門」です。また、AIやロボット、IoTなど新技術の経営への応用に関する英語授業での関連科目は **Workshop II**（GBP科目）です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学イノベーション・マネジメント研究センターが流通・外食産業の有力企業の協力を得て開設する、チェーンストア経営に関する自主企画・寄付講座です。チェーンストアは戦後日本の流通・サービス業の産業化を推し進め、豊かな消費社会の実現に貢献してきました。そのチェーンストア経営の手法を講義します。

【到達目標】

小売業や外食産業のチェーンストア経営を通して経営の実際を深く理解することです。講義は有力企業から派遣された実務家が行うので、生きた事例研究であると同時に、就職活動の一環として企業研究を行うという視点での履修も可能です。

【授業の進め方と方法】

実務家が外部講師として講義を行います。各回のテーマや担当講師名・所属会社は春学期末までに掲示します。参考までに、前回開講された 2016 年度のテーマ、担当講師名・職位・所属会社を【授業計画】に記載しておきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	コーディネータ（法政大学・教授・横山斉理）が講義の目標と体系などについて説明します。
2	チェーンストア経営の基本	チェーンストア経営の基本を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社日本リテイリングセンター・リサーチディレクター・渥美六雄様
3	市場戦略Ⅰ	市場戦略の事例を学ぶ （参考：2016 年度）イオンベッ株式会社・代表取締役社長・小玉毅様
4	市場戦略Ⅱ	市場戦略の事例を学ぶ （参考：2016 年度）コーネル大学 RMP ジャパン・プログラムディレクター・大塚明様
5	店舗マネジメント	店舗マネジメントの事例を学ぶ （参考：2016 年度）サミット株式会社・執行役員・橋本吉彦様
6	販売促進戦略Ⅰ	販売促進戦略の事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社良品計画・WEB 事業部長・川名常海様
7	販売促進戦略Ⅱ	販売促進戦略の事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社ライフコーポレーション・営業推進本部長・後藤勝基様
8	マーチャンダイジングの革新	マーチャンダイジングの事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社成城石井・執行役員・早藤正史様
9	SPA 事業の経営	SPA 事業の事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社ファーストリテイリング・グループ上席執行役員・國井圭浩様
10	情報システムの革新	情報システム革新の事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社セブン&アイ・ホールディングス・シニアオフィサー・岩淵隆之様
11	ロジスティクス戦略	ロジスティクス戦略の事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社カインズ・役員待遇ロジスティクス部長・石崎清志様
12	人材育成	人材育成の事例を学ぶ （参考：2016 年度）株式会社ニトリ・執行役員・安孫子尋美様
13	フランチャイズビジネス論	フランチャイズビジネスの事例を学ぶ （参考：2016 年度）タニザワフーズ株式会社・開発チーム・河本智規様
14	小売業態論	小売業態論の考え方や理論を学ぶ （参考：2016 年度）法政大学・教授・横山斉理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をより深く理解するために以下の点を心がけてください。

- ①新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどのメディアで報道される商品やサービスについてのニュースを普段から意識しておく。
- ②日ごろから消費者として利用している店舗やサービスについて注意深く観察しておく。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

履修者数等を参考に開講時に示します。

平常点（40 %）とレポート（60 %）を中心に評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

企業の方を学外からお迎えするので、失礼のないよう、十分気をつけてください。服装や遅刻など、社会人の方からどう見えるのかを想像し、相手の基準に合わせるようにしましょう。それが相手に対する敬意の表れとなります。

【その他の重要事項】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、関連科目を積極的に履修してください。

Daniel Z DING

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to prepare students for understanding China, Chinese society, doing businesses in China, and China's roles in the modern world. The course covers the social and business institutions of China, the importance, contributions and impacts of China and Chinese firms to the globalizing world. Through this course, students will appreciate the importance of knowing China, and acquire the knowledge of social behaviours of Chinese and business practices in modern China.

【到達目標】

Objectives of this course are:

This course provides fundamental knowledge of market development in China. This course will focus on understanding and practices of frameworks and theories of (1) social and business development in China; (2) the transitions of Chinese values, society and business organizational settings; (3) national challenges in structural change; (4) international strategic alliances and cooperation in China; (5) Chinese administration and business management; and (6) Chinese business culture and etiquette.

【授業の進め方と方法】

Various concepts, perspectives and illustrations of China's role in modern world, and the business and social institutions, practices and behaviours of Chinese will be explained through lectures. Case studies and videos will be shown to the students to stimulate class discussion.

Students are required to collect information about Chinese institutions and practices through reading articles and website materials, and observing Chinese business and social behaviours. These observations and findings will be discussed orally in the class.

Based on selected case companies, student groups (a team of three or four students) will present their market development plans to the class. Written reports are required to submit by the end of the semester.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
Week 1.	An introduction to Market Development in China	Course overview
Week 2.	Social institutions in China	Political and social environments in China
Week 3.	Chinese consumers and market segmentation	Chinese consumer behaviours and market segmentation approaches
Week 4.	China's economic reform: The transitions to market economies	The transition process from centrally planned economy to market economy
Week 5.	Market entries of foreign firms in China	Entry mode selection strategy for Chinese Market
Week 6.	Product strategy for Chinese	Standardization versus customization; new product development in China
Week 7.	Pricing and promotion in China	Approaches for product pricing and promotion
Week 8.	The internationalization of Chinese enterprises	Drives and process of globalization of Chinese multinational companies
Week 9.	The current status and development trends of Chinese economy	Analysis of current issues and future roles Chinese economy
Week 10.	Student group project presentations ①	Presentation of the assigned project

Week 11.	Student group project presentations ②	Presentation of the assigned project
Week 12.	Student group project presentations ③	Presentation of the assigned project
Week 13.	Student group project presentations ④	Presentation of the assigned project
Week 14.	Student group project presentations ⑤	Presentation of the assigned project

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the assigned core readings.

【テキスト（教科書）】

Required Resources:

Required readings for each week are posted at the course website.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

This is a summary of the assessment for the course.

Class Participation 20%

Individual essay 30%

Group project 50%

In-class Participation (20%)

Students will be assessed on their performance in in-class discussion forums. Topics include theories of China's role in global economy, emergence of Chinese companies, major concepts of Chinese social and business practices and behaviors, and their application in real life business situations.

Individual Essays (30%)

Students are required to submit a short essay on assigned topic. Topics for essay include exploration of Chinese institutions, business strategies for competing in Chinese market, and observations of social and business practices as well as Chinese behaviors.

Group Project (50%)

Individual groups are required to present to the class a market development plan for a selected case company, accounting for 20% of evaluation. The presentation is to assess students' competence level to apply the learned concepts and knowledge, as well as their communication and presentation ability. Final written reports account for 30% of evaluation.

【学生の意見等からの気づき】

This course is being held for the first time.

【関連科目】

None.

Daniel Z DING

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course adopts an interdisciplinary perspective in understanding the major issues of international marketing within the context of global markets. The course analyzes marketing strategies of successful concurrent multinational companies, with a focus on environmental analysis; foreign market evaluation and selection; and market entry modes. Given the fact that emerging markets and competitive firms from those markets have been playing an increasing important role in reshaping the nature of global competition fundamentally, the course highlights various marketing issues related to the emerging markets. Last but not least, the course discusses how multinational corporations develop global sustainable marketing strategy, as companies realize that they must consider the impact of their decisions and policies on a wide range of stakeholders beside their shareholders.

【到達目標】

Objectives of this course are:

1. To understand international marketing concepts and theories;
2. To assess and analyze information about macro- and micro-environment and their relevance to international marketing with particular reference to emerging markets;
3. To make critical evaluation of international marketing strategies in a global environment;
4. To analyze and evaluate ethical issues of international marketing, so as to help companies develop global sustainable strategies;
5. To develop advanced communication skills through the learning process offered in lectures, discussions and the assignment.

【授業の進め方と方法】

This course will be delivered in weekly 100 minutes session over 14 weeks. Each lecture will be centred around a specific topic. Students' engagement is expected during the lectures.

Students will work as a team of 3-4 on an a case study. In Week 14, all groups will present their plans to the class. Details regarding the group project will be announced in lecture.

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Course Orientation: Introduction to International Marketing (chapter 1)	Course overview
Week 2	International Cultural Environment (chapter 4)	Elements of culture Culture and marketing mix
Week 3	International Political and Legal Environment (chapter 5)	Political environment and social pressures International law and local legal environment
Week 4	International Marketing Research (chapter 6)	Managing international marketing research Market size assessment
Week 5	International Segmentation & positioning (chapter 7)	International market segmentation approaches International positioning strategies
Week 6	Global market entry strategies (chapter 9)	Country selection Mode of entry
Week 7	Mid-term exam	Mid-term exam
Week 8	International product strategy I (chapter 10)	Standardization versus customization Developing new products in the global marketplace
Week 9	International product strategy II (chapter 11)	Global branding strategy
Week 10	International Pricing strategy (chapter 12)	Drivers of foreign market pricing Transfer pricing
Week 11	International marketing communication (chapter 13)	Global advertising and culture Globally integrated marketing communications
Week 12	International Distribution strategy (chapter 15)	International distribution strategy Managing sourcing strategy
Week 13	Sustainable Marketing in the global marketplace (chapter 20) Course Review	Marketing ethics and sustainable marketing Course Review
Week 14	Group Presentation on Case Study	Presentation of the assigned project

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the relevant part of the textbook.

【テキスト（教科書）】

Kotabe, M. and Helsen, K. (2018) Global Marketing Management 7th International Edition, John Wiley & Sons: Hoboken, New Jersey.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

This is a summary of the assessment for the course.

Class Participation 25%

Mid-term exam 25%

International Marketing Strategy Case Analysis (oral) 50%

Assessment 1: Class Participation (25%)

Class participation is assessed based on students' active participation in discussion and in-class exercises. Mere attendance is not participation.

Assessment 2: Mid-term exam (25%)

Mid-term exam (50 Multiple choice questions) will be used to test students' understanding of the knowledge covered in the lectures 1-5.

Assessment 3: International Marketing Strategy Case Analysis (oral) (group) (50%)

Case study assists students in developing the fundamental links between theoretical knowledge and its application in practice. Cases describe a particular problem, which requires identification, analysis, and resolution. Students need to work in a group of 3-4 students, and are required to select one case study topic provided in the prescribed textbook to do an oral presentation on the case analysis. The oral presentations should not exceed 30 minutes, including the facilitation of an interactive discussion of five-ten minutes. Students are expected to conduct the presentation in a professional manner. Detailed assessment criteria will be announced in lecture.

【学生の意見等からの気づき】

This course is being held for the first time.

【関連科目】

None.

ジェームス・ラセガード 教授

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Intercultural Communication and adjusting to life in a foreign country

【到達目標】

The aim of this course is to help students to prepare for their Study Abroad (SA) studies at the University of Nevada (Reno) and the University of Monash (Australia). Students gain self-confidence using English as a means of communication and learning while studying useful intercultural and social skills that are necessary for a successful study life in a foreign country.

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities emphasizing all four skills of reading, writing, listening, and speaking. These activities include pair and group work and class presentations. The class is highly interactive, and the overall class atmosphere is somewhat informal. The students are expected to speak only in English throughout the course.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course orientation; Unit 1 Identity	Self-introductions. Explanation of course guidelines. Textbook readings and listening activities.
2	Identity Part 2	Discussion: cultural differences. Essay #1 due.
3	Unit 2 Values	Readings, questionnaire and discussion.
4	Unit 3 Culture Shock	Readings and discussion.
5	Unit 1-3 Review	Midterm test & Student Presentations #1.
6	Unit 4: Culture in Language	Readings and discussion of the close relationship between culture and language.
7	Unit 5 Body Language & Customs.	Readings and discussion of non-verbal communication.
8	Unit 5 Body Language and Customs.	Readings and discussion of non-verbal communication.
9	Unit 8 Communication Styles	Readings, listening & discussion.
10	Unit 8 Communications Styles part 2	Readings; discussion activities.
11	Unit 10 Diversity	Readings; listening
12	Diversity part 2	Readings and discussion. Essay #2 due.
13	Unit 11 Social Change	Readings and Discussion
14	Social Change part 2	Student presentations and wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come prepared to class each week by doing the readings and homework in advance, looking up unfamiliar vocabulary, writing the assigned essays, etc.

The student should also listen to the audio CD included with the textbook BEFORE class each week. Late work will not be accepted unless there is a good reason (illness, emergency).

【テキスト（教科書）】

Identity. Oxford University Press ISBN 0-19-438574-4

【参考書】

For self-study of grammar points, please refer to: Raymond Murphy. Grammar in Use Intermediate with Answers 2nd edition). Cambridge University Press. ISBN-13 978-0521625982

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed on their class participation (15%), homework, presentations, tests and quizzes, writing assignments, etc.(85%).

Any student who misses more than three classes without a reasonable excuse will not receive credit for this class.

If the student is absent, homework (including essays) must be turned in to the instructor and exams must be made up before the next class.

The instructor must receive a message by e-mail, a written note, or in person no later than the following week in case of absence.

【学生の意見等からの気づき】

A number simulations and roleplays are added to the curriculum to give students practice dealing with real situations and problem-solving related to the study abroad setting.

【学生が準備すべき機器他】

Audio-visual equipment will be used as appropriate.

【その他の重要事項】

Important note on taking this course:

This course is designed for students in the Faculty of Business Administration who will participate in the SA program in 2018, other students may enroll in the course on a limited basis with the permission of the instructor.

Note: Students' oral communication ability will be assessed both before and after the study abroad.

プログラミング言語Ⅰ（C言語コース）	選択<情報関係>	1～4年次／2単位 [春学期授業]
プログラミング言語Ⅱ（C言語コース）	選択<情報関係>	1～4年次／2単位 [秋学期授業]
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（C言語コース）	選択<情報関係>	1～4年次／4単位 [年間授業]

飯塚 康至 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

楽しくプログラミングを行いプログラミングスキルを身につけることをテーマとしています。そしてプログラミングを通じて論理的思考を身につけて行きましょう。

春学期はプログラムが動作する仕組みから、変数の基礎、条件分岐と繰り返しなどプログラミングの基礎となる知識を学び、身につける事を目的とします。

秋学期は春学期の知識をもとにアルゴリズムや GUI のプログラムの作成を通じ、グラフィカルなプログラムを作成できるようになることを目的とします。

【到達目標】

下記を授業の到達目標とします。

1. 自発的に楽しくプログラムを作成できるようになる
2. 論理的な思考を身につけプログラム以外にも応用できるようになる

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

1972年に誕生したC言語はその自由度の高さから現在までに最も利用されているプログラム言語です。C言語はその後の言語であるC++、Java、C#といった言語に大きな影響を与えました。さらにPerlやPHPといったスクリプト言語はC言語で作成されています。このようなC言語を学ぶことにより、プログラムとは何か、プログラム言語とは何かを学んでいきます。またアルゴリズムも学びプログラムを組む上での論理的な思考を身につけて行きます。

【授業の方法】

授業の最初に本日の狙いと目指すところを説明します。その後、資料をもとに内容を説明し、プログラムを見ながら理解を深めます。後半は自分でプログラムを組み、実際に動作を確認します。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
(1)	C言語の特徴	C言語の特徴と環境について学びます。
(2)	変数と画面への表示	変数を利用して画面へ表示する方法について学びます。
(3)	簡単な計算	演算子を利用して簡単な計算を行います。
(4)	キーボードからの読み込み	キーボードからの入力を読み込む方法について学びます。
(5)	条件分岐	条件によって処理を分岐する方法について学びます。
(6)	繰り返し	処理を繰り返す方法について学びます。
(7)	配列	たくさんの値を扱う方法について学びます。
(8)	文字列の扱い	文字列配列を利用した文字列の扱いについて学びます。
(9)	ポインタの利用 1	変数や配列のポインタについて学びます。
(10)	関数	関数を利用したプログラムの小分けの方法について学びます。
(11)	構造体	データをまとめる構造体について学びます。
(12)	ポインタの利用 2	関数や構造体のポインタについて学びます。
(13)	ファイルの入出力	ファイルへの読み書きについて学びます。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

II 秋学期

回	テーマ	内容
(1)	グラフィカルユーザー・インタフェースアプリケーション（GUI）の基礎	GUIアプリケーションの基本構造について学びます。
(2)	グラフィックの描画	グラフィックを描画する方法について学びます。
(3)	アニメーション 1	図形をアニメーションさせる方法について学びます。
(4)	アニメーション 2	たくさんの図形をアニメーションさせる方法について学びます。
(5)	条件分岐	一部の図形のみことなる図形にする方法について学びます。
(6)	関数の作成と利用	命令をまとめて効率よく図形を描く方法について学びます。

(7)	配列の利用	効率よくたくさんの図形を動かす方法について学びます。
(8)	構造体の利用	構造体を利用して図形を定義する方法を学びます。
(9)	構造体と関数	ポインタを利用してデータのやり取りを行う方法について学びます。
(10)	イベント	キーボードから図形を動かす方法について学びます。
(11)	ゲームプログラミング 1	シューティングゲームを作成します。ここでは自機と敵の動かし方を学びます。
(12)	ゲームプログラミング 2	自機から弾を打つ方法について学びます。
(13)	ゲームプログラミング 3	自機や敵、弾との当たり判定をどのようにプログラミングを行うか学びます。
(14)	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた結果は実際にプログラミングし検証しましょう。

【テキスト（教科書）】

1. 初級 C 言語—やさしい C（筧 捷彦 実教出版 ISBN-10: 4407320893）
※授業はテキストがなくても大丈夫なように進めますが書き込みや進行上あったほうが望ましいです。

【参考書】

最新の話題とともに適時授業中にて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 %、提出課題 50 % の総合評価とします。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングを利用するシステム業界やシステム開発の話も交え、実践的でシステム業界に就職した場合に役に立つような話をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】

春学期は言語基礎となるため、難しく退屈と感ずる場合があります。私語等を含め、授業に参加していないものは退席させる場合があります。コピー&ペースト等、自己努力していないものは評価しない場合があります。

1. 座席は毎回ランダムに指定します
2. システムを利用し、授業参加のエビデンス（画面キャプチャ等）を毎回提出してもらいます

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（b コース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

プログラミング言語Ⅰ（C言語コース）	選択<情報関係>	1～4年次／2単位 [春学期授業]
プログラミング言語Ⅱ（C言語コース）	選択<情報関係>	1～4年次／2単位 [秋学期授業]
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（C言語コース）	選択<情報関係>	1～4年次／4単位 [年間授業]

寺脇 由紀 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。

またプログラミングを学習することを通じて、コンピュータという機械の正体、プログラムの正体といった、コンピュータの本質的な側面を理解していきます。

【到達目標】

C言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。

C言語による学習を通じて、コンピュータの本質的な側面を理解する。

【授業の進め方と方法】

C言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、基礎的なデータ構造を理解します。

講義と実習によって進めます。

一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC上で挙動を確認します。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第2回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第3回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第4回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。
第5回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第6回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第7回	ユーザの入力の読み込み	ユーザからの入力を読み込む方法を学びます。
第8回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第9回	条件分岐	if文による条件分岐の書き方を学びます。
第10回	複雑な条件分岐	switch文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第11回	回数が決まっている繰り返し	for文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第12回	回数がわからない繰り返し	while文による繰り返し処理を書く方法を学びます。
第13回	関数の呼び出し	関数とその呼び出し方を学びます。C言語の標準関数を使ってみましょう。関数を自身で定義する方法を学びます。
第14回	関数の作成	

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	変数の寿命	関数を習得すると、変数の扱いが変わってきます。プログラムを部品にするために重要な概念を解説します。
第16回	複数の変数を一括して扱う	たくさんの変数をまとめて計算に使う方法を解説します。
第17回	文字列の基礎	文字列の扱い方の基礎を学びます。
第18回	文字列の活用	より複雑な文字列処理をする方法を学びます。
第19回	配列の基礎	より複雑なデータを扱うことができるようになることを目指します。第一歩として、配列の扱い方の基礎を学びます。
第20回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第21回	構造体の基礎	構造体の定義の仕方とその使い方の基礎を学びます。
第22回	構造体の活用	構造体を使ったより複雑なプログラミングについて学びます。

第23回 ポインタの基礎

ポインタについて学びます。ポインタは、C言語において難しいといわれる項目ですので、着実に理解していきましょう。

第24回 ポインタの活用

第25回 複数の型の扱い

ポインタの活用法を学びます。種類の異なる変数をまとめて計算に使う方法を解説します。

第26回 ファイルからの入力

第27回 ファイルへの出力

ファイルの内容を読み込む方法を学びます。データをファイルに書き込む方法を学びます。

第28回 まとめ

総括をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。

しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。

授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業終了後に電子的に配布します。

【参考書】

株式会社アंक著、Cの絵本 第2版 C言語が好きになる新しい9つの扉、翔泳社、2016、ISBN-10: 479815038X。

David Griffiths, Dawn Griffiths 著、中田秀基監訳、木下哲也訳：Head First C-頭とからだで覚えるCの基本-、オライリージャパン、2013、ISBN-10: 4873116090。

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。B.W.カーニハン、D.M.リッチー著、石田晴久訳：プログラミング言語C第2版、共立出版、1989、ISBN-10: 4320026926。

【成績評価の方法と基準】

主に授業中の課題やレポートで総合的に評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、多くの学生から好評だったため、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習と講義を併用します。実習教室のPCを使います。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

私語等を含め、授業に参加していないものは退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価しない場合があります。

【関連科目】

特になし。

【オフィスアワー】

授業に関する相談は、授業時間の終了時に受け付けています。

8

選択

プログラミング言語Ⅰ（COBOL コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／2 単位 [春学期授業]
プログラミング言語Ⅱ（COBOL コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（COBOL コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／4 単位 [年間授業]

根岸 良征 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

COBOL は最も古くから利用されている事務処理用プログラミング言語である。1960 年代以降、企業経営を支える基幹業務システムを開発するために使われており、現在でも IT 社会の根幹を支えるシステムの多くで COBOL のプログラムが動いている。この授業では、COBOL の基礎機能を取りあげ、COBOL を利用したプログラミング技能を習得しつつ、コンピュータでの事務処理の考え方を理解できるようにする。さらに、企業経営と IT の関わりについても考察する。

【到達目標】

Windows でのプログラミング実習環境に慣れることから始め、COBOL 文法の基礎を理解する。プログラミング実習を通して、データ型や基本的なファイル入出力処理、データ構造、アルゴリズムの実現方法を理解し、簡単な事務処理プログラムを作成できること、および基本情報技術者試験（経産省国家試験）の COBOL 問題に向けての学習の導入をスムーズにできるレベルを目指す。

【授業の進め方と方法】

配布する資料を用いて授業を進める。解説と実習を適宜おりまぜながら、個別の理解度に応じて進めていく。毎回の授業中に、演習課題を完成させるようにする。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	COBOL 言語について 授業内容と授業方法について プログラム、プログラミング言語とは？
2	COBOL の基礎知識	エディタ、Cygwin、OpenCOBOL の使い方 基本的な COBOL 文法 簡単な COBOL プログラム作成
3	データ項目の定義	COBOL で扱えるデータの種類と定義方法 作業域を使用したプログラムの作成
4	数値データと計算 1	四則演算プログラムの作成
5	数値データと計算 2	変数を利用したプログラムの作成
6	データの転記 データ交換	転記のされ方と編集項目の指定方法 データ交換プログラムの作成
7	条件による処理の制御 1	IF 文と条件式 IF のネストを使用したプログラムの作成
8	条件による処理の制御 2	EVALUATE 文を使用した多重分岐プログラムの作成
9	処理の繰返し 1	指定回数だけ処理を繰り返すプログラムの作成
10	処理の繰返し 2	条件により処理の実行制御プログラムの作成
11	表操作 1	表の定義と添字 データの再定義 表を参照するプログラムの作成
12	表操作 2	指標付票の定義と利用 逐次表引きプログラムの作成
13	これまでの復習	まとめ講義と復習問題演習
14	期末試験（課題レポートの作成）	課題プログラム作成と提出

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	ファイル操作 1	ファイルの定義と使用方法 ファイル作成プログラムの作成
16	ファイル操作 2	データ項目の修飾とデータ転記 ファイル読み込みプログラムの作成
17	ファイル操作 3	ファイルの読み込みと書き出しプログラムの作成
18	ソート 1	ソートファイルの使用方法
19	ソート 2	ソートを利用したプログラムの作成
20	コントロールブレイク 1	グループコントロールの考え方 コントロールブレイクプログラムの作成 1
21	コントロールブレイク 2	コントロールブレイクプログラムの作成 2
22	コントロールブレイク 3	ソートと組み合わせたコントロールブレイクプログラムの作成
23	マッチング 1	マッチング処理の基礎 1 対 0、1 対 1 マッチング処理プログラムの作成 1

24	マッチング 2	1 対 0、1 対 1 マッチング処理プログラムの作成 2
25	マッチング 3	1 対 n マッチング処理プログラムの作成 1
26	マッチング 4	1 対 n マッチング処理プログラムの作成 2
27	これまでの復習	まとめ講義と復習問題演習
28	期末試験（課題レポートの作成）	課題プログラム作成と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内に課題を完成できなかったときは、次回授業時までに完成させる。復習では授業で作成したプログラムと同じプログラムを作成し、プログラムの動作を説明できるようにする。

【テキスト（教科書）】

授業で配布するプリントを使用

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

質問を行うなど積極的な参加・平常点（35 %）と提出された課題（40 %）、および試験・最終課題レポート（25 %）により総合的に判断する。連絡なくしての連続欠席 4 回以上の場合、または全授業回数の 1/3 以上の欠席（公欠を除く）の場合には単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングは難しいと感じる学生が多いので「達成感があって面白い」と感じてもらえるような授業にしたい。個別の質問に応じるので、理解が難しい箇所は気軽に質問してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室内の PC

【その他の重要事項】

基本的なコンピュータリテラシを身につけていることが望ましい。プログラムを作成してみたいという意欲がある人、論理的に考えることが楽しい人を特に歓迎する。毎回の授業で作成したプログラムを理解するように努め、わからなかったことは積極的に質問し、疑問点を解決するようにしてほしい。授業は個別の進捗に応じてステップバイステップで進める。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ（BASIC コース） 選択<情報関係>
 プログラミング言語Ⅱ（BASIC コース） 選択<情報関係>
 プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（BASIC コース） 選択<情報関係>

1～4 年次／2 単位 [春学期授業]

1～4 年次／2 単位 [秋学期授業]

1～4 年次／4 単位 [年間授業]

児玉 靖司 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) について学ぶ。最初に Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】

表計算ソフトウェア Excel について理解し、マクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し、適宜プログラミングできることが望ましい。

【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般に解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。春学期にはプログラムを構成する基本要素となる式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。秋学期には、ユーザフォームを使ったアプリケーション、アルゴリズムについて説明し、比較的大きなアプリケーションまで記述できるようにする。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第 2 回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みを学ぶ。
第 3 回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第 4 回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第 5 回	標準入力	標準入力について学ぶ。
第 6 回	分岐（1）	分岐の基礎について学ぶ。
第 7 回	分岐（2）	分岐の応用について学ぶ。
第 8 回	繰り返し（1）	繰り返しの基礎について解せる
第 9 回	繰り返し（2）	繰り返しの応用について学ぶ。
第 10 回	構造化プログラミング（1）	構造化プログラミングの基礎について学ぶ。
第 11 回	構造化プログラムラミン グ（2）	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第 12 回	アルゴリズム（1）	アルゴリズムの基礎を学ぶ。
第 13 回	アルゴリズム（2）	アルゴリズムの応用を学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	簡単な例題（1）	簡単な例題を行う。
第 16 回	簡単な例題（2）	簡単な例題を行う。
第 17 回	簡単な例題（3）	簡単な例題を行う。
第 18 回	制御構造（1）	制御構造を学ぶ。
第 19 回	制御構造（2）	制御構造を学ぶ。
第 20 回	プログラムの分割と構 造化	プログラミングの分割と構造化を学ぶ。
第 21 回	配列と文字列の処理	配列と文字列の処理について学ぶ。
第 22 回	配列と文字列の処理	配列と文字列の処理について学ぶ。
第 23 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの基礎について学ぶ。
第 24 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの応用について学ぶ。
第 25 回	ユーザフォーム（3）	ユーザフォームの応用について学ぶ。
第 26 回	並び替え（1）	「並び替え」を解説する。
第 27 回	並び替え（2）	「並び替え」に関するプログラミング をする。
第 28 回	応用問題（1）	応用問題について解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料を提示するが、教科書は開講時に指定する。

【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、提出されたレポート（50%）により総合的に判断する。
 期日どおり（期限）に提出されたかも重要な判断材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートからの情報に基づき難易度を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

プログラミング言語Ⅰ（JAVA コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／2 単位 [春学期授業]
プログラミング言語Ⅱ（JAVA コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（JAVA コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／4 単位 [年間授業]

神林 靖 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングに取り組むのが初めてという人を対象にして、**Java** 言語を使ったプログラミングを初歩から並行プログラムまで丁寧に学習します。

【到達目標】

例題や練習問題で基本的な **Java** 言語の機能を理解し、それらを組み合わせて多少複雑なプログラムを作成することができる。そして“オブジェクト指向”とは何かについても理解し、説明することができる。オブジェクト指向プログラムを作成できる。更に並行処理プログラムの概念を理解し、マルチスレッドを用いた単純なプログラムを作成することができる。プログラムからファイルを扱うことができる。

【授業の進め方と方法】

(講義の概要)

オブジェクト指向という概念にもとづいたプログラミング言語 **Java** について、簡単な例題を理解して練習問題のプログラムを作成することによって、**Java** の基礎について学習します。後半では、現代のプログラミングでは避けることのできない“オブジェクト指向”についても学びます。本講義を受講するには、一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関しての予備知識は必要としません。

(授業方法)

授業は、実習室において講義と実習を行います。教科書の例題や基本的なプログラム例を説明した後、それを応用した練習問題について考え、実際にプログラミングを行うことによってコンピュータ上で動作を確認します。春学期で **Java** プログラミングに慣れて、秋学期はオブジェクト指向を用いた **Java** 言語らしいプログラミングを中心に学びます。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Java プログラムとコンピュータの関係	コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアの関係を学びましょう。
2	コンパイルと実行	人間が記述する文字列としてのプログラムをハードウェアが理解するプログラムへと変換することを学びます。併せてプログラミング環境の使い方も学びます。
3	計算してみよう	コンピュータは“電子計算機”です。コンピュータに計算をさせてみましょう。
4	変数と代入	プログラムにおける変数と、それへの値の設定について学びます。
5	入出力（1）	記述するプログラムが、どのようにして外部と情報のやり取りをするかについて学びます。
6	四則演算と型変換	プログラム上で四則演算ができるようになります。また整数と実数ではコンピュータ内部でのデータ表現が異なることを学びます。
7	プログラム構造（条件の表現）	プログラムで作業を行う際に必要となる制御（プログラムの流れ）を変化させる条件の表現方法を学びます。
8	プログラム構造（もっと細かい条件の表現）	多くの選択肢の中から 1 つを選んで実行するプログラムの構造について学びます。
9	プログラム構造（繰返し）	コンピュータに一定の作業を繰り返し行わせるためのプログラム制御構造を学びます。
10	文字列と繰返し	文字列を用いて繰返しの構造について理解を深めます。
11	クラスとメソッド（ちょっとだけオブジェクト指向）	Java 言語の基本概念であるクラスとメソッドについて学びます。
12	1 次元配列	多くのデータを保存し利用するための配列と呼ばれる構造を使えるようになります。
13	2 次元配列	行列のようなデータ表現をプログラムでどのように実現するかを学びます。
14	クラスとコンストラクタ（もうちょっとだけオブジェクト指向）	Java プログラムでは、クラスを実体化することでプログラムが生成されます。実体化のためにコンストラクタと呼ばれるメソッドが実行されることを学びます。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	Java クラスライブラリ（更にもうちょっとだけオブジェクト指向）	Java プログラミング言語には様々な関数がクラスライブラリとして備わっています。どのように構成されているか、そしてどのように利用するかを学びます。
16	これまでの復習	後半は、オブジェクト指向プログラミングについて学びます。春学期に学んだことを思い出ししましょう。
17	クラスとインスタンス	オブジェクト指向プログラミング特有の用語があります。慣れましょう。インスタンスはクラスから精製されます。
18	クラスフィールドとクラスメソッド	クラスフィールドとクラスメソッドを学ぶことで、クラスとインスタンスの違いをはっきりさせます。
19	スーパークラスとサブクラス	クラスは“拡張”することができます。拡張されたクラスがサブクラスです。
20	継承と抽象クラス	拡張するクラス（サブクラス）では、元のクラス（スーパークラス）のフィールドとメソッドが使えます。継承の方法を学びます。
21	入出力と例外処理	プログラムが外部と自由度の高い情報のやり取りを行う方法を学びます。また期待したデータと異なる入力に対処する方法（例外処理）を学びます。
22	様々な例外処理	例外には様々なものがあります。例外の“階層”を学び、全体像を理解しましょう。
23	インタフェース	インタフェースを実装することで、クラス構造に柔軟性をもたせることができます。インタフェースとは何かを学びます。
24	クラスとインタフェース	クラスとインタフェースを比較することによって、それぞれをどのような場面で使用することが効率的かを学びます。
25	ガベージコレクション	Java 言語の処理系には、“ゴミ集め”が実装されています。ガベージコレクションについて学びます。
26	スレッド	スレッドとは、プログラムを実行している主体です。スレッドの概念を学びます。
27	スレッドを作る方法 (1)	スレッドを作る方法には 2 通りあります。 Thread クラスを拡張してスレッドを生成してみましょう。
28	スレッドを作る方法 (2)	Runnable インタフェースを実装してスレッドを生成してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習は確実に各自が時間外に行ってください授業では、毎時間新しいことを学びます。出席は厳格に要求しませんが、休んだ箇所は、各自で独習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

結城浩, **Java 言語** プログラミングレッスン第 3 版 上, 下, ソフトバンククリエイティブ, 2012.

【参考書】

柴田望洋, 明解 **Java** 入門編, ソフトバンククリエイティブ, 2007.

【成績評価の方法と基準】

主として課題提出により評価します。課題はすべて提出してください。すべて提出してはじめて評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に質問してください。わからないことをわからないままにして先に進まないでください。ただし、具体的にどこがわからないかを指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

PC を用いて実習しつつ講義を行います。

【その他の重要事項】

コンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。無償で入手できる統合開発環境 **Eclipse** を用いて実習するので、自宅学習（予習・復習）可能です。学習内容を復習して、より理解を深めてください。授業中にできなかった課題は、完成しておいてください。

【オフィス・アワー】

・授業後に質問を受け付ける。
・質問がある場合は **E-mail** で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【関連科目】

特になし

プログラミング言語Ⅰ（JAVA コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／2 単位 [春学期授業]
プログラミング言語Ⅱ（JAVA コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（JAVA コース）	選択<情報関係>	1～4 年次／4 単位 [年間授業]

北澤 具子 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java 言語によるプログラミングが初めてである学生が初歩から学習し、Java 言語の基本的な機能を理解し、それを応用して簡単なシステムを作成できるようにすることを目的とする。

具体的には、徐々に機能を追加してゲームを完成させていく例題を学習する中で、ポイントとなる基本的なテーマをとり上げ、テーマに沿ったプログラムを学習・作成する過程で、既存のプログラムを読み解く能力、プログラムを設計・作成する能力、簡単なシステムを構築する能力を身につける。

【到達目標】

次のように段階的に目標を達成する。

- (1) 例題を使って基本的な Java 言語の機能と文法を理解する。
- (2) 例題を応用した比較的簡単な練習プログラムを作成する。
- (3) Java 言語の機能を組み合わせて多少複雑なプログラムを作成する応用力を身につける。また、オブジェクト指向とは何かについても理解する。
- (4) 簡単なシステムを設計して作成する。
- (5) 与えられた課題のシステムを作成する。

【授業の進め方と方法】

授業は、実習室において講義と実習を行う。

講義にて、教科書の例題や教材として準備した基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習プログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習によって Java の基礎を身につける。

併せて、代表的なアルゴリズムや、情報システムの設計方法についても学習する。

なお、受講にあたっては、一般的なコンピュータの知識が必要であるが、プログラミングに関しての予備知識は必要としない。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Eclipse を利用した Java プログラミング	コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアの概要、及び Eclipse を利用した Java プログラミングの方法について学習する。
2	変数の宣言とその使い方	基本的な変数の使い方を学習し、変数を使用した簡単なプログラムを作成する。
3	オブジェクト指向とは	オブジェクト指向の概念を、簡単なプログラムを作りながら学習する。併せて、この後使用する小さなウィンドウを表示するプログラムも作成する。
4	図形を描く	ウィンドウ上に四角形や円などの描画を行う。また、大きさや色、表示位置が異なる複数の図形の描画も行う。
5	繰り返し処理	コンピュータに一定の作業を繰り返し行わせるためのプログラム制御構造を学習する。繰り返しを使って、複数の図形を表示する。
6	分岐処理	条件により異なる作業を行わせるためのプログラム制御構造を学習する。
7	繰り返し・分岐処理	指定されたパターンで規則正しく図形を表示する練習プログラムを作成し、繰り返しと分岐処理の理解を深める。
8	アニメーションを作る	繰り返し処理を使って、アニメーションの作り方を学習する。図形の描画速度や表示位置などを変え、図形がイメージ通りに動くアニメーションを作成する。
9	クラスとオブジェクト	クラスとオブジェクトについて学習する。図形を使って描いた絵をクラス化し、機能を追加することでクラス化することのメリットを理解する。
10	小テスト	ここまでで学習した変数、繰り返し処理、分岐処理、クラスとオブジェクトに関する理解度チェックのために小テストを行う。
11	配列と Vector	配列や Vector について学習し、簡単なプログラムを作成する。
12	Vector の応用	アニメーションの作成に Vector を使う。
13	継承・コンストラクタ	効率的に機能拡張ができる継承について学習する。また、コンストラクタについても学習する。
14	春学期のまとめと小テスト	春学期で学習したことを復習し、その理解度をチェックするために小テストを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期に学習したことの復習	春学期に学習したことを復習し、簡単なプログラムを作成する。
16	イベント	キーボードからのイベントに反応して動くアニメーションを作成する。
17	シューティングゲームの作成 1	基本クラスを作成し、それを継承してプレイヤーを作成する。
18	シューティングゲームの作成 2	基本クラスを継承し、プレイヤーが発射する弾を作成する。
19	シューティングゲームの作成 3	基本クラスを継承し、敵を作成する。
20	シューティングゲームの作成 4	基本クラスを継承し、敵が発射する弾を作成する。
21	シューティングゲームの作成 5	プレイヤーや敵、またそれぞれが発射する弾との衝突検知の処理を行う。
22	シューティングゲームの作成 6	全体の進行管理の処理を行う。
23	課題 A(1)	シューティングゲームの作成過程を復習し、それを参考にして、ゲームを作成する。
24	課題 A(2)	シューティングゲームを参考にしたゲームを完成する。
25	標準入出力、ファイル入出力と例外処理	標準入出力、ファイル入出力、例外処理について学習する。
26	GUI	GUI を使用したウィンドウプログラムの作り方を学習する。
27	課題 B(1)	GUI を使って、ファイル入出力を行うプログラムを作成する。
28	課題 B(2)	GUI を使ったファイル入出力プログラムを完成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習は確実に行うこと。

授業では毎時間新しいことを学ぶ。前回十分に理解できなかった点はいかにせよ、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。

【テキスト（教科書）】

初級 Java ～やさしい Java～ 寛 捷彦 監修、長 慎也、飯塚康至 執筆
実教出版 ISBN : 978-4-407-32586-7

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の小テストや課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わからないことをそのままにせず、積極的に質問してください。その際、具体的にどこがわからないかを指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

PC 教室で PC を使って実習しながらの学習を行う。

【その他の重要事項】

コンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。

また、無償で入手できる統合開発環境 Eclipse を用いて実習するので、自宅に PC があれば、予習・復習でより理解を深めたり、授業中にできなかった課題を完成させることができる。

【関連科目】

「情報科学実習Ⅰ／Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

8

選
択

応用プログラミングⅠ（計量分析コース）	選択<情報関係>	3～4年次／2単位〔春学期授業〕
応用プログラミングⅡ（計量分析コース）	選択<情報関係>	3～4年次／2単位〔秋学期授業〕
応用プログラミングⅠ・Ⅱ（計量分析コース）	選択<情報関係>	3～4年次／4単位〔年間授業〕

林 直嗣 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな経済・社会現象の統計的データを科学的に分析して理解を深めることを目標とする。この授業では、統計学や計量経済学の基礎理論を理解した上で、計量分析ソフトを用いて、統計的な実証分析ができるように、初歩から易しく教える。また各自が自由にテーマを決めて計量分析を行い、レポートを書く自由研究も行う。これらにより実社会に出てから即戦力となる統計分析力を養うトレーニングをする。

【到達目標】

第1の到達目標は、経済・社会現象を統計的に分析する統計学の基礎を理解することである。第2の到達目標は、統計データを使って **FORTRAN** に基づく **TSP** の文法と計量分析のやり方を習得することである。第3の到達目標は、習得した分析ツールを用いて自分が興味あるテーマの統計分析を自由研究として実施できることである。

【授業の進め方と方法】

経営学部生なら、売上高の予測をどのように行うか、消費者の需要をどうやって測定するか、景気動向や経済成長の要因はどうか分析するか、学生の就職状況は何により影響されるかなど。

文学部生なら、都市化や核家族化の進展をどのような要因で説明できるか、天気はどのような要因で影響を受けるか、行動パターンと心理的要因との関係はどうかなど。

法学部生なら、刑事犯罪の増加はどのように説明できるか、青少年犯罪の凶悪化にどのような要因が影響しているか、選挙結果に景気動向が影響しているかなど。

理論だけでは分からないこうした現実の問題を分析するのが、統計的な計量分析である。この授業では、統計学と計量経済学の基礎理論を勉強し、計量分析ソフトの **TSP (Time Series Processor)** を用いて、統計的な実証分析の方法を初歩から学習する。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	情報処理とコンピューター	情報処理、コンピューターの歴史、システム構成などの説明
第2回	コンピューターの基本原理と仕組み	コンピューターの基本原理と仕組みを解説
第3回	コンピューターの利用技術	コンピューターの利用技術、ハードウェアとソフトウェア、言語、操作法などの説明
第4回	英文処理・日本語処理とワープロの基本操作	英文処理、日本語処理、ワープロ操作を説明
第5回	ネットワーク・メールの基本操作	ネット上のデータベースにアクセスしたり、データ転送する仕組みを勉強
第6回	データの入出力と処理	スカラー、ベクトル、行列などのデータの取り扱い法を解説
第7回	演算と組み込み関数	四則演算、組み込み関数などの演算を説明
第8回	代入文の使い方とデータ変換の方法	代入文によるデータの変換・作成法を説明
第9回	飛び越し (GOTO 文) 制御の仕方	無条件制御の飛び越し文を使いプログラミングの基礎を勉強
第10回	分岐 (IF 文) 制御の仕方	条件制御の分岐文を使い進んだプログラムを作る
第11回	繰り返し (DO 文) 制御の仕方	反復制御の繰り返し文を使い進んだプログラムを作る
第12回	データセットの繰り返し制御と外部記憶装置によるデータ入出力	データセットの繰り返し制御、外部記憶装置のデータ入出力を勉強
第13回	記述統計量のプログラム	総和、平均、分散、標準偏差のプログラムを作成
第14回	最小自乗法のプログラム	最小自乗法のプログラムを作成

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	記述統計量の簡易プログラム	総和、平均、分散、標準偏差を簡易プログラム TSP を用いて計算
第16回	最小自乗法の簡易プログラム	最小自乗法の計測を TSP を用いて行う
第17回	TSP プログラムによる図形処理	TSP による図形処理を学ぶ
第18回	外部データベースとエクセルによるグラフ処理	外部データベースからデータを収集し、エクセルに取り込んで作図
第19回	外部データの TSP への取り込み	外部データを TSP に取り込んで計量分析を行う
第20回	時系列データの季節調整	移動平均法などにより時系列データの季節調整を行う

第21回	主成分分析	主要な変動要因を主成分分析により検出
第22回	回帰分析の有意性と仮説検定 (t 検定)	回帰分析の係数推定値の有意性を t 検定でテスト
第23回	構造変化検定 (F 検定)	構造パラメーターに変化があるか、Chow 検定でテスト
第24回	構造変化検定 (長期時系列データ)	長期の時系列データの構造変化を検出し、分割期間毎の安定性をテスト
第25回	系列相関と一般化最小自乗法	残差の系列相関による歪みを一般化最小自乗法により是正
第26回	間接最小自乗法	説明変数が内生変数である場合、間接最小自乗法により歪みを是正
第27回	将来の予測—シミュレーション	将来の予測値を Box-Jenkins 法などでシミュレーション
第28回	自由研究プログラムの作成とその指導	各自が研究課題を自由に選び、データ収集、プログラムの作成と実行を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。まず自分で教科書を読み、**Web** 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む学修態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しよう。

【テキスト（教科書）】

縄田 和満著『TSP による計量経済分析入門』朝倉書店、2006 年
プリント教材

【参考書】

伴・和合共著『TSP による経済データの分析』東大出版会

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って定期試験、授業への積極的な貢献度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどを基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 に準拠して「客観的で厳格な」成績評価を行う。教員の主観により過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の意見をできるだけ反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書やノートを持参し、プリント教材をノートに貼り付けて、自分自身の授業ノートを作りましょう。

【関連科目】

基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱ、計量経営分析Ⅰ/Ⅱ など

応用プログラミングⅠ（統計コース）	選択<情報関係>	3～4年次／2単位〔春学期授業〕
応用プログラミングⅡ（統計コース）	選択<情報関係>	3～4年次／2単位〔秋学期授業〕
応用プログラミングⅠ・Ⅱ（統計コース）	選択<情報関係>	3～4年次／4単位〔年間授業〕
中平 千彦 講師		

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、経営学部、文学部、法学部の学生を対象としています。講義内容と進行については、受講生と相談の上、柔軟に調整することもあります。要望がある場合は、申し出てください。

今年度より講義内容が大きく変わり、1・2年次に統計学の基礎を必ずしも習得していない受講生にも配慮した講義運営を行うことになりました。

受講生のみなさんは、統計学やデータ分析について、どのような印象を持っているでしょうか？ 統計学は人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野に応用されている、データ分析の科学です。この講義を履修して、統計学とデータ分析の基礎を学び、また、Rによるデータ分析とプログラミングの基礎を習得し、自ら統計解析を行うことができるようになります。

【到達目標】

- 統計学の基礎理論を理解し、それをデータ分析に応用できるようになる。
- 社会科学における各種のデータを用い、自らデータ分析ができるようになる。
- Rによる基本的なプログラミングを習得し、データ分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

この講義を受講し、データ分析や統計解析にアプローチするきっかけをつかみましょう。

本講義では、データ分析の基礎を、テキストの学習とRを用いた演習によって習得します。まずは統計学の基礎的手法を学び、次に、Rの基本的なコマンドとプログラムを理解しながらデータ分析を行います。適宜、Excelも併用しますが、Excelについては、単にそれを表計算ソフトとして利用するに留まらず、統計解析のツールとして利用するための手法を学びます。

オープンソースの統計解析システム・環境“R”の機能は国際的に評価されており、また、フリーソフトであるため、自由にダウンロードして利用することができます。従って、本講義でRの基本的なプログラミングを習得すれば、自宅のコンピュータでも、高度なデータ分析を行うことが可能になります。

以上のように、まずは統計学の基礎を学び、次に、Rの基本的なプログラミングを理解しながらデータ分析の基本的手法を習得すれば、自ら統計的な実証分析を行うことができるようになります。

テキストは、データの特性、確率分布、推定と検定、相関と回帰など、データ分析の基本と、Rの基本的コマンドおよびプログラムを丁寧に解説したものをを用います。

ぜひ、この機会に統計学の基礎、そしてRによるデータ分析とプログラミングの基礎を学び、それらを将来の発展的な学習や研究へと繋げてください。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第01回	Rの導入と基本操作 (1)	Rの導入・起動・終了、データと変数、データとプログラムの入力と編集
第02回	Rの導入と基本操作 (2)	データ編集、行列における演算と関数、プログラミング、R コマンダー
第03回	データ整理 (1)	統計学と情報、データ整理
第04回	データ整理 (2)	データの性質を探る
第05回	データ整理 (3)	データ処理
第06回	確率と確率分布 (1)	事象と確率
第07回	確率と確率分布 (2)	確率変数、確率分布と期待値
第08回	確率と確率分布 (3)	連続型分布、離散型分布
第09回	確率と確率分布 (4)	統計量の分布、分布間の関係
第10回	推定と検定 (1)	点推定と区間推定
第11回	推定と検定 (2)	検定における仮説と有意水準
第12回	推定と検定 (3)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定
第13回	推定と検定 (4)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定
第14回	推定と検定 (5)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定

II 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	データ解析と R プログラミング (1)	データ解析の手法と R の適用
第16回	データ解析と R プログラミング (2)	プログラミング基礎演習
第17回	分散分析 (1)	分散分析の基礎
第18回	分散分析 (2)	1 元配置法 (繰り返し数が等しいケースと繰り返し数が異なるケース)
第19回	分散分析 (3)	2 元配置法 (繰り返し数ありのケース)
第20回	分散分析 (4)	2 元配置法 (繰り返しなしのケース)
第21回	分散分析 (5)	変量因子を含む分散分析
第22回	相関分析 (1)	相関分析の基礎
第23回	相関分析 (2)	2 次元正規分布における相関
第24回	相関分析 (3)	クロス集計と相関分析
第25回	回帰分析 (1)	単回帰分析の理論

第26回	回帰分析 (2)	単回帰分析の応用
第27回	重回帰分析 (1)	重回帰分析の理論
第28回	重回帰分析 (2)	重回帰分析の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

＊テキストは変更の可能性があります。各学期第 1 回講義での指示に注意してください。

(テキスト)

・長畑秀和 (著)『R で学ぶ統計学』共立出版、2009 年。

【参考書】

- ・青木繁伸 (著)『R による統計解析』オーム社、2009 年。
- ・秋山裕 (著)『統計学基礎講義』慶應義塾大学出版会、2009 年。
- ・ウィックハム、H.(著)、石田基広 / 市川太祐 / 高柳慎一 / 福島真太郎 (訳)『R 言語徹底解説』共立出版、2016 年。
- ・大森崇 / 飯田真己子 / 宿久洋 (著)『R Commander によるデータ解析 (第 2 版)』共立出版、2014 年。
- ・片山直也 (著)『実例と EXCEL による統計学トレーニング』牧野書店、2009 年。
- ・白石修二 (著)『例題で学ぶ Excel 統計入門 (第 2 版)』森北出版、2012 年。
- ・ジュール、A. / イエノウ、E. / ミースター、E.(著)、石田基広 / 石田和枝 (訳)『R 初心者のための ABC』丸善出版、2012 年。
- ・竹内淳 (著)『高校数学でわかる統計学』講談社、2012 年。
- ・辻谷将明 / 和田武夫 (著)『R で学ぶ確率・統計』共立出版、2012 年。
- ・長畑秀和 / 中川豊隆 / 國米充之 (著)『R コマンダーで学ぶ統計学』共立出版、2013 年。
- ・野間口謙太郎 / 菊池泰樹 (著)『統計学: R を用いた入門書 (改定第 2 版)』共立出版、2016 年。
- ・福地純一郎 / 伊藤有希 (著)『R による計量経済分析』朝倉書店、2011 年。
- ・蓑谷千風彦 (著)『これからはじめる統計学』東京図書、2009 年。
- ・宮川公男 (著)『基本統計学 (第 4 版)』有斐閣、2015 年。
- ・宮田庸一 (著)『統計学がよくわかる本－ Excel 解説付き』アイケイコーポレーション、2012 年。
- ・村井潤一郎 (著)『はじめての R:ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』北大路書房、2013 年。
- ・山田剛史 / 杉澤武俊 / 村井潤一郎 (著)『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。
- ・ランダー、J. P.(著)、高柳慎一 / 牧山幸史 / 箕田高志 (訳)『みんなの R-データ分析と統計解析の新しい教科書』マイナビ、2015 年。
- ・リゲス、U.(著)、石田基広 (訳)『R の基礎とプログラミング技法』丸善出版、2012 年。
- ・Crawley, Michael J., *Statistics: An Introduction Using R*(2nd ed.)(pap), Wiley, 2014.
- ・Prashant, Joshi, *Introduction to Statistics Using R*(pap.), LAP Lambert Academic Publishing, 2014.
- ・Schumacker, Randall E., *Learning Statistics Using R*(pap), SAGE Publications Inc., 2014.
- ・Schumacker, Randall E., and Sara Tomek, *Understanding Statistics Using R*, Springer, 2015.
- ・Verzani , John, *Using R for Introductory Statistics*(2nd ed.), Chapman & Hall / CRC, 2014.

【成績評価の方法と基準】

・【課題点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)】の評点配分で成績が決定されます。

・単位認定には規定数以上の出席が必要ですが、各種行事の出席や疾病などによる止むを得ない欠席は、出席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

・講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【その他の重要事項】

テキストは必ず購入し、参考文献の購入は、各自の必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

講義日の 12:30～12:45:講義教室、または個別に時間を相談して対応

【関連科目】

経営学部、文学部、法学部、あるいはその他の学部で開講された、統計学やデータ分析を用いる科目とします。

データ処理論Ⅰ（データベースコース）	選択く情報関係＞	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
データ処理論Ⅱ（データベースコース）	選択く情報関係＞	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（データベースコース）	選択く情報関係＞	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

木村 昌史 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するための情報通信技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上で論文形式のレポートを作成するものとする。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術の重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
5	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
9	Excel によるデータベース的処理 (2) 整列、集計、追加、アウトラインの操作	整列、集計、追加、アウトラインの操作と表示について
10	Excel によるデータベース的処理 (3) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
11	Excel によるデータベース的処理 (4) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
12	Excel の実際の活用 Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用とデータ分析への応用
13	Excel マクロの活用 (1) マクロ作成の基本	マクロレコーダとデータ分析の自動化・再利用化
14	Excel マクロの活用 (2) VBA の基本・春学期授業のまとめ	VBA の基本的な編集とデータの一括処理、実行ボタンの配置

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	データベースソフトとは Access の位置づけ	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
16	Access の基本操作 (1) データの検索方法	データの検索方法と検索条件の指定について
17	Access の基本操作 (2) フィルタと並べ替え	フィルタの活用とレコードの並べ替えについて
18	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
19	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
20	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クロス集計クエリ、アクションクエリの作成について

21	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
22	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
23	データベースの設計 (2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
24	外部データベースへの接続 Web 上のデータベース	Web 上のデータベースと Access の関係および MySQL の理解
25	外部データベースの操作 インポートとエクスポート	MySQL との間のテーブルのインポートとエクスポートの実行
26	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自動化について
27	総合演習 (1) フォームの設計	フォームの設計とデータ検索処理の対応について
28	総合演習 (2) フォームとレポートのデザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内 PC 環境自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
- 4.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
15. 配布資料の予習と復習
- 16.～24. 教科書各章の予習・復習
- 25.～28. 配布資料の予習と復習

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2013

タイトル：30 時間でマスター Access 2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

毎回 Web の資料を提示する。最新バージョンの参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、演習課題 40 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られた情報技術を利用して、自ら課題を設定し、データを収集、整理、加工、分析、考察を加え、論文形式のレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習とできれば自宅での PC と Office の利用にも期待する。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

「情報科学実習Ⅰ／Ⅱ」ははじめ、情報関係科目全般である。

データ処理論Ⅰ（データベースコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
データ処理論Ⅱ（データベースコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（データベースコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

三宅 修平 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するための情報通信技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上で論文形式のレポートを作成するものとする。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術の重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
5	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベースの処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
9	Excel によるデータベースの処理 (2) 整列、集計、追加、アウトラインの操作	整列、集計、追加、アウトラインの操作と表示について
10	Excel によるデータベースの処理 (3) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
11	Excel によるデータベースの処理 (4) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
12	Excel の実際の活用 Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用とデータ分析への応用
13	Excel マクロの活用 (1) マクロ作成の基本	マクロレコーダとデータ分析の自動化・再利用化
14	Excel マクロの活用 (2) VBA の基本	VBA の基本的な編集とデータの一括処理、実行ボタンの配置

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期授業のまとめ	春学期授業内容の総括と内容確認について
16	データベースソフトとは Access の位置づけ	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
17	Access の基本操作 (1) データの検索方法	データの検索方法と検索条件の指定について
18	Access の基本操作 (2) フィルタと並べ替え	フィルタの活用とレコードの並べ替えについて
19	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
20	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について

21	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クロス集計クエリ、アクショクエリの作成について
22	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
23	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
24	データベースの設計 (2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
25	外部データベースへの接続 Web 上のデータベース	Web 上のデータベースと Access の関係および MySQL の理解
26	外部データベースの操作 インポートとエクスポート	MySQL との間のテーブルのインポートとエクスポートの実行
27	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自動化について
28	総合演習 (1) フォームの設計	フォームの設計とデータ検索処理の対応について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内 PC 環境自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
- 4.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
15. 配布資料の予習と復習
- 16.～24. 教科書各章の予習・復習
- 25.～30. 配布資料の予習と復習

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2013

タイトル：30 時間でマスター Access 2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

毎回 Web の資料を提示する。最新の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、演習課題 40 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られた情報技術を利用して、自ら課題を設定し、データを検索、整理、加工、分析、考察を加え、論文形式のレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習とできれば自宅での PC と Office の利用にも期待する。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。
また課外にはネットも利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

「情報科学実習Ⅰ／Ⅱ」はじめ、情報関係科目全般である。

8

選択

データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
データ処理論Ⅱ（コンピューターグラフィックス）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（コンピューターグラフィックス）	選択<情報関係>	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

飯塚 康至 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広く普及している **Java** 言語を利用してコンピューターグラフィックスの基礎を身につけます。グラフィックの描画からアニメーション作成などを行います。後半 **Java** 言語を利用したスマートフォン向けのグラフィック描画に挑戦します。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. **Java** を利用しグラフィックを描画する方法を身につける
2. **Java** のオブジェクト指向を理解し現在のプログラミング手法を身につける
3. スマートフォン向けのグラフィック描画方法を身につける

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

Java 言語は広く社会で使われており、**IT** やシステム系の企業に就職する場合、必須の基本スキルとなっています。最近ではスマートフォンのアプリケーション開発でも **Java** 言語が利用されています。

そのため本授業では **Java** 言語を利用し、コンピューター・グラフィックを表現するスキルを身につけていきます。その過程でオブジェクト指向プログラミング手法を身につけ、**Java** 言語以外の言語にも対応できるようなスキルを身につけていきます。

【授業の方法】

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
(1)	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
(2)	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
(3)	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
(4)	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
(5)	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
(6)	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
(7)	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
(8)	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
(9)	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
(10)	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
(11)	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
(12)	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
(13)	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

II 秋学期

回	テーマ	内容
(1)	ゲームを作ろう（進行管理）	ゲームのクリアやゲームオーバーの表示などゲームの進行を管理できるようにします。
(2)	スマートフォンアプリの構造	ひな形のアプリケーションを元にスマートフォンアプリの構造について学びます。
(3)	記述の方法	スマートフォンのアプリケーションを作成するときの 2 つの記述の方法について学びます。
(4)	イベントの利用	ユーザーの操作に応じてプログラムを駆動する方法について学びます。

(5)	音楽プレイヤーの作成	Android で音楽プレイヤーを作成する方法について学びます。
(6)	Intent の利用	アプリケーション間連携を行う方法について学びます。
(7)	Log の確認	Log を利用してプログラムの状態を確認する方法について学びます。
(8)	独自の View の作成 1	グラフィックを描画する手法について学びます。
(9)	独自の View の作成 2	グラフィックを描画する手法について学びます。
(10)	SurfaceView の利用 1	SurfaceView を利用してアニメーションを行う方法について学びます。
(11)	SurfaceView の利用 2	SurfaceView を利用してアニメーションを行う方法について学びます。
(12)	ライブ壁紙の作成 1	SurfaceView を利用しライブ壁紙を作成します。
(13)	ライブ壁紙の作成 2	SurfaceView を利用しライブ壁紙を作成します。
(14)	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スマートフォンを利用するだけでなく、自分だったらどのようなアプリケーションやサービスを作成するのか、考えながら授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】

初級 **Java**: やさしい **Java** 寛 捷彦 (監修) 実教出版 ISBN-10: 4407325860
 ※授業時に話しながら **PowerPoint** ファイルを作成していきます。希望者には授業終了後ファイルを配布します。

【参考書】

挫折しないための **Android** プログラミング 128 のキホン 飯塚 康至 秀和 システム ISBN-10: 4798032921
Android アプリ開発実践ノウハウ 128 飯塚 康至 秀和 システム ISBN-10: 4798035807

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 %、提出課題 50 % の総合評価とします。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講される皆さんがスマートフォンを持っている場合、作成したアプリケーションはそのスマートフォンで動きます。作って楽しい、動いて楽しい授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。また欠席して間が開くと理解できない部分出ますのでやむを得ない理由がない限り、欠席もしないようにしてください。

1. 座席は毎回ランダムに指定します
2. システムを利用し、授業参加のエビデンス（画面キャプチャ等）を毎回提出してもらいます

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [**Java** コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

データ処理論Ⅰ（プレゼンテーションコース）	選択<情報関係>	2～4年次／2単位〔春学期授業〕
データ処理論Ⅱ（プレゼンテーションコース）	選択<情報関係>	2～4年次／2単位〔秋学期授業〕
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（プレゼンテーションコース）	選択<情報関係>	2～4年次／4単位〔年間授業〕

上野 京子 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。

本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、

・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる

・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える

・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する

・実践的なプレゼンテーションを行える

ことを、より具体的な目標として設定する。

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) 静止画から動画を作成、音声や楽曲などを加え、発表形式ではないプレゼンテーションを作成する

(2) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する

(3) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得する

(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

■秋学期

(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。

(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。

(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。

(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	動画のプレゼンテーション	動画編集ソフトを使用したプレゼンテーションの紹介
第2回	動画編集ソフトの機能	動画編集ソフトの概要、基本操作、応用操作（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジットなど）
第3回	動画作成演習 1	計画・要素作成
第4回	動画作成演習 2	動画作成 （ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジット追加）
第5回	動画鑑賞と相互評価 1	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第6回	動画鑑賞と相互評価 2	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第7回	自己評価	自身の動画の評価を集計し、レポート作成、提出
第8回	コンテンツ作成の技術（数値データの加工編）	表計算ソフトを利用した数値データの集計、加工
第9回	コンテンツ作成の技術（数値データの可視化編）	表計算ソフトを利用したグラフ作成とグラフ化の意思の明確な可視化
第10回	コンテンツ作成の技術（データ分析編）	表計算ソフトを利用した集データ分析
第11回	配布資料の作成方法	日本語文書処理ソフトを利用した資料作成（目次、索引、引用、脚注など）
第12回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第13回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第14回	春学期まとめ	春学期に学習したことの総復習

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第2回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喩えてみせる 表現の段階化
第3回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第4回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第5回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第6回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第7回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞
第9回	プレゼンテーション作成演習 2	計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習 4	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身につけていることが前提である。

資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）

「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）

「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

データ処理論Ⅰ（プレゼンテーションコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
データ処理論Ⅱ（プレゼンテーションコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（プレゼンテーションコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

江島 夏実 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことをより具体的な目標として設定する。

【授業の進め方と方法】

■春学期

(1) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。

(2) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

■秋学期

(3) ストーリーの組み立てが必要な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションの設計の重要性を認識し、論理的なプレゼンテーションを行えるようにする。

(4) 実際にありそうな状況・テーマを設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、実践的で自然な印象を与えるプレゼンテーションを行えるようにする。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの要素	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第 2 回	プレゼンテーションの要素	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第 3 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 4 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 5 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 6 回	プレゼンテーションの技術	手順・流れ、時間、色使い、レイアウト
第 7 回	プレゼンテーションの技術	手順・流れ、時間、色使い、レイアウト
第 8 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 1	①プレゼンの計画
第 9 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 1	②プレゼンの要素作成
第 10 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 1	③プレゼンの実施
第 11 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	①プレゼンの計画
第 12 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	②プレゼンの要素作成
第 13 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	③プレゼンの実施
第 14 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	総括

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	まとめ	春学期に学習したことの総復習
第 16 回	論理的なプレゼンテーション演習 1	①プレゼンの計画
第 17 回	論理的なプレゼンテーション演習 1	②プレゼンの要素作成
第 18 回	論理的なプレゼンテーション演習 1	③プレゼンの実施

第 19 回	論理的なプレゼンテーション演習 2	①プレゼンの計画
第 20 回	論理的なプレゼンテーション演習 2	②プレゼンの要素作成
第 21 回	論理的なプレゼンテーション演習 2	③プレゼンの実施
第 22 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	①プレゼンの計画
第 23 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	②プレゼンの要素作成
第 24 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	③プレゼンの要素作成
第 25 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	④プレゼンの実施
第 26 回	実践的なプレゼンテーション演習 2	①プレゼンの計画
第 27 回	実践的なプレゼンテーション演習 2	②プレゼンの要素作成
第 28 回	実践的なプレゼンテーション演習 2	③プレゼンの要素作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PowerPoint を使ったことがあるという程度を前提に授業をスタートするので、そのレベルまで至っていない場合は、あらかじめ参考書等を利用して、また、学校の PC 等を活用して予習をしたり、授業についていけるように課外学習などを心掛けてほしい。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を Google Classroom で提供。
Google Classroom の使い方は授業の中で指導。

【参考書】

「マッキンゼー流 プレゼンテーションの技術」東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。
一部、スマートフォンの活用も行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する。

【関連科目】

情報科学実習各科目

【オフィス・アワー】

(1) 授業後に質問を受け付ける。
(2) 質問がある場合は E-mail で受け付ける。

データ処理論Ⅰ（空間情報システムコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
データ処理論Ⅱ（空間情報システムコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（空間情報システムコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

小寺 浩二 准教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなども web を通じて日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【授業の進め方と方法】

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	空間情報の分析と考察 3	分析を行い結果・考察を行う
第 16 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 17 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 18 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 19 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 2	ポリゴンデータを自作する
第 20 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 3	ラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 21 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 4	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第 22 回	ジオリファレンス（幾何補正）の行い方	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え、空間情報を取得する
第 23 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 24 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 25 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 3	任意の演算式によって空間情報を取得する
第 26 回	空間解析の実践 1	空間補間（内挿）を行い空間情報の推定を行う

第 27 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 28 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・学習を必要に応じて行う。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001 年）
「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆、（公社）日本測量協会、2014 年）
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、春学期および秋学期に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点が 50 点満点、春学期レポートが 25 点満点、秋学期レポートが 25 点満点である。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起らないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、授業支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目
GIS

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

8

選択

データ処理論Ⅰ（空間情報システムコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
データ処理論Ⅱ（空間情報システムコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
データ処理論Ⅰ・Ⅱ（空間情報システムコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

沼尻 治樹 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められるようになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を作成する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を作成し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【授業の進め方と方法】

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 16 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 17 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 18 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 19 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第 20 回	ジオリファレンス（幾何補正）の行い方	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え、空間情報を取得する
第 21 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 22 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 23 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 3	任意の演算式によって空間情報を取得する
第 24 回	空間解析の実践 1	空間補間（内挿）を行い空間情報の推定を行う
第 25 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する

第 26 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 27 回	空間情報の作成・分析と考察 2	データ処理を実践する
第 28 回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001 年）
「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆、（公社）日本測量協会、2014 年）
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点を 60 %、レポート課題を 40 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起らないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、授業支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワークコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワークコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（通信ネットワークコース）	選択<情報関係>	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

飯塚 康至 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと、インターネットを利用した情報発信のスキルを身に付けることが本授業のテーマです。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。インターネットのサービスである **Monaca** を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【授業の進め方と方法】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。講義前半では主にコンピュータネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。後半では **Web** ページの作成技術を中心に **Web** サイトの構築方法について学習します。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
2	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
3	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
4	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
5	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
6	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
7	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
8	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
9	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
10	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
11	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
12	ホームページ作成の基礎 ①	見出しを作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
13	ホームページ作成の基礎 ②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
16	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
17	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
18	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
19	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
20	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。

21	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
22	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
23	画像アップローダーの作成 1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
24	画像アップローダーの作成 2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
25	画像アップローダーの作成 3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
26	スマートフォンアプリの作成 1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
27	スマートフォンアプリの作成 2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
28	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 %、提出課題 50 % の総合評価とします。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。また欠席して間が開くと理解できない部分出てきますのでやむを得ない理由がない限り、欠席もしないようにしてください。

私語等を含め、授業に参加していないものは退席させる場合があります。コピー＆ペースト等、自己努力していないものは評価しない場合があります。

1. 毎回ランダムに座席を指定します。
2. 毎回システムを利用し、演習のエビデンスを提出してもらいます。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワークコース）	選択く情報関係＞	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワークコース）	選択く情報関係＞	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（通信ネットワークコース）	選択く情報関係＞	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

入戸野 健 教授

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータネットワークの仕組みとそれを利用したコミュニケーションの方法を理解し、Web サイトの構築方法を習得する。

【到達目標】

コンピュータネットワークの動作や特性を技術的な基礎知識を踏まえた上で理解し、HTML を使って基本的な Web サイトを作成して情報発信できるようにすることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

種々の基礎知識の解説では、一部、講義形式的な進め方になるが、授業は情報実習室での実施となるので Web サイト構築に関する内容は、毎回 PC を使った実習形式で行われる。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	情報通信技術の発展	通信技術のこれまでの技術革新について解説する。
2	コンピュータネットワークの成り立ち	コンピュータによるネットワークの変遷について解説する。
3	ネットワークの基本構成と機能	ネットワークの構成法と基本機能について解説する。
4	情報の量と通信速度	情報の量を表す単位とデータの転送速度について解説する。
5	LAN の仕組みと構成	ローカルエリアネットワーク（LAN）のアーキテクチャについて解説する。
6	インターネットの仕組み	インターネットのプロトコルとその動作について解説する。
7	インターネットのサービスとアプリケーション	主要なインターネットアプリケーションについて説明する。
8	WWW による情報の収集と発信	World Wide Web による情報の検索・公開方法について解説する。
9	スマートフォンとモバイルコンピューティング	通信ネットワークとスマートフォン・モバイルコンピューティングとの関連を解説する。
10	ネットワークの診断と管理	ネットワークシステムの診断と管理に関する知識について解説する。
11	ネットワークセキュリティ	ネットワークに関連するセキュリティの諸問題について概観する。
12	通信の暗号化	暗号化の必要性和その方式について解説する。
13	デジタル署名と認証局	ネットワークを介して署名を行う方法とそれに関連する認証局の仕組みについて解説する。
14	インターネットビジネス	インターネットの特性を利用したビジネス事例を考察する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	HTML の基礎知識	Web ページ作成用の簡易言語 HTML の基礎知識について解説する。
2	HTML の基本文法	要素、タグ、アトリビュート等の HTML の基本書式に関して説明する。
3	マークアップの基礎	文書をマークアップして見出しを作成したり文字装飾を行う方法を解説する。
4	ページの構成要素	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を説明する。
5	ページのレイアウト	フレームやフォームを利用してページをレイアウトする方法を解説する。
6	応用的なホームページ作成技術	ホームページ作成に関連する各種の作成技術を概説する。
7	マルチメディアを活用したページ作成	画像、音声、動画を Web ページで公開する方法を説明する。
8	Web ページの装飾とスタイルシートの基礎	スタイルシート（CSS）を利用した Web ページの装飾に関する基礎書法を解説する。
9	スタイルシートによる各種装飾	スタイルシートによる文字や段落の各種の装飾方法について解説する。
10	スタイルシートを利用したページのレイアウト	スタイルシートでページのレイアウト構築を行う方法について説明する。
11	動的なページの作成	JavaScript 等を利用した簡易的な動的ページの仕組みと作成方法について解説する。

12	動的なサイトの構成方法	インタラクティブなサービスを構築するための PHP 利用等について解説する。
13	HTML に関連した技術	関連技術として SGML や XML について概説する。
14	Web サイト構築演習	Web サイトを設計し構築する総合演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示がある場合は講義範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習しておく。講義後はノートを見直して要点を整理する。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。補助教材としてプリントを適宜配付する。

【参考書】

講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) : 授業には積極的に参加し、きちんとノートをとることが大切である。実習を伴うので、毎回のスキルの蓄積が重要になる。
課題レポート (40%) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2 回程度出題する。
演習課題 (40%) : スキルの向上を目的とする演習課題を出題するので、作成した成果物を提出してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題に関する実習の時間を多く取り、より丁寧な解説を試みたい。

【関連科目】

情報技術論Ⅰ/Ⅱ

ネットワーク論Ⅰ（ホームページコース）	選択<情報関係>	2～4年次／2単位 [春学期授業]
ネットワーク論Ⅱ（ホームページコース）	選択<情報関係>	2～4年次／2単位 [秋学期授業]
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（ホームページコース）	選択<情報関係>	2～4年次／4単位 [年間授業]

北澤 具子 講師

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。

(2) Web を支える技術を理解する。

(3) ホームページの作成を行う。

(4) Web システムの設計・作成を行う。

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。

授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	コンピュータの基礎知識	2 進数、コンピュータシステム等、コンピュータの基礎知識を習得する。
2	コンピュータネットワークについて	コンピュータネットワークについて、その有用性と変遷について学習する。 また、いくつかの規格とその概要について学習する。
3	LAN について	LAN とは何か、イーサネットや無線 LAN などについて学習する。
4	インターネットについて	インターネットを支える技術について学習する。
5	Web 技術について	基本的な Web 関連の技術について学習する。
6	情報セキュリティについて	情報セキュリティ対策について学習する。
7	ホームページ作成の基礎知識	ホームページ作成の流れ、HTML とスタイルシートの役割を簡単な例題で学習する。
8	基本構造の作成	HTML で、ヘッダー、メインコンテンツ、サイドバー、フッターの各領域をもつホームページの基本構造を作成する。
9	テキストの入力	ホームページに見出し、各種箇条書きリスト、段落など、文章構造とテキストを入力する。
10	写真・動画の表示、テーブル (表) の表示	ホームページに写真・動画や、テーブル (表) を表示する方法を学習する。
11	リンクの設定	文字列や画像にリンクを設定する方法を学習する。
12	スタイルシート (1)	HTML で作成した基本構造をスタイルシート (CSS) を使って配置し、見やすくデザインする。
13	スタイルシート (2)	HTML だけでは細かく指定できないテキスト、画像・動画、テーブル (表) などのデザインを、スタイルシート (CSS) を用いて見やすく、操作しやすいものにする。
14	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	フォームの作成	HTML と CSS を使って、入力しやすいフォームの作成方法を学習する。
16	課題 B(1)	課題 B のテーマにそったホームページを設計し、HTML で基本構造を作成する。
17	課題 B(2)	HTML で作成したホームページの基本構造を、CSS で見やすく、見栄えよくデザインする。

18	PHP プログラム (1)	フォームに入力されたデータを処理するために、簡単な PHP プログラムの作成方法を学習する。
19	PHP プログラム (2)	データベースへのアクセスを行う PHP プログラムの作成方法を学習する。
20	課題 C(1)	課題 C では、複数ページのホームページを作成する。HTML で、すべてのホームページの基本構造とテキスト、テーブル、リスト、フォームなどを作成する。各ページのリンクも設定する。
21	課題 C(2)	HTML で作成したホームページの基本構造を、CSS で見やすく、見栄えよくする。
22	課題 C(3)	フォームに入力したデータを処理する PHP プログラムを作成し、Web サーバにアップして正しく動作するまでデバッグする。
23	JavaScript(1)	JavaScript の役割と基本文法、各種構文について学習する。
24	JavaScript(2)	JavaScript を用いて、HTML だけではできないバリエーションをつけたり、動きがある Web ページを作成する。
25	JavaScript(3)	前回に続き、JavaScript を用いた、より高度な Web ページを作成する。
26	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する。
27	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する。
28	課題 D(3)	課題 D の Web サイトを授業内で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することとわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報科学実習Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

8

選択

ネットワーク論Ⅰ（ホームページコース）	選択＜情報関係＞	2～4 年次／2 単位 [春学期授業]
ネットワーク論Ⅱ（ホームページコース）	選択＜情報関係＞	2～4 年次／2 単位 [秋学期授業]
ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（ホームページコース）	選択＜情報関係＞	2～4 年次／4 単位 [年間授業]

高田 美樹 講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

- 1) インターネットの仕組みを理解する。
- 2) Web ページを企画し、制作する。
- 3) Web データベースシステムの仕組みを理解し、制作する。
- 4) インターネットの脅威とその対策を理解する。

実習室で行う実習授業です。

秋学期には、春学期に制作したページをベースに、サーバ側で動作する本格的な web データベースシステムによりショッピングサイトを構築します。

第27回 サイト制作2(1)

【授業時間外の学習（準備学習）】

オリジナルサイトを制作します。
オリジナルサイトを制作します。

・宿題等)】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

トップページ制作 (20%)

写真を配した複数のページの制作 (60%)

ページの切り替え (10%)

入力フォームの制作 (10%)

秋学期は、ショッピングサイトを制作します。

ログイン機能 (40%)

「かご」に入れる機能 (40%)

金額を計算する機能 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

自らのオリジナルサイトを

積み上げ科目なので、今日の講義は今日理解するように努め、わからないことがあれば些細なことでも臆せずに質問してください。

【関連科目】

【オフ・フ・アワ-

【オフィス・アワー】

【授業計画】 Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
第1回	ホームページの全体像	ホームページが社会にもたらしている影響から全体像を学習します。
第2回	ネットワークの仕組みとプロトコル	TCP/IP と IP アドレスについて学習し、ホームページを実現する技術を理解します。
第3回	HTML と CSS による静的なページ	ホームページがどのように表示されるのかについて、実際にページを制作して学習します。
第4回	HTML・CSS 各論(1)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習します。
第5回	HTML・CSS 各論(2)	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習します。
第6回	class と ID	ページの中の一部だけに設定を行う方法を学びます。
第7回	画面レイアウトの設計	HTML と CSS を組み合わせたページを企画、制作します。
第8回	フォームの作成	入力することのできるページを制作します。
第9回	画像の加工	ホームページで利用できるように画像を加工します。
第10回	JavaScript による動的なページの作成(1)	マウス操作などで変化するページを制作します。
第11回	JavaScript による動的なページの作成(2)	入力データをチェックしてエラーを表示するページを制作します。
第12回	jQuery の利用(2)	jQuery を利用した変化のあるページを制作します。
第13回	サイト制作1(1)	オリジナルページを制作します。
第14回	サイト制作1(2)	オリジナルページを制作します。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第15回	web データベースシステムの全体像	ショッピングサイトを例に、ホームページ技術の全体像をイメージします。
第16回	フォームデータのチェックとエコバック	入力情報をサーバ側で処理する技術を学習します。
第17回	PHP による動的なページの作成(1)	データを入れ替えるだけで内容が変化するページを制作します。
第18回	PHP による動的なページの作成(2)	データを入れ替えるだけで内容が変化するページを制作します。
第19回	データベースの構築	データを管理するためのデータベース技術を学習します。
第20回	データベースと PHP の連携	データベースの保管されたデータを取り出してページに反映する技術を学びます。
第21回	ログインの実装	ユーザ ID とパスワードをチェックするページを制作します。
第22回	ユーザ登録の実装	ユーザ登録を行うページを制作します。
第23回	セッションによる情報の引き継ぎ	ログインした情報を次のページに引き継ぐ技術を学習します。
第24回	セッション管理	ログアウトし、情報へのアクセスを拒否する技術を学習します。
第25回	AJAX	ページの一部だけを更新する技術を学習します。

連環科目

- 法律関係
- 交換留学生受け入れプログラム

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

【到達目標】

取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【授業の進め方と方法】

最も代表的な契約関係にある売買契約を基礎に置きながら、財産法の基本的な仕組みを概観する。

講義は主に板書で行う。

講義資料や復習問題は授業中に配布します。また、講義日の夜に授業支援システムに解答とともにアップする。復習に活用すること。

なお、講義に際しては六法を必ず持参すること。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 第 1 章 民法典とその構成	講義を始めるに際しての諸注意 パンデクテン方式 財産関係と家族関係
第 2 回	第 3 節 物権と債権	物権の種類と典型契約
第 3 回	第 2 章 売買契約の有効な成立	契約の成立要件 権利能力 法人 意思の合致
第 4 回	第 2 節 契約の有効要件	取消原因（制限行為能力者） 瑕疵ある意思表示 契約の無効原因（詐欺・強迫） 無効原因
第 5 回	3 意思の不存在 Ⅲ 取消しと無効	心裡留保 虚偽表示 錯誤 取消し
第 6 回	第 3 節 契約の効果帰属要件	代理 代理権の範囲の行為
第 7 回	Ⅱ 無権代理 第 4 節 条件と期限	代理行為 無権代理 表見代理
第 8 回	第 3 章 売主の義務と買主の義務	物（特定物・不特定物の引渡し） 瑕疵担保責任
第 9 回	第 2 節 金銭の支払い	金銭債権 同時履行の抗弁権
第 10 回	Ⅱ 購入資金の借入れ	消費貸借契約 利息契約 利息制限法
第 11 回	第 3 節 債権関係の終了①	債権の消滅原因
第 12 回	第 3 節 債権関係の終了②	債権の消滅原因 その他の消滅原因
第 13 回	第 4 節 債務不履行と債権者の救済手段	現実的履行の強制
第 14 回	Ⅱ 損害賠償の請求	債務不履行の類型と要件 給付請求権との関係 損害賠償の範囲
第 15 回	Ⅲ 契約の解除	意義 解除権の要件 効果
第 16 回	第 4 章 売買契約による所有権の移転	物権変動の基本原則
第 17 回	Ⅱ 物権変動の要件 第 2 節 不動産取引と登記	物権変動の要件 所有権の移転時期 物権の消滅 対抗関係・対抗要件 二重譲渡は概念しうるか 民法 177 条にいう第三者

第 18 回	4 民法 177 条が適用される物権変動 Ⅱ 不動産登記	取消しと登記 解除と登記 時効取得と登記 遺産分割と登記 不動産登記とは 登記の申請について 不動産登記の種類 不動産取引の対抗要件 即時取得 物権法の基本原則
第 19 回	第 3 節 動産取引における公示の原則と公信の原則 第 5 章 所有権と占有権	動産取引の対抗要件 即時取得 物権法の基本原則
第 20 回	第 2 節 所有権	所有権の性質と効力 相隣関係 所有権の特別な取得原因 占有権
第 21 回	第 6 章 債権の回収と債権の担保	債権の回収の基本原則 責任財産の保全（債権者代位権）
第 22 回	Ⅱ 詐害行為取消権	意義 法的性質 要件 行使 効果 連帯債務
第 23 回	第 3 節 責任財産の拡大による債権の担保	意義と成立 法的性質 効力 特殊な保証（根保証）
第 24 回	Ⅱ 保証債務	債権者代位権 債権者取消権 担保物権の基本原則 抵当権 根抵当権 仮登記担保 譲渡担保 所有権留保
第 25 回	責任財産の保全	債権者代位権 債権者取消権
第 26 回	第 4 節 優先弁済権の確保による債権の担保	担保物権の基本原則 抵当権 根抵当権 仮登記担保 譲渡担保 所有権留保
第 27 回	第 7 章 法律の規定に基づいて生ずる債権	総説 事務管理 不当利得
第 28 回	不法行為	一般的不法行為 特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に基づき、テキストの該当箇所を事前に読んで上で講義に出席すること。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『コンダクト 民法』2017 年 4 月 嵯峨野書院

【参考書】

民法判例百選Ⅰ、Ⅱ（第 7 版） 有斐閣
法律学小辞典 第 5 版 有斐閣
基本法コンメンタール 日本評論社

【成績評価の方法と基準】

原則として定期試験（中間試験：7 月、期末試験：1 月）の成績による。

【学生の意見等からの気づき】

毎回出席して、講義をしっかりと聞くようにすること。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、会社、特に株式会社の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる条文や制度について、具体的な事例を参照しつつ学習する。具体的には、株式会社のガバナンスに関する問題、ファイナンスに関する問題、およびM&Aに関する問題について学習する。

【到達目標】

この授業では、実社会で問題となっている会社（特に株式会社）の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる事象について、関連する条文や制度など基礎的な事項を説明できるようにすることを目標としている。
また、会社法が関係する具体的な事例について、関連する条文や制度を参照しながら、当該事例における事実関係を踏まえて、一定の結論を導き出せることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

初めて法律を勉強する人でも理解できるように配慮して、法律用語の解説をしながら、講義形式で授業を行う。
適宜、質疑を取り入れたいと考えている。

【授業計画】

通年 回	テーマ	内容
1 回	会社の種類、会社の能力と会社の法人格	会社の意義及び各種類の会社の異同点について説明する。 会社の権能力や法人格の意義について説明し、関連する判例を検討する。
2 回	株式会社の機関と機関設計の選択	株式会社の機関の権限について説明した上で、機関設計の違いについて説明する。
3 回	株主総会の権限と招集手続	株主総会の権限を説明した後に、その招集手続につき説明し、関連する判例を検討する。
4 回	株主総会の運営と計算書類の確定・剰余金の配当	株主総会の決議方法について説明するとともに、計算書類の確定手続と、剰余金の配当手続について説明し、関連する判例を検討する。
5 回	株主総会の瑕疵	株主総会の瑕疵の問題について説明し、関連する判例を検討する。
6 回	役員の資格・選解任手続と取締役会	役員の資格や選解任の手続を説明し、取締役会設置会社と非取締役役会設置会社の差異について説明する。
7 回	取締役の義務（1）	取締役の善管注意義務と忠実義務の関係、経営判断原則、および内部統制システムについて説明し、関連する判例を検討する。
8 回	取締役の義務（2）	取締役の競業禁止義務、取締役の利益相反取引に関する規制について説明を行い、関連する判例を検討する。
9 回	取締役の不正行為に対する監視・監督	監査役・監査役会、会計監査人、および会計参与による監視・監督について説明する。
10 回	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造について説明する。
11 回	役員の報酬	取締役の報酬規制を中心に説明し、関連する判例を検討する。
12 回	取締役の対会社責任	取締役の行為の差止め、取締役の責任免除と株主代表訴訟について説明し、関連する判例を検討する。
13 回	取締役の対第三者責任	取締役の第三者責任について説明し、関連する判例を検討する。
14 回	春学期授業のまとめ	春学期授業のまとめ
15 回	株式と有限責任	株式の意義と株主有限責任について説明する。
16 回	株主平等原則と種類株式	株主平等原則の意義と種類株式の内容について説明し、関連判例を検討する。
17 回	株式の共有と利益供与	株式の共有と利益供与について説明し、関連判例を検討する。
18 回	株式の譲渡と株主名簿	株式の自由譲渡とその制限について説明する。 また、株主名簿と株券について説明する。
19 回	自己株式の取得と株式分割・株式併合	自己株式の取得規制の概要と株式分割・株式併合の仕組みについて説明する。
20 回	募集株式の発行等	募集株式の発行等の手続について説明する。
21 回	募集株式発行における救済手段	募集株式発行の差止め、無効、不存在について説明し、関連する判例を検討する。

22 回	新株予約権・社債	新株予約権の利用方法について説明する。 また、社債の特徴・株式との違いについて説明する。
23 回	組織再編総論	組織再編の方法としてどのようなものがあるかについて説明する。
24 回	組織再編の手続	組織再編の手続について、合併、会社分割、株式交換・株式移転における差異を意識しながら説明する。
25 回	組織再編における救済手段	組織再編の手続に違法な点があった場合の株主・債権者等の救済手段について説明し、関連する判例を検討する。
26 回	事業譲渡とキャッシュアウト	事業譲渡とキャッシュアウトについて説明するとともに、関連する判例を検討する。
27 回	株式会社の設立と持分会社の法制	株式会社の設立手続と持分会社について説明し、関連する判例を検討する。
28 回	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を授業支援システムを通じてアップするので、授業の開始前までにダウンロードし、テキストの該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『会社法講義30講』松嶋隆弘編（中央経済社、2015年）
六法（会社法及び民法、並びに会社法施行規則及び会社計算規則が掲載されているもの、ただし、平成30年版のものが好ましい）

【参考書】

『会社法判例百選第3版』岩原紳作ほか編（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）、小テスト（10％）、試験（80％）で評価する。
試験は春学期末に実施する中間試験と秋学期末に実施する期末試験により評価する。
合計が60点以上の場合を合格とし、60点未満の場合を不合格とする。なお、合格者の評価については相対基準を導入する。

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しいとの意見があるので、より基本的な事項に限定して講義をすることによって、対応することとする。

【その他の重要事項】

六法は授業に必ず持参すること。

【関連科目】

民法

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、労働法全体の基本原則等について説明するとともに、解雇や労働条件の変更といった労働者個人と企業との関係を扱った「個別的労働関係法」を中心に取り上げる。労働組合の組織率が低下している現状を考慮し、労働組合と企業との関係を扱った集団的労働関係法は必要に応じて言及する程度とする。

「ブラック企業」に関心が集まるなど、労働法は大きな注目を集めている。しかし、労働法の内容は複雑になっており、その情報の整理だけでも苦労することになる。

そこで本講義では、労働法の各テーマについて基本的問題について理解することに重点をおく。基本的な知識の理解が進めば、簡単な事例（実際の労働相談の内容）に自力で解答できるよう展開する。

したがって、この講義の受講生は、（１）労働法に関する基本的な知識を身につけて、自らの生命や人格を守れるようになり、さらに（２）自らまたは同僚（場合によっては使用者の立場から）に生じた労使関係の問題に適切なアドバイスができるようになることが期待される。

【到達目標】

- 労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
- 労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。さらに難易度の高い問題（社会保険労務士や労働基準監督官の試験問題レベル）にも解答できるようになるのが望ましい。
- さらに優秀な学生は、労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題もある程度解答できるようになる。
- 労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題に、文章で説明できる。

【授業の進め方と方法】

PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・「働くことと」労働法（１）	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第 2 回	「働くことと」労働法（２）	労働憲章について説明する。
第 3 回	労働法のパートナーと労働条件決定の仕組み（１）	労働者と使用者について学習する。
第 4 回	労働法のパートナーと労働条件決定の仕組み（２）	労働条件を決定している大要なツール（労働契約、就業規則、労働協約）について学習する。
第 5 回	働き始める（１）	募集・採用のルールについて学習する。
第 6 回	働き始める（２）	採用内定、試用のルールについて学習する。
第 7 回	労働契約のルール（１）	・労働契約の基本的ルールについて学習する。
第 8 回	労働契約のルール（２）	・付随義務について学習する。
第 9 回	労働契約のルール（３）	企業が労働者に対して行う制裁（懲戒）の根拠と限界について学習する。
第 10 回	労働契約のルール（４）	配転のルールについて学習する。
		・出向・転籍に関するルールについて学習する。
第 11 回	就業規則による集団的労働条件の決定と変更	・労働契約の承継について学習する。
第 12 回	働くことの対価（１）	・変更解約告知について学習する。
第 13 回	働くことの対価（２）	就業規則の効力、就業規則による労働条件の不利益変更について学習する。
第 14 回	働くことの対価（３）	生活にとって必要な賃金の保護について学習する。
第 15 回	働く時間（１）	使用者の原因によって就労できない場合の取扱いや、最低賃金規制について学習する。
第 16 回	働く時間（２）	賞与や退職金をめぐる法定問題について学習する。
第 17 回	働く時間（３）	長時間労働の抑制にとって必要な労働時間規制について学習する。
第 18 回	働く時間（４）	例外的な時間外労働や休日労働に関するルールについて学習する。
第 19 回	働く時間（５）	多様な労働時間制度のうち、変形労働時間制度について学習する。
第 20 回	休み時間	多様な労働時間制度のうち、裁量労働制などについて学習する。
		管理監督者等の労働時間規制の適用除外について学習する。
		・休憩、休日、年次有給休暇について学習する。
		・各種休業制度について学習する。

第 21 回	働くことをやめる（１）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について学習する。
第 22 回	働くことをやめる（２）	解雇についての重要なルールである解雇権濫用法理について学習する。
第 23 回	働くことをやめる（３）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅といった、その他の労働契約の終了場面について学習する。
第 24 回	男女がともに働く	女性の保護、男女の雇用平等について学習する。
第 25 回	いろいろな働き方	非正規労働者の保護に関する諸制度について学習する。
第 26 回	安全・快適に働く	労働者の安全と衛生の確保、業務上の災害の補償について学習する。
第 27 回	労使自治と労働者代表制	使用者と労働組合との団体交渉に関するルール等について学習する。
第 28 回	交渉と紛争、そして終息	使用者と労働組合との間で合意した労働条件が書面化された労働協約に関するルールについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。

【テキスト（教科書）】

浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2017 年）1,900 円＋税
開講時点で新しい版が出版されている場合は、最新版を用意すること。

【参考書】

労働六法編集委員会編『労働六法 2018』（旬報社、2018 年）4,000 円＋税

【成績評価の方法と基準】

「期末試験」（100％）

- ・期末試験として学期ごとにそれぞれ 1 回（合計 2 回）実施する。
- ・それぞれの評価割合は 1:1 である。
- ・いずれの試験とも論述形式の問題を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

関連科目：「民法」

【オフィスアワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

交換留学生受入れプログラム（ESOP）科目について

法政大学グローバル教育センターでは、海外協定校からの交換留学生と本学学生がともに学ぶことのできる英語による特別プログラムとして、交換留学生受入れプログラム（ESOP）科目を開講しています。授業は、少人数のセミナー方式で、すべて英語で行います。今ある語学力をさらに向上させ、国際的感覚を身に付ける上で有意義なプログラムです。

履修を希望する経営学部生は、以下の点に注意してください。

- ・履修希望者は、事前にグローバル教育センターウェブサイトより申し込みが必要ですので、必ず確認してください。
- ・交換留学生受入れプログラム（ESOP）の受講が許可になった方のみ連環科目として履修登録できます。
- ・講義概要については、グローバル教育センター発行のパンフレットもしくはWebシラバスを参照してください。
- ・時間割、教室については、グローバル教育センター掲示板にて確認してください。

学期	ESOP日本科目名	ESOP英語科目名	単位数	担当者名
春学期	ESOP：日本におけるジャーナリズム I	Journalism in Japan I	2	Robert SAKAI-IRVINE
	ESOP：グローバル・ガバナンス	Global Governance	2	米川 正子
	ESOP：日本の思想 I	Japanese Thought I	2	野澤 俊介
	ESOP：日本文化史入門	Introduction to Cultural History of Japan	2	前島 志保
	ESOP：日本の資本主義の形成と起業家精神	Japanese Capitalism and Entrepreneurship	2	Julia YONGUE
	ESOP：家族とセクシュアリティ	Families and Sexualities in Japan	2	釜野 さおり
	ESOP：日本の金融システム I	The Contemporary Japanese Financial System I	2	John REILLY
	ESOP：日本のマイノリティー社会	Japan's Ethnic Minorities	2	堀田 千里
	ESOP：日本の社会問題	Japanese Social Problems	2	堀口 佐知子
	ESOP：日本近現代史	Modern and Contemporary History of Japan	2	鈴木 裕輔
春学期	ESOP：上級経済学	Advanced Economics	2	Samuel OFORI
	ESOP：ディスカバー・ジャパン I	Discover Japan I	2	James LASSEGARD 村田 晶子
	ESOP：マーケティング論	Marketing in Japan	2	畑野 浩 木村 行裕 都丸 啓吉 伊東 良平 鈴木 祥子 神谷 恭司
	ESOP：上級マーケティング論	Advanced Marketing	2	John FOSTER
	ESOP：国際金融論	International Finance	2	石橋 満 松岡 満典 小泉 英次 齋藤 守
	ESOP：ネット社会と日本	Japan As a Net Community	2	大嶋 良明
秋学期	ESOP：日系移民－オキナワンの経験から	Japanese Immigration: The Okinawan Experience	2	磯 ステファニー侑子
	ESOP：日本の思想 II	Japanese Thought II	2	野澤 俊介
	ESOP：日本の近代とメディア	Media and Modernity in Japan	2	前島 志保
	ESOP：日本の演劇	Japanese Theater	2	竹内 晶子
	ESOP：日本の文学	Japanese Literature	2	Saida KHALMIRZAEVA
	ESOP：日本の金融システム II	The Contemporary Japanese Financial System II	2	John REILLY
	ESOP：日本のモノづくりと世界経済	Japanese Goods and the Global Economy	2	Martha CHAIKLIN
	ESOP：日本社会のジェンダー	"Gender" in Japanese Society	2	溝口 彰子
	ESOP：日本の金融論	Money and Finance in Japan	2	林 直嗣
	ESOP：ディスカバー・ジャパン II	Discover Japan II	2	James LASSEGARD 村田 晶子
	ESOP：日本の国際協力	International Cooperation of Japan	2	武田 長久
	ESOP：コンテンツツーリズム	Culture Tourism and J-Pop	2	増淵 敏之
	ESOP：日本におけるジャーナリズム II	Journalism in Japan II	2	Robert SAKAI-IRVINE
	ESOP：近代日本の文化と社会	Culture and Society in Late Meiji and Taisho Japan	2	衣笠 正晃
	ESOP：日本の若者・大衆文化	Japanese Youth and Popular Culture	2	小野 五弥子
	ESOP：日本のメディアと政治	Media and Politics in Japan	2	David McNEILL

総合科目、公開科目、グローバル・オープン科目について

総合科目：ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要（シラバス）を参照してください。

公開科目：公開科目講義概要（シラバス）を参照してください。

グローバル・オープン科目：Webシラバスを参照してください。

英語関係科目

10

英語関係科目

GBP 専門教育科目の履修について

Taking Business Administration Courses in GBP

GBP (Global Business Program) の専門科目は本来、同プログラムの学生用に開講されていますが、日本語学位課程の経営学部生や交換留学生 (ESOP) もその大半の科目を履修できます。具体的に履修できる科目は次頁の通り、また履修に際しての条件は以下の通りです。

Business Administration Courses in GBP are originally intended for GBP students. But students of the Faculty of Business Administration (Japanese-based degree) and foreign exchange students (ESOP: Exchange Students from Overseas Program) can take most of those courses. The specific courses to be taken are shown in the table below, and the conditions are as follows.

1. 履修に際しての条件

- ・ 学生は授業に必要な英語力を有しているものとします。具体的には、次の英語能力試験スコアのいずれかを最低限満たしていることを原則とします。TOEFL® iBT: 61 点以上 (PBT: 500 点以上)、IELTS (Academic Module): band 5.5 以上、TOEIC®: 700 点以上、実用英語技能検定: 準 1 級以上。
- ・ 履修希望者が受講定員 (教室サイズや担当教員の判断による) を超えた場合は、担当教員の選考により履修者を選抜します。その場合、GBP 学生は最優先の受講資格を有するものとします。
- ・ 経営学部生 (日本語学位課程) がこれらの科目を履修する場合、科目によって「連環科目」または「特殊講義」の扱いとなるので注意して下さい。

Conditions to take Business Administration Courses in GBP

- ・ Students should have enough proficiency in English to take a course. More specifically, they must satisfy one of the following English proficiency test scores in principle. TOEFL® iBT: 61 or higher (PBT: 500 or higher); IELTS (Academic Module): 5.5 or higher; TOEIC®: 700 or higher; or *Eiken*: quasi 1st grade or higher.
- ・ If the number of students who want to take a course exceeds the quota of a class (which may be depend on the capacity of a classroom or the judgement of an instructor), the instructor can select students who can take the course. In that case, GBP students have the highest priority.
- ・ When students of the Faculty of Business Administration (Japanese-based degree) take courses of GBP, they are classified into either “*Renkan-Kamoku* (Linkage courses)” or “*Tokusyu-Kogi* (Special Topic courses).” So please note the table below.

2.Roster of Global Business Program Courses and Instructors

Global Open Courses * (経営学部生は「連環科目」)	Open to Japanese-Degree Students ** (経営学部生は「特殊講義」)	Spring 2018	Fall 2018	Spring 2019	Fall 2019	Spring 2020
---	---	-------------	-----------	-------------	-----------	-------------

<Introductory Courses of Business Administration>

Introduction to Organizational Management	■	Misawa		Misawa		Misawa
Introduction to Strategic Management	■		Ando		Ando	
Introduction to Accounting	■		Kitada		Kitada	
Introduction to Finance	■		Kim,Yonjin		Kishimoto	
Introduction to Marketing	■	Hasegawa		Hasegawa		Hasegawa
Introduction to Operations Management	■	Tachiki		Tachiki		Tachiki
Introduction to Japanese Economy	■	Hirata		Hirata		Hirata
Introduction to Statistics	■	Takahashi,Makoto		Takahashi,Makoto		Takahashi,Makoto
Introduction to Informatics	■		Kodama		Kodama	
Introduction to University Study			Kikuchi		Kikuchi	

<Intermediate/Advanced Courses of Business Administration>

Organizational Management I	■				Nagayama	
Organizational Management II	■	Nagayama				Nagayama
Organizational Behavior I	■		Nishikawa,M.			
Organizational Behavior II	■			Nishikawa,M.		
Human Resource Management I	■		Okunishi		Okunishi	
Human Resource Management II	■	Okunishi		Okunishi		Okunishi
Strategic Management	■		Misawa		Misawa	
International Business I	■				Horaguchi	
International Business II	■	Horaguchi				Horaguchi
Global Business Strategy I	■		Ding			
Global Business Strategy II	■		Ding			
Business Management in Japan	■	Kim,Yongdo		Kim,Yongdo		Kim,Yongdo
Intermediate Accounting I	■		Takahashi,Mioko		Takahashi,Mioko	
Intermediate Accounting II	■	Takahashi,Mioko		Takahashi,Mioko		Takahashi,Mioko
Management Accounting	■			Kitada		
Financial Statement Analysis	■	Fukuda, H.				Fukuda, H.
Corporate Finance	■				Kim,Yonjin	
Investments A	■	Kishimoto				
Investments B	■					Kim,Yonjin
Principles of Marketing	■		Kimura		Kimura	
Service Management	■	Kimura		Kimura		Kimura
Distribution in Japan	■		Yokoyama		Yokoyama	
Operations Management I	■		Tachiki		Tachiki	
Operations Management II	■	Tachiki		Tachiki		Tachiki
Principles of Macroeconomics	■	Hayashi		Hirata/Hayashi		Hirata/Hayashi
Principles of Microeconomics	■		Ohki		Takahashi, R./Ohki	
Japanese Innovation Management	■					Taji
Entrepreneurship	■				TBA	

<Special Topics in Management>

Special Topics in Management A	■	Okamoto		Okamoto		Okamoto
Special Topics in Management B	■					
Special Topics in Management C	■					

<Global Business Courses>

Workshop I	■		Okamoto		Okamoto	
Workshop II	■	Misawa		Misawa		Misawa
Special Topics in Global Business A	■		Misawa	Misawa		
Special Topics in Global Business B	■		Misawa			
Special Topics in Global Business C	■					
Internship (held during the summer)			Okamoto		Misawa	
Seminar		Misawa	Misawa	Misawa	Misawa	Misawa
Seminar		Okamoto	Okamoto	Okamoto	Okamoto	Okamoto

Note: These are subject to change. "TBA" signifies "to be arranged."

* These courses are, in principle, open to all Hosei students including students of Faculty of Business Administration (Japanese-based degree) and foreign exchange students.

** These courses are, in principle, open to students of Faculty of Business Administration (Japanese-based degree) and foreign exchange students.

Introduction to Organizational Management

Kazufumi MISAWA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

The course deals with the basic theory and practice of organizational management. The key concepts of the course include Managerial Decision Making, Organizational Control Process, Leadership in Organizations, and Communication, with a focus on leading and managing processes for problem solving in order to achieve high organizational performances.

The practical problem solving can be powerful tool to issues facing any organizations. It allows organizations to have a common understanding of what defines a problem and what steps are going to be taken in order to overcome the problem efficiently.

One of highly proven ways of identifying and solving problems is the eight steps to practical problem solving developed by Toyota. Using such a fundamental and strategic way to solve problems creates consistency within an organization.

[Goal]

This course will provide assistance to students in building their own organizational, communicational, managerial, and leadership skills, and also enable them to face the challenges of successful solving of complex organizational problems.

The course design does not rely only on abstract theories; rather it involves broad real-life examples. The idea is to appeal to students on a practical level and provide insight and meaningful information for them to succeed in their future "working life".

[Method(s)]

The course uses a combination of lecture, video, guest speech, class discussions, individual/group work and presentations for students to connect course material to current events and/or day-to-day operations. Each class should be interactive and practical in order to bridge the gap between management theories and real-world practices.

To pursue the course objective most effectively, each registered student has to prepare a reaction paper at the end of several lectures. The reaction paper offers students the opportunity to reflect on key learnings.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Course overview	While providing students opportunities to learn organizational management topics in general, the focus of contents here should be on Toyota Eight Steps to practical problem solving. A problem can be defined in one of three ways; anything that is a deviation from the standard, the gap between the actual condition and the desired condition, an unfilled customer need.
2	Step 1: Clarify the Problem	Once you have seen the problem first hand, you can begin to breakdown the problem into more detailed and specific problems. This is also a good time to study and analyze the different inputs and outputs of the process so that you can effectively prioritize your efforts.
4	Step 3: Set the Target	Step three is all about commitment and focus. Your attention should now turn towards focusing on what is needed to complete the project and how long it will take to finish.
5	Step 4: Analyze the Root Cause	Make sure you are considering all potential root causes and addressing them properly. A proper root cause analysis involves you actually going to the cause itself instead of simply relying on reports.

6	Step 5: Develop Countermeasures	You and your team should develop as many countermeasures needed to directly address any and all root causes. Once you have developed your countermeasures, you can begin to narrow them down to the most practical and effective based off your target.
7	Mid-term brainstorming session	The theme of brainstorming session will be announced at the class.
8	Step 6: Implement Countermeasures	Communication is extremely important in step six. Consider implementing one countermeasure at a time to monitor the effectiveness of each. You will certainly make mistakes in throughout your problem solving processes, but your persistence is the key.
9	Step 7: Monitor Results and Process	As mistakes happen and countermeasures fail, you need a system in place to review and modify them to get the intended result. You can also determine if the intended outcome was the result of the action of the countermeasure or just a lucky shot.
10	Step 8: Standardize and Share Success	Now, it is time to set the new processes as the new standard within the organization and share them throughout the organization. Finally, it is time to tackle the next problem.
11	Guest Speech	The guest speaker will be announced during this course.
12	Wrap-up session	We will review whole contents of this course as well as tips for Organizational Management.
13	Term-end presentation #1	-Group and/or individual presentations
14	Term-end presentation #2	-Class discussions -Group and/or individual presentations -Class discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Background readings related to the topic and active participation by students should be expected.

The student is also required to conduct a term paper research on a topic in this course. The theme should be decided in consultation with the instructor. The student must submit the completed term paper by specified due date.

[Textbooks]

Due to this course purpose, regular textbooks are not in use. Instead, appropriate handouts for each topic would be shared in accordance with the guidance by the instructor.

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Class participation: 70%
Term-end presentation: 30%

[Changes following student comments]

We will encourage more interactive learnings among class students based upon comments on previous year reaction papers.

[Others]

This course is relevant in content to Intermediate/Advanced Courses of Business Administration such as Organizational Management I/II, Organizational Behavior I/II.

Any questions or comments would be highly appreciated during/after each class.

[Prerequisites]

None

Introduction to Marketing

Shohei HASEGAWA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

This is an introductory marketing course. Students will learn the basis of business and marketing through reading articles which describe actual company cases. The cases include various companies (manufacturer, service, retailing, internet technology etc.) and strategies (new product, branding, promotion, targeting etc.).

[Goal]

The goal of this class is to obtain basic marketing knowledge. Students will also learn survey, presentation and discussion skills.

[Method(s)]

This class consists of two part.

(1) Group Presentation

A group will present two things. The first is contents of a article previously delivered and the second is company surveys. The presentation group is required to survey the company in the article from various information sources such as newspapers, magazines or websites. The followings are examples of company survey contents.

(a) Business model

(b) Market structure

(c) Market position and competitors

(2) Group Discussion

The lecturer will presents a discussion theme related to the article, after the group presentation. Students discuss it within groups and then express opinions.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Guidance and overview of the course
2	Case (1)	Nintendo: video game company
3	Case (2)	Amazon.com: electronic commerce company
4	Case (3)	Procter & Gamble: consumer goods company
5	Case (4)	ZARA: clothing retailer
6	Case (5)	McDonald's: fast food restaurant
7	Case (6)	Red Bull: energy drink company
8	Case (7)	Disney: entertainment and media company
9	Case (8)	Apple: technology company
10	Case (9)	Coca-Cola: soft drink company
11	Case (10)	Nike: sports businesses company
12	Case (11)	eBay: electronic commerce company
13	Case (12)	Lexus: luxury vehicle brand of Toyota
14	Case (13)	ESPN: sports media company

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

All students are required to read weekly reading materials.

The presentation group is required to prepare a presentation material using PowerPoint.

[Textbooks]

No textbook.

Weekly reading materials or articles will be provided by lecturer beforehand.

Cases in above spring schedule may change depending on the student interests.

[References]

Kotler, Philip and Kevin Lane Keller (2015) Marketing Management (15th ed.), Pearson.

Kotler, Philip and Gary Armstrong (2013) Principles of Marketing (15th ed.), Prentice Hall.

Keegan, Warren J. and Mark C. Green (2014) Global Marketing (8th ed.), Pearson.

and old editions of these books.

[Grading criteria]

Presentation: 40%

Class participation and group discussion: 60%

[Changes following student comments]
not applicable.

[Equipment student needs to prepare]
Laptop PC for presentation.

[Prerequisites]
None

10

英語関係科目

Introduction to Operations Management

Dennis TACHIKI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

Many students are familiar with the Toyota Production System but fewer are aware it is part of the broader business function of operations management (OM). OM is the process of transforming inputs (raw materials, information) into valued-added outputs (goods and services)—in short, the procurement, assembly and distribution of goods as well as services.

In this connection, the main objective of this introductory OM course is for students to develop a functional understanding of the main concepts and methods informing the subject of OM. Furthermore, special attention will be paid to comparing a Japanese monozukuri approach with other countries. This introduction will then form the foundation for the OMI and OMII courses.

[Goal]

By the end of the course the students should be able to:

- Understand the 3 broad areas of OM: strategic, tactical and operational
- Explain the OM concepts, principles and methods in each of these 3 areas

- Acquire critical thinking skills in analyzing the main issues in OM

The acquisition of these skills will be demonstrated through class/group work participation, assignments and reports/presentations.

[Method(s)]

Active Learning is the main teaching approach for this course. Active learning requires the students to take the lead in the learning process with the instructor acting as a facilitator. This will be particularly the case in the second half of the semester. Some examples of active learning are pair-discussion, group work, case studies, simulations, presentations, reaction paper, experiential learning, etc.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Week 1	Course Introduction	· Syllabus · What is OM?
Week 2	Operations Strategy	· Historical Development of OM · Aligning OM Strategies with Corporate Strategy · Measuring Operations Performance · OM Manufacturing and Service Profiles
Week 3	Product Design	· Design of Goods and Services · Product Design Process · Reducing Product Development Lead Time
Week 4	Demand Management	· Handless Phone Case Study · Handless Phone Case Study Presentation
Week 5	Capacity Management	· Types of Processes · Process Flowcharting and Analysis · Capacity Management
Week 6	Inventory Management Services and Material Requirement Planning	· Types of Inventories · Functions of Inventory · Inventory Costs, Risks and Value · MRP/MRP II · Peanut Factory Case Study
Week 7	Facility Layouts	· Material Flow Mapping and Analysis · Theory of Constraints · Layout Design
Week 8	Midterm Examination	Midterm Exam
Week 9	Toyota Production System and Lean Systems	· History of Lean Production · JIT/Kamban Delivery System · Jidoka · Heijunka, Kaizen, Standardization
Week 10	Total Quality Management	· Translating the Voice of the Customer · House of Quality · PDCA Cycle · Statistical Quality Control and Statistical Process Control · Kaizen
Week 11	Customer and Work Flows	· External and Internal Customers Presentation

Week 12	Managing Information Flows	· Concept of Information Flows · Dependent Demand Inventory Management · Enterprise Resource Planning Systems · Automating Process Management
Week 13	Managing Projects	· Project Management Defined · Project Planning and the GANTT Chart · CPM and PERT Project Management Techniques
Week 14	Global Supply Management	· Strategic Role of Supply Management · Purchase Cycle · Make-or-Buy Break-even Analysis

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- CLASS PREPARATION: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class. At a minimum students should understand the keywords and main issues in each weeks reading assignment.

- GROUPWORK: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

[Textbooks]

Joel D. Wisner. 2016 Operations Management: A Supply Chain Process Approach. Sage ISBN 9781483383064

- Please wait to purchase the textbook until after the first class.

[References]

We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand-outs and/or put on reserve at the library.

[Grading criteria]

Students will be graded based on the following criteria:

15% Class participation
15% Group work/Case studies/Simulations
20% Presentations
25% Midterm Examination
25% Final Examination

Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Students are expected to bring to class a computer and/or smart phone to access the Internet.

[Others]

Students (or teams) should try to meet with the teacher at least once during the semester. Office hours will be announced at the first class.

[Prerequisites]

None.

Introduction to Japanese Economy

Hideaki HIRATA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Fri 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course provides an introduction to (1) the Japan's macroeconomic characteristics, (2) the Japan's current economic issues, and (3) the basic economic principles and methods. After providing a brief history of the Japanese economy and the basic analytical tools of economics, it mainly focuses on Japan's labor markets, financial markets, corporate finance and capital investments, international transactions, and economic policies from the 1980s onward. By the end of the semester, you are expected to be able to utilize the theoretical and empirical tools practiced in this class to generate practical policy recommendations for Japan's major economic problems.

[Goal]

This course is designed to provide students with opportunities to gain a basic understanding of the Japanese economy. The particular goals can be summarized as follows:

1. To learn the history of the Japanese economy after WWII
2. To learn the basic features of Japanese households, firms, and the government and to apply conventional economic theory to understand their behaviors
3. To strengthen analytical skills by discussing the strengths and limitations of Japan's corporate system, labor markets, economic policy, and so forth

[Method(s)]

This course mainly comprises lectures, slideshows, in-class activities, and discussions. All class materials are distributed through the online "H'etudes" system.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Syllabus guidelines; an overview of the Japanese economy's postwar macroeconomic performance.
2-3	Japan in the World	The Japanese economy's postwar macroeconomic performance; the nation's interactions with the rest of the world; basic economic statistics, such as GDP and its components.
4	Supply and Demand	Very basic theory of markets, i.e., supply, demand, and equilibrium.
5-6	Labor and Firms	Characteristics of Japanese labor markets and firms; the role of these firms in the labor markets.
7	Money	The role of money circulating in the economy.
8-9	Interest Rates and Capital Formation	The role of interest rates in the economy, particularly their role in explaining corporate capital investments and their accumulation, i.e., capital.
10-11	Growth Accounting and Potential Growth	The potential power of the Japanese economy explained in terms of labor, capital, and total factor productivity
12-13	Government	The role of government in economic policy; long-term and short-term economic policy.
14-15	International Trade and Finance	Japan's exports and imports; the role of cross-border financial transactions with the rest of the world.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned materials and contribute to class discussions.

[Textbooks]

Greg Mankiw (2014), Principles of Economics (7th Edition), Cengage.
David Flath (2014), The Japanese Economy (3rd Edition), Oxford University Press. ISBN: 9780198702405.

You SHOULD NOT buy these textbooks before the first class meeting, since special discount might be available for the students of this lecture.

[References]

1. Papers and newspaper articles will be assigned throughout the semester.
2. Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance.

3. Naoyuki Yoshino et al. (2010), The Post War Japanese Economy, Yuhikaku. ISBN: 9784641163256.

[Grading criteria]

Problem sets: 35%; class participation: 30%; final exam: 35%. If you are a 4th-year student, the weight of class participation can be decreased.

[Changes following student comments]

This is a new class, so no changes have occurred. I tried to design this course to motivate students to be interested in learning economic ideas and to understand why those ideas are powerful.

[Others]

This course has no prerequisites. I strongly encourage students to take Principles of Macroeconomics, Principles of Microeconomics, Business Management in Japan, Japanese Innovation Management, Human Resource Management I/II, and Corporate Finance after taking this course.

[Prerequisites]

None

10

英語関係科目

Introduction to Statistics

Makoto TAKAHASHI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course introduces elementary statistics, covering basic knowledge of descriptive statistics, probability theory and inferential statistics. The knowledge of statistics is essential in any sciences and in the world of business, too. But unfortunately, it is often the case that students don't like it. Perhaps one of the stumbling-blocks is the distinction between descriptive statistics and inferential statistics. The two "worlds" use seemingly common terminologies, but the premises behind them are quite different. I will try hard to make students understand that. To that end, probability theory and simple computer simulations are introduced.

Because of time constraints, I cannot cover estimation of many statistical models such as linear/nonlinear regression models and structural equation models. But I believe that taking this course will lay the foundation to advance to such topics in the future.

[Goal]

After successfully completing this course, students can do the following among others.

- They can "read" and interpret the results of numerical data by drawing graphs or calculating summary statistics.
- They can effectively use Excel and other computer software in the above analysis.
- They can explain the basic ideas of statistical inferences. For example, a mean calculated from a certain dataset is not the same as the true mean under which the dataset was generated. But the former can serve as a good estimate of the latter, and potential magnitudes of a gap can be measured by standard errors, and so on.
- They can guess what is going on when they encounter the estimation results of more advanced statistical models.

[Method(s)]

The class is held in a computer room, and is a combination of lectures and computer exercises. Statistics is a step-by-step subject. So, I urge students to attend every class and to understand the contents well enough within class. To make sure of that, I ask students to do homework almost every week, and at the beginning of the next class I take time for review and Q&A.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	(Part I. Descriptive Statistics) Introduction	What is Statistics? / Drawing graphs from various data
2	Measures of Central Tendency / Dispersion	Frequency distributions / Drawing histograms / Mean, median, mode, variance and standard deviation
3	Relationship between Two Variables	Covariance and correlation coefficient
4	(Part II. Probability) Concepts of Probability	Interpretations and mathematical definition / Permutations and combinations
5	Conditional Probability and Independence	Conditional probability / Independence / Bayes' theorem
6	Random Variables and Distributions	Definition of random variable / Probability function and probability density function / Cumulative distribution function
7	Expectation and Variance of Random Variables	Definitions and some theorems of expectation and variance
8	Important Distributions	Binomial distribution / Normal distribution
9	(Part III. Inferential Statistics) Sampling	Population and sample / Sources of errors / Random sampling / Selection bias
10	Point Estimation	Estimator and estimate
11	Sampling Distributions	Law of large numbers / Central limit theorem
12	Interval Estimation	Sampling distribution of sample mean / Standard error / Confidence interval of mean
13	Hypothesis Testing	Null and alternative hypotheses / Level of significance and p-value / Relationship with confidence interval
14	Review / Final Exam	Review of the course / Evaluation of students' understanding

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

As was stated above, I urge students to understand the contents of each week within class, to review them afterwards, to ask questions in the next class if they have any. In addition, do and submit homework diligently.

[Textbooks]

I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and datasets.

[References]

For your reference, many of my course materials are based on the following books.

· Johnson, Robert and Patricia Kuby, Elementary Statistics, 11th edition (Boston, MA: Brooks/Cole, 2012).

· DeGroot, Morris H., Probability and Statistics, 2nd edition (Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, 1986).

· DeGroot, Morris H. and Mark J. Schervish, Probability and Statistics, 4th edition (Pearson New International Edition, Pearson, 2013).

The course roughly corresponds to Chapters 1 to 9 of Johnson and Kuby (2012). When I think that more rigorous treatment is appropriate, I often count on DeGroot (1986) or its revised version DeGroot and Schervish (2013).

As for statistical software, I use Excel in my lectures and students' homework. Some materials are drawn from the following.

· 日花弘子『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』(東京: SB Creative, 2016) .

Excel is widely used in the business world, and it is easy to handle datasets and to create various types of graphs. Furthermore, it has many statistical functions and can generate random numbers to conduct simulations. Thus, I believe it is enough for this course.

The intuition behind the various statistical concepts can be found in the following.

· Naked Statistics: Stripping the Dread from the Data (Norton, 2013).

This New York Times bestseller is an interesting book showing how fun and useful the statistics is and facilitating the understanding of statistics with everyday life examples.

[Grading criteria]

Homework: 50%

Final Exam: 50%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Others]

Basic knowledge of Statistics will be very useful for your further study in GBP. Probability theory is used not only in Statistics but also in other subjects such as Finance and Economics.

[Prerequisites]

Familiarity of some mathematical concepts and notations at a high-school level, and working skills of Excel are desirable.

Organizational Management II

Susumu NAGAYAMA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is intended to provide theories and practices of organizational management. Forming an organization that has carefully designed structure allows us to pursue higher, more difficult objects, which individuals cannot achieve in their own hands. On the other hand, an organization that is comprised of various types of members might confront conflicts of interests — or make decisions that no one wants to implement. These problems sometimes cause severe consequences to the organization. What kinds of management do we need to solve these problems, and activate organizations to be more effective and efficient? When it comes to managing the organization, we need to examine both micro-organizational mechanisms (i.e., individual and group mechanisms within the organization) and macro organizational mechanisms (i.e., the whole organization, external environment and dynamic process of the organization). We will study the important topics on internal organization and dynamic process management in the spring term.

[Goal]

(1) In your own words, you can explain the basic theories on organizational management to those who have not studied the organizational theories.

(2) You can theoretically analyze the problems and practices of organizations, which are shown in the articles that you read on a daily basis.

[Method(s)]

- Each class proceeds in the following order: learning topics, discussing cases (or engaging in short exercises), giving feedback, summarizing.
- To realize active discussion, making good points or asking questions during class is appreciated (and counts toward your grade).
- A team presentation and a term paper will be required during the class of each term.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Course Instructions	A brief review of the previous term. Course instructions.
2	Learning for Organizational Management	Theoretical thinking and variables.
3	Organizing and Leading 1	Incentives and commitment.
4	Organizing and Leading 2	Classification of leadership styles.
5	Organizing and Leading 3	Group decision making and group dynamics.
6	Organizing and Leading 4	Causes and effects of conflict.
7	Organizing and Leading 5	Team design elements.
8	Organizing and Leading 6	Individual and group creativity.
9	Leading and Controlling 1	Organizational goals.
10	Leading and Controlling 2	Organizational control.
11	Dynamic Processes 1	Organizational growth.
12	Dynamic Processes 2	Organizational learning and knowledge creation.
13	Dynamic Processes 3	Organizational change.
14	Team Presentations and wrap-up	Power point presentations and class discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Read assigned materials prior to each class.
- Prepare a team presentation and a term paper in your designated team.

[Textbooks]

None

[References]

- Daft, R., Murphy, J., & Willmott, H. (2014). Organization Theory and Design: An International Perspective (2nd ed.), Cengage Learning.
- Hitt, M., Black, J.S., and Pater, L. (2013). Management (3rd international ed.), Pearson.
- Robbins, S., De Cenzo, D., and Coulter, M. (2017). Fundamentals of Management (Global 10th ed.), Pearson.

- Robbins, S. and Coulter, M. (2016). Management (Global 13th ed.), Pearson.

[Grading criteria]

- (1) Class Contribution: 30%
- (2) Team Presentation: 40%
- (3) Term Paper: 30%

[Changes following student comments]

Not Applicable

[Others]

Note that learning topics might slightly change depending on class progress or interests.

We embrace interactions — when discussing cases, engaging in exercises, and learning from the instructor.

Relevant courses: Introduction to Organizational Management, Introduction to Strategic Management, Strategic Management, Human Resource Management, and Japanese Innovation Management.

[Prerequisite]

None

10

英語関係科目

Human Resource Management II

Yoshio OKUNISHI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is intended to introduce students to the field of human resource management (HRM). Students learn theories and applications involved in effectively managing people in organizations.

Unlike many other fields in business and economics, practices of HRM are influenced greatly by country-specific factors such as labor law, social customs, economic development stage and workforce structure. So, I will spend most time in explaining practices among Japanese firms. But some common theories and international comparative perspectives are introduced as well.

More specifically, HRM II covers such topics as dismissal, job design and labor-management relations. Furthermore, some current topics in HRM are covered, such as effects of aging and diminishing workforce, non-regular workers, diversity management, work/life balance and globalization.

[Goal]

Successful students will acquire basic knowledge of HRM in Japanese firms, as well as problem-solving and critical-thinking skills in the field of human resources and organizations, both of which are applicable to all types of organizations and jobs in which students will eventually work.

[Method(s)]

For each lecture time, I explain the basic knowledge of a theme, including legal framework, statistical facts and typical perceptions and arguments. Then I encourage students to express their own ideas and discuss them. Occasionally I may ask students for short presentations or reports.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Review of HRM I and Introduction to HRM II	Review of HRM I and the overview of HRM II
2	Separation (1)	Typology and overview of separations
3	Separation (2)	Theory and practices of downsizing
4	Separation (3)	Mandatory retirement in Japan
5	External workforce	Outsourcing and temp agency workers
6	Job Design	Theory and practices
7	Diversity Management (1)	Theory and empirical evidence
8	Diversity Management (2)	Case discussion
9	Working hours and productivity	Theory and practices
10	Work-Life Balance	Theory and practices
11	High-Commitment HRM (1)	Theory and practices
12	High-Commitment HRM (2)	Case discussion
13	Industrial Relations (1)	Theory and legal framework
14	Industrial Relations (2)	Evolution and practices in Japan

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

I urge students to attend every class and to understand the contents well enough within class. To that end, it is essential to review the lecture at home, and to ask questions at the beginning of the next class. Furthermore, occasional preparation for presentations and reports will be necessary.

[Textbooks]

I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and data sets. But just for your reference, many of my course materials are based on the followings.

[References]

- Baron, James N. and David M. Kreps (1999) Strategic Human Resources John Wiley & Sons, Inc. This is an MBA level excellent textbook of HRM, whose methodology is blend of economics and organizational behavior.
- Lazear, Edward P. (1998) Personnel Economics for Managers John Wiley & Sons, Inc.
- Lazear, Edward P. and Michael Gibbs (2015) Personnel Economics in Practice (3rd edition) Wiley. These two are readable textbooks of "personnel economics" by its pioneers.

· Although contents written in English are limited, you could find useful information in the following site of the Japan Institute for Labor Policy and Training:

<http://www.jil.go.jp/index.html>

· Some important Japanese laws are translated into English. See the following site:

<http://www.japaneselawtranslation.go.jp/>

[Grading criteria]

Class participation including mini presentations: 40%

Occasional reports: 20%

Final report/exam: 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

HRM I (Fall) and II (Spring) are taught in a sequential manner. So, it is recommended to take both courses in this order if that is possible. Some basic knowledge of economics and organizational behavior is preferred, but not required.

[Prerequisites]

Among GBP subjects, the followings are closely related to this subject although they are not prerequisites: Introduction to Organizational Management, Introduction to Japanese Economy, Organizational Management I/II and Organizational Behavior I/II.

International Business II

Haruo HORAGUCHI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Mon 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

The Introduction to International Business II course aims to discuss foreign exchange rate movement and multinational finance. It helps students develop the skills required to work for financial institutions and financial divisions of manufacturing companies. Multinational corporations have to forecast and hedge the risks associated with currency depreciation in the global economy. In order to forecast foreign exchange rates, we need to understand the basic logic behind the ways in which foreign exchange rates are determined. This course provides students with the basic concepts to understand the logic behind the movements expressed as foreign exchange rates. Evidence, concepts, and models for understanding foreign exchange rates will be presented. Strategies of multinational corporations will be reconsidered given the fluctuating values of currencies.

[Goal]

By the end of this course, students will learn the basic concepts behind international financial markets. Upon successful completion of this course, students will develop the skills to forecast the changing directions of currency value in a market. The students will also be able to critically evaluate the financial policy of the central bank and finance authority. The historical movement of the Euro, US dollars, Chinese Renminbi, and Japanese Yen will be assessed from the view point of theories of foreign exchange rates. The students will clearly understand the functions of financial institutions and various intermediary services.

[Method(s)]

Classes consist of lectures and group discussions. Much of class time is devoted to examining news paper articles, websites, financial statements, and video materials. Each class will introduce a major theory from international business, which students will apply in the real world after the graduation.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Course introduction	Course outline and introduction. Cases and historical overview of foreign exchange markets. Economic integration. Textbook Chap. 7.
2	Module 1: Basic Background of International Finance	The latest topics on foreign exchange rates. Basic knowledge of the Euro zone and Asian currencies. Textbook Chap. 7.
3	Foreign Exchange Market	Over-the-counter market, spot transactions, outright forward transactions, FX swaps, and options. Textbook Chap. 8.
4	Determinants of Foreign Exchange Rates	The PPP, Big Mac Index, interest rate parity, overshooting, random walk. Textbook Chap. 9.
5	Global supply chain management and PPP	Sourcing, procurement, supply chain management, JIT production system, and functional currency. Textbook Chap. 18.
6	Enterprise Resource Planning (ERP) and consolidation	Outsourcing, vertical integration, Keiretsu, FTZs, and AFTA. Textbook Chap. 18.
7	Foreign Currencies and overshooting	Functions of news. Contagion in the financial turmoil. Textbook Chap. 8.
8	Institutional Aspects of Foreign Exchange Rates: Interest rate parity	The dominance of US dollar, IMF, hard peg, soft peg, floating exchange rates. Textbook Chap. 9.
9	Speculation of Currency: option	Devaluation, major banks in the world, and Nikkei. Textbook Chap. 8.
10	Speculation reconsidered: random work	Binomial distribution, binary and decimal systems, forward exchange rates. Textbook Chap. 9.
11	Accounting management and impairment losses	Assets, liabilities, shareholders' equity, in BS and PL. Textbook Chap. 19.
12	Global Debt and Equity Markets: volatility	The debt, equity, and assets of MNEs. Variance and volatility. Textbook Chap. 10.

- | | | |
|----|-----------------------|--|
| 13 | Regional Headquarters | Reinvestment, global corporate governance. Textbook Chap. 7. |
| 14 | Final Examination | Review of the Concepts and Practices. Review of Textbook Chaps. 7, 8, 9, 10, 18, 19. |

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading assignments should be completed before class discussions. Chapters 8 and 9 in the textbook are the core of the course. In this semester, it is recommended that you read chapters 7, 8, 9, 10, 18, 19 for to prepare for class discussions.

【Textbooks】

John D. Daniels, Lee H. Radebaugh, and Daniel P. Sullivan, International Business: Environments and Operations, Fifteenth Edition, 2015, Pearson Education Ltd.

【References】

Various materials such as news clips will be provided.

【Grading criteria】

Active class participation 30%, mid-term report and/or presentation 30%, and final exam 40%.

【Changes following student comments】

N.A. This is the first time for this course to be offered.

【Equipment student needs to prepare】

PC, Smartphone, dictionary.

【Prerequisites】

None

10

英語関係科目

Business Management in Japan

Yongdo KIM

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 1st | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

The following topics will be covered:

1. Arguments on Japanese management systems by Japanese and foreign scholars,
2. Comparative analysis of management systems among Japanese, US and the South Korean firms,
3. Inter-firm relationships in Japanese manufacturing industries and international comparative analysis,
4. The main bank system in Japan and international comparative analysis.

The objective of this course is to understand business management in Japan more deeply from the perspective of international comparisons and by case studies.

[Goal]

You will learn logical thinking and basic knowledge on business management in Japan and presentation skills by lectures, discussions, group works and presentations.

[Method(s)]

Every week class consists of lecture, discussion on business management in Japan, group works and presentation of case of excellent Japanese companies.

Class procedure:

1. The first half of every class will consist of lecture.
2. The second half will be Q&A and discussions (+group presentation in some classes)

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of arguments on business management in Japan, discussion and making up groups for presentation
2	Misunderstanding on business management in Japan	Lecture and discussion on some topics of business management in Japan
3	Argument on business management in Japan by Japanese scholar(1)	Representative argument that stresses the specialty of business management in Japan by Japanese scholar
4	Argument on business management in Japan by Japanese scholar(2)	Representative argument that emphasizes the generality of business management in Japan by Japanese scholar
5	Argument on business management in Japan by foreign scholar(1)	Representative argument that stresses the specialty of business management in Japan by foreign scholar
6	Argument on business management in Japan by foreign scholar(2)	Representative argument that emphasizes the generality of business management in Japan by foreign scholar
7	Overview of business management in post-war Japan	Characteristics inside firms and between firms
8	Comparative analysis of business management between Japan and US(1)	Do "the three sacred treasures" of industrial relations exist only in Japan?
9	Comparative analysis of business management between Japan and US(2)	Commonalities between US and Japanese firms
10	Inter-firm relationships in the Japanese automobile industry(1)	Its characteristics and the process of its formation and development
11	Inter-firm relationships in the Japanese automobile industry(2)	Comparative analysis between US and Japan
12	Inter-firm relationship in Japan's steel industry	The case of transactions in steel products for autos and ships in the high economic growth period
13	Inter-firm relationship in semiconductor industry	The case of co-development between Japanese semiconductor companies and customers

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 14 | The main bank system in Japan | Its characteristics and change in recent times and comparison between Japan and Germany |
|----|-------------------------------|---|

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Please read previously assigned references for the class of every week.

[Textbooks]

No prescribed textbooks.

[References]

Yongdo Kim(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Edward Elgar Publishing
James C. Abegglen (2006). 21st-century Japanese management: New systems, lasting values, Palgrave Macmillan
James C. Abegglen (1960). The Japanese factory, The Free Press.
Hiroshi Hazama (1997). The history of labour management in Japan, Macmillan
Kazuo Koike(1996). The economics of work in Japan, LTCB International Library Foundation
William G. Ouchi (1981). Theory Z: how American business can meet the Japanese challenge, Addison-Wesley
Andrew Gordon (1985). The evolution of labor relations in Japan: heavy industry, 1853-1955, Harvard University
Sanford M. Jacoby (1985). Employing bureaucracy: managers, unions, and the transformation of work in American industry, 1900-1945, Columbia University Press
Mari Sako (1992). Prices, quality, and trust:inter-firm relations in Britain and Japan, Cambridge University Press
Takao Shiba and Masahiro Shimotani, eds. (1997). Beyond the firm: business groups in international and historical perspective, Oxford University Press
Masahiko Aoki and Hugh Patrick, eds. (1995).The Japanese main bank system: its relevance for developing and transforming economies,Oxford University Press

[Grading criteria]

Term paper(40%)

Presentation(30%)

Class participation(30%)

[Changes following student comments]

This course is being held for the first time.

[Prerequisites]

None

Intermediate Accounting II

Mioko TAKAHASHI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is a sequel to Intermediate Accounting I. Topics that were not covered in Intermediate Accounting I will be covered.

The objective of this course is to provide students with a sufficient understanding of the theory and practice underlying the measurement and presentation of financial information in accordance with Generally Accepted Accounting Principles (GAAP). To help understand how GAAP is trying to measure and present business transactions in financial statements, underlying business transactions will be identified first and then technical details of GAAP will be explained.

In addition to learning accounting concepts, methods and rules, how management's incentives can influence the decisions and estimates that are made when reporting financial statements will be discussed.

[Goal]

Students will be able to understand

- the business transactions and economic events that firm engage in
- how business transactions and economic events are recognized and measured in the financial statements

[Method(s)]

Important issues with respect to each topic will be examined using presentation slides. Concepts and examples will be discussed and short quizzes will be given in class. Questions and comments are welcomed at any time during class.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Intangible Assets	Characteristics, valuation, and amortization of intangible assets.
2	Current Liabilities and Contingencies	Nature, valuation and reporting of current liabilities. Accounting for gain and loss contingencies.
3	Long-Term Liabilities	Accounting for bond issuances, extinguishment of debt and long-term notes payable.
4	Stockholders' Equity	Corporate form and the issuance of shares of stock. Accounting and reporting of reacquisition of shares and dividends.
5	Dilutive Securities and Stock Warrants	Accounting for the issuance, conversion, and retirement of convertible securities. Accounting for stock warrants.
6	Basic and Diluted Earnings per Share	Accounting and reporting for stock compensation plans. Computation of basic and diluted earnings per share.
7	Investments	Accounting issues related to investments in debt and equity securities.
8	Accounting for Income Taxes	Fundamentals of accounting for income taxes.
9	Accounting for Net Operating Losses	Accounting for loss carrybacks and loss carryforwards.
10	Accounting for Pensions and Postretirement Benefits:part1	Fundamentals of pension plan accounting.
11	Accounting for Pensions and Postretirement Benefits:part2	Accounting and amortization of prior service cost, unexpected gains and losses.
12	Accounting for Leases	Nature, economic substance and advantages of lease transactions. Accounting for leases by the lessees.
13	Accounting Changes and Error Analysis	Accounting for changes in accounting principles, estimates and changes in the reporting entity, and correction of errors.
14	Wrap up and Review	Wrap up and review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Assigned materials that will be covered should be read prior to class. It will be assumed that the required chapters have been read and short quizzes will be given during class.

[Textbooks]

INTERMEDIATE ACCOUNTING, by Kieso, Weygandt & Warfield (16th edition), Wiley.

<http://www.wiley.com/WileyCDA/WileyTitle/productCd-EHEP003384.html#student>

eBook version is recommended.

[References]

References will be provided when necessary.

[Grading criteria]

The course grade is based on following criteria;

- Classroom discussions (30%),
- Quizzes (20%)

-End of term exam (50%)

Taking the end of year exam will not be allowed in the case of 4 absences or more.

[Changes following student comments]

This is a new course. Students comments are welcomed.

[Others]

Basic knowledge of financial accounting is necessary to understand and achieve the goal of this course. Taking the Introduction to Accounting and the Intermediate Accounting I course in advance is highly recommended. The course schedule is subject to change.

[Prerequisites]

Introduction to Accounting, Intermediate Accounting I

10

英語関係科目

Financial Statement Analysis

Hiroshi FUKUDA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4

Notes :

【Outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In class we focus our attention on some basic and important ratios and other analytical tools.

【Goal】

After studying Financial Statement Analysis, you should be able to:

1. Recognize and define the main elements(stock) and ratios on the balance sheet of a corporation.
2. Recognize and define the principal elements(flow) and ratios on the income statement of a corporation.
3. Recognize and define the principal elements(flow) and ratios on the cash flow statement of a corporation.
4. Compute and interpret basic and important financial ratios that would be useful to each stakeholder.

【Method(s)】

This course is comprised partly of lectures, practices, and presentations by students. In each class, the instructor will first explain the topic of the day and students will do exercises. Participants are also required to make a presentation about corporate financial strength.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course explanation
2	BS framework	Concepts of the balance sheet and practice
3	IS and CFS framework	Concepts of the income statement and cash flow statement and practice
4	Database and other company information	How to access and use a database
5	Profitability ratios - on the income statement	Return on sales, gross profit margin, concepts and practice
6	Profitability ratios - on the balance sheet and the income statement	Return on assets, return on equity, concepts and practice
7	Liquidity ratios - on the balance sheet	Current ratio, acid-test ratio, concepts and practice
8	Liquidity ratio - additional computation	Cash ratio, concepts and practice
9	Leverage ratios	Debt ratio, times interest earned ratio, concepts and practice
10	Efficiency ratios	Inventory turnover, accounts receivable turnover, day's sales in receivables, concepts and practice
11	Valuation ratios	Earnings per share(EPS), price/earning ratio(P/E), concepts and practice
12	Additional valuation ratios	Dividend yield, payout ratio, concepts and practice
13	Final thoughts and review of the course	Q & A, practice
14	Final exam	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparing for class by reading materials will be key to succeeding in this course.

【Textbooks】

Textbooks are not used in this course. Handouts based on the following reference book will be distributed in class.

【References】

Axel Tracy(2012). *Ratio Analysis Fundamentals(2nd Edition)*, AF.
Other materials will be announced in class.

【Grading criteria】

Class contribution(presentation, discussion): 40%,
Final Exam: 60%

【Changes following student comments】

N.A.

【Equipment student needs to prepare】

As free financial statements are available on the internet, a personal computer will expedite your work in class.

【Others】

Since basic knowledge of Accounting is required, it is advisable that students have taken 'Introduction to Accounting'. Please join this class if you are willing to attend classes on a regular basis and do exercises during class.

【Prerequisites】

Introduction to Accounting

Investment A

Naoki KISHIMOTO

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Fri 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

【Outline and objectives】

First, students will be given an easy and concise introduction to basic statistics concepts, such as expectation, standard deviation, and correlation coefficient. Building on these concepts, students will learn an introductory modern portfolio theory, which proposes a method for building an optimal portfolio to a particular investor based on the expectation and the standard deviation of his or her portfolio. Furthermore, students will be exposed to the tradeoff between risk and return in investments, where the discussion will be focused mainly on a particular model for the tradeoff between risk and return, i.e. the Capital Asset Pricing Model.

【Goal】

1. Students can identify which types of securities had the highest return and which had the greatest volatility.
2. Students can compute the average return and the volatility of a security or a portfolio from historical data.
3. Students can understand the tradeoff between risk and return for large portfolios.
4. Students can describe the differences between common and idiosyncratic risk.
5. Students can explain how diversified portfolios remove idiosyncratic risk.
6. Students can calculate the expected return and standard deviation of a portfolio.
7. Students can explain the relation between systematic risk and the market portfolio.
8. Students can measure systematic risk.
9. Students can explain the Capital Asset Pricing Model (CAPM).

【Method(s)】

This course will be given by lecture.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and an overview	Administrative business. In addition, students will see an overview of this course.
2	Computation of average returns	Students will learn how to compute the average return on a security or a portfolio.
3	Computation of historical volatility	Students will learn how to compute the volatility of a security or a portfolio from historical data.
4	Normal distribution	Students will see a concise explanation of normal distribution.
5	Historical tradeoff between risk and return	Students will learn how the return and volatility of a portfolio are historically related to each other.
6	Common and idiosyncratic risk	Students will see how the total risk of a portfolio is decomposed into common and idiosyncratic risk. In addition, they will understand the significance of this decomposition.
7	Diversification in stock portfolios	Students will learn how diversification affects the average return and volatility of a stock portfolio.
8	Practical application of the portfolio theory	Students will see practical applications of the portfolio theory.
9	Expected return of a portfolio	Students will learn how the expected return of a portfolio is related to the expected returns of individual assets that comprise the portfolio in question.
10	Variance and standard deviation of a portfolio	Students will learn how the variance or standard deviation of a portfolio is related to the variances and standard deviations of individual assets that comprise the portfolio in question.
11	Variance and standard deviation of a portfolio	Students will learn how the volatilities of individual assets are reflected in the volatility of the portfolio that is composed of those individual assets.

12	Measuring systematic risk	Students will learn how the systematic risk of a security or a portfolio is measured.
13	CAPM	Students will learn the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
14	Practical application of the CAPM	Students will see practical applications of the CAPM.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned pages of the text in advance. In addition, they must solve the homework problems and submit them to the instructor in time.

【Textbooks】

Jonathan Berk, Peter DeMarzo, and Jarrad Harford, Fundamentals of Corporate Finance, 3rd edition, Global edition, Pearson Education, 2015.

【References】

None.

【Grading criteria】

Participation in class discussion (20%), homework assignments (20%), and quizzes (60%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Prerequisites】

Introduction to Finance is a prerequisite. Introduction to Statistics is not a prerequisite but a course the instructor strongly recommends students to take before or concurrently with Investment A.

10

英語関係科目

Service Management

Junko KIMURA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 5th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

The theme of this class is to research and understand Service Management theories from both Marketing and consumer behavior perspectives.

Organizations and companies would differentiate themselves from competitors only when they create customer values. The students of this class learn the logic of value creation.

[Goal]

By actively participating in this class, students can acquire the following skills:

- 1) bridge theories to specific phenomena
- 2) think logically
- 3) use qualitative methodologies for research, and
- 4) argue and explain theoretical and practical findings to others

[Method(s)]

Recently many researchers in Marketing focus on Service Management regarding it as competitive advantage. Not only service industry but also manufacturers and retailers try developing and innovating business model for creating customer value.

Using specific phenomena related to customer value creation in Japan and other countries, students will learn theoretical frameworks and apply them to the phenomena to explain the reality.

Students will use qualitative methodologies, mainly interviews and fieldwork to gather primary data to make presentations by using their own legs. (Students will not be permitted to use secondary data from the Internet unless it is statistical data.)

Assignments will be given and each student will make his/her own presentation respectively. Group projects will be assigned for the final presentation. Each group will choose one product/service and research how the company was successful in Service Profit Chain perspective.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Basic Concepts of Marketing
2	What is Marketing?	Basic Concepts of Marketing
3	Marketing myopia	Avoid Marketing myopia
4	Marketing myopia	Creating customer value
5	Service Profit Chain	Theoretical framework of Service Profit Chain
6	Service Profit Chain	Theoretical framework of Service Profit Chain
7	Midterm Presentation	Students groups present their research and findings
8	Service Innovation	Case Study: CRAI
9	Service Innovation	Case Study: CRAI
10	Intercultural Service Management	Case Study: Panasonic and Fnac
11	Intercultural Service Management	Case Study: Panasonic and Fnac
12	OMOTENASHI	Case Study: Kyoto KAGAI
13	OMOTENASHI	Case Study: Kyoto KAGAI
14	Final Presentation	Students groups present their research and findings

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students need to contribute to class discussions by conducting

- 1) Project meetings with group members outside classroom
- 2) Fieldworks
- 3) Interviews toward consumers and companies

[Textbooks]

No textbooks

[References]

Materials would be distributed in class.

[Grading criteria]

Grade is decided with three components

- 1) Class Participation (Arguments and remarks you make in class)70
- 2) Group Project 20 (peer evaluation)
- 3) Individual Assignment 10

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Personal Computer with PPT and WORD

[Prerequisites]

Introduction to Marketing and Principles of Marketing are recommended to be studied as prerequisites.

Operations Management II

Dennis TACHIKI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

Managing the flow of goods, people, money and information across national borders has become the new challenge for operations managers. So what if you are requested to evaluate and improve the operations management at a local company going global, how would you go about doing it? The traditional operations management answer is to focus on cost and speed issues; but in the 21st century, operations managers must also effectively respond to the challenges presented by globalization, sustainability, ethical conduct, effective communication, and system design. Doing this calls for operations managers to excel in the business, technical, and interpersonal aspects of their work as they actively support the mission and vision of their organization. In addressing these issues, the main objective of this course is to leverage the principles learned in the Introduction to Operations Management course and the tools/methods learned in Operations Management I course, to develop a PROJECT, selected by the students, that is applicable in the real world.

[Goal]

By the end of this course, students should be able to:

- TEAMWORK: Understand the skills necessary to cooperate and coordinate an international Project.
- PROJECT MANAGEMENT: Design and implement project-based operations management activities within a company and/or across national borders. In this connection, students will learn how to draft a Plan Design Matrix and related documents.
- MANAGEMENT: Appreciate the emerging challenges faced by operations managers in a global economy.

[Method(s)]

Active Learning is the main teaching approach for this course. Active learning requires the students to take the lead in the learning process with the instructor acting as a facilitator. Some examples of active learning are pair-discussion, group work, case studies, simulations, presentations, reaction paper, experiential learning, etc. In this course, particular attention is paid to an experiential learning approach where students plan and do, then check and reflect on their Projects. This will be particularly the case in the second half of the semester.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Week 1	Course Introduction	· Syllabus · Project Management Case Studies · Project Instructions
Week 2	Project Team	· Team Formation · What is brainstorming?
Week 3	Project Theme	· Project Theme Brainstorming · Theme Discussion and Selection · Introduction to PDM (project design matrix)
Week 4	Project Design Matrix (1)	· Background Research · Background Research -> Narrative Summary · Outputs -> What is an Indicator?
Week 5	Project Design Matrix (2)	· Statement of Work -> Activities · Background Research -> Indicators, Means of Verification, Assumptions
Week 6	Workshop	· PowerPoint Slide Format+ Alternative Software - Project Design Matrix Presentations · Presentation Skills · Root Cause Analysis
Week 7	Project "PLAN"	· Work Breakdown Structure · CPM/PERT Flow Chart · Critical Path Analysis
Week 8	PLAN (2)	· Evaluation and Monitoring · Staffing and Resources · Revise PDM
Week 9	PLAN (3)	· What is a GANTT Chart? · Plan of Operation (PO) · 5W1H of GANTT Chart
Week 10	Workshop	- Project Mid-term Presentation · Mondai Ishiki · Data Collection

Week 11 Project "DO"

- Simulation and/or Field Work Progress Report

Week 12 DO (2)

- Kaizen Discussion
- Simulation and/or Field Work Data Collection

Week 13 Project "CHECK"

- Kaizen Discussion
- Preliminary Impact Report
- Data Analysis

Week 14 Project "ACTION"

- Kaizen Discussion
- Final Project Report Presentation
- Kaizen: Reflection Discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

· CLASS PREPARATION: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class. Students are fore-warned they should allocate time outside the classroom to gather data, prepare reports and etc.

· GROUPWORK: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

[Textbooks]

The readings for this course will either be available on-line, through the library and/or handouts.

[References]

Joel D. Wisner. 2016 Operations Management: A Supply Chain Process Approach. Sage ISBN 9781483383064

[Grading criteria]

Students will be graded based on the following criterions:

15% Class participation

15% Group work

10% Project Theme Presentation and Report

10% Project Design Matrix Presentation and Mid-term Report

50% Final Project Report

Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students are expected to bring to class a computer and/or smart phone to access the Internet.

[Others]

Students (or teams) should try to meet with the teacher at least once during the semester. Office hours will be announced at the first class.

[Prerequisites]

Operations Management I or teacher's permission

10

英語関係科目

Principles of Macroeconomics

Naotsugu HAYASHI

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

Macroeconomics analyzes the economy as a whole theoretically and empirically, focusing on the state and dynamic trend of the economy based on macroscopic aggregates such as national income and prices. This course explains in plain terms the macroeconomic system, theory and policy. The detailed themes of this course are the following;
What are national income and prices, and the system of national accounting? How do households and businesses manage income and consumption? How do companies make investments? How are equilibria determined in the product market, the money market, and the labor market? How does the government balance tax revenues and fiscal expenditures and conduct monetary and fiscal policies? How does the government stabilize business cycles and promote economic growth? It will be very easily understood even by students whose major is not economics.

[Goal]

The targets of this course for students are the followings:

- 1: To understand and explain more clearly and deeply macroeconomic concepts and theories,
- 2: To have more interest in and analyze actual macroeconomic problems such as an increase in income level, equality of income and asset, economic growth, business cycle, inflation and deflation, tax increase, zero interest rate policy, etc.,
- 3: To make use of these studies for the daily life and future job seeking.

[Method(s)]

This course uses effectively a combination of lectures with Power Point slides, short quizzes, group discussions, short reports based on these discussions, to practice active learning. Each class is supposed to be interactive and each student is expected to prepare for classes by reading teaching materials beforehand, to take a part in classes actively, and to review the contents of classes.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Class 1	Course Introduction and Overview	Introduction to this course.
Class 2	The Economy and Economics	To explain briefly fundamental notions and concepts of macroeconomics.
Class 3	Market economy and Money	To study basic notions and concepts of the market economy and money.
Class 4	National Income and National Accounting	To explain briefly basic concepts of national income and national accounting.
Class 5	Consumption and Savings	To study fundamental concepts and theories of consumption and savings.
Class 6	Investment and Capital	To explain basic concepts and theories of investment and capital.
Class 7	Equilibrium in the Product Market	To analyze how the equilibrium is determined in the product market.
Class 8	The Demand for and the Supply of Money	To study the demand for and the supply of money.
Class 9	IS=LM Analysis, Monetary and Fiscal Policies	To analyze simultaneous equilibrium in the product and money markets, monetary and fiscal policies.
Class 10	Labor Market and General Equilibrium	To study general equilibrium, including that in the labor market.
Class 11	Inflation, Deflation and Unemployment	To explain mechanisms of inflation, deflation and unemployment.
Class 12	Business Cycles	To analyze the processes of business cycles.
Class 13	Economic Growth	To investigate the processes of economic growth.
Class 14	Review and Final Examination	To review the classes and final exam.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Readings should be completed before class.

[Textbooks]

Reading materials and other handouts will be distributed in class.

[References]

ECON 104 - INTRODUCTION TO MACROECONOMICS, David Colander, McGraw-Hill Education, 2016

Introduction to Macroeconomics, Stanley Fischer, McGraw-Hill College, 1988

The Cartoon Introduction to Economics 2: Macroeconomics, Grady Klein, Yoram Bauman, Hill & Wang Pub, 2010

[Grading criteria]

Students will be evaluated on attendance and class participation (10%), short reports based on group discussions (40%), and a final examination (50%).

[Changes following student comments]

Students' opinions will be appreciated.

[Equipment student needs to prepare]

Students should prepare a notebook.

[Prerequisites]

None

[Related Subjects]

Principles of Microeconomics

Workshop II

Kazufumi MISAWA

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Mon 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

One of most important skills which companies want from business students is Digital Business Management. This course is structured to give students basic, fundamental understandings of digital impact on businesses. The course provides students with a wide variety of contemporary topics in digital technology and management, most of which have been in ongoing discussion inside many companies globally. This course also provides students with opportunities for learning facilitation tools and techniques at workshops/meetings. Each class should be interactive and practical in order to bridge the gap between theories and real-world practices.

In particular, topics in this term will include;

- Internet of Things (IoT)
- Artificial Intelligence (AI)
- Robotics
- Digital Engineering
- etc.

[Goal]

To present a clear view of digital technology' roles in Japanese/global businesses today, this course takes the digital management point of view with emphasizing the creation and implementation of strategically important initiatives in organizations. The course should be of particular interest to those interested in understanding IT related issues which most companies are facing with, and involving themselves with practices which are likely to play a major role. Students in this class will be able to develop expertise in complex business situations by utilizing facilitation skills and techniques for meetings/workshops.

[Method(s)]

The course uses a combination of lecture, video, guest speech, individual/group work, and class discussions for students to connect course material to current events in business.

At almost every class, we learn and use some of workshop facilitation techniques such as brainstorming, reverse-brainstorming, paired listening, plus-minus-implications, working in pairs or trios, urgent/important grid, etc. Students are strongly encouraged to take proactive roles at each class workshop.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Topic #1 Digital technology and global market trends	-IoT highlights -AI highlights -Robotics highlights
3	Topic #1 Digital technology and global market trends	-The consumer of the future -Demographic shifts -Behavioral trends
4	Topic #1 Digital technology and global market trends	-Commercial excellence case examples -Nike -Netflix
5	Topic #2 Digital transformation	-IoT application examples in industrial sectors -Airlines cases -Automotive cases
6	Topic #2 Digital transformation	-Macro forces driving digital transformation -Customer needs shift -Data as advantage
7	Topic #2 Digital transformation	-Best practice examples -Google case -Nike case
8	Topic #3 Factory of the future	-Digital Engineering -Computer-aided design -Collaboration tools
9	Topic #3 Factory of the future	-3-D printing -Advanced robotics -case examples
10	Topic #3 Factory of the future	-Industry 4.0 -Implications to Japanese companies
11	Topic #4 Digital operations	-AI trends -Big data trends -Case examples

12	Topic #4 Digital operations	-Augmented reality -Virtual reality -Case examples
13	Topic #4 Digital operations	-From lean to digital -The digital disruption of operations
14	Term-end reflection session	-Individual, short presentation on his/her term-end reflection -Class discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Background readings related to the topic and active participation by students should be expected.

The student is required to conduct a short presentation by individual on his/her term-end reflection. The student must submit the completed presentation material by specified due date.

[Textbooks]

Due to this course purpose, regular textbooks are not in use. Instead, appropriate handouts for each class would be shared in accordance with the guidance by the instructor.

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Class participation: 75%

Term-end presentation: 25%

[Changes following student comments]

Due to a new course this year, no feedback from the past class.

[Others]

This course is relevant in content to "Special Topics in Global Business B" and "Strategic Management". Neither relevant course should be prerequisites for taking this course.

Any questions or comments would be highly appreciated during each class.

[Prerequisites]

None

10

英語関係科目

Special Topics in Management A

Keiko OKAMOTO

Term : Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : Fri 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is designed to understand the marketing strategies of fashion companies. The class focuses on the structure of the world-wide textile/apparel industries and global fashion business by observing historical and geographical development of the textile and apparel industries and present business climates through political-legal, economic, and social-cultural environments. Students will learn how the fashion companies differentiate themselves from their competitors.

[Goal]

Students will learn about various fashion business operations in the world in comparison with Japanese counterparts. Students will investigate marketing strategies of a certain company as a class project and also look into the present problems of the industries. The goal of this class is to be able to discuss the future possibilities of the industries.

[Method(s)]

Lectures, Case Studies, Discussions, Workshops, and a Class Project & Presentation.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Japanese Textile and Apparel Industries	Strategic management of Japanese apparels, department stores, and speciality stores.
3	History of Japanese Industries	Japan's contribution to the global economy. How have the roles of the Japanese textile and apparel industries been changed?
4	European & American Textile and Apparel Industries	Luxury brands in Europe and mass market brands in the United States. Business between Europe and the United States.
5	Fashion Business in the Global Economy	How did the world textile/apparel industries come to unite in one big global fashion market? Examples are European luxury brands and Fast Fashion.
6	Textile and Apparel Industries in Asian Countries	Asian countries as production centers and as retail markets. Communication and contracts among people from different cultural backgrounds.
7	Fast Fashion Class Project I	Global fashion retail operations and their business in Japan. How do Japanese companies compete with them? Details of the class project will be given in class.
8	Sewing or Shoe Factory Operations/ A Guest Speaker	Sewing factory operations in Japan and overseas. Is "Cheaper" the most important aspect of the product? What else needs to be taken into consideration as a manufacturer and as a consumer?
9	Quality Control	Quality control & assurance, or perceived qualities. Quality doesn't have a fixed standard. It's one of the marketing strategies.
10	CSR, Code of Conduct	Recent trends for "Corporate Social Responsibilities & Code of Conduct". What did Nike, Walmart, and Uniqlo do?
11	Tariffs & Quotas, and Logistics	Government policies and trade agreements that affect prices.
12	Cost Calculation Class Project II	Cost calculation and the target retail price. Class Project discussion.
13	Japanese Kimono Industry	The kimono industry & kimono textiles. The kimono in the global art scene.
14	Class Project Presentation Wrap up	Class Project presentation.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparation such as web research and readings are required.

[Textbooks]

N/A

[References]

Kunz, Grace I., Garner, Myrna B. *Going Global: The Textile and Apparel Industry*. Fairchild Books, 2016. (Will be reserved in the library)
Cline, Elizabeth I. *Overdressed: The Shockingly High Cost of Cheap Fashion*. Rivoli, Pietra. *The Travels of a T-shirt in the Global Economy: an Economist Examines the Markets, Power and Politics of World Trade*. John Wiley & Sons, Inc. 2005.
Thomas, Dana. *Deluxe: How Luxury Lost its Luster*. Penguin Books Ltd. 2007.

[Grading criteria]

Class Participation & Reaction Paper (or homework) 40%

Class Activities or Fieldwork Report 15%

Class Project & Summary Submission 30%

Class Presentation 15%

*Fieldwork may be replaced by other activities depending on the class size.

[Changes following student comments]

N/A (This is a new class)

[Equipment student needs to prepare]

PowerPoint may be used for the class presentation.

[Others]

Class attendance is important.

[Prerequisites]

None

Introduction to Strategic Management

Naoki ANDO

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

Why do some firms succeed and others fail? Competitive strategy of firms explains a substantial part of their success and survival in markets. This course introduces students to key concepts and frameworks of strategic management. At the end of this course, students will be able to understand how firms gain competitive advantages and compete with rivals. The contents of this course will become a basis for studying other courses on strategic management.

[Goal]

Objectives of this course are:

1. To learn how to analyze firms' external environments and internal resources.
2. To understand business level and corporate level strategies.
3. To understand competitive actions and responses of firms.
4. To build skills in analyzing firms' success and failure.
5. To develop a capacity to think strategically.

[Method(s)]

Each session consists of lecture and discussion. Lecture introduces students to basic concepts and frameworks. Discussion and in-class exercises with regard to the concepts and frameworks, as well as case analysis, are conducted.

In addition, students work on a team project during the semester. A team consists of 3-4 students. Each team is required to conduct and write up a case analysis. In week 14, teams make a presentation of the project. Details regarding the team project will be announced in class.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Course overview
Week 2	What is strategy?	Definition of strategy and competitive advantage
Week 3	Analysis of external environments(1)	Analysis of general and industry environments
Week 4	Analysis of external environments(2)	Five forces model, the threat of potential entrants
Week 5	Analysis of external environments(3)	The threat of industry competitors, substitutes, suppliers, and buyers
Week 6	Analysis of external environments(4)	Application of Five forces model
Week 7	Analysis of internal resources (1)	Definition of resources, capabilities, and core competence
Week 8	Analysis of internal resources (2)	Resources and capabilities to gain and sustain competitive advantages
Week 9	Analysis of internal resources (3)	Application of the resource-based view
Week 10	Project proposal	Proposal of team projects
Week 11	Business level strategy (1)	Whom and what to serve
Week 12	Business level strategy (2)	Cost leadership strategy
Week 13	Business level strategy (3)	Differentiation strategy
Week 14	Presentation of projects	Final presentation of team projects

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students read assigned readings and cases. They also work on the team project with team members.

[Textbooks]

Hitt, A.H., Ireland, R.D., and Hoskisson, R.E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization: Concepts and Cases (12th ed). Cengage Learning: CT.

More information about textbooks will be announced in week 1.
Reading materials are distributed in class.

[References]

Barney, J.B. & Hesterly, W.S. 2012. Strategic Management and Competitive Advantage: Concepts and Cases. Pearson Education: NJ.

[Grading criteria]

Class participation: 50%

Class participation is evaluated based on active participation in discussion and in-class exercises and contribution to the class.

Team project: 50%

More information regarding the team project will be announced in class.

[Changes following student comments]

More time will be allocated to discussions.

[Others]

This course provides a basis for other courses on strategic management.

[Prerequisites]

None.

10

英語関係科目

Introduction to Accounting

Hirotsugu KITADA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 1st | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is designed to provide a basic understanding of accounting, including introductory accounting concepts, principle, and procedures. Specific attention will be devoted to the four financial statements and frameworks for understanding them, as well as ways in which to prepare financial data. Students will be expected to apply these skills to the analysis of real companies, and to interpret their respective financial statements accordingly. These cases will enable students to grasp the importance of accounting knowledge in the business world, to understand current events in terms of accounting measurements, and to communicate effectively with other professions.

[Goal]

Upon successful completion of the course, students should be able to:

- Analyze a company's annual report
- Draw conclusions about profitability, efficiency, liquidity, and solvency
- Record basic debt-credit journal entries
- Prepare simple financial statements

[Method(s)]

The course begins with an introduction to the basic terminology of accounting, as well as the frameworks used to interpret financial data. It then explains four financial statements: balance sheet, income statement, statement of stockholders' equity, and statement of cash flow. Finally, the course spends the last few weeks outlining the accounting cycle, including the debit-credit system, adjusting, and closing journal entries. The course is recommended for students who have an interest in accounting and finance as well as in any non-accounting areas. The implications of accounting for the real world are ubiquitous, both in personal and professional capacities, and students are encouraged to draw connections between formal instruction and practical hands-on application. This course is taught primarily through lecture and exercise, and interactive class participation strongly encouraged.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Week1	Introduction	- Basic concepts of accounting - The for financial statements
Week2	Basic concepts of financial statement	- Basic financial analysis ratios, - Accounting principles and standards
Week3	Balance sheet 1	- Assets - Liabilities - Shareholders' equity
Week4	Balance sheet 2	- Liquidity and solvency ratio - Trend and common-size analysis for balance sheet
Week5	Income statement 1	- Expenses - Revenue
Week6	Income statement 2	- Profitability ratio - Trend and common-size analysis for income statement
Week7	Intermediate exam	- Balance sheet - Income statement - Liquidity, solvency and profitability ratio
Week8	Statement of stockholders' equity 1	- Common and preferred stock - Par value and additional paid in capital
Week9	Statement of stockholders' equity 2	- Retain earnings - Treasury stock
Week10	Statement of cash flows 1	- Operating, investing and financing activities - Direct and indirect method for computing cash flow
Week11	Statement of cash flows 2	- Interpret cash flow - Trend and common-size analysis for cash flow
Week12	Inventory and property, plant and equipment 1	- Cash and cash equivalents - Account receivable
Week13	Inventory and property, plant and equipment 2	- Inventory - Property, plant, and equipment
Week14	Accounting cycle	- 10 steps of accounting cycle - Debt-Credit journal entries

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Readings and/or problems are assigned for each class. You should come to class prepared to discuss your analysis of the cases and its underlying problems. Regular class participation is critical to the learning process for both you and your classmates.
- Additional assignments will either be discussed in class or presented as additional cases for your benefit. I will disclose assignments for class discussion prior to their respective lectures.

[Textbooks]

Schoenebeck, K. P., & Holtzman, M. P. (2012). Interpreting and analyzing financial statements. Pearson Higher Ed.(6th Edition)

[References]

No thing in particular however, students are welcome to access topics concerning this course and its objectives in other related texts. The instructor is at liberty to provide further materials during the course of instruction.

[Grading criteria]

Grades will be distributed according to the following weights:

Class Participation 20%

Midterm1 20%

Midterm2 20%

Final Exam 40%

[Changes following student comments]

I will cover less topics than last year to give more time to each to be covered.

[Prerequisites]

None.

Introduction to Finance

Yongjin KIM

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

【Outline and objectives】

This course aims to equip students with the underlying concepts and analytical tools of finance necessary in subsequent finance courses. More emphasis will be placed on how to calculate the present and future values of cash flows and how they can be applied to the valuation of bonds and stocks, among a broad range of their applications in both corporate finance and investments.

【Goal】

Upon completing this course, students will be able to

- (1) calculate the present and future values of cash flows.
- (2) understand the concepts of compounding and discounting.
- (3) understand the determinants of interest rates.
- (4) understand how to value bonds.
- (5) understand how a bond price is related to its yield to maturity.
- (6) understand why bond prices change.
- (7) understand how to value stocks.
- (8) understand the differences between bonds and stocks in terms of cash flows.

【Method(s)】

This course is basically based on the instructor's lecture. Slides and complementary course materials will be available on the course website. Students are encouraged to actively participate in class discussion as well as group work.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Corporation and security market	Corporation and investors, Financing decisions, Shareholders, Bondholders, Stock and bond markets, Financial institutions
2	Time Value of Money 1	Cost benefit analysis, Valuation principle, Time value of money and interest rates, Present value and future value
3	Time Value of Money 2	Valuing cash flows at different points in time, Compounding, Discounting
4	Time Value of Money 3	Valuing a stream of cash flows, Perpetuity, Annuity
5	Time Value of Money 4	Growing perpetuity, Growing annuity
6	Time Value of Money 5	Solving for variables other than present value of future value, Non-annual cash flows
7	Interest Rates 1	Effective annual rate, Annual percentage rate, Computing loan payments, Computing the outstanding loan balance
8	Interest Rates 2	Determinants of interest rates, Real rates, Nominal rates, Yield curve and discount rates, Opportunity cost of capital
9	Bonds 1	Bond terminology, Zero-coupon bonds, Yield to maturity
10	Bonds 2	Coupon bond cash flows, Yield to maturity of a coupon bond, Coupon bond price quotes
11	Bonds 3	Interest rate changes and bond prices, Time and bond prices, Interest rate risk and bond prices, Corporate bond and credit risk
12	Stock Valuation 1	Stock quotes, Common stock and preferred stock, Dividend-discount model
13	Stock Valuation 2	Estimating dividends in the DDM, Limitations of the DDM, Share repurchase and the total payout
14	Summary and final examination	Wrap-up and in-class examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must read chapters to be covered before class. No assignments are accepted after the due date.

【Textbooks】

Jonathan Berk, Peter DeMarzo, and Jarrad Harford, Fundamentals of Corporate Finance, Fourth Edition, Pearson, 2017.

【References】

Richard Brealey, Stewart Myers and Alan Marcus, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill, the latest edition.

Stephon Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill, the latest edition.

【Grading criteria】

Grades will be based on the following composition:

class participation (20%),
homework assignment (30%),
and final examination (50%).

【Changes following student comments】

I will try to make it easier for students to understand.

【Equipment student needs to prepare】

Students can use pocket calculators or calculation apps during the class.

【Others】

Students who want to get a better understanding of finance courses are strongly encouraged to take Introduction to Accounting and Introduction to Statistics at Global Business Program.

【Prerequisites】

None

10

英語関係科目

Introduction to Informatics

Yasushi KODAMA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

【Outline and objectives】

This course is aimed at students with little or no prior knowledge for operating computers but a desire computational approaches to problem solving. You can learn any basic computational operations using Office software but also any theoretical meanings of informatics.

【Goal】

One of the goals of this course is to become familiar with basic operations for personal computers. Also you should learn how to solve the problems related to social sciences.

【Method(s)】

Mostly you can use the computers in the class room and you can learn any operations of computer software especially for Office software. At first you should learn how to login Windows on the university's computers. After this course has started, the contents of the lesson will be provided on the Web site.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1st	Introduction	Introduction to this course. The goal of this course is specified. You can learn how to operate university's computers.
2nd	Word processing practice	Using Word Processing software, you can learn the basic operation of this software.
3rd	Electrical mail practice and networking theory	You can learn the network system and how to write e-mail scripts.
4th	Methodologies for presentation using software	Using the presentation software, you can learn the technical operation of it.
5th	Spreadsheet practice (1)	You can learn the basic operation of spreadsheets.
6th	Spreadsheet practice (2)	It will test your ability of creating spreadsheets for the business documents.
7th	Spreadsheet practice (3)	It will test your ability of creating spreadsheets for the business documents.
8th	Spreadsheet practice (4)	It will test your ability of creating spreadsheets for the business documents.
9th	Spreadsheet practice (5)	It will test your ability of creating spreadsheets for the business documents.
10th	How to build your home pages (1)	You can learn how to build your home pages.
11th	How to build your home pages (2)	You can learn how to build your home pages.
12th	How to build your home pages (3)	You can learn how to build your home pages.
13th	How to build your home pages (4)	You can learn how to build your home pages.
14th	Workshop for solving problem	At the workshop of classroom, you should make a plan to present how to solve the problems.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You should autonomously learn the basic operations of personal computers. If you can not understand the contents of the lecture, you should ask us it in the classroom or investigate it by yourself.

【Textbooks】

Specified in the lecture.

【References】

Specified in the lecture.

【Grading criteria】

Participation rate (80%) and reports to present in the lecture (20%).

【Changes following student comments】

We devise lectures so that students can solve problems autonomously.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

N/A

【Prerequisites】

N/A

Organizational Behavior I

Makiko NISHIKAWA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

Organizational behavior (OB) seeks to understand human behavior in organizational contexts. This course (OB I) will focus on basic attitudes and behavior of people in organizations. Topics covered in OB I are; individual perception, decision making, emotions, and motivation. As the students' cultural backgrounds vary, comparative aspects will be emphasized.

[Goal]

Students will learn various concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. They will apply the knowledge and skills learnt in this course to their collective activities and experiences. They will also understand how cultural differences affect the attitudes and behavior of people in organizations.

[Method(s)]

Each week will focus on a specific topic, and the concepts and theories relevant to the topic will be learnt and discussed. Secondary data sets, such as International Social Survey Program and World Values Survey, will be utilized to examine the cultural differences in work attitudes and behavior. Students will be required to analyse these data sets individually or in groups, and to present the results in the class.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is OB? How will we learn it?
2	Work attitudes and behavior1	Work attitude measures Work attitude theories
3	Work attitudes and behavior2	Country differences in work attitudes Gender differences in work attitudes
4	Work values	Country differences in work values Gender differences in work values
5	Perception	Factors influencing perception Perceptual errors
6	Attribution	Attribution theory Attribution errors
7	Decision making1	Individual decision making Rational decision making and bounded rationality
8	Decision making2	Group decision making Groupthink and other decision biases
9	Emotions	Emotions and behavior Emotional Intelligence Emotional labor
10	Motivation1	Needs theories Maslow's self-actualization Theory X and Theory Y
11	Motivation2	Self and motivation Self-efficacy theory Self-determination theory
12	Motivation3	Process theories Goal-setting theory Expectancy theory
13	Motivation4	Social comparison and motivation Equity theory Organizational justice
14	Summary	Final report presentation Course summary

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Homework will be given occasionally. Students should write a final report based on the homework and the class discussion.

[Textbooks]

No textbook will be used.

[References]

No Reference will be used.

[Grading criteria]

Participation to class and to discussion (50%)

Homework (20%)

Final report (30%)

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Important notices will be given through the Hosei University Course Management System, *Hetudes*.

To investigate secondary data sets, students will occasionally need to bring their own PC or to borrow it from Ichigaya Computing and Networking Center.

[Others]

OB I and OB II cover different topics, but it is highly recommended to take both.

Relevant to this course are; Introduction to Organizational Management, Organizational Management I/II, Human Resource Management I/II.

[Prerequisites]

Students from the Japanese program should have a good command of English.

10

英語関係科目

Human Resource Management I

Yoshio OKUNISHI

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is intended to introduce students to the field of human resource management (HRM). Students learn theories and applications involved in effectively managing people in organizations.

Unlike many other fields in business and economics, practices of HRM are influenced greatly by country-specific factors such as labor law, social customs, economic development stage and workforce structure. So, I will spend most time in explaining practices among Japanese firms. But some common theories and international comparative perspectives are introduced as well.

More specifically, HRM I covers such topics as overview and methodology of HRM, environments of Japanese HRM, recruitment, training, promotion, performance evaluation, pay and benefits.

[Goal]

Successful students will acquire basic knowledge of HRM in Japanese firms, as well as problem-solving and critical-thinking skills in the field of human resources and organizations, both of which are applicable to all types of organizations and jobs in which students will eventually work.

[Method(s)]

For each lecture time, I explain the basic knowledge of a theme, including legal framework, statistical facts and typical perceptions and arguments. Then I encourage students to express their own ideas and discuss them. Occasionally I may ask students for short presentations or reports.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to HRM	Scope and methodology of HRM
2	Basic Principles of Human Behavior	Economic rationality and irrationality
3	Criteria to Evaluate Transactional or Organizational Performance	Efficiency and justice
4	Outline of Japanese Workforce	Demographic and workforce trends
5	Outline of Japanese Economy	Economic growth, prices and wages Employment types
6	Staffing and Recruitment	Theory and practices, job market of new graduates in Japan
7	Human Capital Theory and Training	General and specific training, OJT and Off-JT
8	Promotion and Career Concerns	Patterns of career development and roles of promotion
9	Performance Evaluation (1)	Theory of performance evaluation
10	Performance Evaluation (2)	Practices of performance evaluation
11	Wages (1)	Typology and theory of wages
12	Wages (2)	Practices in Japan and historical changes
13	Wages (3)	International comparison
14	Fringe Benefits and Social Security	Theory and practices

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

I urge students to attend every class and to understand the contents well enough within class. To that end, it is essential to review the lecture at home, and to ask questions at the beginning of the next class. Furthermore, occasional preparation for presentations and reports will be necessary.

[Textbooks]

I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and data sets. But just for your reference, many of my course materials are based on the followings.

[References]

- Baron, James N. and David M. Kreps (1999) Strategic Human Resources John Wiley & Sons, Inc. This is an MBA level excellent textbook of HRM, whose methodology is blend of economics and organizational behavior.
- Lazear, Edward P. (1998) Personnel Economics for Managers John Wiley & Sons, Inc.

- Lazear, Edward P. and Michael Gibbs (2015) Personnel Economics in Practice (3rd edition) Wiley. These two are readable textbooks of "personnel economics" by its pioneers.

- Although contents written in English are limited, you could find useful information in the following site of the Japan Institute for Labor Policy and Training:

<http://www.jil.go.jp/index.html>

- Some important Japanese laws are translated into English. See the following site:

<http://www.japaneselawtranslation.go.jp/>

[Grading criteria]

Class participation including mini presentations: 60%

Final report/exam: 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

HRM I (Fall) and II (Spring) are taught in a sequential manner. So, it is recommended to take both courses in this order if that is possible. Some basic knowledge of economics and organizational behavior is preferred, but not required.

[Prerequisites]

Among GBP subjects, the followings are closely related to this subject although they are not prerequisites: Introduction to Organizational Management, Introduction to Japanese Economy, Organizational Management I/II and Organizational Behavior I/II.

Strategic Management

Kazufumi MISAWA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course introduces the key concepts, tools, and principles of strategy formulation and competitive analysis. It is concerned with managerial decisions and actions that affect the performance and survival of business enterprises. The course is focused on the information, analyses, organizational processes, skills and business judgement every business person must use to devise strategies, and maximize long-term profits in the face of uncertainty and competition.

The course emphasizes the value and process of strategic management. It is designed to explore an organization's vision, mission, examine principles, techniques and models of organizational and environmental analysis, discuss the theory and practice of strategy formulation and implementation.

[Goal]

The course is designed specifically not only to introduce students with key strategy concepts but also aims to help students to integrate and apply their prior learning to various business situations.

On completion of this course, students will be able to understand the strategic decisions that organizations make and have an ability to engage in strategic planning. Also, students will be able to explain the basic concepts, principles and practices associated with strategy formulation and implementation.

The course design does not rely only on abstract theories; rather it involves broad live examples. The idea is to appeal to students on a practical level and provide insight and meaningful information for them to succeed in their future "working life".

[Method(s)]

The course uses a combination of lecture, video, class discussions, individual/group work and presentations for students to connect course material to current events and/or day-to-day operations. Each class should be interactive and practical in order to bridge the gap between management theories and real-world practices.

To pursue the course objective, for instance, each registered student has to prepare a reaction paper at the end of several lectures. The reaction paper offers students the opportunity to reflect on key learnings.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Overview: What shall we do?	Course introduction and preview of strategy development work and key strategy toolkit
2	Step 1: Where am I?	Strategic Business Unit (SBU) Definition -PESTEL Analysis -Scenario Planning -Disruptive Technologies
3	Step 2: Who am I?	SBU Segmentation and Industry Scope -Identifying Key Segments -The Value Chain -Benchmarking
4	Step 3: How good or bad is it around me?	Evaluation of Structural Attractiveness -The Strategic Condition Matrix -The Five Forces -Blue Ocean Strategy
5	Step 4: What should I watch?	Evaluation of Competitive Position -Three Generic Strategies -Value Disciplines -Deriving Key Success Factors
6	Step 5: Where/When should I move?	Strategic Conditions -The Corporate Portfolio -SWOT Analysis -Emergent Strategy
7	The mid-term reflection session	Group work on the mid-term reflection
8	Step 6: What should I be careful about?	Key Issues of Strategic Thrusts -Issue Analysis -The 7S Framework -The 4Ps Marketing Mix
9	Step 7: Where can I move?	Growth Opportunities -The Product/Market Matrix -The 80/20 Principle -Profit from the core

10	Step 8: Why can I be here/there?	Vision and Strategic Options -Core Ideology -Core Competences -VRIN model
11	Step 9: When can I move with whom?	Strategic Evaluation -Mergers/Acquisitions/Alliances -The Knowledge Spiral -The Eight phases of change
12	Step 10: How can I/we move?	Strategic Plan Development -Setting SMART Objectives -Outsourcing -Business Process Redesign
13	The term-end reflection session	Individual, short presentation on his/her term-end reflection
14	The term-end reflection session (continued)	Individual, short presentation on his/her term-end reflection (continued)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Background readings related to the topic and active participation by students should be expected.

The student is required to make an individual, short presentation on his/her term-end reflection. The student must submit the completed term-end presentation material by specified due date.

[Textbooks]

Due to this course purpose, regular textbooks are not in use. Instead, appropriate handouts for each topic would be shared in accordance with the guidance by the instructor.

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Class participation: 75%

Term-end reflection presentation: 25%

[Changes following student comments]

We will continue to encourage highly interactive learnings during this course.

[Others]

This course is relevant in content to courses "Introduction to Strategic Management", "Introduction to Organizational Management", and "Workshop II". Neither relevant course should be prerequisites for taking this course because we will review relevant contents of both courses during this course. Any questions or comments would be highly appreciated during/after each class.

[Prerequisites]

None

10

英語関係科目

Global Business Strategy I

Daniel Z DING

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Mon 1st | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course focuses on the study of international business from a macro level. It provides a survey of the key issues and relationships in the field of international business and provides students with the basic foundations to deal with a dynamic international business environment. Furthermore, the course offers guidance to conceptual frameworks covering international trade theory, political economics of international trade, trade blocs and direct foreign investment.

[Goal]

Objectives of this course are:

1. To acquaint with the body of knowledge, which is fundamental for working effectively in an international business environment.
2. To explore the relationship between theory and practice as it pertains to international business in a highly competitive global marketplace.
3. Develop research and writing skills for the effective communication of business issues.

[Method(s)]

This course will be delivered in intensive mode over 7 week period. Each week will have two sessions, the first session in each week will be focused on a specific topic and the second session will be run in a workshop style with students leading the discussion and activities. Students will work as a team of 3-4 working on case studies and lead discussion in the second session of each week. The detailed activities are listed in the schedule.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
WEEK 1-Session 1	Course Orientation: Introduction to International Business (chapter 1)	Course overview Globalization and international business
WEEK 1-Session 2	Activities on "What is globalization?"	Videos on globalization Discussion on globalization
WEEK 2-Session 1	National Differences in Political and Legal Systems (chapters 2 & 3)	Evolution of world economy and business opportunities Managing country risk – including political, economic and legal risk
WEEK 2-Session 2	Case Study 1	Case Study 1
WEEK 3-Session 1	International Business Ethics and CSR (chapter 5)	Ethical issues and ethical dilemmas in international business Ethical frameworks and philosophical approaches
WEEK 3-Session 2	Case Study 2	Case Study 2
WEEK 4-Session 1	International Business Theory (chapter 6)	Comparative advantage and international trade Sources of competitive advantages of nations
WEEK 4-Session 2	Case Study 3	Case Study 3
WEEK 5-Session 1	Political economy of international trade (chapter 7)	Rationale of national trade policy Types of trade policy
WEEK 5-Session 2	Case Study 4	Case Study 4
WEEK 6-Session 1	Understanding Emerging Markets Reading materials will be provided	Characteristics of emerging markets Importance of emerging markets
WEEK 6-Session 2	Case Study 5	Case Study 5

WEEK 7-Session 1 Independent Study Independent Study

WEEK 7-Session 2 Final Exam Developing new products in the global marketplace

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Read the relevant part of the textbook.

[Textbooks]

Hill, Charles W. L., and Hult, G. Tomas M. 2016. International Business: Competing in the global marketplace, ISBN 978-1-259-57811-3, New York : McGraw-Hill Education, 2016.

[References]

None.

[Grading criteria]

This is a summary of the assessment for the course.

Class Participation 20%

Case Study (oral) 50%

Final exam 30%

Assessment 1: Class Participation (20%)

Class participation is assessed based on students' active participation in discussion and in-class exercises. Mere attendance is not participation. Assessment 2: International Marketing Strategy Case Analysis (oral) (group) (50%)

Case study assists students in developing the fundamental links between theoretical knowledge and its application in practice. Cases describe a particular problem, which requires identification, analysis, and resolution. Students need to work in a group of 3-4 students, and are required to select one case study topic provided in the prescribed textbook to do an oral presentation on the case analysis. The oral presentations should not exceed 30 minutes, including the facilitation of an interactive discussion of five-ten minutes. Students are expected to conduct the presentation in a professional manner. Detailed assessment criteria will be announced in lecture.

Assessment 3: Final exam (30%)

Final exam (short answer questions) will be used to test students' understanding of the knowledge covered in the whole course.

[Changes following student comments]

This course is being held for the first time.

[Prerequisite]

None.

Global Business Strategy II

Daniel Z DING

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Mon 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is the continuation of Global Business Strategy (I). It focuses on corporate strategies in competing in global market. It provides guidance for formulating corporate strategies, from generic international competitive strategy to organizing corporate structure and managing production and supply chains, from market entry strategy to global marketing and global human resource management.

[Goal]

Objectives of this course are:

1. To gain an understanding of the key determinants in formulating various competitive strategies for global.
2. To get familiar with the types of organization and structures of global firms.
3. To develop the abilities in analyzing the pros and cons of various entry modes.
4. To enhance the capabilities in identifying market opportunities and develop effective international marketing plan.
5. To bring an awareness the key issues in managing human resources in cross culture settings.

[Method(s)]

This course will be delivered in intensive mode over 7 week period. Each week will have two sessions, consisting of lecture and discussion. Three or four students forming a team will work on business reports. By the end of the semester, various corporate strategies of selected case companies will be presented to the class and a written report submitted for evaluation. Detailed requirements for conducting business report will be explained in class.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
WEEK 1- Session 1	Course Orientation: Introduction to Global Business Strategy II	Briefing on the business report on market entry plan
WEEK 1- Session 2	Independent study: Identifying companies for the market entry plan	Independent study: Identifying companies for the market entry plan
WEEK 2- Session 1	The Strategy of International Business (chapter 13)	Strategy and the firm The firm as a value chain
WEEK 2- Session 2	The Organization of International Business (chapter 14)	Types of organization and structures Evolution of organization structures
WEEK 3- Session 1	Entry Strategy (chapter 15)	Basic entry decisions Entry mode selection
WEEK 3- Session 2	Strategic Alliance (chapter 15)	Making strategic alliances work
WEEK 4- Session 1	Global Production and Supply Chain Management (chapter 17)	Strategy and production Managing a global supply chain
WEEK 4- Session 2	Consultancy	Time will be allocated for each group to ask questions related to the business report
WEEK 5- Session 1	Global Marketing I (chapter 18)	Key elements of global marketing
WEEK 5- Session 2	Global Marketing II (chapter 18)	Global Marketing II (chapter 18)
WEEK 6- Session 1	Global Human Resource Management I (chapter 19)	Strategic role of HRM Managing expatriates

WEEK 6- Session 2	Global Human Resource Management II (chapter 19)	Training and management development Performance appraisal
WEEK 7- Session 1	Oral Presentation I- Business Report	Oral Presentation I- Business Report
WEEK 7- Session 2	Oral Presentation II- Business Report	Oral Presentation II- Business Report

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Read the relevant part of the textbook.

[Textbooks]

Hill, Charles W. L., and Hult, G. Tomas M. 2016. International Business: Competing in the global marketplace, ISBN 978-1-259-57811-3, New York: McGraw-Hill Education, 2016.

[References]

None.

[Grading criteria]

This is a summary of the assessment for the course.

Class Participation 30%

Business report (Oral) 20%

Business report (Written) 50%

Assessment 1: Class Participation (30%)

Class participation is assessed based on students' active participation in discussion and in-class exercises. Mere attendance is not participation. Assessment 2: Business Report Oral Presentation (group project) (20%) Students need to work in a group of 3-4 students, and are required to prepare a business report for a selected case company. The report will be presented orally to the class. The oral presentations should not exceed 30 minutes, followed by a brief interactive discussion of five minutes. Students are expected to conduct the presentation in a professional manner.

Assessment 3: Business Report (Written) (group project) (50%)

Detailed format and assessment criteria will be announced in lecture.

[Changes following student comments]

This course is being held for the first time.

[Prerequisite]

None.

10

英語関係科目

Intermediate Accounting I

Mioko TAKAHASHI

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

The objective of this course is to provide students with a sufficient understanding of the theory and practice underlying the measurement and presentation of financial information in accordance with Generally Accepted Accounting Principles (GAAP).

To help understand how GAAP is trying to measure and present business transactions in financial statements, underlying business transactions will be identified first and then technical details of GAAP will be explained.

In addition to learning accounting concepts, methods and rules, how management's incentives can influence the decisions and estimates that are made when reporting financial statements will be discussed.

[Goal]

Students will be able to understand

- the structure of Income statement and Balance sheet and linkage between them
- the basic business transactions and economic events that firm engage in
- how business transactions and economic events are reported in the financial statements

[Method(s)]

Important issues with respect to each topic will be examined using presentation slides. Concepts and examples will be discussed and short quizzes will be given in class. Questions and comments are welcomed at any time during class.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Course overview	Explain course schedule and assigned materials.
2	Financial Accounting and Accounting Standards(1)	Financial reporting environment. Major challenges in financial reporting.
3	Financial Accounting and Accounting Standards(2)	Exercises for Financial Accounting and Accounting Standards.
4	Conceptual Framework for Financial Reporting(1)	Basic objective, fundamental concepts, recognition and measurement concepts of financial accounting.
5	Conceptual Framework for Financial Reporting(2)	Exercises for Conceptual Framework for Financial Reporting.
6	Income Statement and Related Information(1)	Usefulness and limitations of the Income Statement. Content of the Income Statement.
7	Income Statement and Related Information(2)	Reporting various income items and accounting changes and errors. Exercises for Income Statement and Related Information(1)
8	Income Statement and Related Information(3)	Exercises for Income Statement and Related Information(2)
9	Revenue Recognition(1)	Fundamentals of revenue recognition.
10	Revenue Recognition(2)	Apply the five-step process to major revenue recognition issues. Exercises for revenue recognition(1)
11	Revenue Recognition(3)	Exercises for Revenue Recognition(2)
12	Balance Sheet(1)	Usefulness and limitations of the Balance Sheet. Classifications in the Balance Sheet.
13	Balance Sheet(2)	Exercises for Balance Sheet.
14	End of term exam	60 minutes exam and feedback.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Assigned materials that will be covered should be read prior to class. It will be assumed that the required chapters have been read and short quizzes will be given during class.

[Textbooks]

INTERMEDIATE ACCOUNTING, by Kieso, Weygandt & Warfield (16th edition) ,Wiley.
<http://www.wiley.com/WileyCDA/WileyTitle/productCd-EHEP003384.html#student>

etext version is recommended.

[References]

References will be provided when necessary.

[Grading criteria]

The course grade is based on following criteria;

- Presentation based on text book (30%)
- Assignments:quizzes and exercises (30%)
- End of term exam (40%)

Taking the end of term exam will not be allowed in the case of 4 absences or more.

[Changes following student comments]

None.

[Others]

Basic knowledge of financial accounting is necessary to understand and achieve the goal of this course. Taking the Introduction to Accounting course in advance is highly recommended. The course schedule is subject to change.

[Prerequisites]

Introduction to Accounting

Principles of Marketing

Junko KIMURA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 5th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

The theme of this class is to understand major Marketing theories and bridge them to specific phenomena. Companies and other organizations try differentiating themselves from competitors by creating customer values. The students of this class would be able to analyze the products and services in the real world with Marketing perspective.

[Goal]

By actively participating in this class, student can acquire the following skills:

- 1) Bridge theories to specific phenomena
- 2) Think logically
- 3) Use qualitative methodologies for research activities, and
- 4) Argue and explain findings to others

[Method(s)]

Recently many companies struggle with difficulties to differentiate themselves with competitors. One of the reasons is that the change of customer needs. Customers not only ask for high quality/specification products but also they try to obtain "value". What does value mean? This is the major topic of this class. Manufacturers, retailers and service providers try developing and innovating business model for creating customer value. Using specific case studies, students would learn theoretical frameworks and analytical concepts in order to apply them to the phenomena.

Students use qualitative methodologies, in specific interviews and fieldwork to gather primary data by using their own legs. (Students will not be permitted to use secondary data from the Internet unless it is allowed.)

Assignments will be given and each student will make his/her own presentation respectively. Group projects will be assigned for the final presentation. Each group will choose one product/service and research how it was successful by using Marketing theory the instructor indicates.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Basic Concepts of Marketing
2	What is Marketing?	Basic Concepts of Marketing
3	Three Dimensional Business Definition Model	Avoid Marketing myopia
4	SWOT analysis and value creation	Creating customer value
5	Theoretical framework	Philip Kotler's Marketing 1.0, 2.0 and 3.0
6	Midterm Presentation	Students groups present their research and findings
7	Product Development	Case Study: HOSEI original brand green tea
8	Product Development	Case Study: HOSEI original brand green tea
9	Price Management	Case Study: Starbucks and Dotour
10	Price Management	Case Study: Starbucks and Dotour
11	Promotion Management	Case Study: NIKE
12	Promotion Management	Case Study: NIKE
13	Place Management	Case Study: Supply chain management of IKEA
14	Final Presentation	Group project presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students need to contribute to class discussions by conducting

- 1)Project meetings with group members outside classroom
- 2)Fieldworks
- 3)Interviews to consumers and companies

[Textbooks]

No textbooks

[References]

Materials would be distributed in class.

[Grading criteria]

- 1)Class Participation (Remarks and arguments you make in class)70
- 2)Group Project 20
- 3)Individual Assignment 10

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Personal Computer with PPT and WORD

[Prerequisites]

Introduction to Marketing needs to be studied as prerequisites.

10

英語関係科目

Distribution in Japan

Narimasa YOKOYAMA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Mon 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

【Outline and objectives】

This course focuses on the distribution system in Japan. We will study the whole structure of Japanese distribution system and the role of firms such as manufacturers, wholesalers, and retailers.

【Goal】

Students will have a firm understanding of the issues related to the activities of sourcing, manufacturing, wholesaling, retailing, and consumption. Additionally, students will have a firm grasp of the role of distribution system and function of distributing companies such as retailers and wholesalers.

【Method(s)】

The course will be a combination of lecture, discussion, field research and group work.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the course and syllabus overview
2	Distribution and commerce	What is Distribution and commerce?; basic concept of distribution and economic/social role of commerce
3	The function of distribution	How Distribution functions in market economy?; transaction, information flow, material flow
4	History of commerce and Japanese distribution (1)	Why distribution and commerce are essential in our society?; difference between production and consumption
5	History of commerce and Japanese distribution (2)	Understand the development of commerce; brief history of developing retailer and wholesaler in Japan
6	retail structure	Understand the specific Japanese retail structure and it's dynamics
7	retail competition	Understand the characteristics of retail competition; inter type competition, chain operation, and retail location
8	retailing in consumer society	Understand the relation ship between retailing and consumption; close interaction between retailing and consumer behavior
9	retail format (1)	Understand the concept of retail format; single-line store, specialty store, convenience store, supermarket, drug store, home improvement center
10	retail format (2)	Understand the various retail store format; department store, general merchandise store, discount store, planned/naturally shopping center, non-store retailing
11	Operation type and firm type of retailers	Understand the operation type or retailing store and firm type of retail companies and basic theories of retail format generation
12	present situation of retailing	Understand present issue of retailing; the age of decreasing of retail store, foreshortened of retail format life-cycle, modernization of retail business, city center vitalization, retail conglomerating, globalizing of retailing
13	wholesale	What is the role of wholesalers?; basic concept and function of wholesalers
14	Final exam	In class exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should expect about careful observing of retailing store and buying behavior on a regular basis.

【Textbooks】

TBA

【References】

TBA

【Grading criteria】

Participation in discussion, group work, and presentation: 100%

【Changes following student comments】

Schedule flexibly according to progress

【Prerequisites】

Introduction to Marketing, Principles of Marketing

Operations Management I

Dennis TACHIKI

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Tue 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

How did the “Made in Japan” image change from shoddy goods in the immediate post-war period to its high quality image today? In answering this question, the focus in Operations Management I is on the role of monozukuri: “making things.” It is important to emphasize monozukuri lies not in the product and the service itself, but in the design process. This process consists of “design information” aimed at “delighting customers” (product development), transcribing it on a “product architecture” (production) and transmitting this “sensory experience” to customers (marketing and sales). Fujimoto (2004) argues this is the key to a Japanese style of manufacturing.

Consequently the main objective of this course is to deepen the students’ understanding of these three aspects of the monozukuri process through case studies. In the first part, we begin with merging the “voice of the customer” with a company’s ‘intrinsic technology’ in new product/service design. In the second part, we will translate these needs and capabilities into operations processes in not only the manufacturing sector, but also the services sector. In the third part, we will examine the information systems underlying these processes in “delighting customers.” These “evolving deep layers in the design process of Japanese companies provide a window for analysing the current status of monozukuri as well as its possible future evolution.

[Goal]

By the end of this course, students should be able to:

- Read and write a case study.
- THEORY: Understand the key concepts and principles constituting monozukuri.
- METHODS: Apply the basic approaches guiding the monozukuri design process. In this connection, students will learn how to read and write a case study.
- TOOLS: Use selected problem-solving techniques in pursuing monozukuri.

These are some of the components of critical thinking so we can begin to “speak with facts and not by guts.”

[Method(s)]

Active Learning is the main teaching approach for this course. Active learning requires the students to take the lead in the learning process with the instructor acting as a facilitator. This will be particularly the case in the second half of the semester. Some examples of active learning are pair-discussion, group work, case studies, simulations, presentations, reaction paper, experiential learning, etc. In this course we will learn and use the case study method.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Week 1	MONOZUKURI	· Introduction to the Course and Syllabus · What is monozukuri? · What is a case study?
Week 2	PRODUCT DESIGN CASE STUDY: Developing Operations Strategies (1)	- Customers and New Product/Service Design · QCD + S Function
Week 3	Developing Operations Strategies (2)	- Strategy and Competitiveness · Knowledge Creating Company
Week 4	Developing Operations Strategies (3)	- Process Design and Capacity Management · Kansei · Group Work
Week 5	Developing Operations Strategies (4)	
Week 6	Developing Operations Strategies (5)	· Case Study Presentations
Week 7	PRODUCT ARCHITECTURE CASE STUDY: Manufacturing and Service Flows (1)	- Demand Management, Forecasting and Aggregate Planning · Integrated and Modular Architecture
Week 8	Manufacturing and Service Flows (2)	- Material Requirements Planning and Facility Layouts · Kaizen Costing · U-Form Line, etc.
Week 9	Manufacturing and Service Flows (3)	· Lean Systems and Operations Scheduling · JIT/Kamban Delivery System · Heijunka · Jidoka

Week 10	Manufacturing and Service Flows (4)	· Group Work
Week 11	Manufacturing and Service Flows (5)	· Case Study Presentations
Week 12	HITOZUKURI CASE STUDY: Controlling the Supply Chain (1)	- Human Resources in Operations Management · Respect for Humanity · Skill Formation
Week 13	Controlling the Supply Chain (2)	- Supplier Relations · Supplier-Lead Firm Relations (keiretsu) · Global Production Networks
Week 14	Controlling the Supply Chain (3)	- Supply Chain Process Integration Model · Customer Satisfaction -> Delighting Customers · Integrating the Internal Customers -> Cross Functional Management

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- CLASS PREPARATION: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class. At a minimum students should be able to explain what are the 5W1H for each case study.
- GROUPWORK: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their team members to discuss/prepare assignments.

[Textbooks]

The readings for this course will either be available on-line, through the library and/or handouts.

[References]

Joel D. Wisner. 2016 Operations Management: A Supply Chain Process Approach. Sage ISBN 9781483383064

[Grading criteria]

Students will be graded based on the following criterions:

- 15% Class participation
- 15% Assignments and Group work
- 70% Case Study (20%, 20% and 30%)

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students are expected to bring to class a computer and/or smart phone to access the Internet.

[Others]

Students (or teams) should try to meet with the teacher at least once during the semester. Office hours will be announced at the first class.

[Prerequisite]

Introduction to Operations Management or Teacher’s permission

10

英語関係科目

Principles of Microeconomics

Ryoko OKI

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Fri 2nd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

[Outline and objectives]

This class aims to help with the understanding of basic concepts and analytical methods of microeconomics at the introductory level. It focuses on decision-making of individuals and firms and the allocation of scarce resources in society. Topics are Supply and Demand, Equilibrium, Welfare Economics, The Role of Government in Markets, Markets and Competition, and Market Failure. Also, how microeconomics principles are applicable to the real world issues as well as to other academic fields will be discussed.

[Goal]

By the end of the course, students will be expected to:

- (1) Understand key economic models.
- (2) Understand key concepts in the textbook.
- (3) Acquire basic skills in order to make graphs and mathematical formulas.
- (4) Solve problem sets.
- (5) Evaluate daily life topics and current economic and business news from the viewpoint of microeconomic theory.

[Method(s)]

This course consists mainly of lectures and subsequent exercises. After understanding the basic idea of microeconomics, students will solve problems and take quizzes in class. Also, problems will be assigned as homework. Students are required to use the online learning software, MindTap, to do homework. All materials including lecture notes will be posted on either MindTap or Hosei's class support online system, "H'etudes".

[Schedule]

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Guidance on syllabus, semester schedule, usage of online materials, and class rules.
Week 2	Supply and Demand 1	Basic model using supply and demand curves.
Week 3	Supply and Demand 2	Changes in market outcomes, given changes in the demand and supply curves.
Week 4	Elasticity	Analysis using elasticity; "Do technological innovations increase the revenue of firms?"
Week 5	Markets and Welfare 1	Measurement of consumer surplus.
Week 6	Markets and Welfare 2	Measurement of producer surplus.
Week 7	Supply, Demand, and Government Policies 1	Price controls; effects of minimum wage and legislation on market outcomes.
Week 8	Supply, Demand, and Government Policies 2	Taxes; effects of taxation on market outcomes.
Week 9	Markets and Competition	Perfectly competitive markets and market efficiency.
Week 10	Market Failures 1: Overview	Imperfectly competitive markets and market inefficiency.
Week 11	Market Failures 2: Externalities	Externalities and market inefficiency.
Week 12	Market Failures 3: Imperfect Competition	Introduction to Game Theory; firms' decision making under interdependence.
Week 13	Market Failures 4: Prisoners' Dilemma	The Prisoners' Dilemma; effects of firms' cooperation and competition on market outcomes.
Week 14	Review and Final Exam	Review and Final Exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned textbook before class and do homework after class.

[Textbooks]

Mankiw, G. N. (2017) Principles of Economics (8th edition), Cengage Learning.

The Mankiw's textbook and accompanying online materials are the same materials used in the Introduction to Japanese Economy class. Students who have already paid for annual use of these materials in the 2018 spring semester do not need to purchase them again. Other students should NOT purchase the textbook until the first class meeting. Details will be given at that time.

[References]

Other supplementary materials will be provided during the semester.

[Grading criteria]

Class participation: 20%
Homework and exercises: 40%
Final exam: 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Others]

Students are required to use the online learning software, MindTap, to do homework. Details will be given at the first class meeting.

[Prerequisites]

This course is highly related to Introduction to Japanese Economy and Principles of Macroeconomics. Students are strongly encouraged to take them before or after taking this course.

Workshop I

Keiko OKAMOTO

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Wed 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 2~4
Notes :

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the significance of Japanese products that Japanese companies deal with and their strategic differences depending on their products and customers.

【Goal】

Students will learn international business between companies, large and small, through guest speakers' business experiences. Students will also study operational differences that they should consider when they do business with people with a different cultural background.

【Method(s)】

During the course, four guest speakers will introduce how they convey their products to their customers. What are their marketing strategies? Why are their products superior to their competitors? Students will also do background research and follow up activities on each speaker's topic. Students will write essays (reaction papers) about what they learned from the speakers.

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Intellectual Properties - Adding Value to Products I	Intellectual properties (IPs), such as patents, designs, trademarks.
3	Intellectual Properties - Adding Value to Products II	Intellectual properties (IPs) add value to products.
4	Guest Speaker Intellectual Properties - Adding Value to Products III	Discussions & other activities.
5	An Indian Fashion Company Targets the Japanese Market I	Background research on an Indian fashion maker.
6	An Indian Fashion Company Targets the Japanese Market II	Strategies doing business with Japanese fashion retailers.
7	Guest Speaker An Indian Fashion Company Targets the Japanese Market III	Discussions & other activities.
8	Marketing Electric Power Plants in the Global Economy I	Background research on Mitsubishi Hitachi Power Systems, Ltd., a subsidiary of Mitsubishi Heavy Industries.
9	Marketing Electric Power Plants in the Global Economy II	Challenges for multiple companies work together for a bidding.
10	Guest Speaker Marketing Electric Power Plants in the Global Economy III	Discussions & other activities.
11	Commercial Art Paint for a Global Coffee Chain Store I	Commercial Art Paint vs Fine Art. Background research on a global coffee chain store.
12	Commercial Art Paint for a Global Coffee Chain Store II	Adding artistic sense to business.
13	Guest Speaker Commercial Art Paint for a Global Coffee Chain Store III	Discussions & other activities.
14	Wrap up	Essay Reviews.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation such as web & library research and readings are required. (will be advised in class)

【Textbooks】

N/A.
Class readings will be provided through the class support system.

【References】

M/A.

【Grading criteria】

Readings, homework, and participation - 40%
Submissions of guest speakers' workshop modules - 40%
Essays (reaction paper) - 20%

【Changes following student comments】

COMMENTS NOT YET RECEIVED.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Class attendance is important.
Class schedule is from 2017 fall semester. Details will be updated before 2018 fall semester starts.

【Prerequisites】

None

10

英語関係科目

Special Topics in Global Business A

Kazufumi MISAWA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Thu 4th | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

[Outline and objectives]

This course is a series of lectures and site visits, and structured to give students some of the basic, fundamental understandings on Japanese-style management.

Each class should be interactive and practical in order to bridge the gap between management theories and real-world practices.

This course should be of particular interest to those interested in understanding typical management practices/methods at Japanese companies such as Kaizen (continuous and incremental improvements), as well as history/DNA of Japanese major companies such as Toyota, Nintendo, Sony.

[Goal]

The course provides relevant knowledge and skills for students who will pursue career paths for either manufacturing or services sector. More specifically, this course is conducted with the following objectives.

- Present a clear view of some highlights for Japanese business today
- Present useful information on Japanese-style management skills
- Encourage the students to accelerate personal growth by discussing relevant topics each other

[Method(s)]

The course uses a combination of lecture, video, site visits, and discussions for students to connect course material to current events in Japan.

To pursue the course objective most effectively, each registered student has to prepare a reaction paper at the end of several lectures. The reaction paper offers students the opportunity to reflect on key learnings.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Course overview	While providing students opportunities to overview key management topics in Japan (which may slightly vary from term to term), the focus of discussion should be how Japanese companies tackle complex, business issues to achieve strategic goals.
2	5S principles as a Kaizen approach	-5S (Sort, Set, Shine, Standardize, Sustain) -TOTO toilet (Washlet) example
3	Standardizations for Kaizen executions	-Toyota's 7 wastes, Muda/Muri/Mura -JICA Ethiopian case
4	Five-whys	-Root cause analysis -Team exercises
5	Site visit	-Tokyo Station Shinkansen platform cleaning staff -There have only seven minutes between arrival and departure to clean the world's fastest train
6	The Japanese style of management	-Asian vs. Western -Hunter vs. Farmer
7	Quality control in Japan	-QCD (Quality, Cost, Delivery) trade-off -Honda example
8	Mid-term reflection session	-Reading and sharing contents of "Taiichi Ohno's workplace management", a book of Toyota
9	Field research (1)	-Preliminary discussions about an assigned research theme -Formulation of research questions
10	Field research (2)	-Site visit -Intensive observations and data collections
11	Field research (3)	-Group presentations -Class discussions
12	Monozukuri (a Japanese-style, high-quality manufacturing)	-Japanese auto makers -Toyota production system
13	Innovations from Japan	-Nintendo -Sony
14	Term-end reflection session	-Individual, short presentation on his/her term-end reflection -Class discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Background readings related to the topic and active participation by students should be expected.

The student is required to conduct a presentation by individual on his/her term-end reflection. The student must submit the completed presentation material by specified due date.

[Textbooks]

Due to this course purpose, regular textbooks are not in use. Instead, appropriate handouts for each topic would be shared in accordance with the guidance by the instructor.

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Class participation: 75%

Term-end presentation: 25%

[Changes following student comments]

We will continue to encourage highly interactive learnings during this course.

[Others]

This course is relevant in content to the course "Special Topics in Global Business B".

Any questions or comments would be highly appreciated during/after each class.

[Prerequisites]

None

Special Topics in Global Business B

Kazufumi MISAWA

Term : Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : Mon 3rd | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4

Notes :

[Outline and objectives]

This course is a series of lectures/videos/group work, and structured to give students some of the basic, fundamental understandings on global business and management.

Each class should be interactive and practical in order to bridge the gap between management theories and real-world practices.

This course provides students with a wide variety of contemporary topics in management, most of which have been in ongoing discussion inside many companies globally.

Major course objectives are;

-To present a clear view of the leaders' and managers' roles in global business today.

-To present useful information on management skills that will accelerate personal growth for future career developments

The topics we discuss in this course are mainly;

-Digital transformation

-Marketing

-Business operations

-etc.

For your reference, another GBP course "Special Topics in Global Business A", is relevant to this course, and structured to give students some of the basic, fundamental understandings on Japanese-style management.

[Goal]

This course takes the management transformation point of view with emphasizing strategically important initiatives in every organization. The course should be of particular interest to those interested in understanding current/near future issues which most companies are facing with, and involving themselves with practices which are likely to play a major role.

Students in this class will be able to develop expertise in complex business situations, and further develop the ability to work effectively in teams.

[Method(s)]

The course uses a combination of lecture, video, group work, and discussions for students to connect course material to current events in Japan as well as other regions.

To pursue the course objective most effectively, each registered student has to prepare a reaction paper at the end of several lectures. The reaction paper offers students the opportunity to reflect on key learnings.

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Digital transformation # 1	-IoT, digital business strategy -Complexity management -Nike/Starbucks examples
3	Digital transformation # 2	-Design thinking -Stanford Design School approach -IDEO examples
4	Digital transformation # 3	-Open innovation -P&G example -Sony example
5	Marketing transformation #1	-Blue Ocean strategy -Red Bull example -Nintendo example
6	Marketing transformation #2	-Branding -Apple example -Dove example
7	Marketing transformation #3	-Customer loyalty -Net promotor score approach -Amazon example
8	Mid-term brainstorming session	-Disney brainstorming methods -Group exercise -Class discussion
9	Business operations transformation #1	-Productivity improvement by individual -IQ vs. EQ
10	Business operations transformation #2	-Productivity improvement by group -Business Process Redesign -Group exercise on process mapping

11	Business operations transformation #3	-Productivity improvement by organization -Outsourcing -ZARA vs. H&M example
12	Group work on "Omotenashi" #1	-Japan's service culture of Omotenashi is internationally praised for its dedication to the needs of customers -Explore how the company or organization of your choice can leverage Omotenashi to attain market leadership -Work in small groups of 3-4 students to discuss the study question
13	Group work on "Omotenashi" #2	-Conduct an intensive observation/data collection to get perspectives about the study question -Present your team's findings and suggestions to classmates in an oral presentation format
14	Term-end reflection session	-Individual, short presentation on his/her term-end reflection -Class discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Background readings related to the topic and active participation by students should be expected.

The student is required to conduct a short presentation by individual on his/her term-end reflection. The student must submit the completed presentation material by specified due date.

[Textbooks]

Due to this course purpose, regular textbooks are not in use. Instead, appropriate handouts for each topic would be shared in accordance with the guidance by the instructor.

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Class participation: 75%

Term-end presentation: 25%

[Changes following student comments]

We will continue to encourage highly interactive learnings during this course.

[Others]

This course is relevant in content to course "Special Topics in Global Business A".

Any questions or comments would be highly appreciated during/after each class.

[Prerequisites]

None

10

英語関係科目

MEMO



学生証番号	
氏 名	